

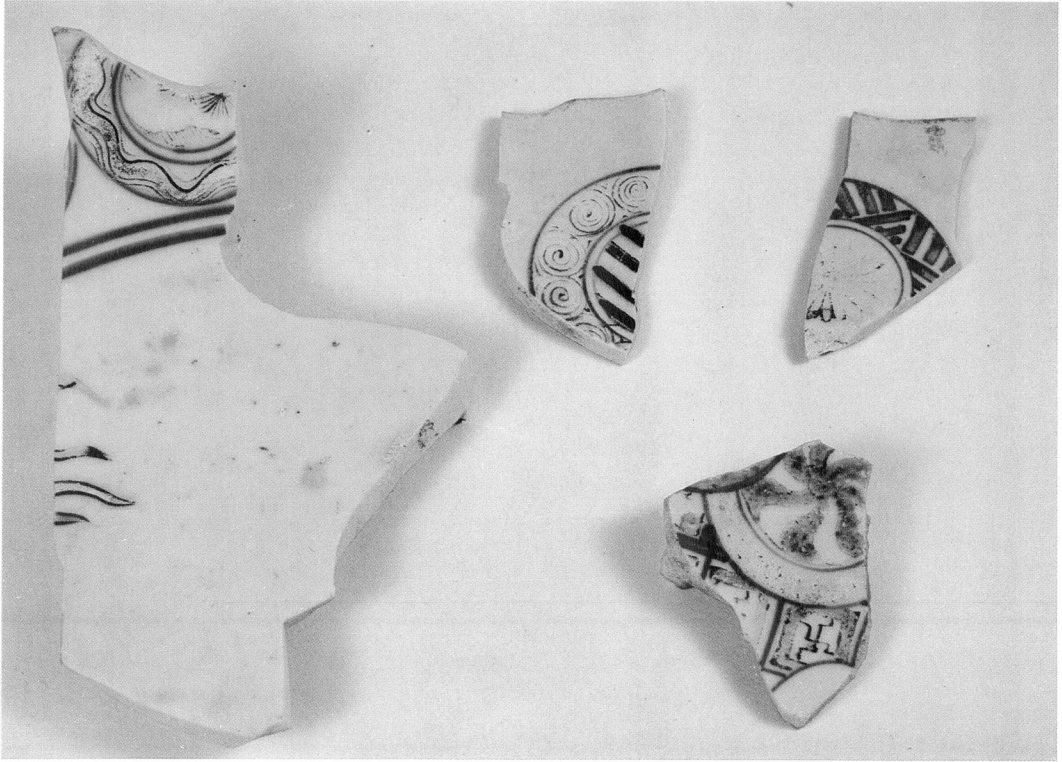
東京大学遺跡調査室発掘調査報告書 1

東京大学本郷構内の遺跡

# 理学部 7 号館地点

1989



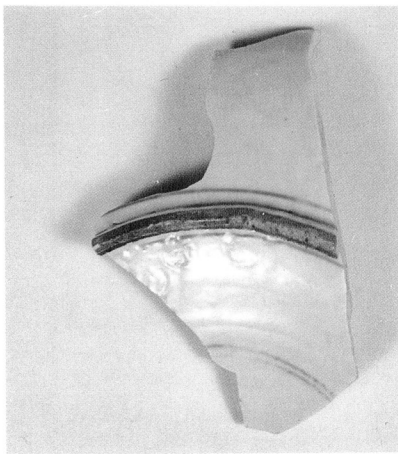


1号土坑-4 内面

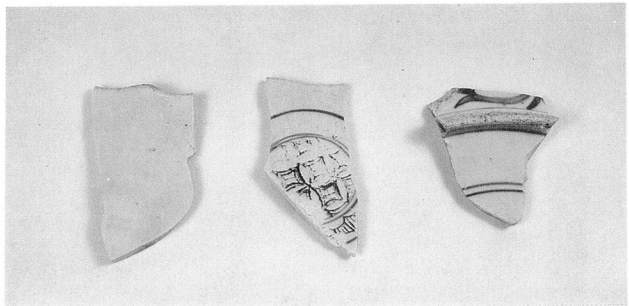
4号井戸-16 内面

遺構外-23 内面

4号地下式土坑-1 内面



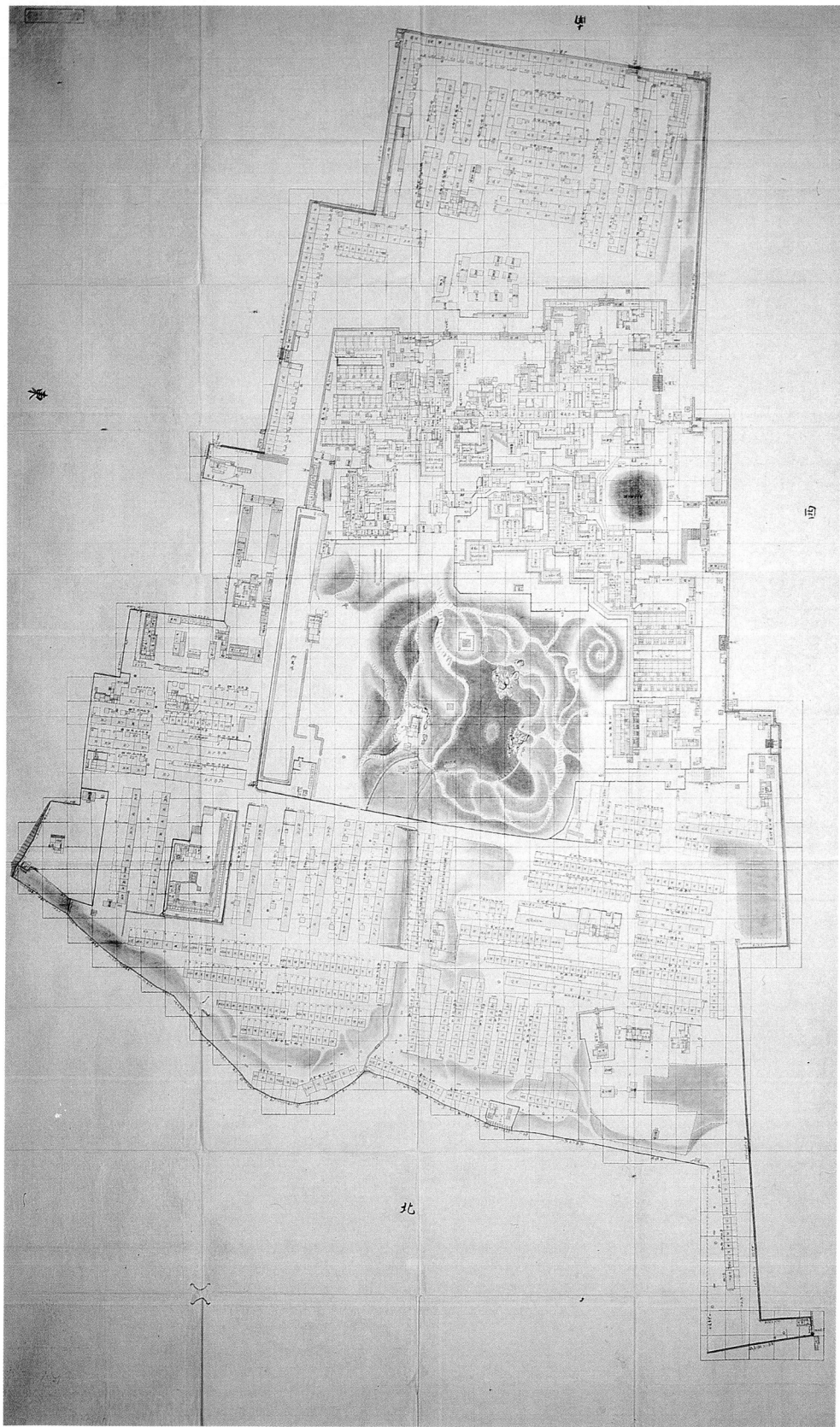
1号土坑-4 外面



4号井戸-16 外面

遺構外-23 外面

4号地下式土坑-1  
外面



口絵 2 「江戸御上屋敷惣御絵図」 金沢市立図書館所蔵

Forntispiece 2 Historical map of the Kaga Clan Hongo Property in the 1840's

## 刊行のことば

東京大学は昭和 60 年 2 月から同 10 月にかけて、同理学部 7 号館地点の遺跡調査を実施した。発掘地点が、江戸時代、加賀藩上屋敷の一角を占めていたことは、今に残る当時の絵図により事前に予測できた。そして、この地には元禄から幕末に至るまで、藩が大名屋敷に勤務する江戸在住藩士のために用意した『御貸小屋』がおかれていたようである。それは、今日で言う一種の公務員住宅に相当する居住施設である。

発掘の結果、予測した通りに、当時の建物や各種施設の跡とともに大量の遺物が発見された。その後今まで室内研究を実施してきたわけである。室内研究の主たる目的は、発掘品および発掘中に作成した多数の図面や写真等の記録類を整理、分類、記載したのち、遺跡調査報告書の出版に備えた原稿を執筆することにある。遺跡調査は、この報告書の出版をもって終了すると考えるのが常識であり、そしてなによりも報告書は、発掘調査により蓄積される標本・資料が将来の研究教育素材として引続き活用できる状態を保障する唯一のものである。

今回の発掘調査は、理学部化学教室の一部を建て直し、同情報科学科教室を収容する理学部 7 号館を建設するために実施された。化学教室は大正 4 年 5 月に、理科大学化学教室として竣工したものである。関東大震災以前に建造された本格的鉄筋コンクリート建築として、キャンパスに残る唯一の現存例であった。しかしその後の講座や研究室の新設、増設という形での学問諸分野の著しい発展にともない、狭溢化した施設環境を改善するため、やむを得ずその一部を改築することになったのである。

建築や施設の構築に際して破壊消滅に瀕した遺跡を救済するために実施される考古学的調査を欧米では rescue archaeology project と呼んでおり、我が国では俗に「行政発掘」とか「緊急発掘」と呼ばれるようである。

この種の発掘は昭和 50 年頃、すなわち我が国が高度経済成長期に突入した頃から始まるが、昭和 50 年頃を境にして、その傾向はさらに強まった。そして最も新しい昭和 61 年度の統計資料によれば、この種の発掘調査は全国で 18,000 件を越え、それに要した費用が実に 488 億円である。文部省昭和 63 年度科学研究費補助金の予算総額とほぼ同額である。この種の調査にいかにも莫大な費用が投入されているかがわかっていうものである。

この rescue archaeology project と称される調査は少なくともそのきっかけにおいては、学問的脈絡のないまま、計画の大きさに比して不釣合な時間的制約のもとに計画されるこ

とが多い。しかし今日我が国の考古学上の研究が実際に破壊寸前に迫り込まれた数多くの遺跡を救うことに追われているのも実情であり、そのために実に莫大な経費と時間が払われていることがわかる。

以上の状況が急速に好転することはなかろうと思われるが、とすれば発掘調査とともにその成果を報告書をもって公表保全していくことが欠かせない。消滅していく遺跡についてそれを後続の世代に伝えていくには報告書の出版の外に方策はなく、報告書の記載を通してはじめて私どもは消滅した遺跡の全容を再現しうるのである。

本報告書の完成は理学部遺跡調査室羽生淳子、山口剛志、秋元智也子の諸君の献身的努力の賜である。発掘の開始からほぼ4年間一致団結して調査研究に当たった諸君の努力に対しては、心からの敬意と感謝の気持ちを表明したい。

また東京大学文学部考古学研究室上野佳也教授、同藤本強教授、同寺島孝一助教授、総合研究資料館の赤澤威助教授には、発掘調査並びに本書作成に至る過程で多大なご指導を賜ったことに対し心より感謝申し上げる次第である。また同様に東京都豊島区立郷土資料館橋口定志氏には当遺跡調査学術調査員として随時のご教示、ご援助を賜った。この紙面を借りて心から感謝申し上げる次第である。

なお東京大学の事務局から経費等の援助を受けることができたことも、この調査を完成させるためになくはならないことであった。

最後になるが、この報告書の出版が、我が国の考古学、歴史学研究の発展に貢献できるであらうことを、同じく学問を志す者として期待したい。

東京大学総長特別補佐

有馬 朗 人

## 例言

1. 本書は、東京大学本郷構内（東京都文京区本郷7丁目3番1号）における、理学部7号館（発掘調査時の仮称は理学部D棟）の建設に伴う緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、東京大学臨時遺跡調査委員会の下で、東京大学遺跡調査室（室長：上野佳也・文学部教授）が、赤澤威（総合研究資料館助教授）、羽生淳子（理学部助手）、山口剛志（理学部教務補佐員）、秋元智也子（理学部教務補佐員）を中心として行った。
3. 発掘調査は、1985年2月1日から10月8日まで行われた。また、出土資料の整理および報告書の編集・校正作業は、1985年10月9日から、1989年3月10日まで行われた。
4. 本書は、羽生淳子が編集を行い、山口剛志、秋元智也子がこれを補佐した。
5. 各原稿の執筆者名は文頭に記した。註および引用・参考文献は、原則として、各記名原稿の文末に記した。ただし、第6章第1節の文献は、節の最後にまとめた。

なお、調査室外の方々より、下記の原稿をいただいた。

- |     |     |   |
|-----|-----|---|
| 第3章 |     | 鈴木正章（成立高校）  |
| 第5章 | 第2節 | 3 小林謙一（慶応義塾大学藤沢校地埋蔵文化財調査室）  |
|     | 第3節 | 1 小宮 孟（千葉県立中央博物館）   |
| 第6章 | 第1節 | 長佐古真也（東京都埋蔵文化財センター）・二宮修治（東京学芸大学）・大沢眞澄（東京学芸大学）・大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）                     |
|     | 第2節 | 小泉好延（東京大学アイソトープ総合センター）・富沢威（慶応大学文学部）・小林紘一（東京大学原子力研究総合センター）・山下博（東京大学理学部附属素粒子物理国際センター） |
|     | 第3節 | 千野裕道（東京都埋蔵文化財センター）  |
|     | 第4節 | 松谷暁子（東京大学）  |
|     | 第5節 | 中田節子（山梨文化財研究所・繊維考古担当）   |
| 第7章 |     | 大橋康二（佐賀県立九州陶磁文化館）   |

6. 出土遺物の実測および図版作成は、羽生淳子、山口剛志、秋元智也子、岩瀬敏治、岩田登美枝、朝長久仁枝、坂下雅一が行った。
7. 本書の写真図版の撮影は、調査状況(写真1~17)を羽生淳子・山口剛志・秋元智也子が、出土遺物(写真19~81)を羽生淳子が行った。
8. 陶磁器のうち、文様が複雑なものについては、藤本強が写真撮影を行い、実寸に引き伸ばしたものを、実測図に貼り込むか、またはその写真をトレースした。
9. 出土遺物の観察表作成は、羽生淳子、山口剛志、秋元智也子、岩瀬敏治、細川義が行った。なお、肥前磁器については、大橋康二氏の御教示をいただいた。
10. 遺構断面図の水糸レベルは、特に記載のない限り16.0 mである。また、遺構平面図の方位は、特に示さない限り南から北をみた図であるが、その北は、グリッドの南北ライン(第2章参照)を基準にしている。
11. 石器の石材鑑定は、金川久一氏(東京大学理学部地質学教室)に肉眼およびルーペ観察によって同定していただいた。
12. 土層の色調の観察には、新版標準土色帖(日本色研事業株式会社, 1967年)を用いた。
13. 図表中の「地土」「集中」「柱穴類」は、それぞれ「地下式土坑」「遺物集中」「柱穴および小土坑」の略称である。
14. 発掘調査および本書の作成にあたり、下記の諸氏、諸機関より御助言、御協力を得た。記して感謝の意を表する。(敬称略, 五十音順)  
秋元淳一郎、麻生優、足立順司、阿部祥人、網谷克彦、荒川正明、安斎正人、安藤広道、五十嵐彰、井川史子、石井則孝、石井寛、石川隆志、石川日出志、出居明子、出居博、伊藤郁太郎、伊藤郭、稲垣正宏、稲野彰子、井上一夫、今井敦、今井康博、今村啓爾、内野正、浦郷忠勇、江坂輝彌、江里口省三、遠藤邦彦、尾垣勝彦、岡崎完樹、小川順一郎、小



川英雄，尾崎葉子，小澤かおる，小淵忠秋，角張淳一，影山幾男，加藤修，加藤征，加藤緑，金子浩昌，上條朝宏，河口純一，川島雅人，菊池誠一，菊池実，工藤敏久，熊崎保，熊野正也，黒沢浩，小池聡，小池裕子，小泉智永子，古泉弘，甲崎光彦，粉川昭平，小薬一夫，後藤雅彦，小林克，小林三郎，小林博範，五味一郎，小宮恒夫，斎藤進，坂本彰，桜井準也，佐々木達夫，笹森健一，白石浩之，芝本理香，清水比呂之，白井哲或，鈴木公雄，鈴木重信，鈴木敏昭，高木左貴子，高島忠平，高山博，高山優，竹内修二，田中英司，田中良宣，棚橋淳二，谷清右衛門，近森正，千葉基次，辻本崇夫，土屋良雄，鶴丸俊明，富田哲雄，中井さやか，中尾浩，長佐古美奈子，中沢富士雄，永塚澄子，仲野泰裕，中村若枝，奈良貴史，新津健，西田宏子，野苺家宏，長谷川孝徳，長谷部楽爾，服部隆博，浜田晋介，林謙作，原田信男，伴耕一朗，久田正弘，樋口秀信，比田井民子，平戸麻里，平本嘉助，深澤芳樹，福島宗人，福村哲，藤田邦雄，藤村東男，牧野忠昌，松村恵司，松本健，村上伸之，持田春吉，望月賢二，森伸一，森本伊知郎，森本智子，守家奈緒子，両角まり，矢部良明，山形万里子，山崎一雄，吉田章一郎，吉岡康暢，Atholl Anderson, Melvin Aikens, Michael Bisson, Brian Chisholm, Gary Crawford, Clare Fawcett, Richard J. Pearson, James Savelle, Bruce G. Trigger, Catharine Yasui

有田町教育委員会，有田町歴史民俗資料館，石川県立歴史博物館，伊万里市教育委員会，嬉野町教育委員会，金沢市立図書館，小松市立博物館，佐賀県立九州陶磁文化館，佐賀県文化課，佐賀県窯業試験場，サントリー美術館，信楽町窯業試験場，東京国立博物館，東京都埋蔵文化財センター，波佐見町陶芸の館，前田育徳会尊経閣文庫，三井文庫，山梨文化財研究所

#### 調査参加者

石嶋伸司，一瀬，岩瀬敏治，岩田登美枝，岩出巧，永野義昭，遠藤眞敏，大浦真紀子，大嶋信，加藤晃，金子春男，川島一夫，菅野伸彦，熊埜御堂信，後藤治，小林あゆみ，斉藤和重，坂下雅一，佐倉統，佐藤浩司，塩原和秀，鈴木郁美，高桑徹也，田川正明，田川実，田尻美紀子，津野田正耕，徳井由美，轟光恵，朝長久仁枝，中山経一，野本雅央，橋本佳代子，藤井真，二川敏明，細川義，堀米祐介，松下稔，松本丈夫美，三上等，南英明，宮本敬士，村上汐里，山口ふみよ，山本賢一郎，Nicole Rousmaniere Coolidge

#### 学術調査員

橋口定志

## 目 次

刊行のことば	有馬 朗人
例言	
第1章 遺跡の概要と調査目的	羽生 淳子 (1)
第1節 遺跡の位置と調査に至る経緯	(1)
第2節 遺跡の性格と調査目的	(1)
第2章 調査の方法と経過	羽生 淳子 (5)
第3章 遺跡の層序と地質学的調査・分析	鈴木 正章 (9)
第4章 縄文・弥生・古墳時代の遺構と遺物	山口 剛志 (21)
第5章 江戸時代以降の遺構と遺物	(27)
第1節 遺構および人工遺物の記載	羽生淳子・山口剛志・秋元智也子 (27)
1. 遺構の概要	(27)
2. A・B区の遺構および遺構内出土の人工遺物	(27)
3. C・D区の遺構および遺構内出土の人工遺物	(198)
4. E・F・G区の遺構および遺構内出土の人工遺物	(217)
5. 遺構間接合資料	(307)
6. 遺構外出土の人工遺物	(314)
第2節 人工遺物各論	(330)
1. 陶磁器類	羽生 淳子・秋元 智也子 (330)
2. 徳利	秋元 智也子 (342)
3. 徳利胴部の釘書について	小林 謙一 (349)
4. 播鉢	山口 剛志 (351)
5. 焼塩壺	山口 剛志 (358)
6. かわらけ・燈明具類	羽生 淳子 (364)
7. 火鉢類・焙烙・その他の瓦質, 土師質土器・土製品	山口 剛志 (368)
8. 瓦類	加藤 晃 (377)
9. 石製品	山口 剛志 (384)
10. 銅・鉄・錫製品	岩瀬 敏治 (388)
11. ガラス製品	西田 泰民 (393)

12. 骨角・鼈甲製品	秋元 智也子 (393)
13. 木製品・繊維類	岩瀬 敏治 (395)
第3節 動植物遺存体	(396)
1. 動物遺存体	秋元 智也子・小宮 孟 (396)
2. 植物遺存体	秋元 智也子 (415)
第4節 遺構各論	(416)
1. 井戸	羽生 淳子 (416)
2. 地下式土坑	山口 剛志 (417)
3. 長方形のプランを有する土坑	秋元 智也子 (422)
第6章 遺物の理化学的分析	(425)
第1節 理学部7号館地点出土古九谷様式磁器片の化学分析による生産地推定	(425)
1. 問題の所在および分析資料	羽生淳子・長佐古真也・大橋康二 (425)
2. 理学部7号館地点出土古九谷様式磁器片の蛍光X線分析	長佐古 真也 (434)
3. 理学部7号館地点出土古九谷様式磁器片の放射化分析	二宮 修治・大沢 眞澄 (441)
4. 考察およびまとめ	羽生 淳子・長佐古 真也 (450)
第2節 理学部7号館地点出土のガラスの化学分析	西田泰民・小泉好延・富沢威・小林紘一・山下博 (455)
第3節 理学部7号館地点出土木製品および材の樹種同定	千野 裕道 (461)
第4節 理学部7号館地点出土植物遺残	松谷 暁子 (468)
第5節 理学部7号館地点出土繊維について	中田 節子 (470)
第7章 理学部7号館地点出土の17世紀の肥前磁器	大橋 康二 (472)
第8章 江戸時代における理学部7号館地点の変遷	(480)
第1節 文献史料からみた理学部7号館地点	細川 義 (480)
第2節 考古資料からみた理学部7号館地点	羽生 淳子・山口 剛志 (506)
第3節 絵図面と考古資料との対比	山口剛志・羽生淳子・細川義 (511)
第9章 総括	羽生 淳子 (519)
おわりに	上野 佳也 (523)
付表 遺構番号対照表	(525)
英文要旨	(529)

## 挿図目次

図 1	遺跡位置図 .....	( 3 )
図 2	理学部 7 号館地点, 法学部 4 号館・文学部 3 号館地点, 山上会館地点, 御殿下グラウンド地点調査範囲 .....	( 4 )
図 3	グリッド設定図 .....	( 6 )
図 4	遺構分布図 .....	( 折込 )
図 5	遺跡付近地形図 .....	( 9 )
図 6	断面模式図 .....	( 10 )
図 7	遺跡層序 .....	( 折込 )
図 8	ローム試掘坑およびサンプル採取地点セクション図 .....	( 11 )
図 9	テフラの重鉱物組成および, 火山ガラスの含有率・形態分類 .....	( 17 )
図 10	テフラ対比図 .....	( 18 )
図 11	縄文時代遺構分布図 .....	( 21 )
図 12	J1~J4 号土坑 .....	( 22 )
図 13	縄文・弥生・古墳時代の遺物 .....	( 24 )
図 14	A・B 区遺構分布図 .....	( 折込 )
図 15	1 号井戸, 同出土遺物 (1) .....	( 46 )
図 16	1 号井戸出土遺物 (2) .....	( 47 )
図 17	1 号井戸出土遺物 (3) .....	( 48 )
図 18	1 号井戸出土遺物 (4) .....	( 49 )
図 19	1 号井戸出土遺物 (5) .....	( 50 )
図 20	1 号井戸出土遺物 (6) .....	( 51 )
図 21	1 号井戸出土遺物 (7) .....	( 52 )
図 22	1 号井戸出土遺物 (8) .....	( 53 )
図 23	1 号井戸出土遺物 (9) .....	( 54 )
図 24	2 号井戸, 同出土遺物 (1) .....	( 55 )
図 25	2 号井戸出土遺物 (2) .....	( 56 )
図 26	3 号井戸, 同出土遺物 (1) .....	( 57 )
図 27	3 号井戸出土遺物 (2) .....	( 58 )
図 28	3 号井戸出土遺物 (3) .....	( 59 )
図 29	3 号井戸出土遺物 (4) .....	( 60 )
図 30	3 号井戸出土遺物 (5) .....	( 61 )
図 31	1・2 号地下式土坑 .....	( 62 )
図 32	1・2 号地下式土坑一括出土遺物 .....	( 63 )
図 33	3 号地下式土坑, 同出土遺物 (1) .....	( 64 )
図 34	3 号地下式土坑出土遺物 (2) .....	( 65 )
図 35	3 号地下式土坑出土遺物 (3) .....	( 66 )
図 36	4 号地下式土坑, 同出土遺物 (1) .....	( 67 )
図 37	4 号地下式土坑出土遺物 (2) .....	( 68 )
図 38	4 号地下式土坑出土遺物 (3) .....	( 69 )
図 39	4 号地下式土坑出土遺物 (4) .....	( 70 )
図 40	4 号地下式土坑出土遺物 (5) .....	( 71 )
図 41	4 号地下式土坑出土遺物 (6) .....	( 72 )
図 42	4 号地下式土坑出土遺物 (7) .....	( 73 )

图 43	4号地下式土坑出土遗物(8) .....	(74)
图 44	5号地下式土坑 .....	(75)
图 45	5号地下式土坑出土遗物(1) .....	(76)
图 46	5号地下式土坑出土遗物(2) .....	(77)
图 47	5号地下式土坑出土遗物(3) .....	(78)
图 48	5号地下式土坑出土遗物(4) .....	(79)
图 49	5号地下式土坑出土遗物(5) .....	(80)
图 50	5号地下式土坑出土遗物(6) .....	(81)
图 51	6号地下式土坑 .....	(82)
图 52	6号地下式土坑出土遗物(1) .....	(83)
图 53	6号地下式土坑出土遗物(2) .....	(84)
图 54	6号地下式土坑出土遗物(3) .....	(85)
图 55	6号地下式土坑出土遗物(4) .....	(86)
图 56	6号地下式土坑出土遗物(5) .....	(87)
图 57	6号地下式土坑出土遗物(6) .....	(88)
图 58	7·8号地下式土坑 .....	(89)
图 59	7号地下式土坑出土遗物(1) .....	(90)
图 60	7号地下式土坑出土遗物(2) .....	(91)
图 61	7号地下式土坑出土遗物(3) .....	(92)
图 62	7·8号地下式土坑一括出土遗物(1) .....	(93)
图 63	7·8号地下式土坑一括出土遗物(2) .....	(94)
图 64	7·8号地下式土坑一括出土遗物(3) .....	(95)
图 65	1号土坑 .....	(96)
图 66	1号土坑出土遗物(1) .....	(97)
图 67	1号土坑出土遗物(2) .....	(98)
图 68	1号土坑出土遗物(3) .....	(99)
图 69	1号土坑出土遗物(4) .....	(100)
图 70	1号土坑出土遗物(5) .....	(101)
图 71	1号土坑出土遗物(6) .....	(102)
图 72	1号土坑出土遗物(7) .....	(103)
图 73	1号土坑出土遗物(8) .....	(104)
图 74	1号土坑出土遗物(9) .....	(105)
图 75	2号土坑(1) .....	(106)
图 76	2号土坑(2) .....	(107)
图 77	2号土坑出土遗物(1) .....	(108)
图 78	2号土坑出土遗物(2) .....	(109)
图 79	2号土坑出土遗物(3) .....	(110)
图 80	2号土坑出土遗物(4) .....	(111)
图 81	2号土坑出土遗物(5) .....	(112)
图 82	2号土坑出土遗物(6) .....	(113)
图 83	2号土坑出土遗物(7) .....	(114)
图 84	2号土坑出土遗物(8) .....	(115)
图 85	2号土坑出土遗物(9) .....	(116)
图 86	3~10号土坑 .....	(117)
图 87	11·12号土坑, 同出土遗物 .....	(118)

図 88	13・14 号土坑, 13 号・14 号 (1) 土坑出土遺物	(119)
図 89	14 号土坑出土遺物 (2)	(120)
図 90	14 号土坑出土遺物 (3)	(121)
図 91	14 号土坑出土遺物 (4), 15 号土坑	(122)
図 92	16 号土坑, 同出土遺物	(123)
図 93	17~25 号土坑, 18・24 号土坑出土遺物	(124)
図 94	26~29 号土坑, 26 号土坑出土遺物	(125)
図 95	27 号土坑出土遺物 (1)	(126)
図 96	27 号 (2)・28 号土坑出土遺物	(127)
図 97	30~32 号土坑, 30 号土坑出土遺物	(128)
図 98	33~36 号土坑, 35・36 号土坑出土遺物	(129)
図 99	37~42 号土坑, 41 号土坑出土遺物	(130)
図 100	43~46 号土坑, 43・46 号土坑出土遺物	(131)
図 101	47~50 号土坑, 47・48 号土坑出土遺物	(132)
図 102	51~53 号土坑, 同出土遺物	(133)
図 103	54 号土坑, 同出土遺物	(134)
図 104	55~60 号土坑	(135)
図 105	61・62 号土坑, 62 号土坑出土遺物	(136)
図 106	63 号土坑, 同出土遺物 (1)	(137)
図 107	63 号土坑出土遺物 (2)	(138)
図 108	63 号土坑出土遺物 (3)	(139)
図 109	64~67 号土坑, 63 号 (4)・65 号土坑出土遺物	(140)
図 110	68~70 号土坑, 69・70 号土坑出土遺物	(141)
図 111	71~73 号土坑, 71・73 号土坑出土遺物	(142)
図 112	74 号土坑, 同出土遺物, 75 号土坑	(143)
図 113	75 号土坑出土遺物	(144)
図 114	1~11 号遺物集中分布図	(145)
図 115	1 号遺物集中出土遺物 (1)	(146)
図 116	1 号 (2)・2 号・4 号遺物集中出土遺物	(147)
図 117	5・6 号遺物集中出土遺物	(148)
図 118	9・11 号遺物集中出土遺物	(149)
図 119	1 号杭跡, A・B 区柱穴および小土坑配置図	(150)
図 120	A・B 区柱穴および小土坑出土遺物	(151)
図 121	1 号溝, 同出土遺物	(152)
図 122	C・D 区遺構分布図	(折込)
図 123	9 号地下式土坑	(201)
図 124	9 号地下式土坑出土遺物 (1)	(202)
図 125	9 号地下式土坑出土遺物 (2)	(203)
図 126	9 号地下式土坑出土遺物 (3)	(204)
図 127	76~82 号土坑, 76・80・81・82 号土坑出土遺物	(205)
図 128	83・84 号土坑, 83 号土坑出土遺物 (1)	(206)
図 129	83 号土坑出土遺物 (2)	(207)
図 130	83 号土坑出土遺物 (3)	(208)
図 131	85~88 号土坑, 85 号・88 号 (1) 土坑出土遺物	(209)
図 132	89 号土坑, 88 号 (2)・89 号土坑出土遺物	(210)

図 133	90 号土坑, 90 号土坑・C・D 区柱穴および小土坑出土遺物	(211)
図 134	C・D 区柱穴および小土坑配置図	(212)
図 135	E・F・G 区遺構分布図	(折込)
図 136	4 号井戸, 同出土遺物 (1)	(229)
図 137	4 号井戸出土遺物 (2)	(230)
図 138	4 号井戸出土遺物 (3)	(231)
図 139	4 号井戸出土遺物 (4)	(232)
図 140	4 号井戸出土遺物 (5)	(233)
図 141	4 号井戸出土遺物 (6)	(234)
図 142	4 号井戸出土遺物 (7)	(235)
図 143	4 号井戸出土遺物 (8)	(236)
図 144	4 号井戸出土遺物 (9)	(237)
図 145	5 号井戸, 同出土遺物 (1)	(238)
図 146	5 号井戸出土遺物 (2)	(239)
図 147	10 号地下式土坑, 同出土遺物	(240)
図 148	11 号地下式土坑, 同出土遺物 (1)	(241)
図 149	11 号地下式土坑出土遺物 (2), 12 号地下式土坑	(242)
図 150	12 号地下式土坑出土遺物	(243)
図 151	13 号地下式土坑, 同出土遺物 (1)	(244)
図 152	13 号地下式土坑出土遺物 (2)	(245)
図 153	13 号地下式土坑出土遺物 (3)	(246)
図 154	13 号地下式土坑出土遺物 (4)	(247)
図 155	14 号地下式土坑, 同出土遺物	(248)
図 156	15 号地下式土坑, 同出土遺物, 16 号地下式土坑	(249)
図 157	16 号地下式土坑出土遺物 (1)	(250)
図 158	16 号地下式土坑出土遺物 (2)	(251)
図 159	17 号地下式土坑, 同出土遺物	(252)
図 160	18 号地下式土坑, 同出土遺物 (1)	(253)
図 161	18 号地下式土坑出土遺物 (2)	(254)
図 162	18 号地下式土坑出土遺物 (3), 19 号地下式土坑	(255)
図 163	19 号地下式土坑出土遺物 (1)	(256)
図 164	19 号地下式土坑出土遺物 (2)	(257)
図 165	19 号地下式土坑出土遺物 (3)	(258)
図 166	19 号地下式土坑出土遺物 (4)	(259)
図 167	20・21 号地下式土坑 (1)	(260)
図 168	20・21 号地下式土坑 (2)	(261)
図 169	20・21 号地下式土坑出土遺物	(262)
図 170	91~104 号土坑, 104 号土坑出土遺物	(263)
図 171	105・106 号土坑, 106 号・107 号 (1) 土坑出土遺物	(264)
図 172	107 号土坑出土遺物 (2)	(265)
図 173	108~110 号土坑, 108 号土坑出土遺物 (1)	(266)
図 174	108 号 (2)・109 号土坑出土遺物	(267)
図 175	111 号土坑, 同出土遺物	(268)
図 176	112 号土坑, 同出土遺物	(269)
図 177	113~116 号土坑, 113 号土坑出土遺物	(270)

図 178	114 号土坑出土遺物	(271)
図 179	117~119 号土坑, 117・119 号土坑出土遺物	(272)
図 180	120~122 号土坑, 同出土遺物	(273)
図 181	123~129 号土坑, 124・127・128・129号土坑出土遺物	(274)
図 182	130~135 号土坑, 130・131号土坑一括および135号土坑出土遺物	(275)
図 183	136 号土坑, 同出土遺物 (1)	(276)
図 184	136 号土坑出土遺物 (2)	(277)
図 185	137 号土坑, 同出土遺物 (1)	(278)
図 186	137 号土坑 (2), 5 号井戸・136・137 号土坑一括出土遺物	(279)
図 187	138・139・140 号土坑, 138・139・140号土坑一括出土遺物	(280)
図 188	141 号土坑, 同出土遺物	(281)
図 189	142 号土坑, 同出土遺物	(282)
図 190	2 号・3 号杭跡, 3 号杭跡出土遺物	(283)
図 191	E・F・G 区柱穴および小土坑, 同出土遺物	(284)
図 192	遺構間接合遺物 (1)	(308)
図 193	遺構間接合遺物 (2)	(309)
図 194	遺構間接合遺物 (3)	(310)
図 195	遺構間接合遺物 (4)	(311)
図 196	遺構外出土遺物 (1)	(315)
図 197	遺構外出土遺物 (2)	(316)
図 198	遺構外出土遺物 (3)	(317)
図 199	遺構外出土遺物 (4)	(318)
図 200	遺構外出土遺物 (5)	(319)
図 201	遺構外出土遺物 (6)	(320)
図 202	遺構外出土遺物 (7)	(321)
図 203	遺構外出土遺物 (8)	(322)
図 204	遺構外出土遺物 (9)	(323)
図 205	理学部 7 号館地点における瀬戸・美濃灰釉徳利の変遷	(343)
図 206	播鉢形態別の見込播目拓影図	(352)
図 207	瓦の名称・計測点・分類	(378)
図 208	真骨類種不明実測図	(404)
図 209	井戸・地下式土坑分布図	(420)
図 210	肥前古窯跡分布図	(432)
図 211	蛍光 X 線分析の検量線例 (酸化チタン)	(435)
図 212	酸化チタンの存在量分布	(437)
図 213	有田古窯跡および鍋島藩窯出土試料のデンドログラム	(439)
図 214	有田古窯跡・鍋島藩窯出土試料と理学部 7 号館地点出土試料のデンドログラム	(439)
図 215	分析試料の Si/Al 分布	(440)
図 216	分析試料の Ti/Fe-Si/Al 分布	(440)
図 217	理学部 7 号館地点出土磁器片のクラスター分析	(444)
図 218	肥前古窯跡出土磁器片 44 試料のクラスター分析	(446)
図 219	有田古窯跡および鍋島藩窯出土磁器片 40 試料における微量成分元素存在量	(447)
図 220	有田古窯跡および鍋島藩窯出土磁器片 40 試料のクラスター分析	(448)
図 221	クラスター分析による理学部 7 号館地点出土磁器片の生産地推定の一例	(449)



図 222	蛍光 X 線分析スペクトル図	(458)
図 223	PIXE 分析スペクトル図	(459)
図 224	K-Na 含有量散布図	(459)
図 225	PbO 量と密度相関図	(459)
図 226	加賀藩江戸藩邸の変遷	(481)
図 227	「八筋五番御貸小屋図」 小松市立博物館所蔵	(折込)
図 228	寛政 12 年 (1800) 「八筋」居住者氏名・禄高・役職	(502)
図 229	元禄元年 (1688) の絵図面と理学部 7 号館地点との対比図	(513)
図 230	1840 年代前半の絵図面と理学部 7 号館地点との対比図	(515)

## 表目次

表 1	ローム層鈷物分析結果表 (1)	(15)
表 2	ローム層鈷物分析結果表 (2)	(16)
表 3	A・B 区土坑一覧表	(39)
表 4	A・B 区遺物集中一覧表	(45)
表 5	A・B 区遺構内出土遺物観察表	(153)
表 6	C・D 区土坑一覧表	(200)
表 7	C・D 区遺構内出土遺物観察表	(213)
表 8	E・F・G 区土坑一覧表	(225)
表 9	E・F・G 区遺構内出土遺物観察表	(285)
表 10	遺構間接合遺物観察表	(312)
表 11	遺構外出土遺物観察表	(324)
表 12	遺構別出土陶磁器総破片数集計表	(337)
表 13	各遺構における組成比	(339)
表 14	総破片数を用いた場合と底部 1/2 以上個体数を用いた場合の集計結果の比較	(341)
表 15	徳利容量計測値一覧	(345)
表 16	二次加工痕を有する徳利一覧	(347)
表 17	徳利胴部の釘書	(350)
表 18	播鉢の遺構別出土状況	(355)
表 19	焼塩壺身・蓋の遺構別出土状況	(361)
表 20	梅鉢紋計測値	(379)
表 21	連珠三つ巴文計測値	(379)
表 22	軒平瓦計測値	(379)
表 23	軒棧瓦軒丸部計測値	(379)
表 24	軒棧瓦軒平部計測値	(382)
表 25	丸瓦計測値	(382)
表 26	平瓦計測値	(382)
表 27	銭貨計測値表	(389)
表 28	煙管計測値表 (雁首)	(390)
表 29	煙管計測値表 (吸口)	(390)
表 30	釘出土点数表	(391)
表 31	炭化物出土遺構	(395)
表 32	出土貝類遺構別最小個体数	(398)

表 33	63号土坑コラムサンプル脊椎動物同定結果	(405)
表 34	12号土坑コラムサンプル脊椎動物同定結果	(405)
表 35	出土両棲類・爬虫類・鳥類・哺乳類同定結果	(407)
表 36	出土魚類同定結果 I, 17世紀の遺構	(409)
表 37	出土魚類同定結果 II, 18~19世紀の遺構	(410)
表 38	9号地下式土坑堆積物一括サンプル内魚類同定結果	(412)
表 39	63号土坑堆積物一括サンプル内魚類同定結果	(412)
表 40	75号土坑堆積物一括サンプル内魚類同定結果	(412)
表 41	井戸一覧表	(417)
表 42	地下式土坑一覧表	(419)
表 43	長方形のプランを有する土坑一覧	(423)
表 44	一橋高校地点 小屋?一覧	(423)
表 45	理学部7号館地点出土分析資料一覧	(426)
表 46	肥前古窯跡出土分析資料一覧	(427)
表 47	他遺跡出土分析資料一覧	(428)
表 48	肥前古窯跡出土分析資料観察表	(430)
表 49	蛍光 X 線分析条件	(435)
表 50	蛍光 X 線分析の標準試料	(435)
表 51	蛍光 X 線分析の結果	(436)
表 52	九谷古窯跡出土破片の素地の酸化チタン存在量 (山崎 1986 より)	(437)
表 53	理学部7号館地点出土磁器 10 試料の微量成分元素存在量	(443)
表 54	肥前古窯跡出土磁器 44 試料の微量成分元素存在量	(445)
表 55	参考: 佐賀県窯業試験場による肥前古窯跡出土磁器片化学分析資料観察表	(452)
表 56	参考: 佐賀県窯業試験場による肥前古窯跡出土磁器片の主成分元素存在量	(452)
表 57	資料番号対照表	(456)
表 58	放射化分析の定量に用いた主な核種・半減期並びに $\gamma$ 線エネルギー	(456)
表 59	出土ガラスの種類と密度, 分析値	(457)
表 60	樹種構成	(462)
表 61	未炭化種子と観察結果	(469)
表 62	炭化物と観察結果	(469)
表 63	1万坪以上の上中下屋敷数面積別一覧	(483)
表 64	本郷邸年表	(486)
表 65	「武州本郷第Ⅷ」記載内容一覧	(488)
表 66	各絵図面「八筋」部分記載内容一覧	(492)
表 67	寛政12年(1800)理学部7号館地点居住者履歴	(503)
付表	遺構番号対照表	(525)

## 写真目次

- 口絵 1 理学部 7 号館地点出土古九谷様式磁器片  
口絵 2 「江戸御上屋敷惣御絵図」金沢市立図書館所蔵  
写真 1 調査終了時の遺跡（南側地区）  
写真 2 メイン・セクション  
写真 3 発掘中の遺跡・ロームサンプル採取地点・ローム試掘坑  
写真 4 縄文時代の土坑  
写真 5 1号～3号・5号井戸  
写真 6 4号井戸  
写真 7 1号～6号地下式土坑  
写真 8 7号～9号地下式土坑  
写真 9 10号～13号地下式土坑  
写真 10 14号～18号地下式土坑  
写真 11 19号～21号地下式土坑  
写真 12 1号溝，A・B区柱穴（礎石）  
写真 13 2号・3号杭跡  
写真 14 1号・2号土坑  
写真 15 土坑（長方形のプランを有するもの）  
写真 16 その他の土坑（7号・11号・89号・90号）  
写真 17 1号・5号・8号遺物集中  
写真 18 火山ガラスの顕微鏡写真  
写真 19 陶磁器（1） 1号井戸  
写真 20 陶磁器（2） 1号井戸  
写真 21 陶磁器（3） 1号井戸  
写真 22 陶磁器（4） 2号・3号井戸  
写真 23 陶磁器（5） 3号井戸  
写真 24 陶磁器（6） 1・2号地下式土坑一括，3号地下式土坑  
写真 25 陶磁器（7） 3号・4号地下式土坑  
写真 26 陶磁器（8） 4号地下式土坑  
写真 27 陶磁器（9） 4号地下式土坑  
写真 28 陶磁器（10） 5号地下式土坑  
写真 29 陶磁器（11） 5号地下式土坑  
写真 30 陶磁器（12） 6号地下式土坑  
写真 31 陶磁器（13） 6号地下式土坑  
写真 32 陶磁器（14） 7号地下式土坑  
写真 33 陶磁器（15） 7・8号地下式土坑一括  
写真 34 陶磁器（16） 1号土坑  
写真 35 陶磁器（17） 1号・2号土坑  
写真 36 陶磁器（18） 2号土坑  
写真 37 陶磁器（19） 2号土坑  
写真 38 陶磁器（20） 11号・12号・14号土坑  
写真 39 陶磁器（21） 14号・16号・26号・27号土坑  
写真 40 陶磁器（22） 27号・30号・36号土坑

- 写真 41 陶磁器 (23) 43号・51号・52・53号一括・54号・62号・63号土坑
- 写真 42 陶磁器 (24) 63号・65号・70号・71号土坑
- 写真 43 陶磁器 (25) 71号・74号・75号土坑, 1号遺物集中
- 写真 44 陶磁器 (26) 1号・5号・9号・11号遺物集中, A・B区柱穴および小土坑, 1号溝
- 写真 45 陶磁器 (27) 9号地下式土坑, 76号・83号土坑
- 写真 46 陶磁器 (28) 83号・85号・88号~90号土坑, C・D区柱穴および小土坑
- 写真 47 陶磁器 (29) 4号井戸
- 写真 48 陶磁器 (30) 4号井戸
- 写真 49 陶磁器 (31) 4号井戸
- 写真 50 陶磁器 (32) 5号井戸, 10号・11号地下式土坑
- 写真 51 陶磁器 (33) 11号~13号地下式土坑
- 写真 52 陶磁器 (34) 13号~16号地下式土坑
- 写真 53 陶磁器 (35) 16号~18号地下式土坑
- 写真 54 陶磁器 (36) 18号・19号地下式土坑
- 写真 55 陶磁器 (37) 20号・21号地下式土坑, 107号土坑
- 写真 56 陶磁器 (38) 108号・109号・111号~114号土坑
- 写真 57 陶磁器 (39) 114号・119号・122号・124号・127号~129号・130・131号一括・135号土坑
- 写真 58 陶磁器 (40) 136号・137号土坑, 5号井戸・136・137号土坑一括, 138・139・140号土坑一括
- 写真 59 陶磁器 (41) 141号・142号土坑, 3号杭跡, 遺構間接合
- 写真 60 陶磁器 (42) 遺構外
- 写真 61 陶磁器 (43) 遺構外
- 写真 62 陶磁器 (44) 遺構外
- 写真 63 焼塩壺
- 写真 64 かわらけ・燈明具 (1)
- 写真 65 かわらけ・燈明具 (2)
- 写真 66 火鉢・焙烙
- 写真 67 その他の瓦質, 土師質土器・土製品
- 写真 68 瓦
- 写真 69 硯・砥石
- 写真 70 石製品, 銅・鉄・錫製品 (1)
- 写真 71 銅・鉄・錫製品 (2)
- 写真 72 煙管
- 写真 73 銭貨 (1)
- 写真 74 銭貨 (2)
- 写真 75 ガラス製品, 骨角製品, 鼈甲製品
- 写真 76 木製品
- 写真 77 漆製品
- 写真 78 魚骨 (1)
- 写真 79 魚骨 (2)
- 写真 80 魚骨 (3)
- 写真 81 魚骨 (4)
- 写真 82 対比資料: 肥前古窯跡出土資料 (1)
- 写真 83 対比資料: 肥前古窯跡出土資料 (2)
- 写真 84 対比資料: 肥前古窯跡出土資料 (3)
- 写真 85 参考資料: 古九谷様式伝世品 (東京国立博物館蔵)

- 写真 86 材・炭化材の顕微鏡写真 (1)  
写真 87 材・炭化材の顕微鏡写真 (2)  
写真 88 材・炭化材の顕微鏡写真 (3)  
写真 89 材・炭化材の顕微鏡写真 (4)  
写真 90 材・炭化材の顕微鏡写真 (5)  
写真 91 材・炭化材の顕微鏡写真 (6)  
写真 92 材・炭化材の顕微鏡写真 (7)  
写真 93 材・炭化材の顕微鏡写真 (8)  
写真 94 種子の実体顕微鏡および走査型電子顕微鏡写真  
写真 95 炭化した縄・畳・紙・竹の走査型電子顕微鏡写真  
写真 96 炭化木材片の走査型電子顕微鏡写真 (1)  
写真 97 炭化木材片の走査型電子顕微鏡写真 (2)  
写真 98 繊維・金糸  
写真 99 「武州本郷第図」 尊敬閣文庫所蔵  
写真 100 「江戸本郷御上屋敷絵図」 金沢市立図書館所蔵  
写真 101 理学部 7 号館地点比定図 (絵図面は「江戸御上屋敷惣御絵図」金沢市立図書館所蔵)  
写真 102 「八筋」部分図



# 第1章 遺跡の概要と調査目的

羽生 淳子

## 第1節 遺跡の位置と調査に至る経緯

東京都文京区本郷7丁目3番1号、東京大学本郷構内は、その大部分が、江戸時代における加賀藩前田家の本郷邸跡であることが知られている、周知の埋蔵文化財包蔵地である（東京都教育委員会1985、など）。東京大学遺跡調査室では、1983年10月以来、本郷構内において、計五地点の発掘調査を行ってきた。理学部7号館地点は、このうちの一地点であり、理学部化学館旧館の北棟および理学部化学館中庭部に位置する。標高は、地表面で、約17mを測り、御殿下グラウンド地点の北側にあたる。

理学部7号館の建設予定にあたり、1984年9月に理学部化学館中庭部の試掘調査が実施された結果、江戸時代の遺構および遺物の存在が確認された。そのため、建設工事に先立ち、同年12月に、遺跡調査室理学部班が設置され、1985年2月1日より10月8日の約8ヶ月間にわたり、緊急発掘調査が実施された。調査対象面積は、約750m<sup>2</sup>である。

## 第2節 遺跡の性格と調査目的

東京大学本郷構内においては、現在までに、理学部7号館地点、山上会館地点、法学部4号館・文学部3号館地点、医学部附属病院診療棟第I期建設地点、の計五地点について、発掘調査が行われている（図1）。このうち医学部附属病院診療棟第I期建設地点を除いた四地点（図2）は、加賀藩前田家本郷邸の一部分を調査したものである。前田家本郷邸については、江戸時代に作成された絵図面が数多く残されており、これらから、邸内の時間的変遷の概略を推測することができる。これによれば、理学部7号館地点は、江戸時代元禄期以降幕末に至るまで、「八筋」と呼ばれる、家臣のための長屋の一部であったことがわかる（第8章参照）。

このような遺跡の性格を考慮して、本地点の発掘に際しては、以下の3点に留意しながら調査を進めた。

第1に、調査に際しては、遺構毎の出土遺物のまとまりを重視し、遺構内一括出土遺物の量

的および質的把握に努めた。特に、今回の調査では、調査の過程において、都心部の江戸時代遺跡では報告例の少ない十七世紀代の良好な一括出土資料の存在が明らかになったため、これらの遺構の調査および報告には特に留意した。また、遺構内出土遺物の記載に際しては、遺構別に出土資料を図示する方法を採った。

第2に、発掘地点から得られる考古学資料は、大名の家臣という特定の身分の人々の生活を復元し得る資料であることを念頭におき、食物残滓、特に動物遺存体（魚骨、獣骨）の回収に努めた。具体的には、発掘中に動物遺存体の出土が多く認められた遺構については、覆土サンプルを採取し、調査終了後に水洗選別を行った。

第3に、絵図面にみられる建物配置と、考古学的調査の結果明らかになった遺構配置との対比を試みた。元禄～幕末にわたる各絵図面に描かれている邸内の建物配置は、時期によって部分的に変化しているが、今回の調査地点と推定される付近には、一貫して、南北にのびる長屋の図が描かれている。絵図面上における井戸の位置等を参考にして、絵図面に描かれた建物配置と、遺跡において検出された遺構配置とを重ね合わせることができれば、従来の研究ではその性格が不明であった種々の遺構について、建物との位置関係やその機能を推測することが可能になる。一例として、地下式土坑（通常、入口部と室部を有する大型の土坑、地下室とも呼ばれる）と長屋の建物との位置関係の問題があげられる。地下式土坑が、建物の下に位置していたのか、あるいは屋外に位置していたのかは、従来の研究では明らかにされていないが、今回の調査で、調査地点における長屋建物の位置を推定することができれば、建物と地下式土坑との位置関係および地下式土坑の機能を推測する際のひとつの手がかりとなる。

#### 文献

東京都教育委員会，1985：江戸の遺跡。都心部の遺跡——貝塚・古墳・江戸——，pp.205-292。



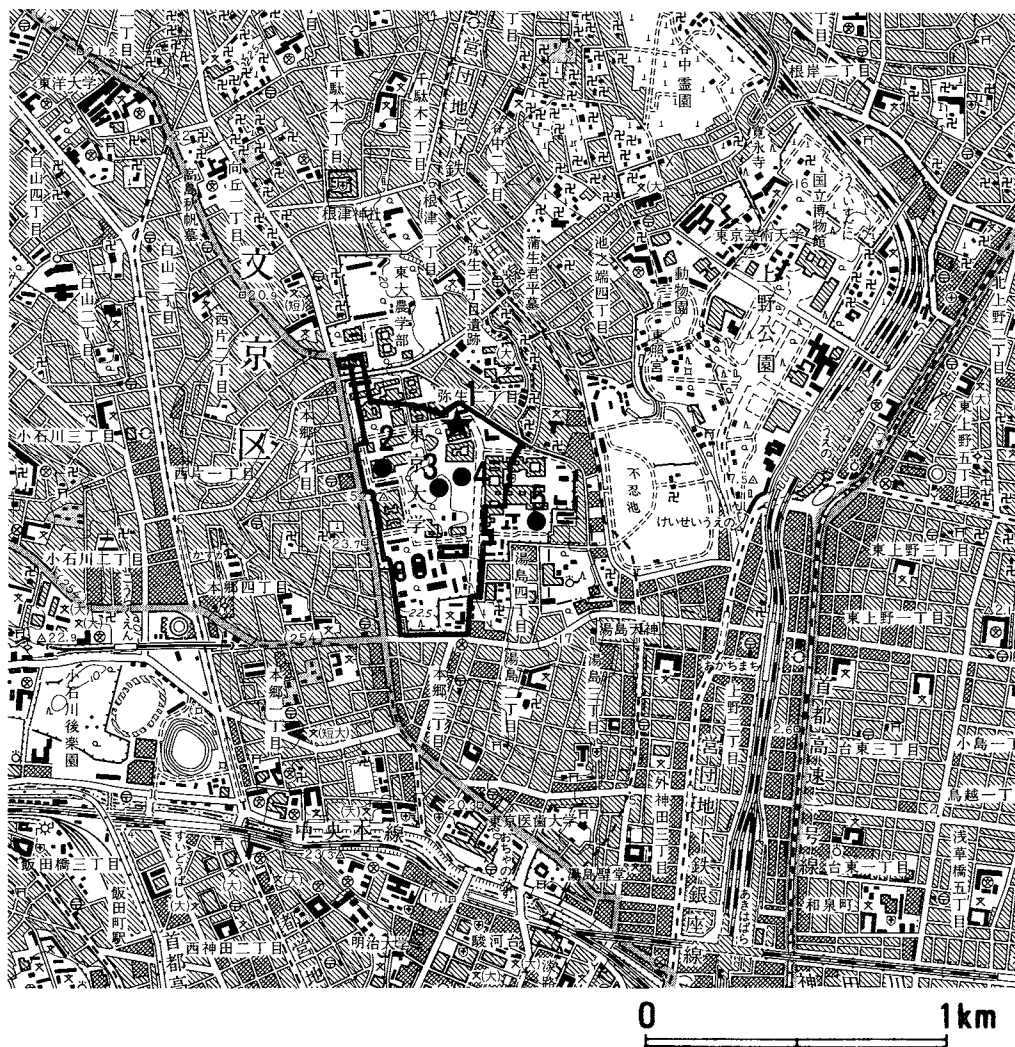


図1 遺跡位置図 (国土地理院 1986, 1:25,000 「東京首部」より)

1. 理学部7号館地点 2. 法学部4号館・文学部3号館地点 3. 山上会館地点 4. 御殿下グラウンド地点 5. 医学部附属病院中央診療棟第I期建設地点 (枠線内は加賀藩上屋敷跡)

Figure 1 Location of the site area, the University of Tokyo

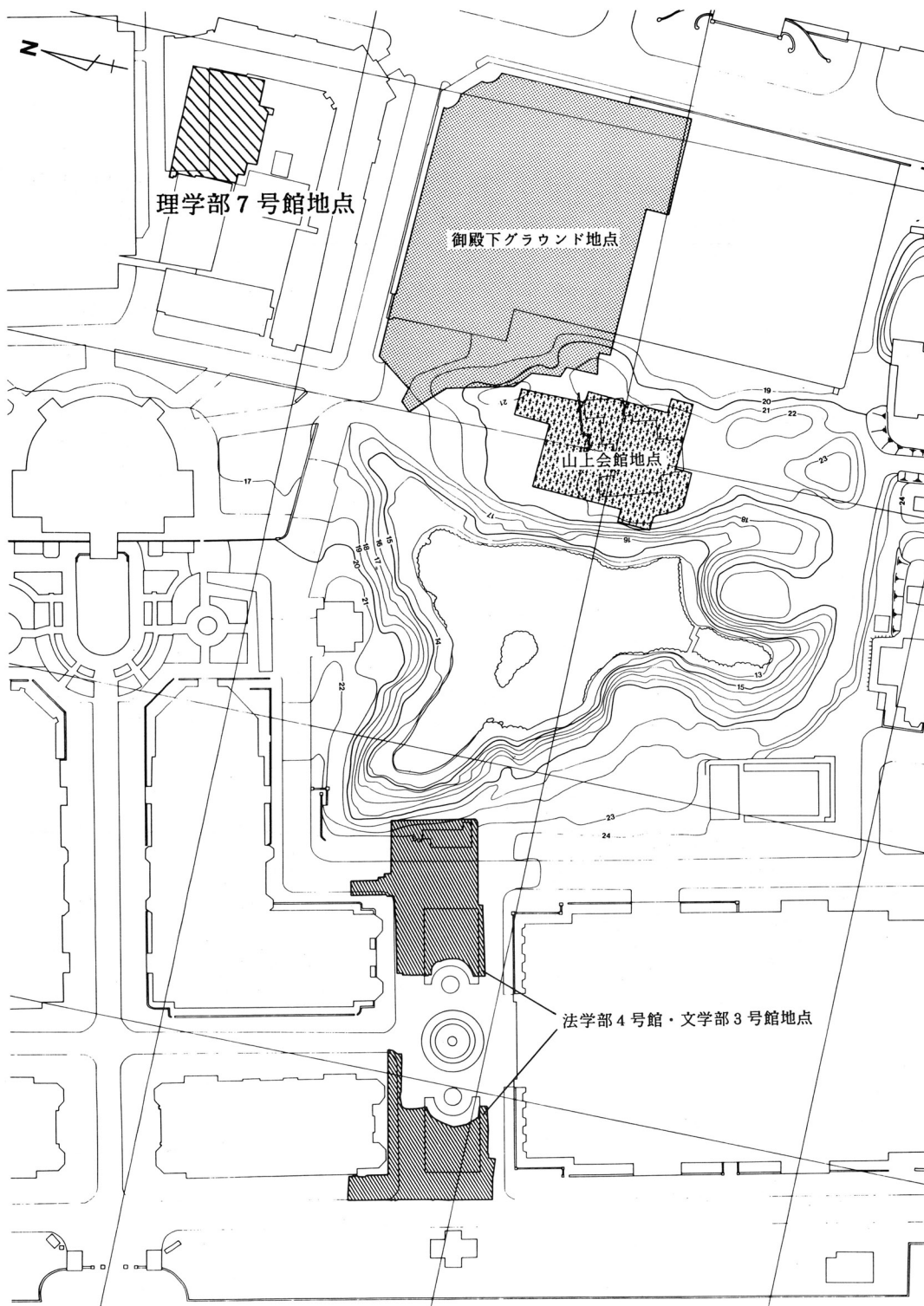


図2 理学部7号館地点，法学部4号館・文学部3号館地点，山上会館地点，御殿下グラウンド地点調査範囲

Figure 2 Areas excavated at the University of Tokyo

## 第2章 調査の方法と経過

羽生 淳子

調査対象区域のうち、北側約半分は、理学部化学館旧館北棟の建物下であった。1984年11月に、化学館旧館北棟を取り壊した結果、この部分は、建物の基礎工事によって大きく攪乱を受けていることが確認された。(以下、この部分を北側地区、化学館旧館北棟による攪乱を受けていない部分を南側地区と呼称する。)化学館旧館北棟の基礎部分は、取り壊しの際に重機によって除去されていたため、北側地区と南側地区の境界線上(A2グリッドとG3グリッドを結ぶライン)では、堆積物の断面が観察可能であった。

1984年12月に、この断面(メイン・セクション、図7:A-A')の調査を行った結果、南側地区の堆積物は、上から順に、①近・現代の層、②江戸時代の層、③自然堆積層の3つに大別された。近・現代の層(1層)は、地表面から約1mの深さにわたって堆積しており、明治時代から現代にいたる遺物を含んでいることが確認された。この層は、ほぼ水平に堆積している厚さ数センチメートルの数多くの細別層から成る。江戸時代の層(2層)の存在は部分的に確認されたのみであり、厚いところでも、20数センチメートルを測るにすぎない。層の薄さから考えて、江戸時代末期ないし明治時代以降に、地形の平坦化を目的とした削平が行われたことが推測される。

観察された自然堆積層は、立川・武蔵野ローム層である。メイン・セクションにおいて確認されたローム層の最上部は、BB1(立川埋没土層1)である。後に、南側の試掘坑において、IV層(ハードローム層)の存在が確認されたが、それより上の自然堆積層(ソフトローム層より上の部分)は、調査地点内では確認されなかった。以上の事実は、江戸時代のある時点において、大規模な削平が行われたことを示唆するものである。

このような堆積状態を考慮にいたった上で、調査においては、まず、1層および攪乱層を除去し、2層上面において平面プランを確認できた遺構から順次調査を行い、2層を掘り下げていくという方針を立てた。しかしながら、実際には、2層の残存部分のごく僅かであったため、遺構の確認面は、ほとんどの場合ローム層であった。

遺構の平面形および遺物の出土位置を記録する方法としては、グリッド・システムを採用した。具体的には、5m×5mのメッシュを調査区域全体にかぶせ、各ラインには、東から西へAライン～Gライン、北から南に1ライン～6ラインと名称を付した(図3参照。うち、1ライン

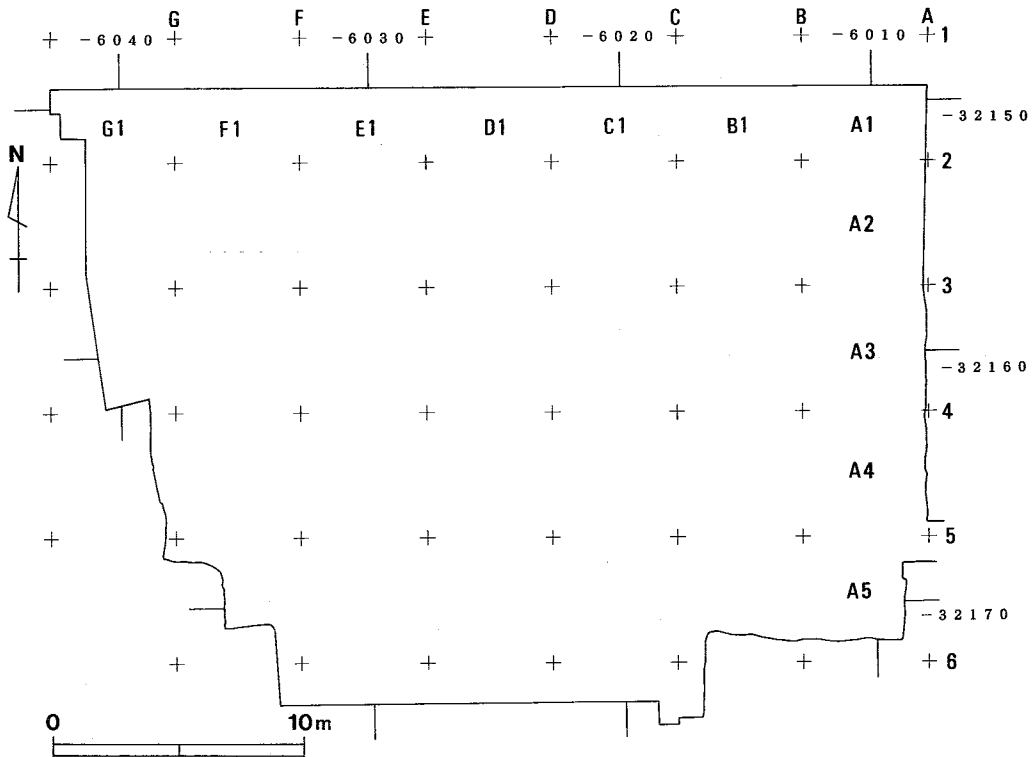


図3 グリッド設定図

Figure 3 Grid system used at the No.7 Science Building area

は調査区域外である)。グリッドの東西軸は、真北を $0^{\circ}$ とした場合 $89^{\circ}41'10''$ 、国土座標系におけるD1グリッドの座標の測量結果は、 $X=-32146.854\text{ m}$ 、 $Y=-6022.784\text{ m}$ (座標系Ⅸ系)である。そして、Aラインと1ラインの交差する点を北東隅に持つグリッドをA1グリッドと呼称し、以下同様にして各グリッドの名称とした。また、必要に応じて、A1~A5グリッドをA区、B1~B6グリッドをB区、C1~C6グリッドをC区、D1~D6グリッドをD区、E1~E6グリッドをE区、F1~F6グリッドをF区、G1~G5グリッドをG区と呼称した。遺構および遺物の出土位置の深度については、調査地点の西端に標高17.5mの基準点を設け、これを基準として測量を行った。

発掘調査は、1985年2月1日~10月8日までの約8ヶ月間行われた。調査にあたっては、各遺構に対して、発見された順に通し番号を付し、これを、発掘時および遺物整理時の仮の遺構番号とした。そして、報告書の作成時に、遺構の種類毎(井戸、地下式土坑、土坑、杭跡、溝、遺物集中)に、番号をふりかえ、報告および記載を行った。発掘・整理時の仮番号と、本報告書において使用した遺構番号との対照表を付表に示す。また、検出された遺構の分布図を図4に示す。

以下、調査の経過および主な遺構の調査日程（発掘開始から完掘まで：写真撮影等の期間は除外する）を示す。

- 1月21日 調査に先立ち、グリッドを設定。
- 2月1日 調査開始。
- 2月1日～21日 遺構の残存状態が比較的良好な南側地区について、Cグリッドライン沿いに南北トレンチを、3グリッドライン沿いに東西トレンチを設定し、遺跡の堆積状態および遺構の確認を行う。
- 2月14日 15号地下式土坑の調査。
- 2月22日～3月2日 ユンボにより、南側地区の表土剥ぎを行い、土砂を搬出。
- 3月4日～12日 グリッド杭を打ちなおす。排土搬出のためのベルトコンベア設置。
- 3月13日～31日 江戸時代の層の掘下げと遺構の確認。
- 4月1日 遺構上面プラン確認図の作成を開始。
- 4月22日～5月2日 10号地下式土坑の調査。
- 4月22日～5月9日 11号地下式土坑の調査。
- 4月25日～5月13日 12号地下式土坑の調査。
- 4月25日～5月15日 13号地下式土坑の調査。
- 5月2日～10日 16号地下式土坑の調査。
- 5月2日～7月29日 4号井戸の調査。
- 5月9日～9月26日 1号溝の調査。
- 5月15日～17日 1・2号地下式土坑の調査。
- 5月16日～6月15日 5号井戸の調査。
- 5月28日～30日 14号地下式土坑の調査。
- 6月5日～12日 1号井戸の調査。
- 6月5日～7月23日 18号地下式土坑の調査。
- 6月6日 A・B区において、3ラインの北側にサブトレンチを設定し、遺構の深さを確認。
- 6月7日～7月10日 4号地下式土坑の調査。
- 6月12日～27日、8月5日～6日 2号井戸の調査。
- 7月4日 北側地区の調査を終了。
- 7月4日～30日 19号地下式土坑の調査。
- 7月5日～29日 9号地下式土坑の調査。

7月25日～10月1日 5号地下式土坑の調査。  
8月7日～19日 17号地下式土坑の調査。  
8月8日～23日 20号地下式土坑の調査。  
8月8日～9月9日 21号地下式土坑の調査。  
8月27日～10月2日 1号土坑の調査。  
9月3日～9月18日 6号地下式土坑の調査。  
9月10日～26日 2号土坑の調査。  
9月27日～30日 3号井戸の調査。  
10月8日 調査終了。

各遺構内から出土した資料は、原則として遺構毎に一括して取り上げた。ただし、遺構の重複関係が著しく、発掘時にはどの遺構に帰属するのか判別が困難であった資料については、出土位置を1点ずつ記録し、遺物整理時に図上で各遺構への帰属を決定した。

全ての資料は、洗浄したのち、可能なものについては、注記および接合作業を行い、実測図を作成した。陶磁器のうち、染付など、文様の複雑な資料については、器形のみを実測し、文様は写真撮影を行って実寸に引き伸ばしたものを実測図に貼り込むか、またはその写真をトレースした。



図4 遺構分布図（遺跡層序は図7を参照）  
 Figure 4 Distribution of features at the No.7 Science Building area

### 第3章 遺跡の層序と地質学的調査・分析

鈴木 正章

#### 1. 調査の目的

理学部7号館地点が立地している本郷台地については、杉原(1972)、町田(1973)、貝塚(1979)などの研究がある。これらの研究によれば、本郷台地は、箱根火山を給源火山として約49,000年前に関東一円に降灰したTP(東京軽石層)より若干古い時代を離水期とすることから、赤羽台地に連続するM<sub>2</sub>面(武蔵野2面)に対比される。したがって、本郷台地は、主に、立川・武蔵野期ローム層の赤色風化火山灰層に覆われていることが推測される。

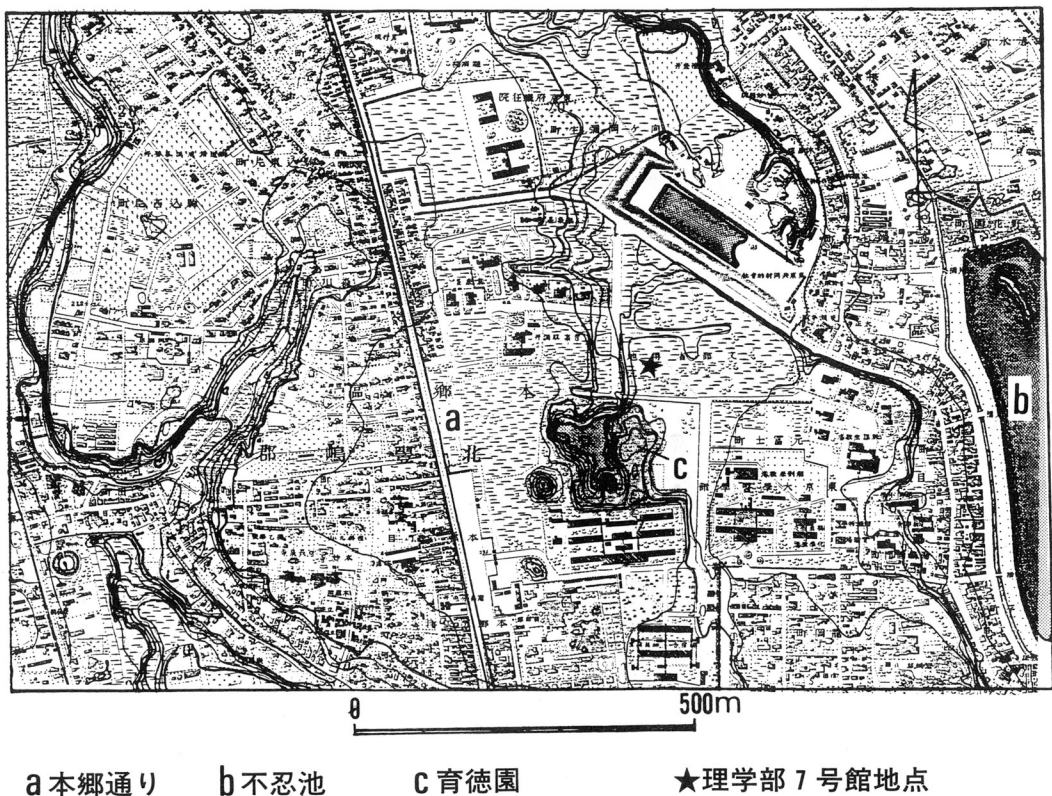


図5 遺跡付近地形図(明治16年の地図に加筆)

Figure 5 Topographic map of the Hongo Uplands around the excavation area



両ローム層中には、上位から、浅間火山 YP (板鼻黄色軽石層：約 13,000~12,000 年前) 直上の火山灰互層に由来する UG 火山灰 (Tachikawa upper glassy ash：山崎 1978, 鈴木ほか 1987), 鹿児島始良カルデラを給源として約 24,000~21,000 年前に北海道を除く日本全土にも及ぶ広域に降灰した AT 火山灰 (始良 Tn 火山灰：町田・新井 1976), 箱根火山を給源として 49,000 年前に関東一円に降灰した TP (東京軽石層) などの比較的広域に認められるテフラ (火山灰・軽石・スコリア等の火山碎屑物の総称) の狭在が予想される。これらは、いずれも関東地方における立川・武蔵野ローム層の地質層序・年代の決定ならびに、旧石器文化編年上重要な鍵になるテフラ層である。

本報告では、東京大学構内の他の地点を含めた深掘の断面、江戸時代に掘られた井戸の壁などの露頭の肉眼観察、建築用の既存のボーリング柱状図資料、立川・武蔵野ローム層中の重鉱物・火山ガラス (含有率・形態分類) などの連続的な組成変化、原地形をよく表している作成年代の古い大縮尺の地形図などを資料として、理学部 7 号館地点が立地する本郷台地の地質層序ならびに地形環境について検討を行った。

## 2. 地形環境

図 5 は、明治 16 年発行の 1 : 5,000 の地形図から作成した東京大学および周辺地域の等高線を示した図である。その等高線によれば、本郷台地は、大きく上位面、下位面の 2 面に区別される。上位面は、22~20 m 前後の標高をもち、本郷台地の大部分を占めている。また、安田講

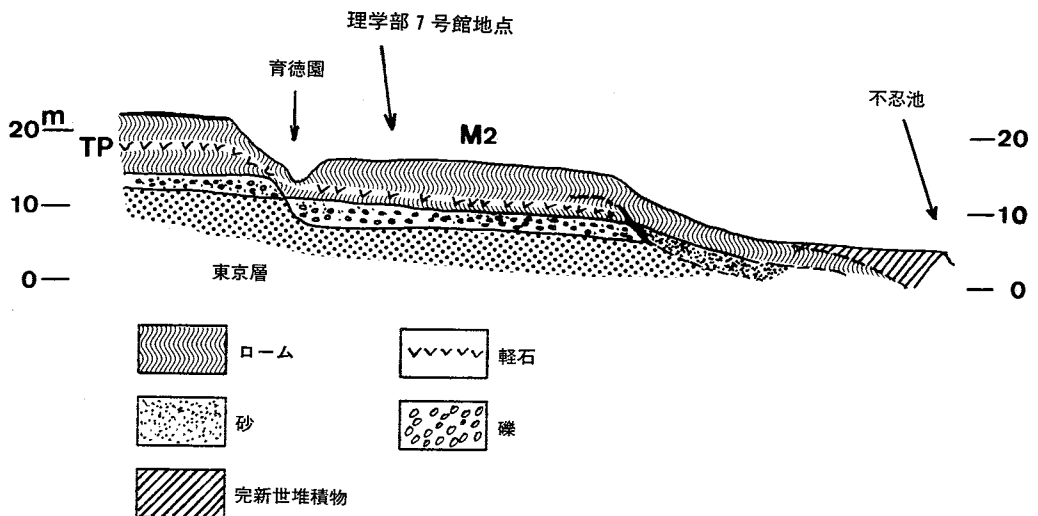


図 6 断面模式図

Figure 6 Profile of the eastern part of the Hongo Upland

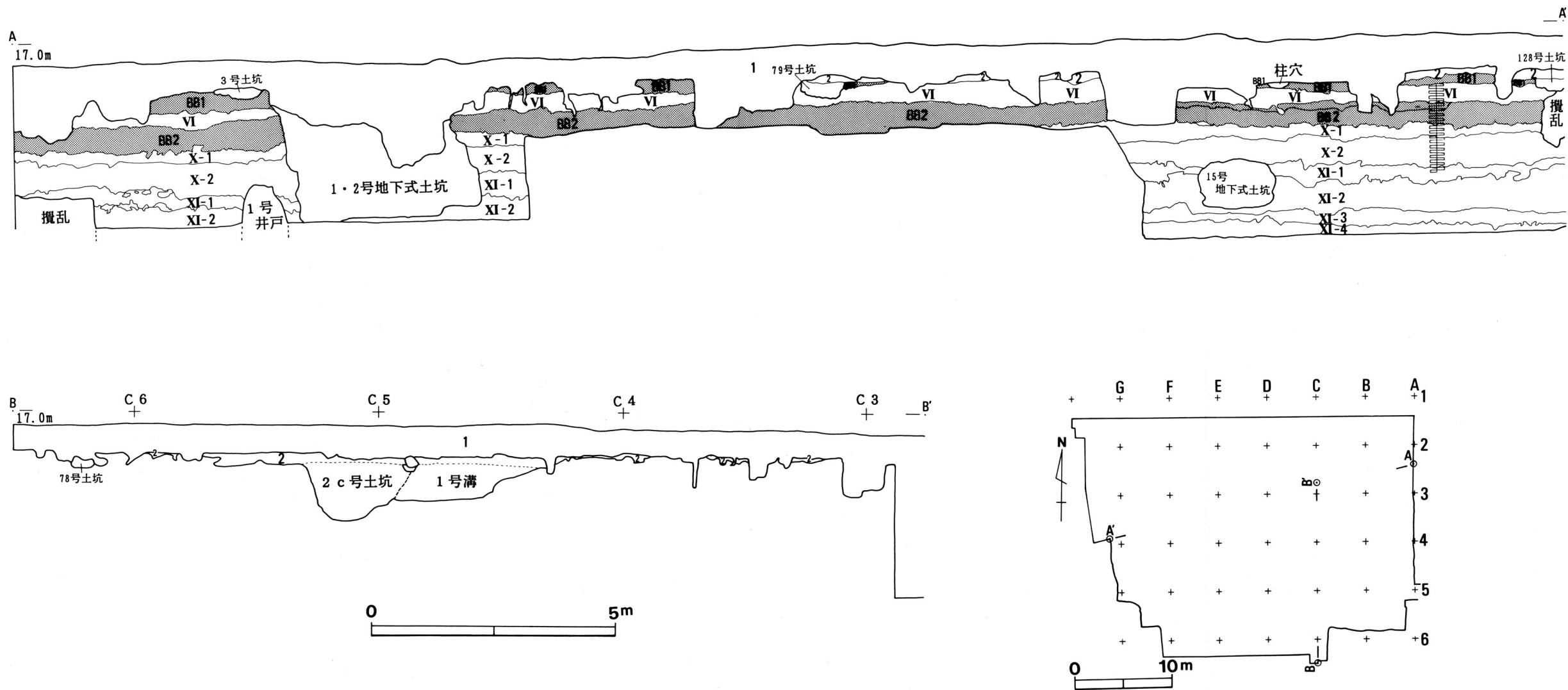
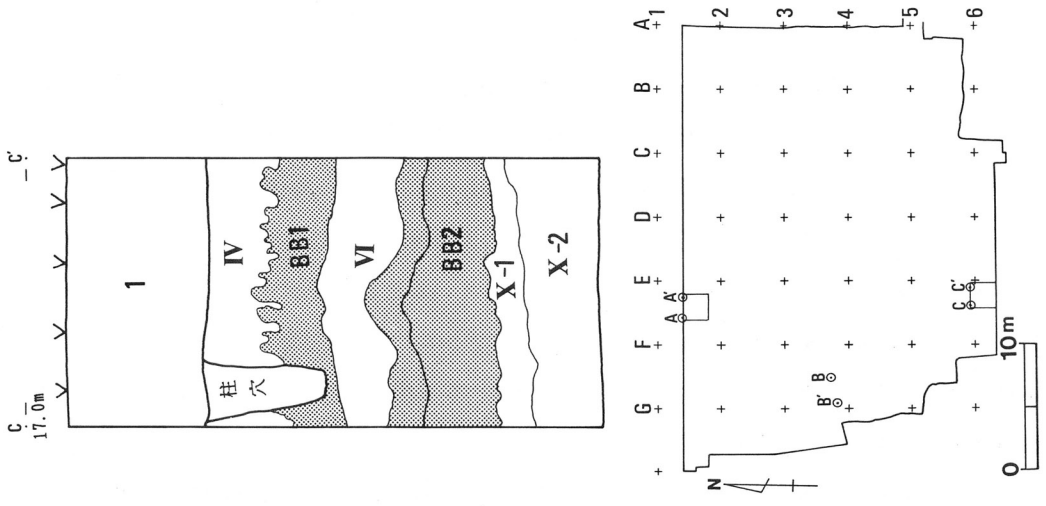


图7 遺跡層序

Figure 7 Geological sections in the excavation area



**図 8** ローム試掘坑およびサンプル採取地点セクション図  
 (A-A, C-C: ローム試掘坑セクション図, B-B: メイン・セクション [図7] のサンプル採取地点の拡大図)  
 Figure 8 Geological sections in the excavation area

堂を際にして一段低い標高 17~15 m 前後の下位面が上位面の東端にへばりつくように分布し、当地点が下位面に立地していることが読み取れる。

次に、東京大学構内の各地点から得られた柱状図や建築用の既存のボーリング柱状図資料を用いて、図 6 に示すように本郷台地を東西方向に切る模式断面図を作成した。

当地点が立地する下位面は、TP が降灰した時期よりも若干古い時代が離水期となることから、M<sub>2</sub>面に対比される。しかし、上位面は、実際の露頭観察で確認できなかったが既存のボーリング柱状図から下位面より厚くローム層が堆積していることは確かであり、M<sub>2</sub>面より古い時代に形成された地形面の存在が認められる。このことから、北方に位置する M<sub>2</sub>面の赤羽台地が本郷台地の下位面に連続すると考えると、上位面は、若干標高は低いが、成増台にみられる M<sub>1</sub>面（武蔵野 1 面）に対比される可能性がある。

また、下位面の東端には、不忍池の方向の沖積低地に開く、幅広く浅い谷地形が図 5 の等高線から読み取れる。この谷は、現在の東京大学病院に位置し、武蔵野ローム層中に見られる TP を欠いているため、おそらく沖積低地に埋没する立川段丘面に連続する、台地の化石谷と推測される。

### 3. 基本層序

調査地点内で掘られた深堀りのセクションに基づいて、上位から 1 層、2 層、Ⅳ層以下Ⅺ-4 層まで計 11 層の土層に区分される（図 7, 8）。当地点の表層は地形の平坦化を目的として、何度も繰り返された人為的削平、埋土による人工地盤によりなっている。表層の 1, 2 層中には、江戸～明治時代の遺物が大量に含まれていることから、当地点における自然堆積層は、BB 1（立川埋没土層 1）もしくは、Ⅳ層すなわちハードローム層から始まる。以下、各土層について説明する。

- ①Ⅳ層：赤色スコリアを含む黄褐色ローム層であり、よくしまっている。ハードローム相当層。
- ②BB 1：7.5 YR 4/6, 赤・黒色スコリアを含む、暗褐色ローム層。
- ③Ⅵ層：10 YR 4/6, 赤・黒色スコリアが密集する、BB 1 よりやや明るい褐色ローム層。層中には微細な明黄色の火山灰を含むのが特徴。
- ④BB 2：7.5 YR 4/6~7.5 YR 4/4, 赤・黒色スコリアを含む褐色～暗褐色ローム層。下部に波状境界が見られる。
- ⑤X-1 層：10 YR 4/6, 赤色スコリアが点在する明黄褐色ローム層。
- ⑥X-2 層：10 YR 4/6, X-1 層よりもやや暗い、軟質で細粒な赤色スコリアを多量に含む褐色ローム層。下部に明瞭な波状境界がみられる。

- ⑦ XI-1 層：10 YR 5/6, 最も粗雑な赤色スコリア（平均粒径 4 mm, 最大粒径 8 mm）を多量に含む黄褐色ローム層。下部に顕著な波状境界がみられる。
- ⑧ XI-2 層：10 YR 5/6, クラック帯が発達し、風化が著しく進んだ軟質な黄褐色ローム層。
- ⑨ XI-3 層：10 YR 4/6, 下部に埋没土壌が発達した黄褐色ローム層。
- ⑩ XI-4 層：10 YR 5/6, 固結した黄褐色ローム層。

さらに、1・4号井戸の露頭断面の調査により、武蔵野ローム層中に6~11 cmの層厚をもつTPが標高約12 mのところ狭在し、その下に水付きの粘土質ローム層、さらにその下に層厚約1.5 mのMG(武蔵野礫層)とこれに不整合に東京層とが堆積しているのが観察された。以上のことから、当地点ではM<sub>2</sub>面に対応する一連の地層が確認された。

#### 4. ローム層の鉱物分析

鉱物分析の対象となった分析層準は、図8に示したように、BB1~XI-1層の上部までの5 cm間隔で連続採取した38試料で、以下の方法で鉱物分析を行った。

##### (a) 分析方法

- ①試料を乾燥し、乾燥重量を秤量する。
- ②乾燥試料について、水洗いしながら、1φ(0.5 mm), 2φ(0.25 mm), 3φ(0.125 mm), 4φ(0.063 mm)のフルイ分けを行い、それぞれの粒径ごとの残渣について超音波洗浄、乾燥後、秤量する。
- ③3φの残渣について、比重2.96のテトラブromエタンを用いて、軽・重鉱物とに重液分離する。
- ④磁石を用いて、重鉱物から磁性鉱物を分離する。
- ⑤非磁性重鉱物、軽鉱物、磁性鉱物それぞれを秤量する。
- ⑥非磁性重鉱物について封入剤としてレーキサイドセメントを用いて、粒片のプレパラートを作成する。
- ⑦偏光顕微鏡下で約300粒の非磁性鉱物を鑑定し、重鉱物組成を求めた。
- ⑧軽鉱物をスライドガラスにばらまき、約300粒数中に含まれる火山ガラスの粒数を計測し、遠藤・鈴木(1980)の分類基準に基づき、火山ガラスの形態分類を行った。分類基準は以下の通りである。

A型：気泡の壁の一部で、薄手の平板状の火山ガラス（写真18-2）。

A'型：気泡と気泡とが接合して、平板状のガラスにX, Y字状の稜を持つ火山ガラス（写真

18-3)。

B型：バブルウォール型ではあるが、ガラスの壁が異常に厚く屋根瓦状・カマボコ状の形態を示す火山ガラス（写真18-6）。

C型：A、A'型に比して小さな曲率をもち、火山ガラスの板状の表面に小さな気泡を持つ火山ガラス（写真18-5）。

D型：C型とほぼ同じ曲率をもつ気泡が引き伸ばされ、管状になっており、平行する稜を数本もつ火山ガラス（写真18-4）。

E型：気泡は細長く繊維束状を呈する火山ガラス。

F型：最も曲率径が小さく、不定形の多数の気泡をもった軽石状の火山ガラス。

ここでは非磁性重鉱物を重鉱物として扱う。

## (b) 分析結果

分析結果は、表1、2に示す。それらのデータに基づき図9のグラフを作成した。

### ①粒度組成

ローム層中に含まれる砂粒分は主に、斑晶鉱物等の物質で構成されており、ほとんどが3~4φの粒径で占められているが、No.38の試料のように1φの割合が高くなるのは、ローム層中の粗粒なスコリアの含有量の多くなることによるものである。

### ②重・軽・磁性鉱物比

重鉱物はBB2の層準のNo.12で80%を越え、最大ピークを示す。また、磁性鉱物はBB1からVI層の境界のNo.3の13%を最大値として、全般的に10%程度の値を示す。

### ③重鉱物組成

全体的にカンラン石が大部分を占めていることから、試料となるローム層の主体が古富士火山起源の火山灰・スコリアなどのテフラによって構成されていることが読み取れる。次に斜方輝石は、磁性鉱物と同じように、BB1~VI層の境界におけるNo.3の試料で約35%の最大値を示し、下部に行くに従って減少し、X-2層のNo.25の試料で7.5%の最小値を示す。さらに下部に行くと再び増加し約20%前後の値を示す。また単斜輝石は、X-1層のNo.21の11.8%を最大として、ほとんどが10%未満になる。角閃石は、No.26の3.1%を最大値として、全体的に1.0%以下の割合で含まれている。

重鉱物組成の特徴は、カンラン石と斜方輝石の出現が、磁性鉱物同様、相補的な関係にあり明瞭な逆相関を示す。

### ④火山ガラスの含有率・形態分類

BB1とBB2の間に挟まれたVI層の層準にあるNo.5の火山ガラス含有率が63.8%で最大値

表 1 口一△層鈷物分析結果表(1)

Table 1 Mineral analysis of various stratigraphic levels of the Kanto Loam Formation

Sample No.	Dry Weight (g)	Grain size distribution( g )				Composition of Heavy, Light and Magnetic Minerals( g )			Heavy Mineral Composition (grain count)					Content of volcanic glass shards (grain count)		Shape classification for volcanic glass shards(grain count)						
		1 φ	2 φ	3 φ	4 φ	HM	LM	Mg	Opx	Cpx	OI	Ho	Ot	Gl	Ot	A	A'	B	C	D	E	F
1	55.05	0.31	0.61	2.28	2.25	0.93	1.13	0.19	83	8	101	2	29	78	222	5	64	1	3	4	-	1
2	53.29	0.18	0.69	2.25	2.35	0.96	1.03	0.24	75	7	102	2	28	173	143	39	106	1	3	20	-	7
3	53.74	0.32	0.56	1.92	2.45	0.86	0.81	0.25	86	5	135	2	15	148	170	15	111	-	8	12	1	1
4	55.11	0.22	0.52	1.85	2.98	0.84	0.87	0.13	73	9	122	5	5	178	149	17	131	-	13	17	-	-
5	52.38	0.14	0.50	1.39	2.11	0.82	0.49	0.05	65	4	141	1	20	196	111	24	148	-	6	15	1	2
6	53.78	0.21	0.74	1.49	2.07	0.85	0.54	0.09	69	5	141	-	13	168	154	7	145	-	4	12	-	-
7	56.47	0.15	0.60	1.28	1.96	0.85	0.31	0.11	63	3	151	2	13	123	189	4	100	-	9	10	-	-
8	52.64	0.21	0.60	1.35	1.54	0.87	0.36	0.08	53	5	131	1	31	58	266	1	43	-	3	11	-	-
9	54.86	0.11	0.65	1.13	1.39	0.89	0.16	0.06	51	6	141	5	13	20	281	18	50	-	2	-	-	-
10	59.65	0.21	0.61	1.21	1.69	0.92	0.18	0.08	63	12	160	5	9	64	280	7	50	1	1	5	-	-
11	54.49	0.28	0.57	1.10	1.60	0.87	0.15	0.07	58	7	153	1	19	16	290	12	12	2	2	2	-	-
12	52.90	0.17	0.66	1.09	1.47	0.85	0.12	0.08	57	-	159	-	9	21	290	1	18	1	1	1	-	-
13	51.83	0.27	0.82	1.02	1.71	0.78	0.16	0.06	76	2	135	-	15	4	304	2	2	1	-	1	-	-
14	53.15	0.21	0.59	1.20	1.38	0.87	0.25	0.08	49	5	150	-	10	4	318	-	-	1	-	-	-	3
15	51.60	0.19	0.55	1.00	1.38	0.77	0.18	0.05	62	7	136	1	9	2	312	-	1	-	-	-	-	1
16	51.16	0.45	0.55	1.01	1.58	0.77	0.20	0.06	66	7	133	6	10	3	316	-	1	-	1	-	-	1
17	56.14	0.38	0.62	1.08	1.39	0.72	0.27	0.07	69	6	131	2	3	2	322	-	1	-	1	-	-	-
18	54.45	0.13	0.74	1.13	1.69	0.80	0.26	0.05	49	6	146	7	14	2	300	-	1	-	2	-	-	-
19	52.23	0.33	0.60	0.98	1.72	0.71	0.23	0.06	64	2	150	1	21	3	300	-	1	-	2	-	-	-
20	55.91	0.26	0.67	1.39	1.12	0.70	0.34	0.05	57	8	139	-	13	3	300	-	-	1	1	-	-	-
21	53.68	0.22	0.62	1.02	1.39	0.69	0.26	0.05	41	29	161	2	13	-	306	-	-	-	-	-	-	-
22	56.31	0.32	0.85	1.18	1.87	0.81	0.31	0.04	38	5	149	2	17	2	306	-	-	-	1	-	-	1
23	58.97	0.41	0.86	1.28	1.96	0.84	0.37	0.04	54	7	146	5	2	4	301	-	-	-	4	-	-	-
24	50.86	0.25	0.62	0.92	1.14	0.65	0.25	0.04	30	8	174	5	2	3	298	-	-	1	-	-	1	1
25	54.34	0.31	0.77	1.21	1.73	0.75	0.38	0.06	21	21	230	6	2	7	306	-	1	1	6	-	-	1
26	51.90	0.28	0.67	1.00	1.38	0.66	0.31	0.05	35	6	174	7	6	8	293	-	1	1	5	-	-	1
27	58.05	0.38	0.62	1.08	1.48	0.63	0.38	0.04	23	8	198	5	3	6	295	-	-	1	3	1	1	1
28	55.29	0.34	0.64	1.10	1.09	0.64	0.41	0.02	42	8	158	11	3	19	287	-	2	3	11	1	2	-
29	57.31	0.32	0.66	1.20	1.32	0.63	0.50	0.04	31	5	197	6	10	4	297	-	-	-	2	2	-	2
30	55.05	0.42	0.60	1.21	1.14	0.62	0.51	0.05	52	4	175	1	2	13	291	-	-	2	7	1	-	3
31	59.83	0.33	0.77	1.61	1.63	0.72	0.78	0.08	30	3	176	2	-	13	308	-	-	5	3	1	3	1
32	59.70	0.40	0.85	1.56	1.92	0.77	0.72	0.05	41	6	192	3	6	5	319	-	-	1	1	1	1	2
33	60.05	0.92	0.74	1.74	2.37	0.64	0.99	0.06	40	5	190	3	3	3	298	-	-	3	3	-	-	-
34	56.40	0.31	0.71	1.46	2.05	0.66	0.70	0.06	50	3	166	5	9	9	294	-	1	3	5	-	-	-
35	57.89	0.46	0.80	1.77	1.84	0.69	1.00	0.06	43	5	178	4	14	4	300	-	2	2	-	-	-	-
36	57.37	0.28	0.77	1.44	1.90	0.64	0.71	0.07	51	8	150	2	8	16	312	-	2	4	10	-	2	-
37	55.63	0.44	0.70	1.54	1.85	0.57	0.85	0.07	70	8	174	11	13	5	302	-	-	4	4	-	-	-
38	42.79	1.27	0.32	1.02	2.79	0.22	0.75	0.03	68	1	210	1	11	3	315	-	1	1	1	-	-	-

HM = Heavy Minerals LM = Light Minerals Mg = Magnetic Minerals Opx = Orthopyroxene Cpx = Clinopyroxene Ol = Olivine Ho = Hornblende Ot = Others  
 Gl = Volcanic glass shards

表 2 口一ム層鈳物分析結果表 (2)

Table 2 Mineral analysis of various stratigraphic levels of the Kanto Loam Formation

Sample No.	Grain size distribution % (weight)				Content of sand % (weight)	Composition of Heavy, Light and Magnetic Mineral (weight)			Heavy Mineral Composition % (grain count)					Content of volcanic glass shards % (grain count)	Shape classification for volcanic glass shards % (grain count)											
	1 φ	2 φ	3 φ	4 φ		HM	LM	Mg	Opx	Cpx	Oi	Ho	Ot		A	A'	B	C	D	E	F					
1	5.7	11.2	41.8	41.3	9.9	43.0	50.2	8.4	37.2	3.6	45.3	0.9	13.0	26.0	1.7	21.3	0.3	1.0	1.3	-	-	-	-	-	-	
2	3.3	12.6	41.1	43.0	10.3	41.3	46.2	10.8	35.2	3.3	47.9	0.5	13.1	54.7	12.3	33.5	-	0.3	6.3	-	-	-	-	-	-	-
3	6.1	10.7	36.6	46.7	9.8	44.8	42.2	13.0	35.4	2.1	55.6	0.8	6.2	46.5	4.7	34.9	-	2.5	3.8	0.3	0.3	-	-	-	-	-
4	3.9	9.3	33.2	53.5	10.1	45.7	47.3	7.1	34.1	4.2	57.0	2.3	2.3	54.4	5.2	40.1	-	4.0	5.2	-	-	-	-	-	-	-
5	3.4	12.1	33.6	51.0	7.9	60.3	36.0	3.7	28.8	1.8	60.2	0.4	8.8	63.8	7.8	48.2	-	2.0	4.9	0.3	0.7	-	-	-	-	-
6	4.7	16.4	33.0	45.9	8.4	57.4	36.5	6.1	30.3	2.2	61.8	-	5.7	52.2	2.2	45.0	-	1.2	3.7	-	-	-	-	-	-	-
7	3.8	15.0	32.1	49.1	7.1	66.9	24.4	8.7	27.2	1.3	65.1	0.9	5.6	39.4	1.3	32.1	-	2.9	3.2	-	-	-	-	-	-	-
8	5.7	16.2	36.5	41.6	7.0	66.4	27.5	6.1	24.0	2.3	59.3	0.5	14.0	17.9	0.3	13.3	-	0.9	3.4	-	-	-	-	-	-	-
9	3.4	19.8	34.5	42.4	6.0	80.2	14.4	5.4	23.6	2.8	65.3	2.3	6.0	6.6	-	6.0	-	-	0.7	-	-	-	-	-	-	-
10	5.6	16.4	32.5	45.4	6.2	78.0	15.3	6.8	25.3	4.8	64.3	2.0	3.6	18.6	2.0	14.5	0.3	0.3	1.5	-	-	-	-	-	-	-
11	7.9	16.1	31.0	45.1	6.5	79.8	13.8	6.4	24.4	2.9	64.3	0.4	8.0	5.2	-	3.9	-	0.7	0.7	-	-	-	-	-	-	-
12	6.4	19.5	32.2	43.4	6.4	81.0	11.4	7.6	25.3	-	70.7	-	4.0	6.8	0.3	5.8	0.3	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-
13	7.4	21.5	26.7	44.8	7.4	78.0	16.0	6.0	33.3	0.9	59.2	-	6.6	1.3	-	0.6	0.3	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-
14	6.4	17.5	35.5	40.8	6.4	72.5	20.8	6.7	22.9	2.3	70.1	-	4.7	1.2	-	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-
15	5.7	16.6	30.1	47.6	6.4	77.0	18.0	5.0	28.8	3.3	63.3	0.5	4.2	0.6	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
16	12.5	15.3	28.1	44.0	7.0	74.8	19.4	5.8	29.7	3.2	59.9	2.7	4.5	0.9	-	0.3	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-
17	11.0	17.9	31.1	40.1	6.2	67.9	25.5	6.6	32.7	2.8	62.1	0.9	1.4	0.6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
18	8.5	19.0	29.0	43.4	6.6	72.1	23.4	4.5	22.1	2.7	65.8	3.2	6.3	1.0	-	0.3	-	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-	-
19	6.6	17.5	28.6	50.1	6.6	71.0	23.0	6.0	26.9	0.8	63.0	0.4	8.8	0.6	-	0.3	-	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-
20	7.6	19.5	40.4	32.6	6.2	64.2	31.2	4.6	26.3	3.7	64.1	-	6.0	1.0	-	-	-	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-	-
21	6.8	19.1	31.4	42.8	6.1	69.0	26.0	5.0	16.7	11.8	65.4	0.8	5.3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
22	7.5	20.1	28.0	44.3	7.5	69.8	26.7	3.4	18.0	2.4	70.6	0.9	8.1	0.6	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-
23	9.1	19.1	28.4	43.5	7.6	67.2	29.6	3.2	25.2	3.3	68.2	-	3.3	1.3	-	-	-	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-
24	8.5	21.2	31.4	38.9	8.5	69.1	26.6	4.3	13.7	3.7	79.5	2.3	0.9	1.0	-	-	-	0.3	-	-	-	-	-	-	-	-
25	7.7	19.2	30.1	43.0	7.4	63.0	31.9	5.0	7.5	7.5	82.1	2.1	0.7	2.2	-	0.3	-	1.9	-	-	-	-	-	-	-	-
26	8.4	20.1	30.0	41.4	6.4	64.7	30.4	4.9	15.4	2.6	76.3	3.1	2.6	2.7	-	-	-	1.7	-	-	-	-	-	-	-	-
27	10.7	17.4	30.3	41.6	6.1	60.0	36.2	3.8	9.7	3.4	83.5	2.1	1.3	2.0	-	-	-	1.0	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-
28	10.7	20.2	34.7	34.4	5.7	59.8	38.3	1.9	18.9	3.6	71.2	5.0	1.4	6.2	-	0.7	-	1.0	3.6	0.3	0.7	-	-	-	-	-
29	9.1	18.9	34.3	37.7	6.1	53.8	42.7	3.4	12.4	2.0	79.1	2.4	4.0	1.3	-	-	-	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-
30	12.5	17.8	35.9	33.8	6.1	52.5	43.2	4.2	22.2	1.7	74.8	0.4	0.9	4.3	-	-	-	2.3	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-
31	7.6	17.7	37.1	37.6	7.3	45.6	49.4	5.1	14.2	1.4	83.4	0.9	-	4.0	-	-	-	1.6	0.9	0.3	0.9	0.3	-	-	-	-
32	8.5	18.0	33.0	40.6	7.9	50.0	46.8	3.2	16.5	2.4	77.4	1.2	2.4	1.5	-	-	-	1.0	-	-	-	-	-	-	-	-
33	15.9	12.8	30.2	41.1	9.6	37.2	57.6	5.2	21.5	1.3	71.2	2.1	3.9	1.0	-	-	-	1.0	1.7	-	-	-	-	-	-	-
34	6.8	15.7	32.2	45.3	8.0	46.5	49.3	3.4	17.6	2.0	73.0	1.6	5.7	3.0	-	-	-	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-
35	9.4	16.4	36.3	37.8	8.4	39.4	57.1	3.4	23.3	3.7	68.5	0.9	3.7	1.3	-	-	-	0.7	-	-	-	-	-	-	-	-
36	6.4	17.5	32.8	43.3	7.7	45.1	50.0	4.9	17.6	2.0	73.0	1.6	5.7	4.9	-	-	-	1.2	3.0	-	-	-	-	-	-	-
37	9.7	15.5	34.0	40.8	8.1	38.3	57.0	4.7	25.4	2.9	63.0	4.0	4.7	1.6	-	-	-	0.3	1.3	-	-	-	-	-	-	-
38	23.5	5.9	18.9	51.7	12.6	22.0	75.0	3.0	23.4	0.3	72.2	0.3	3.8	0.9	-	0.3	0.3	0.3	0.3	-	-	-	-	-	-	-

HM = Heavy Minerals LM = Light Minerals Mg = Magnetic Minerals Opx = Orthopyroxene Cpx = Clinopyroxene Ol = Olivine Ho = Hornblende Ot = Others



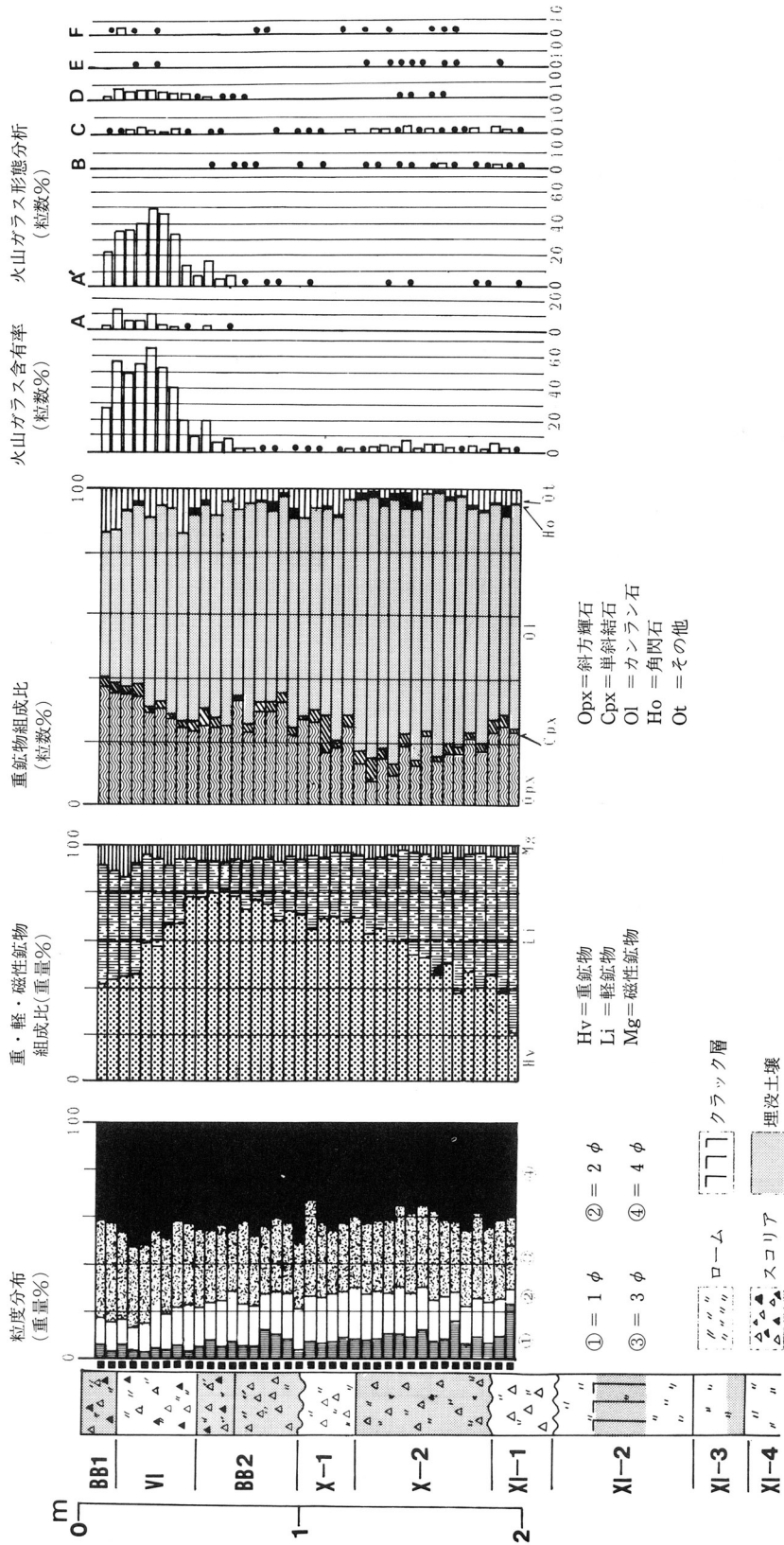


図9 テフラの重鉱物組成および、火山ガラスの含有率・形態分類

Figure 9 Results of mineral analysis and shape analysis of volcanic glass shards

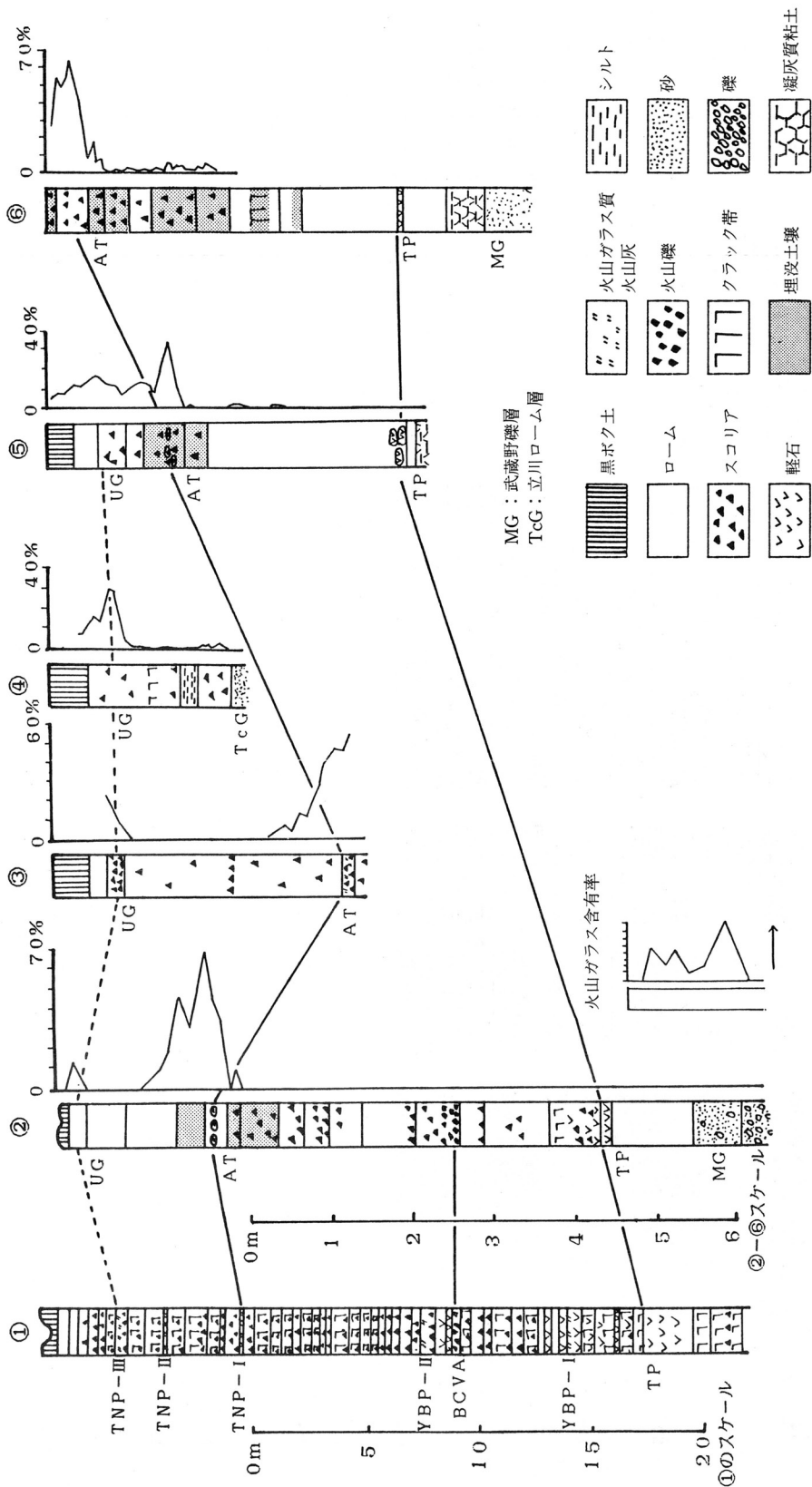


図 10 テフラ対比図

①古期富士テフラ累層連続柱状図(上杉ほか, 1980), ②東京都小金井市はけうえ遺跡(遠藤ほか, 1983), ③東京都町田市(鈴木ほか, 1987), ④東京都立川市(鈴木ほか, 1987), ⑤埼玉県川口市吹原遺跡, ⑥東京大学理学部7号館地点

Figure 10 Contents of volcanic glasses in the columnar sections

を示し、それらの火山ガラスの主体が、板状の薄手バブルウォール型の A, A'型の火山ガラスで構成されている。また、その下位の層準では、極少量ではあるが、厚板状の B 型、軽石状の C, E, F 型の火山ガラスが含まれている。

#### ⑤分析結果の考察

得られた分析結果から、VI層に大量に含まれる火山ガラスが主に A, A'型の形態を示すこと、それらのガラスの屈折率がレンジ 1.499~1.501, モード 1.500 (温度変化型屈折計) の値を示すことなどから、VI層の火山ガラス濃集層準が AT 火山灰に対比される。また、BB 1~VI層最上部にかけての斜方輝石・磁性鉱物のピークや BB 2 より下位の層準におけるカンラン石の増加傾向は、同層準の富士山東麓の分析結果(上杉ほか 1980)、武蔵野台地のはげうえ遺跡の分析結果(遠藤ほか 1983)などに酷似する。当遺跡より北方に位置する大宮台地南端の吠原遺跡の分析結果(鈴木 1986)では浅間火山の影響があるため全体的に斜方輝石の含有量が多くなっているが、重鉱物の出現傾向はよく似ている。

また、江戸~明治時代の人為的な削平によって、自然堆積層の最上部が欠いているため、一般に AT 火山灰の上位にあって立川ローム最上部に濃集する B・C 型の厚板状・軽石状の火山ガラスで特徴づけられる UG 火山灰は今回の分析層準では認められなかった。

## 5. まとめ

本郷台地は、標高が 22~20 m の上位面と 17~15 m の下位面に地形が大きく 2 分される。下位面に立地する理学部 7 号館地点は、武蔵野礫層 (MG) を基底に、TP より若干古い時代に離水期が認められることから、赤羽台地から連続する M<sub>2</sub>面に対比される。また、上位面は、露頭では確認できなかったが、既存のボーリング柱状図資料から関東ローム層の厚さを読み取ると、はるかに下位面より厚く堆積しており、成増台地に比して、標高がやや低いが、M<sub>1</sub>面に対比される可能性がある。

当地点における武蔵野礫層を覆う立川・武蔵野ローム層で確認された鍵テフラは、上位から、BB 1 と BB 2 の間にある AT 火山灰、武蔵野ローム層に特徴的に見られる黄色軽石層の TP などが確認された(図 10)。また、BB 1~XI-1 層の鉱物分析の結果から、重鉱物のほとんどがカンラン石で占められていることがわかる。分析層準の赤色風化火山灰であるローム層は古富士火山に由来することなどの点が明らかになった。

#### 文献

上杉陽・米澤宏・開原志寿恵・中村仁子・重藤伸子・岩井郁及, 1980: 富士山東縁地域の古期富士テフラ累層。自然と文化, 平塚市博物館研究報告 3, pp.33-46。

- 遠藤邦彦・鈴木正章, 1980: 立川・武蔵野ローム層の層序と火山ガラス濃集層。考古学と自然科学, 13: 19—30。
- 遠藤邦彦・三浦和浩・小池裕子, 1983: はけうえ遺跡における立川・武蔵野ローム層の粒度組成と堆積環境。  
はけうえ遺跡・研究編 (I), 国際基督教大学考古学研究センター Occasional Papers 5, pp.88—102。
- 貝塚爽平, 1979: 東京の自然史 増補第二版。紀伊国屋書店, 239。
- 杉原重夫・高原勇夫・細野衛, 1972: 武蔵野台地における関東ローム層と地形面区分についての諸問題。第四紀研究, 11: 19—39。
- 鈴木正章, 1986: 自然。川口市史, 考古編, pp.3—28。
- 鈴木正章・山路進・二宮修治・大沢眞澄・遠藤邦彦, 1987: 立川ローム層最上部 UG 火山灰の微量成分元素存在量とその給源火山。日本第四紀学会講演要旨集, 17: 112—113。
- 町田洋・新井房夫, 1976: 広域に分布する火山灰——始良 Tn 火山灰の発見とその意義——。科学, 46: 329—347。
- 町田瑞男, 1973: 武蔵野台地北部およびその周辺地域における火山灰の層位学的研究。地質学雑誌, 79: 169—180。
- 山崎晴雄, 1978: 立川断層とその第四紀後期運動。第四紀研究, 16: 231—246。

## 第4章 縄文・弥生・古墳時代の遺構と遺物

山口 剛志

### 1. 遺構 (図11・12, 写真4)

**J1号土坑** A・B区北側のB2・B3グリッドに位置する。平面形は、北側に攪乱を受け、南側を2号井戸に切られるため不明である。南北100cm(現存長)×東西50cm, 深さ26cm, 底面標高15.7mを測り, 主軸方向はN-7°-Eを示す。壁は急傾斜で立ち上がり, 底は平坦である。底には径10cm, 深さ32cmの円形ピットが1本存在する。本土抗は柱穴調査中に確認されたため, 覆土は一部しか観察し得なかったが, 赤色スコリアを含む粘性, しまりの強い褐色土層である。遺物の出土はない。

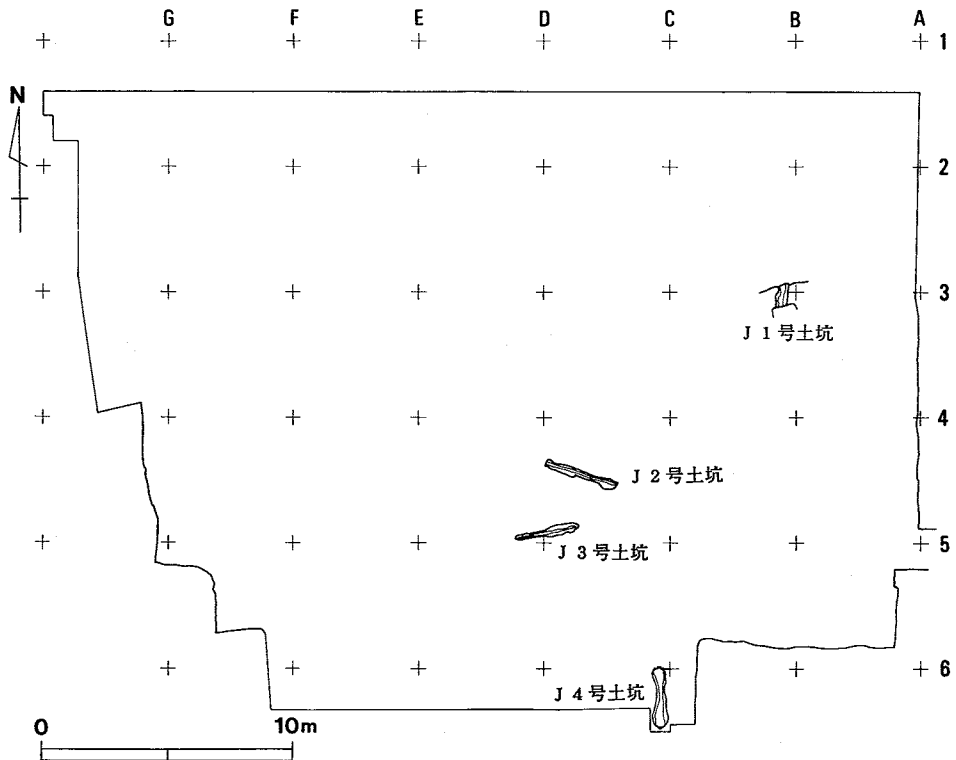
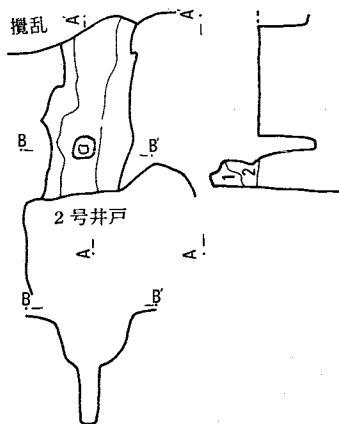


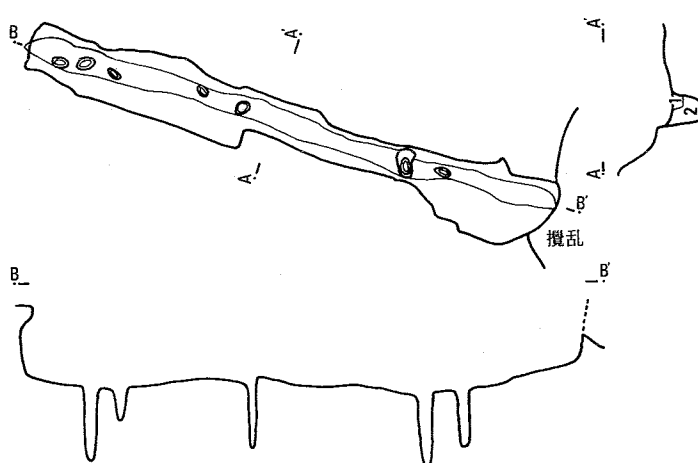
図11 縄文時代遺構分布図

Figure 11 Distribution of Jomon Period features



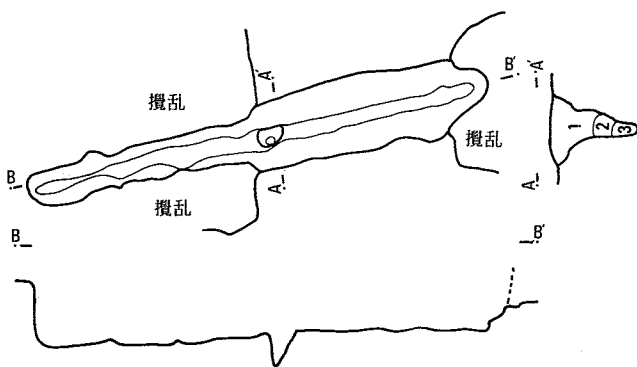
- 1 褐色土(7.5YR4/4)  
ローム粒、赤色スコリアを含む。
- 2 褐色土(7.5YR4/4)  
赤色スコリアを含む。

**J1号土坑**



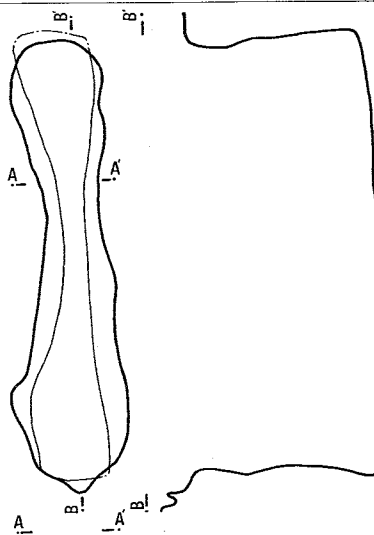
- 1 褐色土(7.5YR4/4)ロームブロックを多量に含む。
- 2 褐色土(7.5YR4/3)ローム粒を含む。

**J2号土坑**



- 1 褐色土(7.5YR4/4)ローム粒を含む。
- 2 褐色土(7.5YR4/3)ローム粒を含む。
- 3 褐色土(7.5YR4/6)ローム粒を多量に含む。

**J3号土坑**



- 1 暗褐色土(10YR3/4)  
赤色スコリア、炭化粒を含む。
- 2 褐色土(10YR4/4)  
ローム粒を多量に含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)  
ローム粒を多量に、  
赤色スコリア、炭化物を含む。
- 4 黒褐色土(10YR2/3)

**J4号土坑**



図12 J1~J4号土坑

Figure 12 Jomon Period features (Pits No. J1-J4)

**J2号土坑** C・D区中央のC4グリッドに位置する。東端に攪乱を受け、上部を所謂倒木痕と思われる落ち込みに切られる。平面形は上場・下場共に隅丸長方形を呈し、東西294cm×南北47cm、深さ50cm、底面標高15.5mを測る。主軸方向はN-72°-Wを示す。壁は、オーバーハングする西壁を除いて垂直に立ち上がり、底は中央部から両端部へ傾斜する。底には径10cm前後、深さ18~41cmの楕円形ピットが7本存在し、両端部と中央部の3ヶ所に集中する。覆土は、ローム粒、ロームブロックを含む粘性、しまりの強い褐色土層である。遺物の出土はない。

**J3号土坑** C・D区中央のC4・D4グリッドに位置し、東端と西側の上部に攪乱を受ける。平面形は上場・下場共に隅丸長方形を呈し、東西250cm×南北46cm、深さ46cm、底面標高15.6mを測る。主軸方向はN-78°-Eを示す。東・西壁は垂直に立ち上がり、南・北壁は垂直に立ち上がって上半部で外へ開く。底は西側へ傾斜し、中央部に径15cm、深さ20cmの楕円形ピットが1本存在する。覆土は、ローム粒を含む粘性、しまりの強い褐色土層である。遺物の出土はない。

**J4号土坑** C・D区南端のC5・C6グリッドに位置する。平面形は上場・下場共に短軸の中央部が狭くなる隅丸長方形を呈し、南北240cm×東西62cm、深さ117cm、底面標高14.9mを測る。主軸方向は南北方向を示す。南・北壁はオーバーハングし、東・西壁は垂直に立ち上がる。底は南側に傾斜し、坑底施設は存在しない。覆土は暗褐色土層を主体として、3層にローム粒、ロームブロックを含む。遺物の出土はない。

## 2. 遺物 (図13)

遺物は、江戸時代包含層出土の1点を除いて全て江戸時代の遺構覆土中から出土した。総数23点(内2点は接合)の内訳は、縄文土器5点、弥生時代後期~古墳時代前期初頭の土器17点、須恵器1点であり、全て細片である。以下、図示し得た8点について説明する。

1~4は縄文土器である。1は、半截竹管による平行沈線文が集散的に施された深鉢形土器の胴部破片で、平行沈線文は曲線的に描かれる。胎土は、多量の砂粒と少量の黒雲母片を含む。2は、内外面共に比較的丁寧に整形された口縁部破片で、胎土に少量の砂粒と黒雲母片を含む。3は、内面に黒色付着物が認められる胴部破片で、胎土に少量の砂粒と黒雲母片を含む。4は底部破片で、胎土に少量の砂粒と黒雲母片を含む。以上は、1が前期諸磯式に比定され、2~4は無文のためはっきりしないものの、中期の可能性が高い。

5~8は、弥生・古墳時代の土器である。5は、鉢形になるとと思われる口縁部破片で、外面を比較的丁寧に磨いている。6は、壺形土器の肩部破片である。横走る網目状捺糸文が施され、

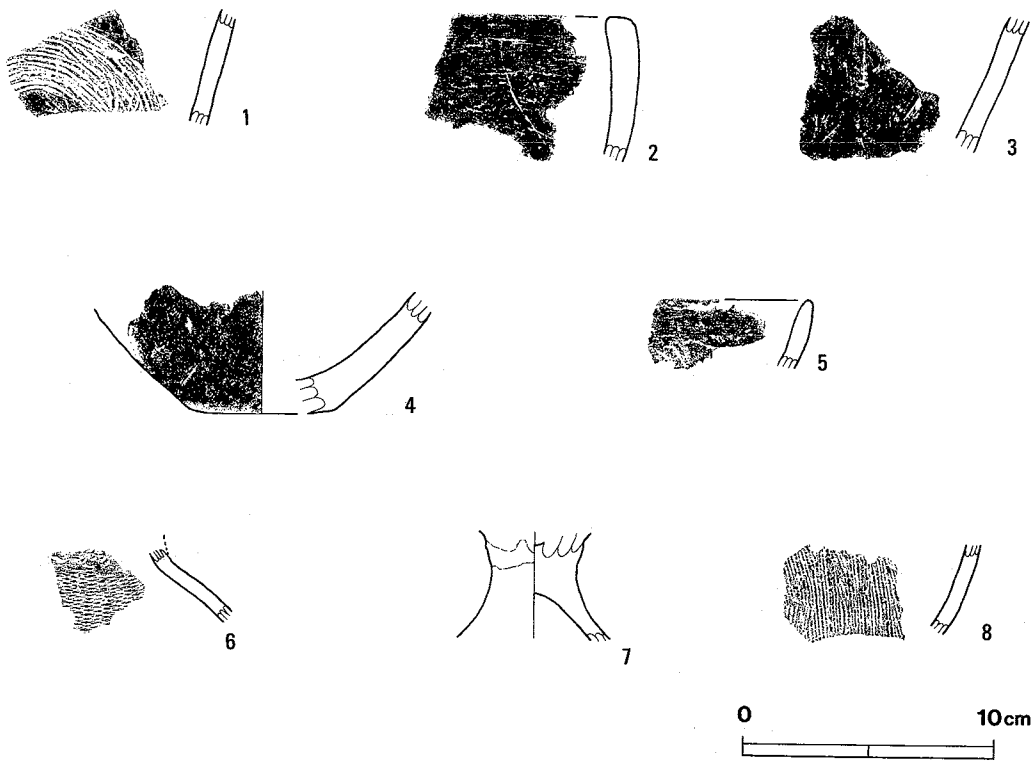


図 13 縄文・弥生・古墳時代の遺物

Figure 13 Artifacts of the Jomon, Yayoi and Kofun Periods

その上位がS字状結節文によって区画される。外面は朱彩される。7は、高坏形の土器の台部破片で、くびれ部に粘土紐を巡らせているが、剥落してはっきりしない。8は、甕形土器の胴部破片で、外面に刷毛目による整形がなされる。以上の5~8は、弥生時代後期~古墳時代前期初頭に位置づけられる。

### 3. まとめ

本地点において確認された4基の土坑は、江戸時代の遺構と同一の確認面より検出されている。4基の土坑の覆土は、粘性、しまりの強い粒子の細かな褐色土、暗褐色土であり、明らかに粘性、しまりの弱い江戸時代の遺構とは異なる。さらに、J1, J4号土坑は、江戸時代の遺構に切られていることから、江戸時代より遡ることは明らかである。しかし、遺構覆土中より遺物が全く出土していないために、詳細な時期比定は困難である。形態的特徴から検討するならば、J2~4号土坑は、平面形が若干異なるものの短軸が非常に狭く、長軸が240 cm以上を測る溝状を呈し、壁が垂直に近い立ち上がり有するものである。形態不明のJ1号土坑も、短軸が同規模であることから、ほぼ同様の形態であると思われる。また、底にピットが認められるJ1~3号土坑は、深さが50 cm以下を測る浅いものであるが、本地点がIV層より上面を江戸時代以降



に削平されていることを考えれば、現存値よりさらに深い土坑であったことが推測される。以上の特徴から判断するならば、J1~4号土坑は、縄文時代の陥穴と考えられる土坑のうち、溝状を呈するものに類似する（今村 1983）。

この形態の陥穴は、関東地方に少なく、北海道・東北地方北部に多数検出されるものである。関東地方では、多摩丘陵~下末吉台地を中心として坑底施設を設けた楕円形を基調とする形態が主体である（今村 1983）。本地点から検出された4基の陥穴は、全体的なまとまりとしての分布のごく一部であると推測されるが、関東地方（多摩丘陵~下末吉台地）に少ない形態の陥穴で構成されていることは注目される。本地点の資料のみでは判断できないが、現時点では、立地条件による地域差（東京湾岸沿いの本郷台地と、内陸の多摩丘陵~下末吉台地との差）、両地域間の陥穴構築の時間差等が考えられよう。なお、J1~3号土坑の覆土が褐色土であるのに対して、J4号土坑は暗褐色土であり、明らかに覆土の違いが認められる。多摩丘陵の遺跡では、陥穴の覆土を基本土層に対応させて時期別に分類している（山口 1985）。本地点では縄文時代の土層が現存しないためこのような対比はできないが、J1~J3号土坑とJ4号土坑との覆土の差異は、本地点においても陥穴の構築時期に差があった可能性を示唆するものである。

いずれにせよ、東京湾岸沿いの本郷台地において狩猟活動の痕跡としての陥穴が確認されたことは注目すべき事実である。この地域においては、漁撈活動が盛んに行われていたことが貝塚の分布からも理解される（東京都教育委員会 1985）。これらの活動の関係を把握することは、縄文時代の生業を考える上で意義のあることであり、今後の課題として問題提起しておきたい。

このように、縄文時代のある時期には、本地点は、陥穴による狩猟活動の場であったことが明らかである。それ以後江戸時代以前の本地点については遺物以外に手がかりはない。しかも、これらの遺物のほとんどは、江戸時代の遺構覆土中からの出土であるので、遺物の原位置がまず問題になる。東京大学本郷構内では、本地点においてIV層より上面が削平され、隣接する医学部附属病院建設予定地点において4mにも達する盛土が確認されており（上野・小川 1987）、江戸時代に地形を平坦化したことが判明している。両地点の土砂の移動が相補的ではないにしても、江戸時代にかなり大規模な土砂の移動があったと見るべきであり、遺物もそれと同時に移動しているものと考えられる。従って、本地点における活動の痕跡として遺物を扱うことは、極めて難しい状況にある。ここでは、土砂の移動を考えて本地点を含めた周辺部の活動痕跡として出土遺物を把握しておきたい。

以上、理学部7号館地点の検討から派生した問題点をいくつか指摘した。本地点のように、後世の土砂の移動が著しい遺跡においては、基本土層等のより詳細な検討から該期遺物の原位置をまず考える必要がある。また、本地点の陥穴は、縄文時代早期後半の炉穴が検出された真砂遺跡（小林他 1987）等を含めて検討することによって、本地点周辺における縄文時代の生

業について一つの視点を与える資料になるであろう。

#### 文献

- 今村啓爾, 1983: 陥穴 (おとし穴)。縄文文化の研究, 2, pp.148-160。雄山閣。
- 上野佳也・小川 望, 1987: 東京大学 (本郷地区) 構内遺跡の調査——医学部付属病院建設予定地点——。東京都・遺跡調査研究発表会 X II 発表要旨, pp.17-18。東京都教育委員会他。
- 古泉 弘他, 1983: 葛西城——葛西城址発掘調査報告書——。葛飾区葛西城址調査会。
- 小林 克他, 1987: 真砂遺跡。真砂遺跡調査会。
- 東京都教育委員会, 1985: 東京の貝塚。都心部の遺跡——貝塚・古墳・江戸——, pp.5-118。
- 鶴丸俊明他, 1985: 館町遺跡 I。八王子市館町遺跡調査団。
- 山口剛志, 1985: 陥穴における群の存在とその意義。館町遺跡 I, pp.275-288。八王子市館町遺跡調査団。

## 第5章 江戸時代以降の遺構と遺物

### 第1節 遺構および人工遺物の記載

羽生 淳子・山口 剛志・秋元 智也子

#### 1. 遺構の概要

主な江戸時代の遺構としては、井戸5基、地下式土坑21基、溝1本、杭跡3基、遺物集中11ヶ所等が検出された。他に、報告No.を付した土坑が142基あり、さらに、報告No.を付さずに、まとめて図示した柱穴および小土坑が計354基存在する。本節では、これらの遺構をA・B区、C・D区、E・F・G区の三つに分け、各々について、記載を行う。

地下式土坑は、1基(9号地下式土坑)を除き、A・B区とE・F・G区に集中し、ほぼ南北に2列に並ぶ。5基の井戸は、周囲に掘り込みを伴う整円形のもの2基(3号井戸、4号井戸)と、不整形のもの3基(1号井戸、2号井戸、5号井戸)とに大別される。前者の2基は、各々、2列の地下式土坑列の東側に位置する。2号杭跡は、4号井戸の西側に位置し、ほぼ南北方向を主軸とする。E4・F4グリッドでは、これと直交する3号杭跡が認められる。1号杭跡は、確認できた部分はわずかであるが、3号井戸の西側に位置し、南端部でほぼ直角に曲がる。また、3号井戸の西側には、掘り込みを伴う礎石が1.8m間隔で、ほぼ南北方向に5個並んでいる。

以上のような遺構分布は、ほぼ南北方向を軸とし、きわめて規則的である。これに対し、1号溝や、9号地下式土坑、1号土坑、2号土坑など、南北方向を軸としない遺構も、数は少ないながら存在する。これらは、相対的に古い遺構と考えている。

各遺構の廃棄年代の推定は、基本的には、出土した肥前磁器の編年(大橋1984)に基づいているが、最終的な推定年代は、他の生産地の製品の編年および遺構の切り合い関係を考慮にいたった上で決定した。(羽生)

#### 2. A・B区の遺構および遺構内出土の人工遺物(図14~図121,表3~5)

A・B区として本項にまとめた区域は、A1~A5およびB1~B5グリッドである。ただし、一部でもこの区域にかかる遺構は、本項において記載を行う。北側地区は、化学館旧館北棟の

基礎工事によって現表下約2m～約4.3mまで攪乱を受けているため、1号井戸以外の遺構は検出できなかった。また、南側地区東端部も、化学館旧館に伴う排水施設等の攪乱が縦横に走っている。このような状況の中で、井戸3基、地下式土坑8基、土坑75基、遺物集中11ヶ所、杭跡1基、溝1本の他に、多数の柱穴および小土坑がほぼ全面にわたって検出されている(図14)。これらの遺構は、切りあって複雑な様相を呈しており、調査区域外にも展開している。主な遺構の分布を見ると、地下式土坑は、ある一定の間隔を保ちながら南北方向へ延びた分布を示している。土坑は、ほぼ全面に分布しており、特にA3・B3グリッド付近に集中する傾向が認められる。また、底面に杭跡が規則的に並ぶ、長方形のプランを有する土坑(本章第4節3参照)は、A3・B3グリッド付近とA5・B5グリッド付近の2ヶ所に集中する。

これより、主な遺構について、井戸、地下式土坑、報告Noを付した土坑、杭跡、報告Noを付していない柱穴および小土坑、溝、の順で、所見を記述する。文章で記載していない土坑および遺物集中については、表3、4にまとめてあるので参照して頂きたい。(山口)

**1号井戸(図15～23)** 1号井戸は、A2・B2グリッドに位置する。上部は、化学館旧館北棟の基礎工事によって破壊されており、厚さ約4mの攪乱層の下から検出された。確認面は標高約13.1mである。残存状態が良好であった化学館中庭部の遺構の確認面は、標高16m前後であるから、遺構の上部は、少なくとも約3mは削りとられていると推定される。井戸の径は約1.2m、やや不整な円形である。

調査は、標高約7.5mまで行き、井戸底付近から木杵を検出した(写真5)。木杵は二重になっており、内杵上部の標高は8.8m、外杵は、上部の高さが内杵よりも約10cm低く、内杵との間には、土が入りこんでいる。内杵(写真76)の長さは、約120cm、幅広のもの(約25cm)と幅狭のもの(約15cm)がある。接合部には、上、中、下3ヶ所に竹釘が用いてあり、外面上下にたがの痕跡がある、外杵は、長さ、幅とも不揃いで、上端は、折れたようになっている。下端の接合部には、竹釘(1号井戸-60, 61:図23)が用いられている。

出土遺物は、推定生産年代が1650～1670年代の肥前磁器を中心とする。同一文様が複数個体出土した例(1号井戸-4, 6, 7, 9, 10, 14, 16など:図15～17)も多く、二次的に被熱を受けたものもある。磁器に比して陶器は少なく、肥前および瀬戸・美濃産の製品を中心とする。陶磁器以外では、硯・木製品の出土がある。

以上の出土遺物から考えるならば、本遺構は、1650～1680年代に廃棄されたと推定される。また、出土遺物の一部に、二次的な被熱が認められることを考えあわせるならば、火災の後、焼け跡の残骸が井戸の中に投げ込まれた可能性が強い。(羽生)

**2号井戸**(図 24・25) 2号井戸は、A 3・B 3 グリッドに位置する。井戸に伴う掘り方や井戸側はなく、井戸の径が約 1.2 m の不整形円形を呈するものである。本遺構は、遺構確認面より 3.5 m 下部で近代に作られた下水坑に破壊されている。このために調査を中断しているため、井戸の底の構造については明かにし得ない。東西両壁には、縦 10×横 15 cm 前後で奥行 5～15 cm を測る足場が検出されている。35～50 cm 間隔で西壁に 7ヶ所、東壁に 8ヶ所が現存し、やや左回りして降りる様に設けられている。土層観察図の作成は、危険防止のため遺構確認面より 1 m の深さまで中止したが、覆土は焼土粒を主体とする褐色土層からなる。重複関係は、10号土坑、柱穴より古く、9, 44, 45号土坑と重複する。

遺物の出土量は少なく、陶磁器の他に、焼塩壺、瓦、寛永通宝等が出土している。陶磁器類は、17世紀代の資料と、18世紀以降との資料が混在するが、18世紀以降の資料の大部分は上層からの出土であり、これらは井戸の廃棄時期を示すものとは考えられない。下層からの出土遺物が少ないため、廃棄時期を特定することは困難であるが、中国製品や肥前の17世紀代の資料が出土していることを考えあわせるならば、17世紀代の可能性が高い。(山口)

**3号井戸**(図 26～30) 3号井戸は、A 4・A 5 グリッドに位置し、その東側は調査区域外にかかる。確認面は標高約 14.1 m で、上部に円形の掘り込みを有する。井戸は整形円形を呈し、直径は約 1.3 m である。上部は、水道管の埋設により、大部分が破壊されている。本遺構は、化学館旧館東棟の際に位置していたため、その一部を、標高約 12.0 m まで調査するにとどめた。なお、発掘調査終了後、理学部 7号館の建設時(1985年 12月)に、井戸底木枠および遺物を一部採集した。

周囲掘り込みの覆土は、粘土とロームの混合土と、ロームとが交互に堆積し、しまりは非常に強く、覆土中の遺物の包含は非常に少ない。周囲掘り込みは1号土坑を切り、上部を、32号土坑と柱穴に切られる。

出土遺物は、1730～1750年代の肥前陶磁器、および、瀬戸・美濃陶器を中心とする。瀬戸・美濃産の、大型の灰釉碗(3号井戸-19, 21～23: 図 27)の出土量の多さが、目立っている。

以上の出土遺物から考えるならば、本遺構は、18世紀前半～中葉に廃棄されたと考えられる。(秋元)

**1号地下式土坑**(図 31・32) 1号地下式土坑は、B 2 グリッドに位置する。北側を化学館旧館北棟の基礎部分、上部を排水施設によって破壊されている。また、天井部も崩落して現存しないため、上部構造等は不明である。深さは約 2.7 m、床面の標高は 13.3 m を測る。下場は、東西約 2.7 m、南北約 1 m (現存長) の方形を呈する。壁は、垂直に立ち上がって天井部に至るもの

と推測される。壁面には、構築時の整形痕が認められる。床は平坦であるが、南・東壁際の2ヶ所に床面からの深さ約10 cmの浅い掘り込みが存在する。土層堆積は、東側から2号地下式土坑にまで流れ込む状態を示しており、焼土粒とロームブロックを含む暗褐色土層で構成されている。従って、2号地下式土坑との新旧関係は判明せず、最終的に1・2号地下式土坑の覆土は同時に堆積したと考えられる。

遺物は、以上の理由により1・2号地下式土坑一括として扱っているが、攪乱を多く受けていることもあって出土量は少ない。陶磁器の他に、焼塩壺、燈明皿、かわらけ、火鉢などが出土している。陶磁器の推定製作年代は、17世紀代に位置づけられるものと、19世紀代と考えられるものが存在するため、遺構の廃棄時期は特定し得ない。(山口)

**2号地下式土坑(図31・32)** 2号地下式土坑は、B2・B3グリッドに位置する。北側を化学館旧館北棟の基礎部分、上部を排水施設によって破壊され、東側から北側にかけて1号地下式土坑と重複するために上部構造は不明である。深さは約2.5 m、床面の標高は13.5 mを測る。下場は、東西約1.4 m、南北約1.2 m(現存長)の方形を呈する。東壁は垂直に立ち上がるのに対して、オーバーハングする南・西側は内側に湾曲しながら立ち上がって天井部に至る。このことから、垂直に立ち上がる東壁は、入口部分にあたと推測される。天井部は、攪乱と崩落により現存する部分が少ないものの壁との境界は不明瞭であり、床からの現存高は1.2 mを測る。壁面には構築時の整形痕が認められ、床は平坦である。覆土は、1号地下式土坑と同じく焼土粒とロームブロックを含む暗褐色土層からなり、土層観察からの1号地下式土坑との新旧関係は不明である。なお、天井部は崩落する危険があったために一部を除去して調査を行った。

遺物は、2号地下式土坑に伴うものが明らかではなく、1号地下式土坑との一括として取り上げている。(山口)

**3号地下式土坑(図33～35)** 3号地下式土坑は、B4グリッド杭をほぼ中央とし、A3・A4・B3・B4の4つのグリッドにまたがって位置する。入口部で、18号土坑および60号土坑と切りあっている。確認面の標高は約16.0 m、床面標高は約14.3 mを測る。入口部は、東西約1.4 m、南北約1.1 mの隅丸方形を呈する。室部床面のプランはほぼ正方形で、東西1.5 m強、南北約1.5 mを測る。北壁は、オーバーハングし、床面から約1 m上で段を持つ。他の三方の壁面もわずかにオーバーハングしている。本遺構は、壁面の崩落が少なく、理学部7号館地点において確認された地下式土坑の中では、比較的残存状態の良好なもののひとつである。

出土遺物は、18世紀後半の陶磁器を中心とする。磁器の出土量は、比較的少なく、陶器の中でも、瀬戸・美濃産および志戸呂産の徳利の出土量の多さが目立つ。

以上の出土遺物から考えるならば、本遺構は、18世紀後半に廃棄されたと推定される。遺構の構築年代は不明である。(羽生)

**4号地下式土坑(図36~43)** 4号地下式土坑は、B3・B4グリッドに位置する。確認面の標高は、約15.8mである。室部は方形で、その標高は、約14.3mを測る。覆土はロームを含み、又、多量の遺物を包含していた。壁面はきれいに調整され、掘り具痕を残さず、ほぼ垂直に床に落ちる。本遺構は5号地下式土坑を切って構築され、62号土坑に入口部を破壊されている。また、61号土坑とも切り合うが、新旧関係は不明である。

出土遺物は、18世紀中葉~後半の陶磁器と、瓦質および土師質製品を中心とする。信楽産と推定される京焼風陶器(4号地下式土坑-12, 15, 17~20: 図37)、瀬戸・美濃灰釉徳利(44~62: 図38~39)、焙烙(92~95: 図40)、火鉢(96~101: 図41・42)の出土量の多さが目立っている。1(図36)は古九谷様式の色絵皿であり、10(図37)は、17世紀代の瀬戸・美濃灰釉菊皿であるが、これらは、混入によるものと思われる。

本遺構に切られる5号地下式土坑の出土遺物が、本遺構の遺物と非常に接近した時期に位置づけられることから、本遺構は、18世紀中葉~後半に構築され、短期間で廃棄されたものと考えられる。(秋元)

**5号地下式土坑(図44~50)** 5号地下式土坑は、B3・B4グリッドに位置する。確認面の標高は、約15.9mである。入口部は南北に長軸をとる長方形で、西側と南側の壁が、オーバーハンクする。室部も、南北に長軸をとる長方形で、その標高は、約13.6mである。覆土はロームを多量に含み、さらに、多量の遺物を包含していた。壁面、および天井は、丁寧に調整されて掘り具痕を残さず、ほぼ垂直に床に落ちる。東側壁際の底面には、方形の柱穴が一個穿たれ、そこから東壁に沿って、柱をはめ込んだと思われる溝が、開口部まで通っている。さらに、北東隅には、長径68cm、短径43cm、深さ10cmの浅い掘り込みが、そして、北西隅には、直径94cmほどで、西側に向かって深さ10cmまで次第に下がる浅い掘り込みが確認された。本遺構は、1号溝を切り、4号地下式土坑に切られている。また、66, 67号土坑と切り合うが、新旧関係は不明である。

出土遺物は、18世紀中葉~後半の陶磁器類が中心である。5号地下式土坑-2(図45)は、1630~1640年代の、肥前産の染付皿であるが、混入によるものと思われる。瀬戸・美濃灰釉碗(9~17: 図45)、瀬戸・美濃灰釉徳利(34~47: 図46・47)、焙烙(69~72: 図49)の出土量が多い。これらの推定時期は、4号地下式土坑の出土遺物の時期に非常に近い。

以上の点から、5号地下式土坑の廃棄年代は、18世紀中葉~後半と考えられる。構築年代に

については不明である。

(秋元)

**6号地下式土坑(図51~57)** 6号地下式土坑は、A4グリッドに位置する。27号土坑を掘り進めてゆくうちに確認された地下式土坑である。本地下式土坑の覆土の大部分は、多量の焼土粒および炭化物片を含んでいることから、火災の後、焼け跡の材、壁土などの残骸を廃棄した可能性が高い。北壁および東壁は垂直に立ち上がり、南壁および西壁は大きくオーバーハングしている。入口部は27号土坑および26号土坑に切られているため、原形は知り得ない。床面の大きさは、東西約2.2m、南北約1.8m、床面は、標高約13.1mを測る。オーバーハング部の壁面には、一部崩落が認められる。

出土遺物は、17世紀末~18世紀前半の肥前陶磁器を中心とする。大部分の遺物は、二次的な被熱を受けており、中には変形しているものもある。同一文様の製品が複数個体確認された例も多い。器種は皿が最も多く、碗の出土は少ない。

以上の点から、6号地下式土坑の廃棄年代は、18世紀前半と推測される。構築年代は不明である。

(羽生)

**7号地下式土坑(図58~64)** 7号地下式土坑は、A5・B5グリッドに位置し、南側は調査区域外にかかる。上場は、東西約2.1m、南北約1.8m(現存長)の隅丸長方形を呈し、深さは約3.0m、床面の標高は12.8mを測る。下場は、東西約2.2m、南北約2.0m(現存長)を測り、北西側が隅丸になる方形を呈する。オーバーハングする断面形態は、東・北側と西側で若干異なっている。東・北壁は、床から垂直に約2.0m立ち上がったところでほぼ水平に掘り込まれた天井部に至り、壁と天井部の境界が明瞭である。一方、西壁は湾曲しながら床から約2.1m立ち上がって入口部に至り、天井部との境界は不明瞭である。壁面には構築時の整形痕が認められ、床はほぼ平坦である。土層堆積は、10~12層において中央部が高い山形を呈し、1~9層において西側から東側へ流れ込む状態を示す。そして、焼土粒を主体とする層が上層において暗褐色土層、下層においてローム粒主体の褐色土層と交互に堆積する。また、2層に貝が含まれることから、廃棄後はゴミ捨て場として再利用されたと考えられる。重複関係は、2、37、39、40号土坑より新しく、8号地下式土坑、4号遺物集中より古い。なお、天井部は崩落の危険があるため一部を除去して調査を行っている。

遺物は、重複する8号地下式土坑と同時に取り上げたが、出土位置から7号地下式土坑に伴うと考えられる遺物は図59~61に示した。これらは、出土量、種類共に多い。陶磁器、焼塩壺、かわらけ、火鉢、砥石、キセル、金属製品、寛永通宝等の他に自然遺物として魚骨、貝が出土している。本地下式土坑の出土遺物は、一部に17世紀代の資料(7号地下式土坑-1, 4, 5な



ど：図 59)を含むものの、全体としては、18 世紀前半～中葉の資料を中心とする。したがって、遺構の廃棄年代は、この時期である可能性が高い。(山口)

**8 号地下式土坑**(図 58, 62～64) 8 号地下式土坑は、A 5・B 5 グリッドに位置し、南側は調査区域外にかかる。7 号地下式土坑の調査最終段階で確認されたため、平面図は下場の東端部を除いて推定復元である。上場は、東西約 1.7 m (推定長)、南北約 0.8 m (現存長)、下場は、東西約 2.1 m (推定値)、南北約 0.8 m (現存長)を測り、ともに方形と推測される。深さは約 2.2 m、床面の標高は 13.6 m を測る。入口部は西側に設けられ、東側が入口部より約 0.9 m オーバーハングする。壁は垂直に立ち上がり、東側は 1.1 m 立ち上がったところで水平に掘り込まれた天井部に至る。壁と天井部の境界は明瞭である。壁面は比較的丁寧に整形されている。床は、7 号地下式土坑覆土にあたる部分にロームブロックによって貼床が行われている。この貼床面は、西側に若干傾斜している。また、7 号地下式土坑覆土面を支えるためと考えられる杭痕が、北壁際より 1 本検出されている。覆土は、7 層を除いて焼土粒を含まない層によって構成され、特に 2・5 層は貝を多量に含む灰褐色土層であることから、廃棄後はゴミ捨て場として再利用されたと考えられる。重複関係は、7 号地下式土坑より新しく、4 号遺物集中より古い。

遺物は、7 号地下式土坑と一括で取り上げているので明らかでないが、18 世紀中葉～後半の資料を主体とするようである。また、自然遺物として魚骨、貝が出土している。(山口)

**1 号土坑**(図 65～74) 1 号土坑は、A 4・A 5・B 4 グリッドに位置し、東側は調査区域外にのびる。確認面の標高は、約 15.8 m で、主軸は、N-69°-W である。平面形は長方形を呈し、底面は比較的平坦であるが、一部が 30 cm ほどブリッジ状に立ち上がる。底面の標高は、約 14.8 m である。壁面および底面には、掘り具痕を有する。遺構の主軸、形状は、隣接する 2 号土坑に類似する。本遺構は、3 号井戸、32, 70, 71 号土坑、および、柱穴に切られている。

出土遺物は、1650～70 年代の肥前磁器を中心とする。1 号土坑-4 (図 66) は、古九谷様式の色絵大鉢である。他に、「天下一堺ミなど藤左衛門」の刻印をもつ焼塩壺(蓋; 39～47: 図 70, 身; 48～63: 図 70・71)、かわらけ(64～84: 図 71)の出土量の多さが、注目される。また、漆製品の断片も出土しているが、遺存状態が極めて悪く、木質部が腐食し消失していたために、図示できなかった(写真 77 参照)。

出土遺物から考えて、本遺構は、1650～1680 年代に位置づけられる。(秋元)

**2 号土坑**(図 75～85) 2 号土坑は、B 4・B 5・C 4・C 5 グリッドに位置し、西側と南・北側の一部に攪乱を受ける。調査時には、3 基と考えると、a, b, c の枝番号を付したが、断面から考え

るならば、4基の土坑の重複(bが2基の重複)である。ただし、a—b—c間で接合する資料が多く認められ、また、遺物の年代が17世紀代中葉でまとまっているため、ここでは、2号土坑として一括して記載を行う。平面形は、4基とも隅丸方形を呈し、主軸は、ほぼN—73°—Wを示す。東側のaが最も新しく、bとcは直接切り合っていないもののcの覆土にbの壁が立ち上がっていないので、cが新しいと思われる。aは、東西338cm(推定長)×南北220cm、深さ96cm、底面標高14.8mを測る。壁は、急傾斜で立ち上がる。底は、東側の一部を除いてbの覆土上に構築され、起伏する。覆土は、暗褐色土層が主体であり、上層の2・3層に炭化粒を多量に含む。bは、2基の重複であるが、同一の覆土が堆積して新旧関係を把握できないので一括して扱っている。東側の深いものは、東西208×南北196cm、深さ148cm、底面標高14.3mを測る。西側のものは、東西150cm(現存長)×南北226cm、深さ116cm、底面標高14.6mを測る。2基共に壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。覆土は、ローム粒、ロームブロックを含む層を主体に構成される。cは、東西326cm(現存長)×南北253cm、深さ106cm、底面標高14.8mを測る。壁は西側が緩やかに、南・北側が急傾斜でそれぞれ立ち上がり、底は起伏する。覆土は、aに類似する暗褐色土層であるが、cの覆土はより明るい色調を呈し17・21・23層に貝を多量に含む点が異なる。

他の遺構との重複関係は、1号溝より新しく、7号地下式土坑、31号土坑、10、11号遺物集中、柱穴より古い。

調査時の所見では、遺物の大部分は、a・cから出土しており、bからの出土は僅かであった。なお、a・b・cが判明する資料については、図版の遺物番号の下に破片の帰属を示した。

遺物の種類は豊富で、17世紀代の陶磁器とともに、播鉢、焼塩壺、かわらけ、焙烙、火鉢、瓦、砥石、軽石、キセル、金属製品、寛永通宝等が出土している。肥前磁器の主体は、1640～50年代の製品である。また、燈明皿として使用されたかわらけの出土量は多く、何枚も重なる状態で出土している。また、自然遺物として魚骨、貝がcを中心に多量に出土している。

本遺構は出土遺物から考えて、17世紀中葉に位置づけられる。(山口)

**7号土坑(図86)** 7号土坑は、A3グリッドに位置する。東側に攪乱を受けるが、平面形は長方形と思われる。東西66cm(現存長)×南北59cm、深さ23cm、底面標高15.7mを測る。主軸は東西方向を示す。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。掘り込み内には、壁から10cm前後内側に東西52cm(現存長)×南北50cm、深さ10cmの箱型を呈する木枠が設けられている。木枠は、壁・底板共に部分的に残存し炭化している。北壁際には、内側から壁板を支えた径5cm、深さ20cmの杭痕が1本検出されている。覆土は、木枠内が焼土を主体にした赤褐色土層で、その周囲が褐色土層によって構成される。重複関係は、8、9号土坑、柱穴より新しい。

遺物の出土は僅かであり、細片のため図示できるものはなかった。(山口)

**11号土坑(図87)** 11号土坑は、A3グリッドに位置し、東・北側に攪乱を受ける。平面形は長方形を呈すると思われ、東西115cm(現存長)×南北105cm(現存長)、深さ36cm、底面標高15.5mを測る。主軸はほぼ東西方向を示す。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。掘り込み内には、壁から15cm前後内側に東西102cm(現存長)×南北65cm、深さ26cmの箱型を呈する木枠が設けられている。木枠は、壁、底板共に腐食が激しく、遺存状態は不良である。木枠の四隅には、壁板を内側から支えた径5~10cmの杭痕が存在する。覆土は、2・3層が木枠内に相当し、木枠外の1・4層がローム粒、ロームブロックを主体に構成される。柱穴と重複関係を有する。

遺物の出土量は少なく、図示した磁器皿の他は細片である。(山口)

**12号土坑(図87)** 12号土坑は、A3グリッドに位置し、南北に走る攪乱を中央部に受ける。平面形は長方形を呈し、東西129×南北110cm、深さ54cm、底面標高15.4mを測る。主軸はほぼ東西方向を示す。壁は急傾斜で立ち上がり、底は両壁際で11cm高い段差を有する。底面の壁際には径5~10cm、深さ20cm前後の杭痕がほぼ規則的に17本巡る。覆土は、1~6層が粘土粒以外の混入物を含まないもので、7~9層がローム粒、ロームブロックを主体とする。この7~9層のあり方と底面の段差、杭痕の位置から、木枠等の存在が考えられる。重複関係は、15号土坑、柱穴より新しい。

遺物の出土量は比較的多く、18世紀中葉~後半に位置づけられる陶磁器、土製基石、ガラス製品、火打石等の他に自然遺物として魚骨、貝が出土している。特に、貝は3層から集中して検出されている。なお、図に示した位置において、自然遺物採集のため25×25×5cmごとのコラムサンプルの採取・水洗選別を行っている。(山口)

**17号土坑(図93)** 17号土坑は、A3・A4グリッドに位置し、上部を攪乱と16号土坑によって切られる。平面形は長方形を呈し、東西85×南北70cm、深さ105cm、底面標高14.8mを測る。主軸は東西方向を示す。壁は垂直に立ち上がる。底は中央部で11cm低い段差を有する。底面の四隅には、径10~15cm、深さ12cmの杭痕が検出され、木枠等の存在が推測される。覆土は、ローム粒、ロームブロックを主体に構成される。重複関係は、16号土坑より古い。

遺物の出土は認められなかった。(山口)

**22号土坑(図93)** 22号土坑は、A4グリッドに位置する。西側を攪乱、北側を16号土坑、南

側を26号土坑にそれぞれ切られるが、平面形は方形を基調とするものであろう。東西43cm(現存長)×南北48cm(現存長)、深さ40cm、底面標高15.6mを測る。主軸方向は不明であるが、ほぼ南北ないし東西の方向を示すと思われる。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。底面の壁際には、径10cm前後、深さ16cmの杭痕が2本検出されている。覆土は、褐色土層で構成され、下層に粘土粒を多量に含む。重複関係は、16、26号土坑より古く、柱穴と重複する。

遺物の出土量は僅かであり、細片のため図示できるものはなかった。(山口)

**36号土坑(図98)** 36号土坑は、調査区南端のA5グリッドに位置し、東・西側を攪乱に破壊される。南側が調査区域外にかかるために平面形は不明であるが、下場から推定するならば方形に近い形態であろう。東西122cm(現存長)×南北91cm(現存長)、深さ77cm、底面標高15.3mを測る。主軸方向は不明であるが、東西か南北の方向を示すものと思われる。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。底面には、径5~10cm、深さ10cm前後の杭痕が壁際を中心に13本検出されている。覆土は、混入物をほとんど含まない褐色土層と暗褐色土層からなる。

遺物の出土量は比較的多く、陶器製の人形、陶磁器の他に、焼塩壺等が出土している。

(山口)

**61号土坑(図105)** 61号土坑は、B3グリッドに位置する。東側で4号地下式土坑と重複するが、平面形は長方形を呈するものであろう。東西97cm(現存長)×南北83cm、深さ95cm、底面標高14.9mを測る。主軸はほぼ東西方向を示す。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦である。底面には、径15cm、深さ14cmの杭痕が西側隅に2本検出されている。本土坑は、遺構確認のためのトレンチ調査で検出されたため、覆土および遺物について明らかにし得なかった。重複関係は、1号溝より新しく、4号地下式土坑、64~66号土坑と重複する。(山口)

**63号土坑(図106~108)** 63号土坑はB3グリッドに位置し、北・東側上部に攪乱を受ける。平面形は正方形を呈し、南北122×東西116cm、深さ93cm、底面標高15.0mを測る。主軸は南北方向を示す。壁は垂直に立ち上がり、東・西壁面には径5~10cmの杭痕が10本検出されている。底はほぼ平坦である。壁際に底面より5~10cm低い溝が全周し、その溝内に径15cm前後、深さ25cm前後の杭痕8本が規則的に並ぶことから、木杵等の存在が推測される。覆土は、暗褐色~黒褐色土層を主体としており、1層に焼土粒、4層に動物遺存体、5層に炭化粒を多量に含む。重複関係は、51号土坑、1号溝、柱穴より新しく、64号土坑と重複する。

遺物は出土量、種類共に多く、陶磁器、焼塩壺、火鉢、植木鉢、土製および石製碁石、砥石、キセル、骨角製品、瓦等の他に自然遺物として魚骨等が出土している。これらの中でも、徳利

と瓦の出土量は特に多い。なお、図に示した位置において、自然遺物採集のため25×25×5 cmごとのコラムサンプルを、また、魚骨集中地点から一括サンプルの採取・水洗選別を行った。

本遺構の廃棄年代は、出土遺物から、19世紀中葉と推定される。(山口)

**74号土坑(図112)** 74号土坑は、B5・B6グリッドに位置し、東側が一部調査区域外にかかる。平面形は長方形を呈し、南北119×東西90 cm(現存長)、深さ28 cm、底面標高15.5 mを測る。主軸はほぼ南北方向を示す。壁は垂直に立ち上がり、底は平坦である。底面の壁際には、径10 cm、深さ30 cm前後の杭痕が規則的に11本並ぶ。このことから木枠等の存在が推測され、特に南壁際の5本の杭痕は壁板を両側から支えた状況を示していると思われる。覆土は、灰褐色土層で構成され、1層に貝を含む。重複関係は、柱穴より新しい。

遺物は、比較的多量に出土しており、陶磁器、焼塩壺、土製基石、金属製品等の他に自然遺物として魚骨、貝が認められる。

本遺構の廃棄年代は、出土遺物から、18世紀中葉～後半と推定される。(山口)

**75号土坑(図112, 113)** 75号土坑は、B6グリッドに位置する。東側が調査区域外にかかるが、平面形は方形に近い形態と考えられる。南北146×東西64 cm(現存長)、深さ78 cm、底面標高15.4 mを測る。主軸はほぼ南北方向を示す。壁は垂直に立ち上がり、底は平坦である。底面の壁際には、方形を呈する3本のピットが規則的に並び、さらにそれぞれのピット内に径10 cm前後、底面からの深さ40 cm前後の杭痕が認められる。覆土は、黒褐色土層の1・5層と焼土粒を主体とする暗赤褐色土層の2～4層とから成り、3層で瓦、陶磁器を、4層で炭化材を多量に含む。特に、炭化粒、焼土粒を含まない5層の存在は、木枠等があったことを推測させる。

遺物の出土量は多く、多量の瓦と共に陶磁器、土製基石、魚骨等が出土している。魚骨集中地点の覆土は一括サンプルとして採取し、水洗選別を行った。また、20×20×5 cmごとのコラムサンプルの採取・水洗選別を行ったが、この中からは魚骨は出土しなかった。

本遺構の廃棄年代は、出土遺物から、19世紀中葉と推定される。(山口)

**1号杭跡(図19)** 1号杭跡は、A4グリッドにおいて確認された。部分的な検出であり、26号土坑と重複する北側から約1.2 m南側へ延びた所で、ほぼ直角に西側へ曲って28号土坑と重複する。現存する部分で上場幅50 cm、下場幅40 cm、深さ10 cm、底面標高15.6 mを測る。溝に近い形態であるが、浅い掘り込みで底面に杭痕が認められること等から柵状の杭跡と考えられる。なお、28号土坑西側の礎石を伴う柱穴の周辺に存在する浅い掘り込みも、位置的に本遺構に伴う可能性がある。

遺物の出土は、認められなかった。

(山口)

**A・B区柱穴および小土坑(図119・120)** A・B区からは、報告Noを付していない柱穴および小土坑が重複も含めて151基検出された。この他に、掘り込みを伴わない偏平な石を7個確認したが礎石であるか明確でない。柱穴および小土坑の内、掘り込み内に礎石を設けたものが13基、柱穴間を溝状の掘り込みによって連結したものが2基検出され、特に後者は特徴的な形態を呈している。全体的な分布は、攪乱を受けたり他の遺構が多数存在するために全容が明らかでないものの、その多くはほぼ南北・東西方向を軸とした分布を示している。この中でも規則的に配列される柱穴は、A4・A5グリッド東端部で南北方向に並ぶ礎石を伴った5基から、その両端部の西側に位置する柱穴間を溝状の掘り込みによって連結したのもまでの、コの字形に巡る8基の一群である。この柱穴群は、0.9mと1.8m間隔に配列され、南北が3間(5.4m)、東西が少なくとも3間以上の規模である。各柱穴は、規模が大型で底面標高もほぼ同一の15.1m前後を測り、深いものである。この構造から考えて、何らかの建築物ないし塀に伴うものであろう。また、規則的な配列ではないが、先の柱穴群から約1.8m北側のA3・B3グリッドで東西方向へ直線的に並ぶ一群、A5グリッド東端部で南北方向に並ぶ一群等がある。これらの他にも、掘り込み内に礎石を設けた柱穴がそれぞれ対応しそうな位置にあるが、明確な規則性は見出すことができない。

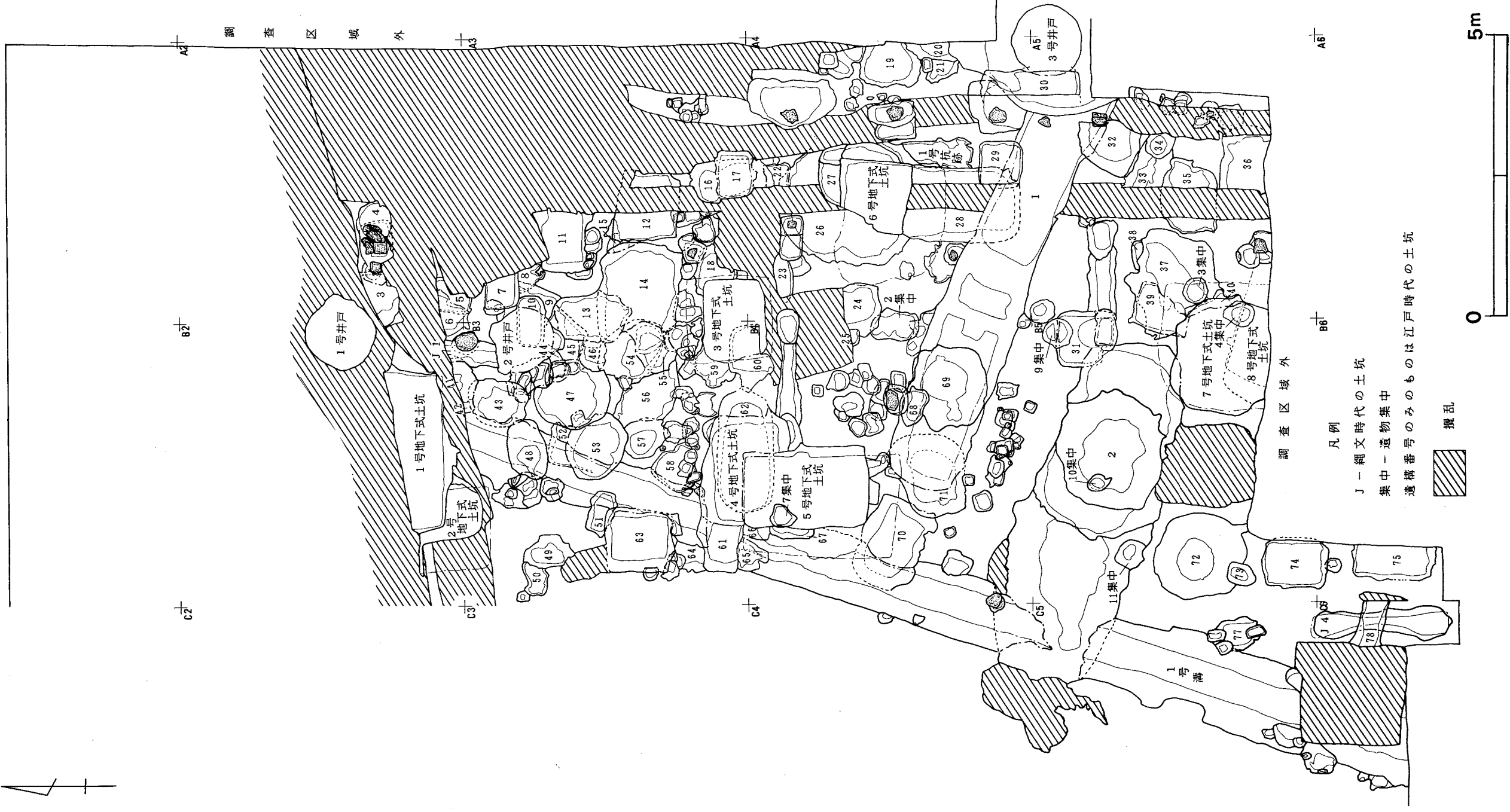
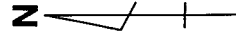
遺物は、各遺構で僅かながら出土しているが、実測可能なものを図示した。なお、遺物の出土位置は、図119に遺物番号で示してある。

(山口)

**1号溝(図121)** 1号溝は、B3～C6グリッドに位置する。検出された部分は、長さ17.8mを測るが、北側は化学館旧館北棟の基礎部分に破壊され、南側は調査区域外にかかるので、さらに両側へ延びていることは明らかである。したがって、全体的な形態は不明であるが、検出された部分では直線的に延びており、主軸方向N-19°-Eを示す。規模は、上場幅148cm、下場幅58cm、深さ86cm、底面標高は、北側で15.4m、南側で15.2mを測る。断面は逆台形を呈し、全体にほぼ同じ形態を呈する掘り込みである。壁は直線的に急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦で南側へ僅かに傾斜する。覆土は、ロームブロック以外に混入物を含まず、粘性、しまりの弱い粒子の細かな土層によって構成され、他の遺構とは若干異なるものであった。重複関係においても、重複する全ての遺構に切られており、時期的に古いものである。

遺物の出土量は僅かであり、そのほとんどは上層からの出土である。従って、溝に伴う遺物とは断定し難い出土状況であるが、陶磁器、石製基石、北宋銭の大観通宝等が出土している。

本遺構の廃棄年代は、2号土坑に切られることから、17世紀中葉以前と考えられる。(山口)



調査区域外

凡例

- J - 縄文時代の土坑
- 集中 - 遺物集中
- 遺構番号のみものは江戸時代の土坑

攪乱

図 14 A・B 区遺構分布図  
Figure 14 Distribution of Edo Period features in grid rows A and B

表3 A・B区土坑一覧表

註) 計測値の  は現存長, ( )は推定長。

Table 3 List of pits in grid rows A and B

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重複関係
1	A4・A5 B4	<u>770</u>	147	122	14.5	平面長方形。主軸方向はN-69°-W。壁は垂直に立ち上がる。底は長軸中央部で凸状に高い段を有し、東半部で65cm、西半部で51cmの段差を測る。底面はほぼ平坦。	17c	3号井戸、28・29・32・68・69・71号土坑、2号遺物集中、柱穴、1号杭跡より古。
2	B4・B5 C4・C5	<u>636</u>	250	150	14.3	平面隅丸長方形を呈する4基の切り合い。主軸方向はほぼN-73°-W。壁は、西側が緩やかな他は急傾斜に立ち上がる。底は起伏する。	17c	1号溝より新。7号地下式土坑、31号土坑、10・11号遺物集中、柱穴より古。
3	A2・B2	<u>52</u> (106)		20	15.8	平面形不明。壁は緩やかに立ち上がり、底は平坦。	—	柱穴より新。
4	A2	78	<u>61</u>	64	15.2	平面円形。壁は垂直に立ち上がる。底は中央部に16cm低い段差有。	—	柱穴より古。
5	A2・A3	<u>67</u> (59)		10	15.9	平面長方形の浅い掘り込み。主軸方向はほぼ南北方向。底は起伏する。	—	6号土坑より新。
6	A2・A3 B2・B3	<u>52</u>	81	27	15.7	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	5号土坑より古。
7	A3	<u>66</u>	59	23	15.7	平面長方形。主軸方向は東西方向。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。掘り込み内に木枠有。	—	8・9号土坑、柱穴より新。
8	A3	<u>54</u>	<u>47</u>	10	15.8	平面形不明の浅い掘り込み。底は起伏する。	—	9号土坑より新。7号土坑より古。
9	A3	<u>107</u>	<u>77</u>	12	15.8	平面隅丸長方形の浅い掘り込み。底は起伏する。	—	7・8・10号土坑より古。2号井戸、13・45号土坑、柱穴と重複。
10	A3・B3	(89)	52	18	15.8	平面長方形の浅い掘り込み。主軸方向は東西方向。底は起伏する。	—	2号井戸、9号土坑より新。
11	A3	<u>115</u>	<u>105</u>	36	15.5	平面長方形。主軸方向は東西方向。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。掘り込み内に木枠と四隅に径5~10cmの杭痕有。	18c	柱穴と重複。
12	A3	129	110	54	15.4	平面長方形。主軸方向はほぼ東西方向。壁は急傾斜で立ち上がる。底はほぼ平坦で、壁際に径5~10cm、深さ20cm前後の杭痕が巡る。	18c	15号土坑、柱穴より新。
13	A3・B3	137	95	34	15.5	平面隅丸長方形。主軸方向は南北方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	18c~19c	46号土坑より新。14・45・54号土坑より古。9号土坑と重複。



No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重複関係
14	A3・B3	<u>177</u>	147	36	15.5	平面隅丸長方形。主軸方向は東西方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	18c～19c	13・15号土坑より新。54号土坑、1号遺物集中、柱穴より古。55号土坑と重複。
15	A3	<u>64</u>	63	25	15.6	平面形不明。主軸方向は東西方向。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。	18c	12・14号土坑より古。
16	A3・A4	150	80	78	15.1	平面楕円形。主軸方向は南北方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は北側へ傾斜する。	18c	17・22号土坑、柱穴より新。
17	A3・A4	85	70	105	14.8	平面長方形。主軸方向は東西方向。壁は垂直に立ち上がる。底は、中央部に11cm低い段差と四隅に径10～15cm、深さ12cmの杭痕有。	—	16号土坑より古。
18	A3	<u>100</u>	75	24	15.7	平面隅丸長方形。主軸方向はほぼ東西方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	18c～19c	柱穴より新。3号地下式土坑と重複。
19	A4	110	<u>80</u>	20	15.5	平面隅丸長方形。主軸方向はほぼ南北方向。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。	—	20号土坑、柱穴と重複。
20	A4	<u>94</u>	<u>33</u>	20	15.5	平面形不明の浅い掘り込み。	—	3号井戸、19・21号土坑、柱穴と重複。
21	A4	57	<u>43</u>	10	15.6	平面形不明の浅い掘り込み。	—	20号土坑、柱穴と重複。
22	A4	<u>48</u>	<u>43</u>	40	15.6	平面方形か。壁は垂直に立ち上がる。底は起伏し、径10cm前後、深さ16cmの杭痕有。	—	16・26号土坑より古。柱穴と重複。
23	A4	<u>77</u>	<u>36</u>	24	15.6	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	18c	柱穴と重複。
24	A4・B4	<u>67</u>	97	37	15.4	平面楕円形。主軸方向はほぼ南北方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	18c	25号土坑、2号遺物集中より新。
25	B4	<u>30</u>	<u>18</u>	22	15.6	平面形不明。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	24号土坑より古。
26	A4	(255)	(230)	68	15.3	平面楕円形。主軸方向はほぼ南北方向。壁は緩やかに立ち上がり、底は南側へ傾斜する。	19c	6号地下式土坑、22・27・28号土坑より新。1号杭跡、柱穴と重複。
27	A4	(164)	<u>114</u>	137	14.6	平面楕円形。3基の切り合いか。主軸方向は南北方向。壁は北側を除いて垂直に立ち上がる。底はローム面ではほぼ平坦であるが、6号地下式土坑覆土上で大きく落ち込む。	18c～19c	6号地下式土坑より新。26・28号土坑より古。

No.	グリッド	長軸	短軸	高さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重複関係
28	A4	<u>208</u>	138	62	15.1	平面長方形。主軸方向は南北方向。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	6号地下式土坑、1・27号土坑、1号杭跡より新。26・29号土坑より古。
29	A4	<u>77</u>	78	54	15.4	平面長方形。主軸方向は東西方向。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	1・28号土坑より新。
30	A4・A5	174	<u>47</u>	54	15.5	平面形不明。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	18 c	3号井戸、柱穴より新。
31	B5・A5	108	102	64	15.0	平面正方形で南西隅がえぐれる。2基の重複か。壁は急傾斜で立ち上がる。底は中央部に14cm低い段差有。	—	2号土坑、柱穴より新。9号遺物集中より古。
32	A5	<u>101</u>	112	69	15.0	平面楕円形。主軸方向は東西方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	1号土坑、柱穴より新。33号土坑と重複。
33	A5	<u>98</u>	<u>66</u>	24	15.5	平面形不明の浅い掘り込み。	—	35号土坑より新。34号土坑より古。32号土坑と重複。
34	A5	<u>51</u>	47	22	15.4	平面楕円形の浅い掘り込み。	—	33号土坑より新。
35	A5	135	98	17	15.6	平面隅丸長方形。主軸方向はほぼ東西方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	18 c	33号土坑より古。
36	A5	<u>122</u>	<u>91</u>	77	15.3	平面形不明。壁は垂直に立ち上がる。底は起伏し、径5~10cm、深さ10cm前後の杭痕有。	18 c	—
37	A5・B5	<u>181</u>	190	26	15.5	平面楕円形の浅い掘り込み。	—	39号土坑より新。7号地下式土坑、3号遺物集中より古。38・40号土坑と重複。
38	A5	<u>58</u>	<u>23</u>	13	15.6	平面形不明の浅い掘り込み。底は平坦。	—	37号土坑と重複。
39	A5・B5	<u>103</u>	81	18	15.5	平面長方形。主軸方向はN-17°-E。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	7号地下式土坑、37号土坑より古。40号土坑と重複。
40	A5	108	<u>35</u>	38	15.3	平面形不明。壁は垂直に立ち上がり、底は平坦。	—	7号地下式土坑、4号遺物集中より古。37・39号土坑と重複。
41	B2・B3	(103)	<u>51</u>	58	15.4	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、東西両側が上半部で外へ開く。底はほぼ平坦。	18 c	42号土坑より新。43号土坑より古。
42	B2・B3	<u>23</u>	<u>24</u>	28	15.7	平面形不明。底のみ残存。	—	1号溝より新。41・43号土坑より古。

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重複関係
43	B3	(107)	(86)	29	15.7	平面楕円形。主軸方向はほぼ南北方向。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。	19 c	41・42・48号土坑、1号溝、柱穴より新。
44	B3	<u>29</u>	<u>24</u>	18	15.7	平面形不明の浅い掘り込み。	—	45・47号土坑、柱穴より新。2号井戸と重複。
45	A3・B3	(93)	<u>80</u>	16	15.6	平面方形か。浅い掘り込み。	—	13・46・47号土坑より新。44号土坑、柱穴より古。2号井戸、9号土坑と重複。
46	B3	<u>55</u>	<u>50</u>	20	15.7	平面形不明の浅い掘り込み。	18 c ~ 19 c	13・45・54号土坑より古。47号土坑と重複。
47	B3	133	124	46	15.5	平面円形。壁は南側で底に向かって落ちるスロープがある他は垂直に立ち上がる。底は起伏する。	—	52・53号土坑、柱穴より新。44・45号土坑より古。46号土坑、柱穴と重複。
48	B3	111	68	20	15.6	平面楕円形の浅い掘り込み。壁と底の境界は不明瞭。	18 c ~ 19 c	1号溝、柱穴より新。43号土坑より古。
49	B3	90	60	27	15.7	平面楕円形の浅い掘り込み。	18 c	50号土坑と重複。
50	B3	<u>58</u>	44	6	15.8	平面隅丸長方形の浅い掘り込み。	—	49号土坑と重複。
51	B3	81	48	23	15.7	平面長方形。主軸方向はN-73°-W。壁は急傾斜で立ち上がる。底は起伏し、径5cm、深さ12cmの杭痕有。	17 c	1号溝より新。63号土坑より古。
52	B3	<u>76</u>	<u>71</u>	21	15.8	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	—	53号土坑、1号溝より新。47号土坑より古。
53	B3	123	102	37	15.5	平面楕円形。主軸方向はN-62°-W。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	56・57号土坑、1号溝、柱穴より新。47・52号土坑より古。
54	A3・B3	(133)	(96)	54	15.4	平面楕円形か。壁は北側が緩やかな他は急傾斜で立ち上がる。底は起伏する。	18 c ~ 19 c	13・14・46・55・56号土坑、柱穴より新。1・5号遺物集中より古。
55	B3	98	<u>72</u>	70	15.2	平面円形を呈する2基の重複か。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	54号土坑、5号遺物集中、柱穴より古。14・56号土坑と重複。
56	B3	<u>145</u>	<u>96</u>	15	15.7	平面形不明。主軸方向はN-72°-W。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。	—	53・54・57号土坑、5号遺物集中より古。55号土坑、柱穴と重複。

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重複関係
57	B3	<u>85</u>	68	57	15.3	平面楕円形。主軸方向はほぼ南北方向。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	——	56号土坑、柱穴より新。53号土坑より古。
58	B3	88	80	14	15.8	平面円形の浅い掘り込み。	——	1号溝より新。柱穴と重複。
59	B3	<u>95</u>	73	14	15.8	平面隅丸長方形。主軸方向はN-65°-W。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。	——	柱穴より新。60号土坑より古。3号地下式土坑と重複。
60	B3・B4	<u>119</u>	<u>81</u>	26	15.7	平面方形か。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	——	3号地下式土坑、59号土坑より新。62号土坑より古。
61	B3	<u>97</u>	83	95	14.9	平面長方形。主軸方向はほぼ東西方向。壁は垂直に立ち上がる。底はほぼ平坦で、西壁際に径15cm、深さ14cmの杭痕有。	——	1号溝より新。4号地下式土坑、64~66号土坑と重複。
62	B3・B4	(220)	(110)	74	15.3	平面楕円形か。主軸方向は東西方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	18 c	4・5号地下式土坑、60号土坑より新。6・7号遺物集中より古。
63	B3	122	116	93	15.0	平面正方形。主軸方向は南北方向。壁は垂直に立ち上がり、西壁に杭痕有。底は壁際に溝が巡り、溝内に径15cm前後、深さ25cm前後の杭痕有。	19 c	51号土坑、1号溝、柱穴より新。64号土坑と重複。
64	B3	<u>55</u>	<u>54</u>	15	15.8	平面形不明の浅い掘り込み。	——	1号溝より新。61・63号土坑、柱穴と重複。
65	B3・B4	<u>60</u>	53	7	15.7	平面楕円形の浅い掘り込み。	18 c	1号溝より新。61号土坑と重複。
66	B3・B4	<u>50</u>	<u>26</u>	19	15.5	平面形不明。壁のみ残存。	——	1号溝より新。7号遺物集中より古。4・5号地下式土坑、61号土坑と重複。
67	B4	78	<u>24</u>	15	15.4	平面形不明の浅い掘り込み。	——	1号溝より新。7号遺物集中より古。5号地下式土坑と重複。
68	B4	72	45	41	15.4	平面楕円形。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	——	1号土坑より新。柱穴より古。69号土坑と重複。
69	B4	153	137	32	15.5	平面楕円形。主軸方向はほぼ東西方向。壁は緩やかに立ち上がり、底はほぼ平坦。	——	1号土坑より新。68号土坑と重複。
70	B4	(163)	121	54	15.2	平面長方形。主軸方向はN-61°-W。壁は緩やかに立ち上がり、底はほぼ平坦。	17 c ?	1号溝より新。71号土坑より古。

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重複関係
71	B4	(147)	136	45	15.4	平面隅丸長方形。主軸方向はほぼ東西方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。南北両壁のピットは本土坑に伴うか不明。	18 c	1・70号土坑、柱穴より新。
72	B5	165	154	24	15.6	平面円形。壁は緩やかに立ち上がる。底はほぼ平坦で、中央部に14 cm低い段差有。壁、底共に径5~10 cmのピットが多数有。	——	73号土坑と重複。
73	B5	53	38	13	15.7	平面楕円形の浅い掘り込み。	18 c ~ 19 c	72号土坑と重複。
74	B5・B6	119	(90)	28	15.5	平面長方形。主軸方向は南北方向。壁は垂直に立ち上がる。底はほぼ平坦で、壁際に径10 cm、深さ30 cm前後の杭痕が巡る。	18 c	柱穴より新。
75	B6	146	64	78	15.4	平面方形か。主軸方向は南北方向。壁は垂直に立ち上がる。底はほぼ平坦で、壁際の方形ピット内に径10 cm前後、深さ40 cm前後の杭痕が存在。覆土下層より炭化材出土。	19 c	——

表4 A・B区遺物集中一覧表  
Table 4 Concentrations of rooftiles and ceramics in grid rows A and B

No.	グリッド	集中範囲		底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重複関係
		東西	南北 (cm)				
1	A3・B3	121	124	15.9	陶磁器, 瓦を主体にして集中する。 掘り込みはない。	19 c	14・54号土坑, 柱 穴より新。
2	A4・B4	58	128	15.7	瓦を主体にして集中する。下部に東 西60×南北89cm, 深さ12cmの浅 い掘り込み有。	19 c	1号土坑より新。 24号土坑より古。
3	A5	50	46	15.8	瓦を主体にして集中する。下部に東 西44×南北42cm, 深さ6cmの浅 い掘り込み有。	——	37号土坑より新。
4	A5・B5	80	52	15.7	瓦を主体にして集中する。下部に東 西46×南北56cm, 深さ14cmの浅 い掘り込み有。	——	7・8号地下式土 坑, 40号土坑より 新。
5	B3	102	120	15.9	陶磁器, 瓦を主体にして集中する。 掘り込みはない。	19 c	54~56号土坑, 柱 穴より新。
6	B3・B4	69	80	15.9	瓦を主体にして散在する。掘り込み はない。	19 c	62号土坑, 4・5 号地下式土坑より 新。
7	B3・B4	52	76	15.8	陶磁器, 瓦を主体にして散在する。 下部に東西41×南北48cm, 深さ16 cmの浅い掘り込み有。	18 c ?	62・66・67号土坑, 5号地下式土坑よ り新。
8	B4	54	58	15.9	瓦を主体にして集中する。掘り込み はない。	——	柱穴より新。
9	A5・B5	88	64	15.6	陶磁器, 瓦を主体にして集中する。 下部に東西52×南北52cm, 深さ 26cmの掘り込み有。	19 c	31号土坑, 柱穴よ り新。
10	B5	40	39	15.7	瓦, 切石を主体にして集中する。下 部に東西30×南北43cm, 深さ14 cmの浅い掘り込み有。	——	2号土坑より新。
11	B5	64	46	15.7	陶磁器を主体にして集中する。下部 に東西52×南北52cm, 深さ17cm の浅い掘り込み有。	18 c ~19 c	2号土坑より新。

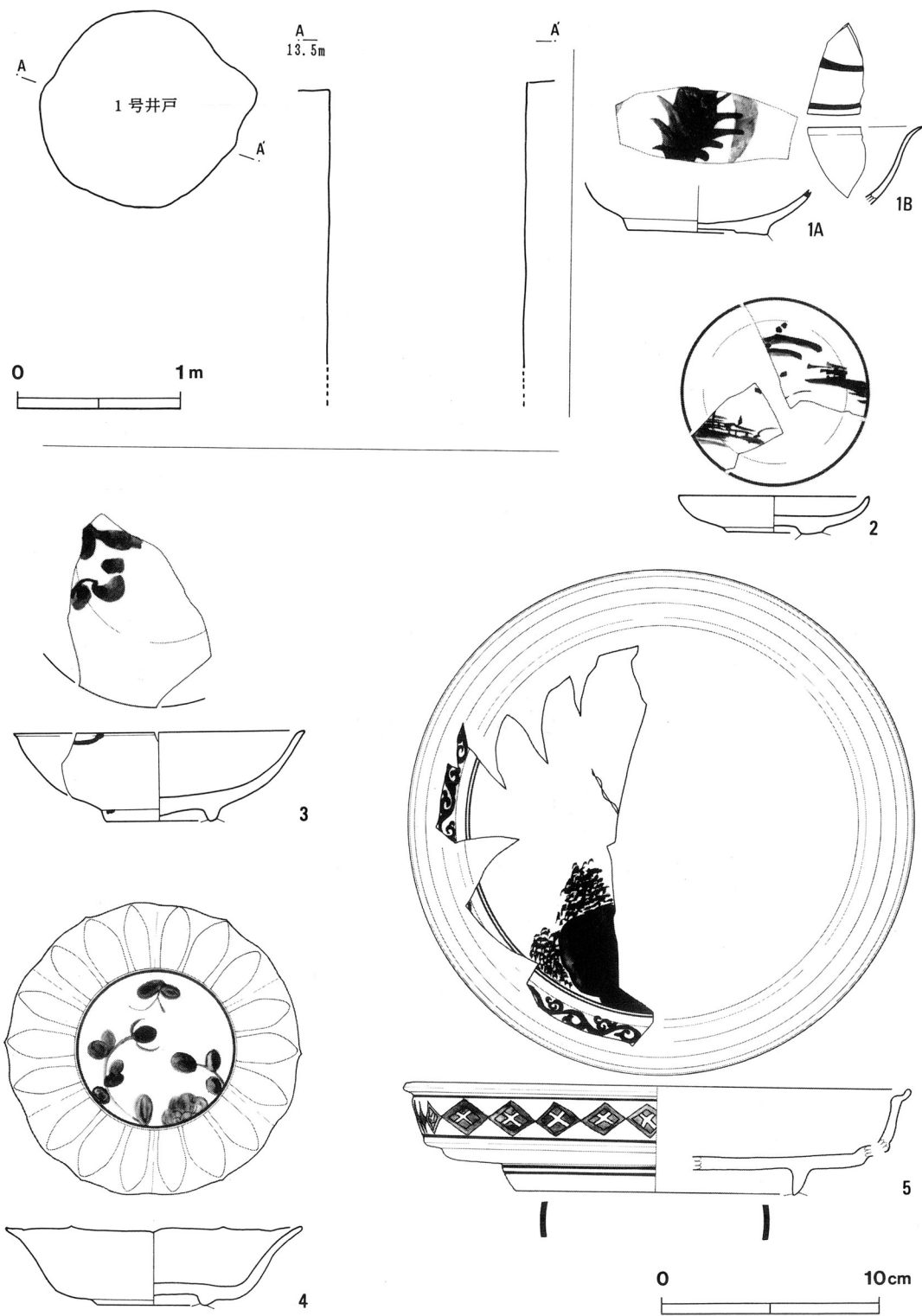


图 15 1号井戸，同出土遺物（1）  
Figure 15 Well No.1 and its artifacts

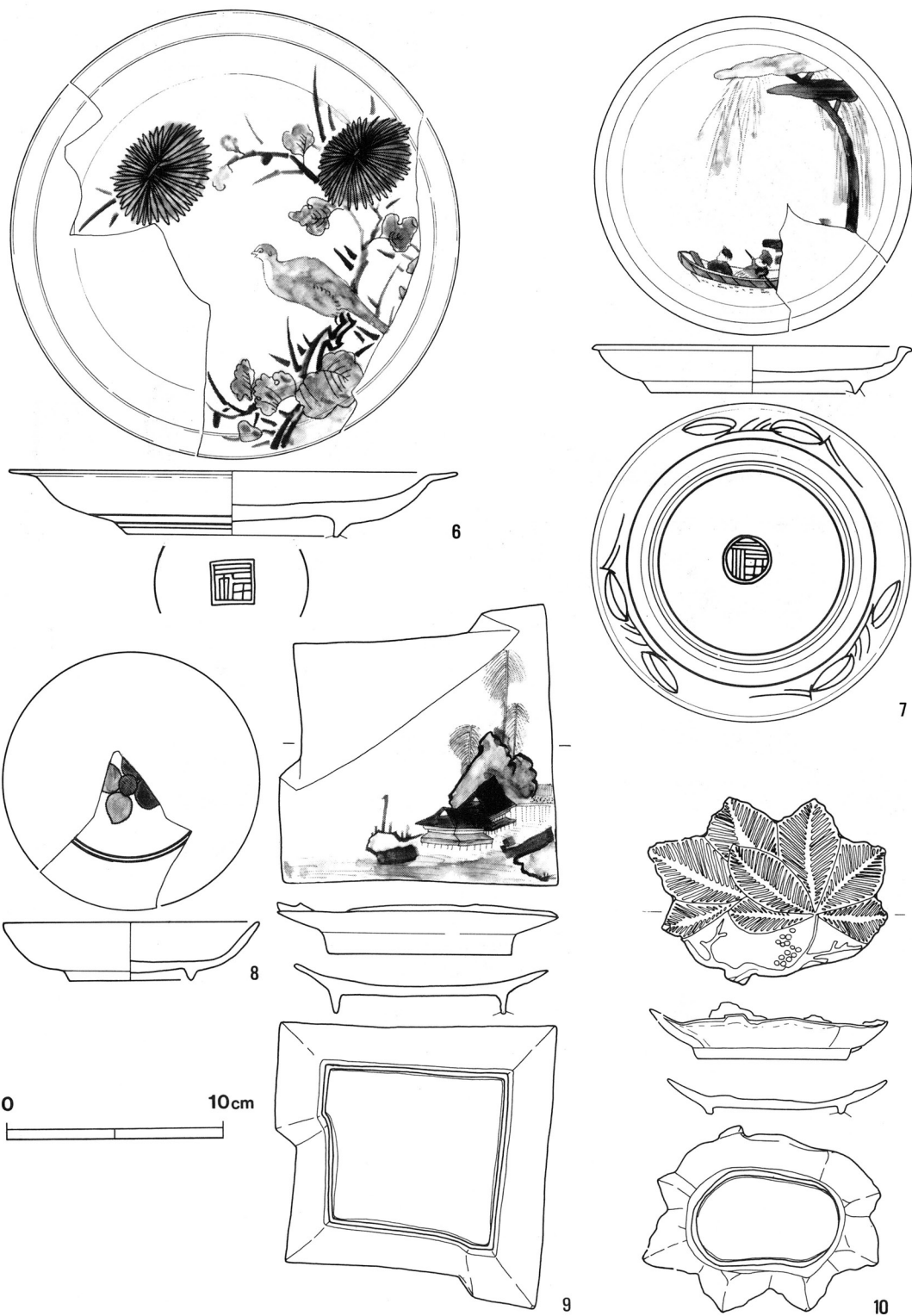


图 16 1号井戸出土遺物(2)  
Figure 16 Artifacts from Well No.1



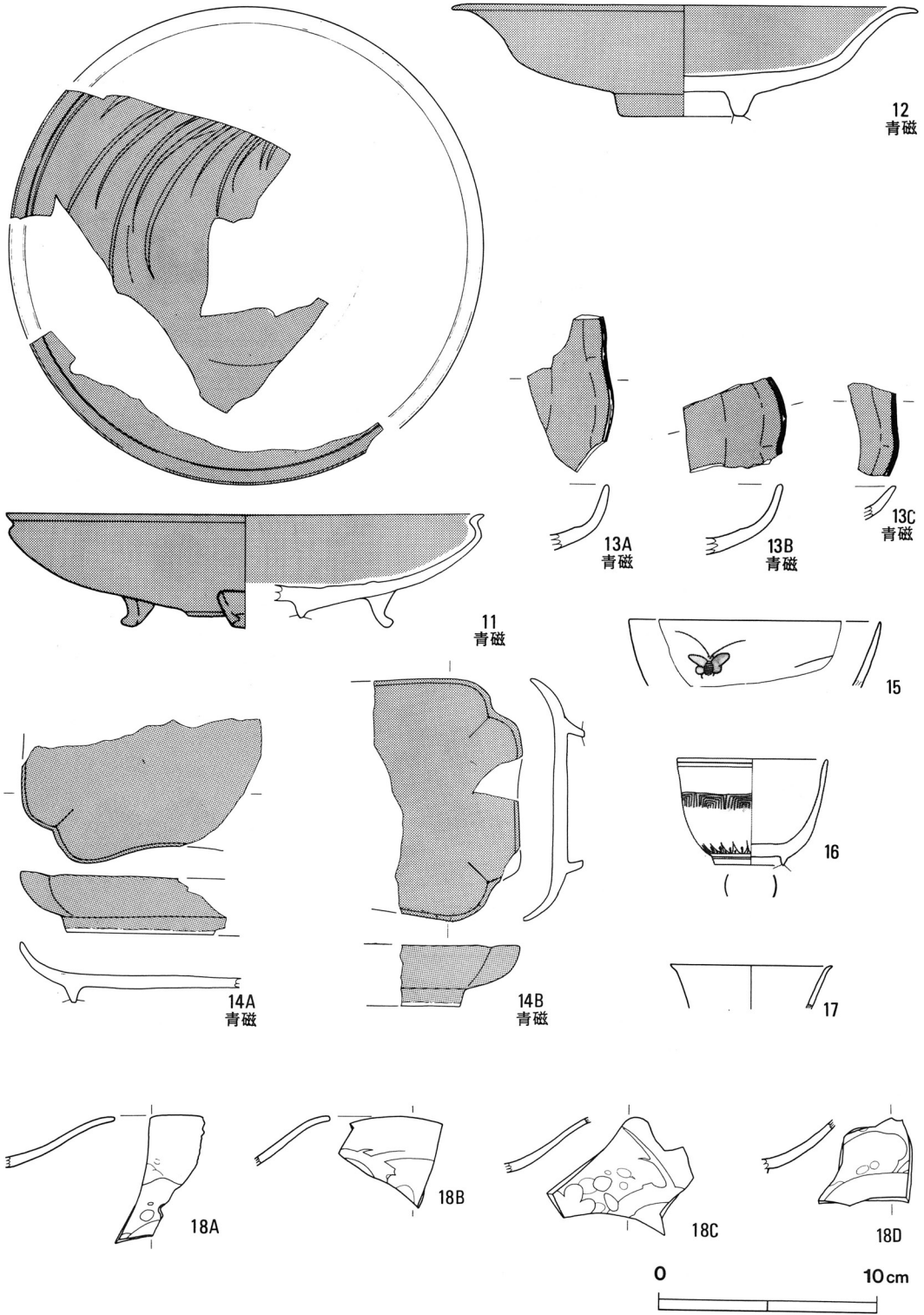


图 17 1号井戸出土遺物(3)  
Figure 17 Artifacts from Well No.1

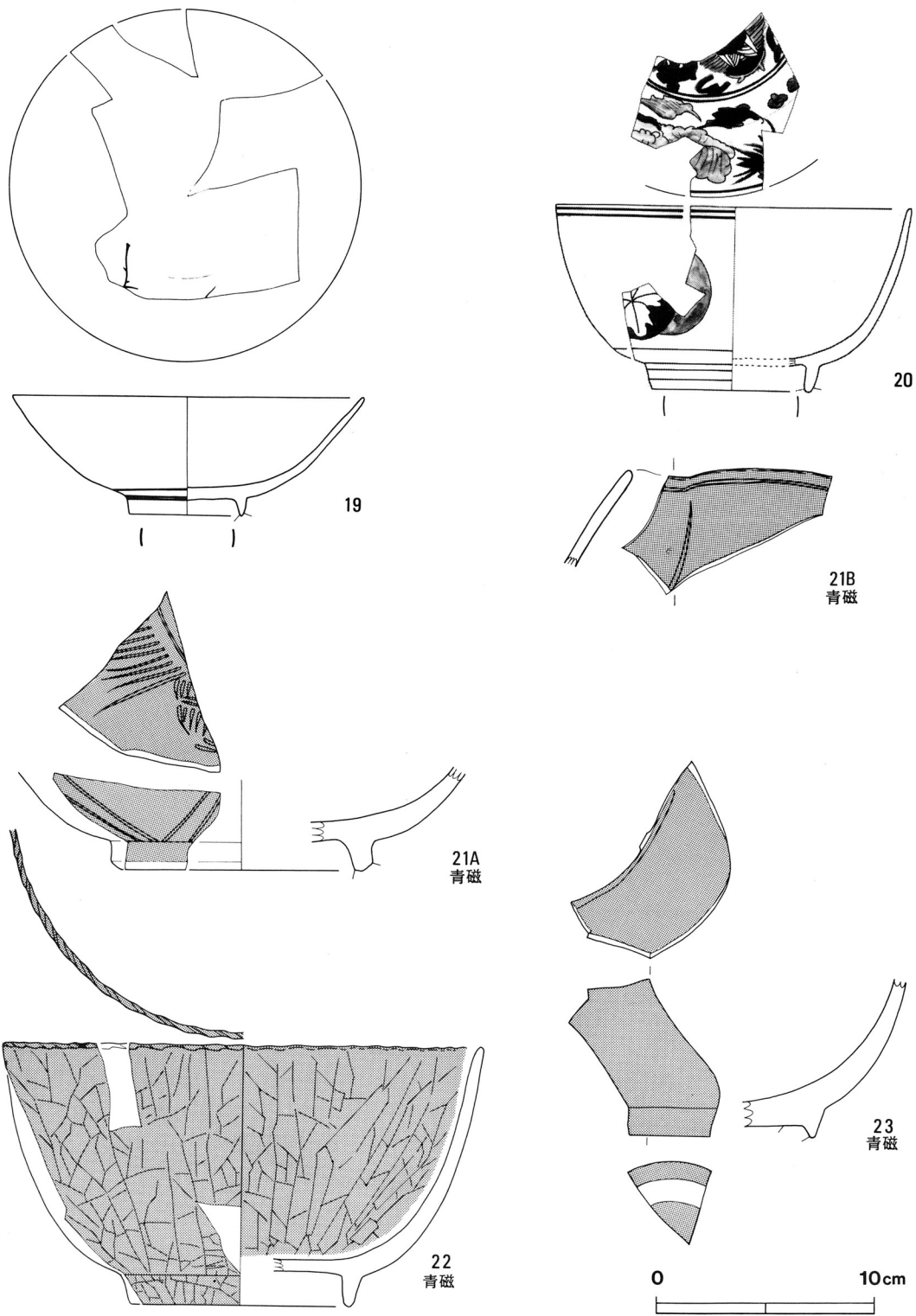


图 18 1号井戸出土遺物(4)  
Figure 18 Artifacts from Well No.1

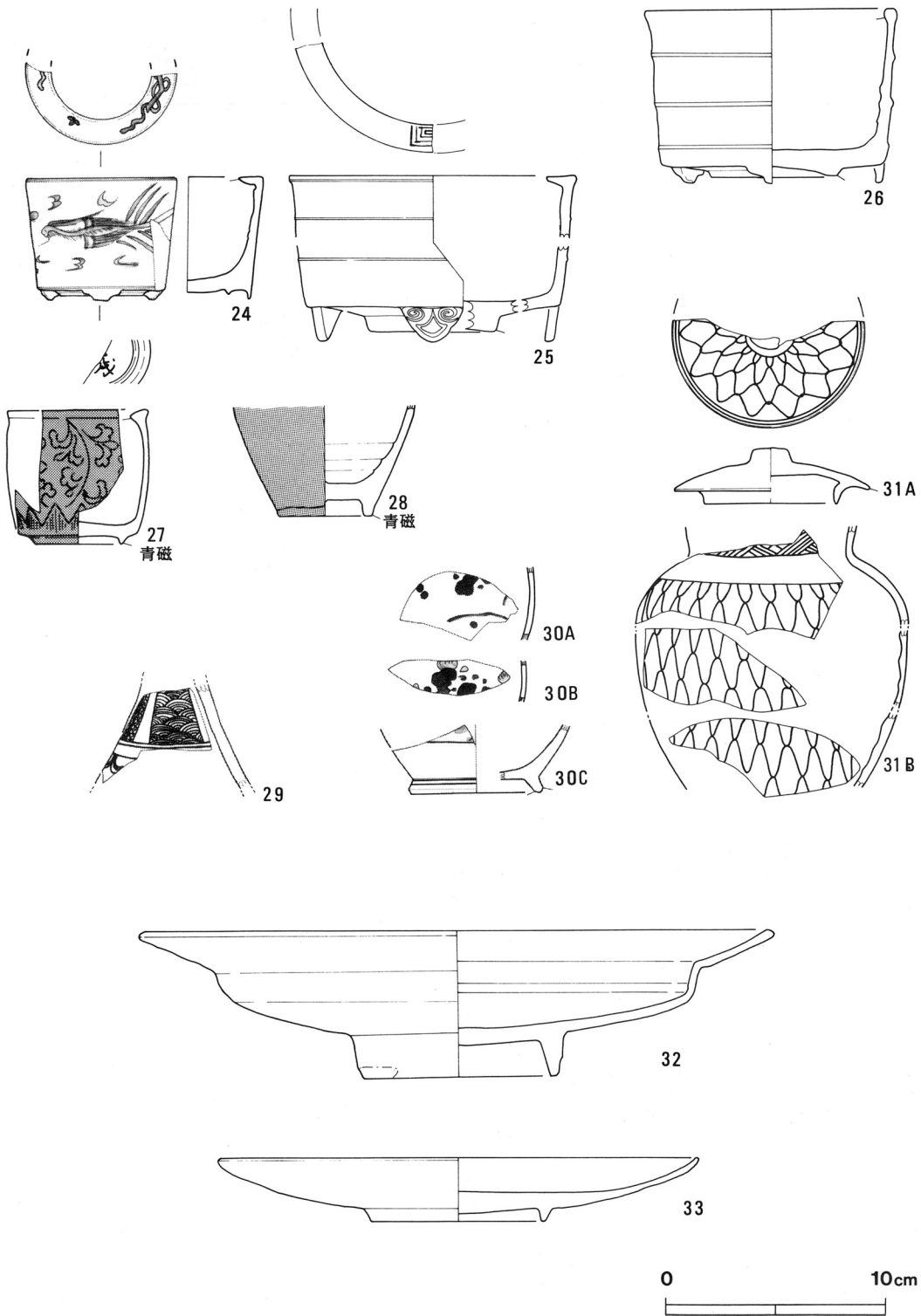


图 19 1号井戸出土遺物 (5)  
Figure 19 Artifacts from Well No.1

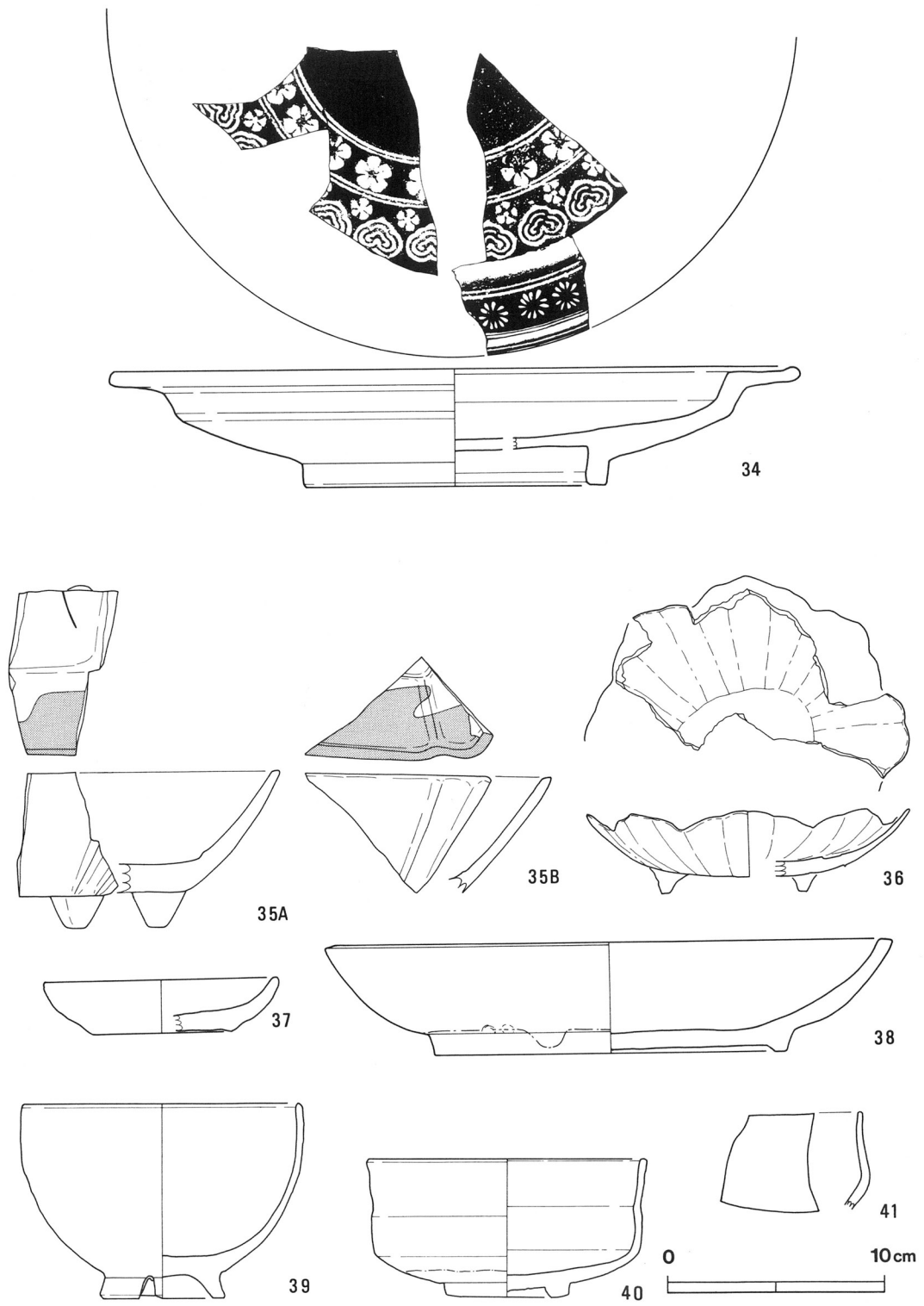


图 20 1号井戸出土遺物 (6)  
 Figure 20 Artifacts from Well No.1

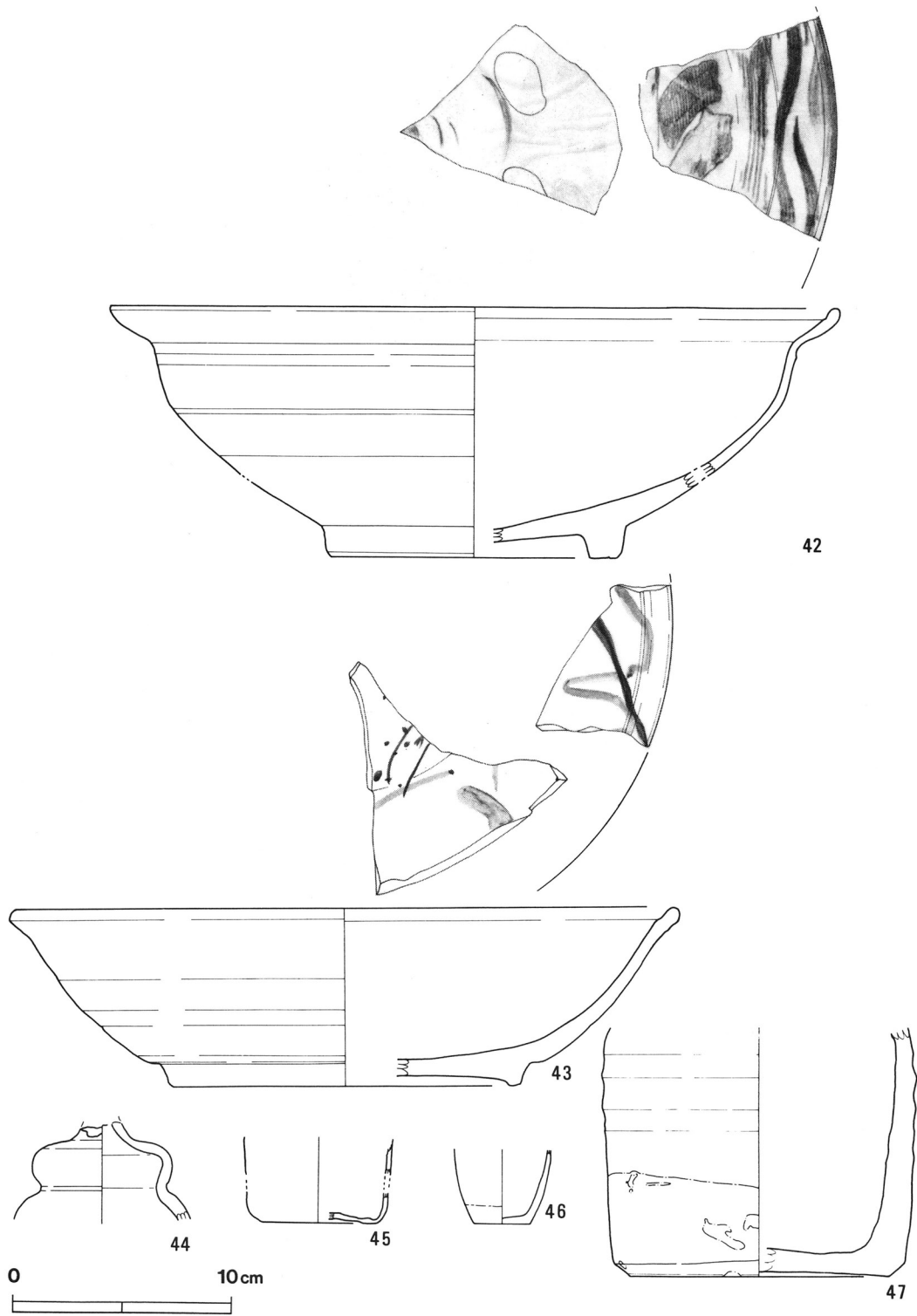
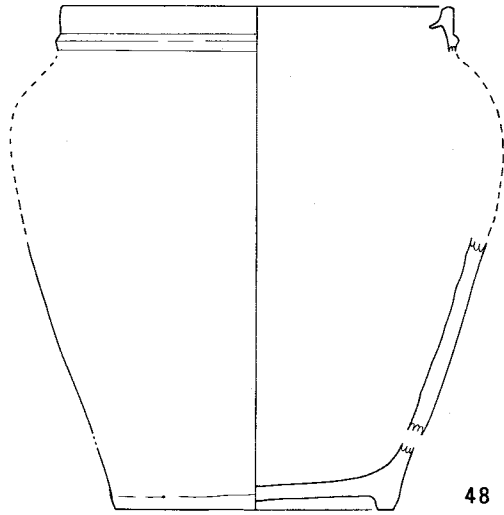
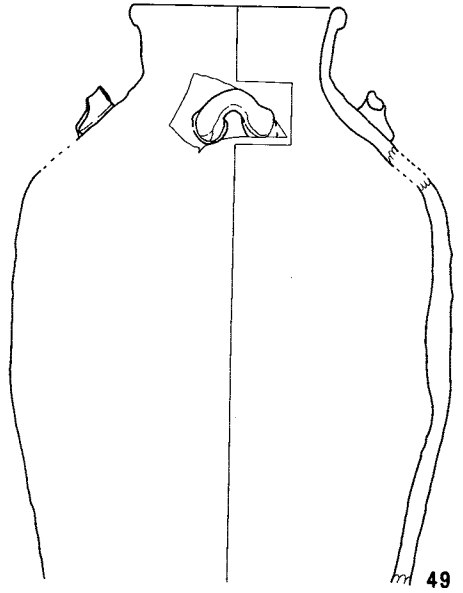


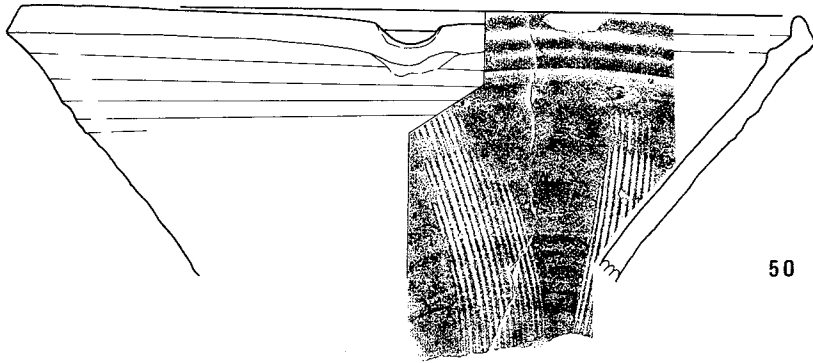
图 21 1号井戸出土遺物 (7)  
 Figure 21 Artifacts from Well No.1



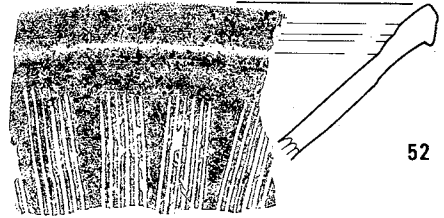
48



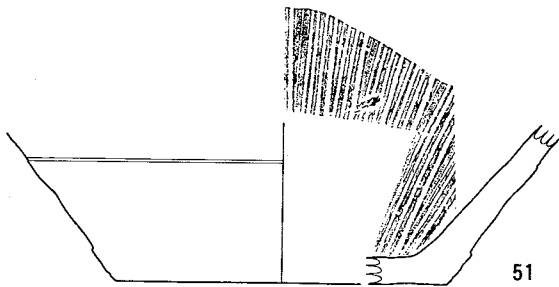
49



50



52



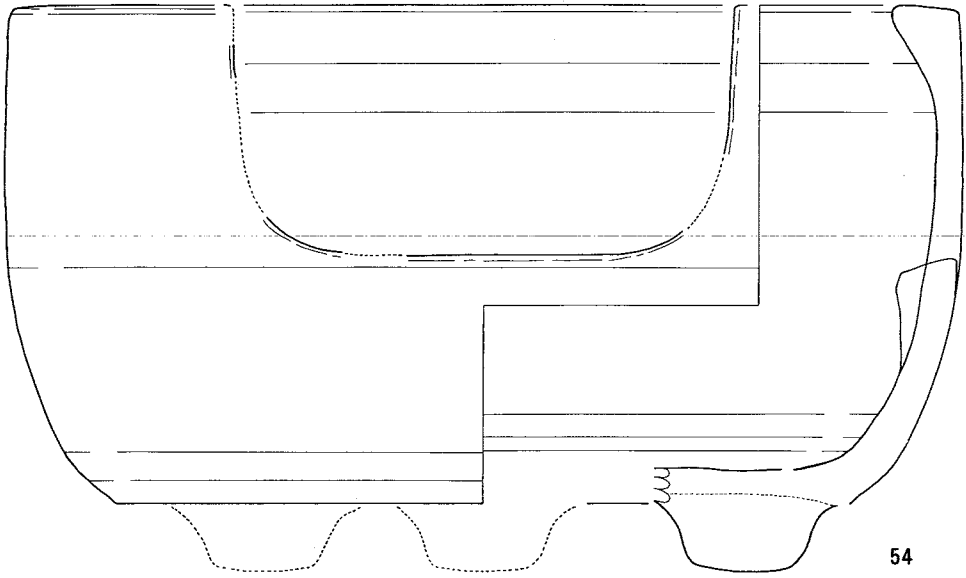
51



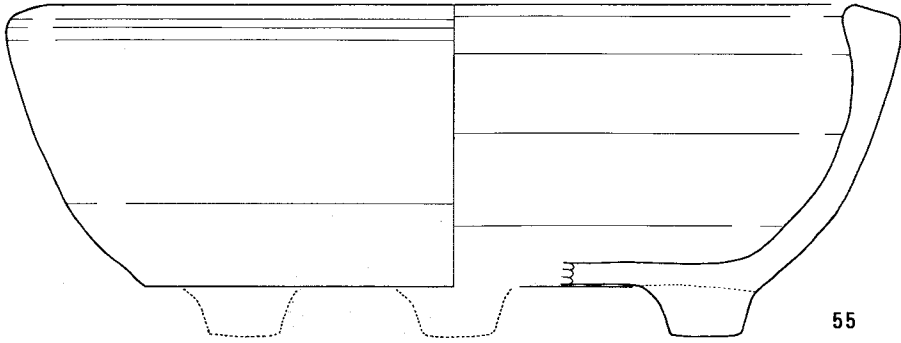
53



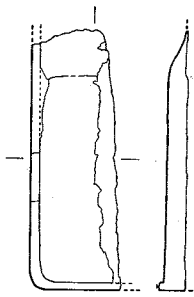
图 22 1号井戸出土遺物(8)  
Figure 22 Artifacts from Well No.1



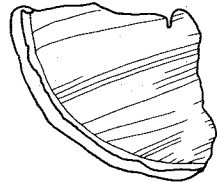
54



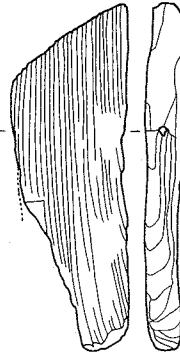
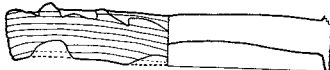
55



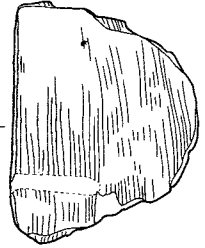
56



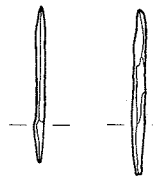
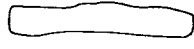
57



58



59



60



61

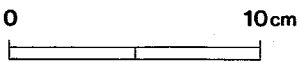


图 23 1号井戸出土遺物 (9)  
Figure 23 Artifacts from Well No.1

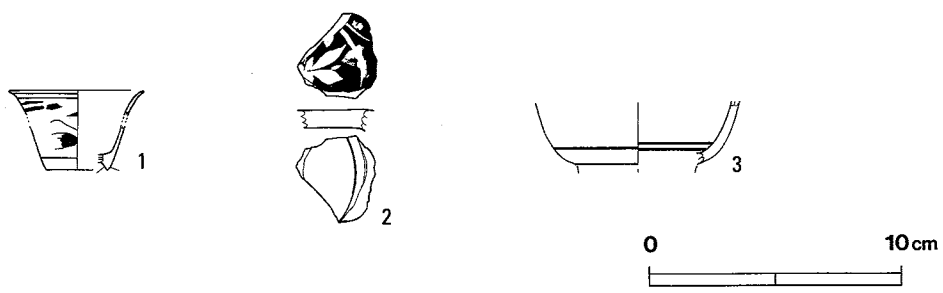
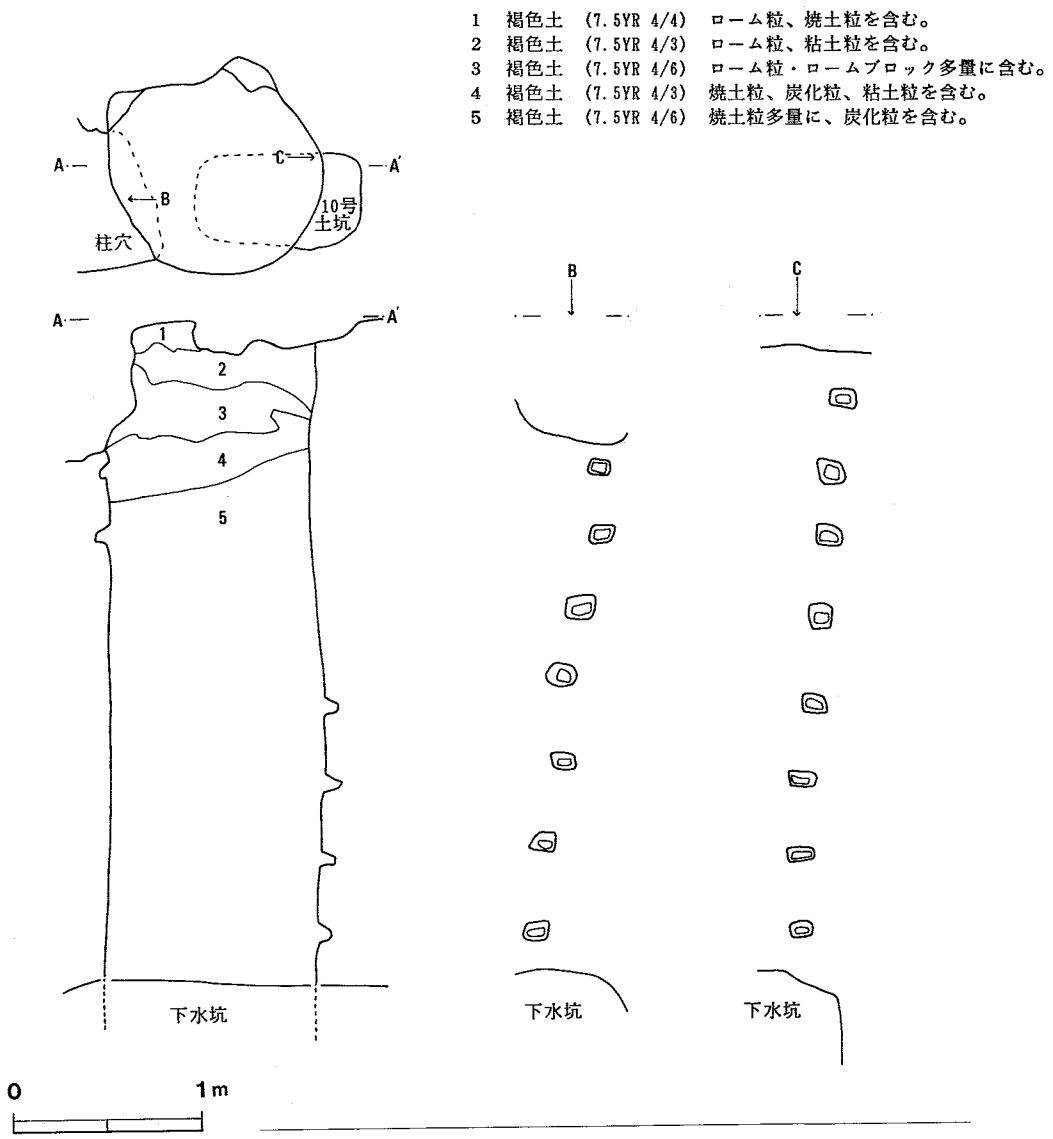


图 24 2号井戸, 同出土遺物 (1)  
 Figure 24 Well No.2 and its artifacts



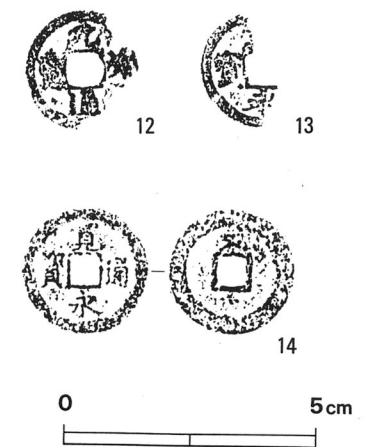
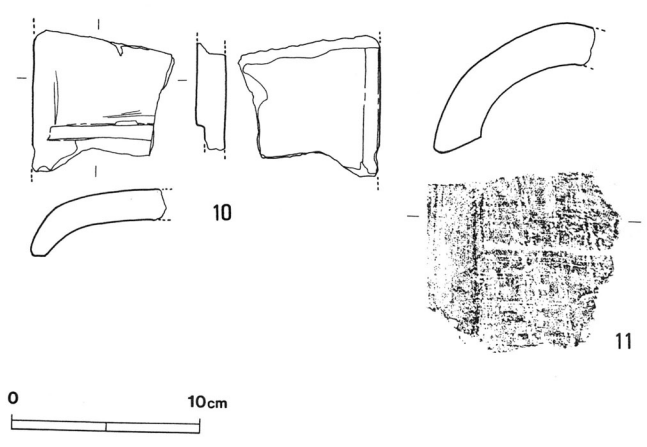
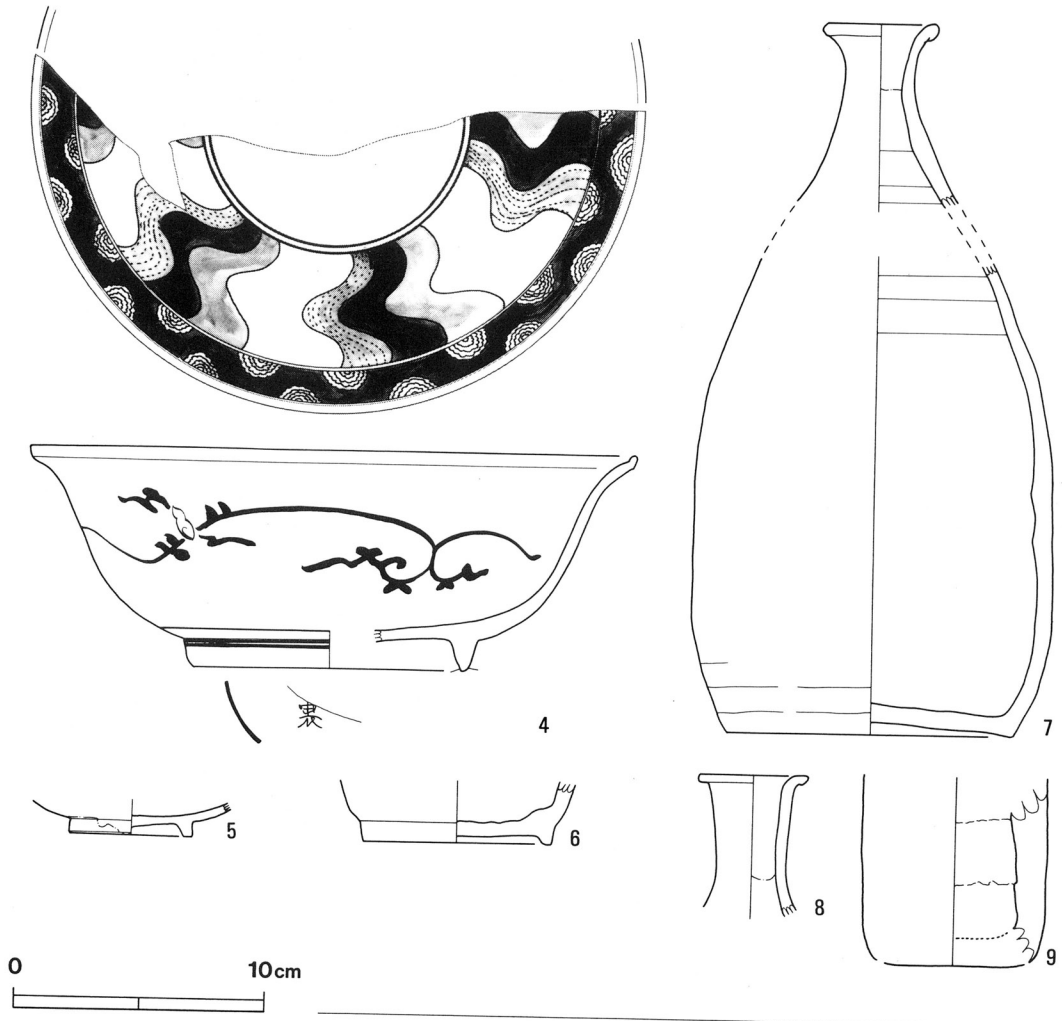


图 25 2号井戸出土遺物(2)  
Figure 25 Artifacts from Well No.2

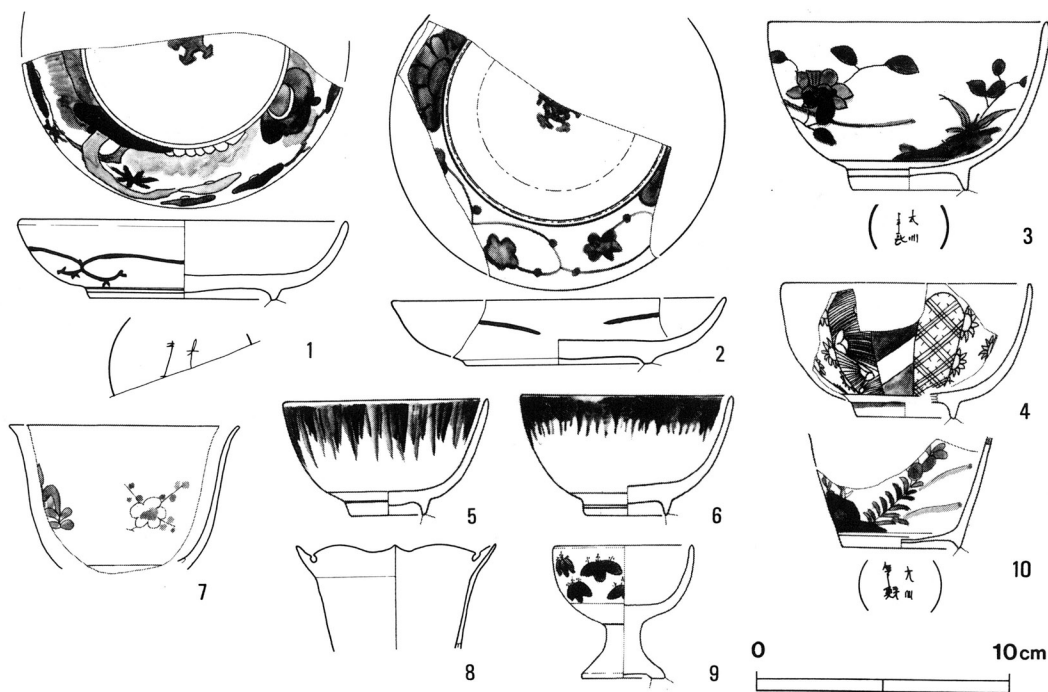
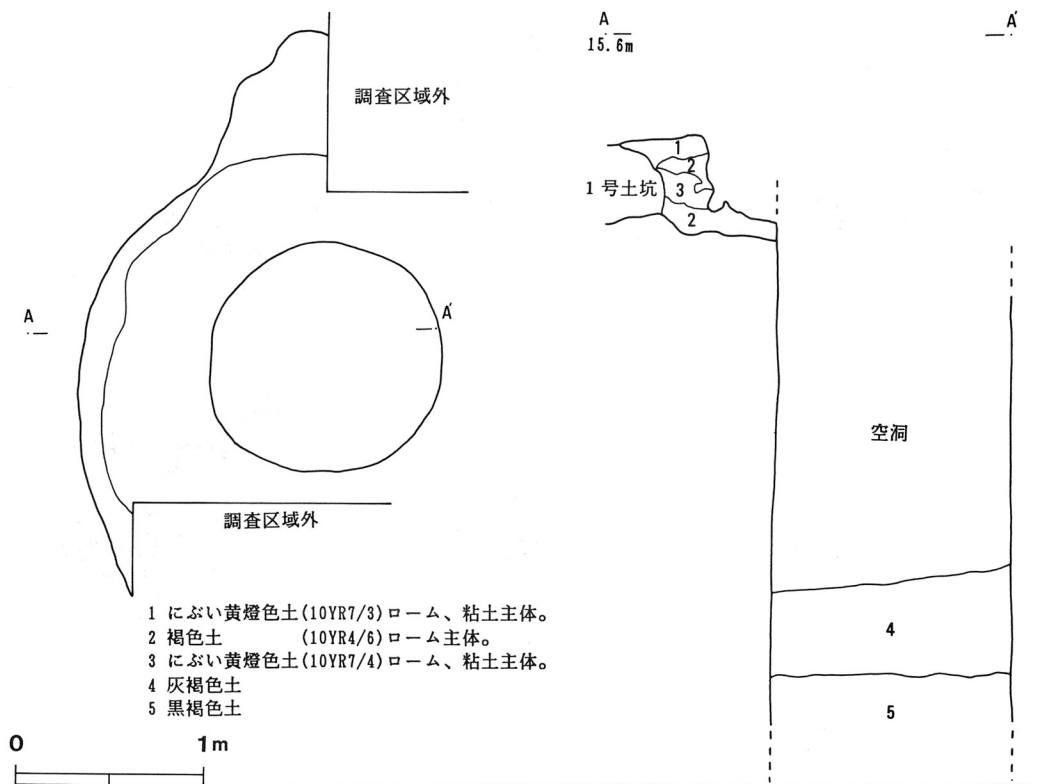


図 26 3号井戸，同出土遺物 (1)  
 Figure 26 Well No.3 and its artifacts

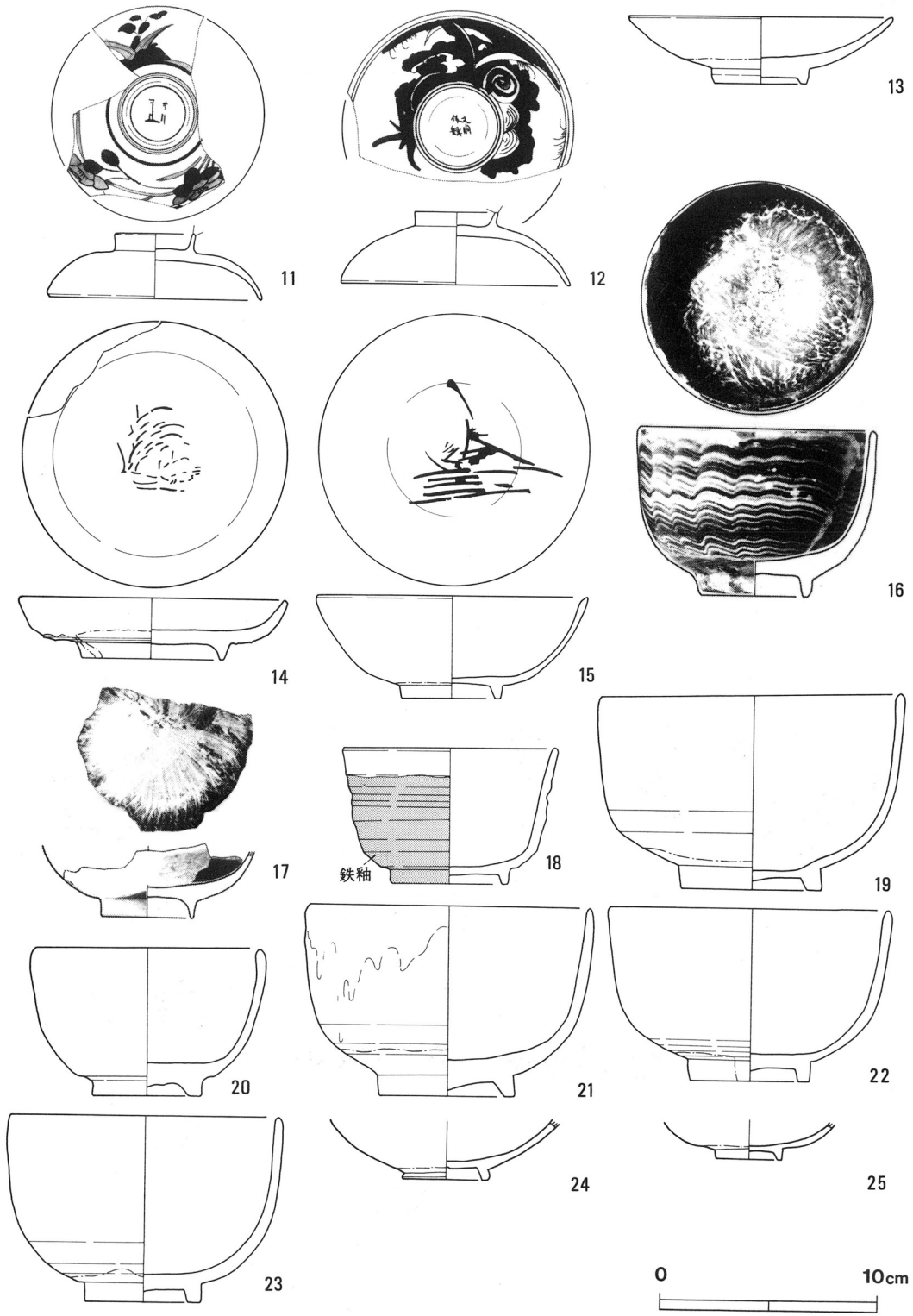


图 27 3号井戸出土遺物(2)  
 Figure 27 Artifacts from Well No.3

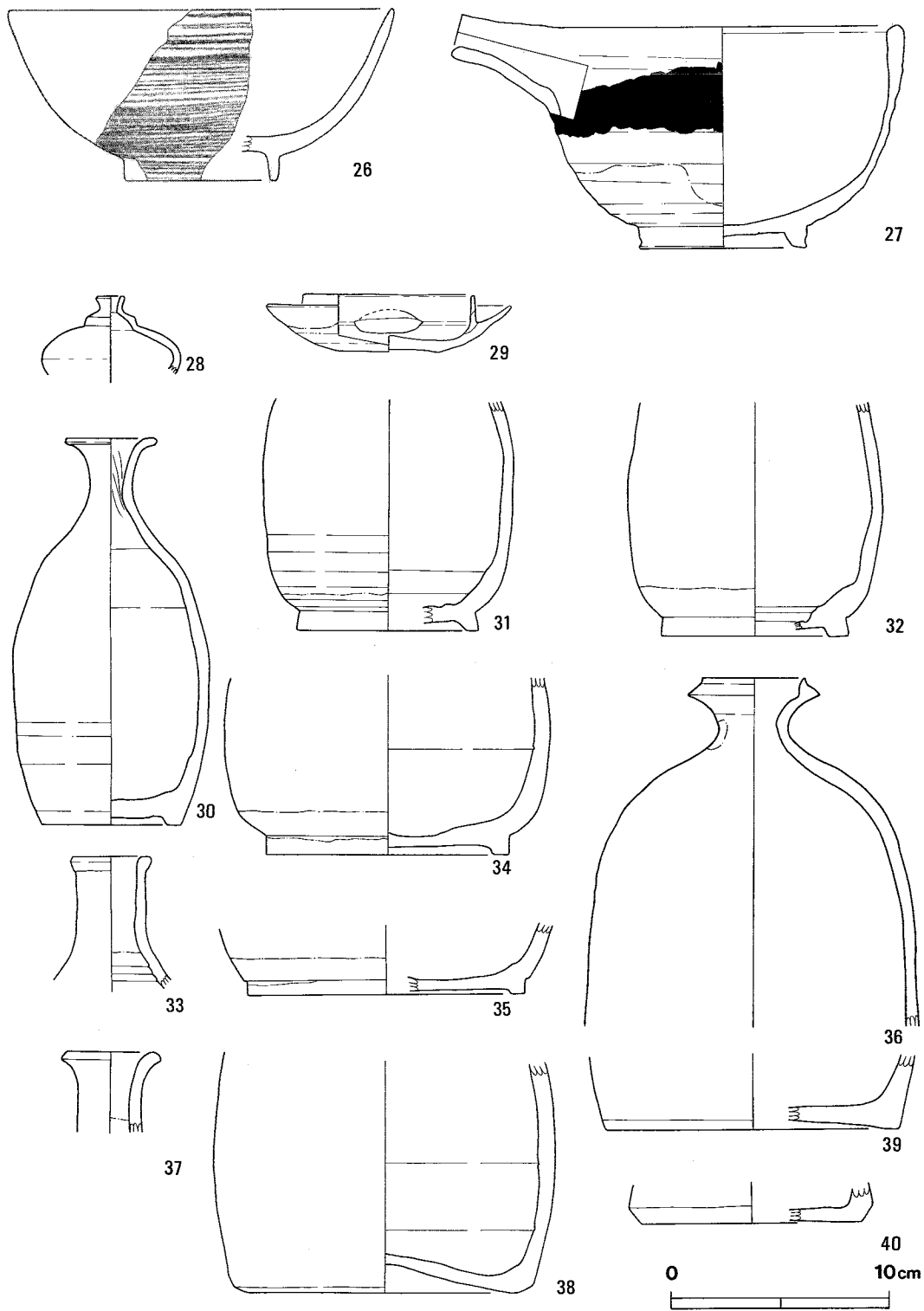


图 28 3号井戸出土遺物(3)  
Figure 28 Artifacts from Well No.3

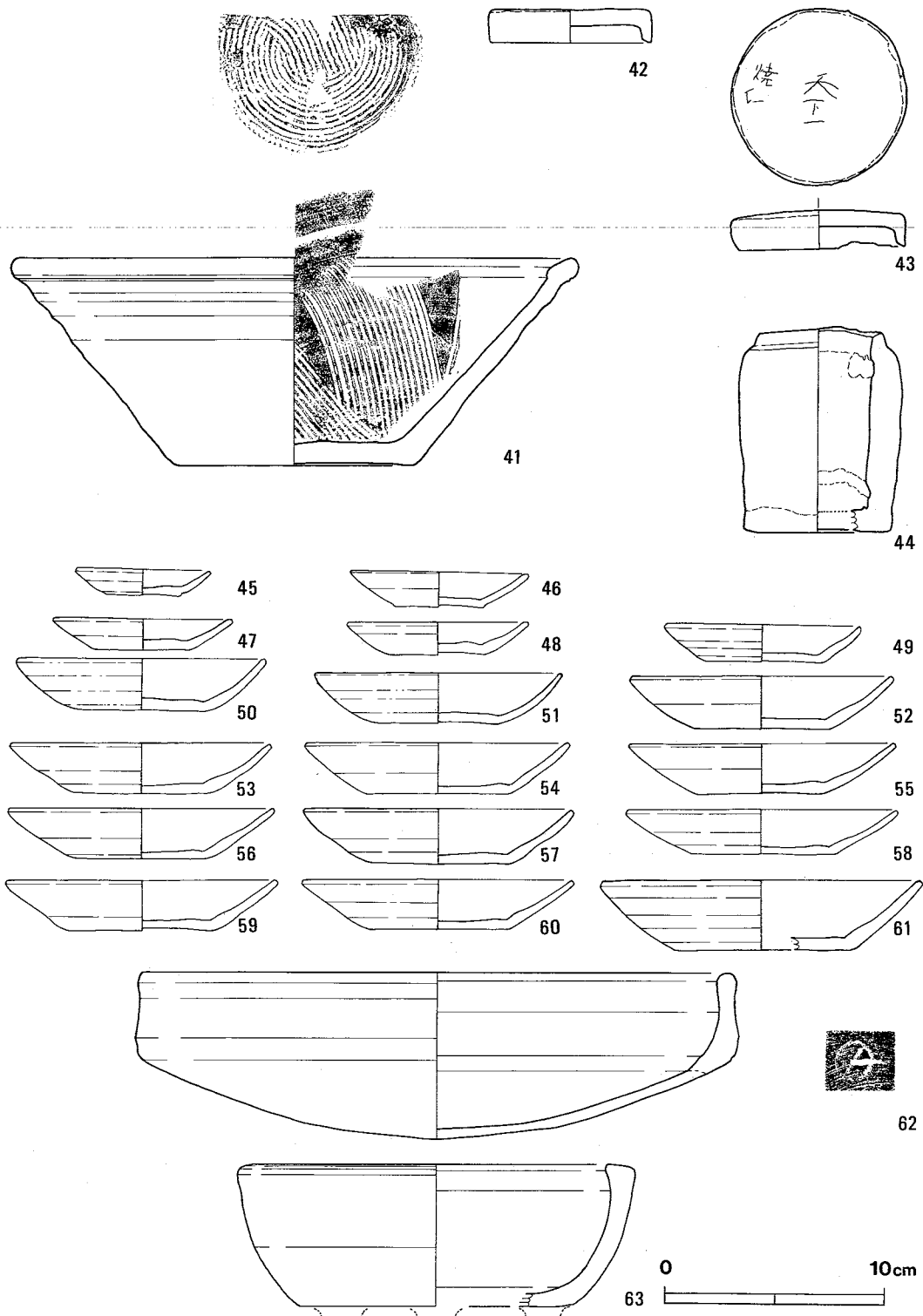


图 29 3号井戸出土遺物(4)  
 Figure 29 Artifacts from Well No.3

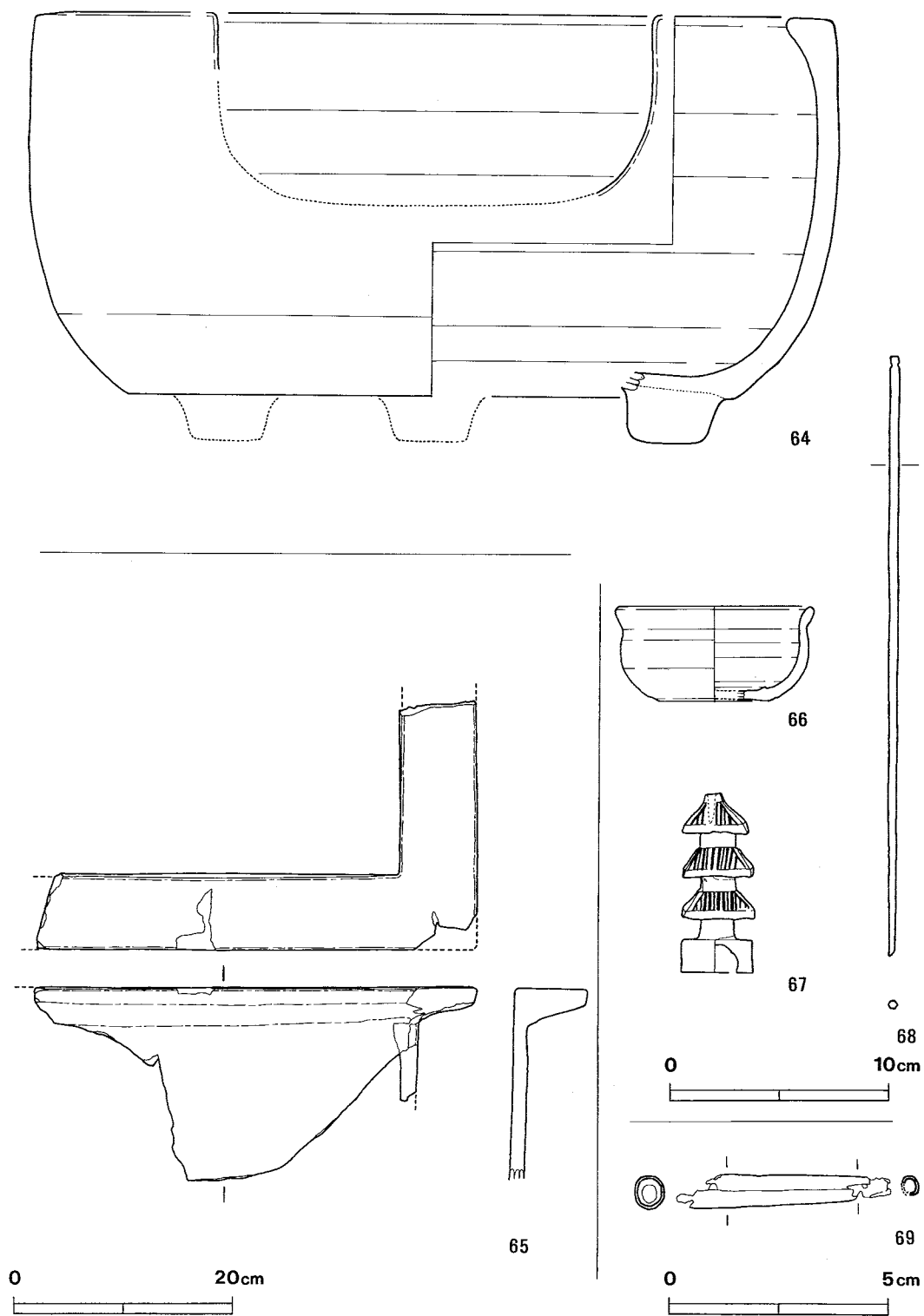
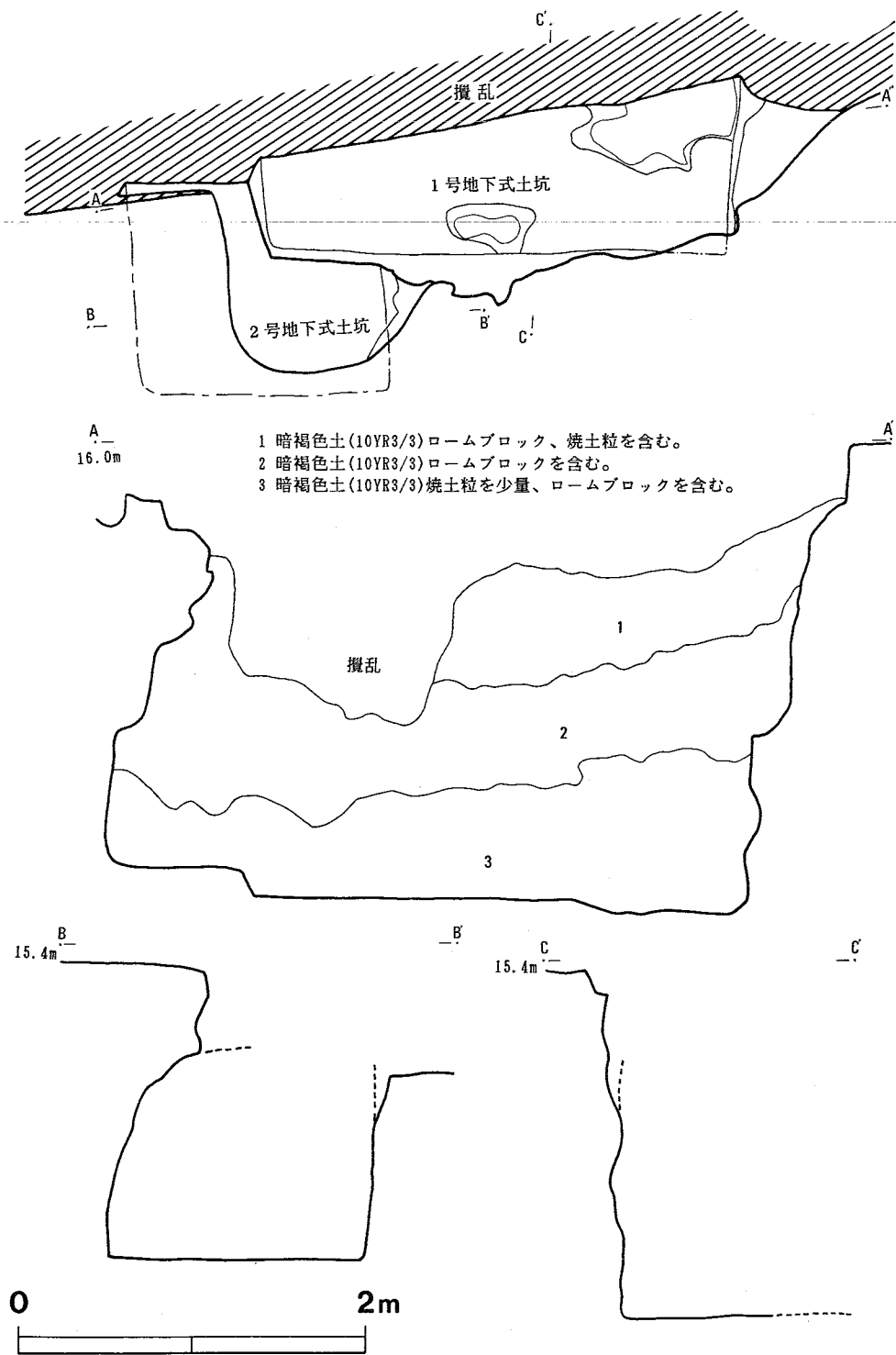


图 30 3号井戸出土遺物 (5)  
 Figure 30 Artifacts from Well No.3



- 1 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック、焼土粒を含む。
- 2 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロックを含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/3)焼土粒を少量、ロームブロックを含む。

図 31 1・2号地下式土坑  
 Figure 31 Cellars No.1 and 2

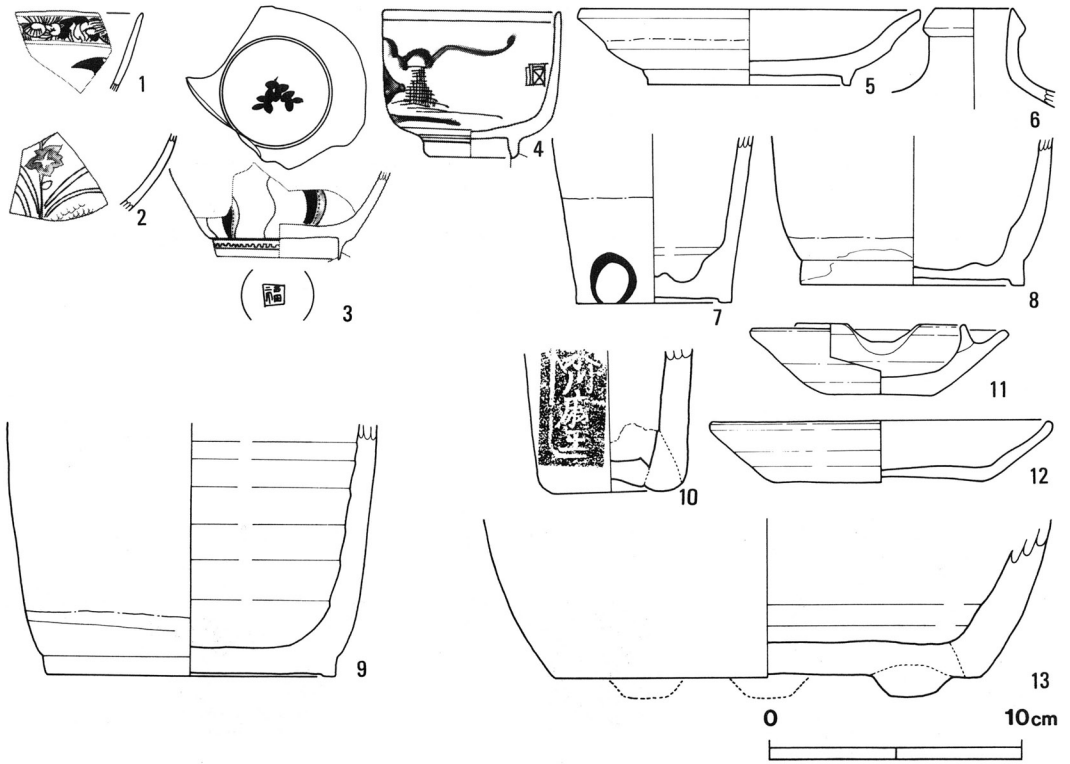


图 32 1·2 号地下式土坑一括出土遗物

Figure 32 Artifacts from Cellars No.1 or 2



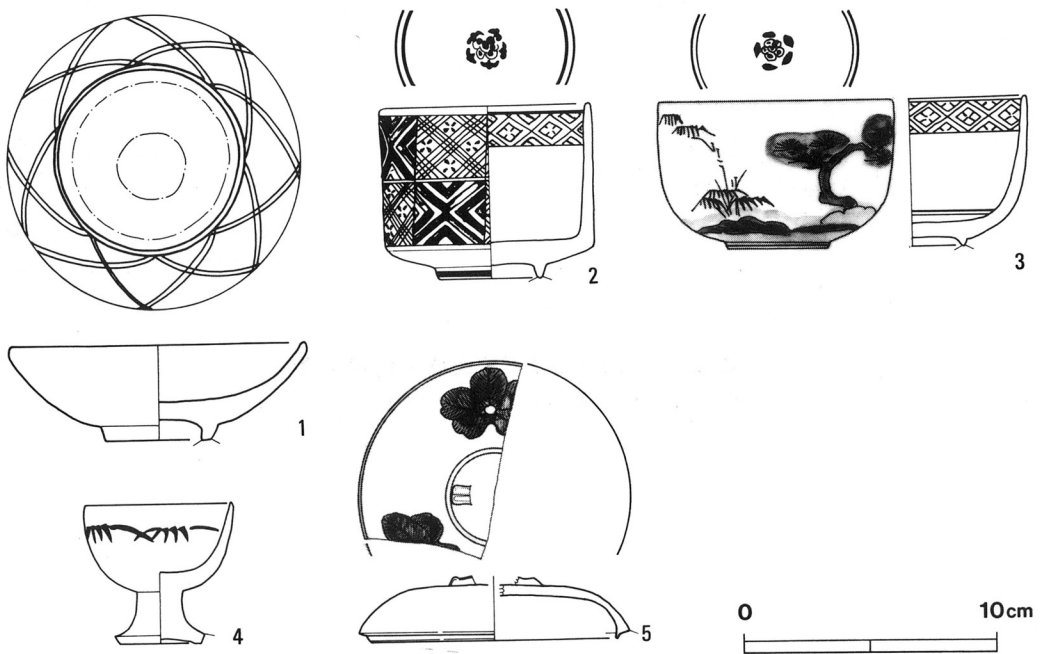
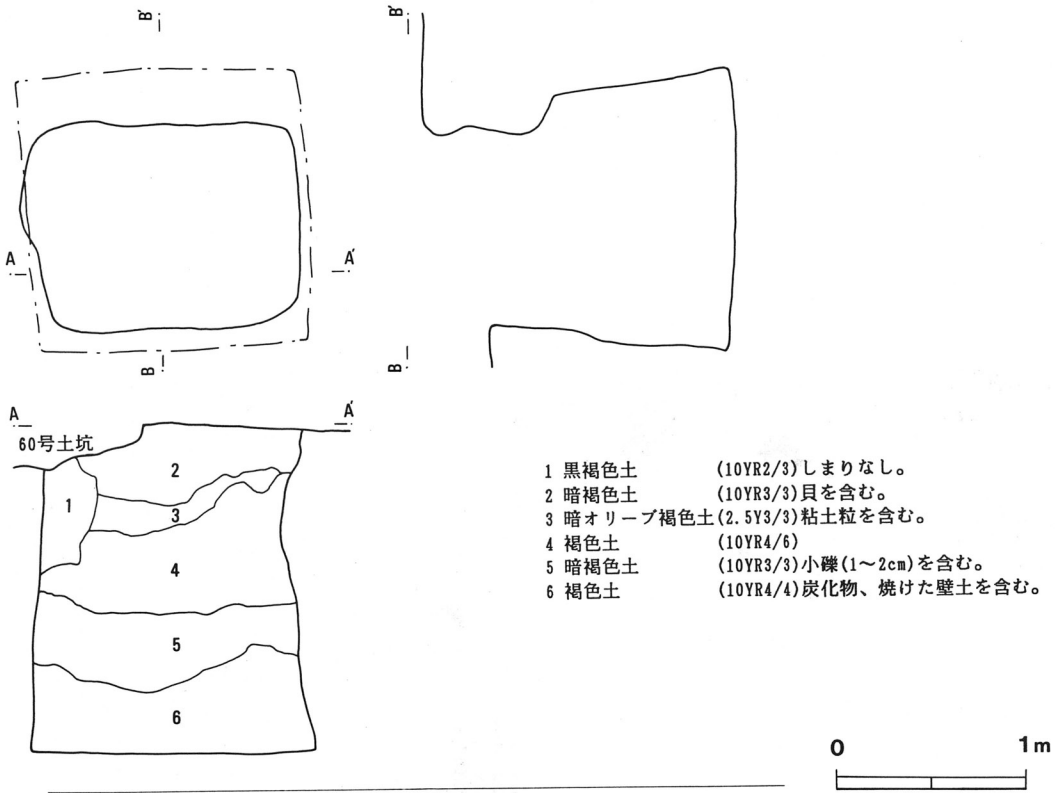


図 33 3号地下式土坑, 同出土遺物 (1)

Figure 33 Cellar No.3 and its artifacts

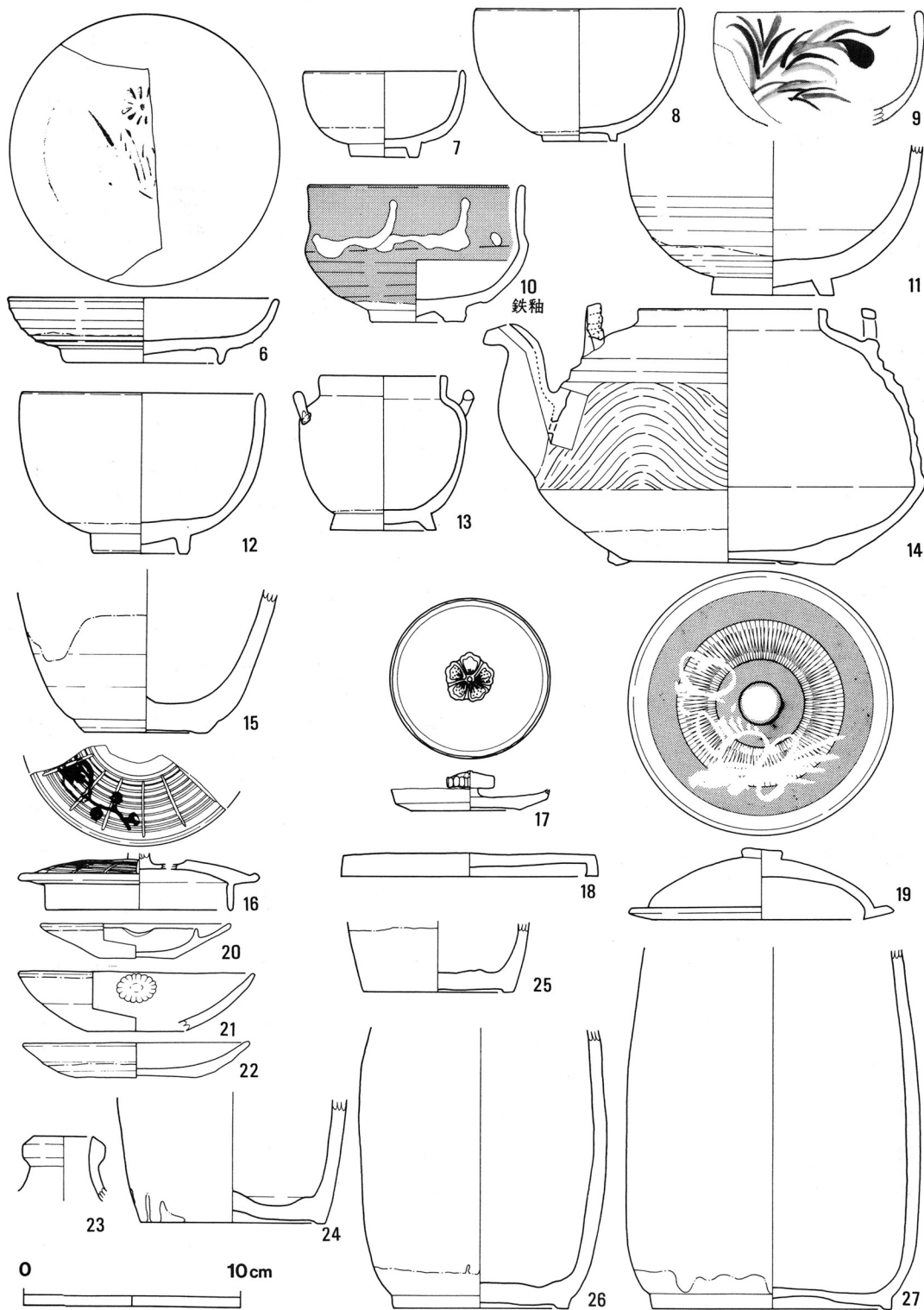


图 34 3号地下式土坑出土遗物(2)

Figure 34 Artifacts from Cellar No.3

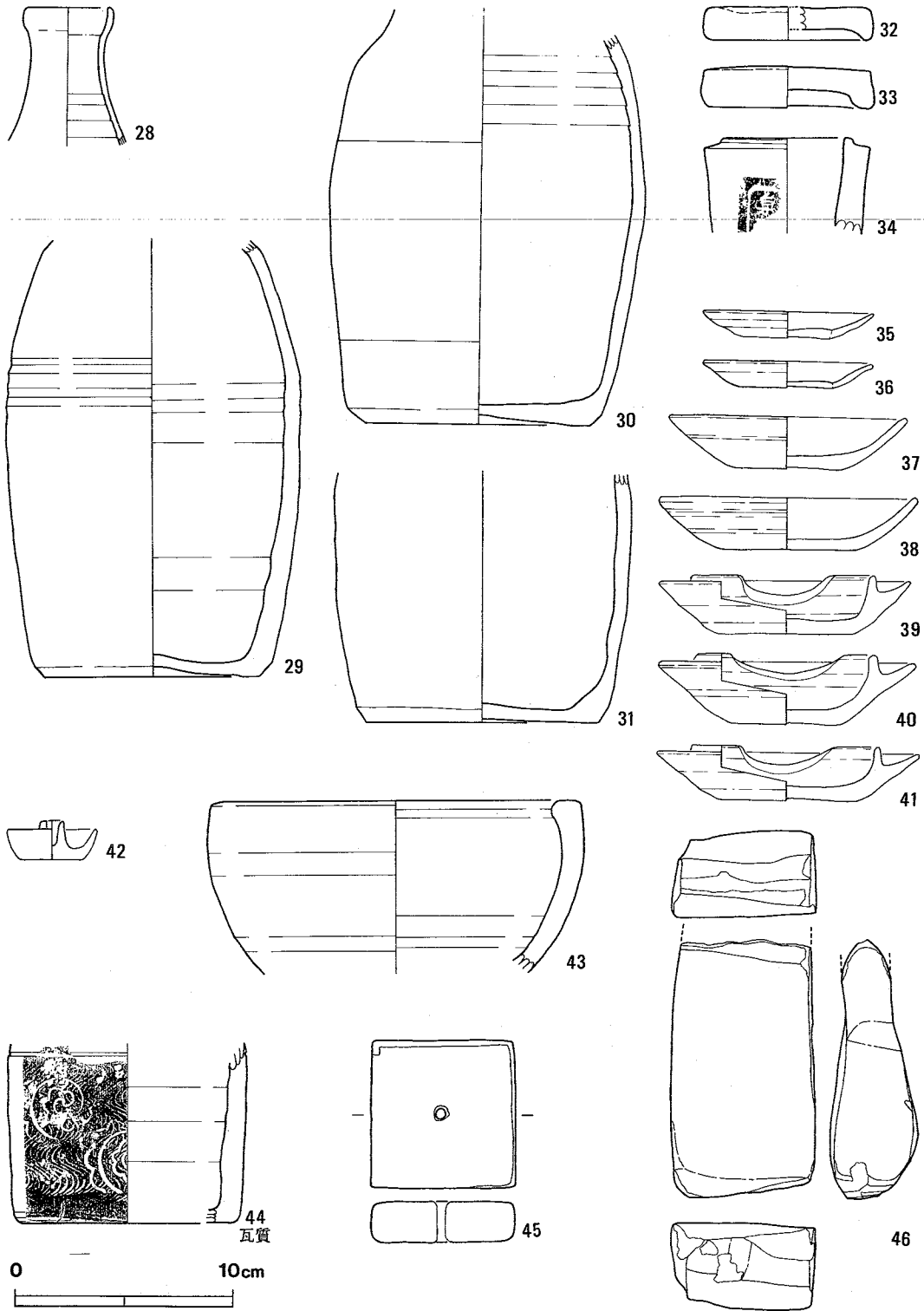


图 35 3号地下式土坑出土遺物 (3)

Figure 35 Artifacts from Cellar No.3

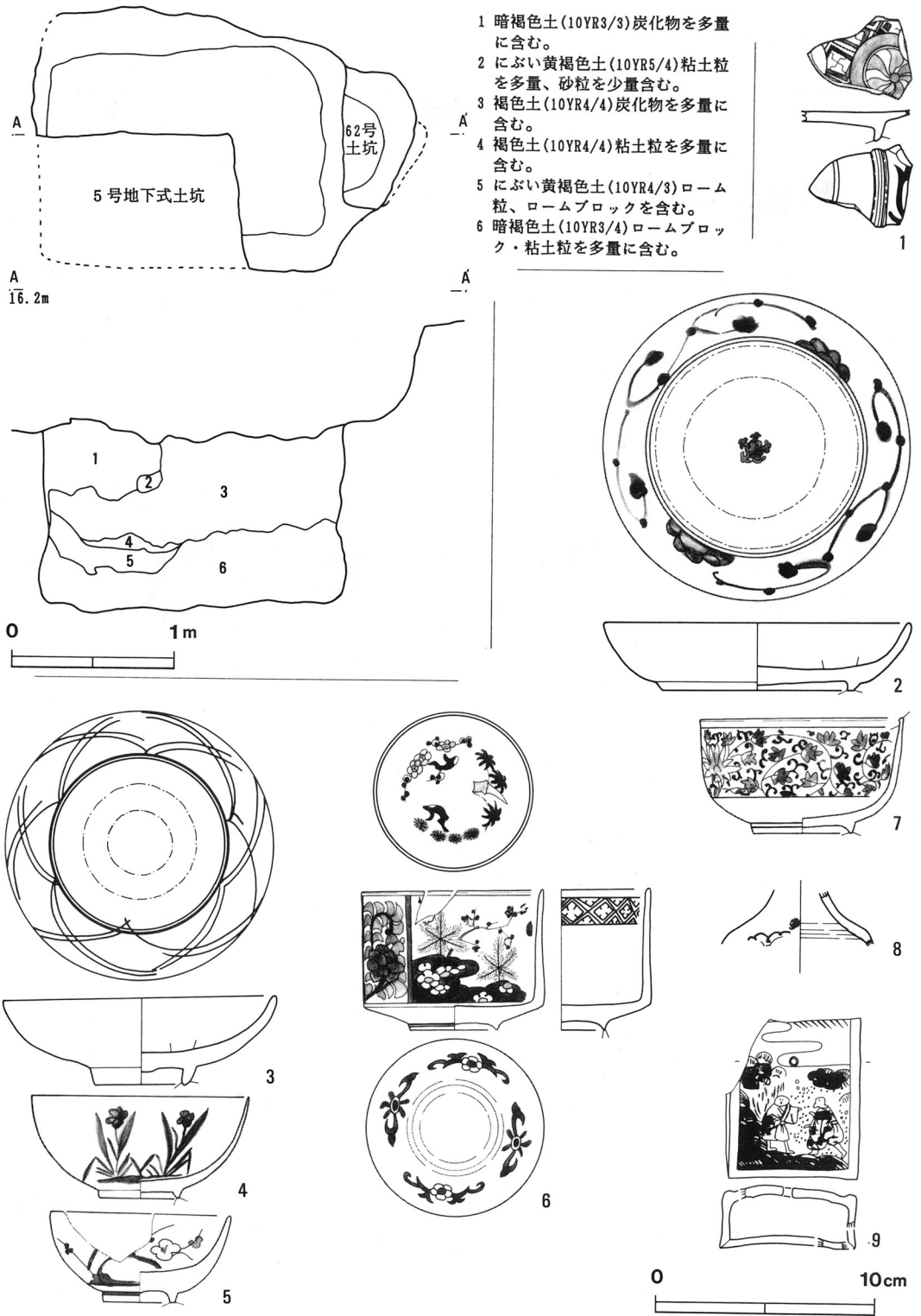


图 36 4号地下式土坑, 同出土遺物 (1)

Figure 36 Cellar No.4 and its artifacts

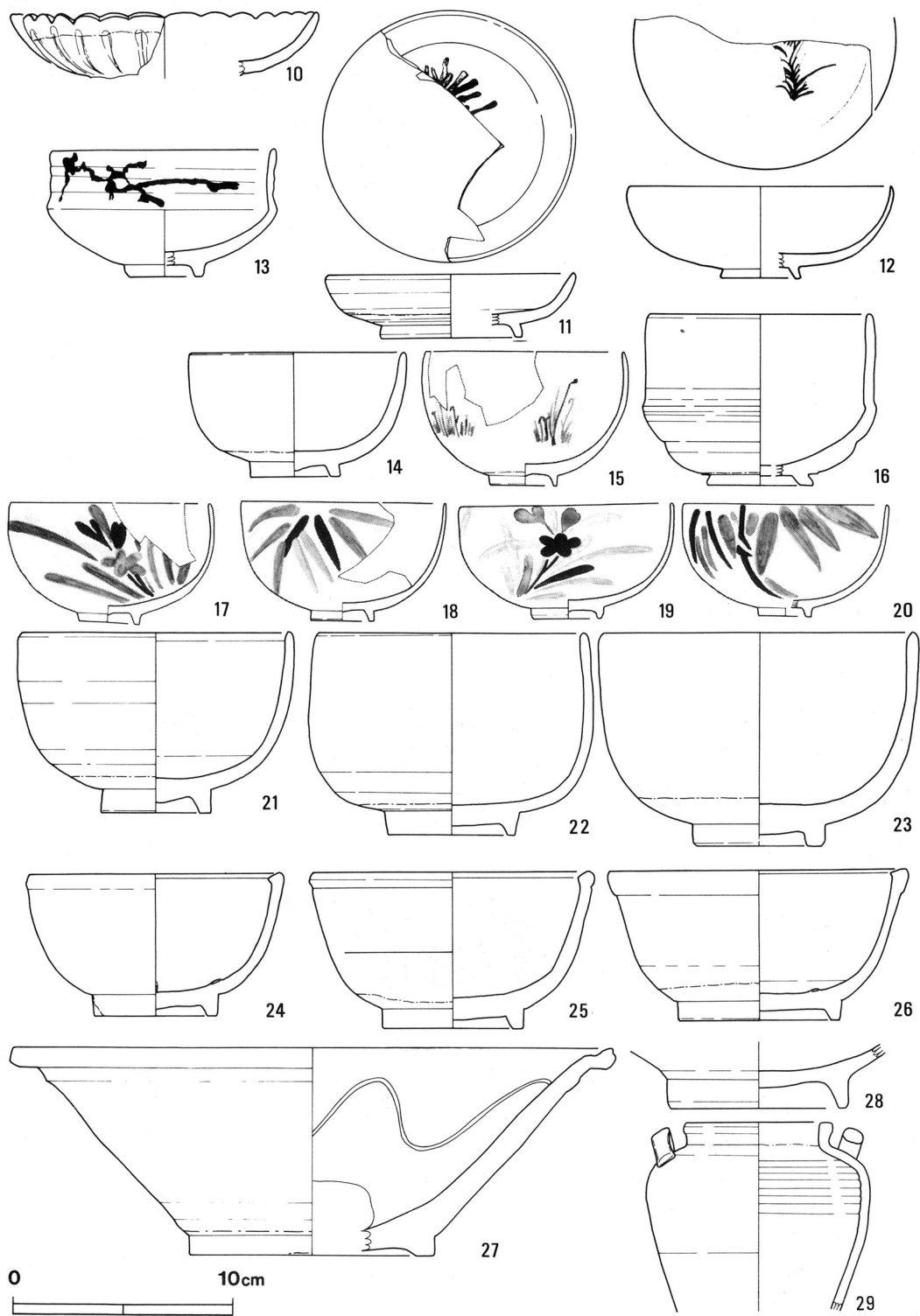


图 37 4号地下式土坑出土遗物(2)  
Figure 37 Artifacts from Cellar No. 4

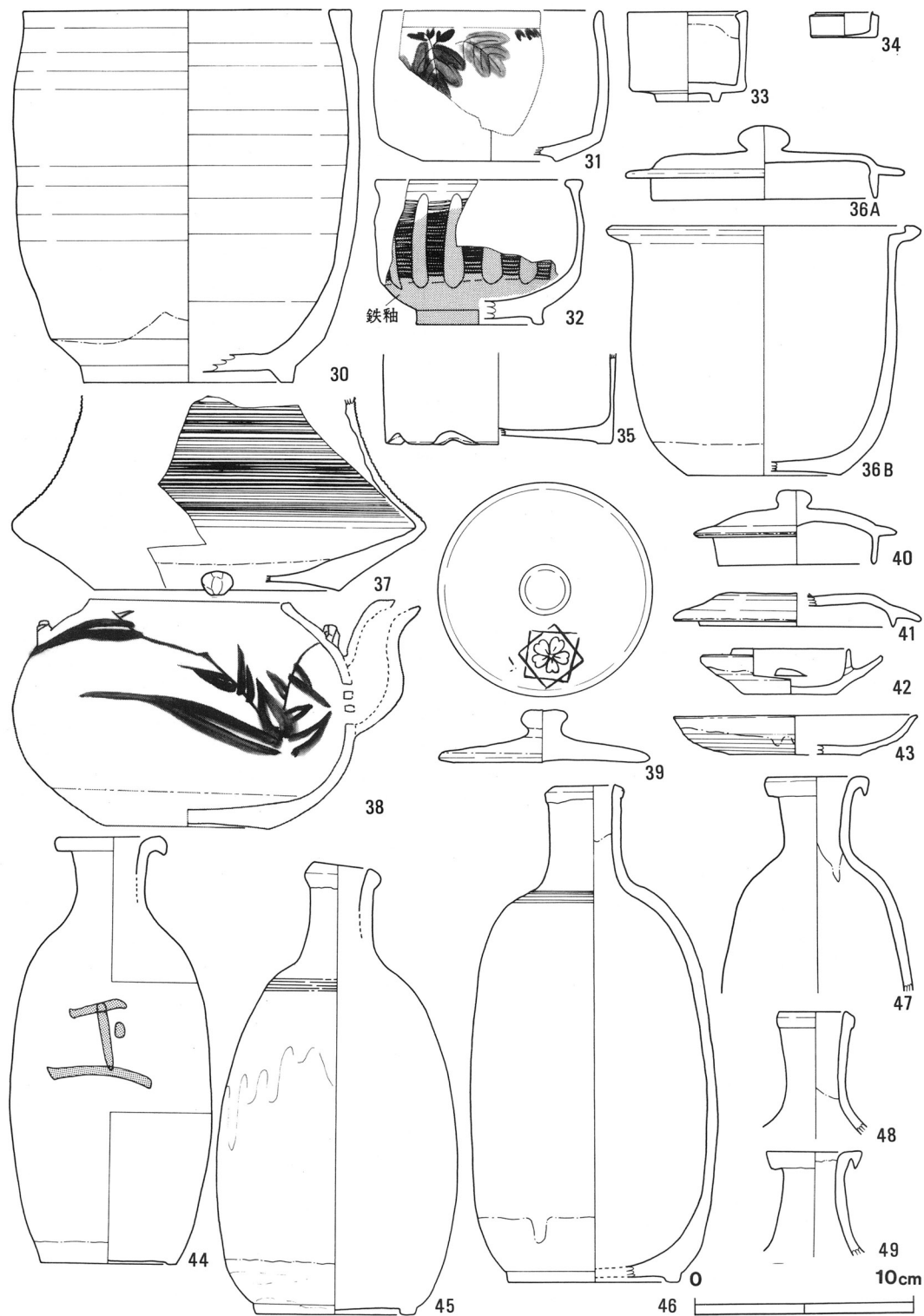


图 38 4 号地下式土坑出土遗物 (3)

Figure 38 Artifacts from Cellar No.4

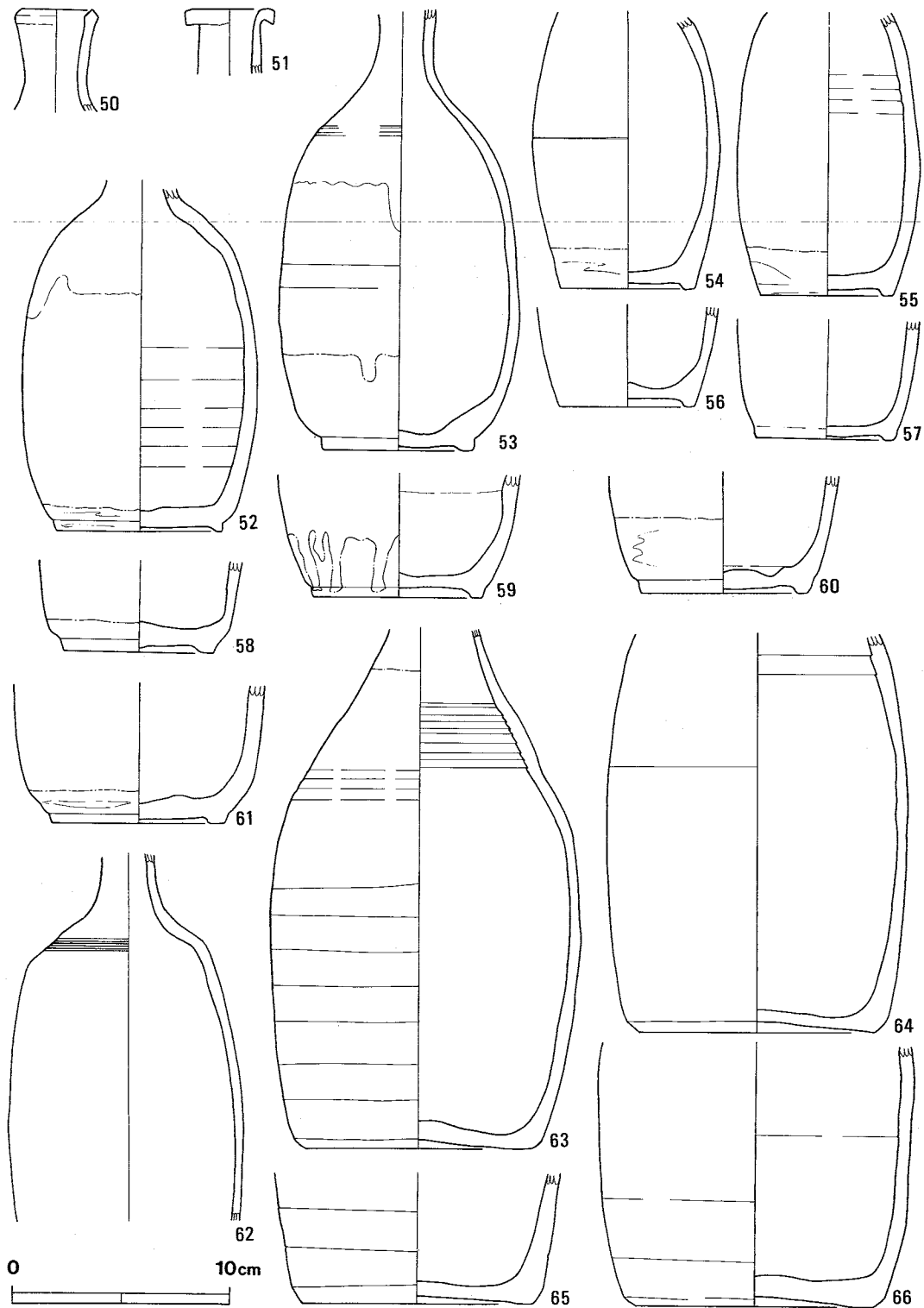


图 39 4号地下式土坑出土遗物(4)

Figure 39 Artifacts from Cellar No. 4

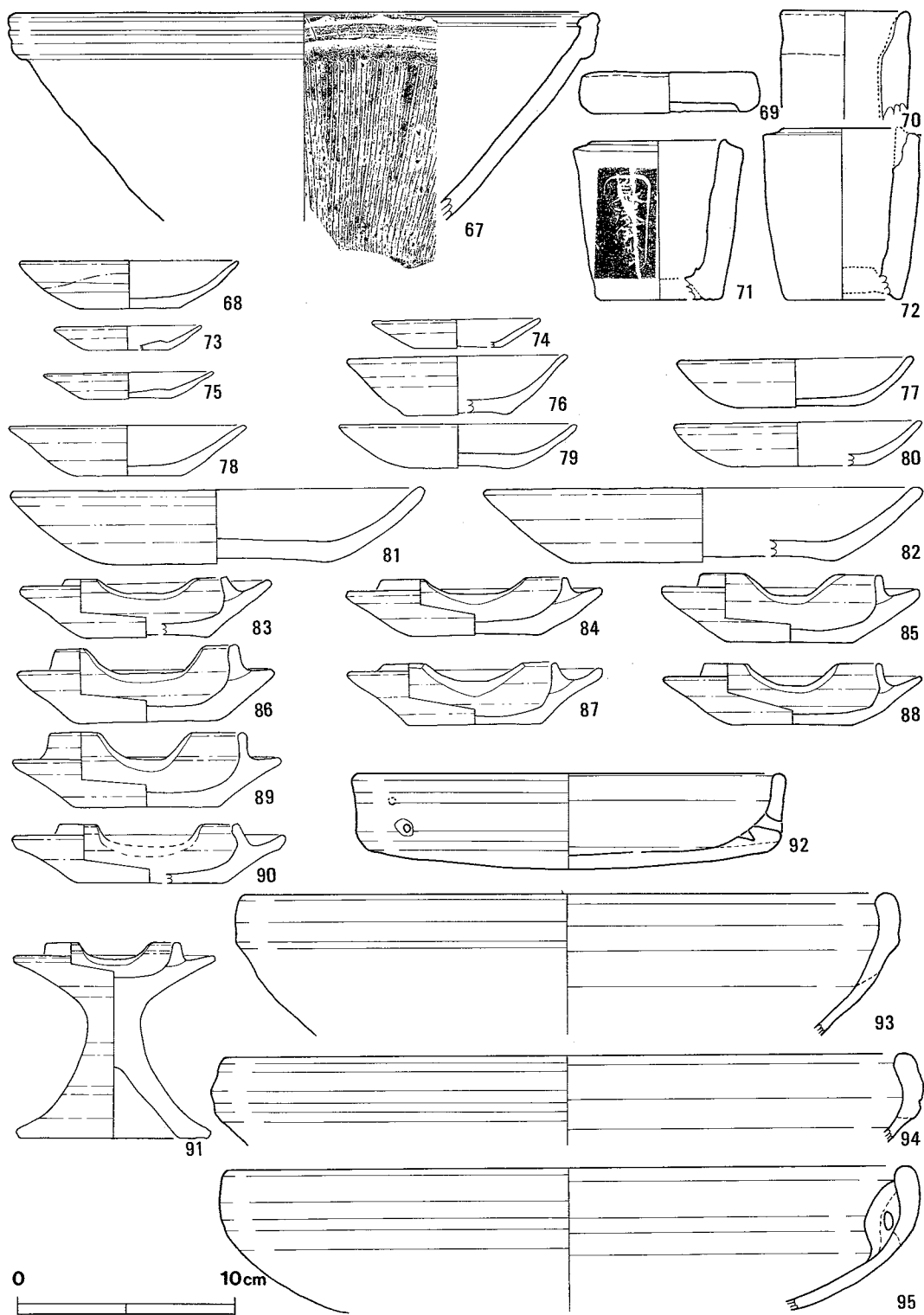


图 40 4号地下式土坑出土遗物(5)  
Figure 40 Artifacts from Cellar No.4



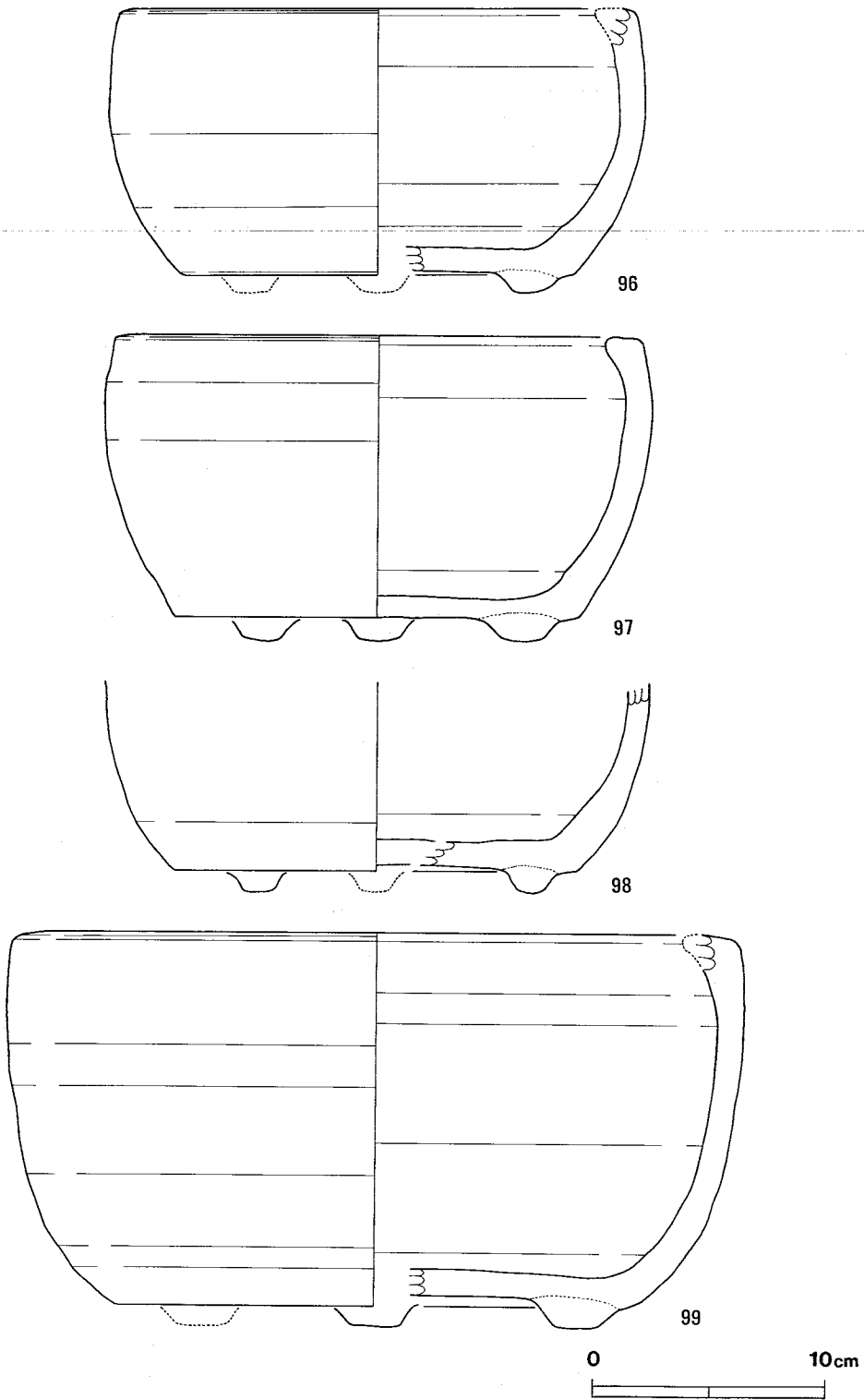


图 41 4号地下式土坑出土遗物(6)  
Figure 41 Artifacts from Cellar No.4

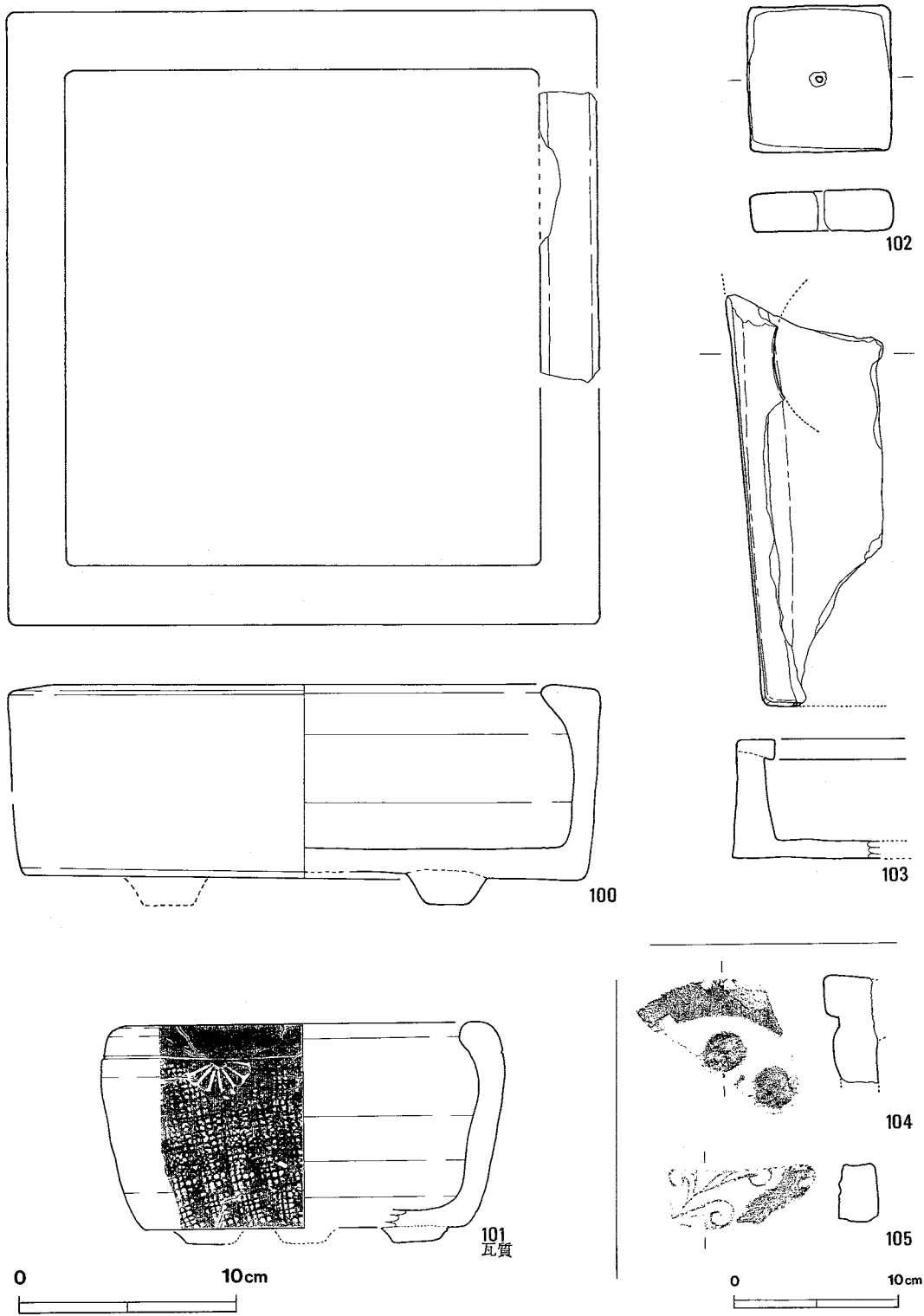


图 42 4 号地下式土坑出土遗物 (7)  
 Figure 42 Artifacts from Cellar No.4

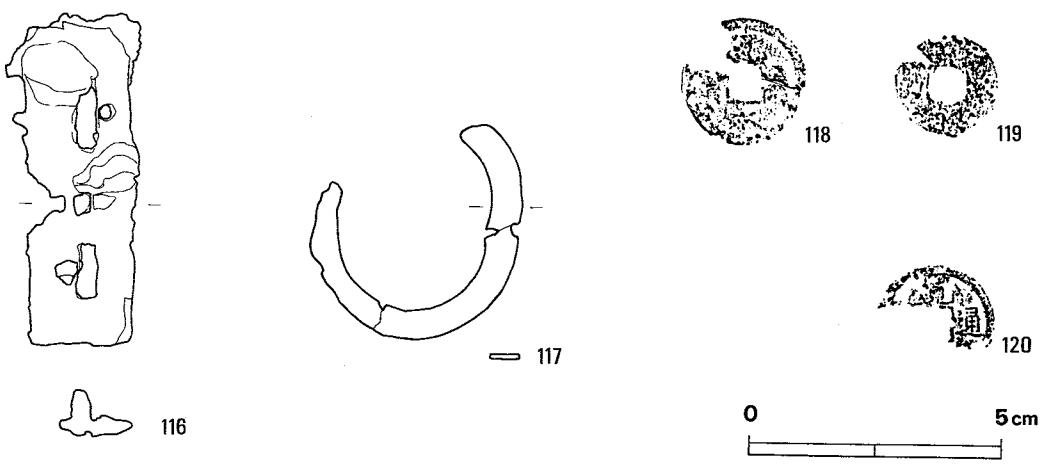
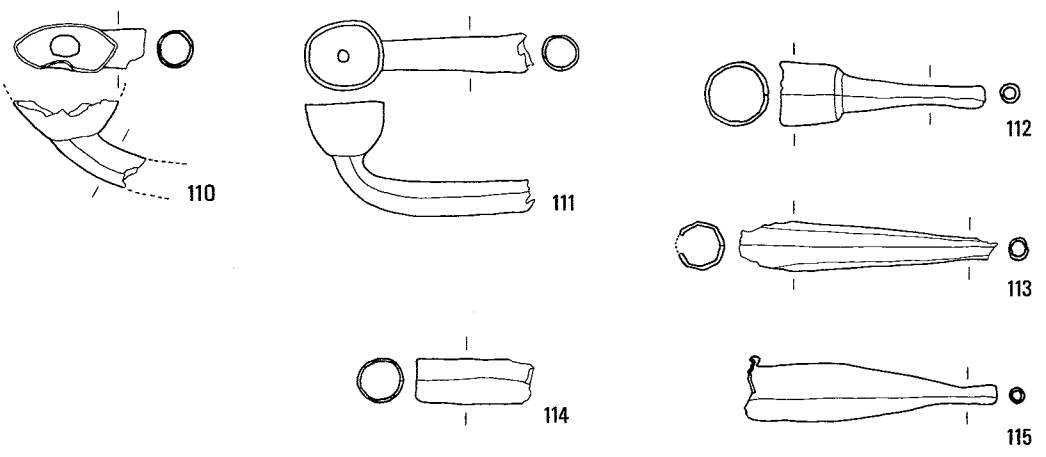
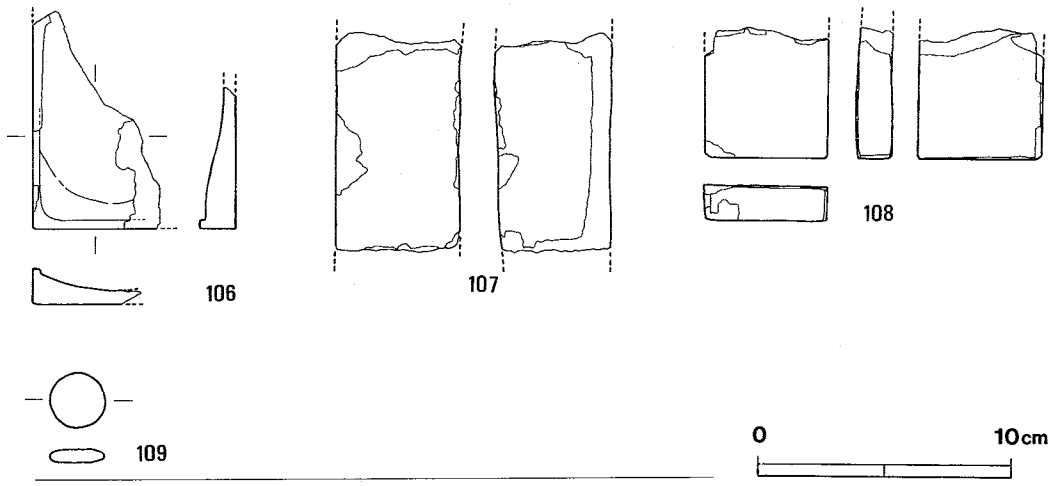


图 43 4号地下式土坑出土遗物(8)  
Figure 43 Artifacts from Cellar No.4

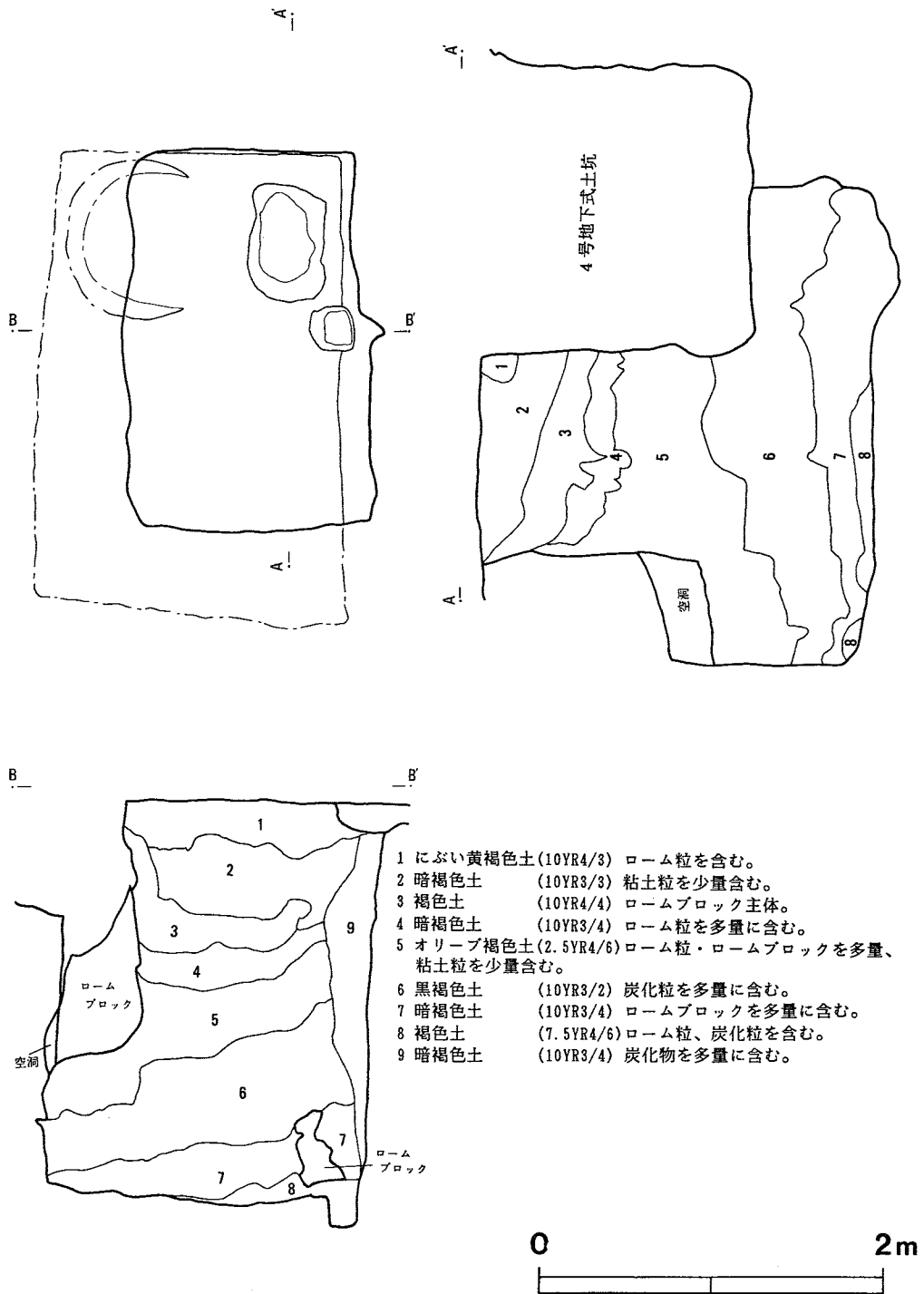


図 44 5号地下式土坑  
 Figure 44 Cellar No.5

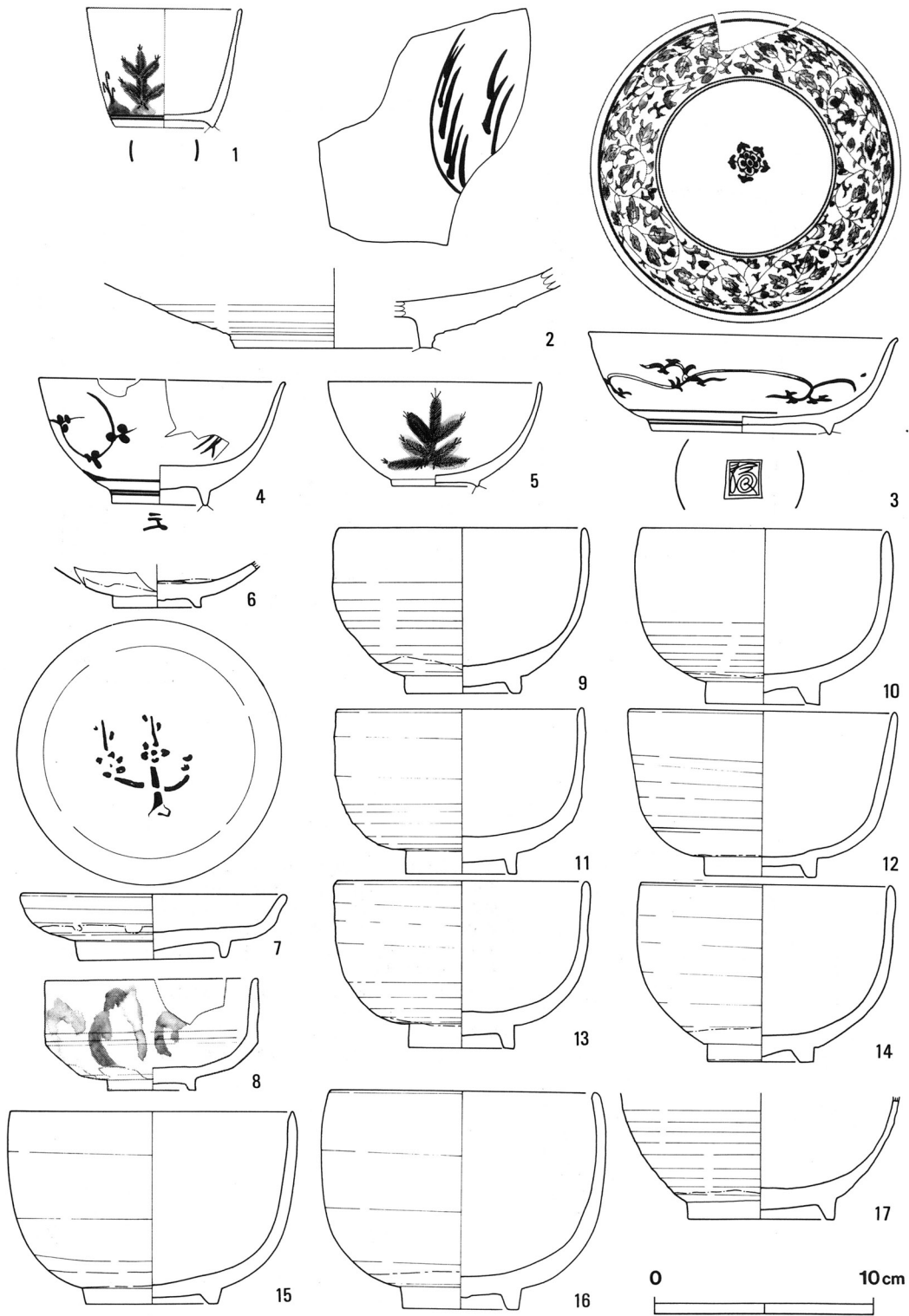


图 45 5号地下式土坑出土遗物(1)  
Figure 45 Artifacts from Cellar No.5

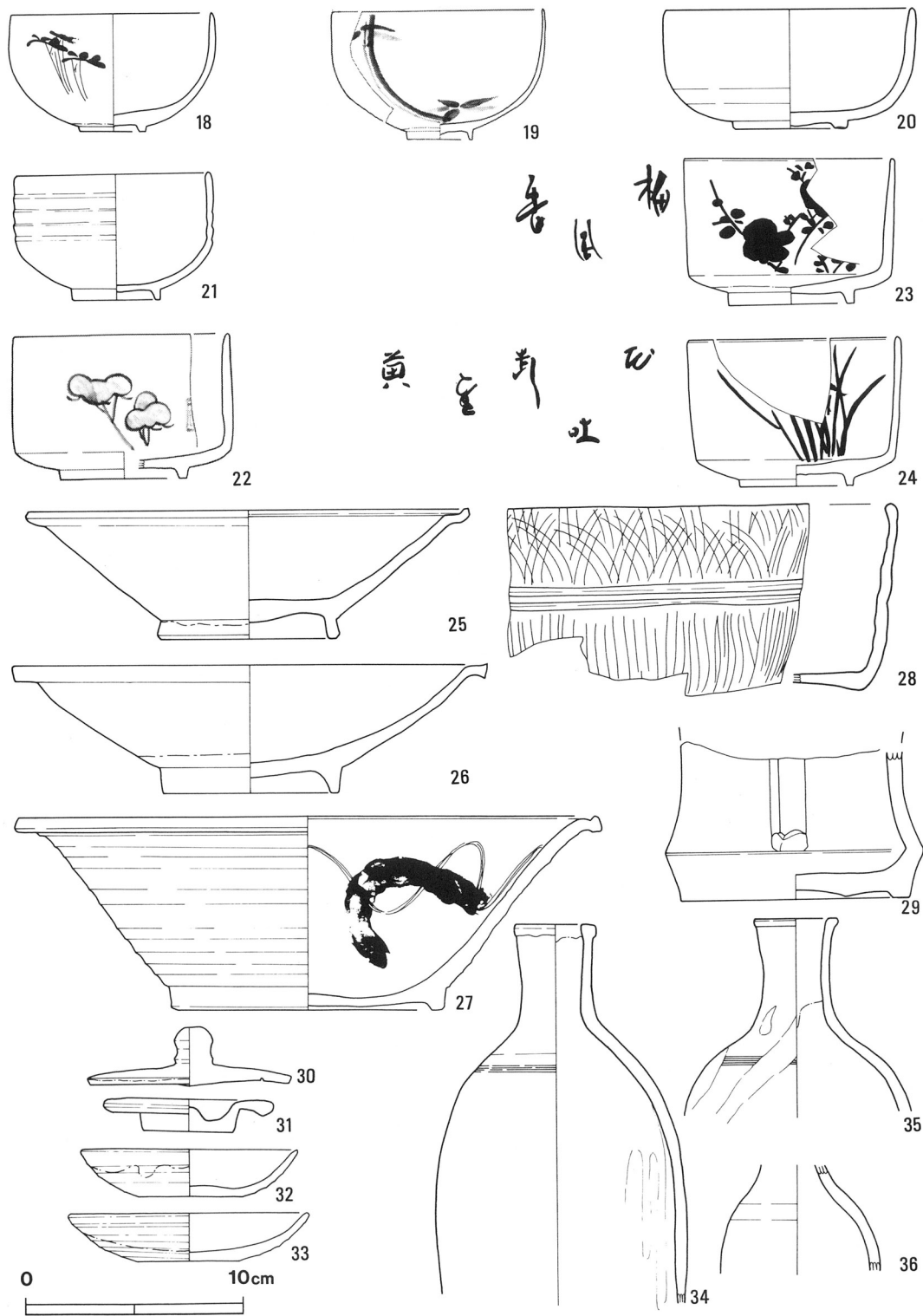


图 46 5号地下式土坑出土遗物(2)  
Figure 46 Artifacts from Cellar No. 5

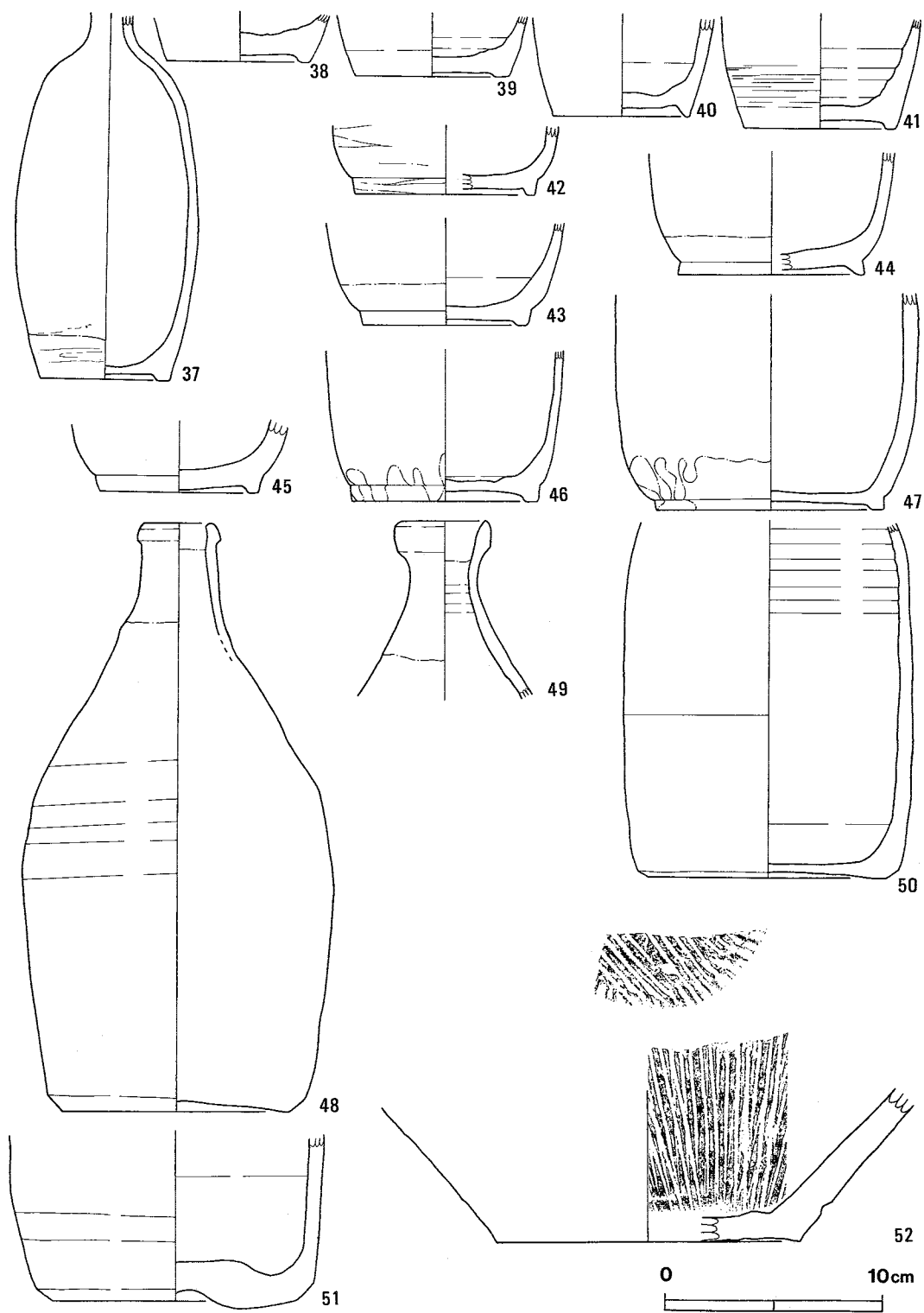


图 47 5号地下式土坑出土遗物(3)  
Figure 47 Artifacts from Cellar No.5

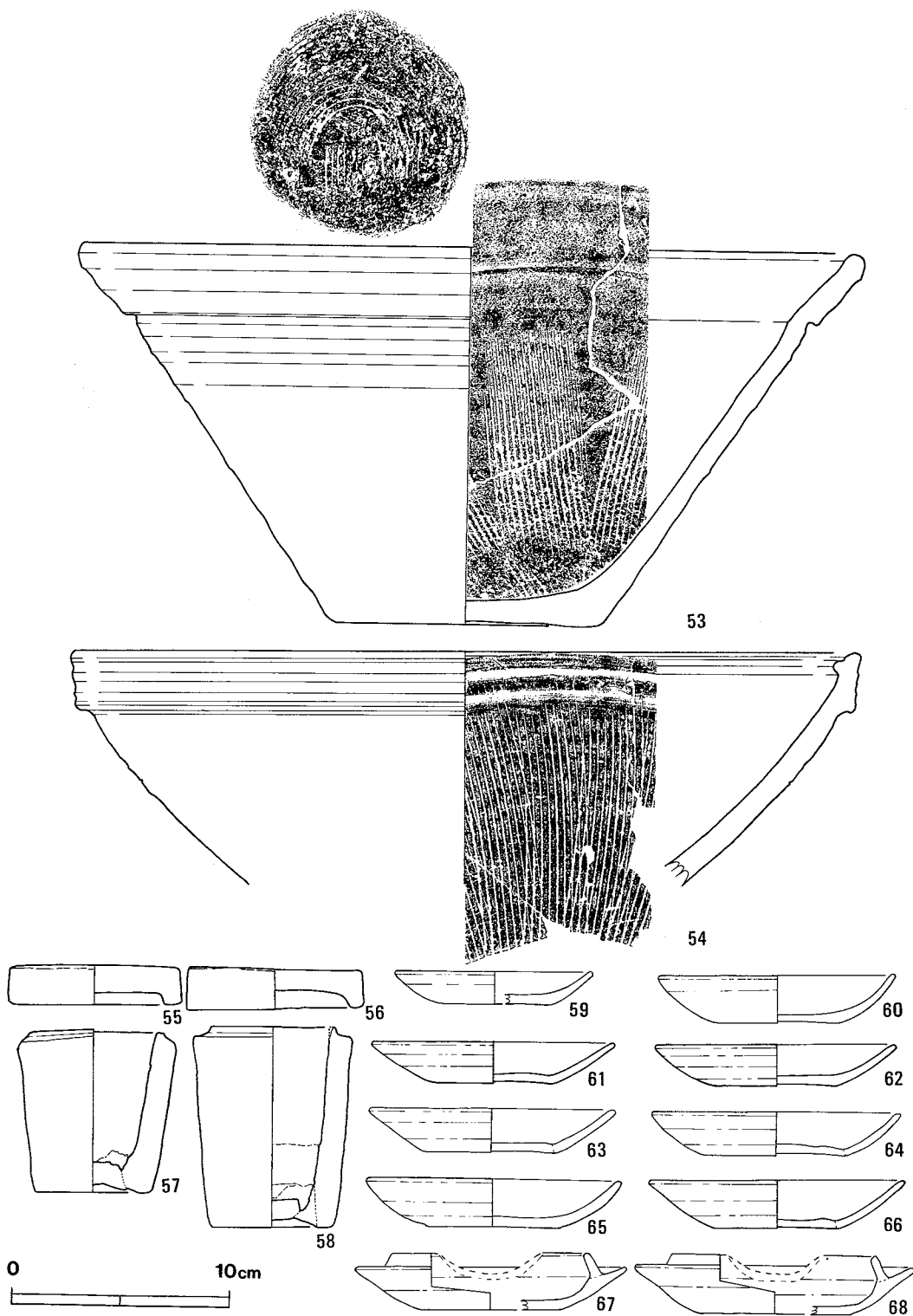


图 48 5号地下式土坑出土遗物(4)  
Figure 48 Artifacts from Cellar No.5



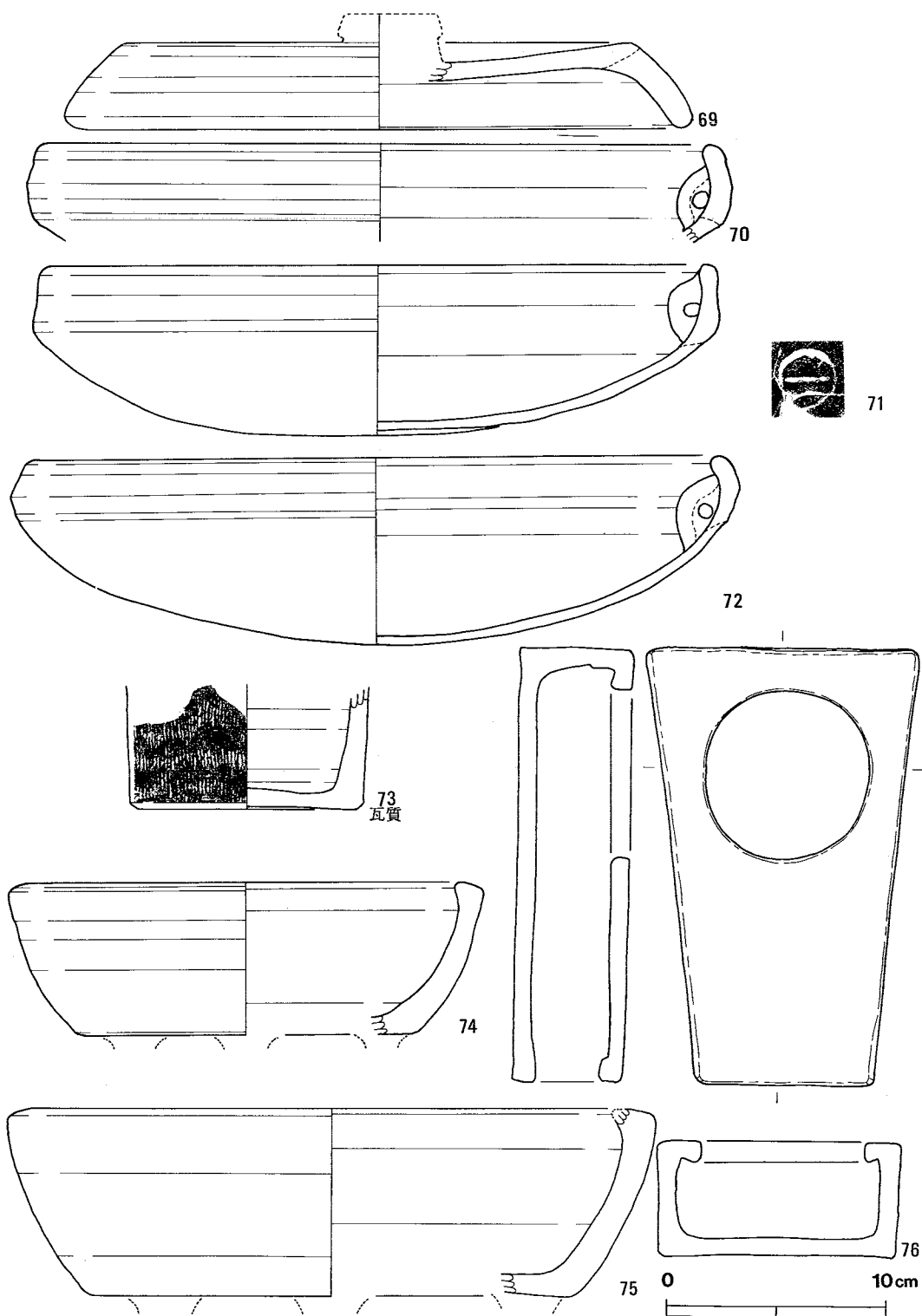


图 49 5号地下式土坑出土遗物(5)  
Figure 49 Artifacts from Cellar No. 5

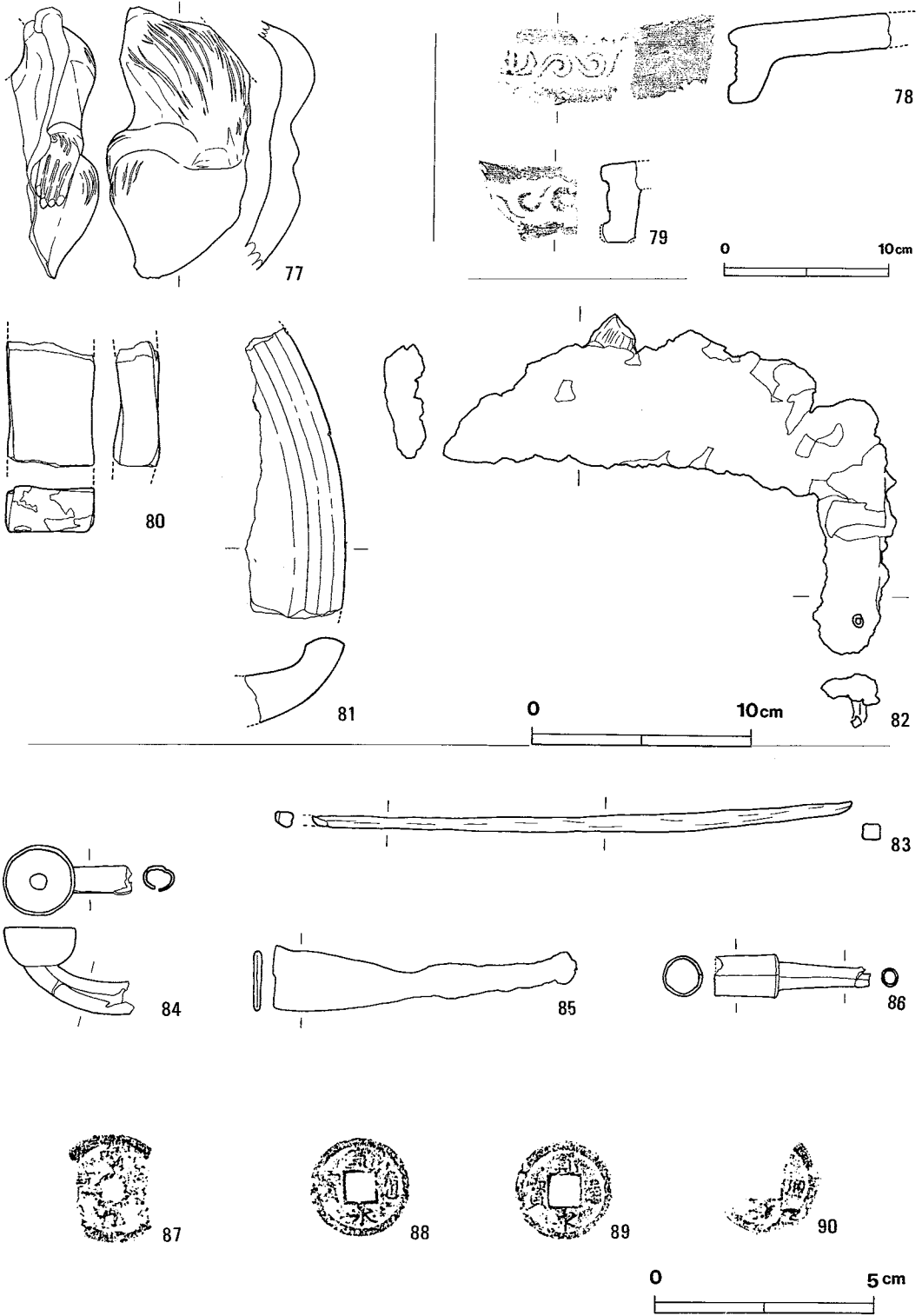
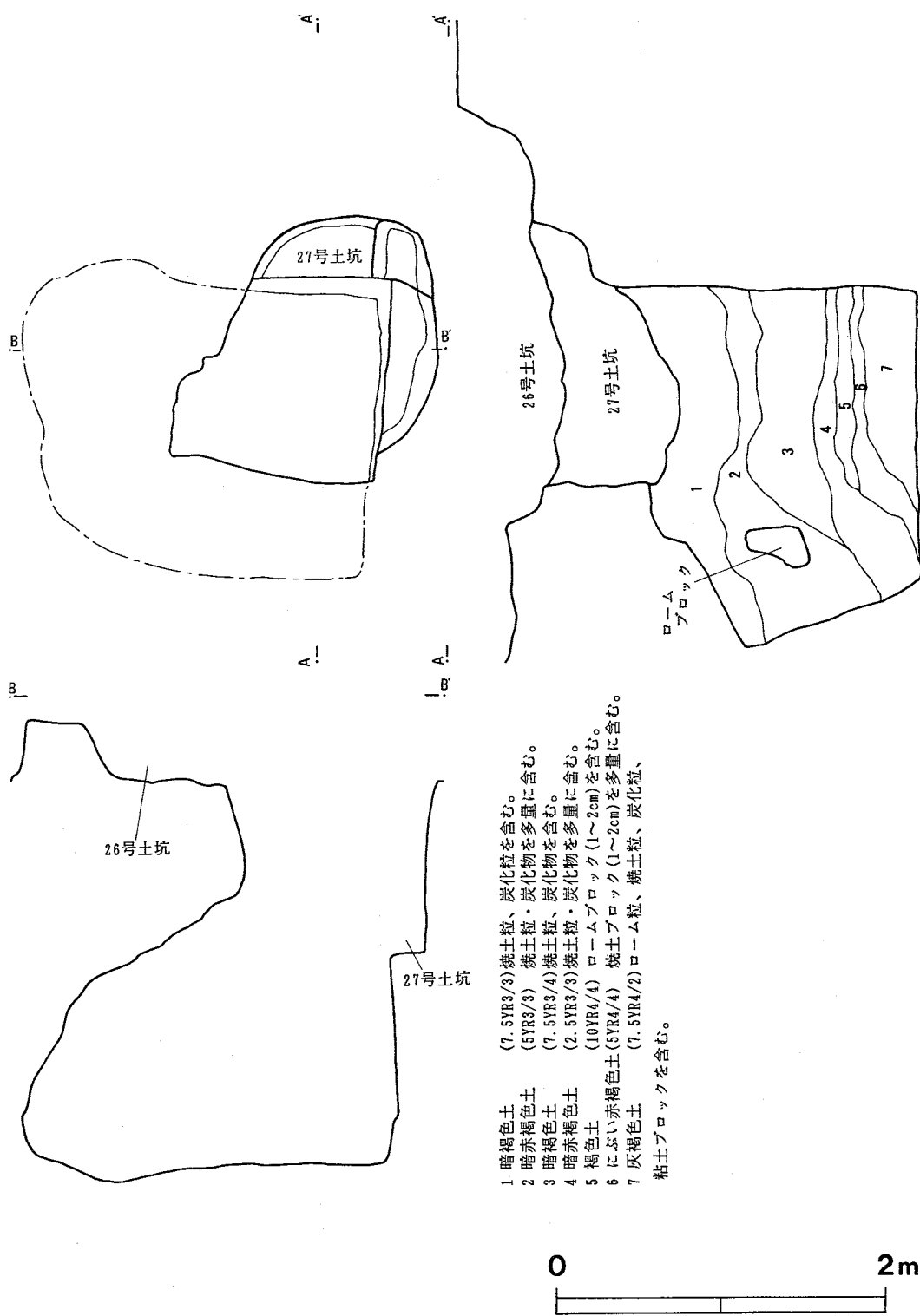


图 50 5号地下式土坑出土遗物(6)  
Figure 50 Artifacts from Cellar No.5



- 1 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 暗赤褐色土 (5YR3/3) 焼土粒・炭化物を多量に含む。
- 3 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒、炭化物を含む。
- 4 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) 焼土粒・炭化物を多量に含む。
- 5 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック(1~2cm)を含む。
- 6 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土ブロック(1~2cm)を多量に含む。
- 7 灰褐色土 (7.5YR4/2) ローム粒、焼土粒、炭化粒、粘土ブロックを含む。

图 51 6号地下式土坑  
Figure 51 Cellar No. 6

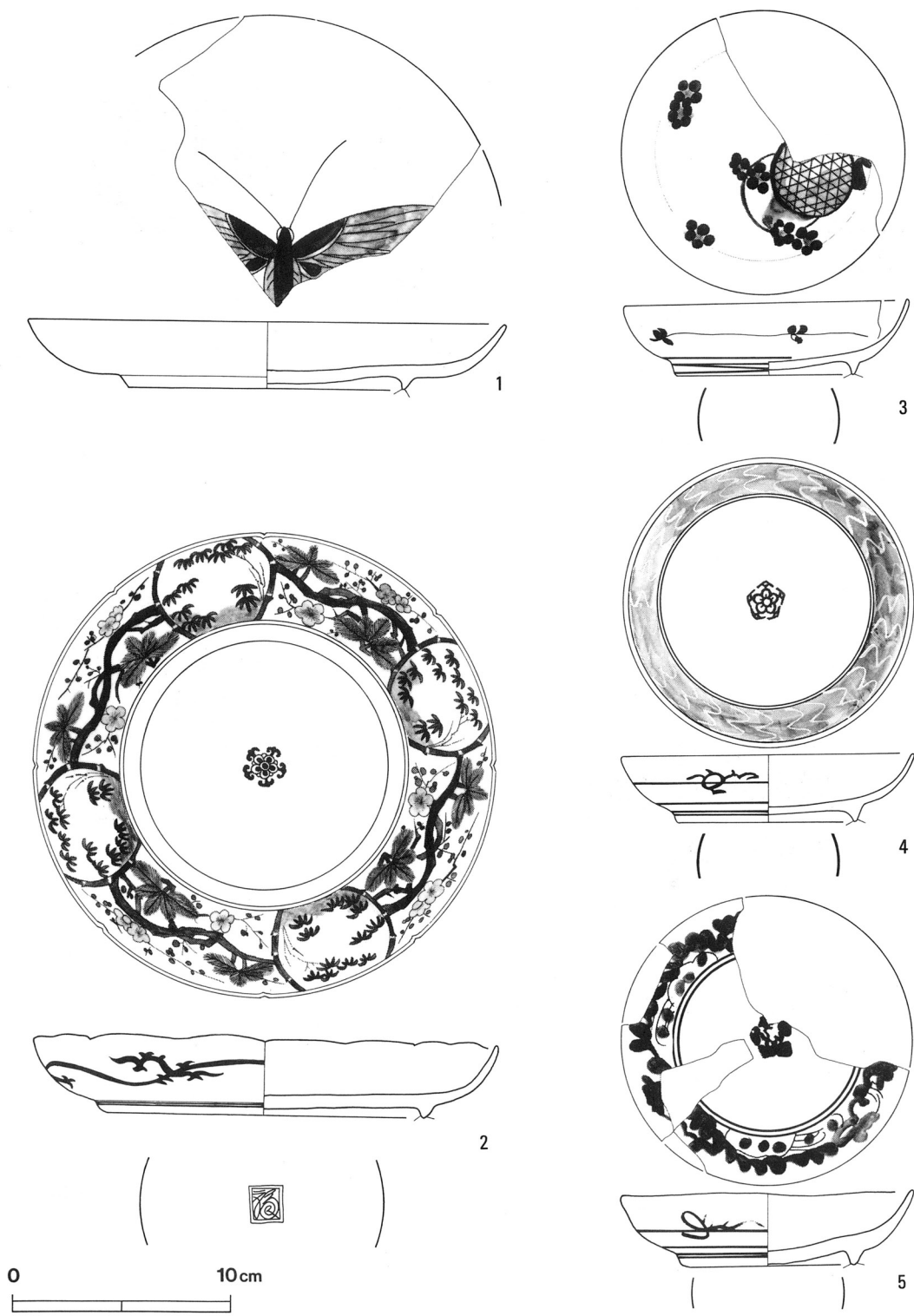


图 52 6号地下式土坑出土遗物(1)  
Figure 52 Artifacts from Cellar No. 6

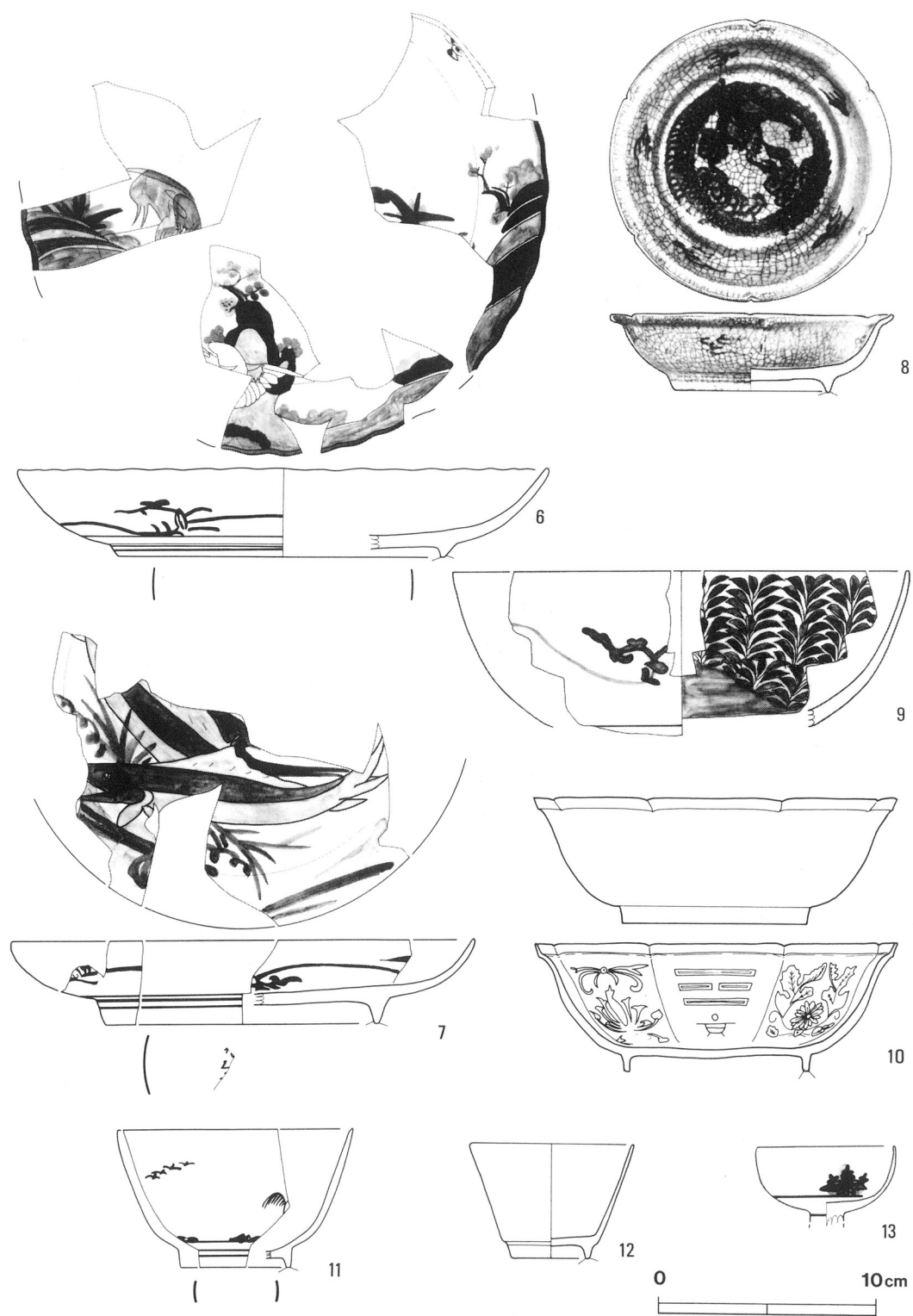


图 53 6号地下式土坑出土遗物(2)  
Figure 53 Artifacts from Cellar No. 6

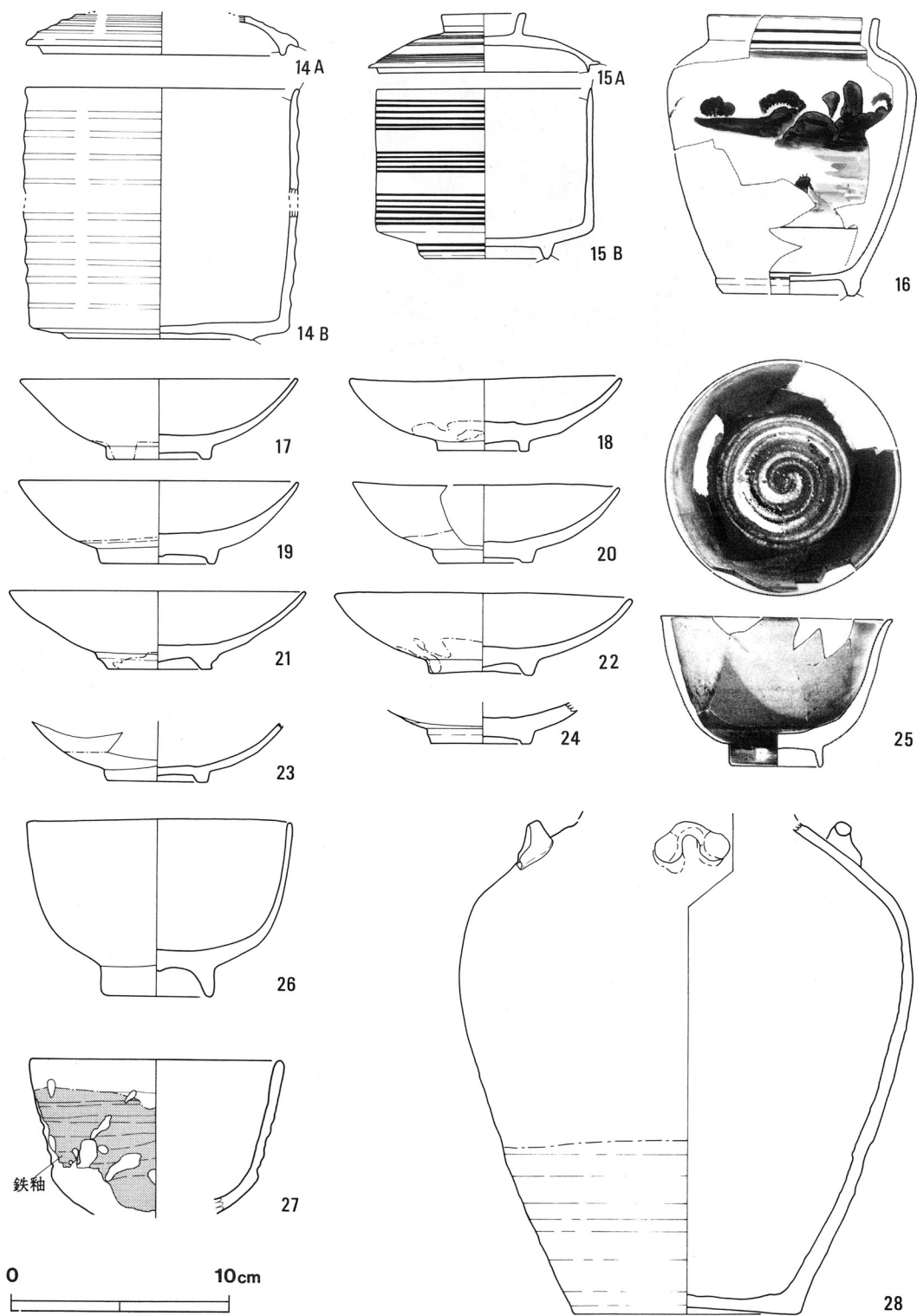


图 54 6号地下式土坑出土遺物(3)  
Figure 54 Artifacts from Cellar No. 6

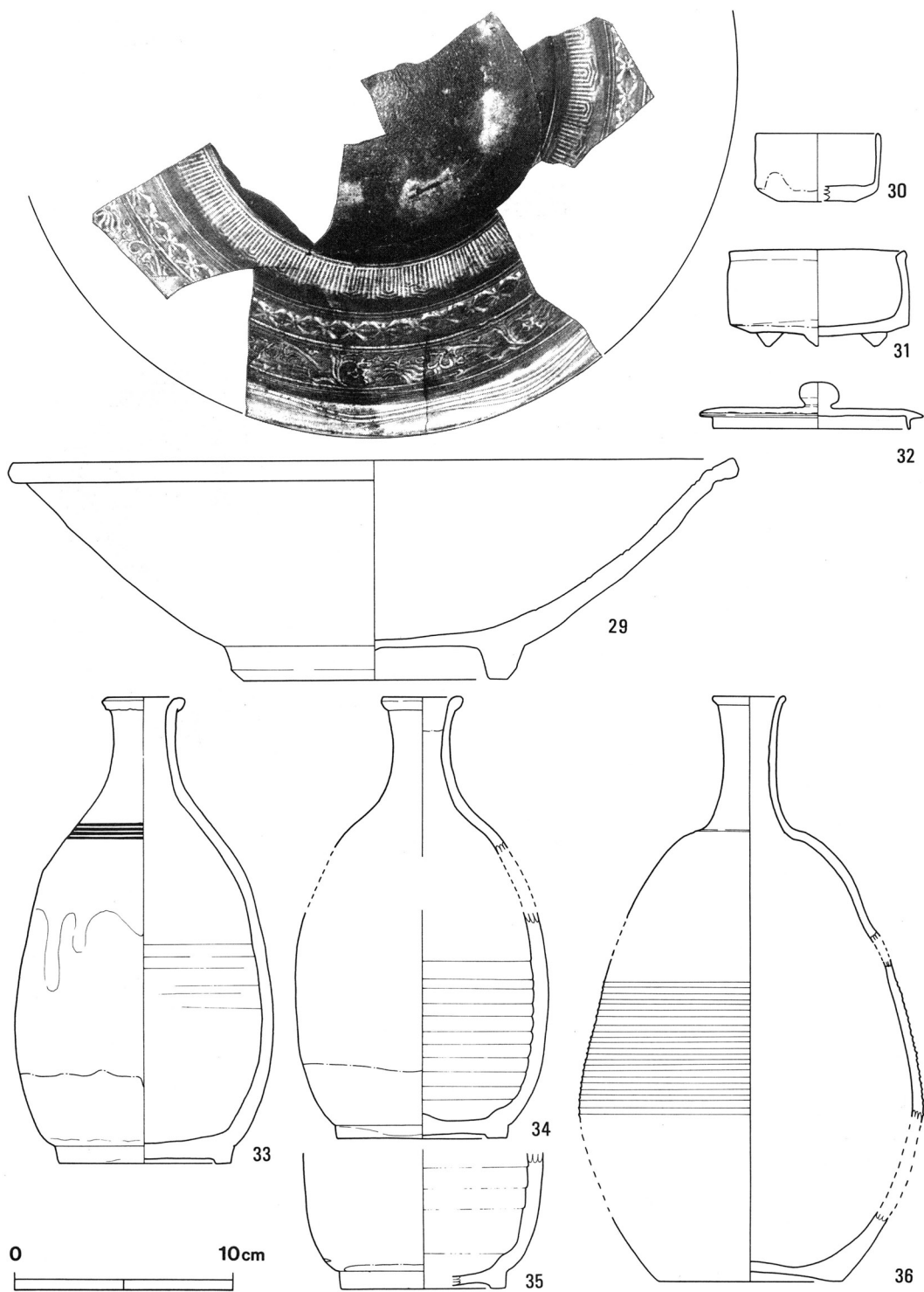


图 55 6号地下式土坑出土遗物(4)  
Figure 55 Artifacts from Cellar No.6

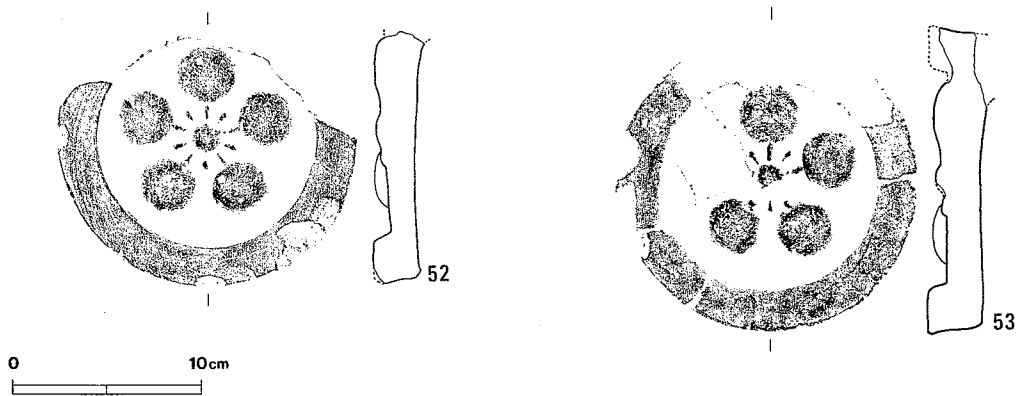
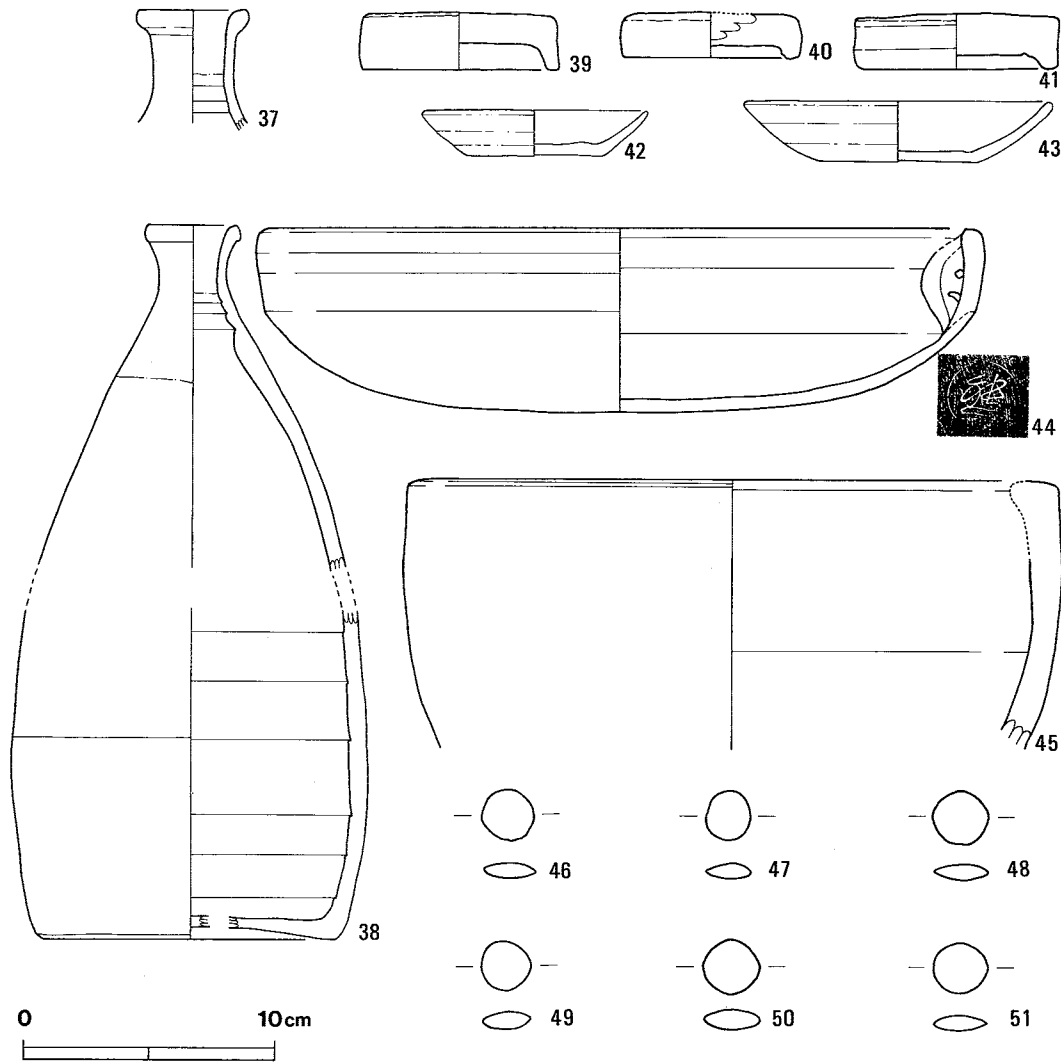


图 56 6号地下式土坑出土遗物(5)  
Figure 56 Artifacts from Cellar No.6



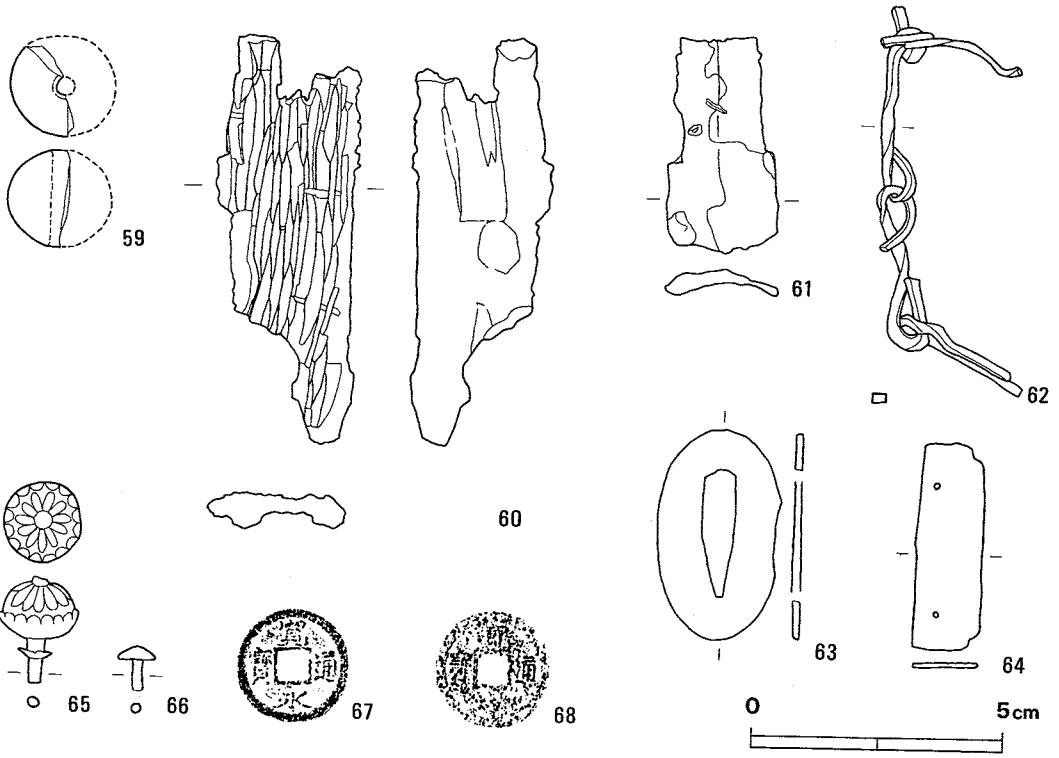
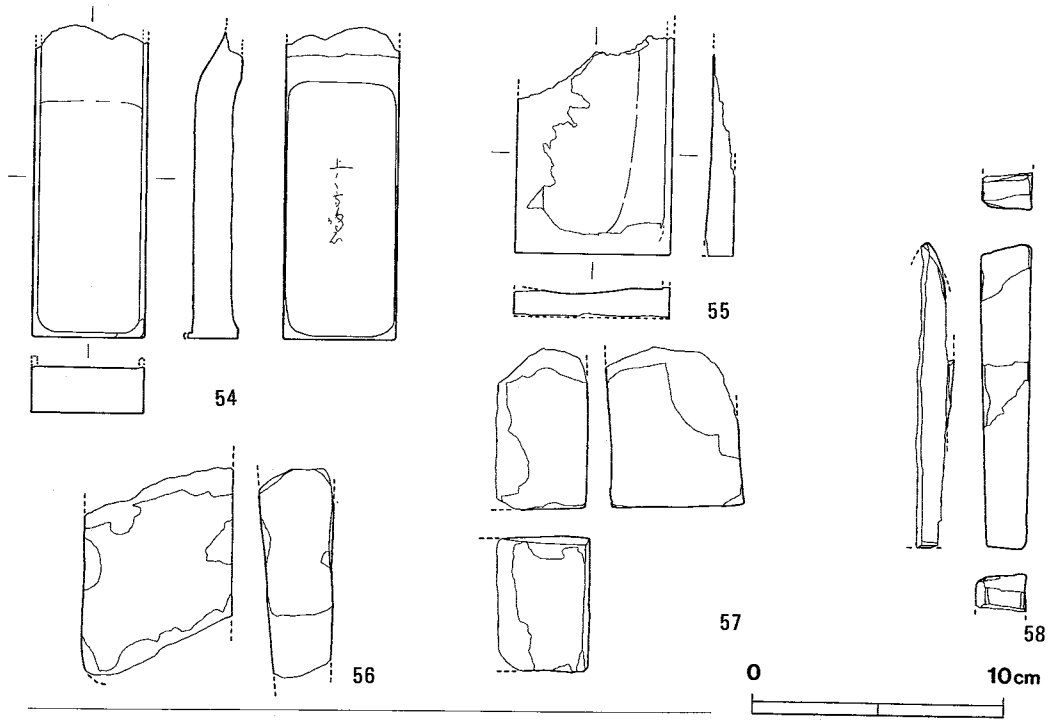


图 57 6号地下式土坑出土遗物 (6)  
 Figure 57 Artifacts from Cellar No.6

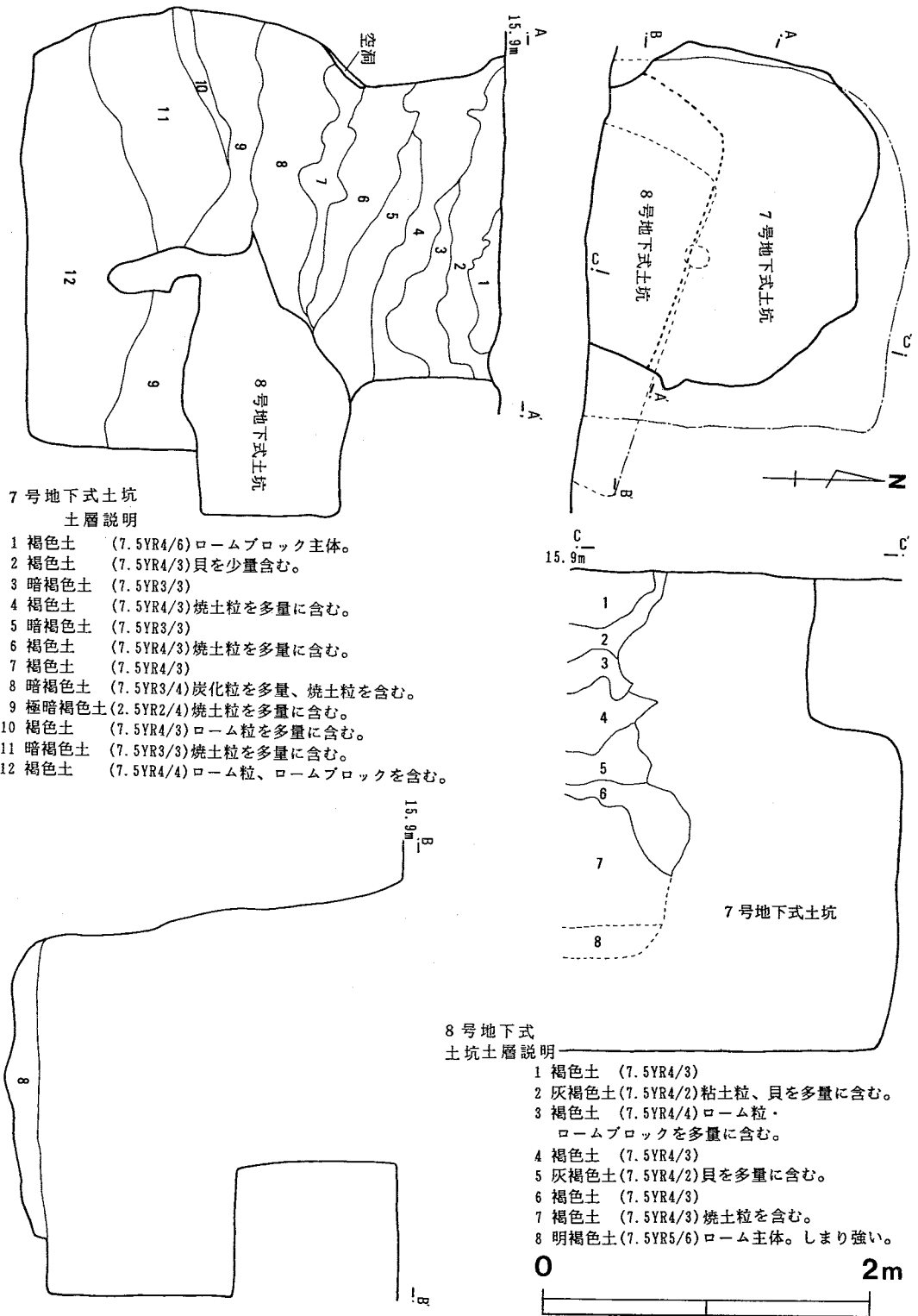


図 58 7・8号地下式土坑  
Figure 58 Cellars No.7 and 8

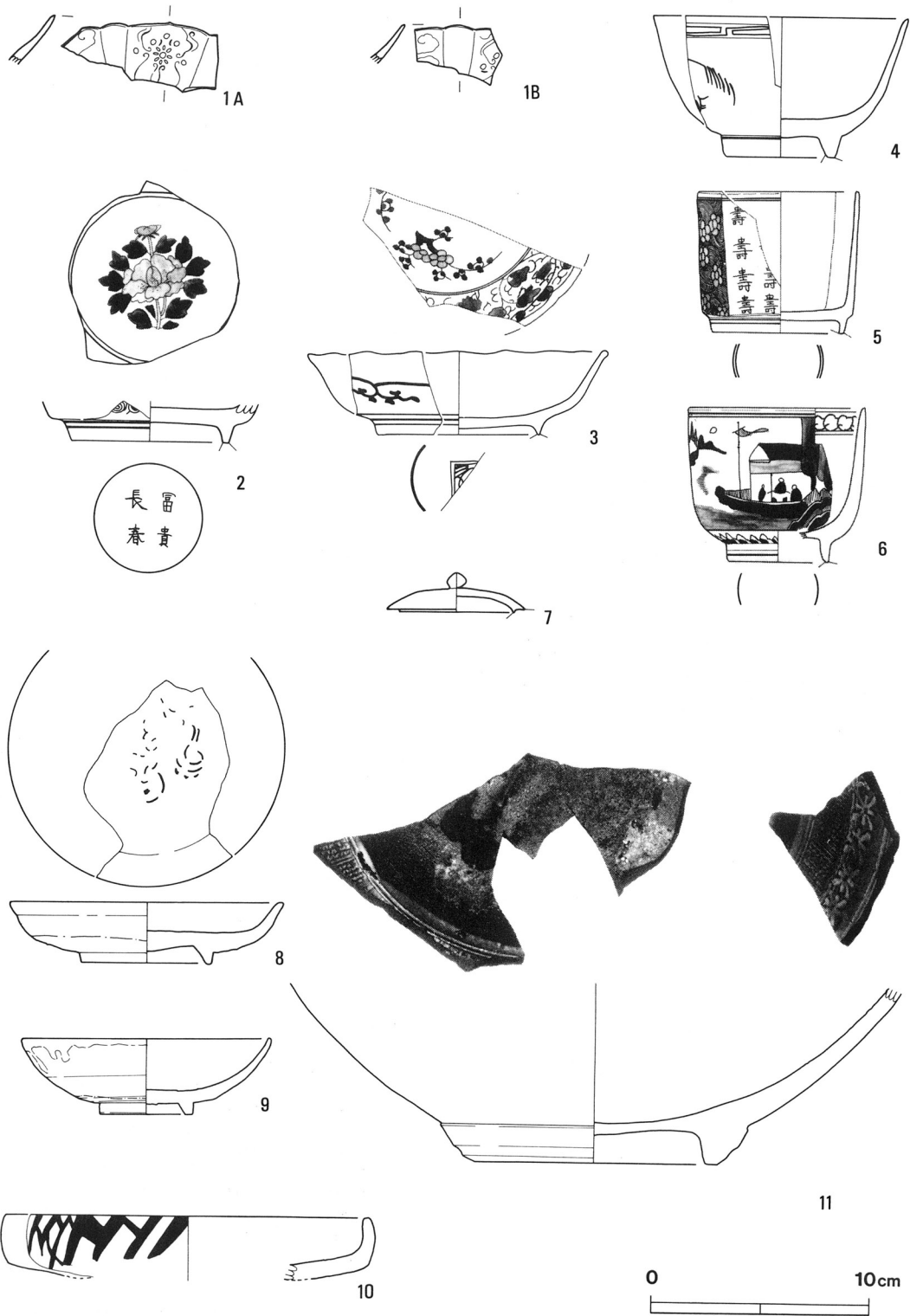


图 59 7号地下式土坑出土遗物(1)  
Figure 59 Artifacts from Cellar No.7

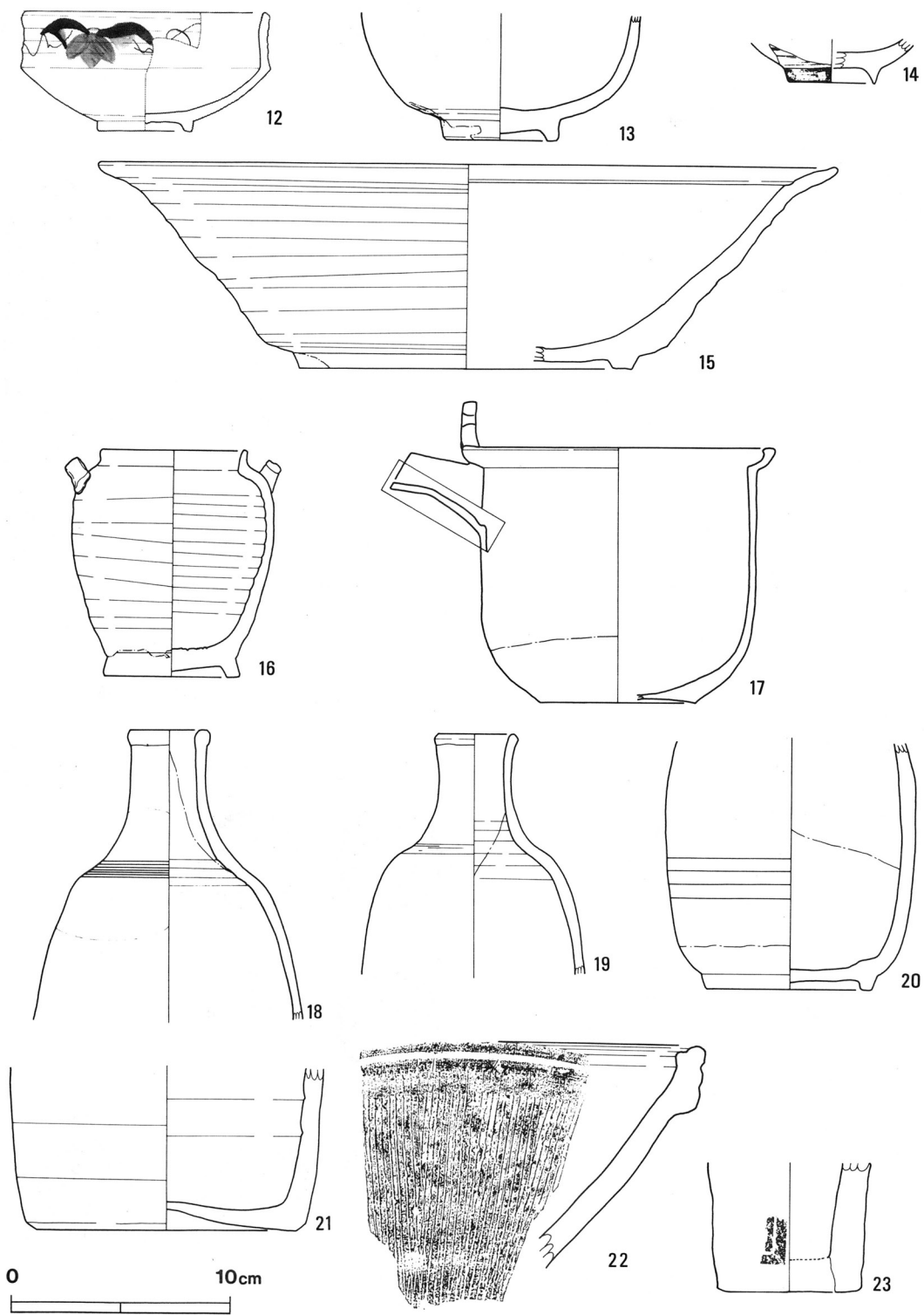


图 60 7号地下式土坑出土遗物(2)  
Figure 60 Artifacts from Cellar No. 7

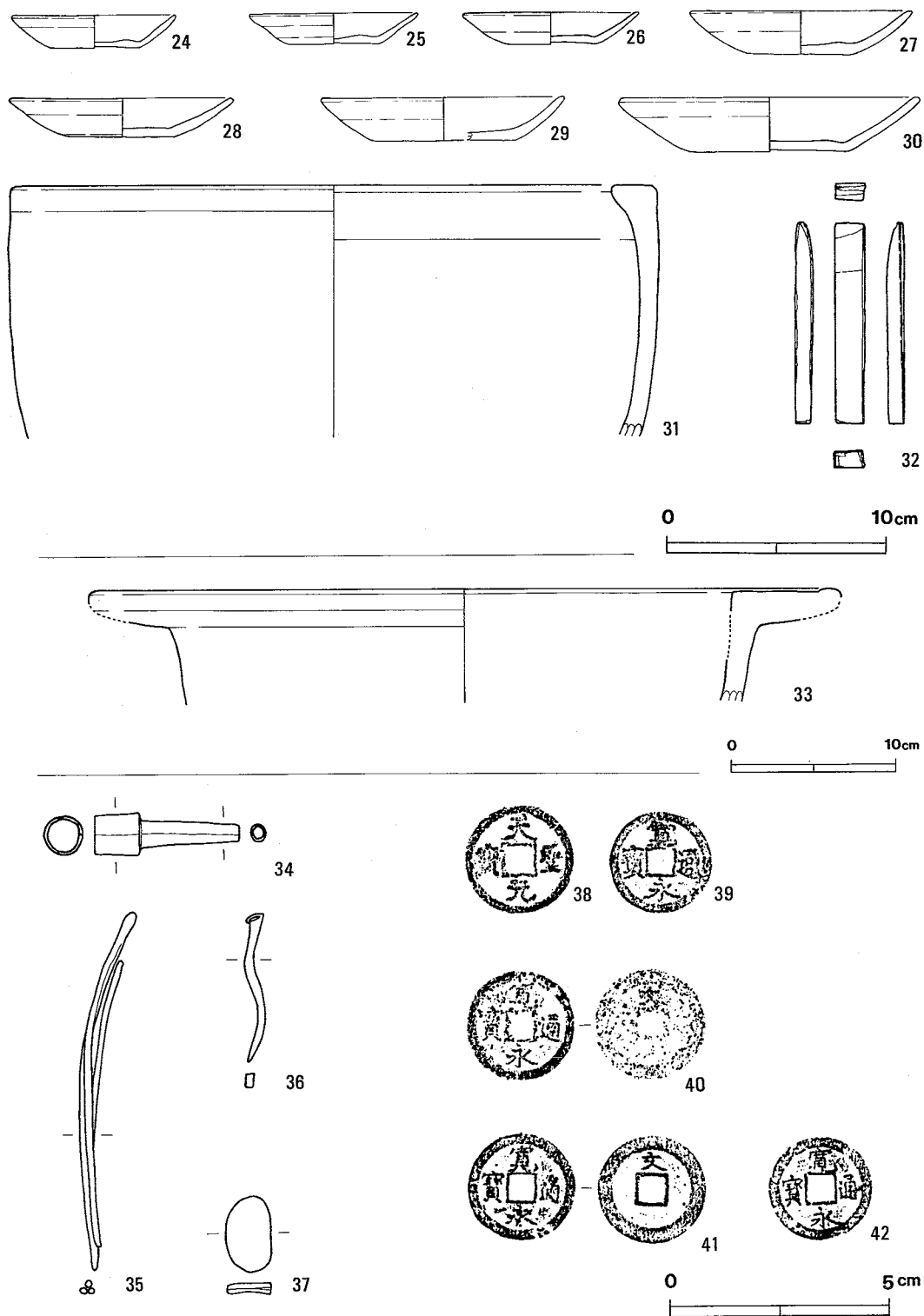


图 61 7号地下式土坑出土遗物(3)  
Figure 61 Artifacts from Cellar No. 7

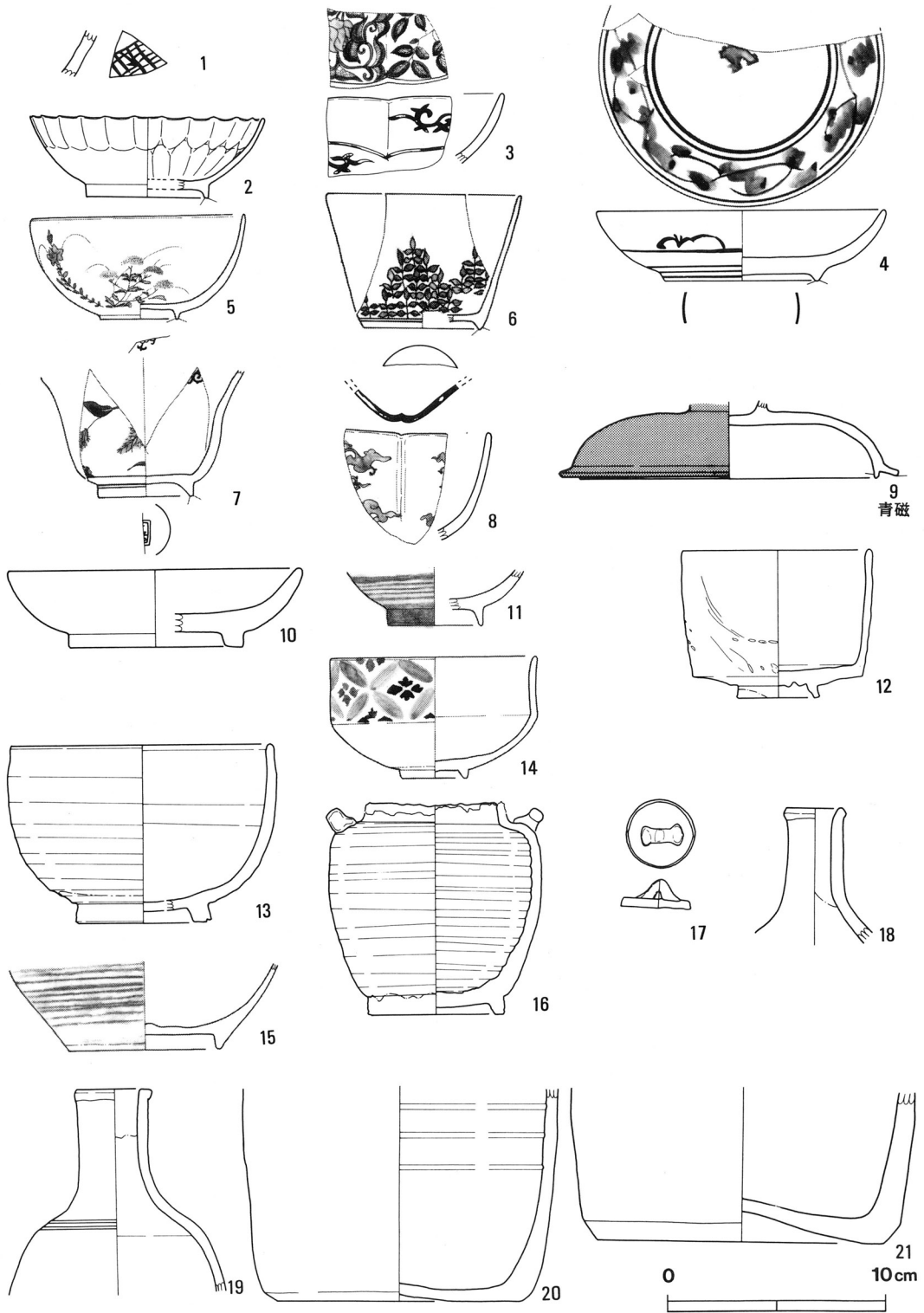


图 62 7·8号地下式土坑一括出土遗物(1)

Figure 62 Artifacts from Cellars No.7 or 8

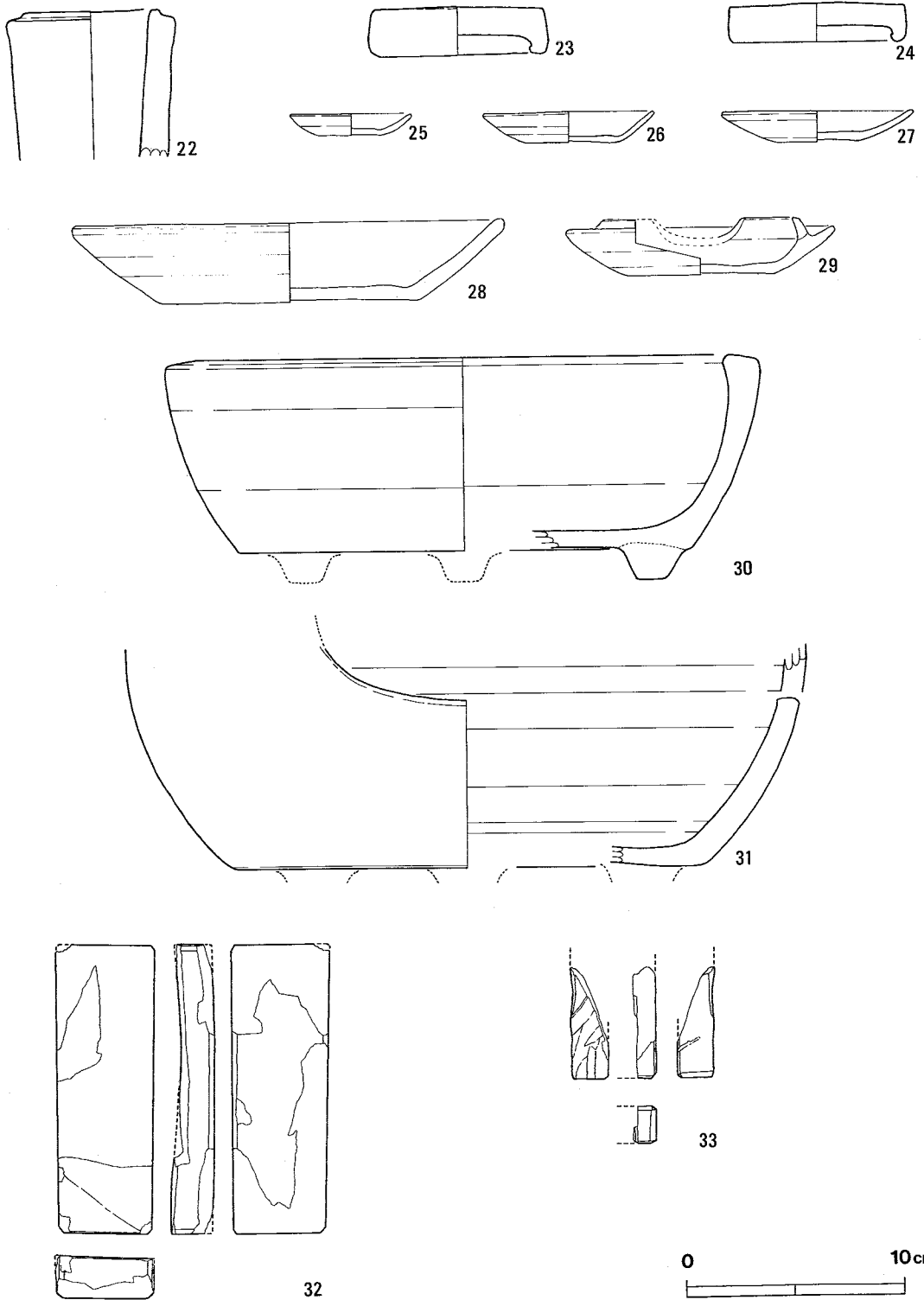


图 63 7·8 号地下式土坑一括出土遗物 (2)  
 Figure 63 Artifacts from Cellars No.7 or 8

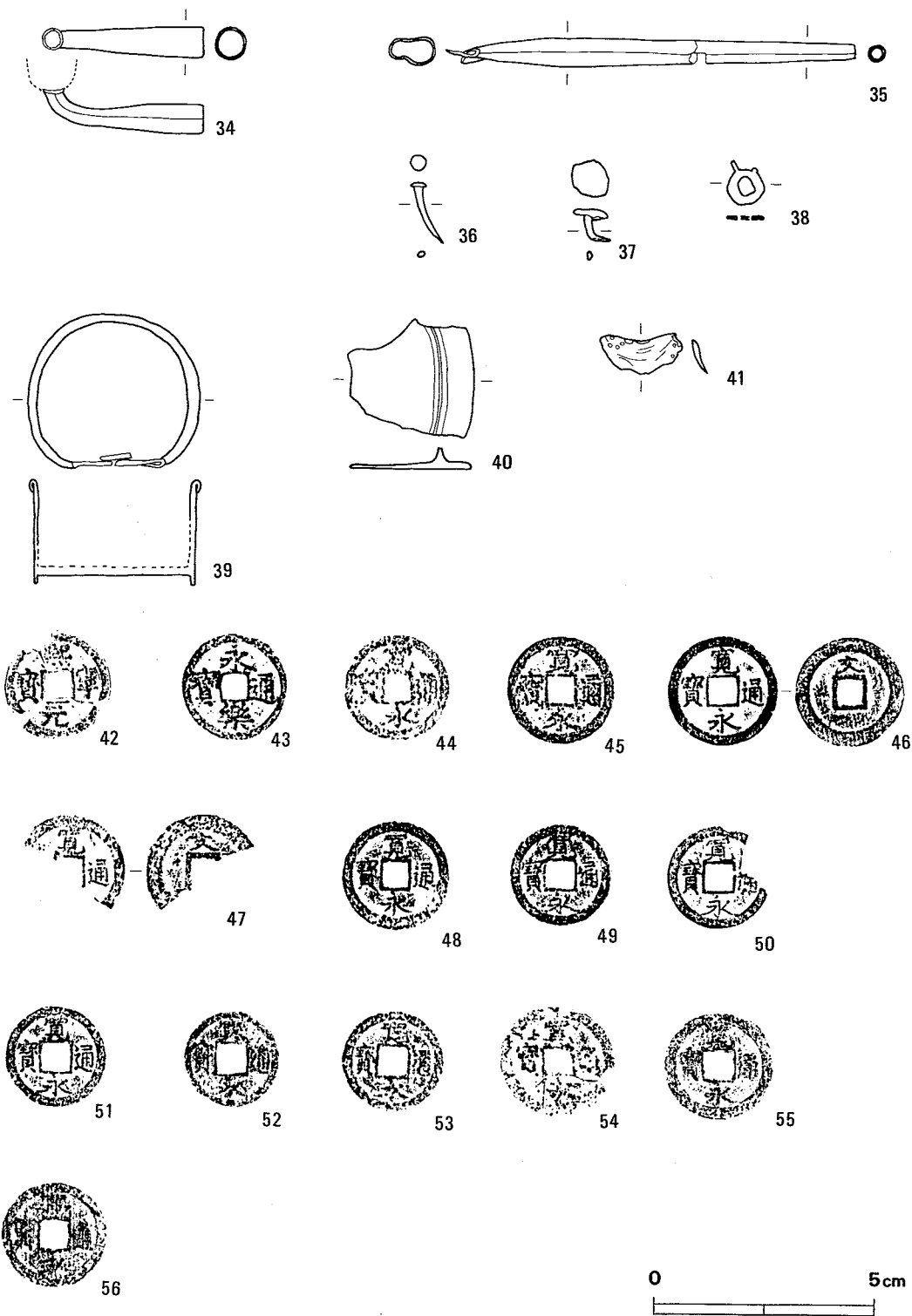


图 64 7·8 号地下式土坑一括出土遗物 (3)

Figure 64 Artifacts from Cellars No.7 or 8



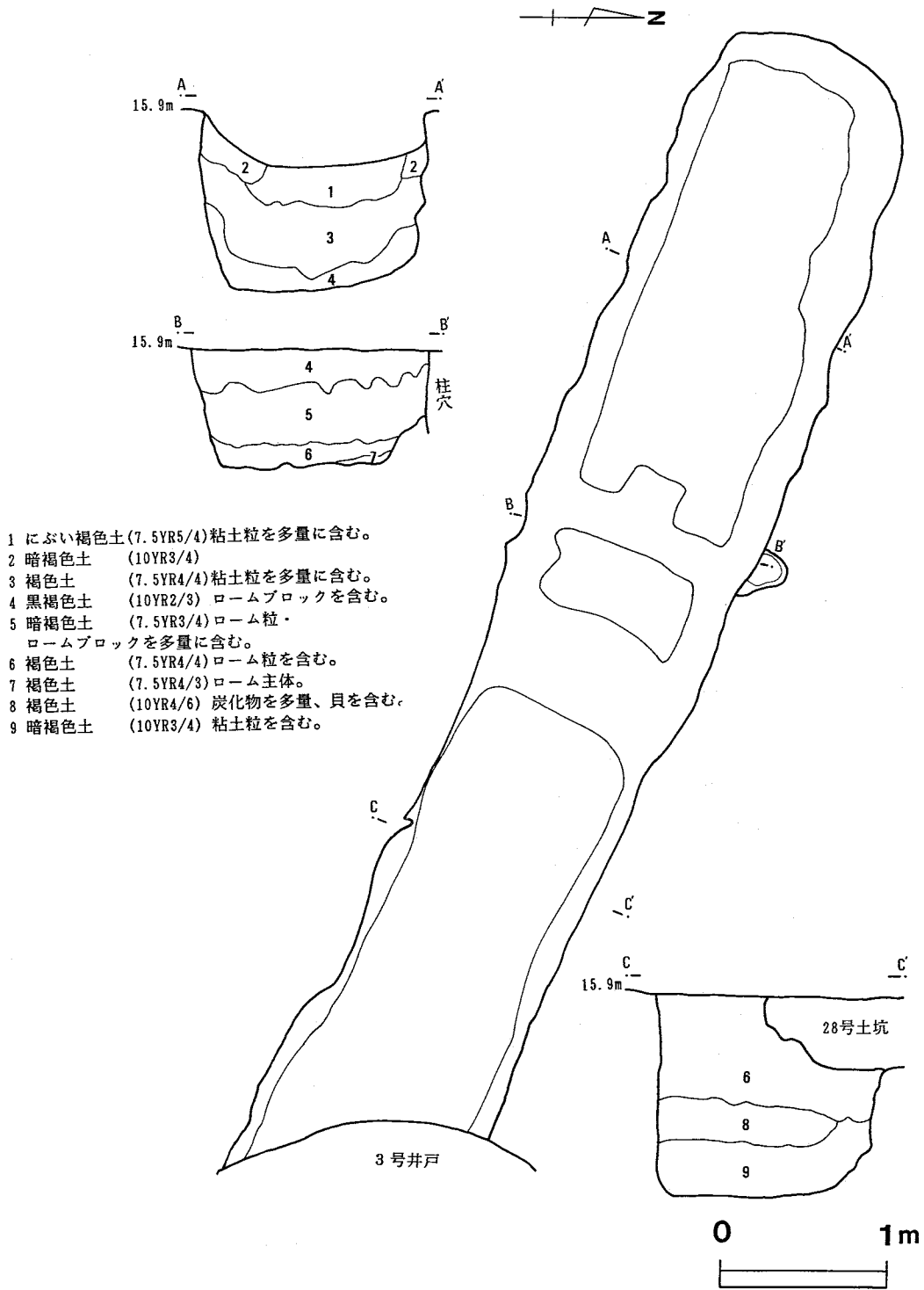


図 65 1号土坑  
 Figure 65 Pit No.1

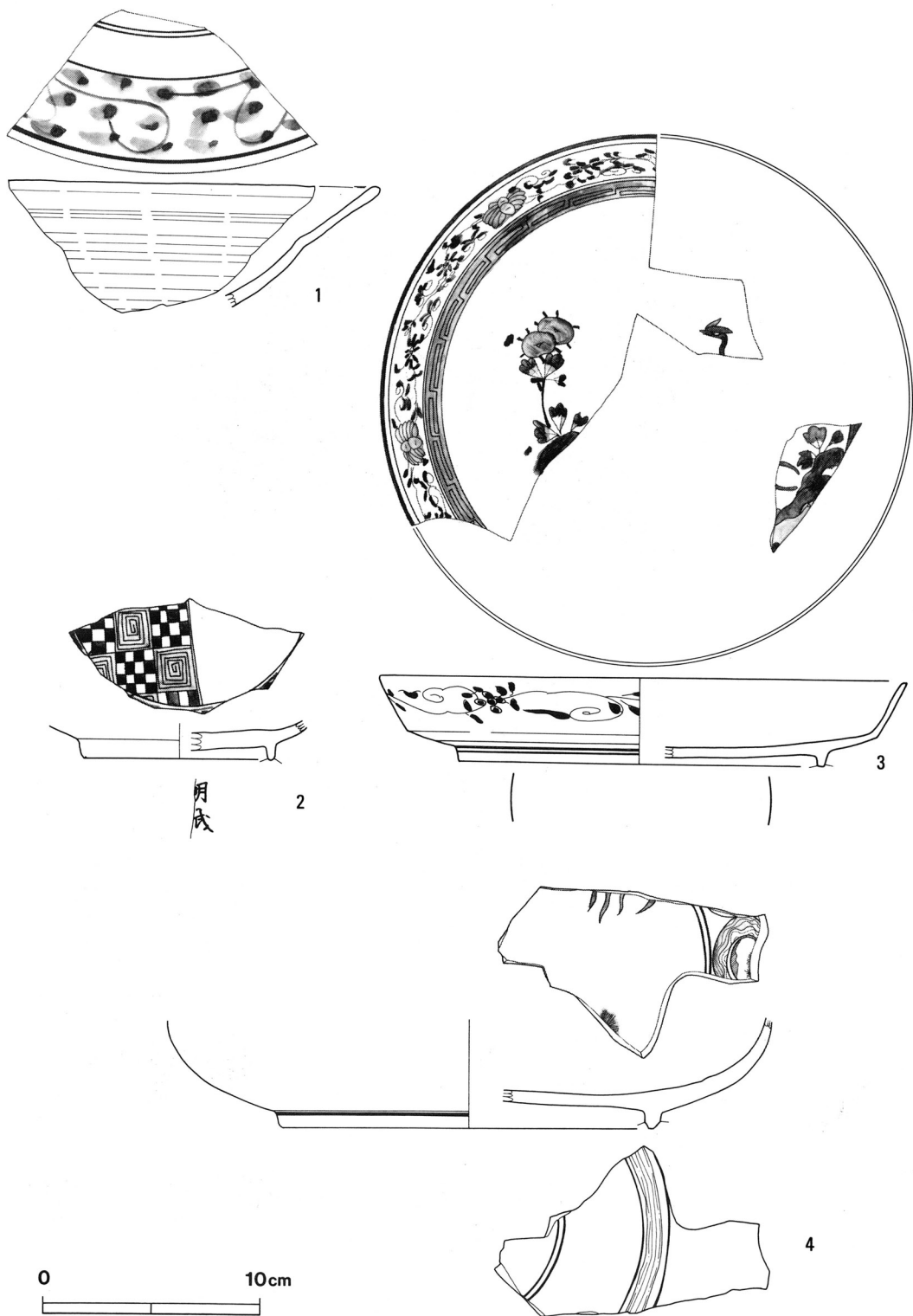


图 66 1号土坑出土遗物(1)  
 Figure 66 Artifacts from Pit No.1

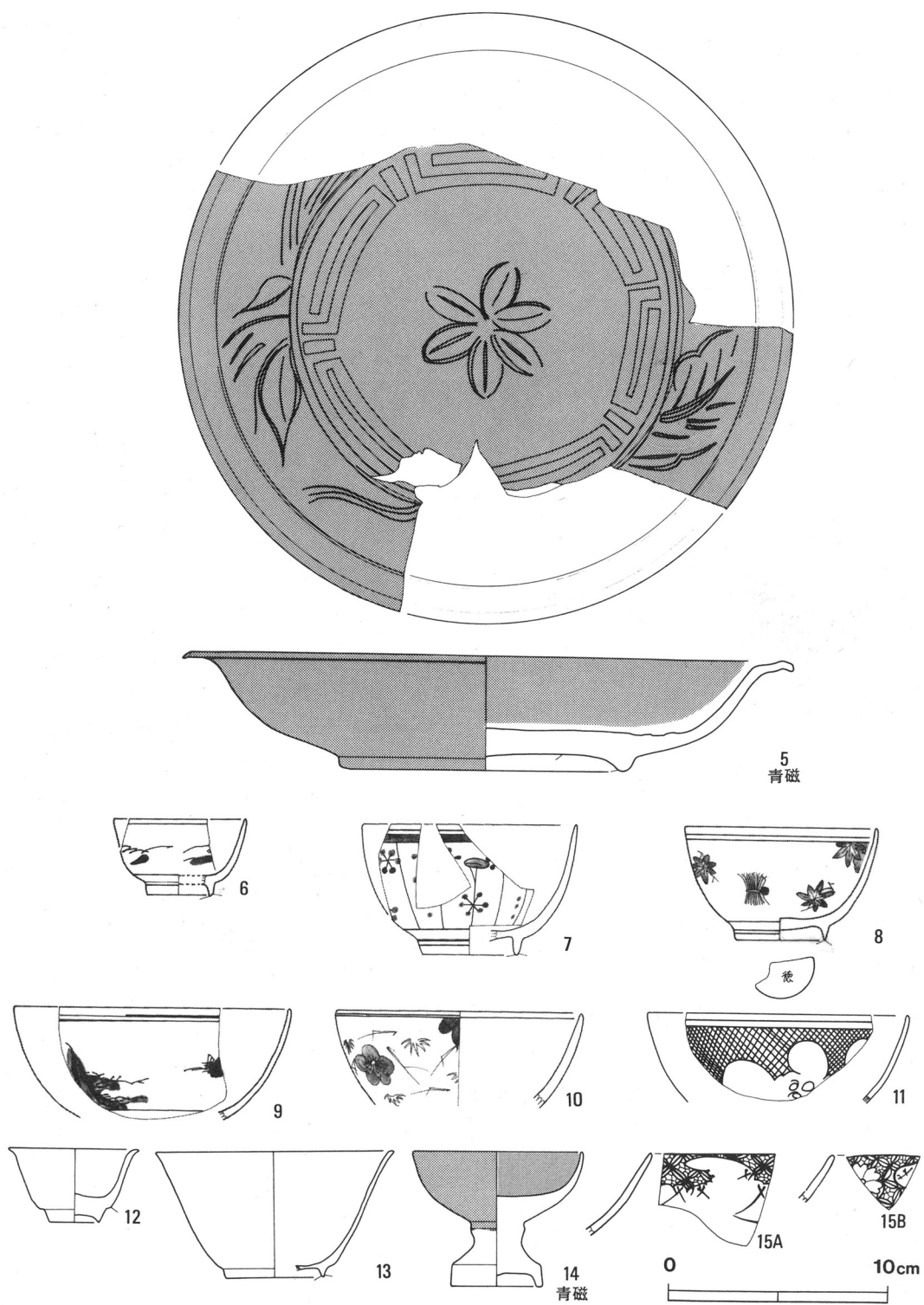


图 67 1号土坑出土遗物(2)  
Figure 67 Artifacts from Pit No.1

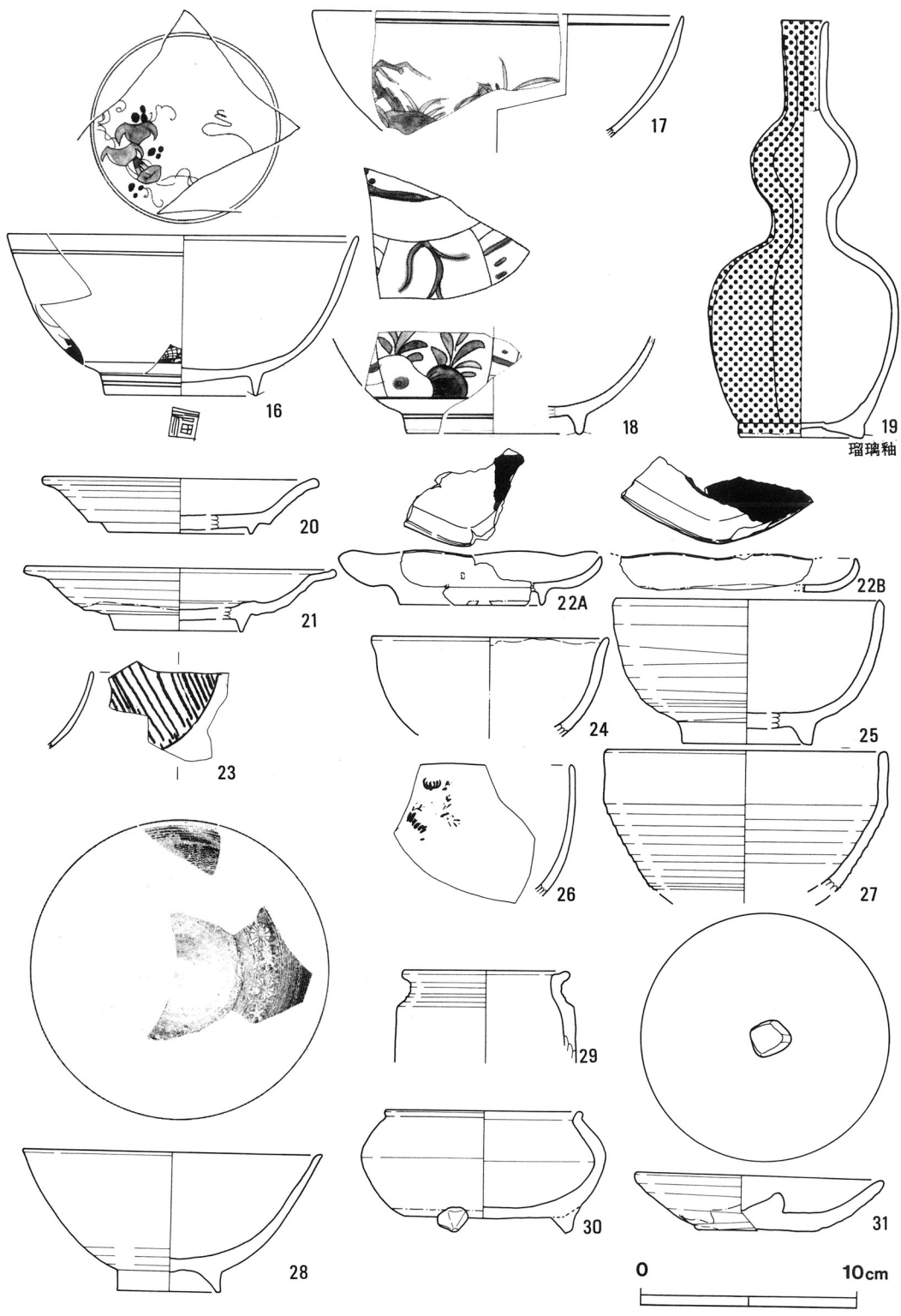


图 68 1号土坑出土遗物(3)  
Figure 68 Artifacts from Pit No.1

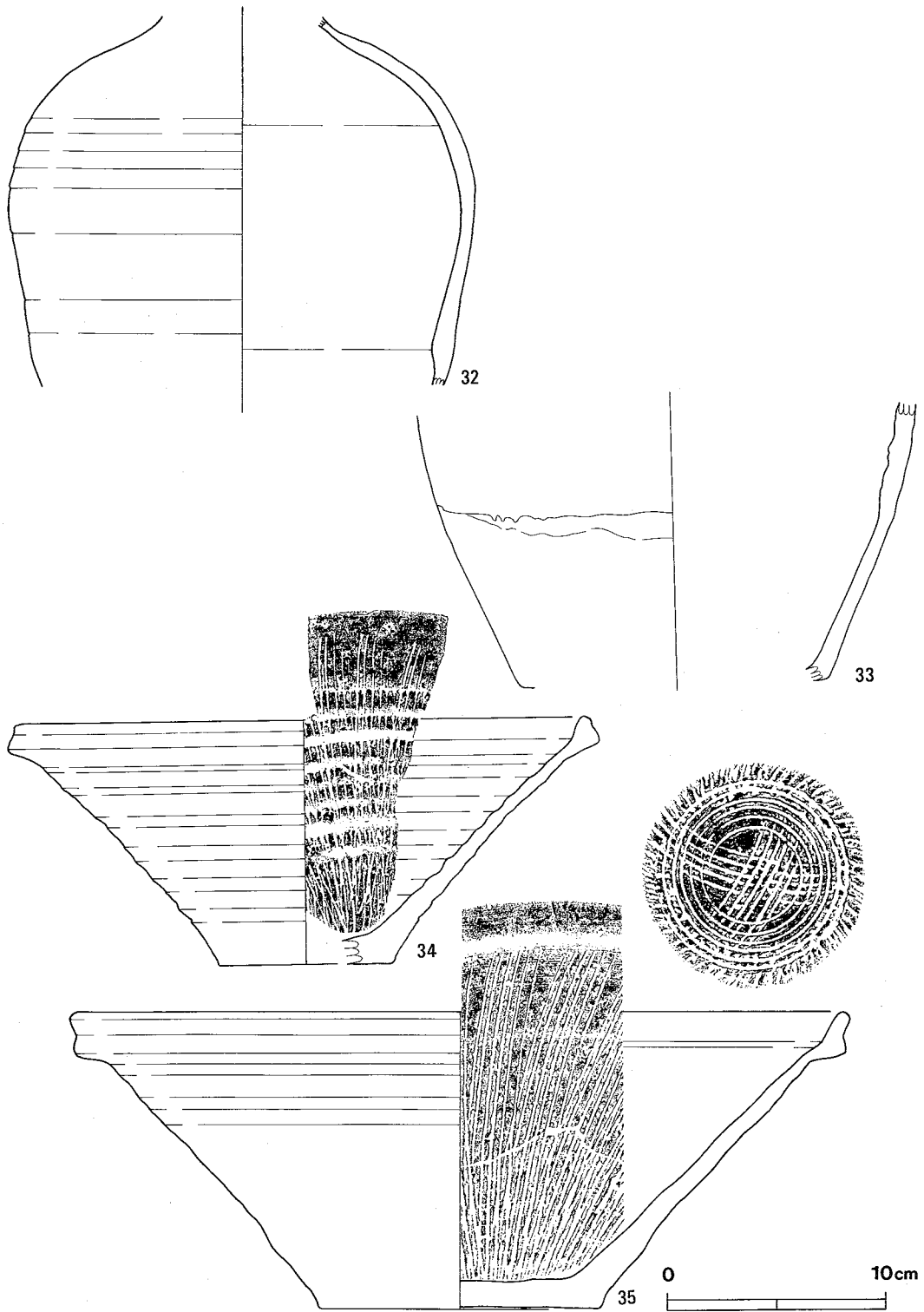


图 69 1号土坑出土遗物(4)  
Figure 69 Artifacts from Pit No.1

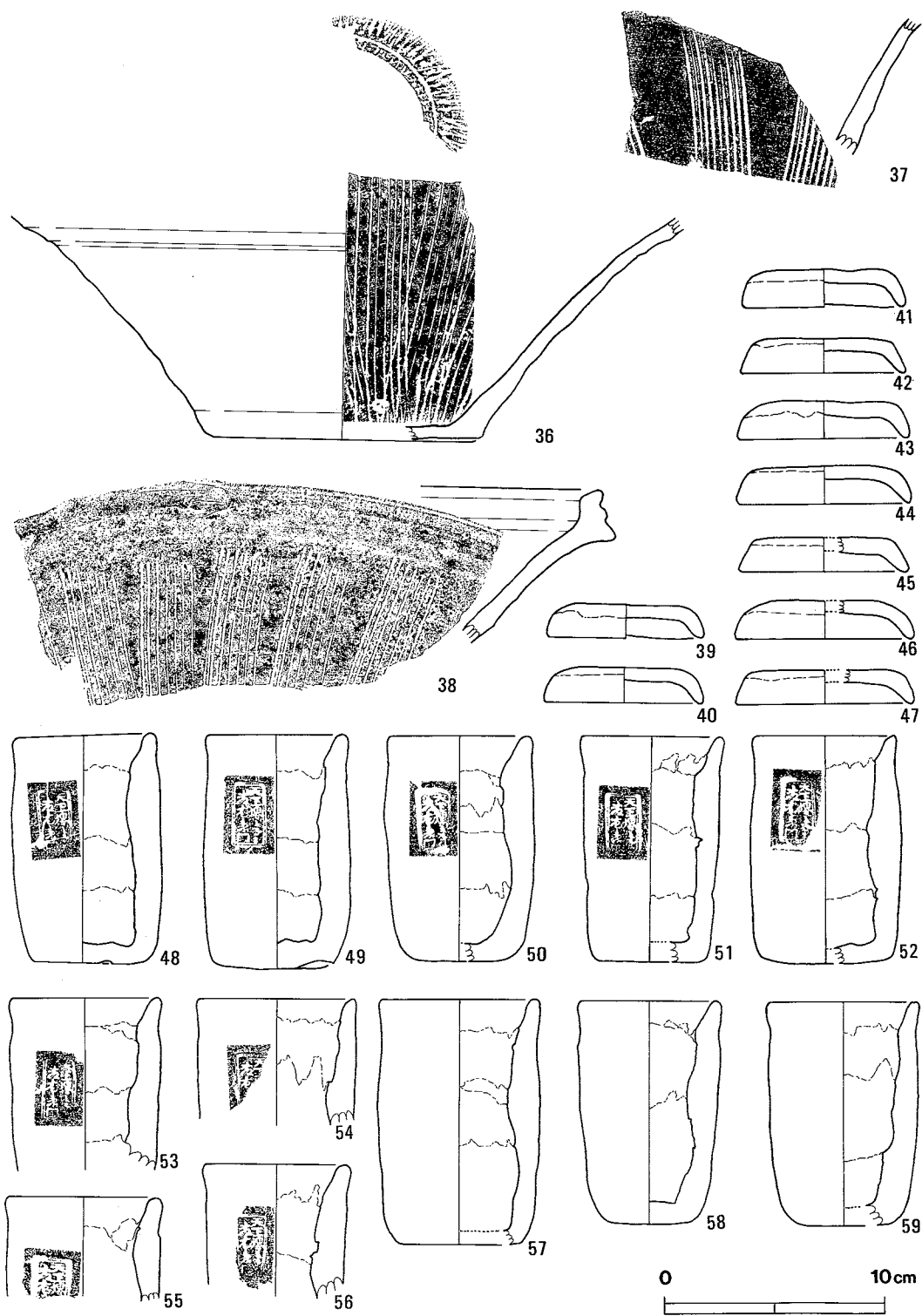


图 70 1号土坑出土遗物(5)  
Figure 70 Artifacts from Pit No.1

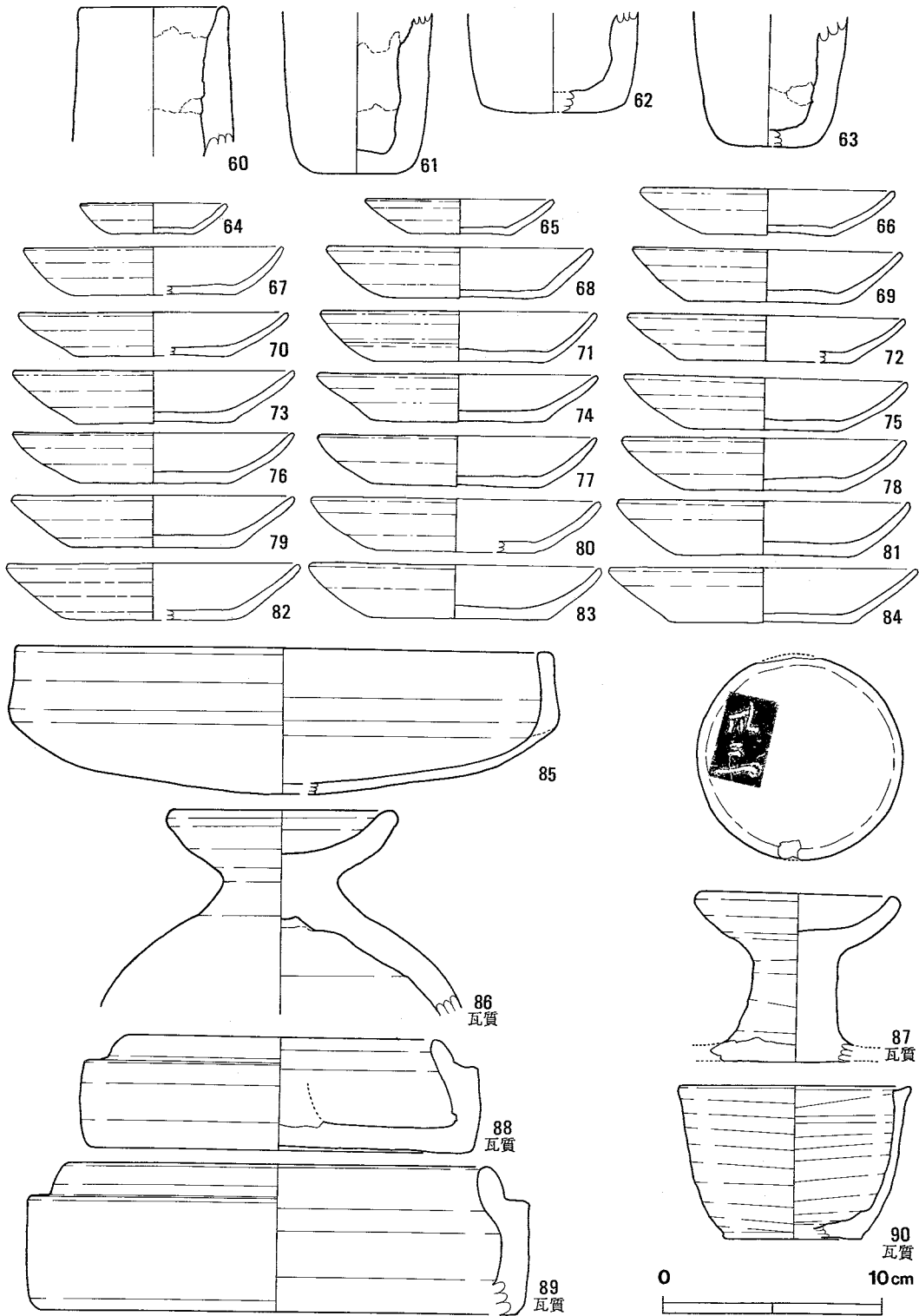
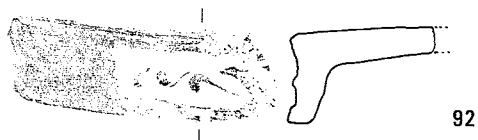
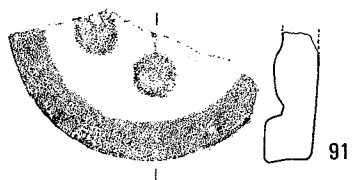
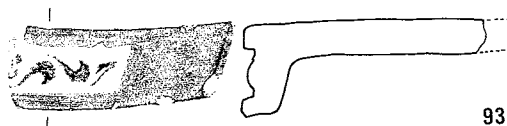


图 71 1号土坑出土遺物(6)  
Figure 71 Artifacts from Pit No.1

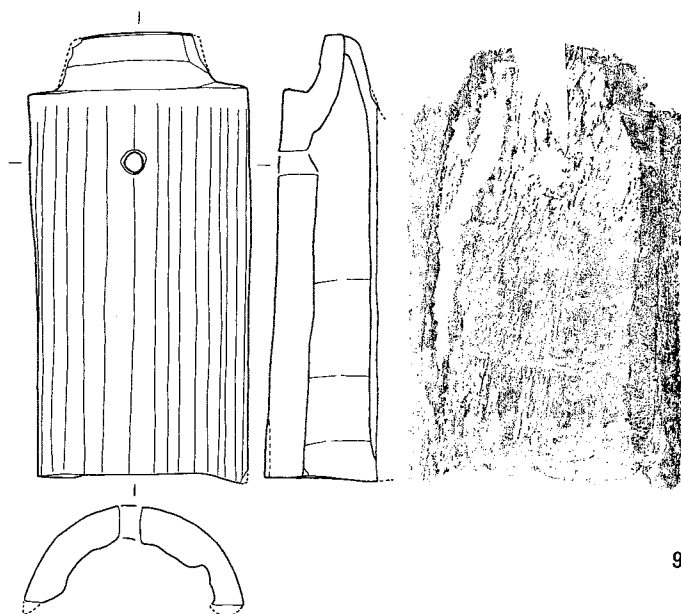


91

92



93

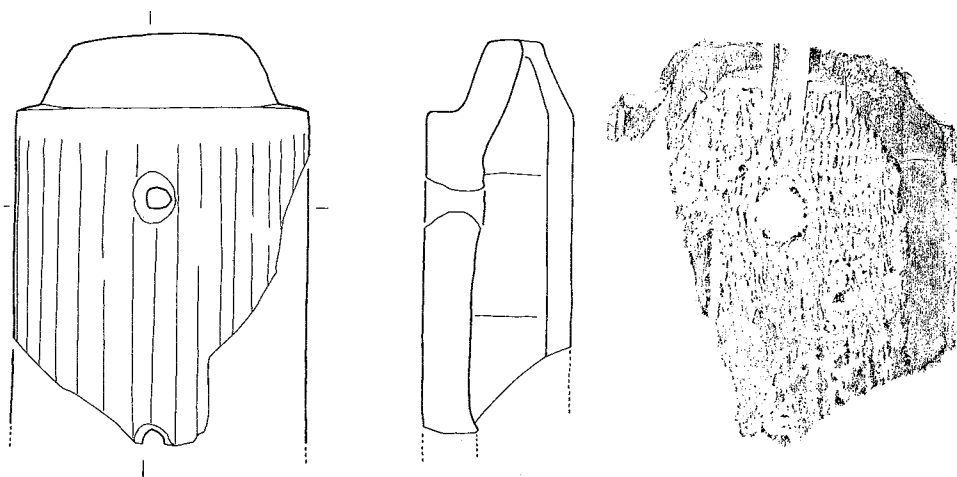


94

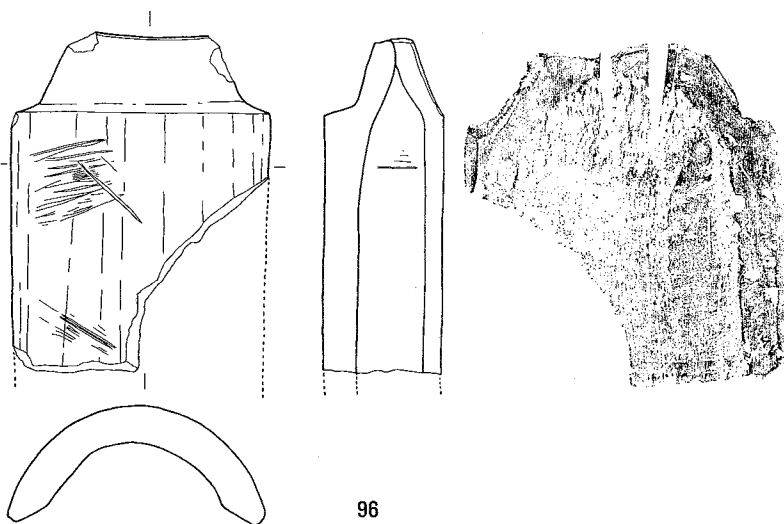
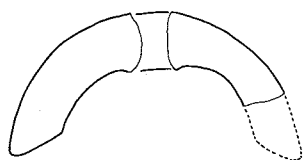


图 72 1号土坑出土遗物(7)  
Figure 72 Artifacts from Pit No.1





95



96

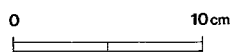


图 73 1号土坑出土遗物(8)  
Figure 73 Artifacts from Pit No.1

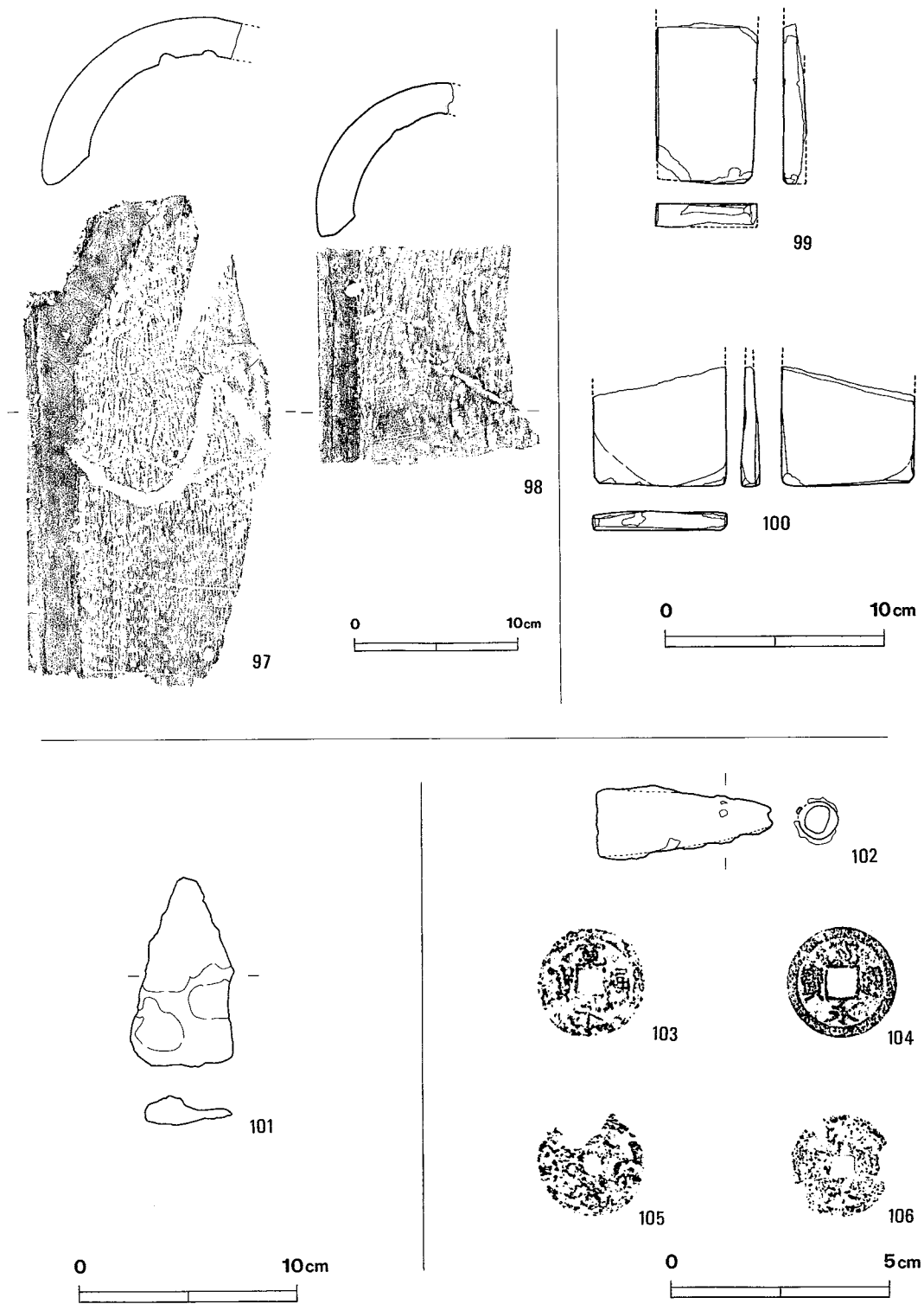


图 74 1号土坑出土遗物(9)  
Figure 74 Artifacts from Pit No.1

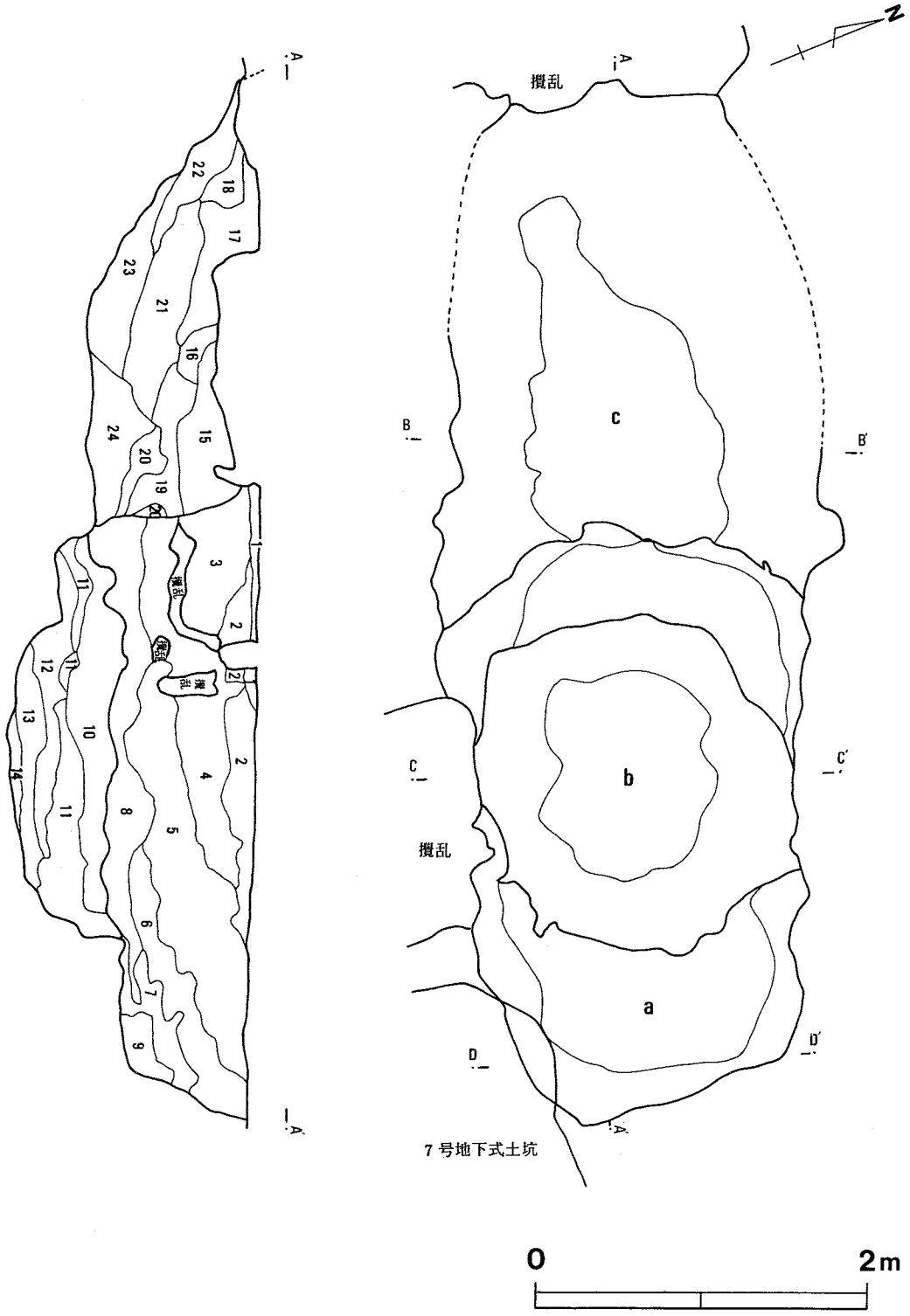
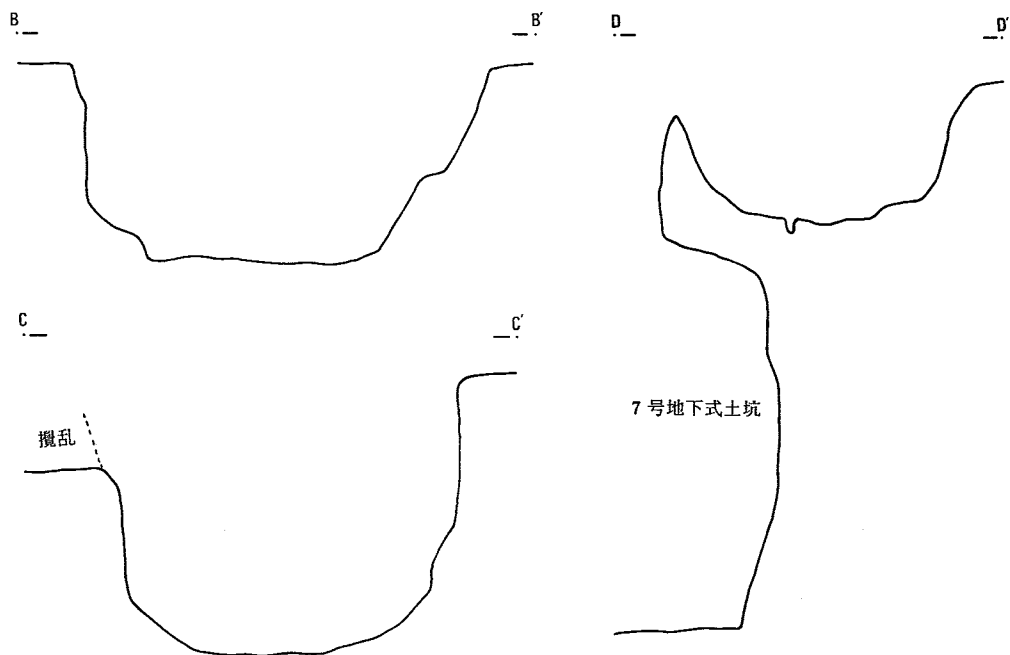


图 75 2号土坑 (1)

Figure 75 Pit No.2



- 2 a号土坑 ; 1 褐色土 (7.5YR4/3)  
 2 暗褐色土 (7.5YR3/4)炭化粒を多量に含む。  
 3 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
 4 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
 5 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
 6 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
 7 褐色土 (7.5YR4/4)ローム粒・ロームブロックを多量に含む。  
 8 極暗褐色土(7.5YR2/3)  
 9 暗褐色土 (7.5YR3/4)
- 2 b号土坑 ; 10 暗褐色土 (7.5YR3/4)ローム粒・ロームブロックを多量に含む。  
 11 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
 12 褐色土 (7.5YR4/4)ローム主体。  
 13 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
 14 褐色土 (7.5YR4/6)ローム主体。
- 2 c号土坑 ; 15 暗褐色土 (7.5YR3/4)炭化粒を多量に含む。  
 16 暗褐色土 (7.5YR3/3)炭化粒を多量に含む。  
 17 暗褐色土 (7.5YR3/4)炭化粒を多量、貝を少量含む。  
 18 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
 19 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
 20 暗褐色土 (7.5YR3/4)  
 21 暗褐色土 (7.5YR3/3)貝を含む。  
 22 黒褐色土 (7.5YR3/2)炭化粒を多量に含む。  
 23 極暗褐色土(7.5YR2/3)貝を含む。  
 24 暗褐色土 (7.5YR3/3)

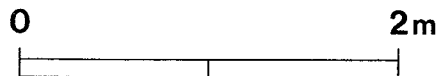


図 76 2号土坑 (2)

Figure 76 Pit No.2

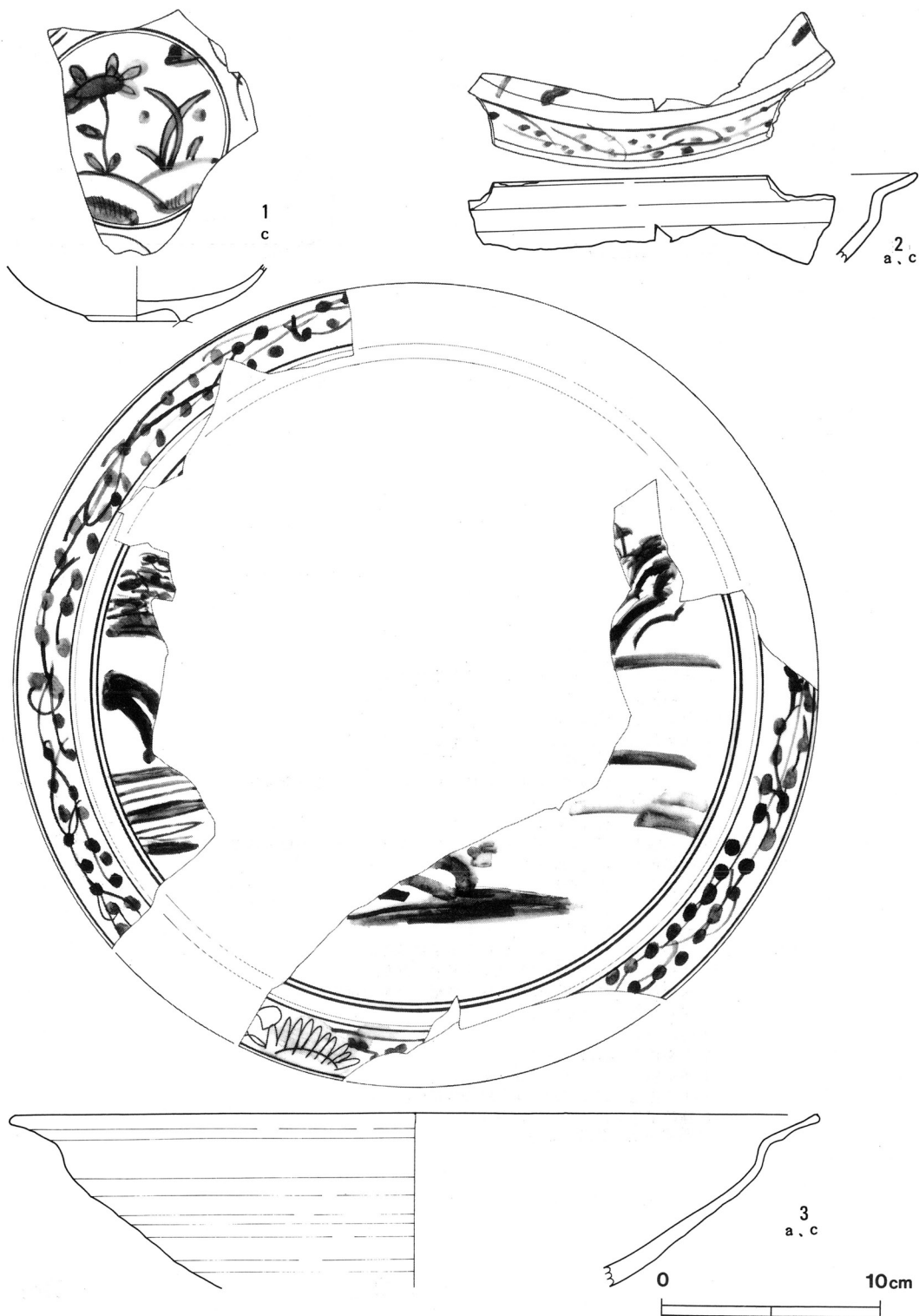


图 77 2号土坑出土遗物 (1)  
 Figure 77 Artifacts from Pit No.2

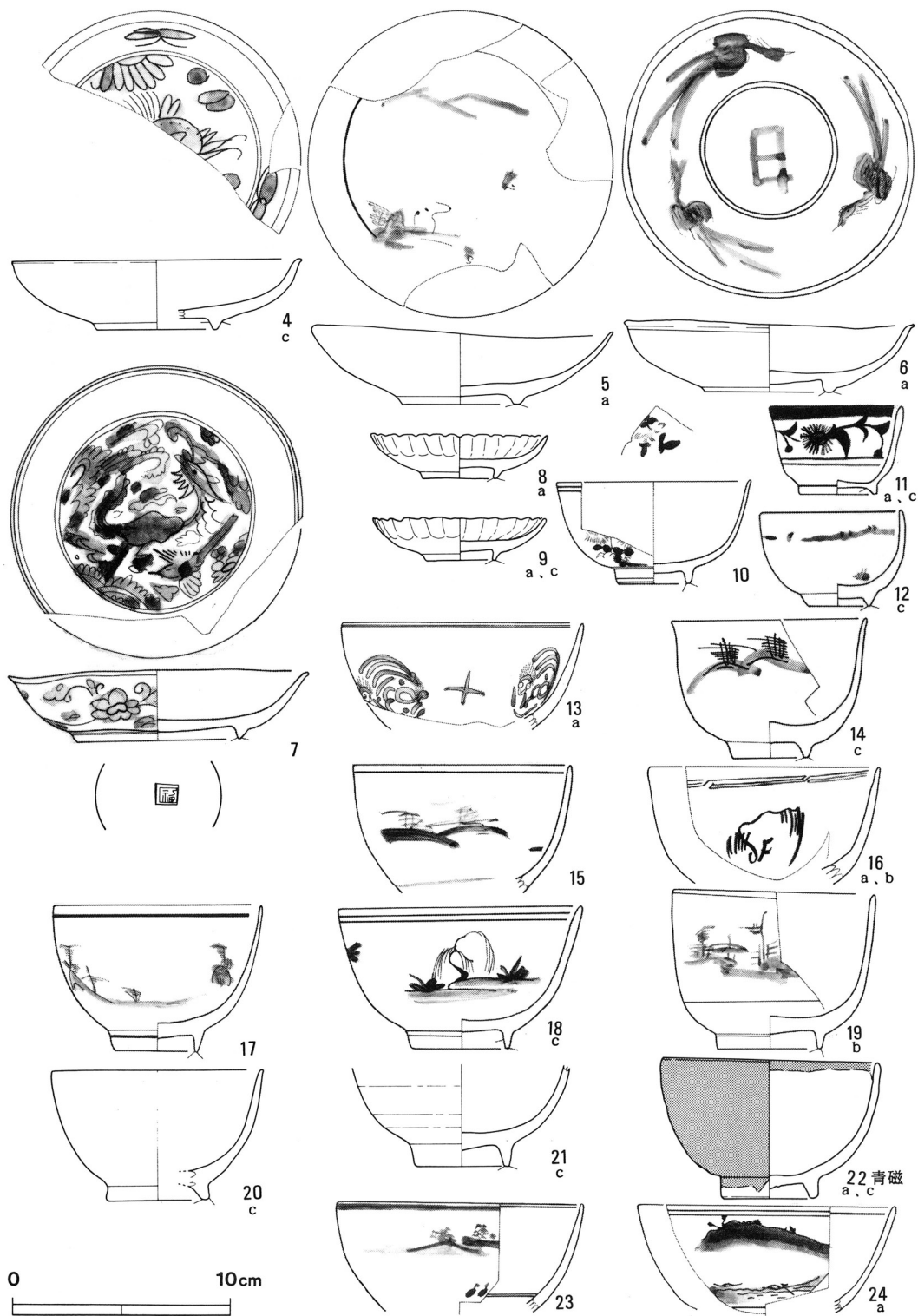


图 78 2号土坑出土遗物(2)  
Figure 78 Artifacts from Pit No.2

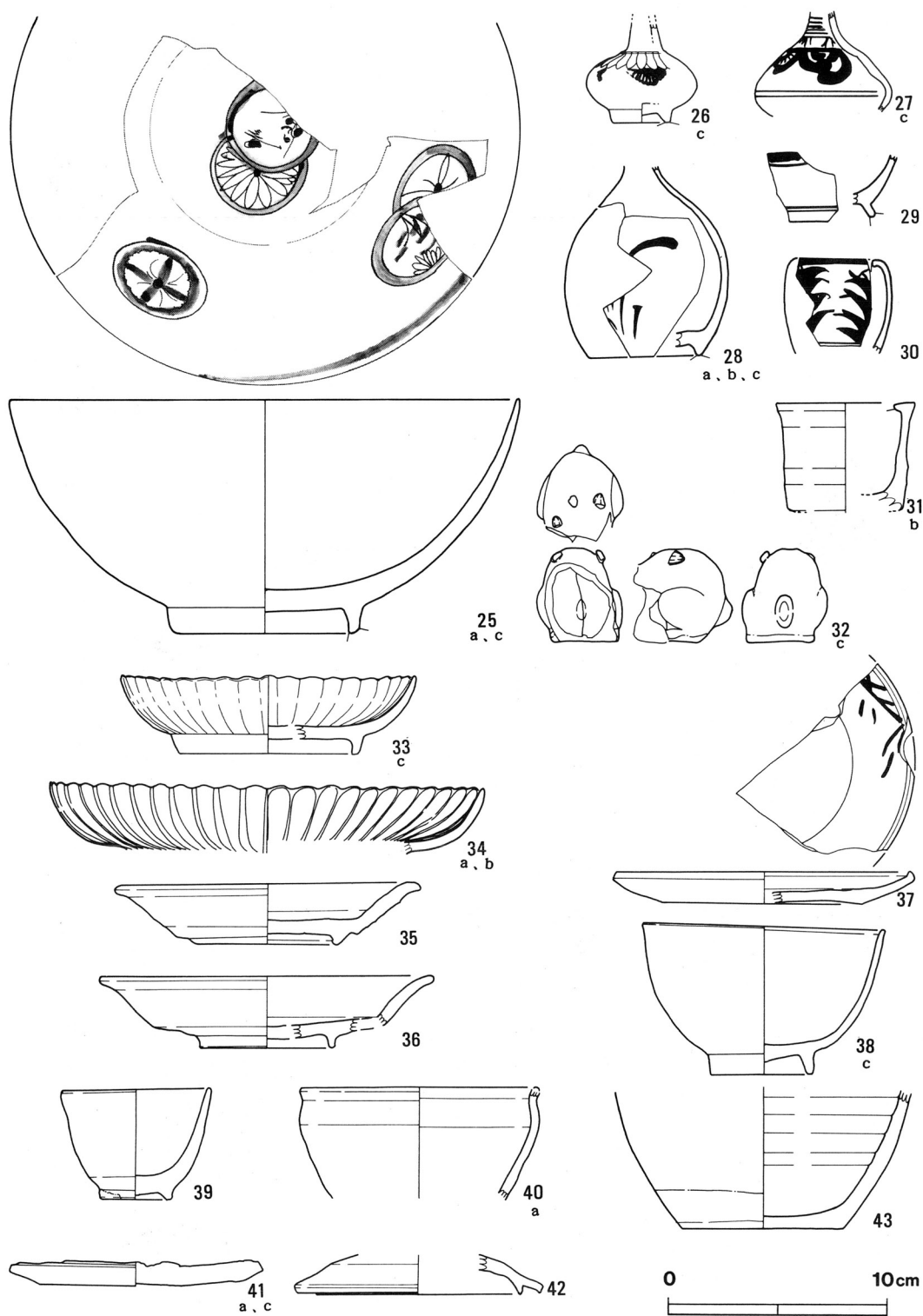


图 79 2号土坑出土遗物(3)  
Figure 79 Artifacts from Pit No.2

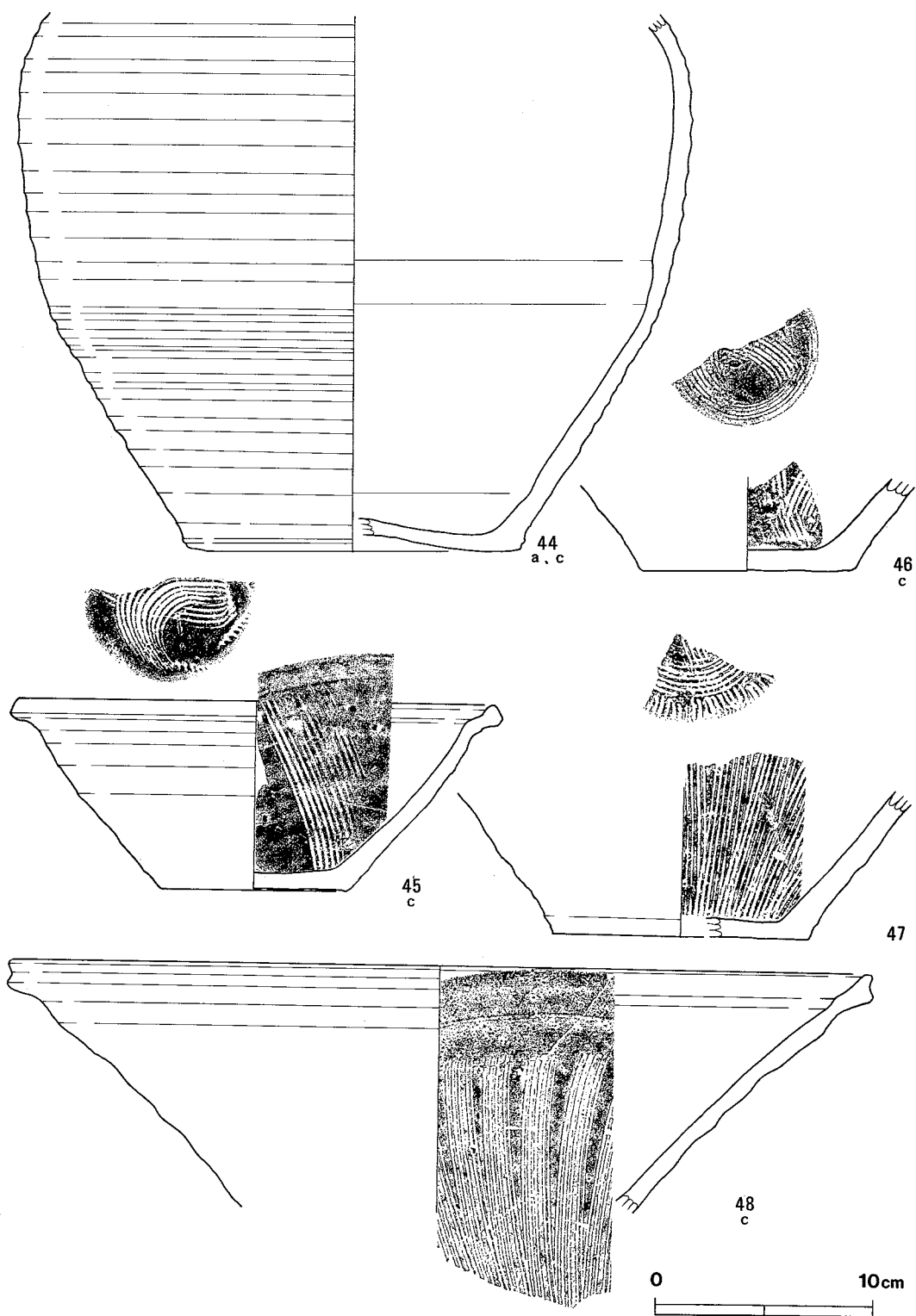


图 80 2号土坑出土遗物(4)  
Figure 80 Artifacts from Pit No.2



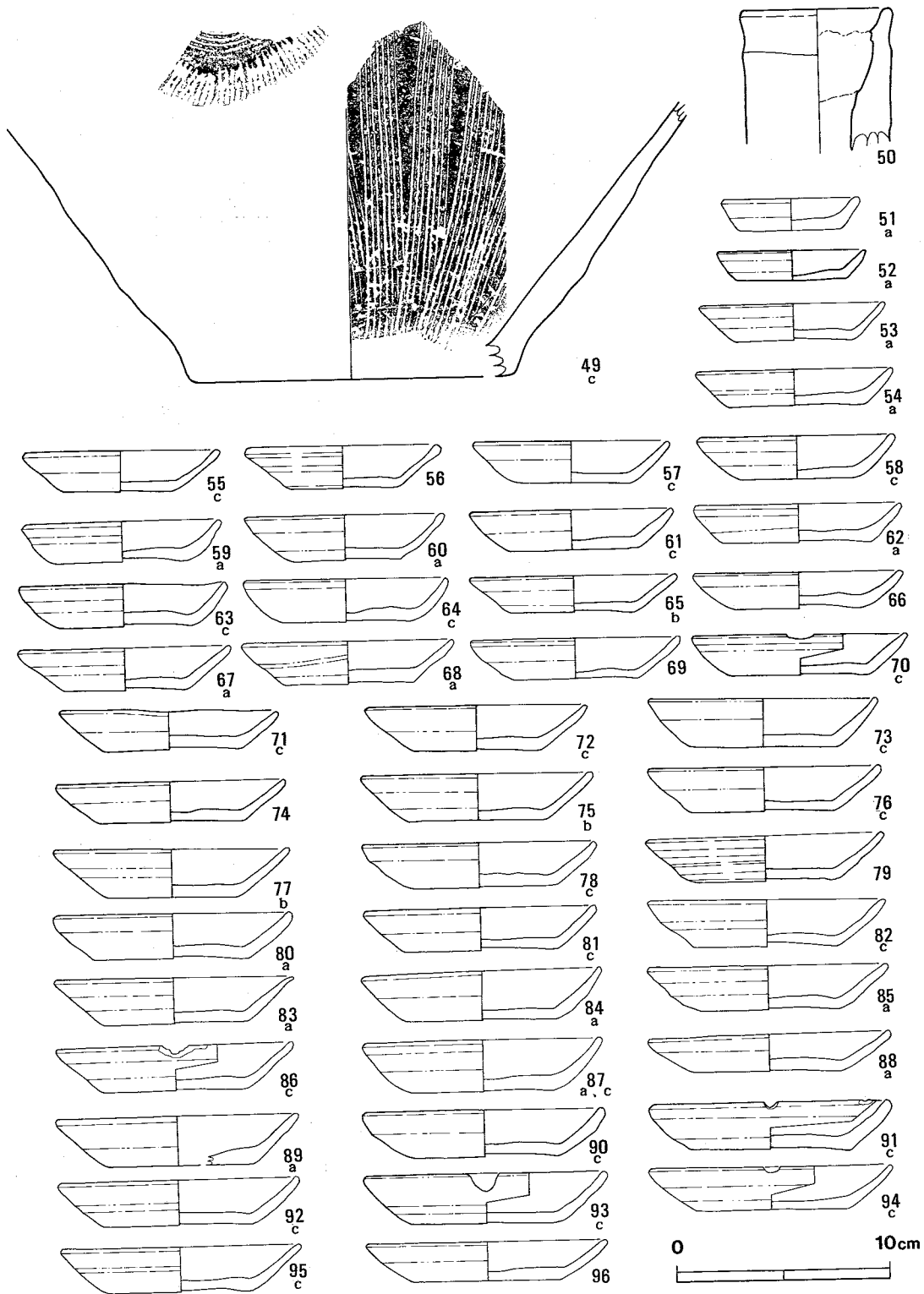


图 81 2号土坑出土遺物(5)  
Figure 81 Artifacts from Pit No.2

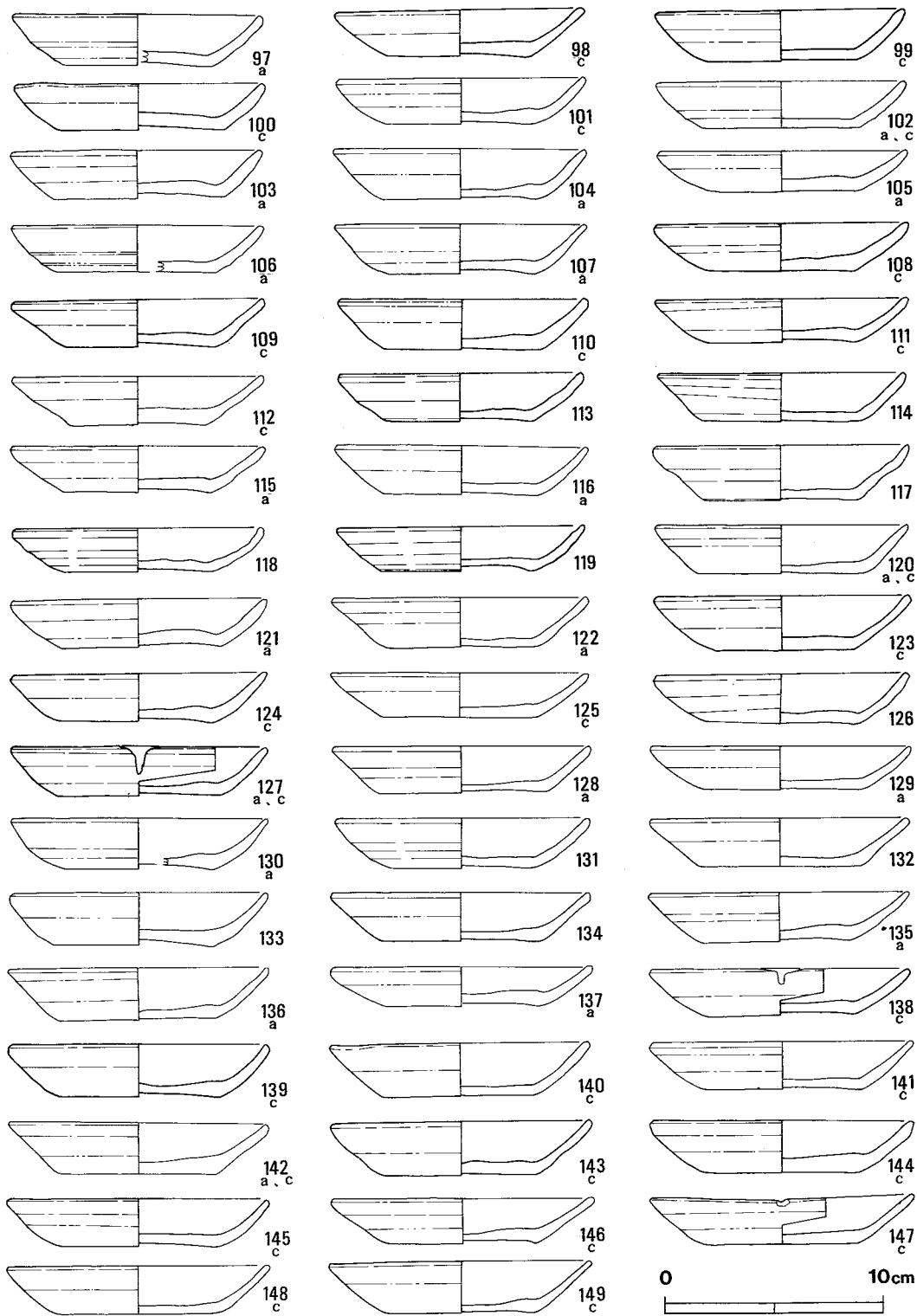


图 82 2号土坑出土遗物(6)  
 Figure 82 Artifacts from Pit No.2

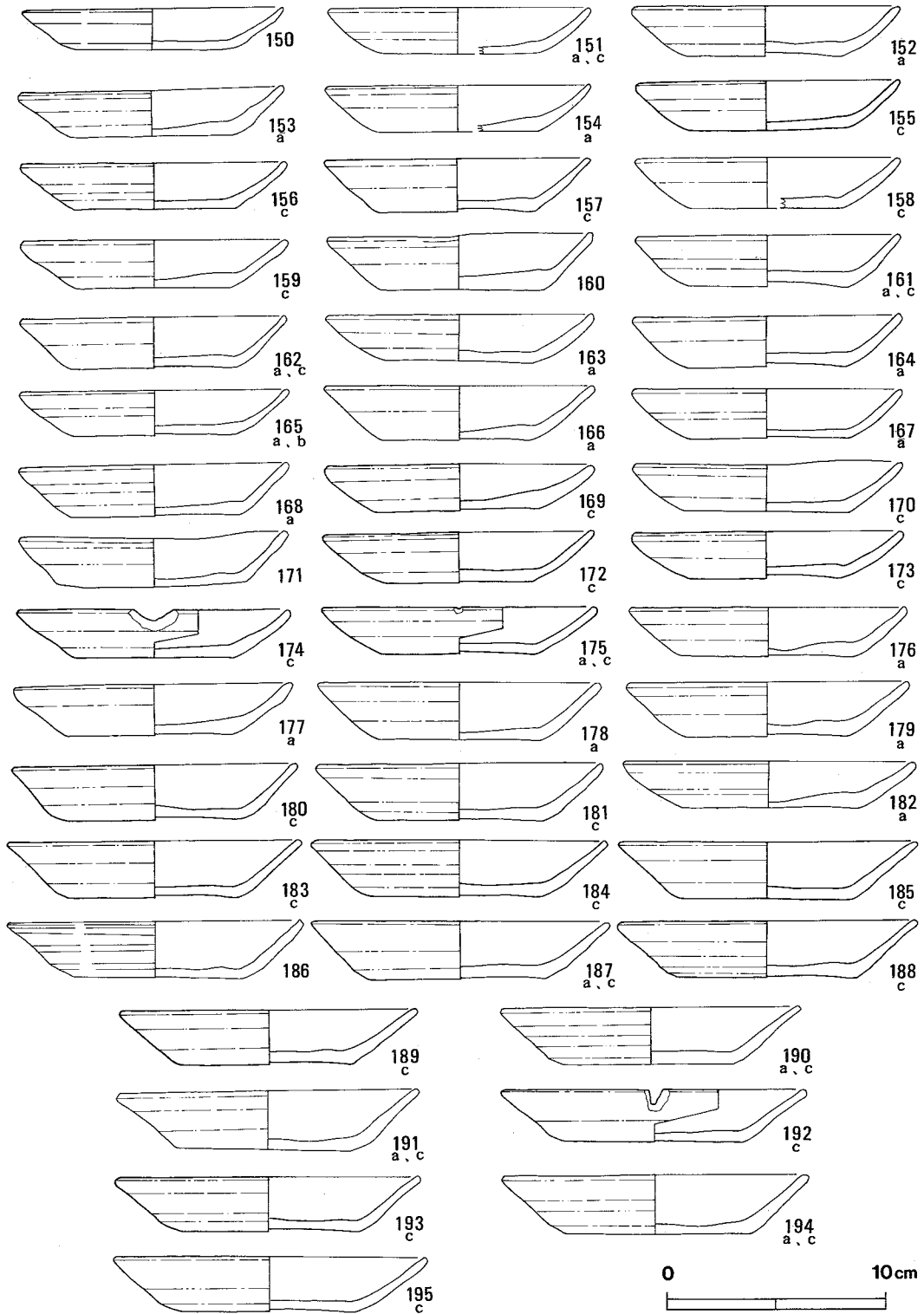


图 83 2号土坑出土遗物(7)  
Figure 83 Artifacts from Pit No.2

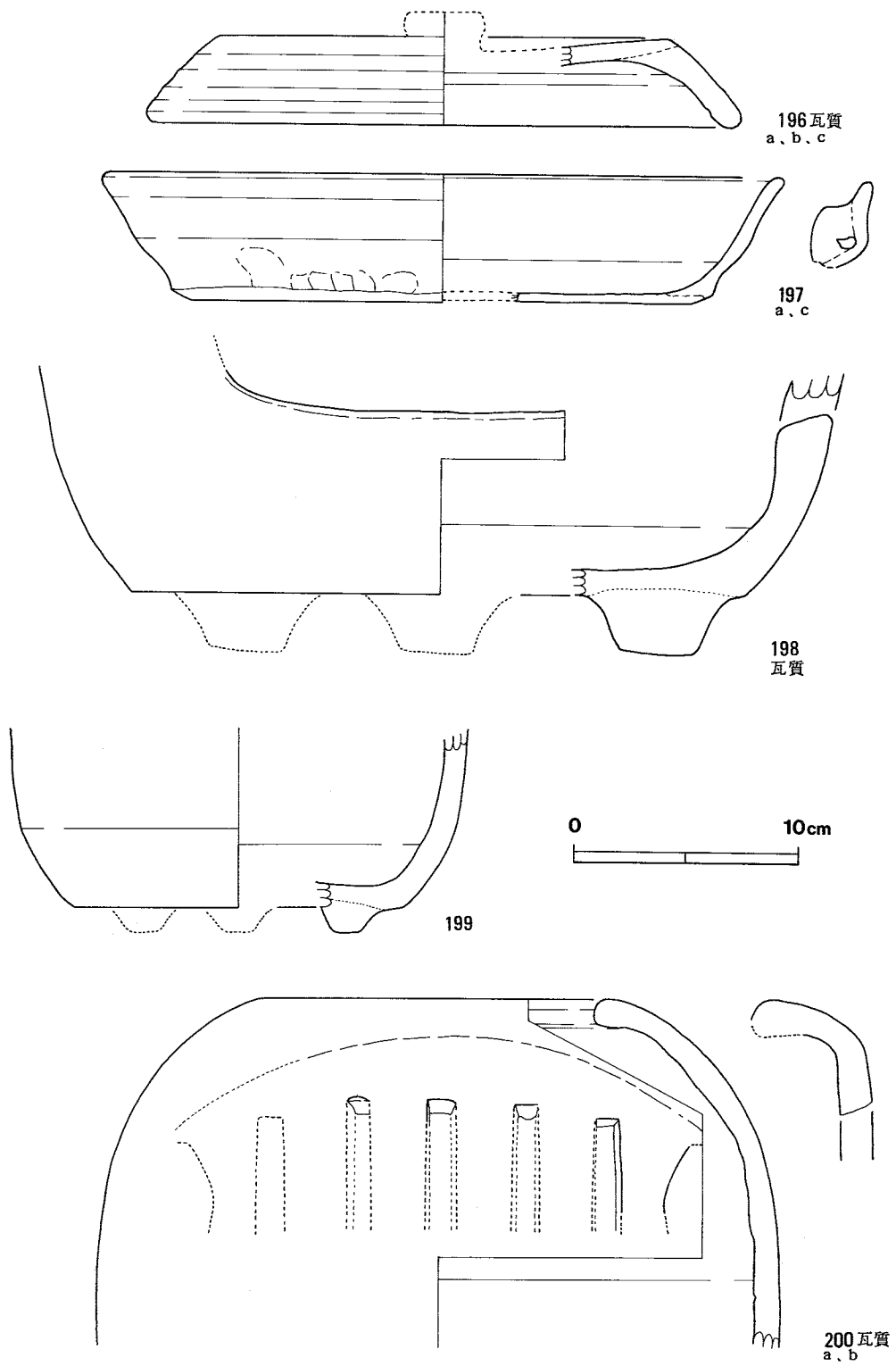


图 84 2号土坑出土遗物(8)  
Figure 84 Artifacts from Pit No.2

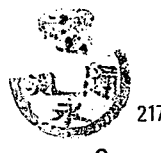
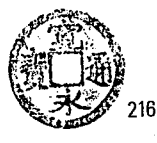
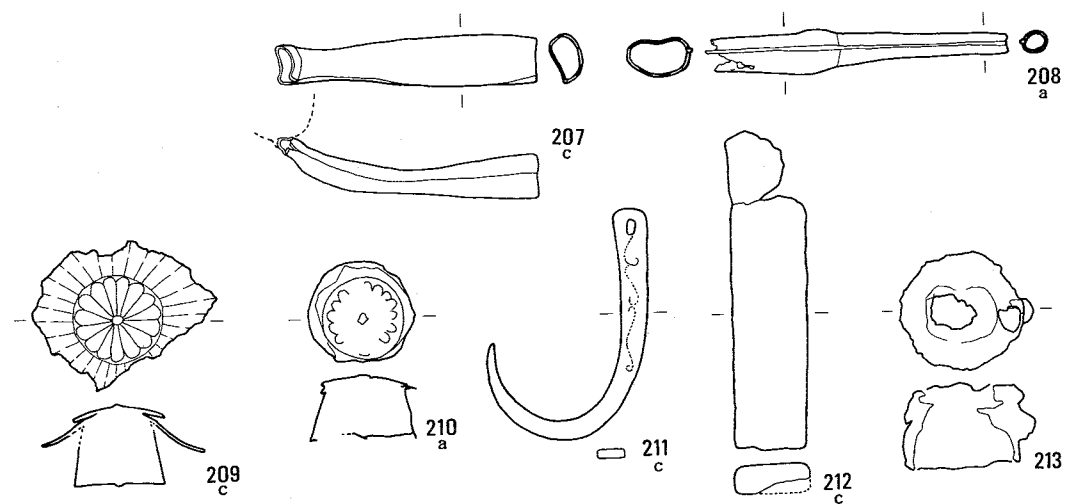
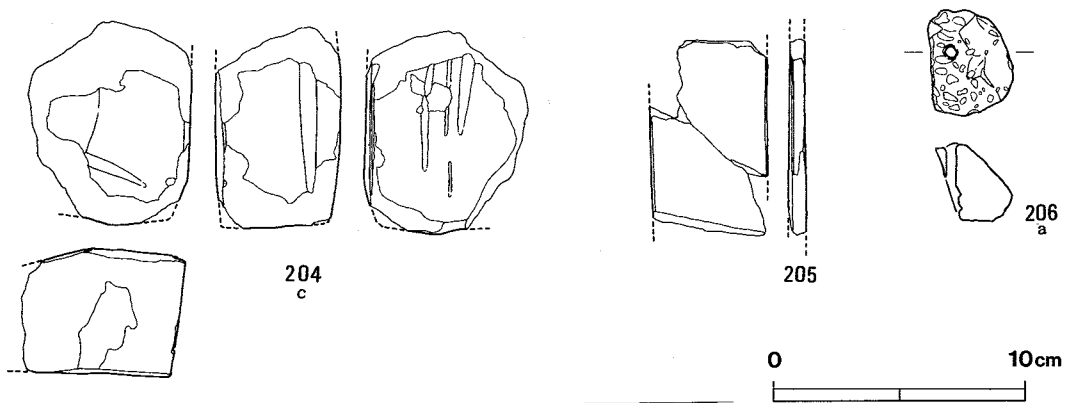
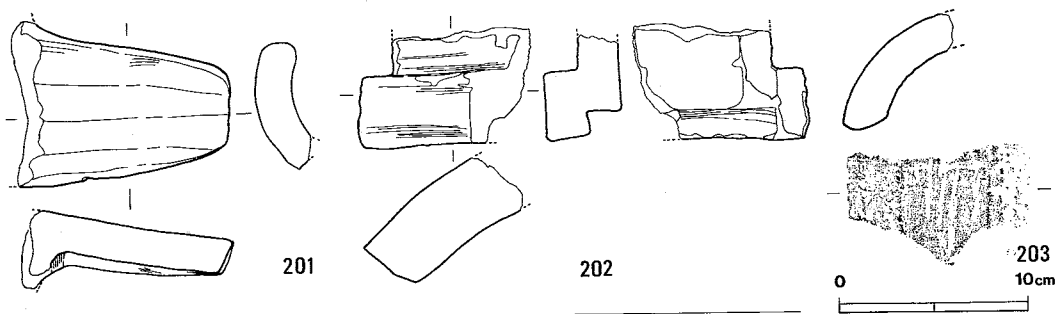
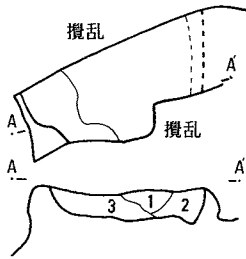
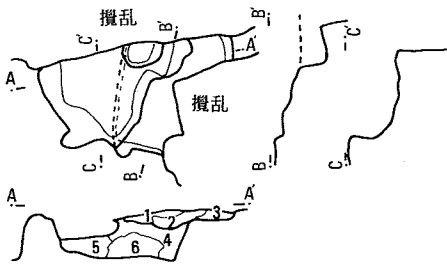


图 85 2号土坑出土遗物(9)  
Figure 85 Artifacts from Pit No.2



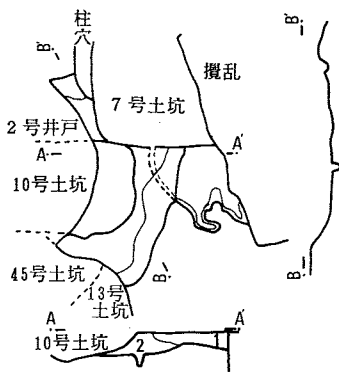
- 1 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒、焼土粒を含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒、焼土粒、炭化粒を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒を多量、ロームブロック、焼土粒を含む。

### 3号土坑



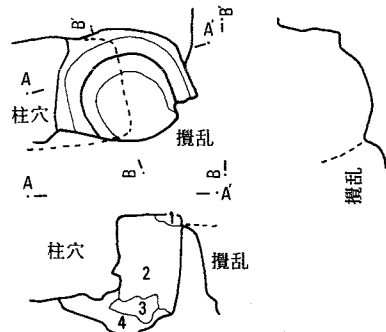
- 1 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒、焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 にぶい褐色土 (7.5YR5/3) 灰主体。焼土粒を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒、焼土粒を含む。
- 4 明褐色土 (7.5YR5/6) ローム粒・ロームブロック主体。焼土粒、炭化粒を含む。
- 5 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒主体。焼土粒、炭化粒を含む。
- 6 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒主体。焼土粒を含む。

### 5・6号土坑



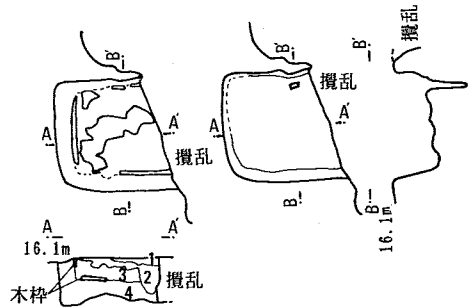
- 1 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒、焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒、焼土粒を含む。

### 8・9号土坑



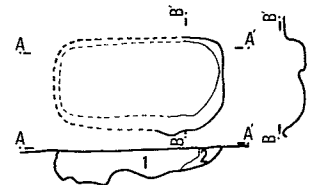
- 1 褐色土 (7.5YR4/4) 焼土粒を含む。
- 2 明褐色土 (7.5YR5/6)
- 3 褐色土 (7.5YR4/6)
- 4 明褐色土 (7.5YR5/6) ロームブロック主体。

### 4号土坑



- 1 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土主体。
- 2 暗赤褐色土 (2.5YR3/3) ローム粒、焼土粒、炭化粒を含む。
- 3 にぶい赤褐色土 (2.5YR4/4) 焼土主体。
- 4 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒、焼土粒、粘土粒を含む。

### 7号土坑

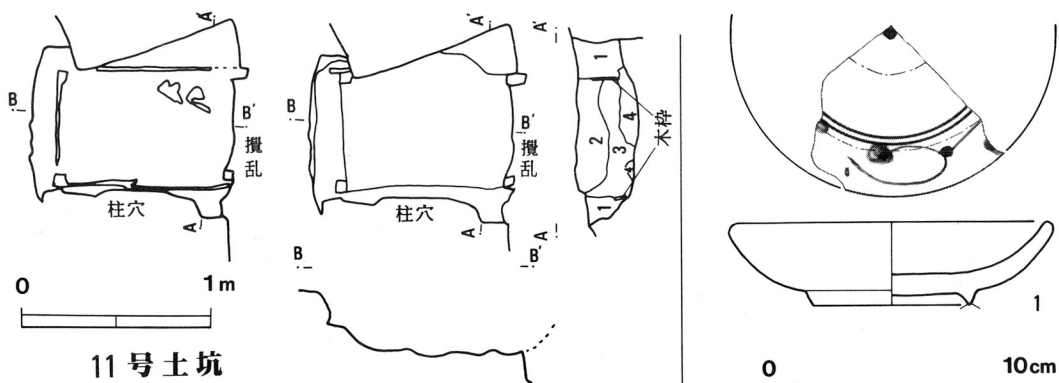


- 1 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒、焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 灰褐色土 (7.5YR4/2) 粘土粒を多量、ローム粒を含む。

### 10号土坑

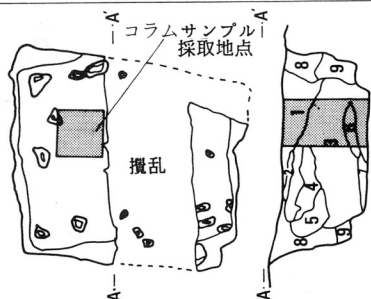


図 86 3~10号土坑  
Figure 86 Pits No.3 - 10



11号土坑

- 1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ロームブロックを多量に含む。
- 2 暗赤褐色土(5YR3/2) ローム粒、炭化粒を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/6) 黄色砂粒・小礫を多量に含む。
- 4 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒、ロームブロック、焼土粒を含む。



- 1 暗褐色土 (10YR3/3)
- 2 灰黄褐色土(10YR6/2) 粘土主体。
- 3 褐色土 (10YR3/4) 二枚貝を含む。
- 4 黒褐色土 (2.5Y3/2)
- 5 暗褐色土 (10YR3/3)
- 6 黄褐色土 (2.5Y5/3) 粘土主体。
- 7 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒、ロームブロックを含む。
- 8 暗褐色土 (10YR3/4)
- 9 褐色土 (7.5YR4/3) ロームブロックを含む。

12号土坑

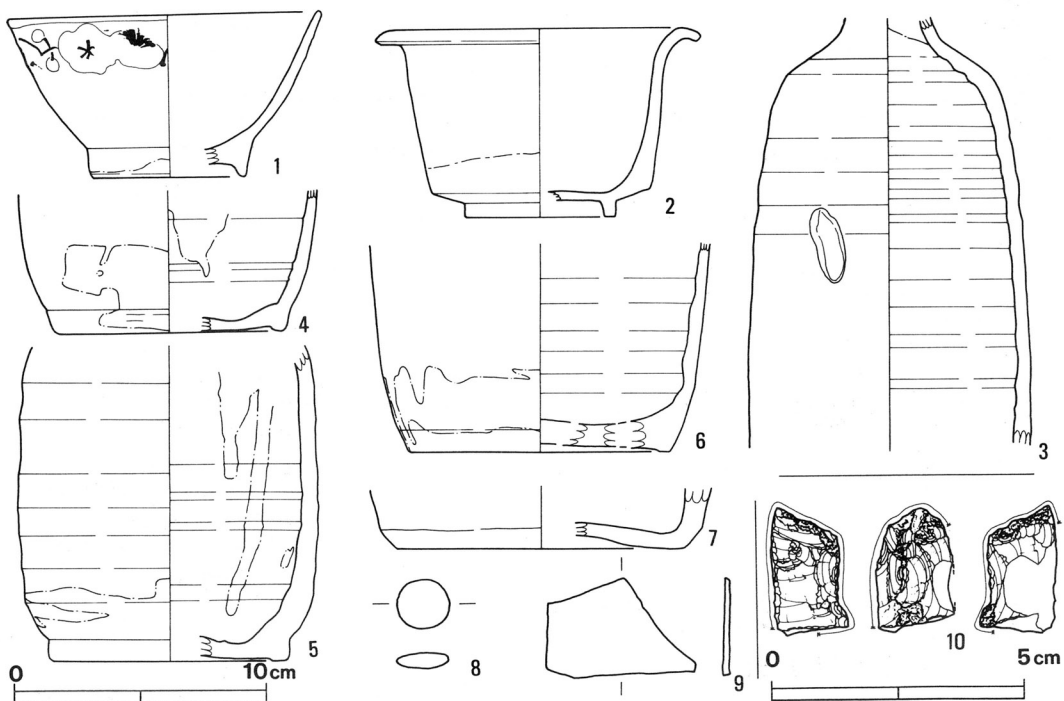


図 87 11・12号土坑, 同出土遺物

Figure 87 Pits No.11 and 12, and their artifacts

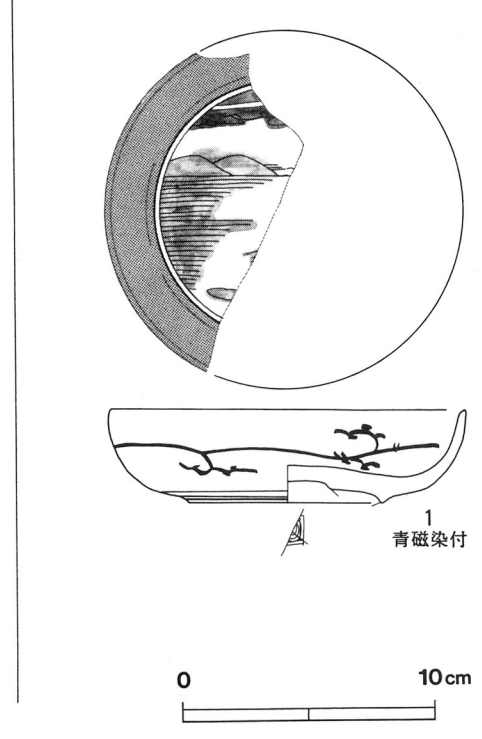
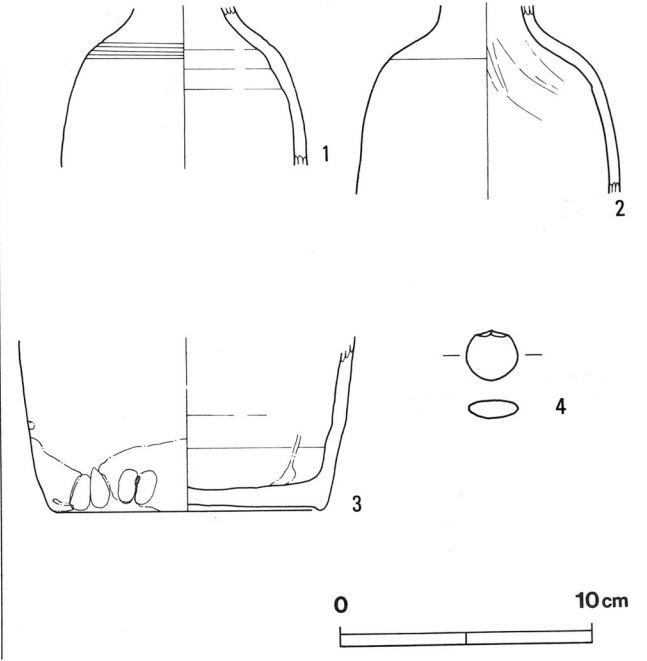
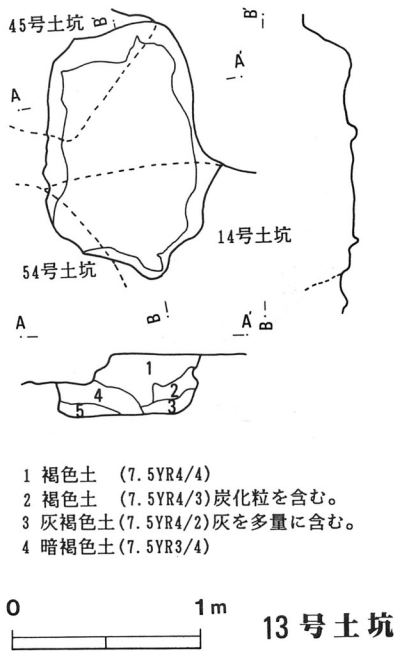


图 88 13・14号土坑, 13号・14号(1)土坑出土遺物  
Figure 88 Pits No.13 and 14, and their artifacts



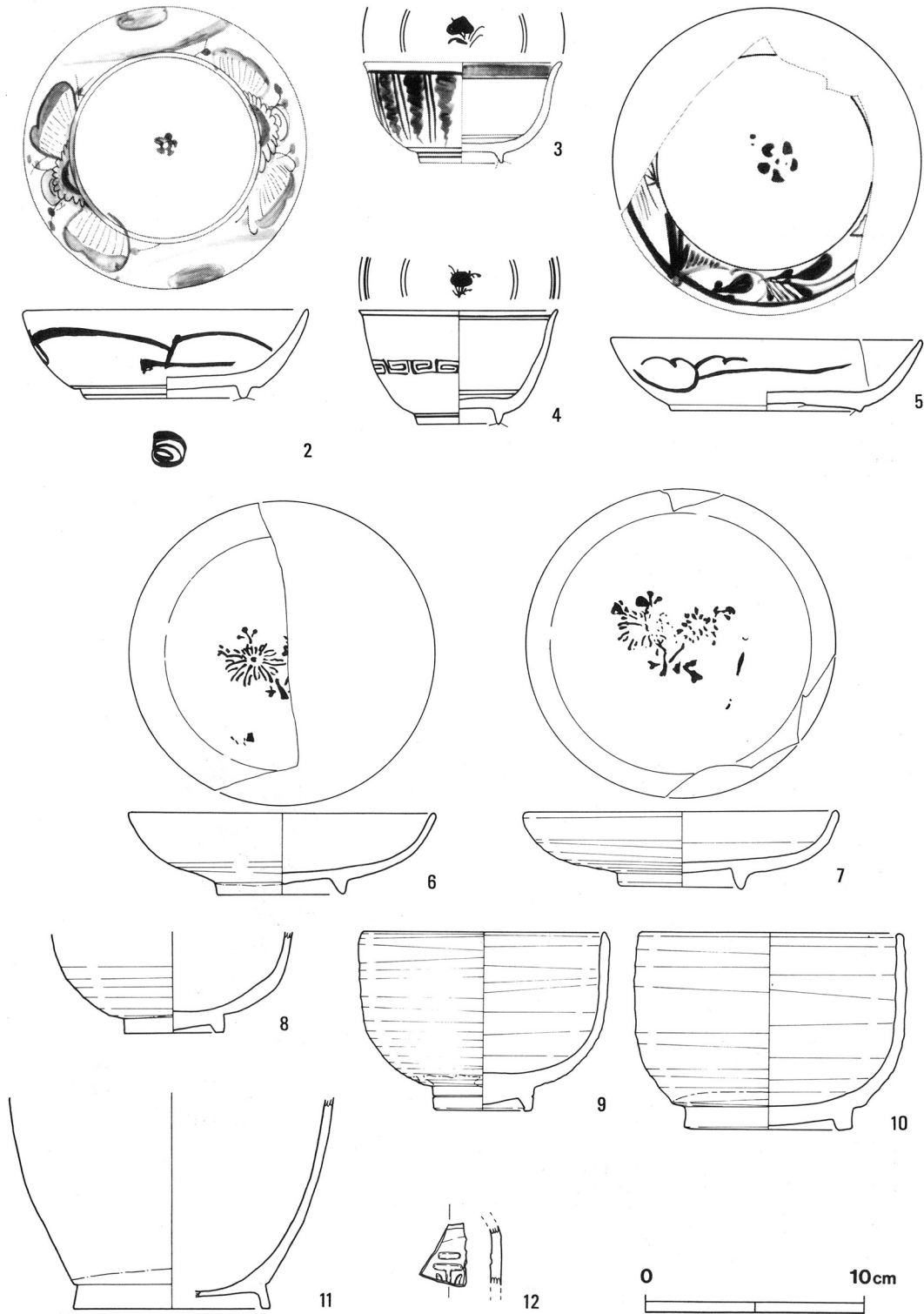


图 89 14 号土坑出土遗物 (2)  
Figure 89 Artifacts from Pit No.14

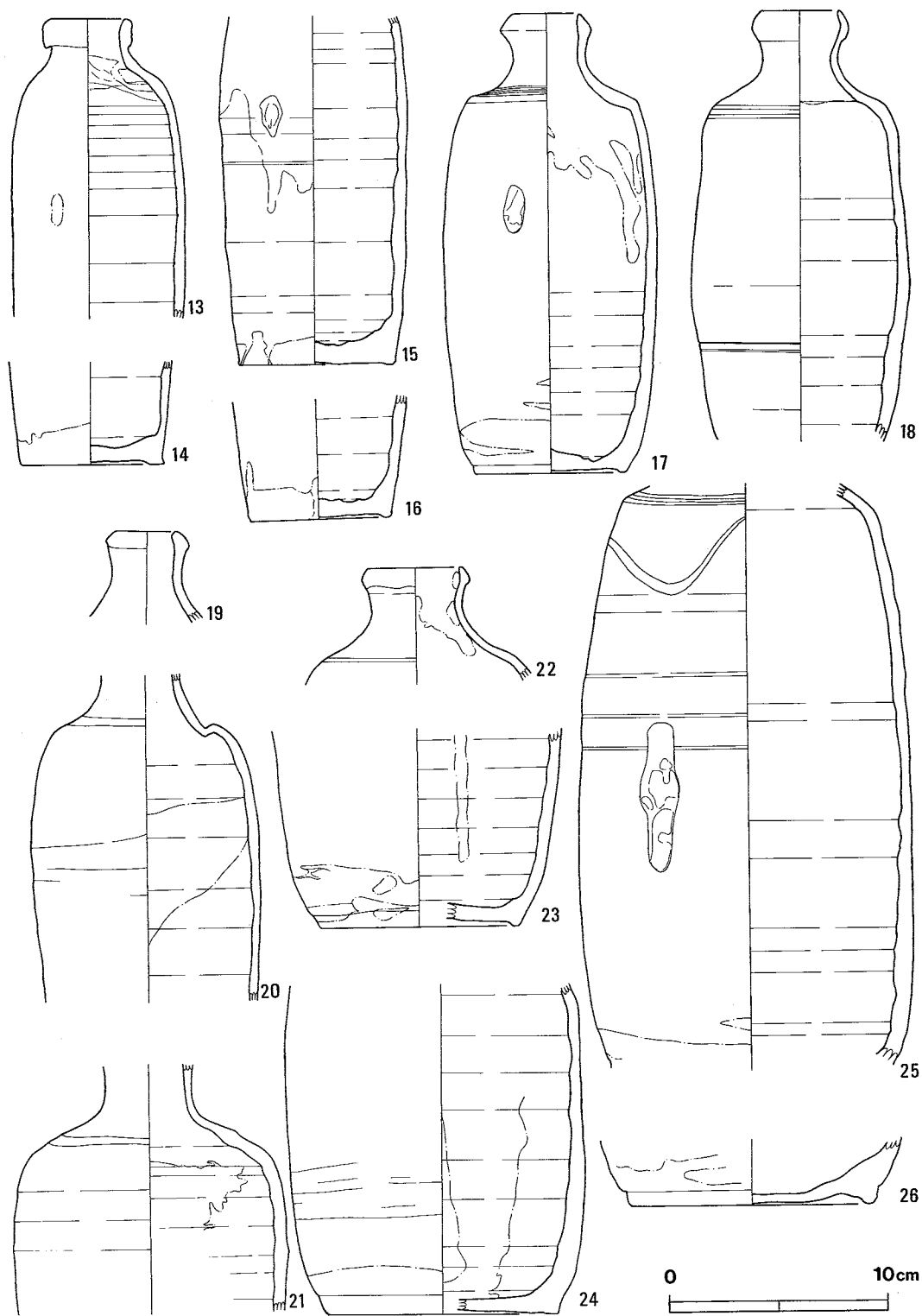


图 90 14号土坑出土遗物(3)  
Figure 90 Artifacts from Pit No.14

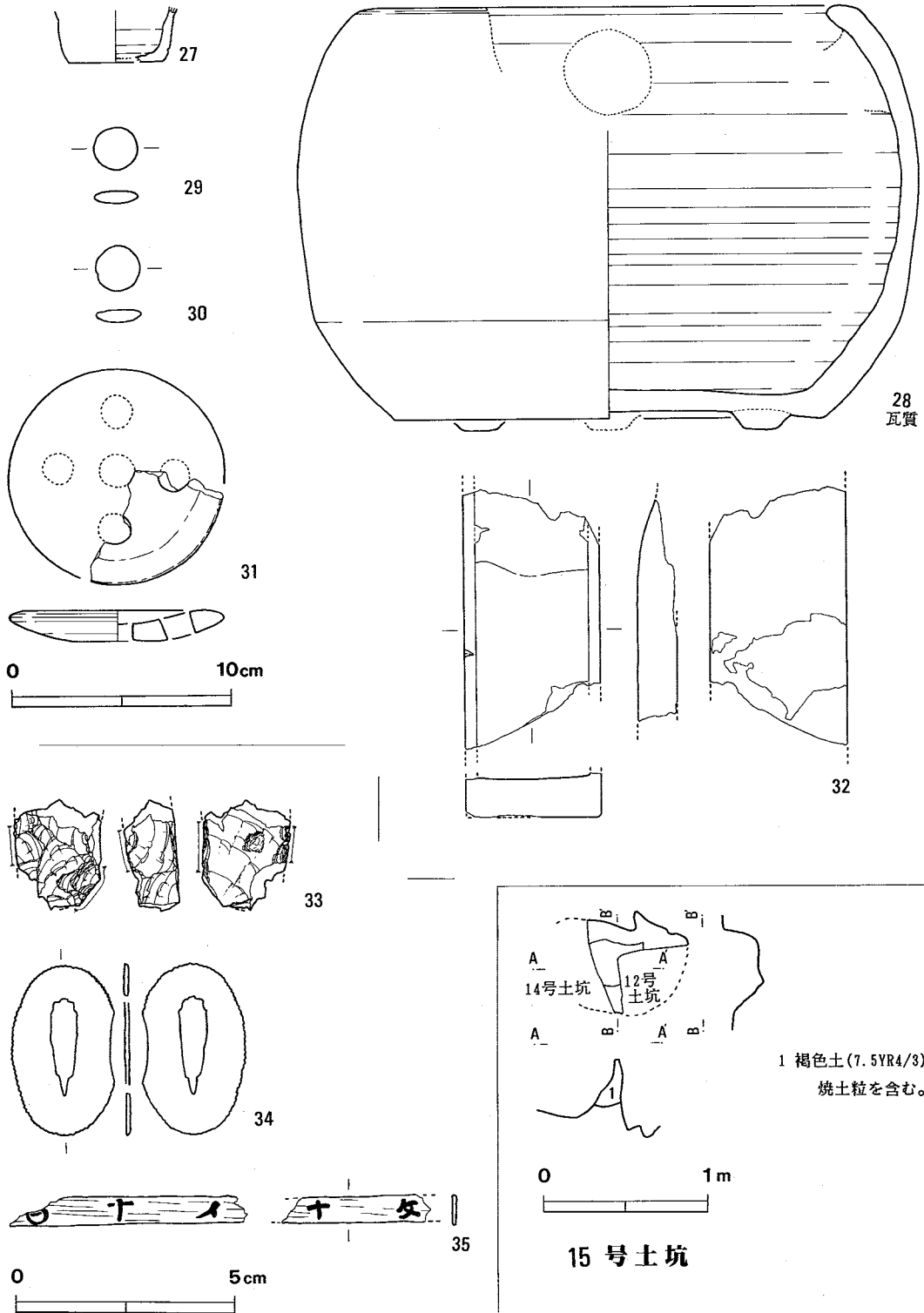


图 91 14 号土坑出土遗物 (4), 15 号土坑  
 Figure 91 Artifacts from Pit No.14, Pit No.15

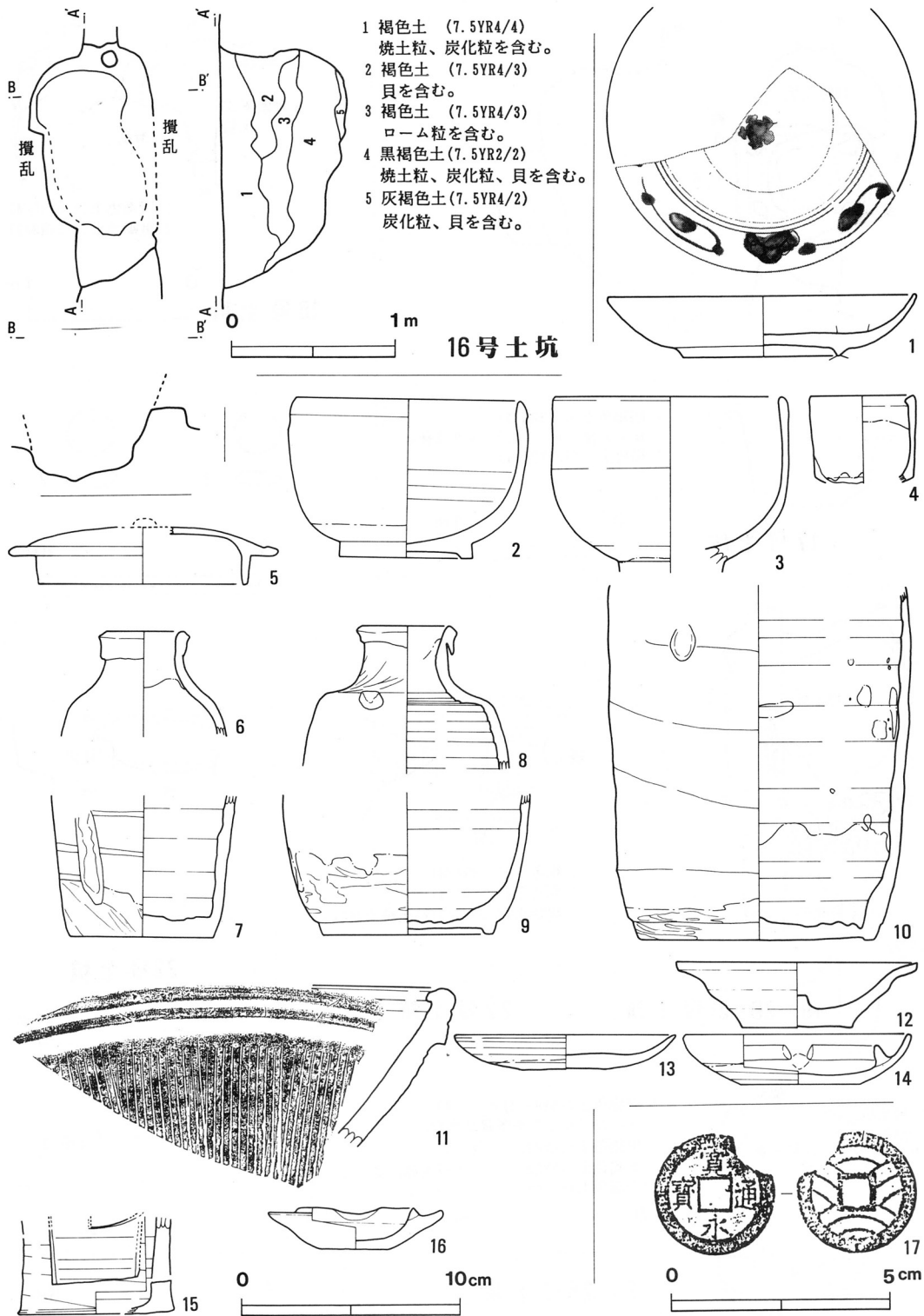


图 92 16号土坑, 同出土遺物  
 Figure 92 Pit No.16 and its artifacts

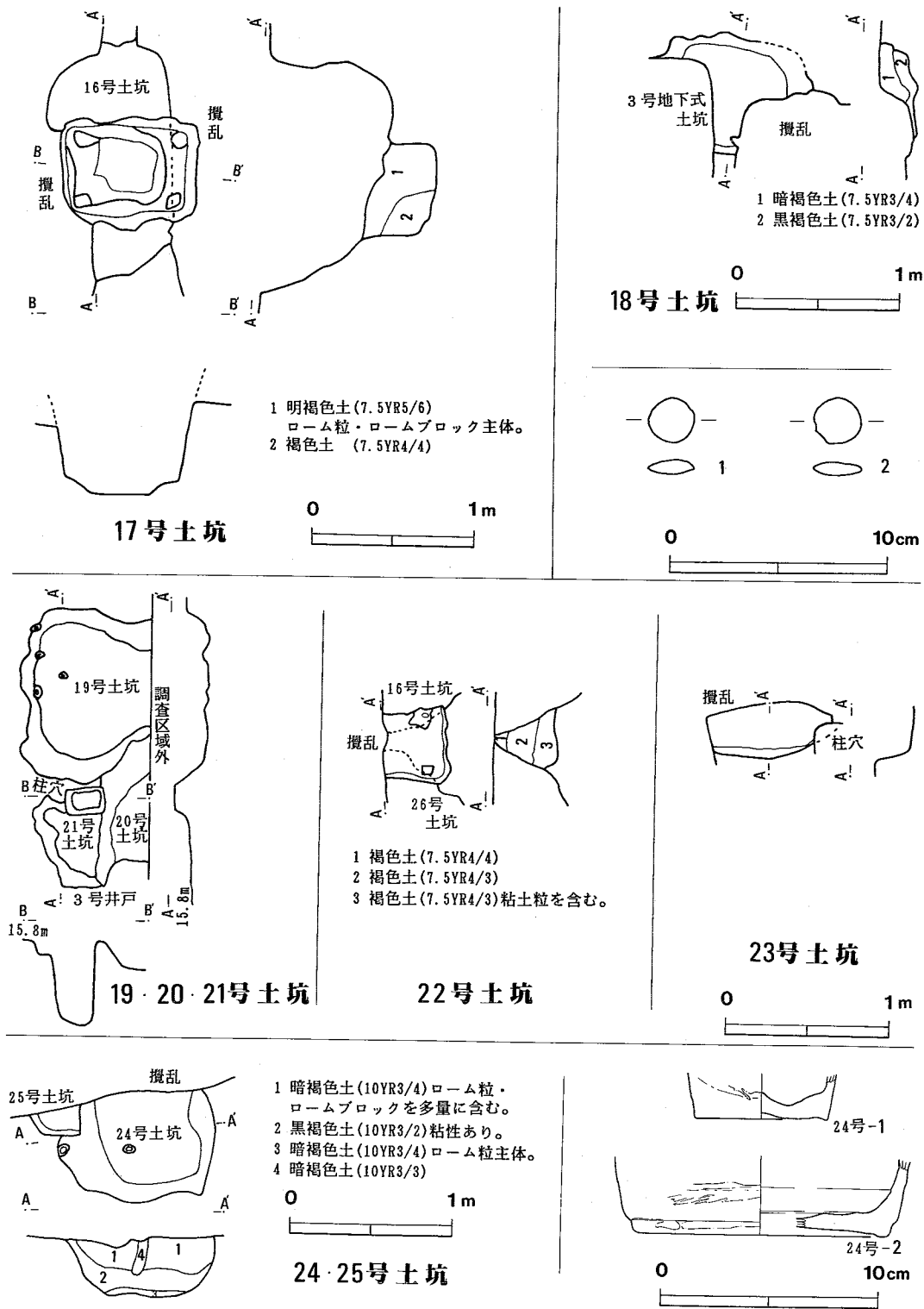
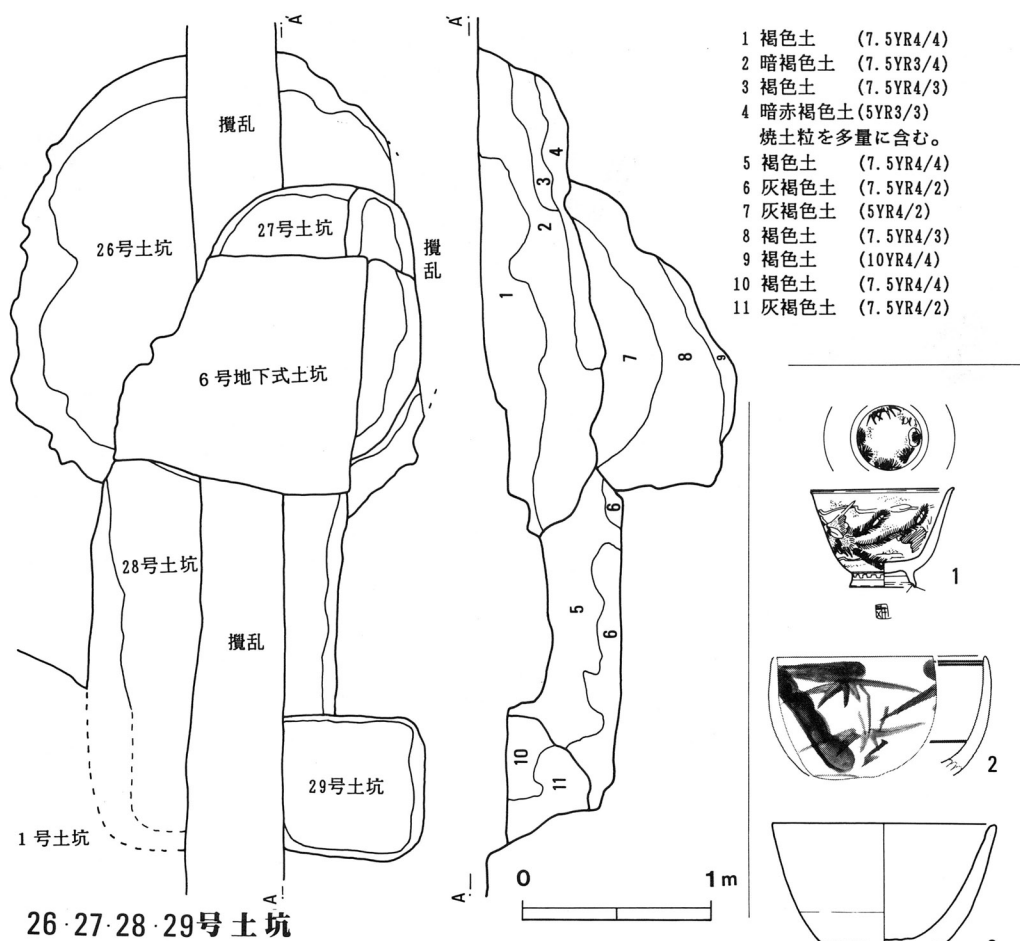


図 93 17～25号土坑, 18・24号土坑出土遺物

Figure 93 Pits No.17-25, and artifacts from Pits No.18 and 24



26·27·28·29号土坑

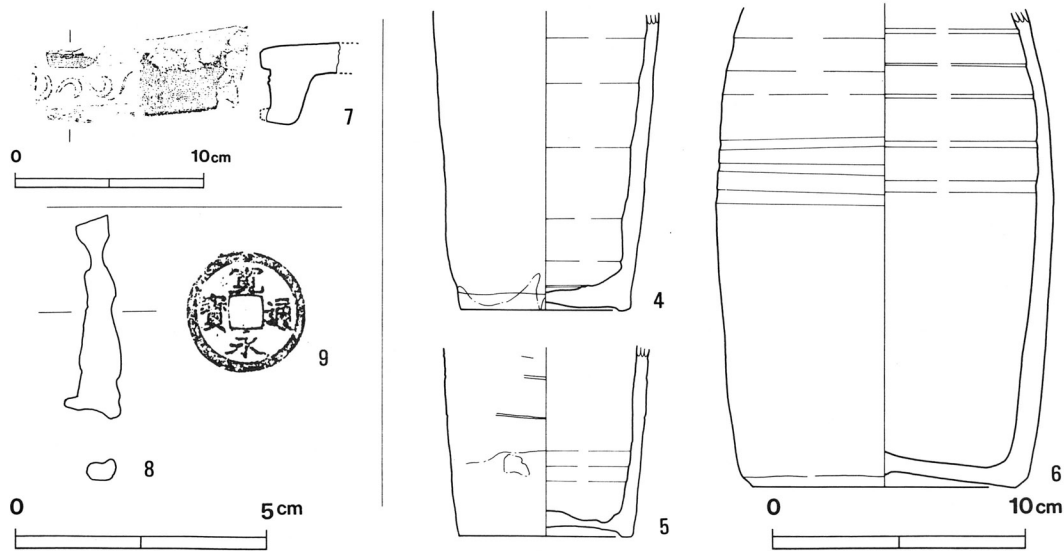


图 94 26~29号土坑, 26号土坑出土遗物

Figure 94 Pits No.26-29, and artifacts from Pit No.26

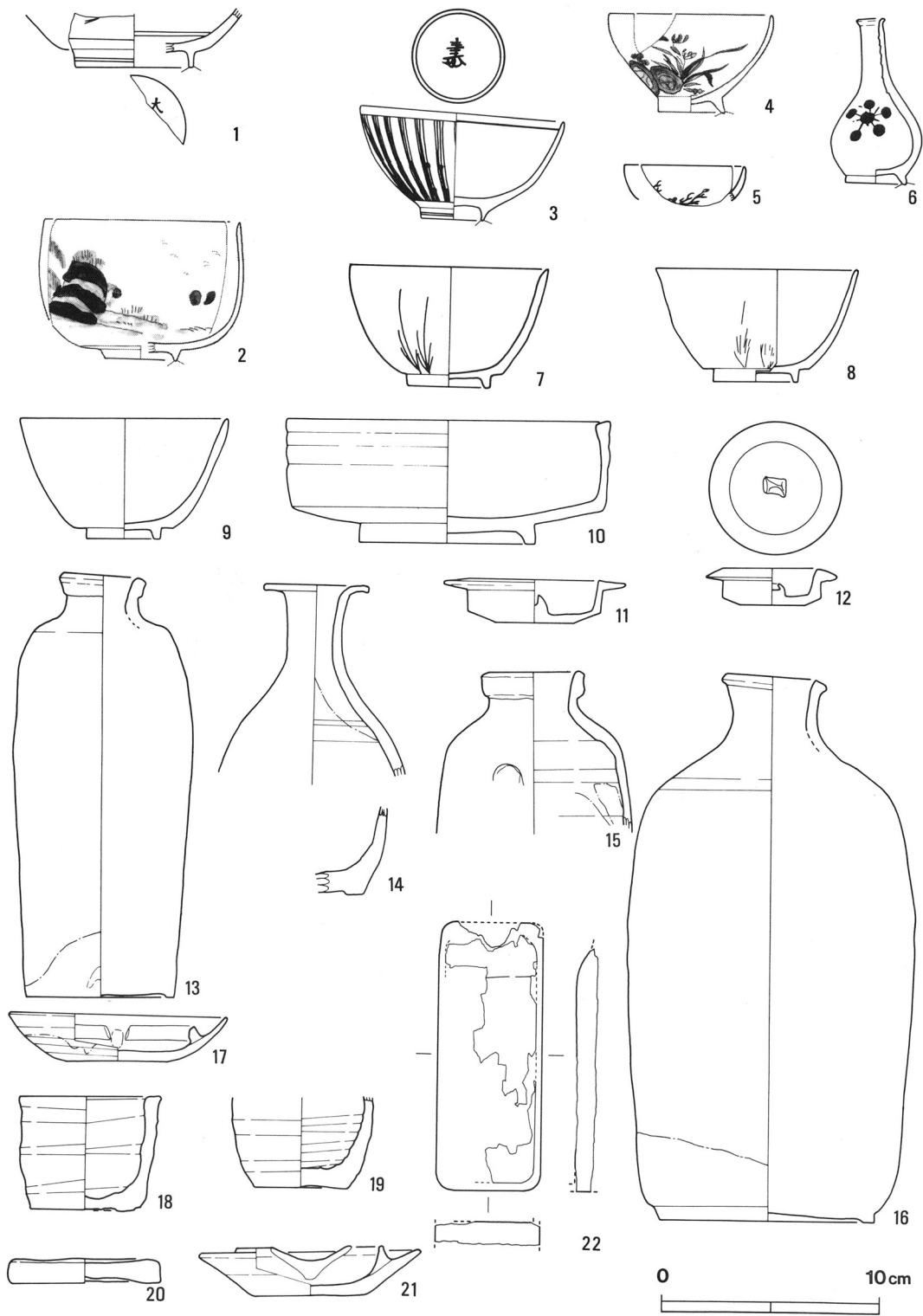


图 95 27 号土坑出土遗物 (1)  
 Figure 95 Artifacts from Pit No.27

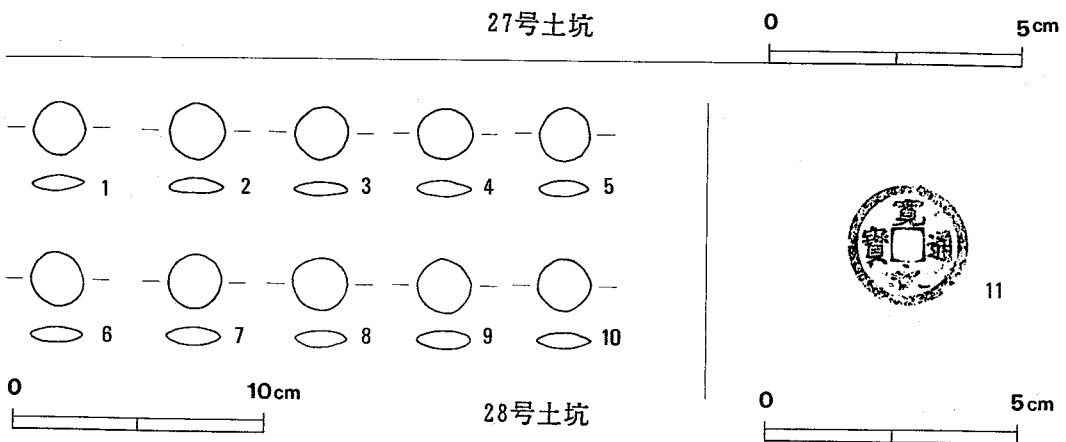
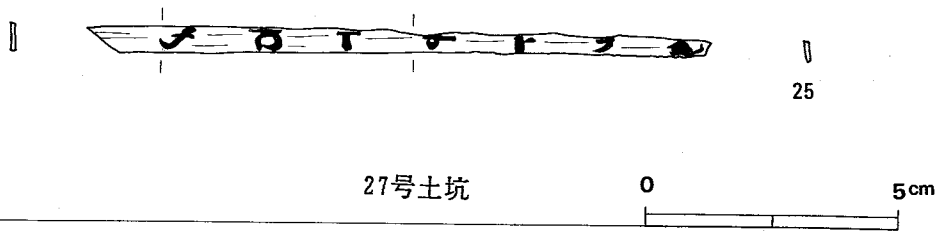
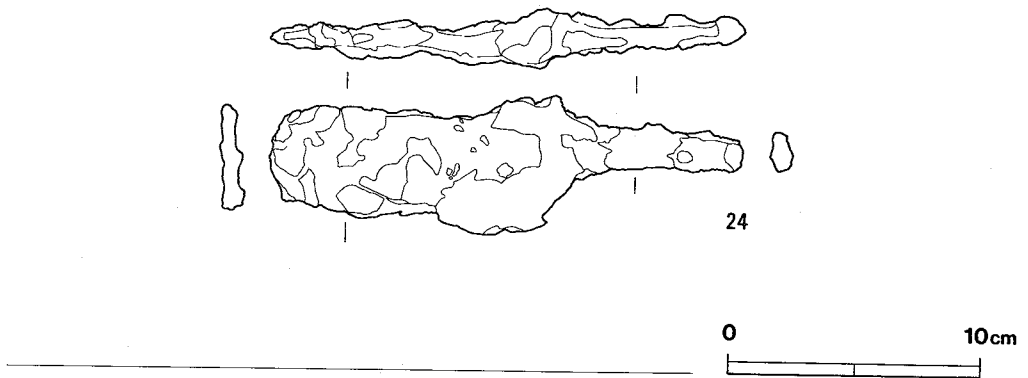
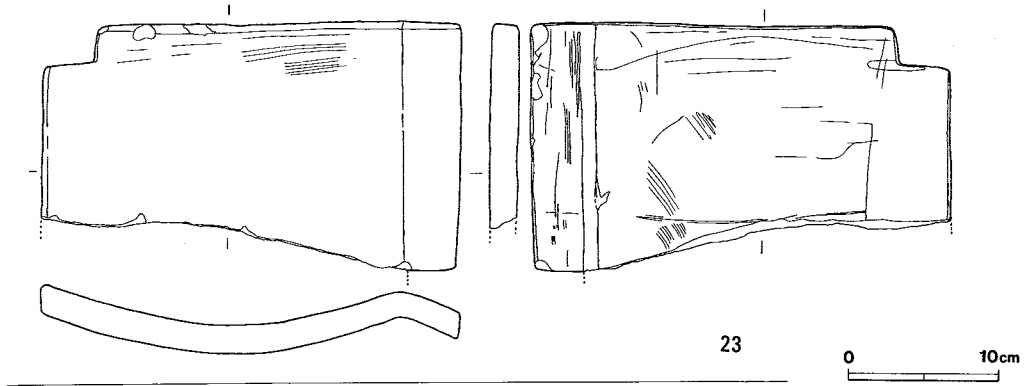


图 96 27号(2)·28号土坑出土遗物  
Figure 96 Artifacts from Pits No.27 and 28



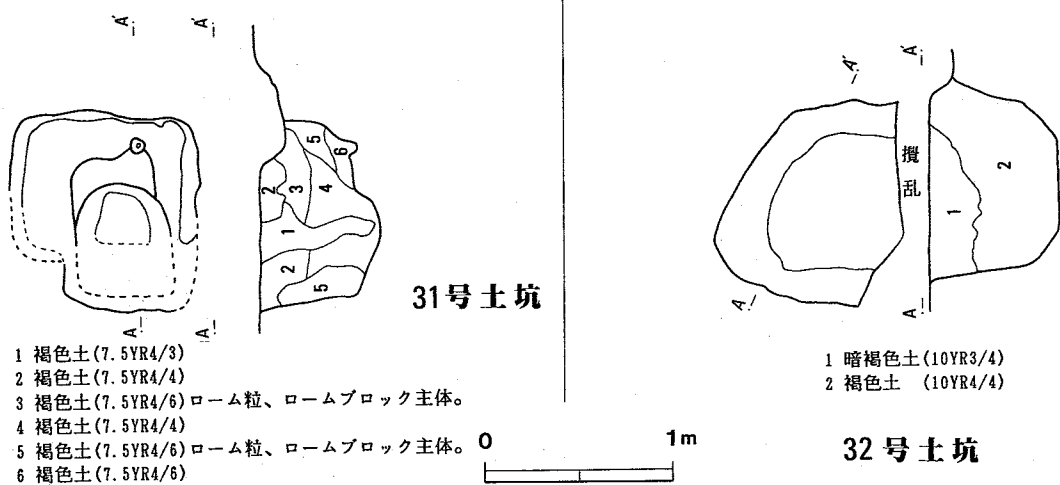
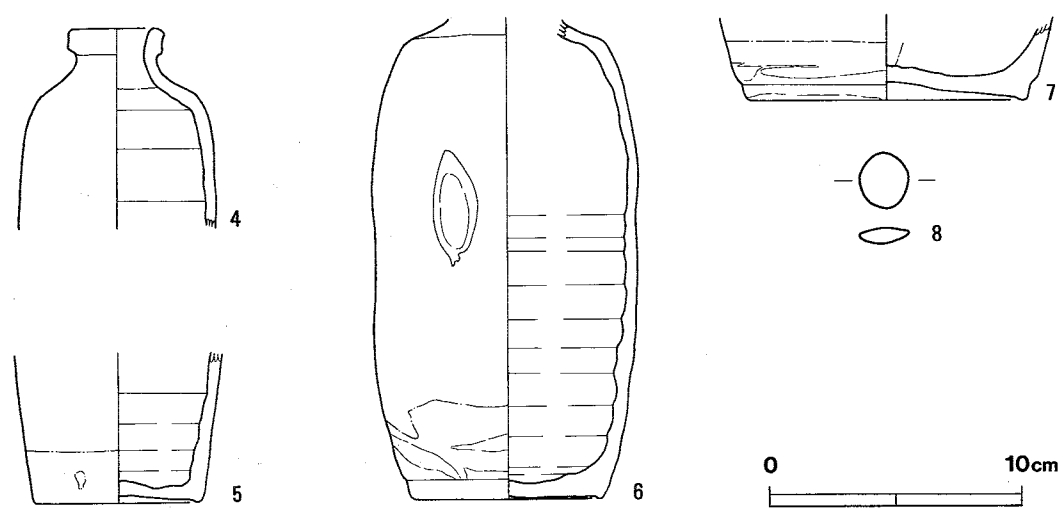
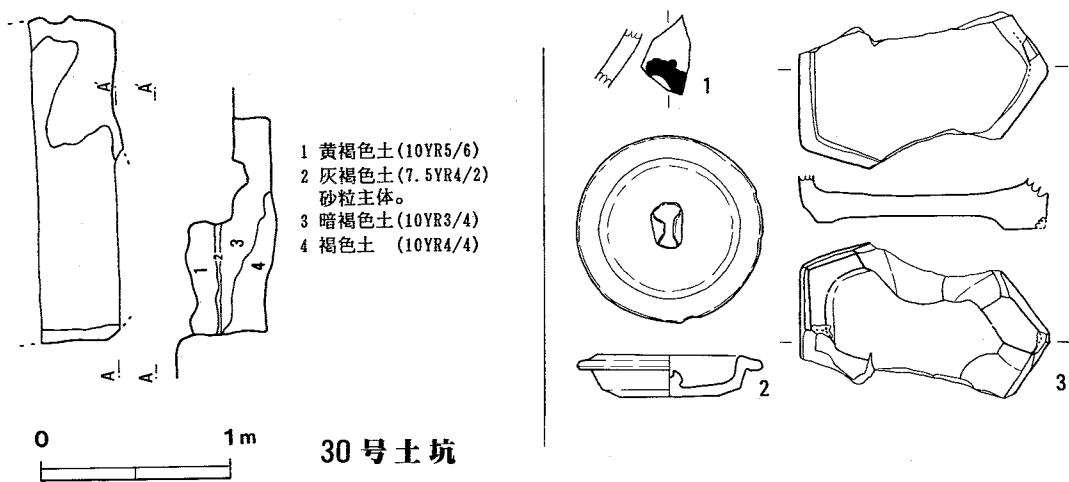


图 97 30~32号土坑, 30号土坑出土遺物  
 Figure 97 Pits No.30-32, and artifacts from Pit No.30

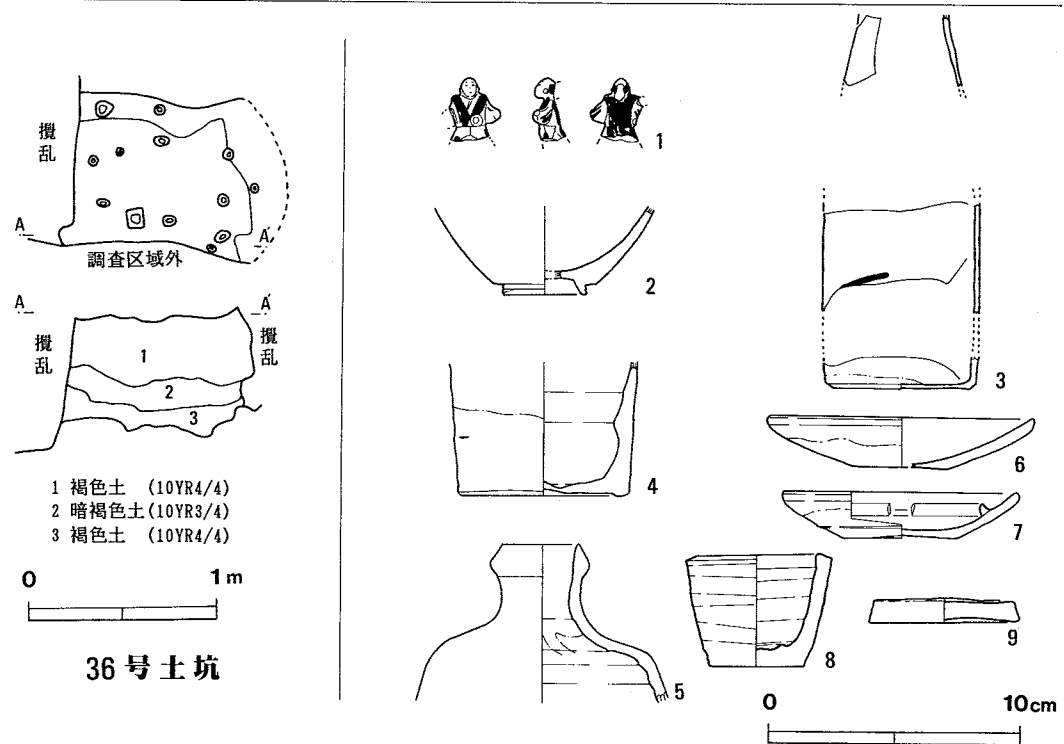
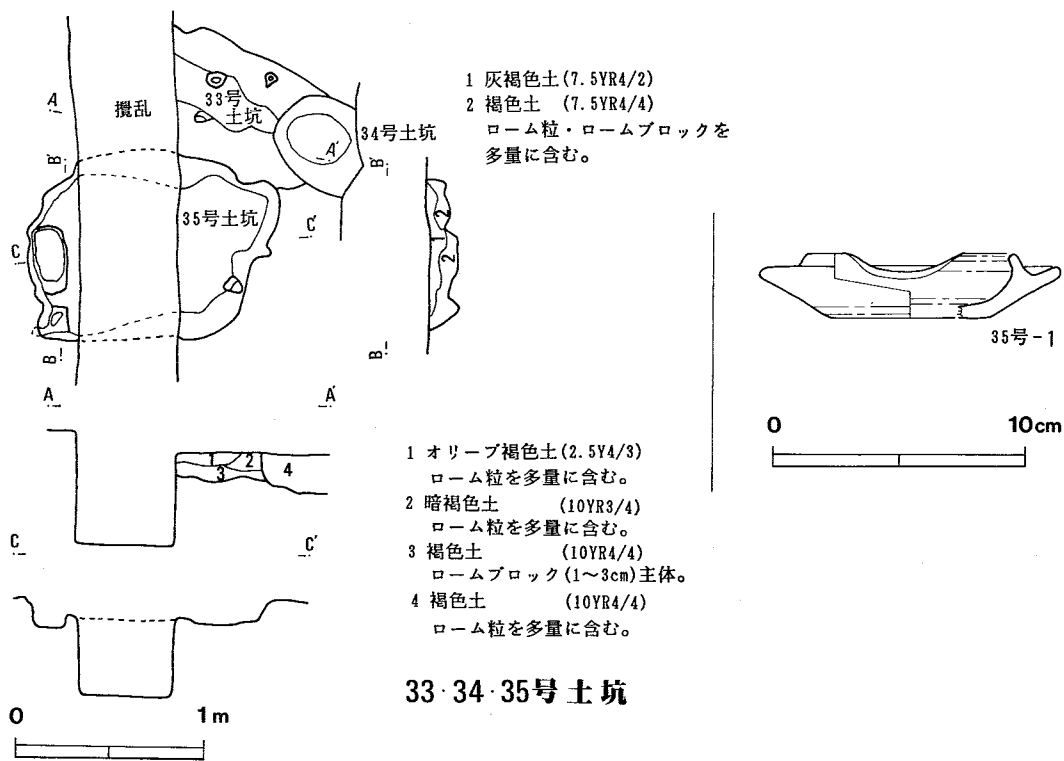
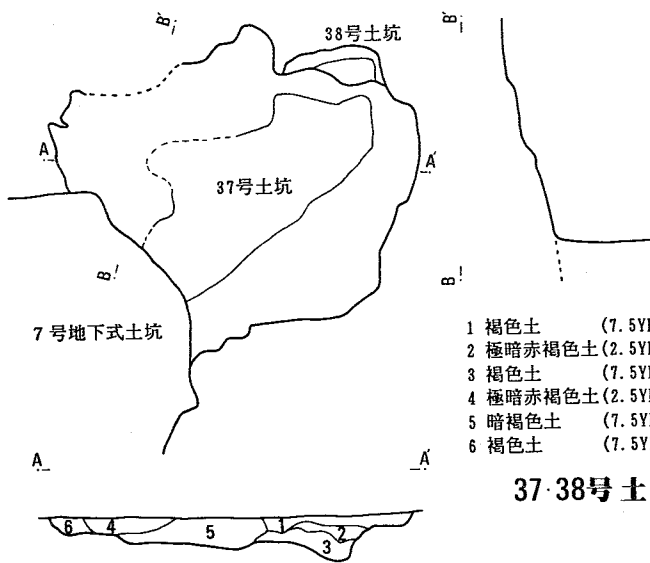
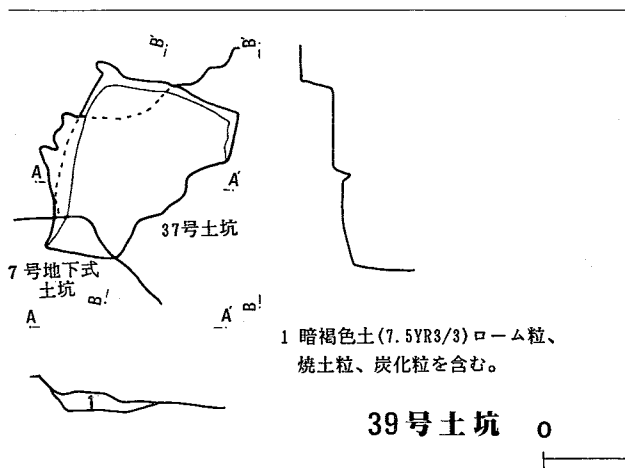


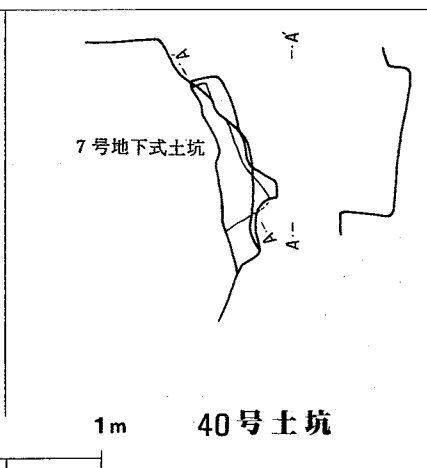
図 98 33~36号土坑, 35・36号土坑出土遺物  
Figure 98 Pits No.33-36, and artifacts from Pits No.35 and 36



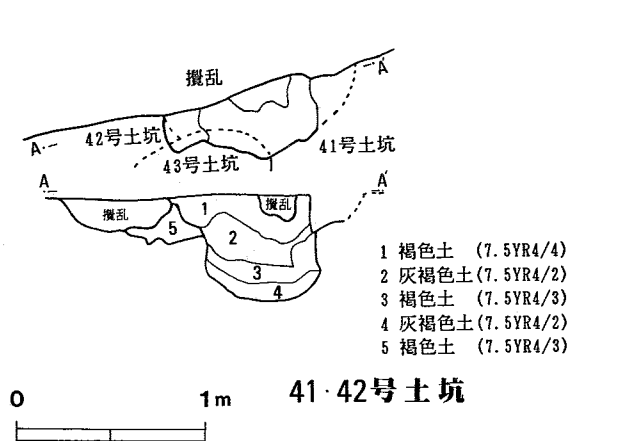
37·38号土坑



39号土坑



40号土坑



41·42号土坑

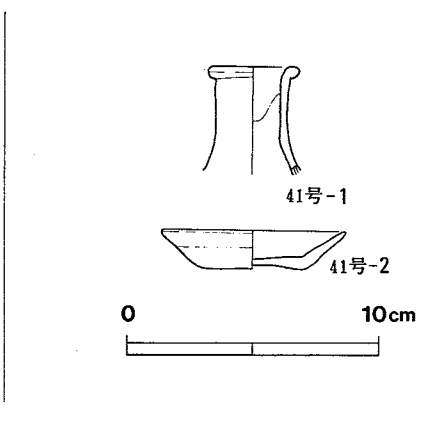


图 99 37~42号土坑, 41号土坑出土遺物  
Figure 99 Pits No.37-42, and artifacts from Pit No.41

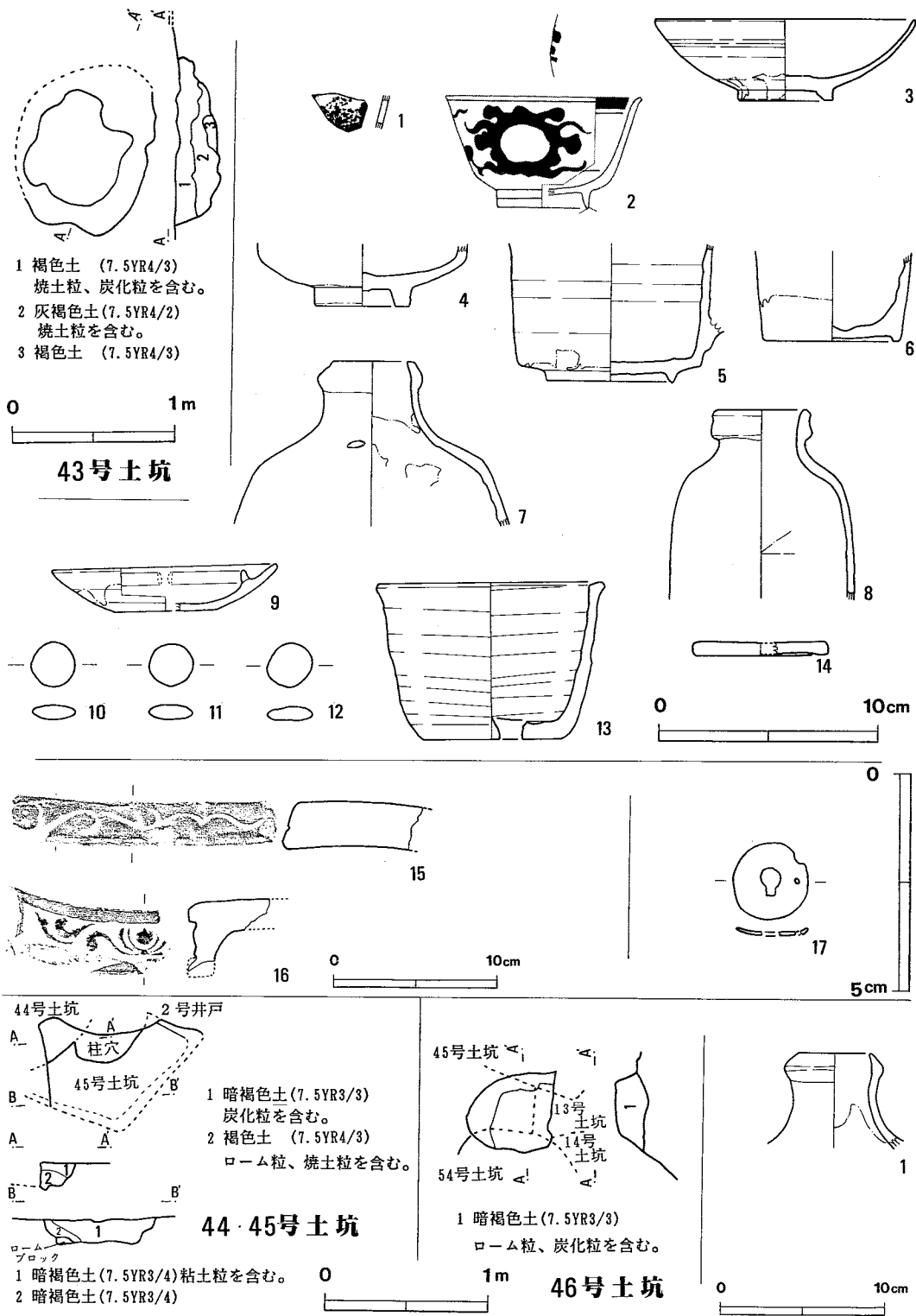


図 100 43~46号土坑, 43・46号土坑出土遺物  
Figure 100 Pits No.43-46, and artifacts from Pits No.43 and 46

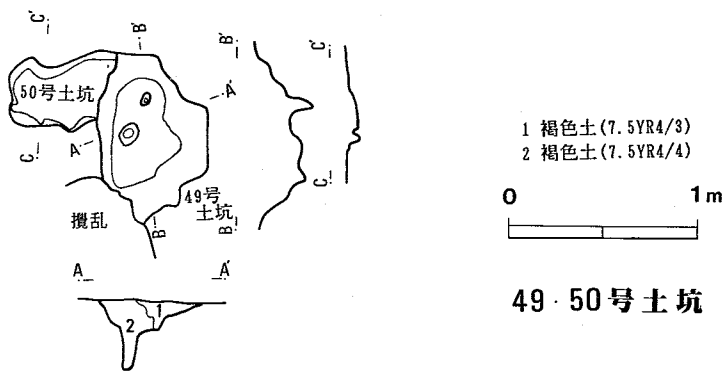
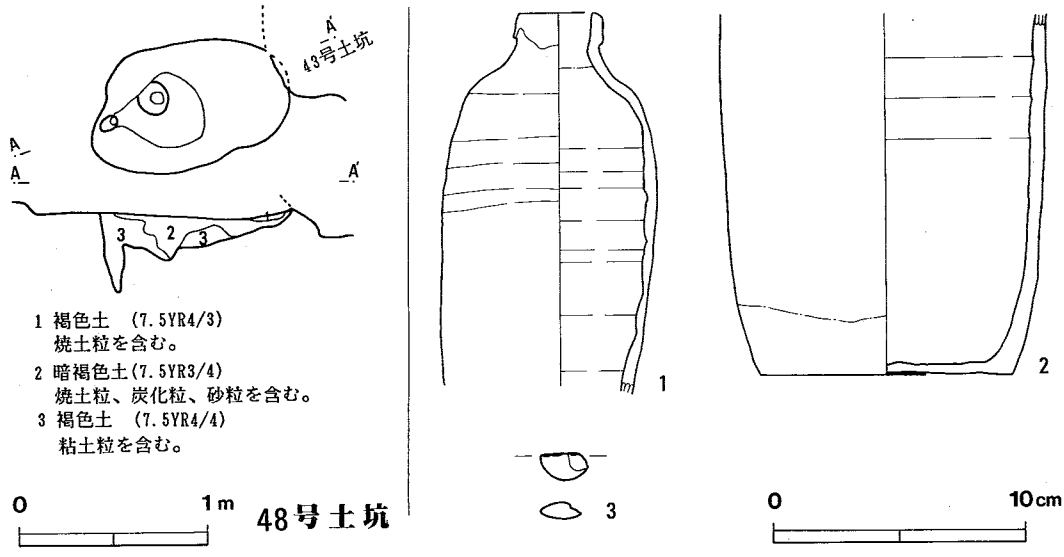
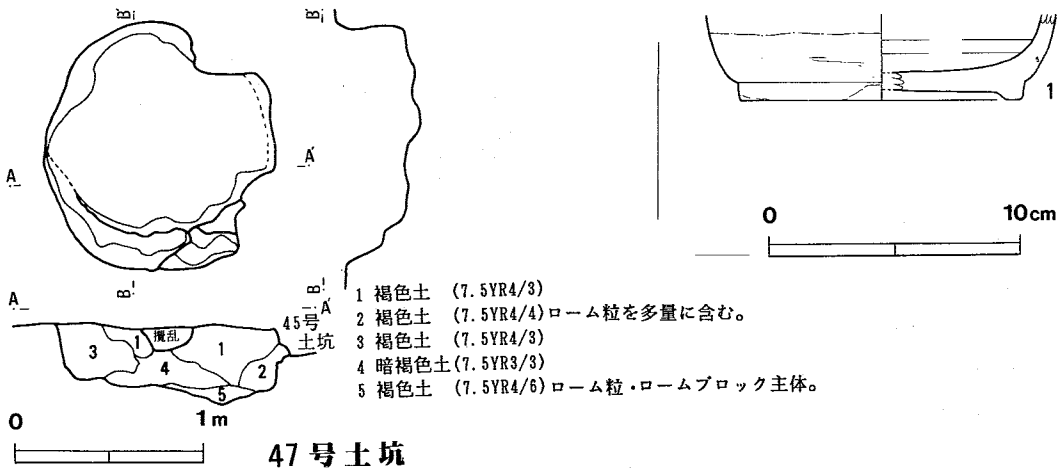
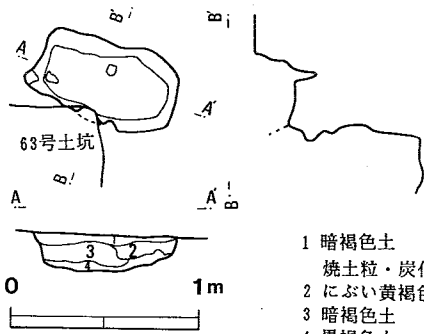
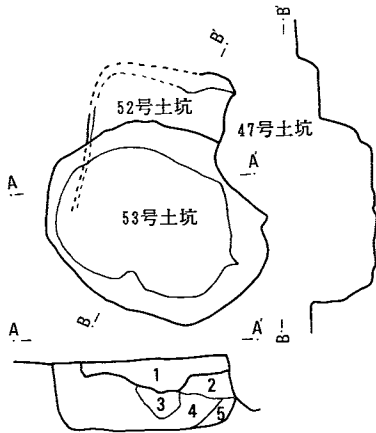
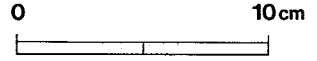
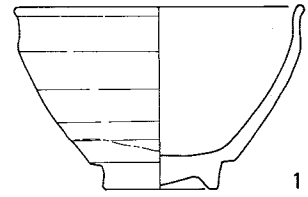


图 101 47~50号土坑, 47・48号土坑出土遺物  
 Figure 101 Pits No.47-50, and artifacts from Pits No.47 and 48



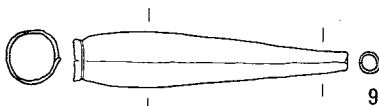
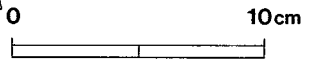
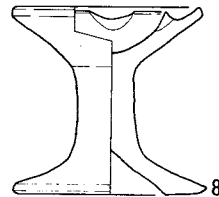
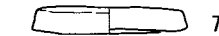
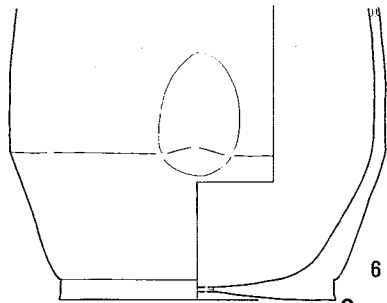
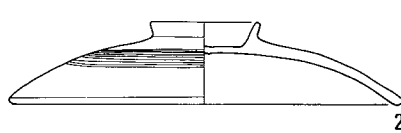
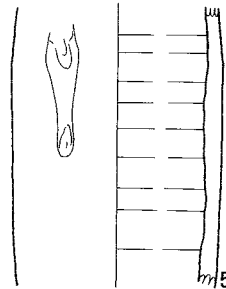
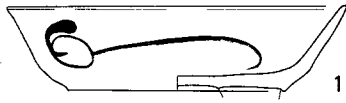
- 1 暗褐色土 (10YR3/4)  
焼土粒・炭化粒を多量に含む。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3)
- 3 暗褐色土 (10YR3/3)
- 4 黒褐色土 (10YR3/2)

51号土坑



- 1 褐色土 (7.5YR4/3)
- 2 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒を含む。
- 3 暗褐色土(7.5YR3/4)焼土粒を含む。
- 4 暗褐色土(7.5YR3/3)焼土粒・炭化粒を含む。
- 5 褐色土 (7.5YR4/4)ローム粒を多量に含む。

52・53号土坑



52・53号土坑一括

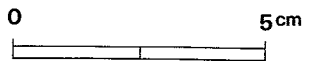
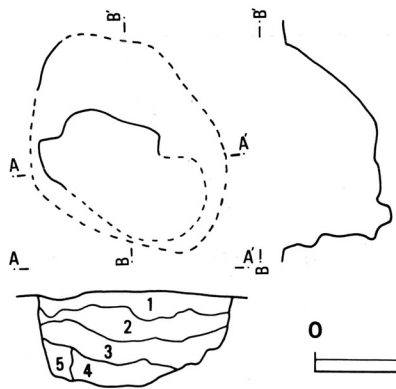
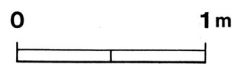


图 102 51~53号土坑, 同出土遺物  
Figure 102 Pits No.51-53 and their artifacts



- 1 暗褐色土(7.5YR3/3)ローム粒、焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 黒褐色土(7.5YR3/2)炭化粒を含む。
- 3 暗褐色土(7.5YR3/3)炭化粒を含む。
- 4 黒褐色土(7.5YR3/2)炭化粒を含む。
- 5 暗褐色土(7.5YR3/4)ローム粒を含む。



54号土坑

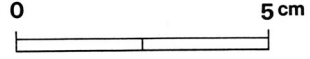
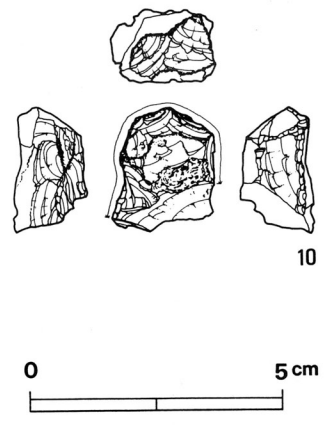
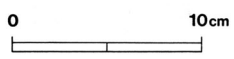
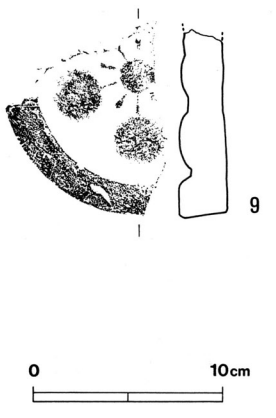
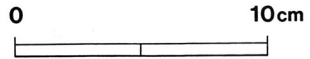
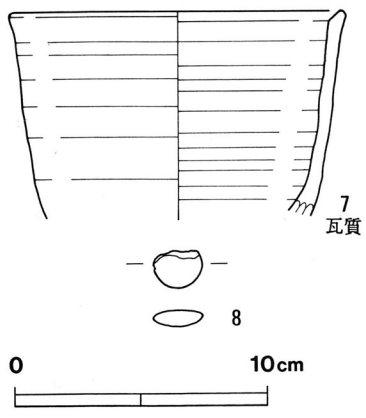
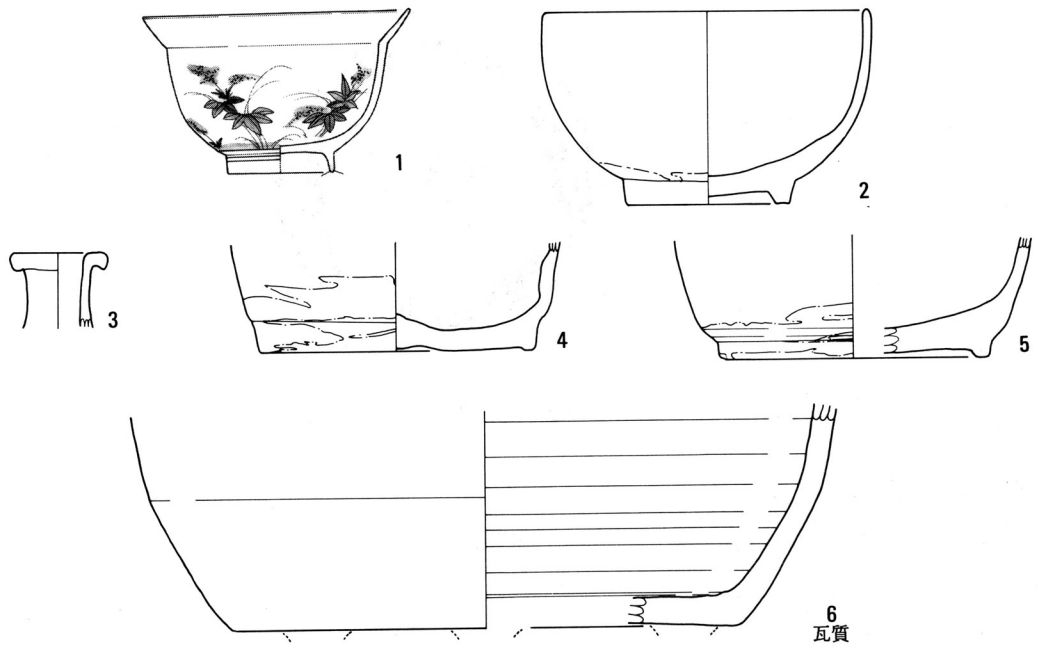
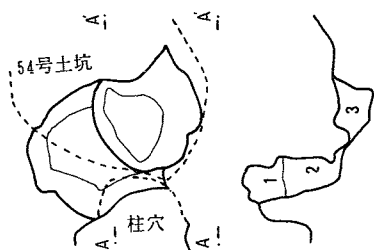
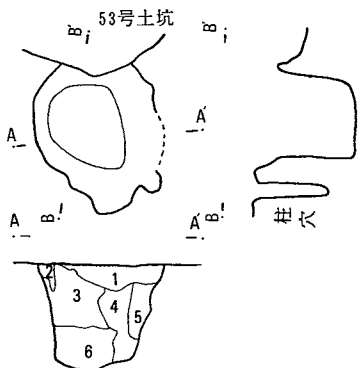


图 103 54号土坑, 同出土遺物  
Figure 103 Pit No.54 and its artifacts



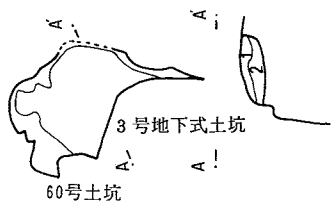
- 1 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・ロームブロックを多量に含む。
- 2 褐色土 (7.5YR4/6) ローム粒・ロームブロック主体。
- 3 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒を多量に含む。

### 55号土坑



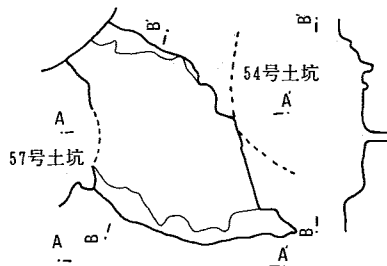
- 1 褐色土 (7.5YR4/3) ローム粒、ロームブロック、炭化粒を含む。
- 2 灰褐色土 (7.5YR4/2) ローム粒を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/4)
- 4 明褐色土 (7.5YR5/6) ロームブロック主体。
- 5 褐色土 (7.5YR4/4)
- 6 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土粒、粘土粒を含む。

### 57号土坑



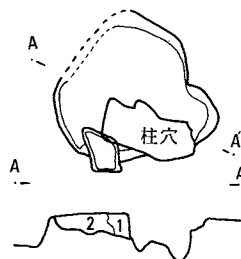
- 1 褐色土 (7.5YR4/3) 焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 暗褐色土 (7.5YR3/4) 焼土粒を含む。

### 59号土坑



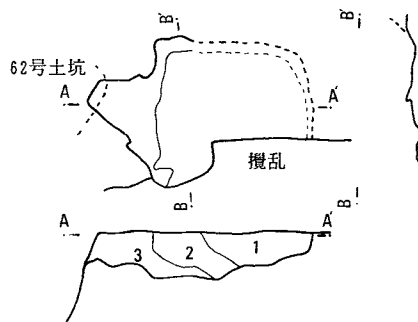
- 1 暗褐色土 (7.5YR3/4) ローム粒、炭化粒を含む。

### 56号土坑



- 1 褐色土 (7.5YR4/3)
- 2 褐色土 (7.5YR4/3) 炭化粒を含む。

### 58号土坑



- 1 暗褐色土 (10YR3/3) 焼土粒、炭化粒を含む。
- 2 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック、焼土粒、炭化粒を含む。
- 3 褐色土 (10YR4/4) ロームブロックを含む。

### 60号土坑



図 104 55～60号土坑  
Figure 104 Pits No. 55-60



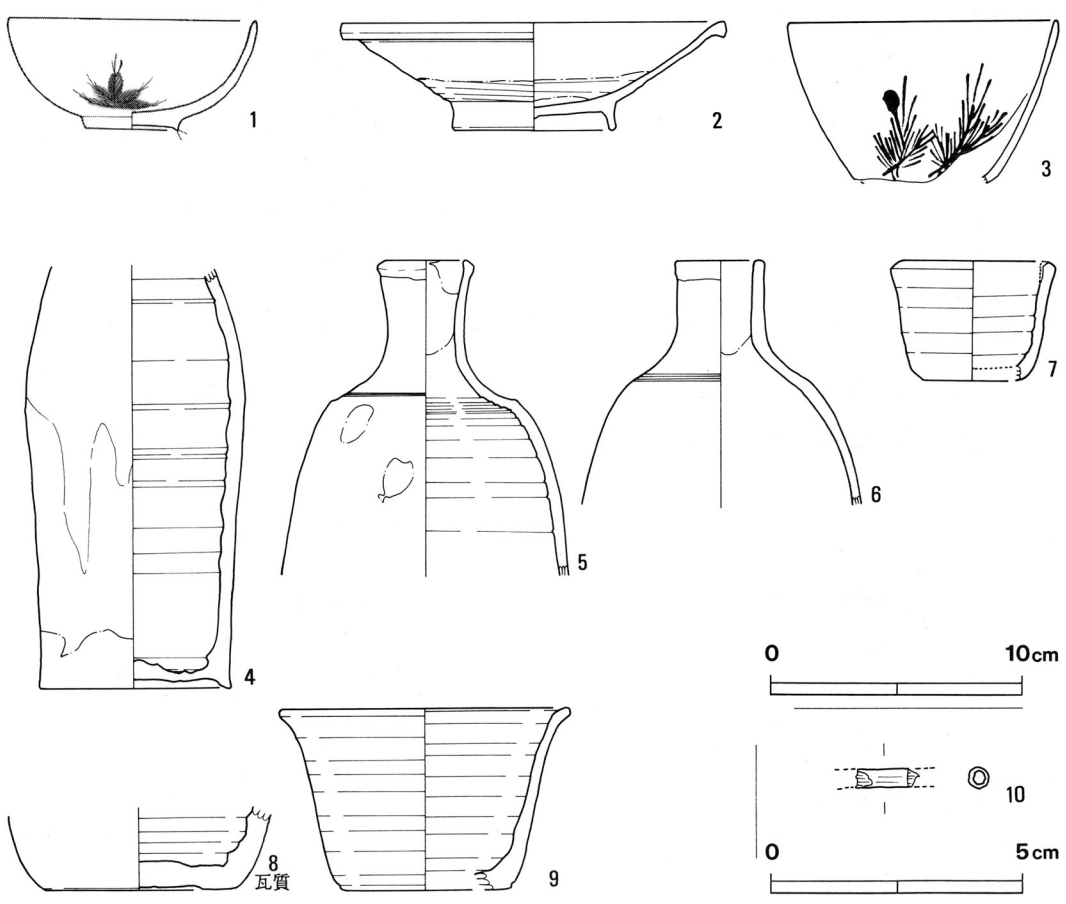
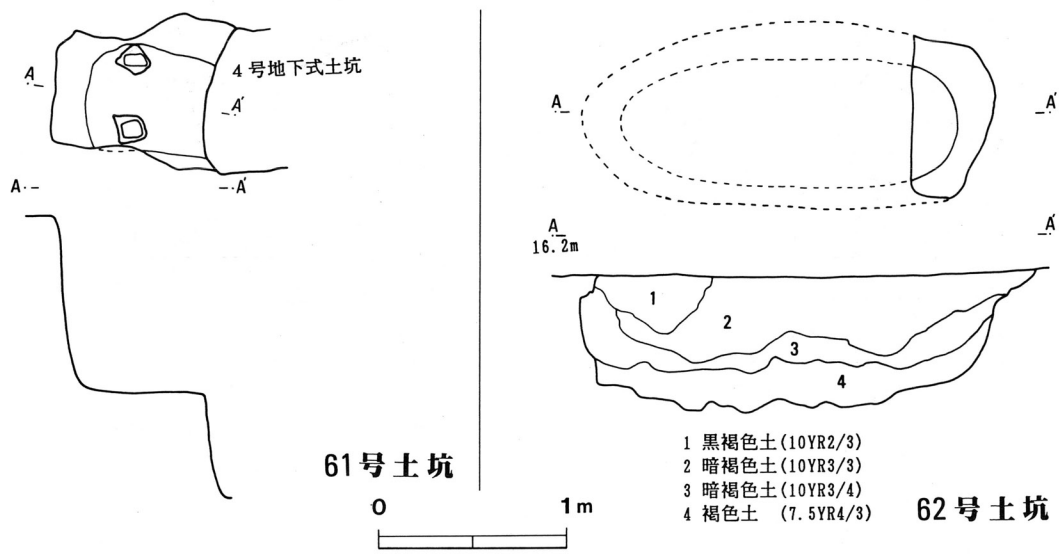


图 105 61·62号土坑, 62号土坑出土遗物  
 Figure 105 Pits No.61 and 62, artifacts from Pit No.62

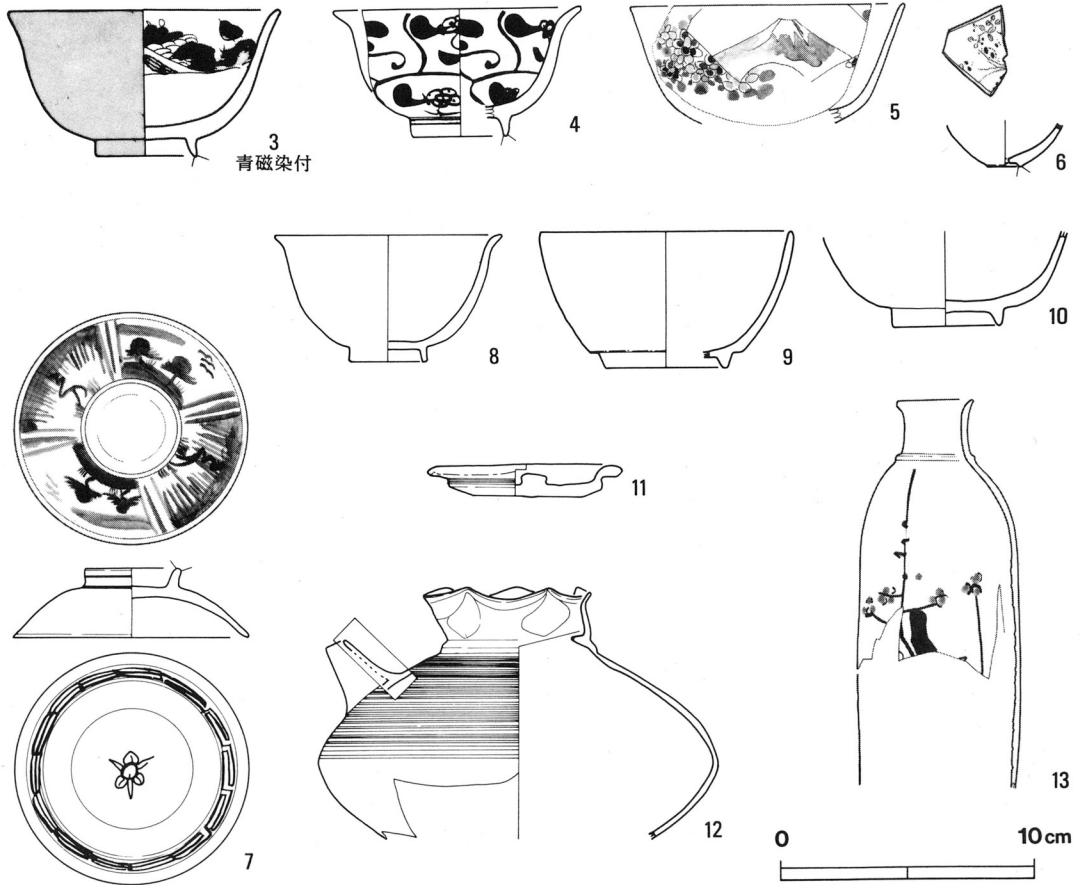
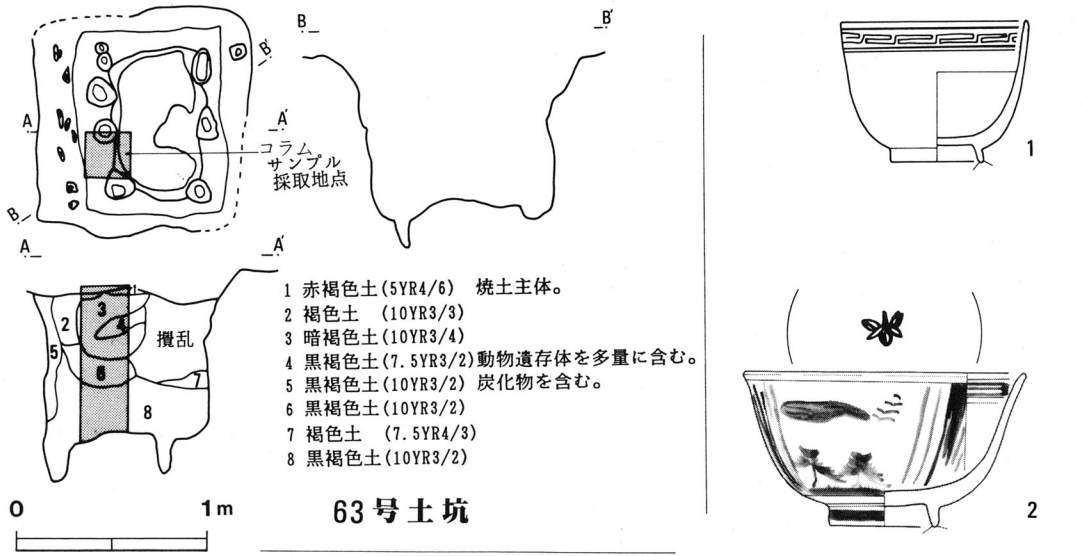


图 106 63号土坑, 同出土遺物 (1)  
 Figure 106 Pit No.63 and its artifacts

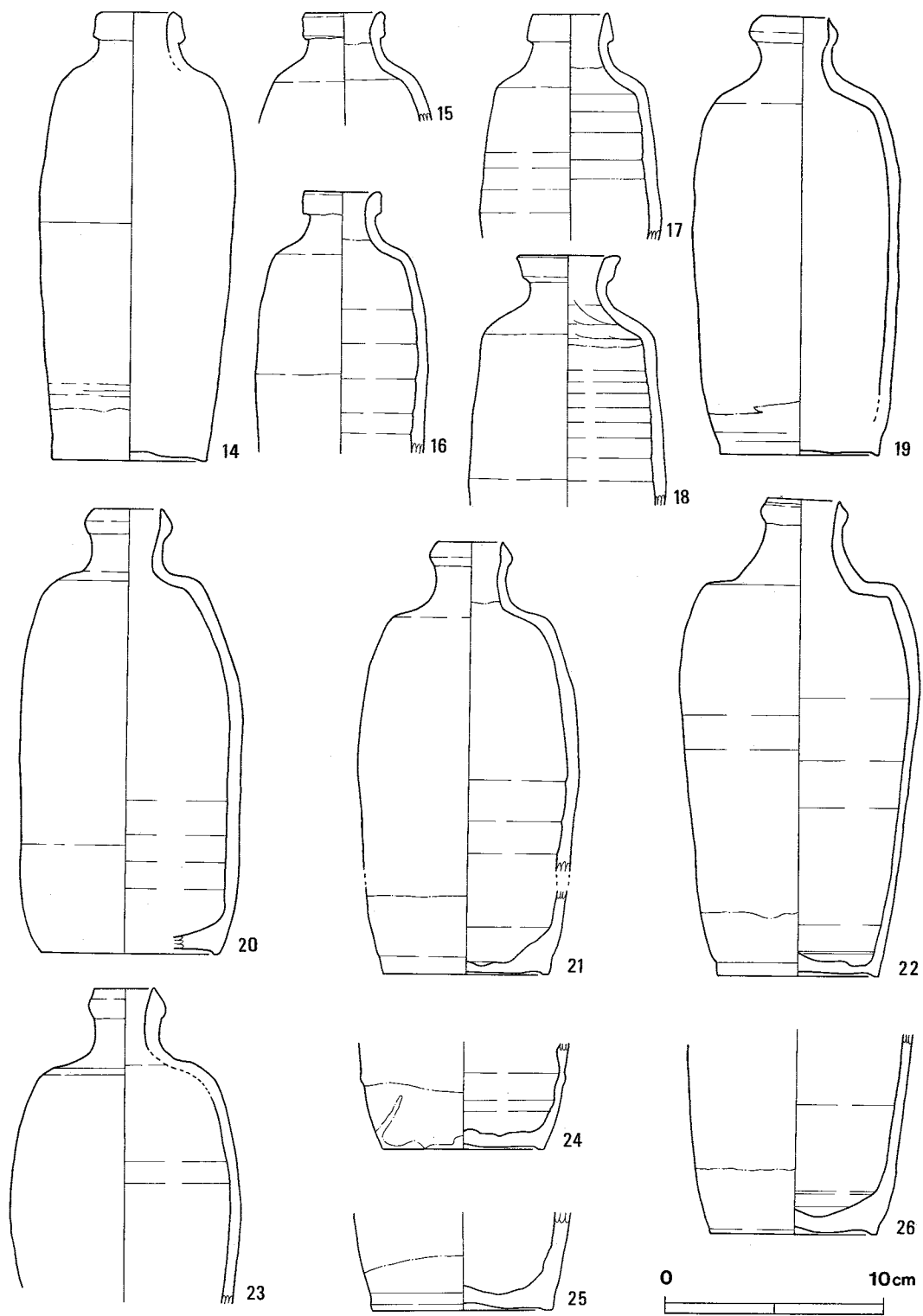


图 107 63 号土坑出土遗物 (2)  
 Figure 107 Artifacts from Pit No.63

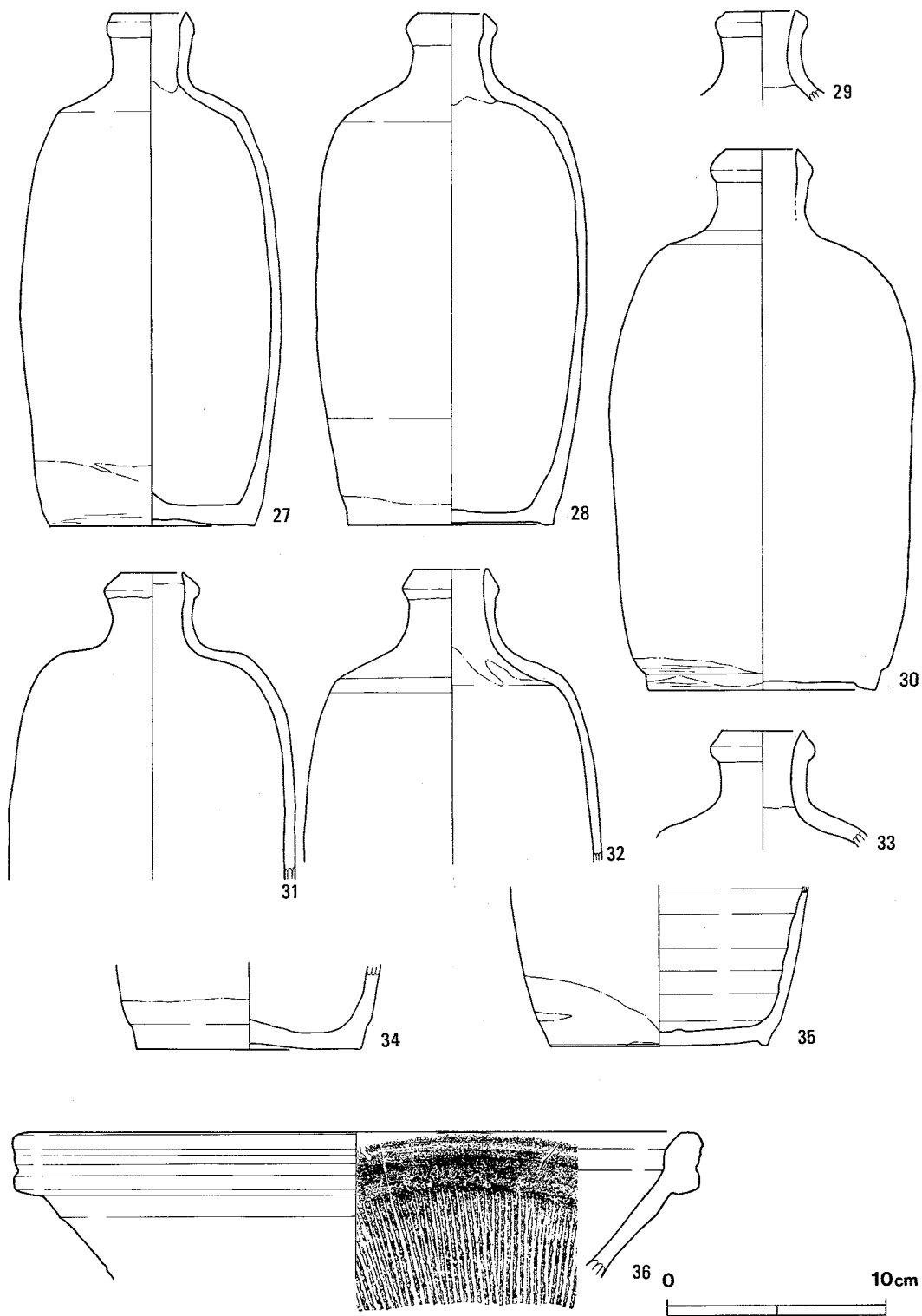


图 108 63 号土坑出土遗物 (3)  
Figure 108 Artifacts from Pit No.63

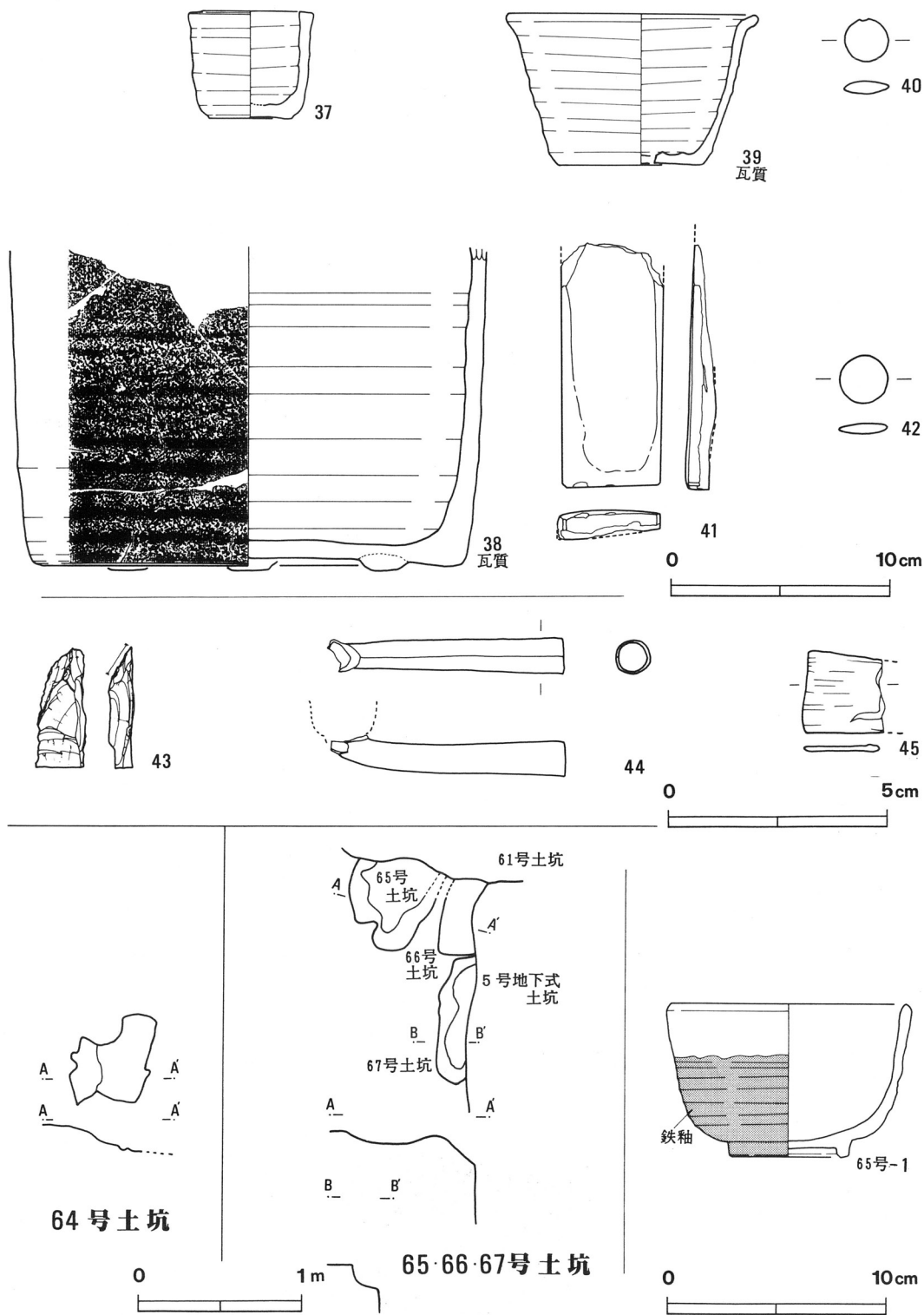
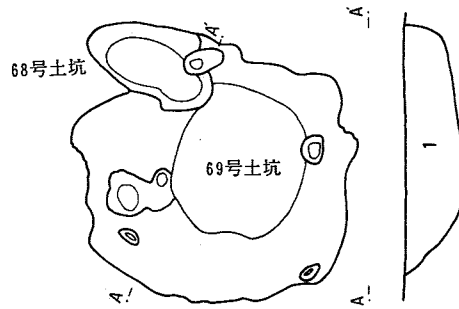


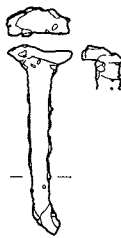
图 109 64~67 号土坑, 63 号 (4) · 65 号土坑出土遗物  
 Figure 109 Pits No.64—67, and artifacts from Pits No.63 and 65



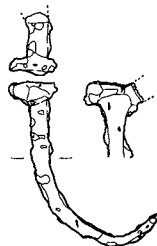
1 赤褐色土(5YR4/6)焼土粒・  
焼土ブロック・炭化物を多量に含む。



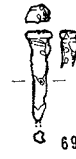
68・69号土坑



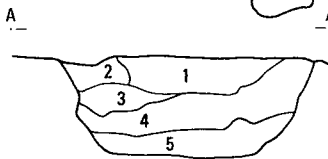
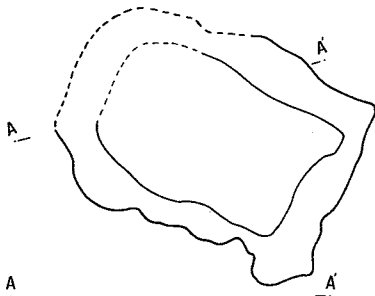
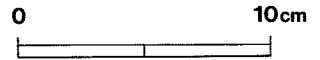
69号-1



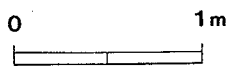
69号-2



69号-3



- 1 褐色土 (7.5YR4/4)
- 2 褐色土 (7.5YR4/3)小礫を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)
- 4 暗褐色土(7.5YR3/4)小礫を多量に含む。
- 5 暗褐色土(7.5YR3/4)



70号土坑



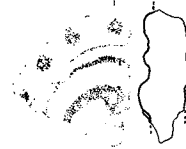
1



2



3



4

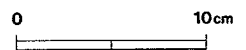


図110 68~70号土坑, 69・70号土坑出土遺物

Figure 110 Pits No.68-70, and artifacts from Pits No.69 and 70

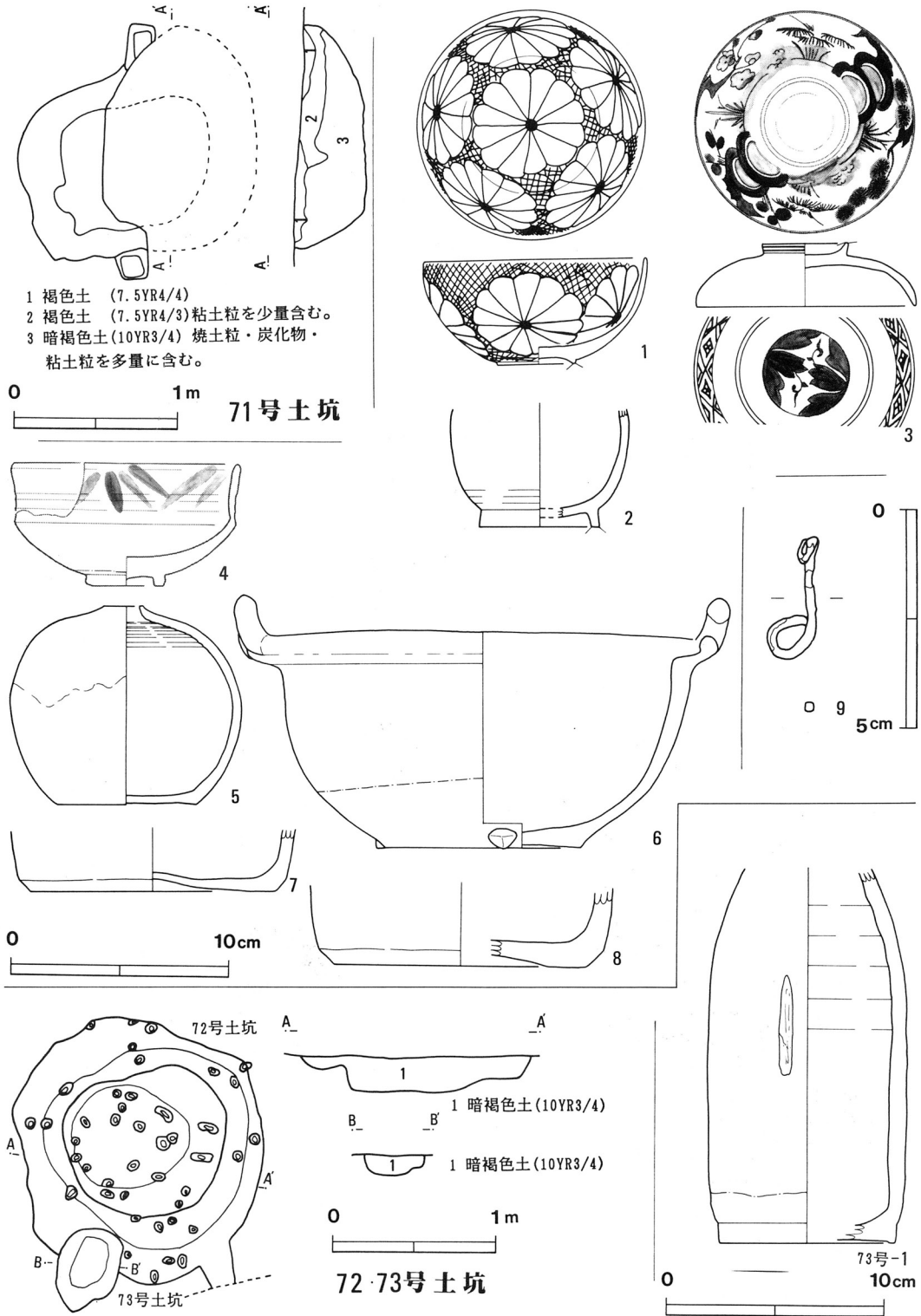


图 111 71~73 号土坑, 71・73 号土坑出土遺物  
 Figure 111 Pits No.71-73, and artifacts from Pits No.71 and 73

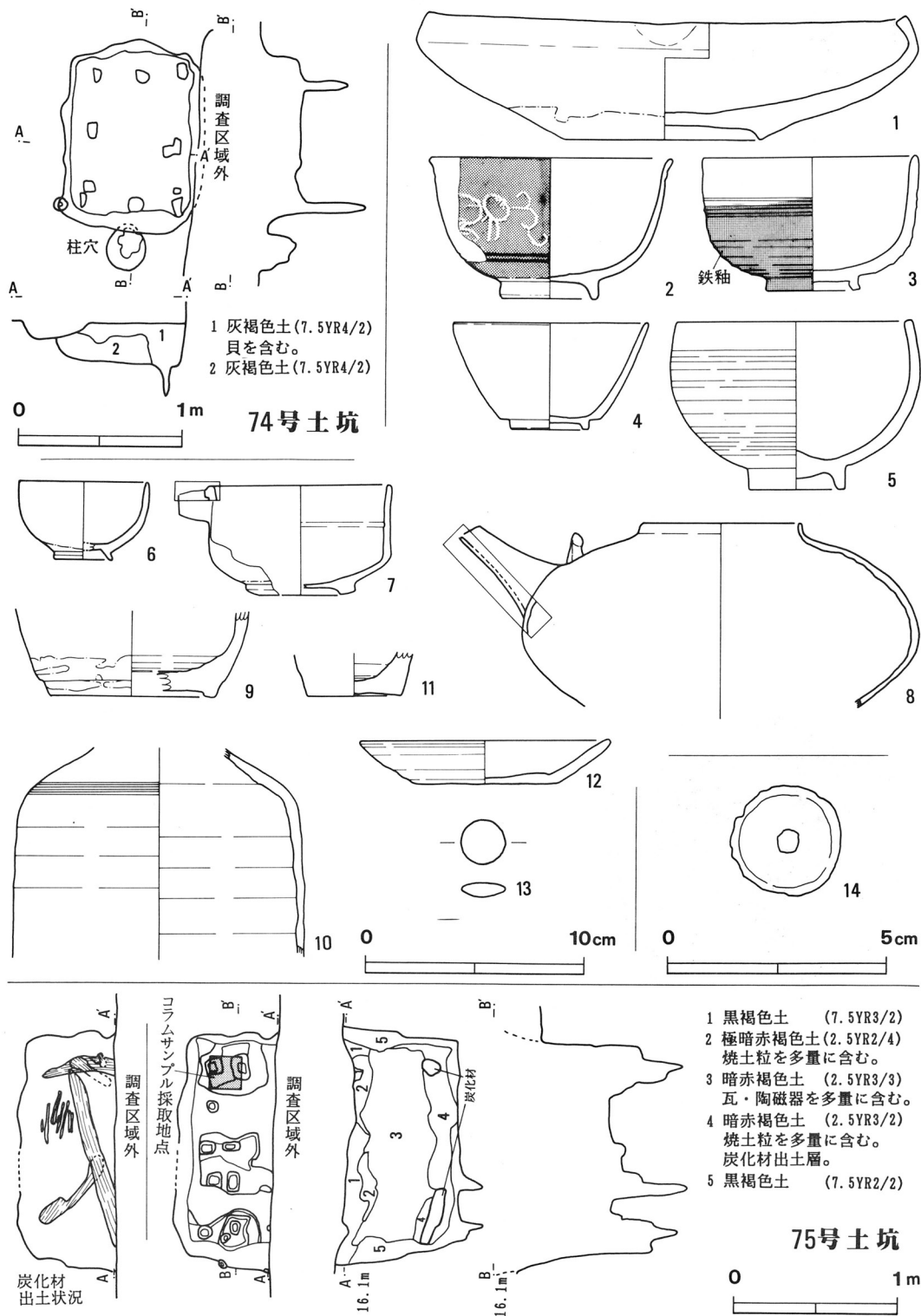


図 112 74号土坑, 同出土遺物, 75号土坑

Figure 112 Pits No.74 and 75, and artifacts from Pit No.74



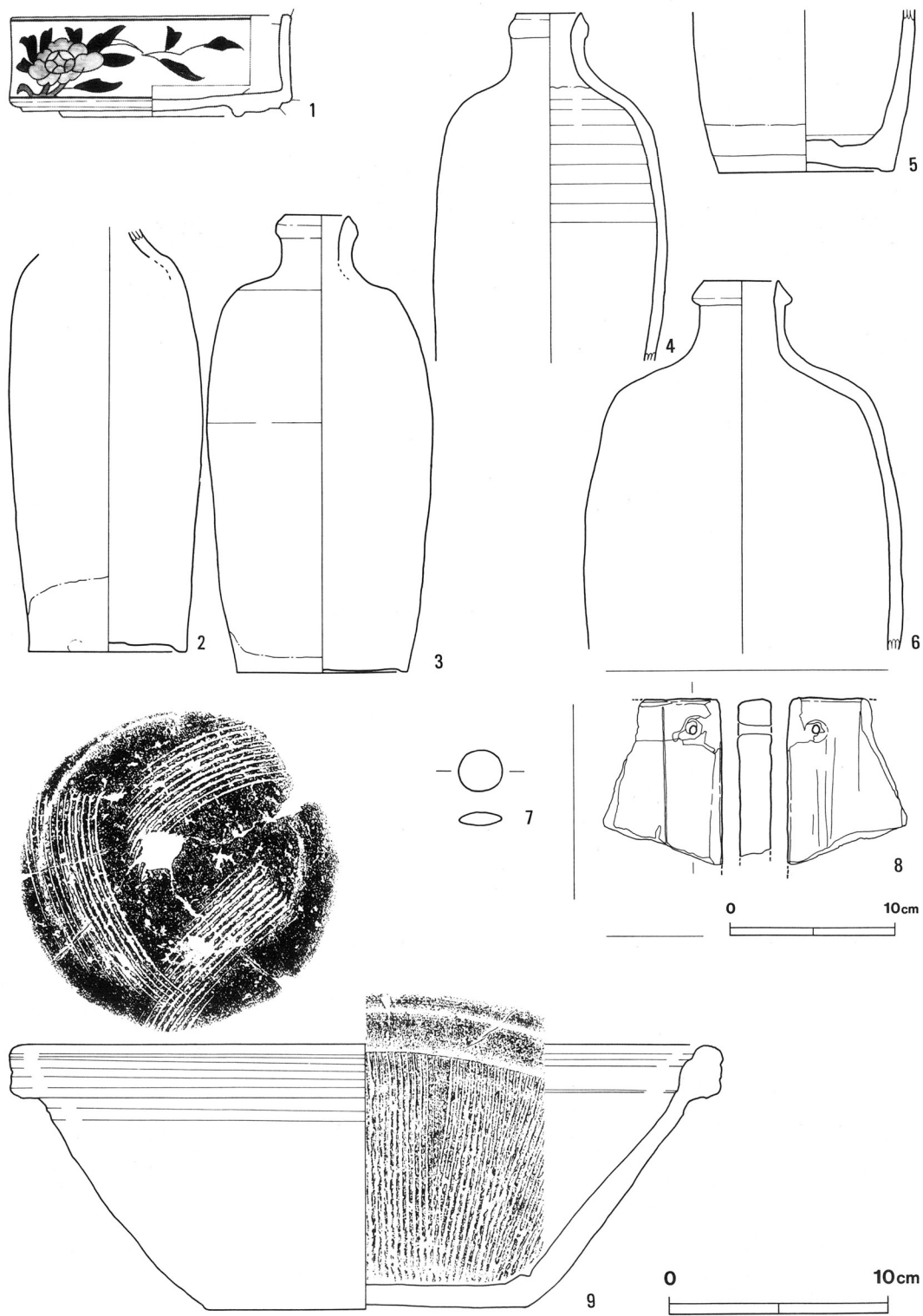


图 113 75 号土坑出土遗物  
Figure 113 Artifacts from Pit No.75

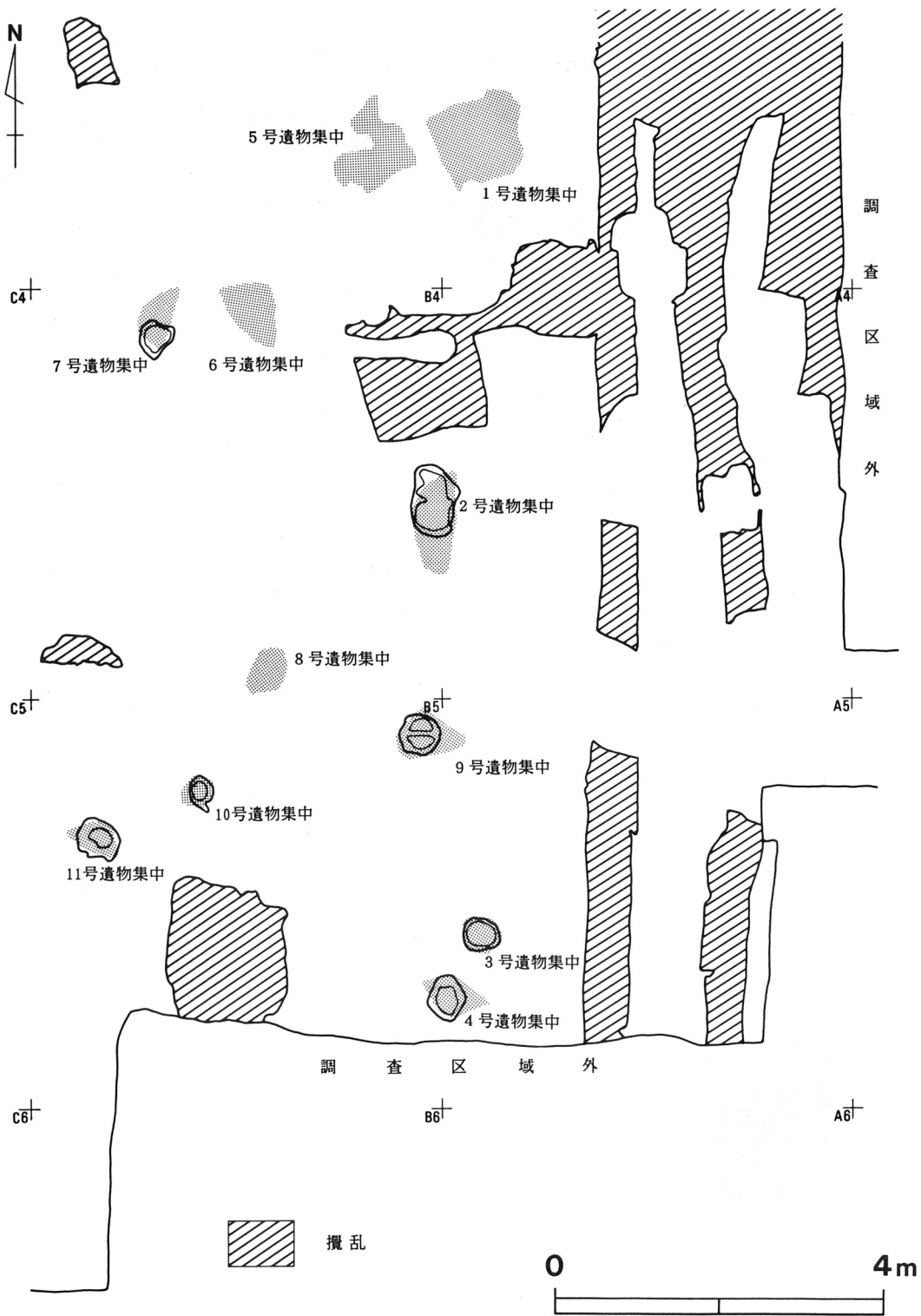


图 114 1~11号遺物集中分布图

Figure 114 Distribution of Concentrations of rooftiles and ceramics No.1-11

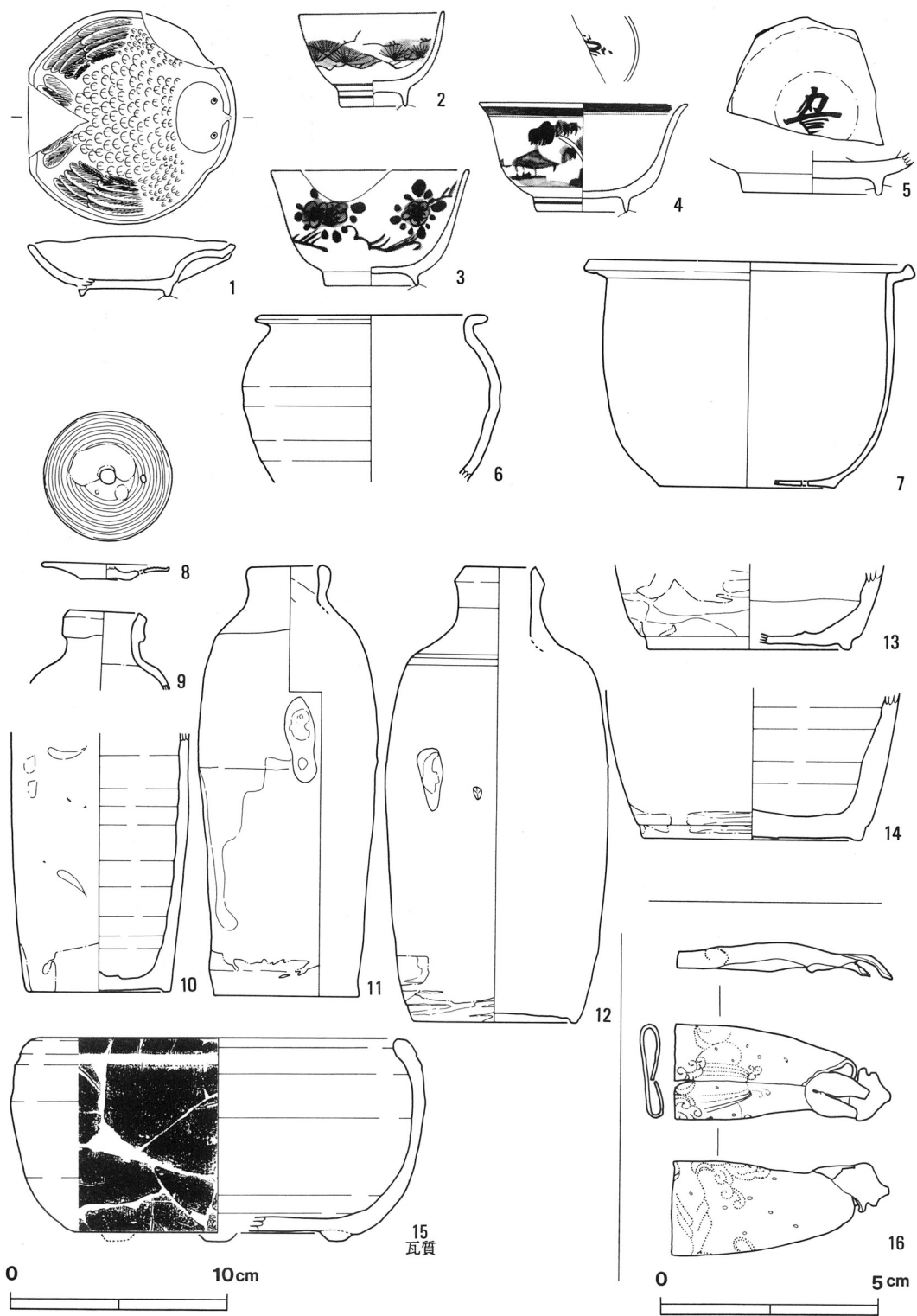


图 115 1号遺物集中出土遺物 (1)

Figure 115 Artifacts from Concentration of rooftiles and ceramics No.1

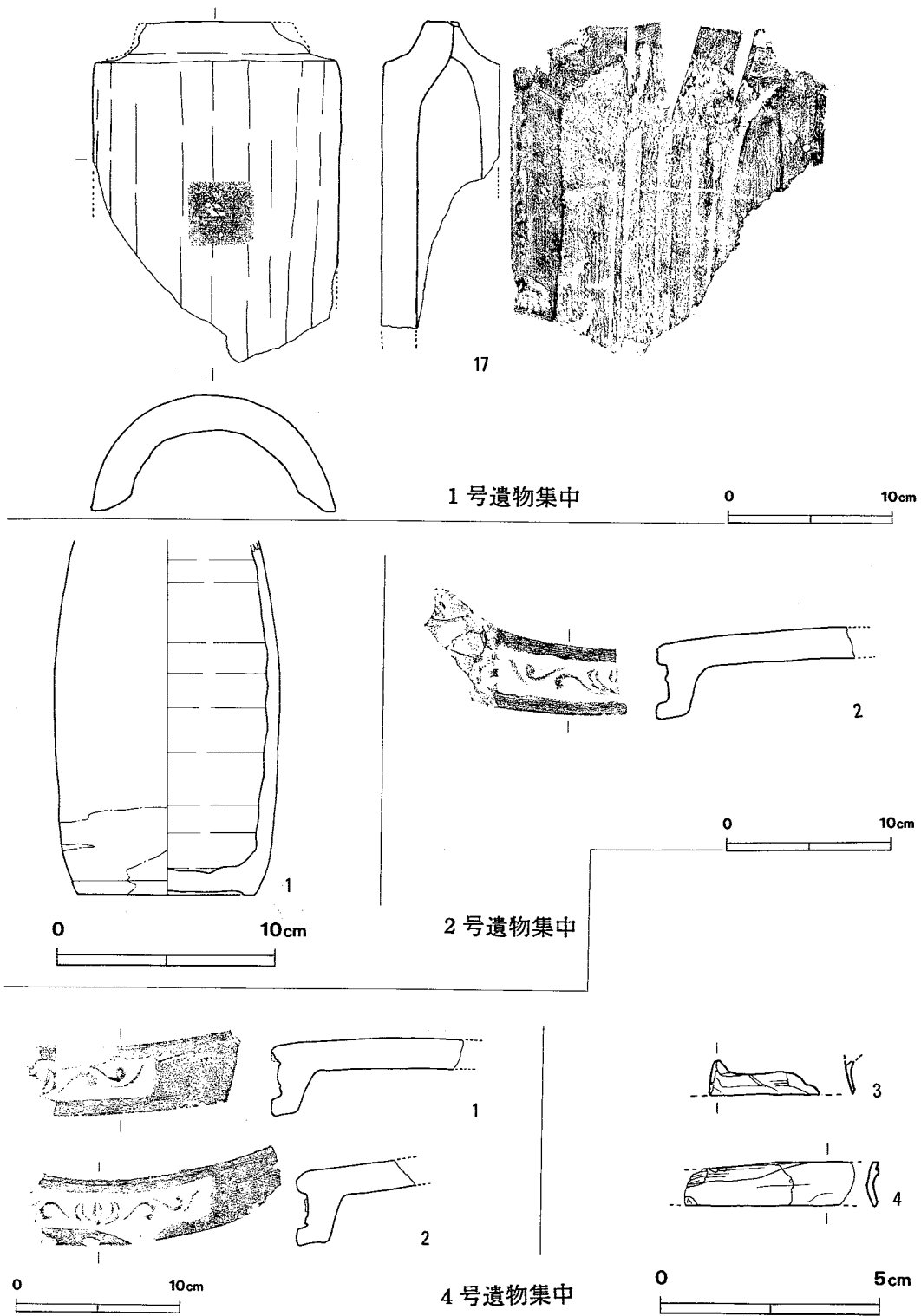
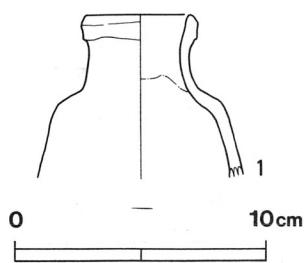
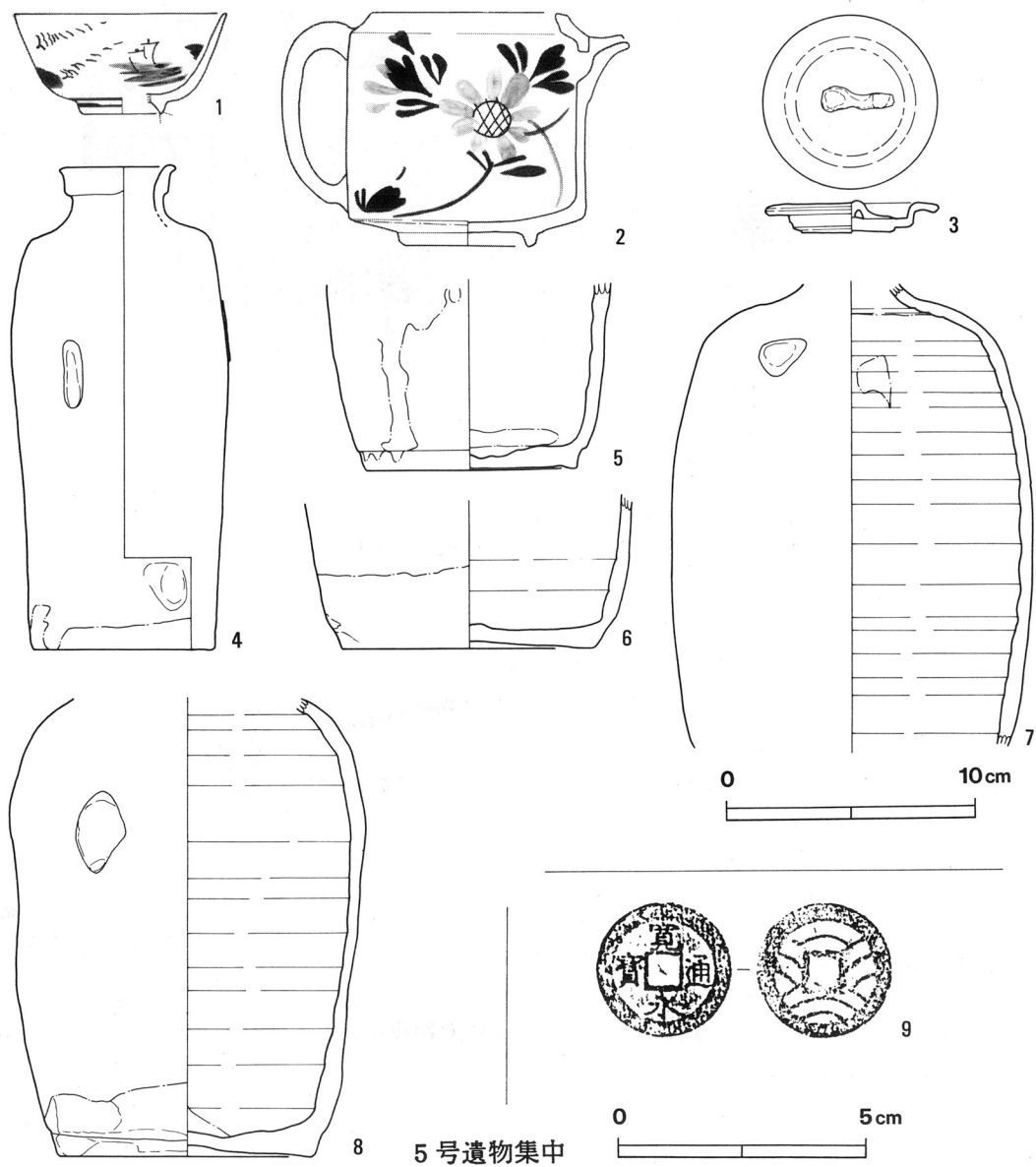


图 116 1号(2)·2号·4号遺物集中出土遺物

Figure 116 Artifacts from Concentrations of rooftiles and ceramics No.1,2 and 4



6号遺物集中

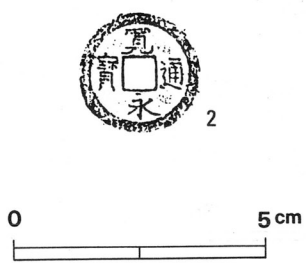


图 117 5・6号遺物集中出土遺物

Figure 117 Artifacts from Concentrations of rooftiles and ceramics No.5 and 6

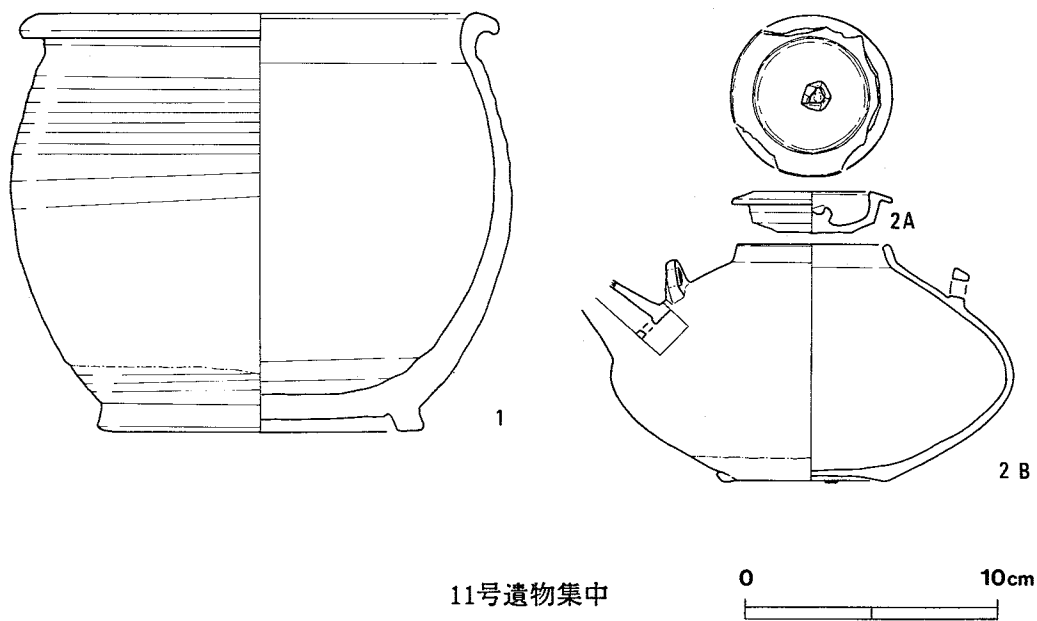
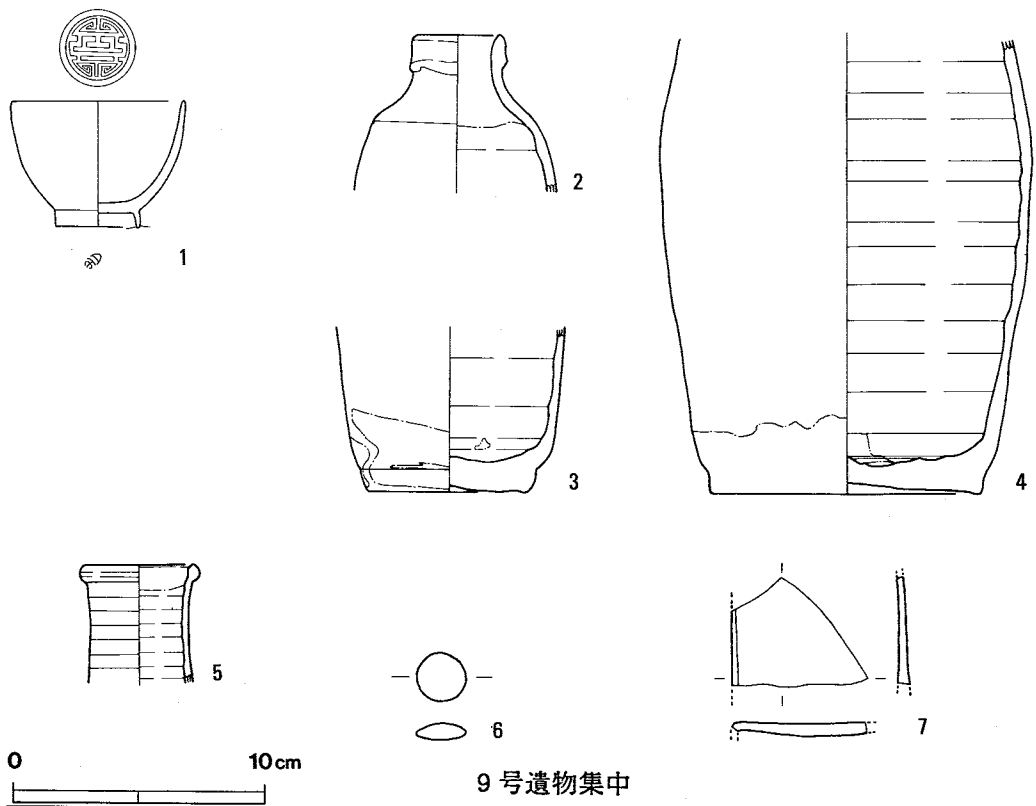


图 118 9·11号遺物集中出土遺物

Figure 118 Artifacts from Concentrations of rooftiles and ceramics No.9 and 11

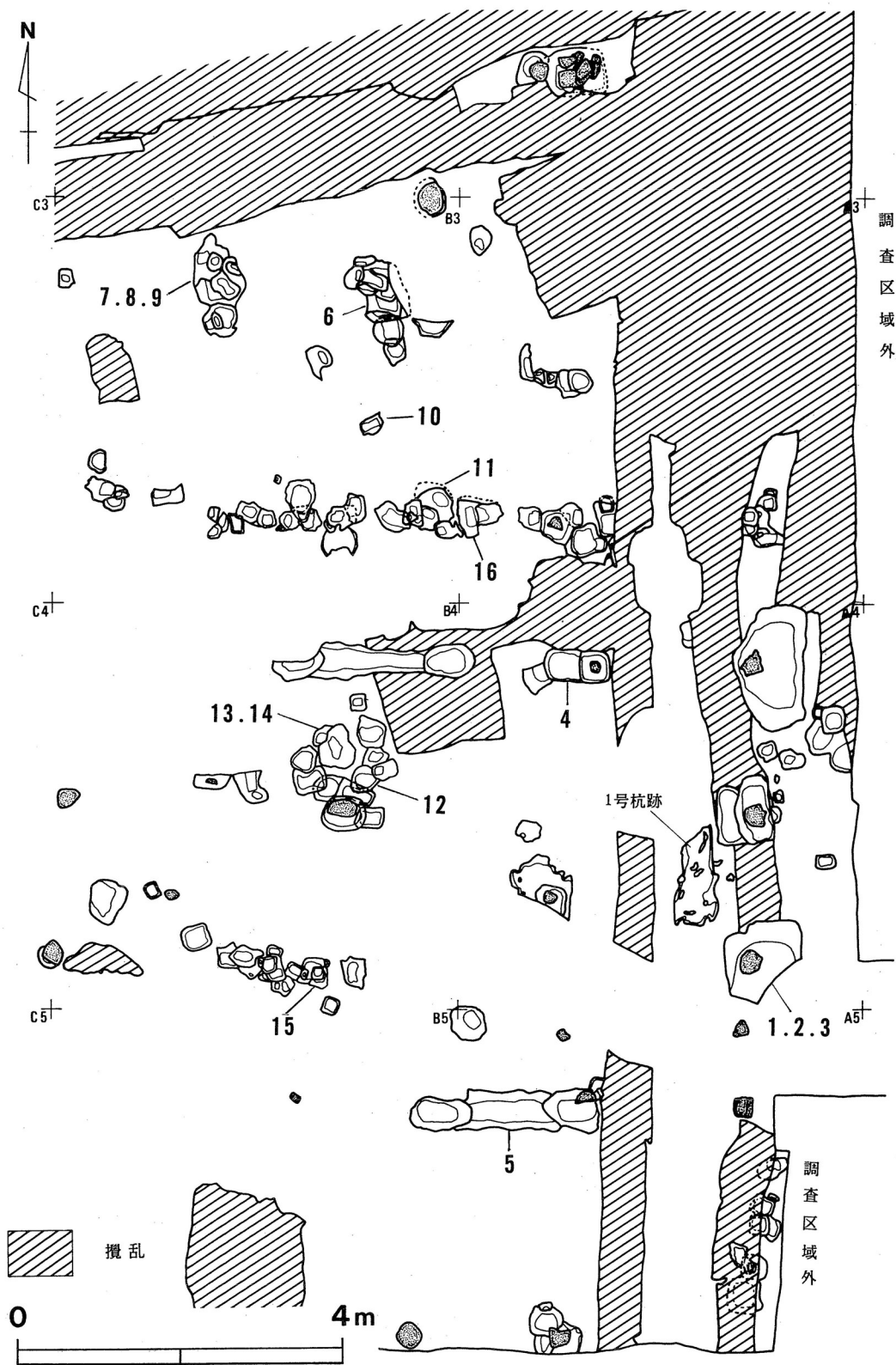


図 119 1号杭跡, A・B区柱穴および小土坑配置図

Figure 119 Pit Cluster No.1, post molds and small pits in grid rows A and B

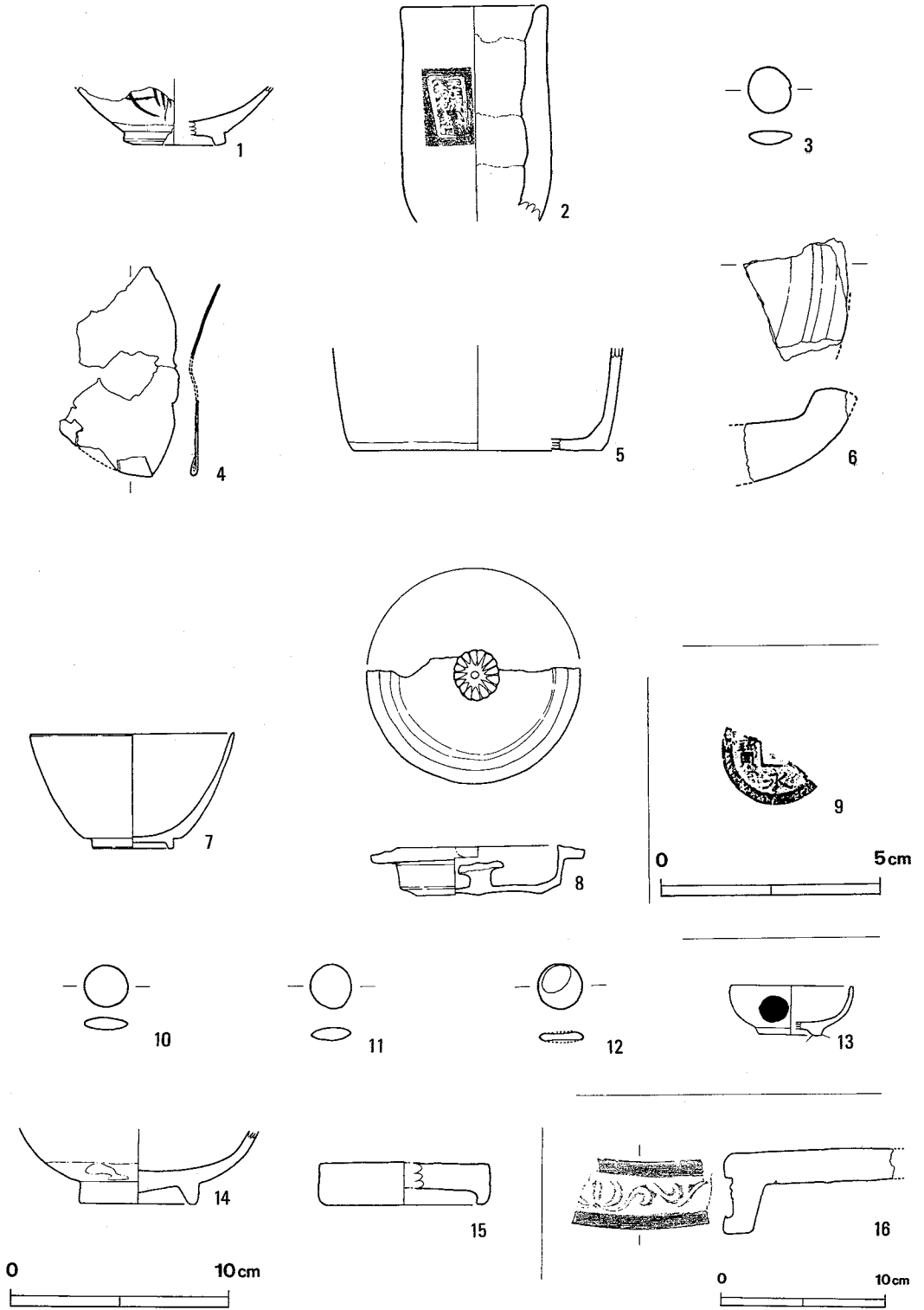


図 120 A・B 区柱穴および小土坑出土遺物

Figure 120 Artifacts from post molds and small pits in grid rows A and B



- 1 黒褐色土(10YR2/3)ロームブロック(2~8cm)を多量に含む。
- 2 黒褐色土(10YR2/3)
- 3 褐色土(10YR4/4)ローム粒・ロームブロック(1cm)を少量含む。
- 4 褐色土(10YR4/6)ロームブロック(1cm)を多量に含む。
- 5 暗褐色土(10YR3/3)ロームブロック(1cm)を少量含む。

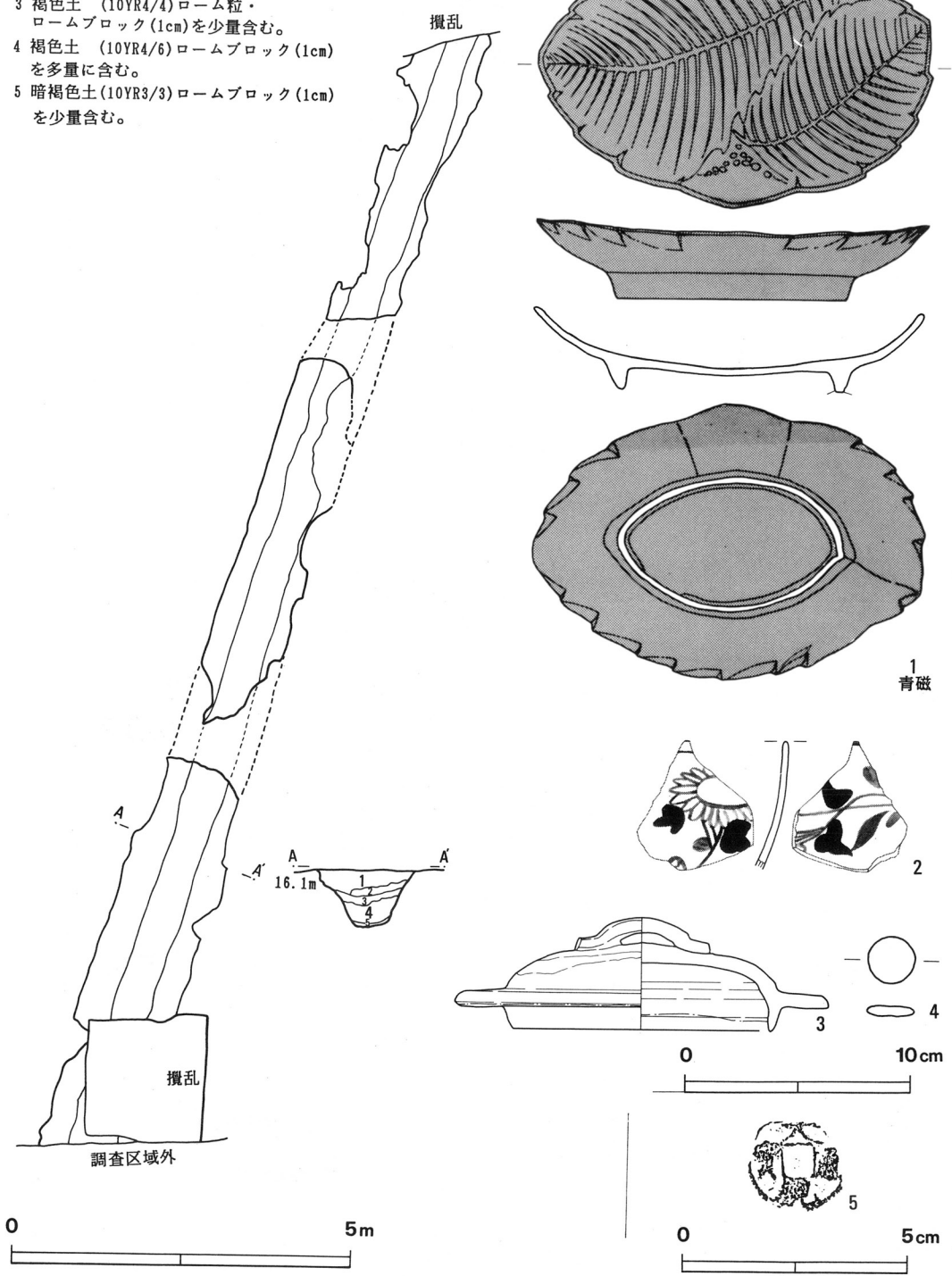


図 121 1号溝, 同出土遺物  
 Figure 121 Ditch No.1 and its artifacts

表5 A・B区遺構内出土遺物観察表  
(計測値は、特に記載のない限り、口径、底径、高さである。)

Table 5 Description of individual artifacts from features in grid rows A and B

遺物番号	種別	計測値			特 徴
1号井戸-1	磁器	-	(6.4)	-	染付。皿。中国。1620~1640年代。口縁部外反。体部薄手。畳付及び高台内に放射状の削り痕。蛇の目高台。内面蘭文？
1号井戸-2	磁器	(8.7)	(4.4)	1.7	染付。皿。肥前。1640~1650年代。蛇の目高台。内面山水文。口鏽。
1号井戸-3	磁器	(13.4)	4.9	4.1	染付。皿。肥前。1630~1650年代。口縁部外反。整形は粗く、ロクロ痕を残す。内面草花文。内面釉面に貫入が入る。
1号井戸-4	磁器	(13.5)	5.0	3.6	染付。皿。肥前。1630~1640年代。口縁部輪花。型打整形。内面体部に型打による剣先状文，外面に布目痕。見込に花蝶文を描く。畳付に砂熔着。同一文様2個体以上有。
1号井戸-5	磁器	(23.1)	12.8	4.9	染付。皿。肥前。1650~1670年代。見込周囲を削り込んで円刻。内面，見込に草木と岩，釣り人？，周囲に花唐草文を描く。外面体部，四方禪文。高台内に一重，高台部に二重，高台脇に一重圏線。
1号井戸-6	磁器	20.8	9.8	3.0	染付。皿。肥前。1650~1670年代。陶質。口縁部折縁。高台は斜めの削り。内面花鳥文。高台銘，二重方形枠内に福字。内外釉面に粗い貫入が入る。同一文様8個体以上有。
1号井戸-7	磁器	14.3	9.4	2.2	染付。皿。肥前。1650~1670年代。見込周囲を削り込み浅い段を作り出す。見込に，柳に舟，人物を描く。外面体部，草文。高台銘，二重円圏内に福字。ハリ支え。同一文様6個体以上有。9号地土-5と同一文様？
1号井戸-8	磁器	(11.8)	(5.7)	2.7	染付。皿。肥前。1650~1680年代。薄手。見込，二重圏線内に花文。畳付に砂熔着。
1号井戸-9	磁器	13.0	8.4	2.4	染付。皿。肥前。1650~1670年代。型打整形。貼付高台。内面に楼閣山水文。ハリ支え。同一文様7個体以上有。
1号井戸-10	磁器	(9.1)	7.2	2.5	白磁。皿。肥前。1640~1660年代。柏葉形。型打整形。外面に布目痕。貼付高台。畳付は粗い削りによる整形。同一文様4個体以上有。
1号井戸-11	磁器	(22.0)	5.2	5.2	青磁。皿。肥前(波佐見三股古窯?)。1630~1640年代。畳付は粗い削りによる整形。脚付。内面にへら彫による草文。高台脇釉面に手跡。畳付に砂熔着。
1号井戸-12	磁器	(21.6)	5.8	5.1	青磁。皿。肥前(波佐見三股古窯?)。1630~1640年代。口縁部外反。高台脇釉面に手跡。畳付に砂熔着。
1号井戸-13	磁器	-	-	-	青磁。皿。肥前(波佐見三股古窯?)。1630~1640年代。型打整形。見込周囲を削り込み浅い段を作り出す。口紅。
1号井戸-14	磁器	-	-	2.8	青磁。皿。肥前。17c後半。陶胎。型打整形。貼付高台。白化粧。内外釉面に貫入が入る。同一文様2個体以上？
1号井戸-15	磁器	(11.5)	-	-	染付。碗。肥前。17c後半。外面蝶文。内外釉面に貫入が入る。
1号井戸-16	磁器	6.9	3.1	4.9	染付。碗。肥前。1650~1660年代。外面体部雷文，高台脇に鋸齒文。高台内一重圏線。畳付に砂熔着。同一文様4個体以上有。
1号井戸-17	磁器	(7.4)	-	-	白磁。碗。肥前。17c後半。薄手。口縁部外反。
1号井戸-18	磁器	-	-	-	白磁。鉢。肥前。1650~1670年代。薄手。口縁部外反。内面に型打による樹木(梅?)文。
1号井戸-19	磁器	(16.2)	5.2	5.5	染付。鉢。肥前。1650~1680年代。内面に枝を描く。外面高台脇に一重，高台部に二重，高台内に一重圏線。畳付に砂熔着。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
1号井戸-20	磁器	(16.4)(7.2)	8.5		染付。鉢。肥前。1650~1670年代。見込に龍、内面体部に牡丹と笹を描く。外面体部、丸に蔦文。高台内一重圈線。高台部釉面に手跡。内外釉面に細かい貫入が入る。
1号井戸-21	磁器	—	10.2	—	青磁。鉢。肥前。1640~1650年代。口縁部輪花。内外面に線彫文様。疊付に、薄く鉄を塗る。
1号井戸-22	磁器	(21.9)(10.2)	12.1		青磁。鉢。肥前。17c後半。陶胎。口唇部に刻み目。白化粧。釉は厚さ約1mmで内外面に粗い貫入が入る。疊付に施釉。高台内無釉。チャツの痕有。
1号井戸-23	磁器	—	—	—	青磁。鉢。肥前。17c後半。内面に線彫文様。疊付に施釉。高台内は蛇の目釉剥ぎ、鉄を塗る。
1号井戸-24	磁器	6.8	3.8	5.6	染付。香炉。肥前。1650~1670年代。三脚付。外面体部鳳凰文。上面に宝文。高台銘「□□成□□□」。高台全面施釉。内面無釉。
1号井戸-25	磁器	13.2(5.8)	—	—	染付。香炉。肥前。1630~1650年代。外面体部に三本の横位隆起線を削り出す。三脚部に線彫文様。上面に染付文様。底部、内面無釉。
1号井戸-26	磁器	11.2	5.7	8.1	白磁。香炉。肥前。1630~1650年代。三脚付。外面体部に三本の横位隆起線を削り出す。底部、内面無釉。
1号井戸-27	磁器	(6.4)	4.0	6.2	青磁。火入。肥前。1630~1650年代。外面体部に線彫による唐草文と鋸齒文。高台及び内面無釉。二次的に被熱。
1号井戸-28	磁器	—	4.2	—	青磁。瓶。肥前。1630~1650年代。釉むら有。底部無釉。疊付に砂塔着。
1号井戸-29	磁器	—	—	—	色絵。瓶。肥前。1650~1670年代。頸部に赤絵具で青海波・毘沙門亀甲文を描く。
1号井戸-30	磁器	—	(5.9)	—	色絵。瓶。肥前。1650~1670年代。外面に色絵(赤・黄・緑)による草花文。30Aは二次的に被熱。
1号井戸-31	磁器	蓋:口径6.1 身:—	高2.6 —	—	染付。蓋。肥前。17c後半。身は内面にロクロ痕を残す。外面網目文。蓋、内面無釉。身の内面は部分的に施釉。蓋最大径9.0cm。
1号井戸-32	陶器	28.4	9.0	6.9	皿。肥前(内野山窯?)。17c前半。胎土は淡黄白色。口縁部折縁。高台は高い。疊付を除き透明釉。見込に砂目痕2ヶ所。
1号井戸-33	陶器	(21.7)	7.9	2.9	皿。肥前(内野山窯?)。17c前半。胎土は淡黄白色。疊付を除き透明釉。内面見込に砂目痕5ヶ所。4個体以上有。
1号井戸-34	陶器	(31.4)(13.8)	5.4		三島手。皿。肥前。17c。胎土は赤褐色。内面に白土で象嵌を施した後、疊付を除き透明釉。
1号井戸-35	陶器	—	—	7.2	皿。瀬戸美濃(志野?)。17c。型作り変形額皿。胎土は灰褐色。四隅に足貼付。内面体部に鉄で施文。全面に灰釉を施す。胎土目痕、底裏足の内側及び内面隅各1ヶ所。
1号井戸-36	陶器	口径(14.8)	高3.7		皿。瀬戸美濃。17c。胎土は灰色。型打整形。底部に脚作り出す。内外面灰釉、高台無釉。胎土目痕、底裏に2ヶ所。
1号井戸-37	陶器	(10.7)(6.5)(2.5)			皿。瀬戸美濃。17c。胎土は淡灰褐色。内外面長石釉、底裏釉剥ぎ。胎土目痕、内面及び底裏に1ヶ所。
1号井戸-38	陶器	26.2	16.2	5.1	皿。瀬戸美濃。17c後半。胎土は灰褐色。厚手。内外面鉛釉、高台内釉剥ぎ。
1号井戸-39	陶器	(12.6)(5.5)	9.0		碗。肥前。17c前半~中葉。胎土は灰色。高麗茶碗に似た器形。切り高台1ヶ所。疊付を除き灰釉。全体に斑点状の淡赤褐色の釉変。砂目痕、内面3ヶ所、高台1ヶ所。
1号井戸-40	陶器	12.7	4.1	6.4	碗。瀬戸美濃。17c。胎土は灰褐色。内外面鉄釉、高台無釉。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
1号井戸-41	陶 器	- - -	碗。京都? 17c後半~18c。胎土は淡黄白色。外面鉄で施文。内外面長石釉。
1号井戸-42	陶 器	(33.2)(13.0)(11.4)	二彩手。鉢。肥前。17c中葉~後半。胎土は淡赤褐色。内面、白土による刷毛目を施し、鉄(茶)、銅(緑)の二彩で文様を描いた後、透明釉。外面透明釉。見込に砂胎土目痕2ヶ所。
1号井戸-43	陶 器	(30.2)(15.8)(8.1)	鉢。瀬戸美濃。17c。胎土は灰色。外面は削りによる調整。内面鉄で施文及び、緑釉流しかけ。豊付を除き灰釉。
1号井戸-44	陶 器	- - -	瓶。備前。17c。胎土は暗赤褐色で炆器質。瓢箪形。外面鉄釉。頸部は欠損し、欠損部は研磨される。
1号井戸-45	陶 器	- (5.2) -	瓶? 京都? 17c。胎土は灰色。内面にロクロ目を残す。底裏に右回転糸切り痕。内外面鉄釉。
1号井戸-46	陶 器	- 2.6 -	茶入。高取? 17c。胎土は暗赤褐色で、炆器質。底裏に右回転糸切り痕。外面鉄釉、底裏無釉。
1号井戸-47	陶 器	- (11.8) -	瓶? 瀬戸美濃。17c。胎土は灰色。外面鉄釉、内面透明釉、胴最下部は釉剥ぎ。
1号井戸-48	陶 器	(14.5)(11.0) -	壺。京都? 17c。胎土は褐色。胴部にロクロ目を残す。内外面長石釉、高台無釉。
1号井戸-49	陶 器	(8.1) - -	壺。信楽。17c。胎土は灰白色で長石粒含む。肩部に耳3個貼付。外面鉄釉に漆黒釉流しかけ。
1号井戸-50	陶 器	30.8 - -	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。内面煤付着。口縁内面に突帯と流し口。櫛目は15本1単位を10単位か。鏽釉。内面磨滅。外面下半ヘラケズリと釉剥ぎ。
1号井戸-51	陶 器	- (13.2) -	播鉢。信楽系。胎土灰色。内面煤付着。櫛目は5本1単位。外面下部窯詰痕。外面指頭調整痕。
1号井戸-52	陶 器	- - -	播鉢。信楽系。胎土黄褐色。二次的に被熱。口縁断面三角形。櫛目は6本1単位。外面指頭調整痕。
1号井戸-53	土 器	(14.0) 8.4 2.3	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
1号井戸-54	土 器	(37.5)(29.2) 22.6	風炉。土師質。内外面二次的に被熱と一部煤付着。内面火箸痕。底面スグレ痕。外面ヘラミガキ。
1号井戸-55	土 器	(35.4)(24.6) 13.3	火鉢。土師質。外面二次的に被熱。足部に煤付着。口唇部敲打痕。底面スグレ痕。外面ヘラミガキ。
1号井戸-56	石製品	長 - 幅 - 高 -	硯。粘板岩。長方硯。陸部に短軸方向の削痕。
1号井戸-57	木製品	- 12.2 -	容器または蓋。柾目。円形製品の1/4 残欠品。板を筒状に成形し、円形板はめ込み。炭火・変形のため、原形不明。
1号井戸-58	木製品	幅 4.7 厚 1.2	底板? 柾目。側面穿孔か。炭化のため、原形不明。
1号井戸-59	木製品	厚 1.2	底板? 柾目。炭化のため、原形不明。
1号井戸-60	木製品	長 6.3 幅 0.4	合釘。竹を方形に削る。両端とも潰れる。井戸枠の接合に使用。
1号井戸-61	木製品	長 6.6 幅 0.5	合釘。竹を方形に削る。両端とも潰れる。井戸枠の接合に使用。
2号井戸-1	磁 器	(5.4)(2.4) 3.2	染付。小杯。中国。17c前半。胎土は緻密。薄手。口縁部外反。下半部に放射状の削り痕。外面山水文。二次的に被熱し、3個体が熔着。83号土坑-2と同一文様。
2号井戸-2	磁 器	- - -	染付。皿。中国。17c前半。胎土は緻密。見込に吹墨で白抜きの蓮の花を描く。高台内一重圏線。
2号井戸-3	磁 器	- - -	色絵。碗。肥前。17c後半。外面高台脇、染付の上に色絵で二重圏線。見込に赤絵具による二重圏線。
2号井戸-4	磁 器	24.1 (10.7) 8.7	染付。鉢。肥前。1700~1780年代。口唇部直下有段。内面体部捻花文。外面体部唐草文。高台銘「□製」。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
2号井戸-5	陶器	-	4.9	-	碗。京都? 18c? 胎土は灰白色で焼きしまる。高台内に刻印銘楕円形枠に「清閑寺」。内外面灰釉, 高台無釉。
2号井戸-6	陶器	-	7.5	-	德利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
2号井戸-7	陶器	4.3	11.4	-	德利。志戸呂。17c末?~18c前半。頸部鉄釉(梨子色)。二次的に被熱。
2号井戸-8	陶器	4.2	-	-	德利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
2号井戸-9	土器	-	(6.6)	-	焼塩壺。身A類。内外面赤化。内面布目痕。
2号井戸-10	瓦				平瓦。特殊な形態。凸面中央に溝が設けられる。
2号井戸-11	瓦				丸瓦。刺子a。
2号井戸-12	銅製品				北宋銭(元祐通宝真書)。循読。1093年初鑄。模鑄銭か。約1/6欠損。面・背摩耗し、銭文判読困難。腐食進行。
2号井戸-13	銅製品				古寛永(岡山銭良如手?)。1637年初鑄。永・宝字含む1/2欠品。腐食進行。
2号井戸-14	銅製品				新寛永(文銭:寛文亀戸銭正字)。1668年初鑄。背、カッ縁・広郭。腐食進行。
3号井戸-1	磁器	(13.0)	7.4	3.2	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部。松文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台銘「大明年製」。疊付に砂熔着。ハリ支え。
3号井戸-2	磁器	(13.2)	7.2	2.6	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部菊唐草文。見込印判五弁花。蛇の目釉剥ぎ。外面体部唐草文。疊付に砂熔着。
3号井戸-3	磁器	11.0	4.6	6.7	染付。碗。肥前。1690~1750年代。外面草花文。高台銘「大明年製」。内外釉面に貫入が入る。3号井戸-11と文様類似。
3号井戸-4	磁器	(9.8)(3.9)	5.4		染付。碗。肥前。1690~1780年代。外面に菊花文・四方禪文・二種類の幾何学文を配す。呉須の線はにじんでいる。
3号井戸-5	磁器	8.0	3.0	4.6	染付。碗。肥前。1690~1750年代。外面口縁部に雨降文。疊付に砂熔着。
3号井戸-6	磁器	8.5	3.4	4.8	染付。碗。肥前。1690~1750年代。外面口縁部に雨降文。疊付に砂熔着。
3号井戸-7	磁器	(9.2)	-	-	染付。碗。肥前。1690~1750年代。口縁部外反。外面、梅の折枝文。断面に漆継ぎの痕跡?
3号井戸-8	磁器	7.9	-	-	白磁。小鉢。肥前。17c後半~18c中葉。薄手。口縁部輪花。型打整形。
3号井戸-9	磁器	(5.4)	3.3	5.3	染付。仏飯器。肥前。18c前半。杯部外面に型紙刷と濃みによる桐文。釉はやや青味を帯びる。
3号井戸-10	磁器	-	4.7	-	染付。そば猪口。肥前。1690~1780年代。外面岩に草花文。高台銘「大明年製」。
3号井戸-11	磁器	口径(9.8)	高3.0		染付。蓋(碗)。肥前。1690~1750年代。上面草花文。「大明年製」銘。3号井戸-3と文様類似。
3号井戸-12	磁器	口径10.4	高3.4		染付。蓋(碗)。肥前。1690~1750年代。胎土は黄色味を帯びる。上面、波に芦文。「大明年製」銘。内外釉面に貫入が入る。
3号井戸-13	陶器	(12.1)	4.3	3.1	皿。肥前(内野山窯)。17c後半~18c中葉。胎土は灰色。内面銅緑釉, 見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。
3号井戸-14	陶器	12.3	6.6	2.8	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は灰色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で萱文。内外面灰釉, 高台無釉。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
3号井戸-15	陶 器	12.5	( 4.5)	4.7	皿。肥前? (京焼風)。17c後半~18c中葉。見込に鉄(?)で山水楼閣文。内外面透明釉, 高台無釉。高台内に刻印銘「清水」。周囲掘り込みより出土。
3号井戸-16	陶 器	10.8	5.0	7.7	碗。肥前。18c前半~中葉。胎土は黒褐色。内外面に白泥で刷毛目。畳付を除き透明釉。
3号井戸-17	陶 器	-	4.2	-	碗。肥前。17c末~18c中葉。胎土は暗赤褐色。白泥で、内面に刷毛目、外面に打刷毛目。畳付を除き透明釉。
3号井戸-18	陶 器	( 9.7)	( 5.3)	6.3	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。外面上半及び内面に灰釉, 外面下半と高台畳付を除き鉄釉。
3号井戸-19	陶 器	13.8	6.5	9.1	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
3号井戸-20	陶 器	(10.4)	5.0	6.8	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
3号井戸-21	陶 器	13.0	6.2	8.8	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。高台内墨書「仲」。
3号井戸-22	陶 器	12.8	5.5	8.0	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
3号井戸-23	陶 器	(12.4)	5.4	8.6	碗。萩? 17c後半~18c。胎土は暗褐色。畳付を除き白化粧後透明釉。
3号井戸-24	陶 器	-	3.9	-	皿。京都? 18c? 胎土は淡黄褐色。高台内に窪み。内外面透明釉。高台無釉。目痕内面見込3ヶ所。
3号井戸-25	陶 器	-	4.0	-	碗。京都? 18c? 胎土は灰色。薄手。内外面灰釉, 高台無釉。
3号井戸-26	陶 器	(17.6)	( 7.0)	7.9	碗。肥前。17c末~18c。胎土は暗赤褐色。内外面及び高台内に白泥で刷毛目。畳付を除き透明釉。
3号井戸-27	陶 器	(20.0)	7.6	10.8	片口鉢。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は淡黄白色。注口貼付。外面は削りによる整形。内外面灰釉を施し, 外面に緑釉流しかけ。高台無釉。目痕内面3ヶ所。
3号井戸-28	陶 器	1.2	-	-	瓶。備前。17c~18c。胎土は赤褐色。外面錆釉。
3号井戸-29	陶 器	(11.3)	4.5	2.6	受付燈明皿。志戸呂。18c? 胎土は灰色。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に錆釉。底部無釉。
3号井戸-30	陶 器	3.8	6.4	17.8	德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。
3号井戸-31	陶 器	-	( 8.4)	-	德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
3号井戸-32	陶 器	-	8.6	-	德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
3号井戸-33	陶 器	3.6	-	-	德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
3号井戸-34	陶 器	-	11.2	-	德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉にわずかに灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
3号井戸-35	陶 器	-	(12.8)	-	德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
3号井戸-36	陶 器	4.7	-	-	德利。瀬戸美濃。不明。外面柿釉。頸部に手跡残る。
3号井戸-37	陶 器	4.0	-	-	德利。志戸呂。18c前半。頸部鉄釉(梨子色)。二次的に被熱。
3号井戸-38	陶 器	-	12.3	-	德利。志戸呂。18c。胴部に錆釉。底部墨書。
3号井戸-39	陶 器	-	13.4	-	德利。志戸呂。18c。胴部に錆釉。二次的に被熱。
3号井戸-40	陶 器	-	10.1	-	德利。備前。18c? 外面自然釉。底部に刻印銘「㊦」。
3号井戸-41	陶 器	(25.3)	(11.1)	9.5	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。口縁内面に突帯。櫛目は18本1単位。鉄釉。底面糸切痕と胎土目痕。外面下半ヘラケズリと釉剥ぎ。
3号井戸-42	土 器	a(6.6)		1.6	焼壺壺。蓋IIa類。内面赤化。外面平坦部にスタレ痕。内面密な布目痕。口径b7.4cm(推)。

遺物番号	種別	計測値			特徴
3号井戸-43	土器	a 6.8	1.8		焼塩壺。蓋 IIa 類。外面一部赤化。外面平坦部にスグレ痕と「天下一焼塩」の釘書き。内面密な布目痕。口径 b 7.6 cm。
3号井戸-44	土器	a(5.6)	6.6	9.4	焼塩壺。身 B 類。内外面赤化。刻印杵有るが銘不明。内面と底面に布目痕。外面剝落激しい。口径 b 6.5 cm (推)。
3号井戸-45	土器	6.1	3.3	1.2	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-46	土器	8.1	4.1	1.5	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-47	土器	( 8.2)	4.1	1.4	かわらけ。底部回転糸切 (左)、墨書「中」。煤付着。
3号井戸-48	土器	8.3	4.3	1.4	かわらけ。底部回転糸切 (左)、墨書有。煤付着。
3号井戸-49	土器	( 9.0)	5.0	1.7	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-50	土器	11.4	5.8	2.4	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-51	土器	11.4	5.5	2.3	かわらけ。底部回転糸切 (左)。
3号井戸-52	土器	12.0	6.0	2.4	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-53	土器	(12.0)	6.0	2.4	かわらけ。底部回転糸切 (方向不明)。
3号井戸-54	土器	12.1	6.4	2.3	かわらけ。底部回転糸切 (左)。
3号井戸-55	土器	12.2	5.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-56	土器	12.2	5.9	2.3	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-57	土器	(12.4)	6.2	2.5	かわらけ。底部回転糸切 (左)。
3号井戸-58	土器	(12.4)	6.4	2.1	かわらけ。底部回転糸切 (左)。
3号井戸-59	土器	(12.4)( 6.4)	2.3		かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-60	土器	12.5	6.2	2.3	かわらけ。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号井戸-61	土器	(14.7)( 7.9)	3.2		かわらけ。底部回転糸切 (方向不明)。
3号井戸-62	土器	27.1	26.9	7.6	焙烙。土師質。外面と内面底に煤付着。内面底カマ印「⊖」(円外へ出る線はキズか)。口縁下部にヘラケズリ。内耳痕有。底面ちぢれ目。
3号井戸-63	土器	18.2	12.4	—	火鉢。土師質。外面赤色塗彩。内面火箸痕。外面ヘラミガキ。
3号井戸-64	土器	(36.6)(27.8)	19.6		風炉。土師質。外面赤色塗彩。内面火箸痕。口唇部敲打痕。底面スグレ痕。外面ヘラミガキ。
3号井戸-65	土器				火鉢。土師質。口縁部～内面赤色塗彩とヘラミガキ。
3号井戸-66	土器	( 9.1)( 5.4)	4.4		器種不明。土師質。底面糸切痕。
3号井戸-67	土製品	縦 8.3	横 3.4		ミニチュア三重塔。型押成形? 各層とも屋根の底裏で接合。透明釉。頂部穿孔。
3号井戸-68	銅製品	長 29.0	径 0.4		箸? つぶれる。腐食進み、錆付着。
3号井戸-69	銅製品				煙管。吸口。薄手。(後方から見て)右巻き。腐食ひどく、一部欠損。羅字残存。
1・2号地土-1	磁器	—	—	—	染付。碗。中国。17c 前半。胎土は緻密。外面に文様。口唇部虫喰い。10号地土-2と同一個体?
1・2号地土-2	磁器	—	—	—	色絵。碗。肥前。17c 後半。外面に色絵草花文(赤・緑など)。
1・2号地土-3	磁器	—	5.0	—	染付。碗。肥前。17c 中葉～後半。外面に捻花文。高台銘, 方形枠内に福字。見込, 二重圏線内に花文。
1・2号地土-4	磁器	7.2	3.4	5.8	染付。碗。瀬戸美濃? 1820年代～幕末。外面, 茄子に富士。
1・2号地土-5	陶器	(14.5)( 8.0)	3.0		皿。瀬戸美濃。17c。胎土は淡褐色。内外面鉛釉, 高台無釉。内面2ヶ所に目痕。
1・2号地土-6	陶器	3.1	—	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。
1・2号地土-7	陶器	—	6.2	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部最下部, 墨書「〇」を5ヶ所に施す。底裏墨書。
1・2号地土-8	陶器	—	9.0	—	徳利。瀬戸美濃。18c 前半～中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
1・2号地土-9	陶 器	—	11.6	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
1・2号地土-10	土 器	a —	( 5.6)	—	焼塩壺。身B類。外面赤化。「泉川麻玉」銘。内面布目痕。底面指頭圧痕。
1・2号地土-11	土 器	10.3	4.2	2.8	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。内外面とも赤褐色塗彩の後、透明釉。外面釉拭き取り。
1・2号地土-12	土 器	(13.6)	8.0	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。二次的に被熱?
1・2号地土-13	土 器	—	17.0	—	火鉢。土師質。内面火箸痕。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。
3号地土-1	磁 器	(11.7)	4.4	3.8	染付。皿。肥前系。1700～1780年代。内面体部二重網目文、見込蛇の目釉剥ぎ。畳付に砂熔着。
3号地土-2	磁 器	8.0	4.0	6.9	染付。碗。肥前。18c後半～19c初。筒形。外面幾何学文。内面口縁部に四方禪文。見込、二重圏線内に五弁花。
3号地土-3	磁 器	( 9.4)	4.0	5.9	染付。碗。肥前。18c後半～19c初。外面松竹文。内面口縁部に四方禪文。見込、二重圏線内に五弁花。
3号地土-4	磁 器	( 5.8)	3.2	5.6	染付。仏飯器。肥前。18c。胎土は灰色。外面笹文。底部は無釉で赤褐色。
3号地土-5	磁 器	口径(9.8)			染付。蓋。肥前。18c。上面、薦文。呉須の発色はやや暗い藍色。かえり部無釉。最大径10.8cm。
3号地土-6	陶 器	12.2	6.9	3.0	皿。瀬戸美濃。17c後半～18c中葉。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内面見込に鉄による摺絵で菊花文。内外面灰釉、高台無釉。
3号地土-7	陶 器	( 7.3)	3.2	3.9	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は淡褐色。外面は削りによる調整。内外面透明釉、高台無釉。
3号地土-8	陶 器	( 9.4)( 3.4)		6.1	碗。産地不明。18c～19c前半。胎土は黄白色。高台内に窪み。内外面透明釉、高台無釉。
3号地土-9	陶 器	( 9.4)	—	—	碗。産地不明(信楽?)。18c～幕末。胎土は灰白色で焼きしまる。外面に鉄・呉須で草花文。内外面透明釉。
3号地土-10	陶 器	9.8	4.3	6.3	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。胴部下半の張る器形。外面下半は削りによる整形。内外面鉄釉、高台無釉。外面の一部に厚く長石釉を施す。
3号地土-11	陶 器	—	5.6	6.9	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。高台内墨書。
3号地土-12	陶 器	(11.0)	4.4	7.4	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
3号地土-13	陶 器	5.8	4.9	7.1	壺。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は黄白色。肩部に耳一对貼付。内外面灰釉、高台無釉。
3号地土-14	陶 器	8.7	9.3	12.1	土瓶。産地不明。18c。胎土は灰白色。三脚貼付。外面胴部、幅広の横位沈線2条と波状文。内外面鉄釉、底部無釉。目痕内面3ヶ所。底裏刻印銘「雲光山」。
3号地土-15	陶 器	—	5.4	—	瓶。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は黄褐色。外面は削りによる整形。底部右回転糸切り痕。内外面鉄釉。底部釉剥ぎ。
3号地土-16	陶 器	口径(8.5)			蓋。産地不明。18c～幕末。胎土は淡黄褐色。上面中央部周囲から放射状の沈線と10条の同心円状沈線。その上に白土・鉄・呉須による梅花文。上面灰釉。最大径11.1cm(推)。
3号地土-17	陶 器	—	4.4	1.8	蓋(土瓶の落し蓋)。産地不明。18c～幕末。胎土は灰白色で焼きしまる。つまみは桜花状を呈する。上面鉄釉。



遺物番号	種別	計測値			特 徴
3号地土-18	陶 器	口径 11.8	高 1.1		蓋。瀬戸美濃。18c~19c。胎土は淡灰褐色。外面灰釉，内面無釉。
3号地土-19	陶 器	9.3 12.2	3.3		蓋。産地不明。18c~幕末。胎土は褐色。外面，つまみ周囲及び縁辺部鉄泥，その間をとびがんなの刻目で埋め，白泥イッチンによる梅花文。内面鉄釉，かえり部無釉。
3号地土-20	陶 器	8.8 3.4	1.6		受付燈明皿。産地不明。18c~19c。外面は丁寧なナデによる調整。内面灰釉。
3号地土-21	陶 器	(10.9)( 4.4)( 2.8)			燈明皿。産地不明。18c~19c。外面は削りによる調整。内面に菊花状の貼付文様を施し，灰釉。煤付着。
3号地土-22	陶 器	(10.5)( 5.4)	1.6		燈明皿。志戸呂。18c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に錆釉。底部無釉。煤付着。
3号地土-23	陶 器	2.8	—	—	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。
3号地土-24	陶 器	—	8.6	—	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
3号地土-25	陶 器	—	7.0	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。二次的に被熱。
3号地土-26	陶 器	—	10.2	—	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書線刻「△」。
3号地土-27	陶 器	—	11.1	—	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書線刻「△」。
3号地土-28	陶 器	3.7	—	—	徳利。志戸呂。18c後半。頸部鉄釉。
3号地土-29	陶 器	—	9.8	—	徳利。志戸呂。18c。胴部錆釉。胴部墨書「△」「□丁」「□衛」，底部墨書「八」。
3号地土-30	陶 器	—	10.3	—	徳利。志戸呂。18c。胴部錆釉。底部墨書「△」。
3号地土-31	陶 器	—	10.6	—	徳利。志戸呂。18c。胴部錆釉。
3号地土-32	土 器	口径 a(6.8)	高 1.6		焼塩壺。蓋 IIc 類。内外面赤化。内面粗い布目痕。口径 b 7.4 cm (推)。
3号地土-33	土 器	口径 a 6.2	高 1.9		焼塩壺。蓋 IIb 類。内外面赤化。内面粗い布目痕。口径 b 8.0 cm。
3号地土-34	土 器	a(6.0)	—	—	焼塩壺。身 B2 類。「泉湊伊織」銘か。内面布目痕。口径 b 7.6 cm (推)。
3号地土-35	土 器	( 7.8)	3.8	1.2	かわらけ。底部回転糸切 (左)，墨書「大」。
3号地土-36	土 器	( 7.8)	4.2	1.2	かわらけ。底部回転糸切 (左)。
3号地土-37	土 器	(11.0)	4.8	2.4	かわらけ。底部回転糸切 (左?)。煤付着。
3号地土-38	土 器	11.9	6.0	2.4	かわらけ。胎土は金雲母を含。底部回転糸切 (左?)。煤付着。
3号地土-39	土 器	11.4	6.2	2.7	受付燈明皿。底部回転糸切 (左)。
3号地土-40	土 器	11.8	5.0	3.2	受付燈明皿。底部回転糸切 (左)。煤少量付着。
3号地土-41	土 器	12.1	6.4	2.6	受付燈明皿。底部回転糸切 (左)。煤付着。
3号地土-42	土 器	4.2	2.8	1.8	燈明具。煤付着。
3号地土-43	土 器	(17.0)	—	—	火鉢。土師質。口唇部に煤付着。口縁部刺突痕。内面指頭調整痕。
3号地土-44	土 器	—	(10.0)	—	灰落し。瓦質。沈線と回転印刻文 (流水文，唐草文?)。外面ヘラミガキ。
3号地土-45	土製品	縦 6.8 横 6.6 厚 1.9			温石? 瓦質。全面研磨。一部欠損。二次的に被熱。
3号地土-46	石製品	長 — 幅 6.7 厚 4.0			砥石。泥岩。荒砥。砥面表裏面・両側面と端部。擦痕は裏面各方向，左側面端部方向，右側面と端部表裏面方向。上端部は破損後再調整。重量 400 g。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
4号地土-1	磁器	-	-	-	色絵。皿。古九谷様式。見込に、染付と色絵により、幾何学文を地文として、丸に捻花文。外面体部唐草文。高台内二重圏線。畳付に砂熔着。
4号地土-2	磁器	14.2	8.8	3.1	染付。皿。肥前。1700~1780年代。厚手。内面体部、菊唐草文。見込印判五弁花、蛇の目釉剥ぎ。畳付に砂熔着。同一文様2個体有。
4号地土-3	磁器	12.6	4.4	4.0	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部二重網目文。見込蛇の目釉剥ぎ。畳付に砂熔着。同一文様2個体有。
4号地土-4	磁器	10.2	3.6	4.7	染付。碗。肥前。1700~1780年代。高台径小さい。外面草花文。
4号地土-5	磁器	8.4	3.3	4.1	染付。碗。肥前。1700~1780年代。胎土は灰色。厚手。外面梅文。畳付に砂熔着。
4号地土-6	磁器	8.4	4.0	6.4	色絵。碗。肥前。18c後半~19c初。筒形。外面、染付牡丹文と色絵(赤・金)松竹梅文。高台脇に花文。内面口縁部四方禪文、見込は染付松竹梅文。
4号地土-7	磁器	9.4	4.6	5.3	染付。蓋物。肥前。18c。外面花唐草文。口唇部釉剥ぎ。
4号地土-8	磁器	-	-	-	色絵。瓶。肥前。18c。外面に赤などの色絵具で花文。
4号地土-9	磁器	横5.9	厚2.6		染付。水滴。肥前。18c~幕末。型押整形。背面に布目痕。型押文で人物をあらわし、部分的に呉須を施す。底部無釉。
4号地土-10	陶器	(13.8)	-	-	皿。瀬戸美濃。17c。型打変形菊皿。胎土は淡黄褐色。外面に花卉状の刻目。内面・外面口縁部灰釉。
4号地土-11	陶器	11.1	6.4	2.9	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は灰色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で菊文? 内外面灰釉, 高台無釉。
4号地土-12	陶器	(11.9)(3.5)	4.2		皿。産地不明(信楽?)。18c~19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。見込に呉須・鉄で草花文。内外面透明釉, 高台無釉。
4号地土-13	陶器	10.2(3.2)	5.8		碗。産地不明。18c~19c前半。胎土は灰色。外面胴部上半, 鉄で山水楼閣文? 内外面透明釉, 高台無釉。目痕内面1ヶ所。
4号地土-14	陶器	10.0	4.2	5.7	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰白色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
4号地土-15	陶器	9.0	3.0	6.1	碗。産地不明(信楽?)。18c~19c前半。胎土は黄白色で焼きしめる。外面, 鉄・呉須で草文。内外面透明釉, 高台無釉。
4号地土-16	陶器	(9.8)(4.7)	7.8		碗。産地不明。18c~幕末。胎土は淡黄褐色。胴部下半に2段持つ。内外面長石釉, 高台無釉。目痕内面1ヶ所。
4号地土-17	陶器	9.1	2.8	5.6	碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は灰白色で焼きしめる。内外面透明釉, 高台無釉。外面, 赤・緑・青で草花文, 見込, 白で花文3個上絵付け。
4号地土-18	陶器	9.4	2.8	5.4	碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は灰白色で焼きしめる。内外面透明釉, 高台無釉。外面, 白・赤で笹文上絵付け。
4号地土-19	陶器	9.6	3.1	5.2	碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は褐色。内外面透明釉, 高台無釉。外面, 赤・緑・青で草花文上絵付け。
4号地土-20	陶器	(9.3)(2.4)	5.1		碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は灰白色で焼きしめる。内外面透明釉, 高台無釉。外面, 白・赤で笹文上絵付け。
4号地土-21	陶器	(12.0)	5.1	8.2	鉢。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
4号地土-22	陶器	(12.0)(5.8)	9.2		碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。

遺物番号	種別	計測値			特徴
4号地土-23	陶器	14.0	5.6	9.7	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。内外面灰釉，高台無釉。
4号地土-24	陶器	(11.4)	5.6	6.5	片口鉢？ 瀬戸美濃。18c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。内外面鉄釉，高台無釉。目痕内面3ヶ所。
4号地土-25	陶器	(12.4)	6.4	7.1	片口鉢？ 瀬戸美濃。18c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。内外面鉄釉，高台無釉。目痕内面3ヶ所。高台内墨書記号「全」。
4号地土-26	陶器	(13.5)	7.3	6.8	片口鉢？ 瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内外面鉄釉，高台無釉。目痕内面3ヶ所。
4号地土-27	陶器	(27.3)(11.2)	9.4		鉢。瀬戸美濃。18c。胎土は黄褐色。内面に沈線による波状文。内外面灰釉。高台内外釉剥ぎ。目痕内面3ヶ所。
4号地土-28	陶器	—	7.9	—	鉢。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。内外面灰釉，高台無釉。内面蛇の目釉剥ぎ。高台内墨書「長田分」。
4号地土-29	陶器	(6.3)	—	—	壺。瀬戸美濃。18c。胎土は灰褐色。肩部に耳一對貼付。内外面白化粧，外面透明釉，高台無釉。
4号地土-30	陶器	(15.0)(9.6)(17.0)			鉢。瀬戸美濃。18c。胎土は褐色。削りによる整形。内外面錆釉，高台無釉。
4号地土-31	陶器	(10.0)(5.9)(6.9)			火入。産地不明。18c～幕末。胎土は褐色。外面白化粧の後，呉須・鉄で藤花文を施す。その後，外面に透明釉。
4号地土-32	陶器	(9.4)	5.8	6.7	火入。瀬戸美濃。18c。胎土は淡灰褐色。外面胴部，横方向の細かい沈線と，その上から約1cm間隔で縦方向の太い沈線を施す。外面，口縁部透明釉，外面下半畳付以外鉄釉。内面に輪ドチ痕。
4号地土-33	陶器	5.5	2.9	4.1	火入。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は灰白色。外面・口縁部灰釉，高台無釉。内面に輪ドチ痕。
4号地土-34	陶器	2.6	2.9	1.2	合子。産地不明。18c～幕末。胎土は黄白色。外面・内面蓋受け以外透明釉。底裏墨書「銀□□」。
4号地土-35	陶器	—	10.1	—	蓋物。産地不明。18c～幕末。胎土は黄白色。高台を数ヶ所，波状に削り取る。外面長石釉。
4号地土-36A	陶器	口径(10.3) 高(3.4)			蓋。産地不明。18c～幕末。胎土は黄白色。上面錆釉。最大径12.8cm(推)。
4号地土-36B	陶器	(13.8)(7.0)	11.4		土鍋。産地不明。18c～幕末。胎土は灰色。外面・内面蓋受け以外錆釉，底部無釉。目痕内面1ヶ所。
4号地土-37	陶器	—	(11.2)	9.1	土瓶。瀬戸美濃。18c～19c前半。胎土は褐色。算盤玉形。底部足1個貼付。外面上部に横方向の細かい沈線を施す。外面灰釉，内面錆釉。底部無釉。
4号地土-38	陶器	9.2	7.6	10.5	土瓶。瀬戸美濃？ 18c後半～幕末。胎土は黄白色。外面鉄で笹文を施した後透明釉。底部無釉。底部に多量のスス付着。
4号地土-39	陶器	口径9.7	高2.4		蓋。瀬戸美濃。17c後半～18c中葉。胎土は黄白色。上面，鉄による摺絵で，交差する方形内に桜花文。上面灰釉。
4号地土-40	陶器	口径7.1	高3.4		蓋。産地不明。18c～幕末。胎土は褐色。上面に灰釉。最大径9.3cm。
4号地土-41	陶器	口径(8.8)			蓋。志戸呂。18c。胎土は暗褐色で炆器質。外面鉄釉。5個体以上有。最大径11.4cm(推)。
4号地土-42	陶器	8.3	4.3	2.1	受付燈明皿。志戸呂。18c？ 胎土は灰褐色。外面は，削りによる整形。内面及び外面口縁部に錆釉。底部無釉。外側面に重ね積み痕。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
4号地土-43	陶 器	(11.2)( 6.0)	1.8		燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。内外面鉄釉。底部の釉拭き取り。外側面に重ね積み痕。
4号地土-44	陶 器	4.5 6.2	19.7		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。胴部中央に鉄釉で「工」を施す。底部釉ふきとり。
4号地土-45	陶 器	2.5 7.4	20.8		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。肩部に5条の沈線帯。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
4号地土-46	陶 器	2.7 ( 7.8)	22.9		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。肩部に6条の沈線帯。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
4号地土-47	陶 器	4.4 -	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。
4号地土-48	陶 器	3.1 -	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。
4号地土-49	陶 器	4.4 -	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。
4号地土-50	陶 器	3.3 -	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。
4号地土-51	陶 器	3.4 -	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。
4号地土-52	陶 器	- 7.6	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。釘書ベタ「半」。
4号地土-53	陶 器	- 6.8	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。釘書線刻。
4号地土-54	陶 器	- 6.2	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
4号地土-55	陶 器	- 6.2	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
4号地土-56	陶 器	- 6.2	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
4号地土-57	陶 器	- 6.2	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
4号地土-58	陶 器	- 6.9	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
4号地土-59	陶 器	- 7.8	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。釘書ベタ。
4号地土-60	陶 器	7.6 -	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
4号地土-61	陶 器	- 8.0	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
4号地土-62	陶 器	- -	-		德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。肩部に6条の沈線帯。外面鉄釉。
4号地土-63	陶 器	- 10.3	-		德利。志戸呂。18c。頸部に鉄釉(梨子色)、胴部に錆釉。
4号地土-64	陶 器	- 10.8	-		德利。志戸呂。18c。外面錆釉。
4号地土-65	陶 器	- 10.6	-		德利。志戸呂。18c。外面錆釉。底部墨書「△」。
4号地土-66	陶 器	- 10.9	-		德利。志戸呂。18c。外面錆釉。
4号地土-67	陶 器	(26.8) -	-		播鉢。備前系。胎土赤褐色。内面煤付着。口縁2本沈線の縁帯と1本沈線の突帯。櫛目は10本1単位。
4号地土-68	陶 器	10.1 4.6	2.2		燈明皿。志戸呂。18c? 底部回転糸切(右)。内面及び外面口縁部に錆釉。底部無釉。内面および外側面に重ね積み痕。煤付着。
4号地土-69	土 器	口径 a 6.4	高 2.0		焼塩壺。蓋 IIc 類。外面赤化。内面粗い布目痕。口径 b 8.2 cm。
4号地土-70	土 器	( 5.7) -	-		焼塩壺。身 A2 類。内外面赤化するが剥落激しい。内面煤付着。
4号地土-71	土 器	a 6.4 5.8	7.3		焼塩壺。身 B2 類。内外面若干赤化。「泉湊伊織」銘。内面布目痕。口径 b 7.8 cm。
4号地土-72	土 器	a(5.5)( 5.2)	7.9		焼塩壺。身 B2 類。外面若干赤化。内面布目痕。底面指頭圧痕。口径 b 7.2 cm (推)。
4号地土-73	土 器	( 6.8)( 3.8)	1.1		かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
4号地土-74	土 器	( 7.8)( 4.0)	1.3		かわらけ。底部欠損。
4号地土-75	土 器	7.9 3.8	1.2		かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「大」。
4号地土-76	土 器	(10.2) 4.8	2.7		かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
4号地土-77	土器	(10.9)(5.1) 2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
4号地土-78	土器	11.0 5.0 2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
4号地土-79	土器	(11.0) 4.8 2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
4号地土-80	土器	(11.4)(6.2) 2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
4号地土-81	土器	(19.2) 10.2 3.4	かわらけ。底部回転糸切(右?)。
4号地土-82	土器	(20.2)(12.2) 3.4	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
4号地土-83	土器	11.6 5.7 2.6	受付燈明皿。底部回転糸切(左?)。煤付着。
4号地土-84	土器	11.8 6.0 2.6	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。
4号地土-85	土器	11.8 5.6 3.1	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。
4号地土-86	土器	11.8 6.5 3.5	受付燈明皿。底部回転糸切(方向不明)。二次的に被熱。
4号地土-87	土器	11.8 6.2 2.9	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。内面に、暗褐色顔料の痕跡(銀色塗彩?)。
4号地土-88	土器	11.9 5.6 2.8	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。内外面口縁部に、暗褐色顔料の痕跡(銀色塗彩?)。煤付着。
4号地土-89	土器	12.4 6.6 3.3	受付燈明皿。底部回転糸切(方向不明)。
4号地土-90	土器	12.6 6.6 2.7	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。
4号地土-91	土器	9.2 9.0 9.0	有脚受付燈明皿。外面に、暗褐色顔料の痕跡(銀色塗彩?)。煤付着。
4号地土-92	土器	20.0 18.6 4.4	焙烙。土師質。内外面底に煤付着。内面底カマ印「⊖」か。口縁下部にヘラケズリ。内耳無。焼成後の穿孔が口縁部に2個づつ1対2で配される。底面ちぢれ目。
4号地土-93	土器	(30.2)(30.6) -	焙烙。土師質。内外面底に煤付着。口縁下部にヘラケズリ。底面ちぢれ目。
4号地土-94	土器	(32.0)(31.8) -	焙烙。土師質。外面煤付着。口縁下部にヘラケズリ。内耳痕有。底面ちぢれ目。
4号地土-95	土器	(31.9)(31.7) -	焙烙。土師質。内外面一部煤付着。口縁下部にヘラケズリ。内耳有。底面ちぢれ目。
4号地土-96	土器	(22.2)(17.1) 12.3	火鉢。土師質。内面煤付着。口唇部敲打痕。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。
4号地土-97	土器	22.8 17.4 13.2	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。内面火箸痕。口唇部敲打痕。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。
4号地土-98	土器	- 17.4 -	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。内面火箸痕。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。
4号地土-99	土器	31.2 22.0 17.0	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。内面煤付着。内面火箸痕。口唇部敲打痕。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。
4号地土-100	土器	長軸(28.2) 高10.2	火鉢。土師質。口唇部若干煤付着と敲打痕。底面スタレ痕。短軸27.2cm(推)。
4号地土-101	土器	(17.8)(14.8) 10.1	火鉢。瓦質。沈線と回転印刻文(雨垂れ文、菊花文)。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。外面ヘラミガキ。
4号地土-102	土製品	縦6.7 横6.6 厚1.8	温石? 瓦質。全面研磨。一部欠損。二次的に被熱。
4号地土-103	土器	高5.5	七厘の風口部分。土師質。内面赤化。底面ちぢれ目。
4号地土-104	瓦		軒丸瓦。剣梅鉢紋。
4号地土-105	瓦		軒平瓦。三角垂面形。金箔瓦。二次的に被熱し、燈変色。
4号地土-106	石製品	長 - 幅 - 高1.5	硯。粘板岩。長方硯。墨道は凹状に磨滅。硯側面取り。硯背平坦。
4号地土-107	石製品	長 - 幅5.0 厚4.7	砥石。流紋岩。荒砥。砥面表裏面と両側面。重量355g。
4号地土-108	石製品	長 - 幅5.0 厚1.4	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量70g。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
4号地土-109	石製品	径 2.2	厚 0.6		碁石。粘板岩。黒石。研磨整形。
4号地土-110	銅製品				煙管。雁首。薄手。(後方から見て)右巻き。ろう接左側。腐食ひどく、灰叩き部・火皿下半以外欠損。火皿左右につぶれる。
4号地土-111	銅製品				煙管。雁首。薄手。(後方から見て)左巻き。ろう接左側。火皿接合部補強帯。腐食のため後端欠損。上下につぶれる。
4号地土-112	銅製品				煙管。吸口。(後方から見て)左巻き。腐食進行。羅字残存。
4号地土-113	銅製品				煙管。吸口。(後方から見て)右巻き。腐食ひどく、両端欠損。
4号地土-114	銅製品				煙管。吸口?(後方から見て)右巻き。腐食ひどく、両端欠損。
4号地土-115	銅製品				煙管。吸口。肉厚。腐食進み、錆付着、ろう接不明、端部一部欠損。
4号地土-116	鉄製品				飾り金具? 板状。中心に突起。ほぼ対称形で、左右に長方形の穴。腐食ひどい。最大幅 2.1 cm, 最大長 6.5 cm, 最大高 1.0 cm。
4号地土-117	銅製品				引手具? 円形? 腐食のため 1/4 欠損、錆付着。歪む。
4号地土-118	銅製品				新寛永(不旧手:享保七条銭進永)。1726年初鑄。腐食ひどく、銭文判読困難。右上欠損。
4号地土-119	銅製品				新寛永(不旧手?)。1726年初鑄。腐食ひどく、輪・郭剥落、銭文判読不能。
4号地土-120	銅製品				新寛永(元文亀戸銭狭穿)。1737年初鑄。寛・通字含む 1/2 残欠品。腐食ひどい。
5号地土- 1	磁 器	7.3	4.5	5.4	染付。そば猪口。肥前。18c前半~19c初。外面、若松に蕨文。若松は型紙摺。高台内一重圏線。
5号地土- 2	磁 器	- ( 8.9)	-	-	染付。皿。肥前。1630~1640年代。見込に柳?文。内外釉面に貫入。畳付に砂熔着。
5号地土- 3	磁 器	14.2	8.2	4.5	染付。皿。肥前。1700~1780年代。口縁部やや外反。内面体部、唐草文。見込五弁花。外面体部唐草文。高台銘二重方形枠内に渦福字。
5号地土- 4	磁 器	(11.4)	4.4	5.7	染付。碗。肥前。1700~1780年代。厚手。外面草花文。高台銘有。畳付に砂熔着。
5号地土- 5	磁 器	9.8	4.0	4.8	染付。碗。肥前。1700~1780年代。高台径小さい。外面若松文。内外釉面に細かい貫入が入る。
5号地土- 6	陶 器	-	-	-	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c。胎土は灰色。内面銅緑釉、見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。高台に砂目痕。
5号地土- 7	陶 器	12.2	6.8	3.2	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は淡黄白色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で梅花文。内外面灰釉、高台無釉。目痕内面3ヶ所。
5号地土- 8	陶 器	9.8	4.1	5.1	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は淡灰褐色。外面の一部に、呉須・鉄流しかけ。内外面灰釉、高台無釉。
5号地土- 9	陶 器	11.2	5.2	7.6	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
5号地土-10	陶 器	11.2	5.2	8.0	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
5号地土-11	陶 器	11.2	5.1	7.6	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
5号地土-12	陶 器	12.1	5.1	7.6	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
5号地土-13	陶 器	11.5	4.8	7.7	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉，高台無釉。
5号地土-14	陶 器	11.8	4.8	8.2	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰白色。外面は削りによる整形。内外面灰釉，高台無釉。
5号地土-15	陶 器	(13.0)	(6.1)	8.8	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面高台内外灰釉，高台無釉。
5号地土-16	陶 器	(12.0)	(5.4)	10.0	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉，高台無釉。
5号地土-17	陶 器	—	6.7	—	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内外面灰釉，高台無釉。
5号地土-18	陶 器	9.3	3.0	5.4	碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は黄白色。外面，呉須・鉄でそば花文。内外面透明釉，高台無釉。
5号地土-19	陶 器	(9.9)	3.0	5.9	碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は灰白色。外面，呉須・鉄で竹文。内外面透明釉，高台無釉。
5号地土-20	陶 器	(11.2)	5.0	5.4	碗。産地不明。18c～幕末。胎土は褐色で土師質。削りによる整形。全体に黒色低火度釉を施す。目痕高台3ヶ所。
5号地土-21	陶 器	8.8	4.0	5.8	碗。産地不明。18c～19c前半。胎土は灰色で焼きしめる。外面は削りによる整形。畳付以外錆釉。
5号地土-22	陶 器	(10.0)	(5.8)	6.6	碗。産地不明。18c～19c前半。胎土は灰褐色。高台内窪む。内外面に，白化粧を施した後，透明釉。貫入する。高台無釉。外面白・赤・黒で松文・角印文上絵付け。
5号地土-23	陶 器	9.5	5.8	6.8	碗。産地不明。18c～19c前半。胎土は黄白色。外面，鉄で梅花文・漢詩文「梅風香」。内外面透明釉，高台無釉。口錆。高台内墨書有。
5号地土-24	陶 器	9.4	5.2	6.8	碗。産地不明。18c～19c前半。胎土は灰白色。高台内窪む。内外面白化粧。外面，鉄で花文・漢詩文「黄金断吐花」。内外面透明釉，高台無釉。口錆。
5号地土-25	陶 器	(20.2)	8.0	5.9	鉢。瀬戸美濃。18c。胎土は灰白色。内外面灰釉，高台無釉。見込蛇の目釉剥ぎ。見込に輪積み痕。
5号地土-26	陶 器	(21.8)	8.1	5.9	鉢。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は灰白色。内外面灰釉，高台無釉。見込蛇の目釉剥ぎ。見込に輪積み痕。
5号地土-27	陶 器	26.5	12.1	8.9	鉢。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は灰褐色。内面は波状文陰刻し，緑釉流しかけ。内外面灰釉。高台内外釉剥ぎ。目痕内面4ヶ所。
5号地土-28	陶 器	—	—	—	鉢。瀬戸美濃。18c。胎土は灰褐色。外面草束文陰刻。内外面灰釉，底裏無釉。
5号地土-29	陶 器	—	10.4	—	香炉? 京都? 18c。胎土は黄白色。器形は竹形。外面高台内低火度釉。口縁部は，焼成後打ち欠き，研磨される。底裏銘「青山」陰刻。
5号地土-30	陶 器	口径(9.2)	高2.7		蓋。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は淡黄褐色。下面に円形の切込み。上面灰釉。最大径9.4cm(推)。
5号地土-31	陶 器	5.6	4.1	1.5	蓋。丹波? 18c。胎土は褐色で，粒子粗いが焼きしめる。下面右回転糸切痕。上面，一部に透明釉施す。
5号地土-32	陶 器	10.1	4.7	2.2	燈明皿。瀬戸美濃。18c～19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。内面及び外面底部に重ね積み痕。煤付着。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
5号地土-33	陶 器	11.3	4.7	2.2	燈明皿。瀬戸美濃。18c～19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。内面及び外面底部に重ね積み痕。
5号地土-34	陶 器	3.3	—	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部5条の沈線帯残存。外面鉄釉。
5号地土-35	陶 器	3.7	—	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に5条の沈線帯。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
5号地土-36	陶 器	—	—	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面灰釉。
5号地土-37	陶 器	—	6.0	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書ベタ「工」。
5号地土-38	陶 器	—	6.6	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
5号地土-39	陶 器	—	7.0	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
5号地土-40	陶 器	—	6.2	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
5号地土-41	陶 器	—	7.0	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
5号地土-42	陶 器	—	( 8.6 )	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
5号地土-43	陶 器	—	7.6	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
5号地土-44	陶 器	—	( 8.3 )	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉛釉。底部釉ふきとり。底部墨書有。
5号地土-45	陶 器	—	7.3	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
5号地土-46	陶 器	—	8.6	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
5号地土-47	陶 器	—	10.5	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
5号地土-48	陶 器	3.1	10.6	27.2	徳利。志戸呂。18c。頸部鉄釉(梨子色)。胴部錆釉。
5号地土-49	陶 器	3.8	—	—	徳利。志戸呂。18c。頸部鉄釉(梨子色)。胴部錆釉。
5号地土-50	陶 器	—	12.0	—	徳利。志戸呂。18c。胴部錆釉。
5号地土-51	陶 器	—	11.3	—	徳利。志戸呂。18c。胴部錆釉。底部に巨大な気泡が入る。
5号地土-52	陶 器	—	( 14.0 )	—	播鉢。信楽系。胎土灰色。櫛目は5本1単位。内外面下部窯詰痕。外面指頭調整痕。
5号地土-53	陶 器	( 35.2 )	12.6	17.3	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。口縁端部に縁帯。櫛目は16本1単位を12単位。鉄釉。内面磨滅。底面糸切痕と胎土目痕。外面下半ヘラケズリ。
5号地土-54	陶 器	( 35.8 )	—	—	播鉢。備前系。胎土赤褐色。口縁3本沈線の縁帯と1本沈線の突帯。櫛目は9本1単位。内面磨滅。
5号地土-55	土 器	口径 a 6.4	高 1.8		焼塩壺。蓋 IIb 類。内面粗い布目痕。口径 b 8.0 cm。
5号地土-56	土 器	口径 a 7.0	高 2.0		焼塩壺。蓋 IIb 類。内面粗い布目痕。口径 b 8.2 cm。
5号地土-57	土 器	a 6.2	5.4	7.5	焼塩壺。身 B2 類。内面赤化と布目痕。底面指頭圧痕。外面剝落。口径 b 7.1 cm。
5号地土-58	土 器	a(5.8)( 5.6)	9.2		焼塩壺。身 B1 類。内面布目痕。底面指頭圧痕。口径 b 7.4 cm (推)。
5号地土-59	土 器	( 9.0)	4.8	1.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
5号地土-60	土 器	( 10.9)	5.5	2.2	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
5号地土-61	土 器	11.2	5.5	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
5号地土-62	土 器	11.2	5.5	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。内外面口縁部に、暗褐色顔料の痕跡(銀色塗彩?)。煤付着。
5号地土-63	土 器	( 11.4)	6.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
5号地土-64	土 器	( 11.4)	6.4	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
5号地土-65	土 器	11.7	6.1	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。二次的に被熱。
5号地土-66	土 器	11.8	5.8	2.2	かわらけ。胎土に金雲母含。底部回転糸切(左)。煤付着。
5号地土-67	土 器	( 12.5)( 6.4)	2.7		受付燈明皿。底部回転糸切(方向不明)。表面摩耗。



遺物番号	種別	計測値	特 徴
5号地土-68	土器	(12.8)(6.8) 2.7	受付燈明皿。底部回転糸切(方向不明)。表面摩耗。
5号地土-69	土器	口径28.9 高(5.3)	焙烙。土師質。蓋。内外面一部煤付着。外面平坦部ちぢれ目。
5号地土-70	土器	(31.6)(31.7) -	焙烙。土師質。外面煤付着。口縁下部にヘラケズリ。内耳有。底面ちぢれ目。
5号地土-71	土器	31.2 31.3 7.9	焙烙。土師質。外面と内底面に煤付着。内面底カマ印「⊖」。口縁下部にヘラケズリ。内耳有。底面ちぢれ目。
5号地土-72	土器	32.4 32.6 8.6	焙烙。土師質。外面と内面底に煤付着。口縁下部にヘラケズリ。内耳有。底面ちぢれ目。
5号地土-73	土器	- 10.8 -	灰落し。瓦質。回転印刻文(短糸目文)。
5号地土-74	土器	(21.7)(15.8) -	火鉢。土師質。内面火箸痕。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。
5号地土-75	土器	(29.6)(22.0) -	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。口唇部に煤付着と敲打痕。内面火箸痕。底面ちぢれ目。
5号地土-76	土器	長軸20.1 高5.4	七厘の風口部分。土師質。底面ちぢれ目。短軸 a 8.1, b 12.5 cm。
5号地土-77	土製品		猿の人形? 型押成形。内部中空。内面ナデ調整。背に径約2.5 cmの窓状の穴有。外面金色塗彩。火入の可能性有。
5号地土-78	瓦		軒平瓦。均整唐草文。
5号地土-79	瓦		軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。
5号地土-80	石製品	長- 幅4.1 厚2.1	砥石。流紋岩。荒砥。砥面表裏面と両側面。右側面に表裏面方向の溝状擦痕。両端部は破損後再調整。重量75 g。
5号地土-81	石製品	長- 幅- 厚-	茶臼。閃緑岩。二次的に被熱。研磨整形。
5号地土-82	鉄製品		鎌。柄上部に輪。下部両面に輪状突起。腐食ひどく、鏽厚い。刃部残長17.2 cm, 棟厚0.6 cm, 茎長8.5 cm, 茎幅2.5 cm。
5号地土-83	骨角製品	残長12.4 幅0.4	簪状製品。棒状で、断面は方形を呈する。両側の先端は次第に細くなる。
5号地土-84	銅製品		煙管。雁首。薄手。(後方から見て)右巻き。ろう接左側。腐食のため、灰叩き部後端で切断、ろう接開く。
5号地土-85	銅製品		煙管。吸口。腐食ひどく、ろう接不明。端部鏽厚く原形不明。羅字結合部板状につぶれる。
5号地土-86	銅製品		煙管。吸口? 端部、羅字結合部にはめ込み。共に(後方から見て)右巻き。腐食ひどく、端部欠損。
5号地土-87	銅製品		新寛永(延宝亀戸銭細字文無背)。1674年初鑄。背カツ縁。腐食ひどく、銭文判読困難。
5号地土-88	銅製品		新寛永(四ツ宝銭:宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。摩耗・腐食のため、銭文判読困難。歪む。
5号地土-89	銅製品		新寛永(四ツ宝銭:宝永亀戸銭跳永)。1708年初鑄。腐食ひどく、銭文判読困難。外輪部一部欠損。
5号地土-90	銅製品		新寛永(元文平野新田銭十万坪手)。1739年初鑄。永・通字含む1/2残欠品。腐食進行。
6号地土-1	磁器	(21.8)(12.6) 3.1	染付。皿。肥前。1690~1750年代。内面蝶文。外面無文。ハリ支え。
6号地土-2	磁器	21.2 14.8 3.6	染付。皿。肥前。1690~1750年代。内面、体部松竹梅文、見込五弁花。外面体部唐草文。高台銘、二重方形枠内に渦福字。ハリ支え。二次的に被熱。
6号地土-3	磁器	13.0 8.1 3.4	染付。皿。肥前。1690~1750年代。内面梅花に花籠文。外面体部、唐草文。高台内に一重圏線。ハリ支え。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
6号地土-4	磁器	13.2	8.0	3.1	染付。皿。肥前。1690~1750年代。内面体部，墨弾きによる捺花文。見込印判五弁花。外面体部，唐草文。高台内一重圈線。ハリ支え。同一文様5個体以上有。
6号地土-5	磁器	13.2	7.8	3.5	染付。皿。肥前。1690~1750年代。内面体部，唐草文。見込印判五弁花。外面体部，唐草文。高台内一重圈線。内外外面に貫入が入る。畳付に砂熔着。同一文様3個体以上有。
6号地土-6	磁器	(24.3)(15.0)		4.1	染付。皿。肥前。1690年代~18c初。口縁部輪花。内面鷺文。外面体部，唐草文。高台内一重圈線。ハリ支え。
6号地土-7	磁器	(21.3)(12.6)		3.9	染付。皿。肥前。1690年代~18c初。内面鮎文。外面体部唐草文。高台内一重圈線，銘有。二次的に被熱。
6号地土-8	磁器	13.0	7.2	3.7	染付。皿。肥前。1690年代~18c初。陶胎。口縁部輪花。白化粧。内面体部鳳凰文。見込印判龍文。外面体部鳳凰文。内面釉面に貫入が入る。同一文様3個体以上有。
6号地土-9	磁器	(21.0)(11.8)		7.2	染付。鉢。肥前。1690~1750年代。内面草文。外面唐草文。外面釉に貫入が入る。二次的に被熱。
6号地土-10	磁器	16.6 ( 8.6)		5.9	白磁。鉢。肥前。1680~1690年代。口縁部輪花。型打整形。高台内に放射状の削り痕。内面体部に型打による菊花文，唐草文，算木文。高台内一部無釉。口鏝。二次的に被熱。
6号地土-11	磁器	(10.9)( 5.1)		6.3	染付。碗。肥前。1690~1750年代。外面体部，柳に雁文。高台脇に一重，高台部に二重圈線。高台内一重圈線。
6号地土-12	磁器	( 7.5)	3.6	5.3	白磁。そば猪口。肥前。1690~1750年代。釉は青味を帯びる。
6号地土-13	磁器	( 6.3)	-	-	染付。仏飯器。肥前。1690~1750年代。外面体部に圈線と印判桐文。
6号地土-14	磁器	蓋:口径(11.0) 身:(12.4)(8.4)	-	-	白磁。蓋物。肥前。17c後半~18c前半。口唇部釉剥ぎ。底部，蓋かえり部無釉。二次的に被熱。蓋最大径12.6cm(推)。
6号地土-15	磁器	蓋:口径(9.6) 高2.7 身:(9.8)(5.7)	-	-	染付。蓋物。肥前。17c後半~18c前半。外面に4~6条を一単位とする染付線と施文。口唇部釉剥ぎ。蓋かえり部無釉。二次的に被熱。蓋最大径10.6cm(推)。
6号地土-16	磁器	( 7.8)( 6.0)		12.7	染付。壺。肥前。1690~1750年代。外面山水文。外面釉に貫入が入る。口唇部釉剥ぎ。蓋かえり部無釉。二次的に被熱。
6号地土-17	陶器	12.5	4.6	3.7	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は灰白色。内面銅緑釉，見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。高台に4ヶ所，蛇の目部に2ヶ所の砂目痕。二次的に被熱。
6号地土-18	陶器	12.4	4.3	3.4	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は灰色。内面銅緑釉，見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。高台に3ヶ所，蛇の目部に2ヶ所の砂目痕。
6号地土-19	陶器	12.8	5.2	3.8	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は灰色。内面銅緑釉，見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。二次的に被熱?
6号地土-20	陶器	12.2	4.5	3.8	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は灰白色。内面銅緑釉，見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。蛇の目部に1ヶ所の砂目痕。二次的に被熱?
6号地土-21	陶器	13.6	4.8	3.6	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は淡黄褐色。内面銅緑釉，見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。高台に1ヶ所，蛇の目部に3ヶ所の砂目痕。
6号地土-22	陶器	13.6	4.8	3.8	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は淡黄褐色。内面銅緑釉，見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。高台と蛇の目部に4ヶ所ずつ砂目痕。

遺物番号	種別	計測値			特徴
6号地土-23	陶器	—	4.6	—	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は灰色。内面銅緑釉,見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。二次的に被熱?
6号地土-24	陶器	—	4.6	—	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は淡黄褐色。内面銅緑釉,見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。蛇の目部に4ヶ所砂目痕。
6号地土-25	陶器	10.4	4.1	6.8	碗。肥前。17c末~18c中葉。胎土は灰赤褐色。内外面とも白土を用いて,外面高台脇・高台内・見込に刷毛目を施し,内外面とも,上半は半円形を描いた上に透明釉。二次的に被熱。
6号地土-26	陶器	12.0	4.7	7.2	碗。肥前? 17c後半~18c前半。胎土は淡灰褐色。畳付を除き灰釉。
6号地土-27	陶器	(11.4)	—	—	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。胴部中ごろ,4条の沈線帯施し,一ヶ所を窪ませる。外面口縁部以外に鉄釉,口縁部から内面に灰釉を施す。部分的に長石釉を水滴状に施す。
6号地土-28	陶器	—	10.4	—	壺。信楽。17c~18c。胎土は灰白色で焼きしまる。肩部耳3個貼付。外面鉛釉。上半に鉄釉・緑釉流しかけ。底部無釉。
6号地土-29	陶器	(32.9)(12.0)(10.0)			三島手。鉢。肥前。17c後半~18c。胎土は赤褐色。内面は白土で象嵌を施した上に透明釉。外面は鉄泥を施した上に上半だけ透明釉。見込に4ヶ所,高台に4ヶ所の胎土目痕。
6号地土-30	陶器	5.6	3.4	3.1	餌入? 瀬戸美濃。17c~18c。胎土は淡灰褐色。底裏に右回転糸切り痕。内外面灰釉,底部無釉。
6号地土-31	陶器	8.0	6.3	4.4	香炉。瀬戸美濃。17c後半~18c前半。胎土は淡灰褐色。底部足3個貼付。外面・口縁部鉄釉。底部無釉。
6号地土-32	陶器	口径(8.9)	高2.1		蓋。産地不明。17c後半~18c。胎土は灰色。上面灰釉。最大径10.2cm(推)。
6号地土-33	陶器	3.1	7.9	21.3	德利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉。底部釉ふきとり。釘書線刻「吉」。
6号地土-34	陶器	3.6	7.7	—	德利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。二次的に被熱。
6号地土-35	陶器	—	(7.6)	—	德利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。二次的に被熱。
6号地土-36	陶器	3.2	8.4	—	德利。備前。17c後半~18c前半。胴部上半は糸目。外面自然釉。底部刻印「△」。二次的に被熱。
6号地土-37	陶器	4.2	—	—	德利。志戸呂。18c前半。頸部鉄釉。二次的に被熱。
6号地土-38	陶器	3.6	11.6	—	德利。志戸呂。18c前半。頸部鉄釉。二次的に被熱。
6号地土-39	土器	口径a	7.1	高2.3	焼塩壺。蓋IIa類。内外面一部赤化。内面密な布目痕。口径b 7.9cm。
6号地土-40	土器	口径a(6.1)	高1.8		焼塩壺。蓋IIc類。内面粗い布目痕。口径b 7.1cm(推)。
6号地土-41	土器	口径a	6.8	高2.2	焼塩壺。蓋IIb類。内面粗い布目痕。口径b 8.0cm。
6号地土-42	土器	(9.0)(5.3)	1.8		かわらけ。底部回転糸切(左)。二次的に被熱。
6号地土-43	土器	(12.2)(6.2)	2.4		かわらけ。底部回転糸切(左)。
6号地土-44	土器	(28.7)(28.3)	7.3		焙烙。土師質。外面底に煤付着。内面底カマ印「熊」または「態」か。口縁下部にヘラケズリ。内耳有。底面ちぢれ目。
6号地土-45	土器	(25.8)	—	—	火鉢。土師質。内面指頭調整痕。
6号地土-46	土製品	径2.1	厚0.6		碁石。手づくね成形。周縁一部欠損。
6号地土-47	土製品	径2.0	厚0.6		碁石。手づくね成形。白色塗彩?
6号地土-48	土製品	径2.2	厚0.6		碁石。手づくね成形。黒色塗彩?
6号地土-49	土製品	径2.0	厚0.7		碁石。手づくね成形。
6号地土-50	土製品	径2.3	厚0.8		碁石。手づくね成形。表面摩耗。鉄錆付着。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
6号地土-51	土製品	径 2.2 厚 0.6	基石。手づくね成形。一部欠損。
6号地土-52	瓦		軒丸瓦。剣梅鉢紋。53と同範。
6号地土-53	瓦		軒丸瓦。剣梅鉢紋。52と同範。
6号地土-54	石製品	長 幅 4.5 高 2.2	硯。粘板岩。長方硯。陸部に長軸方向の擦痕。硯背のえぐり部に「上口高嶋石」の線刻。
6号地土-55	石製品	長 幅 6.2 高 1	硯。粘板岩。長方硯。陸部に長軸方向の擦痕。墨道に凹状の磨減。硯側面取り。硯背平坦。
6号地土-56	石製品	長 幅 6.0 高 3.0	砥石。流紋岩。荒砥。砥面表裏面と両側面。裏面に長軸方向の擦痕。右側面に端部方向の溝状擦痕。下端部は破損後再調整。重量 195 g。
6号地土-57	石製品	長 幅 厚 5.4	砥石。流紋岩。荒砥。砥面表面と端部。右側面に直線状の整形痕。重量 195 g。
6号地土-58	石製品	長 12.2 幅 2.0 厚 1	砥石。泥岩。仕上げ砥。二次的に被熱して赤化。砥面表裏面の先端部と左側面。左側面表裏面方向の擦痕。右側面・端部に直線状の整形痕。面取り。重量 40 g。
6号地土-59	石製品	径(2.1) 厚 1.9	用途不明。長石? 二次的に被熱。球形。中央に穿孔。研磨整形。装飾用の珠か。
6号地土-60	鉄製品		和鋏。錆厚い。片面に畳? 付着。畳は炭化。最大幅 2.4 cm, 最大長 8.1 cm, 厚さ 0.2 cm。
6号地土-61	鉄製品		用途不明。錆付着。表面一部炭化物溶着。最大幅 2.2 cm, 最大長 4.1 cm, 厚さ 0.3 cm。
6号地土-62	銅製品	径 0.2	鎖。ねじれ不規則。最上部結接点錆で固着。両端ねじられる。
6号地土-63	銅製品		切羽。腐食進み、両面錆付着。長径 4.2 cm, 短径 2.3 cm, 内径 0.7 cm。
6号地土-64	銅製品		蝶番? 腐食進行し、錆付着。歪む。最大幅 1.4 cm, 最大長 4.1 cm, 厚さ 0.1 cm。
6号地土-65	銅製品	最大径 2.2 長 1.6	つまみ? 腐食進行し、葉部大半欠損。
6号地土-66	銅製品	長 0.9 頭幅 0.7	太鼓鋏。腐食ひどく、脚部欠損。約 3 分。
6号地土-67	銅製品		新寛永(四ツ宝銭:宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。背、カッ縁・広郭。腐食浅い。
6号地土-68	銅製品		新寛永(四ツ宝銭:宝永亀戸銭ケイ永広寛)? 1708年初鑄。背広郭。腐食のため銭文判読困難。
7号地土-1	磁器	- - -	白磁。皿。肥前。17c後半。口縁部輪花。型打整形。内面体部に型打による花唐草文。70号土坑-1と同一個体?
7号地土-2	磁器	- 7.2 -	染付。鉢。肥前。18c前半~中葉。型打整形。高台脇から屈曲して立ち上がる器形。見込牡丹文。外面、下端に幾何学文様有、高台銘「富貴長春」。
7号地土-3	磁器	(13.5)(7.5) 3.8	染付。皿。肥前。1700~1780年代。口縁部輪花。口縁部外反。内面体部唐草文。見込梅枝文。外面体部唐草文。高台銘、二重方形枠内に渦福字。釉は青味を帯び、具須の線はにじんでいる。畳付に砂熔着。
7号地土-4	磁器	(11.6)(5.0) 6.4	染付。碗。肥前。1640~1650年代。胎土は黄色味を帯びる。外面体部柳文、口縁部雷文。内外面に貫入が入る。
7号地土-5	磁器	7.4 6.0 6.5	染付。小鉢。肥前。17c後半。体部八角形。型打整形。外面に、壽字と、渦文を地文とした梅花文を、交互に配す。高台内二重圈線。畳付に砂熔着。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
7号地土-6	磁器	8.1	4.6	7.1	染付。碗。瀬戸美濃系? 1820年代~幕末。胎土は透明感がある。外面、舟に山水文、漢文「是□」, 高台内一重圈線。内面口縁部文様有。
7号地土-7	磁器	口径(5.3)	高1.8		白磁。蓋。肥前。18c~幕末。かえり部無釉。最大径6.4cm(推)。
7号地土-8	陶器	(12.3)(6.0)	2.8		皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は灰色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で草文。内外面灰釉, 高台無釉。目痕内面1ヶ所。
7号地土-9	陶器	11.3	4.2	3.5	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は淡黄褐色。内面銅緑釉, 見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。
7号地土-10	陶器	(16.8)	-	-	皿。産地・時期不明。胎土は橙褐色で土師質? 外面に鉄で斜線文。全体に低火度釉。二次的に被熱。
7号地土-11	陶器	-	(11.4)	-	三島手。鉢。肥前。18c。胎土は暗赤褐色。内面は白土で象嵌を施した上に透明釉。内面見込に3ヶ所, 高台に2ヶ所以上の砂胎土目痕。
7号地土-12	陶器	11.1	4.2	5.4	碗。産地不明。18c~19c前半。胎土は淡黄褐色。胴部上半に, 鉄・白泥で蔦文。内外面透明釉, 高台無釉。目痕内面2ヶ所。
7号地土-13	陶器	-	5.0	-	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
7号地土-14	陶器	-	4.0	-	碗。肥前。17c後半~18c中葉。胎土は黄褐色。内外面とも白泥の刷毛目を施した上に透明釉。
7号地土-15	陶器	33.8	15.2	9.3	鉢。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。内面, 鉄で曲線文。内外面に灰釉を施し, 高台内釉剥ぎ。目痕, 内面及び畳付に2ヶ所。
7号地土-16	陶器	(6.7)	6.2	10.4	壺。瀬戸美濃。18c。胎土は淡灰褐色。外面は削りによる整形。肩部に耳一對貼付。内外面鉄釉だが, 内面は薄い。高台無釉。
7号地土-17	陶器	(14.0)(7.1)	13.8		土鍋。産地・時期不明。胎土は灰色で焼きしまる。注口貼付。かえり部及び底部以外錆釉。目痕内面2ヶ所。底部スス付着。
7号地土-18	陶器	3.7	-	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
7号地土-19	陶器	3.4	-	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。
7号地土-20	陶器	-	7.5	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
7号地土-21	陶器	-	12.0	-	徳利。志戸呂。18c。外面錆釉。側面墨書。
7号地土-22	陶器	-	-	-	播鉢。備前系。胎土赤褐色。口縁2本沈線の縁帯と1本沈線の突帯。櫛目は9本1単位。内面磨減。
7号地土-23	土器	a-	6.6	-	焼塩壺。身B類。内外面赤化。「泉州磨生サカイ御塩所」銘か。
7号地土-24	土器	(7.6)	4.0	1.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。
7号地土-25	土器	(7.7)	3.9	1.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。
7号地土-26	土器	8.1	4.1	1.5	かわらけ。底部回転糸切(左), 墨書「大」。
7号地土-27	土器	10.1	4.7	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。二次的に被熱。
7号地土-28	土器	(10.3)(4.9)	1.8		かわらけ。底部回転糸切(左)。
7号地土-29	土器	(11.2)	6.4	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
7号地土-30	土器	(13.8)	7.2	2.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
7号地土-31	土器	(29.6)	-	-	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。内外面一部煤付着。内面に火箸痕と指頭調整痕。外面ヘラミガキ。
7号地土-32	石製品	長9.2 幅1.4 高0.8			砥石。泥岩。仕上げ砥。二次的に被熱して赤化。砥面表面と上端部。表面斜方向の擦痕。両側面・下端部に直線状の整形痕。面取り。重量20g。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
7号地土-33	土 器	(46.0)	-	-	火鉢。土師質。口縁部~外面へラミガキ。
7号地土-34	銅製品				煙管。吸口。肉厚(後方から見て)左巻き。腐食進行。
7号地土-35	銅製品	長 4.7	径 0.2		線。3つ折り。腐食進行。両端欠損?
7号地土-36	銅製品	長 3.5	頭幅 0.5		頭巻釘。腐食のため表面一部剥落, 先端欠損。約1寸。
7号地土-37	銅製品				用途不明。2枚の銅版(上厚く, 下薄い)を貼り合わせる。表面工具痕? 多数。腐食浅い。長径1.7cm, 短径1.0cm, 厚さ0.3cm。
7号地土-38	銅製品				北宋銭(天聖元宝真書)。循読。1023年初鑄。模鑄銭か。肥字。腐食浅い。
7号地土-39	銅製品				古寛永(芝銭不草点?)。1636年初鑄。肥字。腐食浅い。
7号地土-40	銅製品				新寛永(文銭:寛文亀戸銭正字)。1668年初鑄。肥字。背カツ縁。腐食進み, 背文判読困難。
7号地土-41	銅製品				新寛永(文銭:寛文亀戸銭中字)。1668年初鑄。背カツ縁。腐食浅い。
7号地土-42	銅製品				新寛永(不旧手:享保十万坪銭小目宝)。1726年初鑄。カツ縁。腐食浅い。
7・8号地土-1	磁 器	-	-	-	呉須赤絵。皿。中国。17c前半。胎土は灰褐色。内面色絵(赤)。
7・8号地土-2	磁 器	(10.6)	(5.6)	2.2	白磁。皿。肥前。1670~1690年代。型打整形。薄手。4号地下式土坑より同種の破片が一片出土。
7・8号地土-3	磁 器	-	-	-	染付。皿。肥前。1680~1690年代。口縁部輪花。型打整形。内面体部, 花唐草文。外面体部, 唐草文。
7・8号地土-4	磁 器	13.3	7.1	3.2	染付。皿。肥前。1700~1780年代。胎土は灰色。内面体部唐草文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圏線。畳付に砂熔着。
7・8号地土-5	磁 器	9.8	3.5	4.7	染付。碗。肥前。18c中葉~1780年代。高台径小さい。外面秋草文。呉須の発色は淡い青。
7・8号地土-6	磁 器	(8.9)	(5.4)	6.2	染付。そば猪口。肥前。1690~1780年代。外面草文。高台内一重圏線。
7・8号地土-7	磁 器	-	(4.3)	-	染付。小鉢。肥前。1680~1690年代。体部八角形? 型打整形。口縁部外反。外面草花文。内面口縁部文様有。見込五弁花。高台内一重圏線。高台銘, 二重方形枠内に渦福字?
7・8号地土-8	磁 器	-	-	-	染付。小鉢。肥前。1680~1690年代。体部は方形。型打整形。外面唐花文。口鏝。
7・8号地土-9	磁 器	口径(13.5) 最大径(15.6)			青磁。蓋。肥前。17c後半~18c。上面青磁釉。内面透明釉。かえり部無釉。二次的に被熱。
7・8号地土-10	陶 器	(13.4)	(8.0)	3.6	皿。京都? 時期不明。胎土は燈褐色で土師質。全体に低火度釉。二次的に被熱。
7・8号地土-11	陶 器	-	4.3	-	碗。肥前。17c後半~18c中葉。胎土は黄褐色。内外面, 高台内とも白泥で刷毛目。畳付を除き透明釉。
7・8号地土-12	陶 器	(8.5)	3.7	6.8	碗。産地・時期不明。胎土は暗褐色で焙器質。外面白泥で礫文を施す。内外面鏝釉, 高台無釉。
7・8号地土-13	陶 器	(11.8)	(6.2)	8.2	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は淡灰褐色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
7・8号地土-14	陶 器	(9.4)	3.0	5.6	碗。産地不明(信楽?)。18c~19c前半。胎土は灰白色で焼きしまる。外面上半, 鉄・呉須・白泥で七宝繫文。内外面透明釉。高台無釉。目痕, 内面3ヶ所。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
7・8号地土-15	陶器	—	7.0	—	壺。肥前。17c後半～18c。胎土は黄褐色。外面白泥で刷毛目後、外面・高台内透明釉。畳付に砂熔着。
7・8号地土-16	陶器	—	6.2	—	壺。瀬戸美濃。18c。胎土は淡黄褐色。外面は削りによる整形。肩部耳一対貼付。内外面鉄釉だが、内面は薄い。高台無釉。口縁部打ち欠き。
7・8号地土-17	陶器	口径 3.2	高 1.3		蓋。産地・時期不明。胎土は淡褐色。つまみ貼付。外面鉄釉を雑に施す。
7・8号地土-18	陶器	2.5	—	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。
7・8号地土-19	陶器	2.4	—	—	徳利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に4条の沈線帯。外面鉄釉。
7・8号地土-20	陶器	—	11.3	—	徳利。志戸呂。18c。外面鉄釉。胴部墨書「□屋/□衛/□坂/□屋/□衛」, 底部墨書「森」。
7・8号地土-21	陶器	—	13.2	—	徳利。志戸呂。18c。外面錆釉。胴部墨書「□屋」, 底部墨書「合」。
7・8号地土-22	土器	a(6.3)	—	—	焼塩壺。身B類。刻印枠有るが銘不明。内面布目痕。外面剥落。口径b 7.8 cm (推)。
7・8号地土-23	土器	口径 a 6.7	高 2.3		焼塩壺。蓋 II b 類。内面粗い布目痕。口径b 8.2 cm。
7・8号地土-24	土器	口径 a(7.1)	高 1.8		焼塩壺。蓋 II b 類。外面赤化。内面に粗い布目痕と煤全面付着。口径b 8.1 cm (推)。
7・8号地土-25	土器	5.7	2.6	1.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。
7・8号地土-26	土器	7.9	4.0	1.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。
7・8号地土-27	土器	(8.8)	3.8	1.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。
7・8号地土-28	土器	19.8	11.8	3.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。
7・8号地土-29	土器	12.4	6.6	2.6	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。
7・8号地土-30	土器	(27.3)(20.8)	10.3		火鉢。土師質。外面赤色塗彩。内面灰付着と火箸痕。口唇部敲打痕。底面ちぢれ目。
7・8号地土-31	土器	—	(21.8)	—	風炉。土師質。内面火箸痕。外面ヘラミガキ。
7・8号地土-32	石製品	長 13.3	幅 4.6	厚 2.0	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表面。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量 165 g。
7・8号地土-33	石製品	長 —	幅 —	厚 1.7	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表面・左側面と裏面・右側面の上半部。左側面各方向の擦痕。右側面・端部に直線状の整形痕と面取り。破損品の再利用。重量 10 g。
7・8号地土-34	銅製品				煙管。雁首。(後方から見て)右巻き。ろう接左側。腐食のため、火皿欠損。
7・8号地土-35	銅製品				煙管。吸口。(後方から見て)右巻き。腐食ひどく、両端欠損。羅字結合部つぶれる。
7・8号地土-36	銅製品	長 1.6	頭幅 0.4		太鼓鋳。腐食浅い。約5分。
7・8号地土-37	銅製品	長 1.1	残頭幅 1.0		太鼓鋳。腐食のため、頭部周縁一部剥落。約5分。
7・8号地土-38	銅製品	外径 0.8	内径 0.4		用途不明。ワッシャー状金具。突起根元で曲がる。腐食進行。
7・8号地土-39	銅製品	4.2	4.0	2.3	容器。一端折り返した銅版を環状にし、接合部補強。底部はめ込む。腐食ひどく、内部多量の屑。
7・8号地土-40	銅製品	—	—	0.5	皿または容器底部。破片。腐食ひどい。歪む。
7・8号地土-41	ガラス製品				緑。容器一部。発泡が認められる。二次的に被熱?
7・8号地土-42	銅製品				北宋銭(熙寧元宝真書)。循読。1068年初鑄。模鑄銭か。腐食ひどく、銭文判読困難。
7・8号地土-43	銅製品				明銭(永樂通宝)。対読。1411年初鑄。模鑄銭か。肥字。腐食進行。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
7・8号地土-44	銅製品				古寛永(鳥越銭高足寛?)。1656年初鑄。背、カツ縁・広郭。腐食ひどく、銭文判読困難。
7・8号地土-45	銅製品				古寛永(沓谷銭正足宝?)。1656年初鑄。肥字。背カツ縁・広郭。腐食進行。
7・8号地土-46	銅製品				新寛永(文銭:寛文亀戸銭正字)。1668年初鑄。背カツ縁。腐食浅い。
7・8号地土-47	銅製品				新寛永(文銭:寛文亀戸銭正字)。1668年初鑄。寛・通字含む1/2残欠品。
7・8号地土-48	銅製品				新寛永(延宝亀戸銭細字小文無背)。1674年初鑄。カツ縁。腐食進行。
7・8号地土-49	銅製品				新寛永(京都萩原銭:元禄七条銭草点永)。1700年初鑄。織字。腐食進行。
7・8号地土-50	銅製品				新寛永(京都萩原銭:元禄七条銭草点永)。1700年初鑄。腐食のため、通字上半含む1/4欠損。
7・8号地土-51	銅製品				新寛永(四ツ宝銭:宝永亀戸銭広永)。1708年初鑄。腐食進行。
7・8号地土-52	銅製品				新寛永(四ツ宝銭:宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。腐食のため、銭文判読困難。
7・8号地土-53	銅製品				新寛永(四ツ宝銭:宝永亀戸銭ケイ永広寛)。1708年初鑄。腐食ひどく、銭文判読困難。
7・8号地土-54	銅製品				新寛永(丸屋銭:正徳亀戸銭)。1714年初鑄。肥字。腐食進行。
7・8号地土-55	銅製品				新寛永(丸屋銭:正徳亀戸銭)。1714年初鑄。織字。背カツ縁。腐食進行。
7・8号地土-56	銅製品				新寛永(不旧手:享保七条銭退永)。1726年初鑄。背カツ縁。腐食進行。
1号土坑- 1	磁 器	-	-	-	染付。皿。肥前。1630~1640年代。口縁部折縁。内面口縁部に唐草文。釉は青味を帯び、外面に貫入が入る。
1号土坑- 2	磁 器	-	( 8.8)	-	染付。皿。肥前。1650年代頃。型打整形。見込幾何学文。高台銘「□明成□□□」。釉むら有。外面釉に貫入が入る。畳付に砂熔着。
1号土坑- 3	磁 器	(24.2)	(16.8)	4.0	染付。皿。肥前。17c後半。見込、草花文・鳳凰文。見込周囲雷文。内面体部唐草文。外面体部花草唐文。高台内一重圏線。口鏝。ハリ支え。
1号土坑- 4	磁 器	-	(17.0)	-	色絵。鉢。古丸谷様式。見込周囲を削り込み浅い段を作り出す。段部に染付二重圏線。内面体部に染付線で丸文を描き、色絵付を施す。見込色絵。高台脇から高台部にかけて染付二重圏線。高台内には、高台寄りに一重、中央寄りに二重圏線。高台内釉面に手跡。畳付の整形は内外面に鋭い釉削りを行っている。
1号土坑- 5	磁 器	27.2	13.2	5.6	青磁。皿。肥前。17c後半。口縁部折縁。見込に花文・見込周囲に雷文・内面体部に葉文を線彫。高台内は蛇の目釉剥ぎし、鉄を塗る。チャツの熔着痕有。
1号土坑- 6	磁 器	6.0	3.0	3.5	染付。碗。肥前。1650年代頃。外面体部染付文様有。畳付に砂熔着。
1号土坑- 7	磁 器	9.8	4.4	6.1	染付。碗。肥前。1650~1670年代。胎土は灰色味を帯びる。芙蓉手。外面、区画内に草花文。畳付に砂熔着。
1号土坑- 8	磁 器	8.9	4.2	5.2	染付。碗。肥前。1660~1670年代。外面雪輪文、芝文。高台銘「□徳□□」。同一文様2個体有。
1号土坑- 9	磁 器	(12.6)	-	-	染付。碗。肥前。1660~1670年代。外面網干文。



遺物番号	種別	計測値			特 徴
1号土坑-10	磁器	11.2	—	—	染付。碗。肥前。1660～1680年代。外面松竹梅文。内面口縁部一重圈線。
1号土坑-11	磁器	(11.8)	—	—	色絵。碗。肥前。1650～1660年代。外面は色絵(赤・緑)により、格子目文を地文として、白抜きで花を描く。
1号土坑-12	磁器	(5.8)	2.3	3.4	白磁。碗。肥前。1640～1660年代。底部は厚手。釉はやや青味を帯びる。内外釉面に貫入が入る。高台無釉。
1号土坑-13	磁器	(10.9)	(4.5)	5.8	白磁。碗。肥前。17c後半。口縁部やや外反。内外釉面に貫入が入る。
1号土坑-14	磁器	(7.8)	(4.2)	6.2	青磁。仏飯碗。肥前。17c後半。杯部内外面に青磁釉。脚部無釉。
1号土坑-15	磁器	—	—	—	色絵。鉢。肥前。1650～1670年代。内面、色絵(赤・黒・緑)により、幾何学文を地文とした花文。
1号土坑-16	磁器	(16.4)	(7.2)	7.5	染付。鉢。肥前。1660～1680年代。外面体部草花文。高台銘、方形枠内に福字。内面口縁部に一重圈線。見込、葡萄唐草文。
1号土坑-17	磁器	(17.3)	—	—	染付。鉢。肥前。17c後半。外面・土坡に草文。内面口縁部に一重圈線。
1号土坑-18	磁器	—	(8.2)	—	染付。鉢。肥前。1660～1680年代。芙蓉手。内外面とも区画内に草文。
1号土坑-19	磁器	2.2	(5.6)	19.3	瑠璃釉。瓶。肥前。1650～1670年代。外面は削りにより八角形に整形。蛇の目高台。高台無釉。
1号土坑-20	陶器	(12.5)	(6.7)	2.6	皿。瀬戸美濃。17c。胎土は灰色。全面灰釉。胎土目痕内面1ヶ所、底部1ヶ所。
1号土坑-21	陶器	(14.3)	(6.0)	2.9	皿。瀬戸美濃。17c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内面、蛇の目状に胎土を盛り、その部分無釉。内外面灰釉、高台無釉。
1号土坑-22	陶器	A:(12.2)	(6.6)	2.5	皿。瀬戸美濃。17c。胎土は黄白色。口縁部変形。内面銅(赤)を流しかけた後、内外面灰釉、高台無釉。
1号土坑-23	陶器	—	—	—	皿。京都? 17c～18c。胎土は黄白色。口縁部変形。内面、茶・黒の鉄で半円区画に斜線文。内外面透明釉。口鏝。
1号土坑-24	陶器	(11.0)	—	4.6	碗。肥前(内野山窯)。17c末～18c中葉。胎土は淡灰褐色。外面銅緑釉。内面透明釉。
1号土坑-25	陶器	(12.2)	(6.0)	6.7	碗。瀬戸美濃。17c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。畳付を除き鉄釉。内外面、口縁部から灰釉流しかけ。
1号土坑-26	陶器	—	—	—	碗。京都? 17c後半～18c。胎土は黄白色。口縁部変形? 内外面灰釉。外面、金・黒・赤で菊文上絵付け。
1号土坑-27	陶器	(12.8)	—	—	鉢。備前。17c。胎土は灰色で炆器質。胴部下半はロクロ目を強調する。内外面錆釉。
1号土坑-28	陶器	(13.8)	4.8	6.4	三島手。鉢。八代? 17c。胎土は黄褐色。外面にロクロ目痕。畳付に放射状の貝殻背圧痕。内面に白土で象嵌を施し、畳付を除き透明釉。
1号土坑-29	陶器	(7.4)	—	—	壺。備前? 17c。胎土は暗赤褐色で炆器質。外面頸部から肩部にかけて、ロクロ目を残す。外面錆釉で、内面に錆釉流れ込む。
1号土坑-30	陶器	(8.9)	(7.4)	5.6	香炉。瀬戸美濃。17c。胎土は黄白色。底部足2個貼付。外面・内面上半に灰釉。底部無釉。
1号土坑-31	陶器	11.2	5.9	2.6	燈明皿。瀬戸美濃。17c。胎土は黄褐色。内面中央、突起貼付。底部右回転糸切り痕。内外面鉄釉。底部無釉。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
1号土坑-32	陶器	-	-	-	壺。丹波? 17c。胎土は灰褐色で、層状の気泡が入る。内外面は削りによる調整。外面錆釉。内面は錆釉流れ込む。
1号土坑-33	陶器	-	(14.0)	-	壺。信楽。17c。胎土は灰白色で、長石粒混入。外面、上半鉄釉、下半透明釉。底部無釉。二次的に被熱。
1号土坑-34	陶器	(25.6)	(8.0)	11.2	播鉢。信楽系。胎土灰色。口縁断面三角形。櫛目は5本1単位。
1号土坑-35	陶器	(35.0)	13.0	13.6	播鉢。信楽系。胎土灰色。口縁端部に縁帯。櫛目は6本1単位を32単位。外面指頭調整痕。
1号土坑-36	陶器	-	(12.8)	-	播鉢。信楽系。胎土灰色。櫛目は7本1単位。内面磨滅。外面指頭調整痕。
1号土坑-37	陶器	-	-	-	播鉢。唐津か。胎土赤褐色。櫛目は9本1単位。口縁部に鉄釉。内面磨滅。
1号土坑-38	陶器	-	-	-	播鉢。信楽系。胎土灰色。口縁2本沈線の縁帯と流し口。櫛目は7本1単位。外面指頭調整痕。
1号土坑-39	土器	口径 7.0	高 1.6		焼塩壺。蓋I類。内外面赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-40	土器	口径 7.1	高 1.6		焼塩壺。蓋I類。内外面赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-41	土器	口径 7.2	高 1.7		焼塩壺。蓋I類。内面赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-42	土器	口径 7.4	高 1.6		焼塩壺。蓋I類。内外面赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-43	土器	口径 7.6	高 1.8		焼塩壺。蓋I類。内外面若干赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-44	土器	口径 7.8	高 1.7		焼塩壺。蓋I類。内外面赤化。外面平坦部にスグレ痕。
1号土坑-45	土器	口径(7.4)	高 1.6		焼塩壺。蓋I類。内外面赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-46	土器	口径(8.0)	高 1.8		焼塩壺。蓋I類。内外面一部赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-47	土器	口径(8.0)	高 1.6		焼塩壺。蓋I類。内外面赤化。外面平坦部に指頭調整痕。
1号土坑-48	土器	6.0	5.3	10.5	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。底面棒状痕。
1号土坑-49	土器	(6.1)	5.3	10.7	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。底面棒状痕。
1号土坑-50	土器	6.3	(4.3)	10.3	焼塩壺。身A2類。内面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。
1号土坑-51	土器	(6.2)	(4.8)	10.3	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。
1号土坑-52	土器	6.3	(6.0)	10.4	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。
1号土坑-53	土器	(6.6)	-	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。
1号土坑-54	土器	(7.0)	-	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。
1号土坑-55	土器	(6.6)	-	-	焼塩壺。身A2類。内面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。
1号土坑-56	土器	(6.4)	-	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなと藤左衛門」銘。内面布目痕。
1号土坑-57	土器	(7.0)	(5.6)	11.2	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。
1号土坑-58	土器	(6.0)	(3.8)	10.2	焼塩壺。身A2類。内面赤化と布目痕。
1号土坑-59	土器	(6.6)	(4.4)	10.2	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。
1号土坑-60	土器	(6.7)	-	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。
1号土坑-61	土器	-	4.0	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。底面棒状痕。
1号土坑-62	土器	-	(6.6)	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。底面棒状痕。
1号土坑-63	土器	-	(4.0)	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。
1号土坑-64	土器	6.9	3.7	1.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤少量付着。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
1号土坑-65	土器	8.7 4.7 1.6	かわらけ。底部回転糸切(左)。
1号土坑-66	土器	(11.6) 6.1 2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-67	土器	(12.0)(7.4) 2.2	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
1号土坑-68	土器	(12.2) 7.0 2.3	かわらけ。底部回転糸切(左?)。
1号土坑-69	土器	(12.4) 7.0 2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-70	土器	(12.4)(7.1) 2.0	かわらけ。底部回転糸切(左?)。
1号土坑-71	土器	(12.7) 7.8 2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-72	土器	(12.8)(7.8) 2.1	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
1号土坑-73	土器	12.9 7.2 2.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。二次的に被熱。
1号土坑-74	土器	(12.9) 8.0 2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。
1号土坑-75	土器	13.0 7.1 2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-76	土器	(13.0) 7.0 2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-77	土器	(13.0) 7.6 2.3	かわらけ。底部回転糸切(左?)。
1号土坑-78	土器	(13.0) 7.2 2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-79	土器	13.0 7.6 2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-80	土器	(13.4)(7.4) 2.4	かわらけ。底部回転糸切(左?)。煤付着。
1号土坑-81	土器	13.4 8.2 2.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-82	土器	(13.5) 8.2 2.6	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-83	土器	13.5 8.2 2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-84	土器	(14.2) 8.4 2.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
1号土坑-85	土器	24.8 25.0 (6.7)	焙烙。土師質。外面と内面底に煤付着。口縁下部にヘラケズリ。内耳無。底面ちぢれ目。
1号土坑-86	土器	皿口径 10.4	瓦燈上部。瓦質。内面と外面一部に煤付着。外面ヘラミガキ。
1号土坑-87	土器	皿口径 9.3 高 7.8	瓦燈上部。瓦質。皿部に煤付着。皿内面に「爪三」のヘラ書き。底面スグレ痕。
1号土坑-88	土器	(18.0)(17.5) -	瓦燈上部。瓦質。外面銀色塗彩。底面スグレ痕。
1号土坑-89	土器	(23.0)(22.0) -	瓦燈上部。瓦質。外面銀色塗彩。
1号土坑-90	土器	10.7 6.2 7.0	植木鉢。瓦質。底面糸切痕。
1号土坑-91	瓦		軒丸瓦。無剣梅鉢紋。
1号土坑-92	瓦		軒丸瓦。均整唐草文。
1号土坑-93	瓦		軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。
1号土坑-94	瓦		軒丸瓦。丸瓦部のみ。小型。玉縁付け根に溝を設ける。釘穴1ヶ所。櫛状接合痕。玉縁から木口に向かって刺子b→aに変化。抜取り紐痕。
1号土坑-95	瓦		軒丸瓦。丸瓦部のみ。釘穴2ヶ所。刺子b。
1号土坑-96	瓦		丸瓦。刺子b。
1号土坑-97	瓦		丸瓦。大型。棟瓦として使用。刺子b。抜取り紐痕。
1号土坑-98	瓦		丸瓦。玉縁から木口に向かって刺子b→aに変化。横方向の刺子が加わる。
1号土坑-99	石製品	長 - 幅 4.7 厚 1.1	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量 60 g。
1号土坑-100	石製品	長 - 幅 6.2 厚 0.9	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。擦痕は表面短軸方向、裏面各方向。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量 40 g。
1号土坑-101	鉄製品		刃物? 三角形か。左側厚く、右側薄い。錆厚い。現存幅 4.6 cm, 最大長 8.7 cm, 厚さ 0.3 cm。
1号土坑-102	銅製品		煙管。吸口。厚手。腐食ひどく、ろう接不明。一部欠損。羅宇結合部つぶれる。羅宇残存。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
1号土坑-103	銅製品				古寛永(水戸銭長永?)。1636年初鑄。腐食ひどく、宝字剥落。背判読不能。
1号土坑-104	銅製品				古寛永(建仁寺銭小字高足寛?)。1653年初鑄。肥字。腐食進行。
1号土坑-105	銅製品				古寛永(島越銭?)。1656年初鑄。腐食ひどく、銭文判読困難。一部欠損。
1号土坑-106	銅製品				寛永通宝(不明)。腐食ひどく、銭文判読困難。
2号土坑-1	磁器	-	4.2	-	染付。皿。肥前。1630~1640年代。見込草花文。内面体部蝶文? 疊付に砂熔着。
2号土坑-2	磁器	-	-	-	染付。皿。肥前。1630~1640年代。内面口縁部に唐草文。内外釉面に貫入が入る。
2号土坑-3	磁器	(37.0)	-	-	染付。皿。肥前。1630~1640年代。口縁部折縁。内面口縁部唐草文。見込山水文。釉は青味を帯び、内面に貫入が入る。
2号土坑-4	磁器	(13.3)	(5.4)	3.2	染付。皿。肥前。1640~1650年代。口縁部外反。見込鹿文。内面体部蝶文。高台部無釉。
2号土坑-5	磁器	13.8	5.4	3.6	染付。皿。肥前。1640~1650年代。見込山水文。釉は青味を帯びる。釉むら有。疊付に砂熔着。
2号土坑-6	磁器	11.2	5.8	3.4	染付。皿。肥前。1650年代項。内面体部鳳凰文。見込「日」の字。外面口縁部に一重圈線。
2号土坑-7	磁器	13.8	7.5	3.6	染付。皿。肥前。1650年代項。口縁部外反。見込花鳥文。外面体部、花唐草文。高台銘、二重方形枠内に福字。
2号土坑-8	磁器	8.1	3.5	2.0	白磁。皿。肥前。17c後半。胎土は灰色味を帯びる。菊花形。型打整形。疊付に砂熔着。
2号土坑-9	磁器	8.0	3.2	2.0	白磁。皿。肥前。17c後半。胎土は灰色味を帯びる。菊花形。型打整形。疊付に砂熔着。
2号土坑-10	磁器	(9.3)	(3.7)	(4.7)	染付辰砂。碗。中国。17c前半。外面、染付と辰砂による草花文。内面口縁部に染付二重圈線。見込は染付と辰砂による花文。18号地土-8、遺構外-15と類似。
2号土坑-11	磁器	6.0	3.6	4.1	染付。碗。肥前。1630~1640年代。外面菊花文。釉は青味を帯びる。
2号土坑-12	磁器	6.5	2.8	4.4	染付。碗。肥前。1640~1650年代。外面山水文。釉は青味を帯びる。疊付に砂熔着。
2号土坑-13	磁器	11.0	-	-	染付。碗。肥前。1640~1650年代。外面龍文。
2号土坑-14	磁器	8.9	3.4	6.4	染付。碗。肥前。1640~1650年代。口縁部やや外反。外面山水文。釉は青味を帯びる。
2号土坑-15	磁器	10.1	-	-	染付。碗。肥前。1640~1650年代。外面山水文。釉は青味を帯びる。
2号土坑-16	磁器	(10.7)	-	-	染付。碗。肥前。1640~1650年代。胎土は黄色味を帯びる。外面体部柳文、口縁部雷文。内外釉面に貫入が入る。
2号土坑-17	磁器	9.5	3.8	6.7	染付。碗。肥前。1640~1660年代。胎土は黄色味を帯びる。外面山水文。内外釉面に貫入が入る。
2号土坑-18	磁器	11.2	4.6	6.5	染付。碗。肥前。1640~1660年代。外面柳に雁文。内面口縁部に一重圈線。
2号土坑-19	磁器	9.2	4.8	7.3	染付。碗。肥前。1640~1660年代。外面雁に楼閣文。釉は青味を帯びる。疊付に砂熔着。
2号土坑-20	磁器	(9.8)	(4.5)	(6.0)	白磁。碗。肥前。1640~1660年代。口鏝。
2号土坑-21	磁器	-	4.2	-	白磁。碗。肥前。1640~1650年代。外面釉に貫入が入る。

遺物番号	種別	計測値			特徴
2号土坑-22	磁器	9.8	4.2	6.5	青磁。碗。肥前。1630~1650年代。外面及び内面口縁部に青磁釉。内面透明釉。高台部、高台内無釉。内外釉面に貫入が入る。
2号土坑-23	磁器	(11.3)	—	—	染付。碗。肥前。1650~1660年代。外面山水文。内面、口縁部に一重、見込周囲に二重圈線。釉は青味を帯びる。
2号土坑-24	磁器	(11.9)	—	—	染付。碗。肥前。17c後半。外面山水文。内面口縁部に一重圈線。呉須の発色は深い藍色。
2号土坑-25	磁器	(23.4)	8.2	10.8	染付。鉢。肥前。1640~1650年代。内面、丸に菊花・草花文。釉は青味を帯びる。
2号土坑-26	磁器	—	2.6	—	染付。瓶。肥前。1630~1640年代。肩部に削りによる菊弁文。体部に菊花文。釉はやや青味を帯びる。
2号土坑-27	磁器	—	—	—	染付。瓶。肥前。1640~1650年代。外面草花文? 呉須の発色は深い藍色。
2号土坑-28	磁器	—	(5.0)	—	染付。瓶。肥前。1640~1650年代。胎土は灰色味を帯びる。外面蘭文。
2号土坑-29	磁器	—	—	—	色絵。瓶。肥前。1650~1670年代。外面色絵(赤・黄)。
2号土坑-30	磁器	3.4	—	—	染付。小壺。肥前。1630~1640年代。外面蘭文。釉は青味を帯び、釉面に貫入が入る。内面無釉。二次的に被熱。
2号土坑-31	磁器	(6.4)	—	—	白磁。香炉。肥前。1630~1650年代。外面に三条の横位隆起線を削り出す。内面無釉。上面釉に貫入が入る。
2号土坑-32	磁器	—	—	—	染付。水滴。肥前。17c後半。型押整形。兔形。底部釉剥ぎ。
2号土坑-33	陶器	13.3	8.2	3.6	皿。瀬戸美濃。17c。型打菊皿。胎土は淡灰褐色。内外面灰釉、高台無釉。
2号土坑-34	陶器	(19.8)	—	—	皿。瀬戸美濃。17c。型打菊皿。胎土は淡灰褐色。内外面灰。窯割れ有。
2号土坑-35	陶器	(14.8)(6.0)	3.3	—	皿。瀬戸美濃。17c。胎土は淡褐色。畳付を除き灰釉。
2号土坑-36	陶器	(13.3)(6.6)	2.9	—	皿。瀬戸美濃。17c。胎土は淡灰褐色。外面は削りによる調整。全体に灰釉を施す。目痕内面2ヶ所、高台内1ヶ所。
2号土坑-37	陶器	(13.4)(9.0)	1.5	—	皿。京都? 17c? 胎土は黒褐色で土師質。内外面低火度釉。底部無釉。内面茶・緑で上絵付け? 二次的に被熱。
2号土坑-38	陶器	10.9	4.6	7.0	碗。京都? 17c。胎土は白色。薄手。畳付以外灰釉。
2号土坑-39	陶器	6.7	3.0	5.1	碗。肥前? 17c。胎土は淡灰褐色。内外面高台内とも透明釉。二次的に被熱?
2号土坑-40	陶器	(10.7)	—	—	天目碗。瀬戸美濃。17c。胎土は淡黄褐色。内外面鉄釉。
2号土坑-41	陶器	11.6	9.3	—	蓋。丹波? 17c。胎土は黒褐色で炆器質。全体に削りによる調整。中央につまみ貼付痕。上面錆釉。
2号土坑-42	陶器	口径(9.3)	—	—	蓋。志戸呂。17c? 胎土は暗赤褐色で炆器質。上面鉄釉。最大径11.4cm(推)。
2号土坑-43	陶器	—	7.4	—	壺。瀬戸美濃。17c。胎土は淡黄褐色。内外面鉄釉で、内面は薄く施す。底部釉剥ぎ。
2号土坑-44	陶器	—	(15.4)	—	壺。丹波? 17c。胎土は暗赤褐色で長石粒・砂粒を含む。外面は削りによる調整。外面錆釉。内面鉄釉を剥ぎ取る。底部胎土目痕1ヶ所。
2号土坑-45	陶器	(22.0)	8.8	8.7	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。内面煤付着。口縁部外折れ。櫛目は13本1単位。錆釉。底面糸切痕。外面下半ヘラケズリと釉剥ぎ。
2号土坑-46	陶器	—	(10.0)	—	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。内面煤付着。櫛目は不明。錆釉。内面磨滅。外面下部胎土目痕。底面糸切痕。外面ヘラケズリと釉剥ぎ。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
2号土坑-47	陶器	-	(11.8)	-	擂鉢。信樂系。胎土灰色。櫛目は7本1単位。外面指頭調整痕。
2号土坑-48	陶器	(39.5)	-	-	擂鉢。信樂系。胎土暗灰色。口縁断面三角形。櫛目は5本1単位。外面指頭調整痕。
2号土坑-49	陶器	-	(15.2)	-	擂鉢。信樂系。胎土灰色。櫛目は7本1単位。内面磨減。外面指頭調整痕。
2号土坑-50	土器	(6.6)	-	-	焼塩壺。身A1類。内外面赤化。内面布目痕。口縁部に煤付着。
2号土坑-51	土器	6.5	4.7	1.5	かわらけ。底部回転糸切(右)。厚手。
2号土坑-52	土器	(7.0)	5.2	1.4	かわらけ。底部回転糸切(左?)。
2号土坑-53	土器	8.8	5.4	1.7	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-54	土器	9.3	6.3	1.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。厚手。煤付着。
2号土坑-55	土器	9.3	5.1	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-56	土器	9.3	5.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-57	土器	9.3	5.3	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-58	土器	9.3	5.2	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「十五」。
2号土坑-59	土器	9.4	6.0	1.9	かわらけ。底部回転糸切(右)。厚手。
2号土坑-60	土器	9.4	5.1	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-61	土器	9.7	5.9	1.9	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-62	土器	9.8	7.0	1.8	かわらけ。底部回転糸切(右)。厚手。
2号土坑-63	土器	9.8	6.9	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-64	土器	9.8	6.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左?)。
2号土坑-65	土器	(9.8)	5.8	1.7	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「十□」。
2号土坑-66	土器	(9.8)	6.0	1.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-67	土器	10.0	5.6	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書有。
2号土坑-68	土器	10.0	6.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「七」。
2号土坑-69	土器	(10.0)	5.8	1.9	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-70	土器	10.1	6.4	1.9	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「□□」。煤付着。
2号土坑-71	土器	10.4	6.4	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-72	土器	10.5	6.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-73	土器	10.8	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-74	土器	10.8	6.8	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書有。煤付着。
2号土坑-75	土器	(10.9)	6.4	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-76	土器	10.9	6.6	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-77	土器	11.1	6.1	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-78	土器	11.1	6.7	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-79	土器	11.2	6.7	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-80	土器	(11.2)	7.3	2.1	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
2号土坑-81	土器	(11.2)	7.2	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-82	土器	(11.2)	6.8	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「十□」。
2号土坑-83	土器	11.3	6.8	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-84	土器	11.3	7.1	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「ちや十五」。煤付着。
2号土坑-85	土器	(11.3)	6.4	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-86	土器	(11.3)	6.8	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-87	土器	11.3	6.6	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書有。煤付着。
2号土坑-88	土器	11.4	6.9	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。墨書有。煤付着。
2号土坑-89	土器	(11.4)	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-90	土器	11.4	6.9	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「ちや十三」。煤付着。
2号土坑-91	土器	11.4	7.5	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「六」。
2号土坑-92	土器	11.4	7.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
2号土坑-93	土器	11.4	7.0	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-94	土器	(11.4)	7.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
2号土坑-95	土器	(11.4)	6.6	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-96	土器	(11.4)	7.0	1.8	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「十□」。
2号土坑-97	土器	(11.5)	6.8	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-98	土器	11.5	6.6	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-99	土器	11.5	6.9	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書有。煤付着。
2号土坑-100	土器	11.5	7.6	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-101	土器	11.5	6.8	2.1	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
2号土坑-102	土器	11.5	7.2	2.1	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。墨書「ちや廿□」。
2号土坑-103	土器	11.6	7.7	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「ちや」。煤付着。
2号土坑-104	土器	11.6	7.0	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-105	土器	(11.6)	6.8	1.9	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
2号土坑-106	土器	11.6	7.2	2.6	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-107	土器	(11.6)	6.8	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-108	土器	11.6	6.6	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「ちや一」。
2号土坑-109	土器	11.6	6.8	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-110	土器	11.6	7.2	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-111	土器	11.6	6.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-112	土器	(11.6)	6.2	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「ちや十」。
2号土坑-113	土器	11.6	6.8	2.2	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
2号土坑-114	土器	11.6	7.3	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-115	土器	11.7	6.8	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-116	土器	11.7	7.1	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「□十一」。
2号土坑-117	土器	11.7	7.2	2.5	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-118	土器	(11.7)	6.9	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右?)。
2号土坑-119	土器	11.7 (6.6)	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。	
2号土坑-120	土器	11.7	7.5	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右?)。
2号土坑-121	土器	11.8	7.3	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書有。煤付着。
2号土坑-122	土器	11.8	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「ちや□」。煤付着。
2号土坑-123	土器	11.8	6.3	2.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-124	土器	11.8	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
2号土坑-125	土器	(11.8)	7.2	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-126	土器	11.8	6.9	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「十」。
2号土坑-127	土器	11.8	7.5	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-128	土器	11.9	7.7	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「十□」。煤付着。
2号土坑-129	土器	11.9	7.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-130	土器	(11.9)	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-131	土器	(11.9)	6.5	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-132	土器	11.9	7.4	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-133	土器	11.9	7.4	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-134	土器	(11.9)	7.2	2.2	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
2号土坑-135	土器	12.0	6.7	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-136	土器	12.0	6.7	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-137	土器	12.0	7.0	1.8	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書有。煤付着。
2号土坑-138	土器	12.0	6.8	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-139	土器	12.0	7.4	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-140	土器	12.0	7.0	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
2号土坑-141	土器	(12.0)	(7.2)	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-142	土器	12.0	7.1	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-143	土器	12.0	7.0	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-144	土器	12.1	7.0	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。墨書「六」。煤付着。
2号土坑-145	土器	12.1	7.0	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-146	土器	12.1	7.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。墨書「十五」。
2号土坑-147	土器	12.1	6.9	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右?)。
2号土坑-148	土器	12.1	7.6	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-149	土器	12.1	6.8	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-150	土器	(12.1)	(6.9)	2.0	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
2号土坑-151	土器	12.1	7.2	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右?)。
2号土坑-152	土器	12.2	7.0	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。墨書「ち□(やカ)十五」。煤付着。
2号土坑-153	土器	12.2	7.4	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-154	土器	12.2	7.4	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-155	土器	12.2	7.3	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右?)。煤少量付着。
2号土坑-156	土器	(12.2)	7.3	2.1	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
2号土坑-157	土器	(12.2)	7.2	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。墨書「三」。煤付着。
2号土坑-158	土器	(12.2)	(7.0)	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-159	土器	(12.2)	7.0	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-160	土器	12.2	7.2	2.6	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-161	土器	12.2	7.2	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-162	土器	12.2	7.6	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-163	土器	12.3	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-164	土器	12.3	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。墨書「ちや十」。煤付着。
2号土坑-165	土器	12.3	7.3	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-166	土器	12.4	7.2	2.5	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-167	土器	12.4	7.3	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-168	土器	(12.4)	7.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。墨書有。煤付着。
2号土坑-169	土器	12.4	7.4	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。墨書「三□」。煤付着。
2号土坑-170	土器	12.4	7.6	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-171	土器	12.4	8.6	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-172	土器	12.5	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-173	土器	12.5	6.8	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-174	土器	12.5	7.3	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-175	土器	(12.6)	7.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
2号土坑-176	土器	12.7	7.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-177	土器	12.7	7.5	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右?)。煤付着。
2号土坑-178	土器	13.0	7.4	2.6	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-179	土器	13.0	7.5	2.5	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-180	土器	13.1	7.8	2.5	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-181	土器	13.2	7.7	2.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-182	土器	13.4	8.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-183	土器	13.5	7.7	2.6	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-184	土器	13.6	7.8	2.6	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-185	土器	13.7	7.8	2.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-186	土器	13.7	7.6	2.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-187	土器	13.7	8.0	2.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。



遺物番号	種別	計測値			特 徴
2号土坑-188	土 器	13.8	8.2	2.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-189	土 器	13.8	7.9	2.5	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-190	土 器	13.8	7.8	2.6	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-191	土 器	13.9	8.0	2.9	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-192	土 器	14.0	8.2	2.4	かわらけ。底部回転糸切(右)。
2号土坑-193	土 器	14.0	8.2	2.5	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
2号土坑-194	土 器	14.1	8.6	2.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤少量付着。
2号土坑-195	土 器	14.4	8.0	2.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。
2号土坑-196	土 器	口径(26.6) 高(5.0)			焙烙。瓦質。蓋。内外面一部煤付着。外面平坦部スグレ痕。
2号土坑-197	土 器	(30.4)(24.2)		5.7	焙烙。土師質。外面と内面底に煤付着。口縁下部に指頭調整痕。内耳有。底面スグレ痕。口縁と底の接合部にヘラミガキ。
2号土坑-198	土 器	-	(27.4)	-	風炉。瓦質。底面スグレ痕。外面ヘラミガキ。
2号土坑-199	土 器	-	(14.6)	-	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。内面煤付着。口縁再調整。底面ちぢれ目。
2号土坑-200	土 器	(15.8)	-	-	器種不明。瓦質。切り込み窓有。口唇部磨滅。内面指頭調整痕。外面ヘラミガキ。
2号土坑-201	瓦				菊丸瓦。体部のみ残存。
2号土坑-202	瓦				棟瓦。棧部のみ残存。
2号土坑-203	瓦				丸瓦。刺子a。
2号土坑-204	石製品	長	幅	厚 5.0	砥石。砂岩。荒砥。二次的に被熱して赤化。砥面表裏面と右側面。溝状擦痕は表面短軸方向、裏面長軸方向、右側面端部方向。端部に平ノミ状の整形痕。面取り。重量 330 g。
2号土坑-205	石製品	長	幅 4.7	厚 0.7	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。両側面に直線状の整形痕と面取り。上端部は破損後再調整。重量 35 g。
2号土坑-206	石製品	長 4.3	幅 3.4	厚 4.1	軽石。表面と両側面磨滅。上端部寄りに穿孔。
2号土坑-207	銅製品				煙管。雁首。(後方から見て)右巻き、ろう接左側。腐食のため火皿欠損。灰叩き部上下につぶれる。
2号土坑-208	銅製品				煙管。吸口。(後方から見て)右巻き。腐食ひどく、一部欠損。羅字接合部つぶれる。
2号土坑-209	銅製品	底径 1.8	高 1.2		飾り金具? 腐食ひどく張出し部大半剥落。薄い銅板の組合せ。頂径 1.8 cm。
2号土坑-210	銅製品	底径 2.0	高 1.4		飾り金具? 腐食ひどく、張出し部ほとんど剥落。薄い銅板の組合せ。頂径 1.7 cm。
2号土坑-211	銅製品	幅 3.2	長 4.6	厚 0.2	釣針。両面に点描。腐食浅い。
2号土坑-212	銅製品				小柄の柄。銅板の2つ折、中空。腐食ひどく、一端欠損。最大幅 1.5 cm, 最大長 6.1 cm, 厚さ 0.7 cm。
2号土坑-213	鉄製品				用途不明。腐食進み、錆付着。外径 2.3 cm, 内径 0.8 cm, 高さ 1.7 cm。
2号土坑-214	銅製品				古寛永(水戸銭ケイ永?)。1636年初鑄。背、カツ縁・広郭。腐食進み、銭文判読困難。
2号土坑-215	銅製品				古寛永(芝銭正字?)。1636年初鑄。背、カツ縁・広郭。肥字。腐食進行。
2号土坑-216	銅製品				古寛永(芝銭四草点?)。1636年初鑄。背、カツ縁・広郭。肥字。腐食進行。
2号土坑-217	銅製品				古寛永(芝銭不草点?)。1636年初鑄。腐食ひどく、銭文判読困難、一部欠損。
2号土坑-218	銅製品				新寛永(旧元文猿江銭正字)。1716年初鑄。織字。背カツ縁・広郭。腐食進行。

遺物番号	種別	計測値		特徴	
11号土坑-1	磁器	(12.4)(6.2)	3.3	染付。皿。肥前系。1700~1780年代。内面体部唐草文。見込印判五弁花、蛇の目釉剥ぎ。畳付に砂熔着。	
12号土坑-1	陶器	(12.2)(5.8)	6.5	碗。産地不明。19c前半~幕末。胎土は淡黄褐色。広東碗を模す器形。内面白化粧。外面白土・鉄で梅花文。内外面透明釉。高台内無釉。	
12号土坑-2	陶器	13.4	6.0	7.5	植木鉢。瀬戸美濃。18c後半~幕末。胎土は淡黄褐色。底部焼成前に穿孔。外面・内面口縁部灰釉、高台無釉。内面に輪ドチ痕。
12号土坑-3	陶器	-	-	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「△」。
12号土坑-4	陶器	-	(8.9)	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
12号土坑-5	陶器	-	(9.2)	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書線刻「△」。
12号土坑-6	陶器	-	(10.3)	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。焼成後、中心及び周囲計5ヶ所を底部穿孔。
12号土坑-7	陶器	-	11.4	-	德利。志戸呂。18c。外面錆釉。
12号土坑-8	土製品	径 2.1	厚 0.6		基石。手づくね成形。
12号土坑-9	ガラス製品				淡黄。板ガラス。劣化のため半透明となっている。
12号土坑-10	石製品	長 2.5	幅 1.6	厚 1.6	火打石。メノウ。稜に敲打痕顕著。
13号土坑-1	陶器	-	-	-	德利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。肩部に5条の沈線帯。外面鉄釉。
13号土坑-2	陶器	-	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
13号土坑-3	陶器	-	10.5	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとりで手跡残る。
13号土坑-4	土製品	径 2.1	厚 0.7		基石。手づくね成形。粗い作り。黒色塗彩? 表面摩耗。一部欠損。
14号土坑-1	磁器	(14.2)(7.6)	3.7		青磁染付。皿。肥前。1700~1780年代。蛇の目凹形高台。内面体部青磁釉。見込に染付山水文。外面体部唐草文。高台銘、方形枠内に渦福字。
14号土坑-2	磁器	13.0	7.3	4.0	染付。皿。肥前系。1750~1780年代。内面体部花文。見込、印判五弁花。外面体部唐草文。高台銘有。畳付に砂熔着。
14号土坑-3	磁器	9.2	3.8	4.6	染付。碗。瀬戸美濃系。1820年代~幕末。器形は端反。外面に簾文。内面口縁部、二重圏線間に濃み。見込、二重圏線内に草花文。内外釉面に貫入が入る。
14号土坑-4	磁器	9.2	3.8	5.2	染付。碗。瀬戸美濃系。1820年代~幕末。胎土は透明感がある。器形は端反。外面雷文。内面口縁部に二重圏線。見込、二重圏線内に草花文。
14号土坑-5	陶器	(14.0)	8.6	3.3	呉須絵陶器。皿。瀬戸美濃。18c後半~19c初。蛇の目凹形高台。内面体部、扇面文。見込五弁花。外面体部唐草文。
14号土坑-6	陶器	(13.9)(5.5)	3.8		皿。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる調整。見込、鉄による摺絵で菊花文。内外面・高台内灰釉、高台無釉。目痕内面1ヶ所。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
14号土坑-7	陶器	14.2	5.6	3.7	皿。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる調整。見込、鉄による摺絵で菊花文。内外面・高台内灰釉、高台無釉。目痕内面3ヶ所。
14号土坑-8	陶器	—	4.4	—	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は黄褐色。外面は削りによる調整。内外面灰釉、高台無釉。
14号土坑-9	陶器	(11.0)	4.3	8.2	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる調整。内外面灰釉、高台無釉。
14号土坑-10	陶器	(11.6)	6.9	9.0	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる調整。内外面灰釉、高台無釉。
14号土坑-11	陶器	—	9.0	—	壺。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。内外面灰釉、高台無釉。
14号土坑-12	陶器	—	—	—	蓋? 産地・年代不明。胎土は黒褐色で土師質。上面漢字文を浮き彫りし、金彩。
14号土坑-13	陶器	3.0	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。
14号土坑-14	陶器	—	6.5	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部無釉。
14号土坑-15	陶器	—	7.0	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「△」。
14号土坑-16	陶器	—	3.3	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部無釉。
14号土坑-17	陶器	3.0	6.9	21.1	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。肩部に5条の沈線帯。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「△」。
14号土坑-18	陶器	3.6	—	—	德利。瀬戸美濃。19c初頭。肩部に4条の沈線帯残存。外面灰釉。
14号土坑-19	陶器	2.8	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。
14号土坑-20	陶器	—	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。釘書点刻「△」。
14号土坑-21	陶器	—	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。肩部沈線帯わずかに残存。外面鉛釉。釘書点刻「大」。
14号土坑-22	陶器	4.1	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。肩部沈線帯わずかに残存。外面灰釉。
14号土坑-23	陶器	—	(9.0)	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
14号土坑-24	陶器	—	10.5	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「今」。焼成後底部穿孔。
14号土坑-25	陶器	—	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。肩部に4条の沈線帯。その下部にヘラによる波状文。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「△」。肩部焼成後打ち欠く。
14号土坑-26	陶器	—	(11.0)	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
14号土坑-27	土器	—	(4.4)	—	焼塩壺。身C類。内外面赤化。回転ナデ調整。外面剥落。
14号土坑-28	土器	(23.1)	19.6	19.4	風炉。瓦質。外面ヘラミガキ。
14号土坑-29	土製品	径 2.0	厚 0.6		基石。手づくね成形。黒色塗彩?
14号土坑-30	土製品	径 2.1	厚 0.6		基石。手づくね成形。粗い作り。一部欠損。
14号土坑-31	土器	口径(9.8)	高 1.4		七厘の灰落し。白色の胎土。内面灰付着。焼成前穿孔。
14号土坑-32	石製品	長 — 幅 6.3	高 —		硯。粘板岩。長方硯。陸部に長軸方向の擦痕。左硯側に深い削痕。硯背平坦で線刻有るが不明。
14号土坑-33	石製品	長 — 幅 2.0	厚 1.3		火打石。長石。二次的に被熱。両側面の稜に敲打痕顕著。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
14号土坑-34	銅製品				切羽。周縁、鋸歯状。腐食進み、錆付着。長径3.9 cm, 短径2.3 cm, 内径0.7 cm。
14号土坑-35	骨角製品	幅 0.6			算盤の目盛? 薄い板状を呈する。表面に墨書「百 十 (貫)」及び「十 文」(銭の単位?)。
16号土坑-1	磁 器	(14.0)	7.2	2.8	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部唐草文。見込、印判五弁花、蛇の目釉剥ぎ。疊付に砂熔着。
16号土坑-2	陶 器	(10.2)	(6.1)	(7.2)	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
16号土坑-3	陶 器	(10.4)	-	-	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内外面透明釉。
16号土坑-4	陶 器	4.7	-	-	香炉? 瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面及び内面口縁部灰釉。底部無釉。
16号土坑-5	陶 器	口径(9.6)	高 2.6		蓋(土瓶の蓋)。産地不明。18c~幕末。胎土は灰色。上面透明釉。最大径12.3 cm。
16号土坑-6	陶 器	3.3	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
16号土坑-7	陶 器	-	6.5	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。
16号土坑-8	陶 器	3.9	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。
16号土坑-9	陶 器	-	7.7	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
16号土坑-10	陶 器	-	10.5	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻。
16号土坑-11	陶 器	-	-	-	播鉢。備前系。胎土赤褐色。口縁2本沈線の縁帯と1本沈線の突帯。櫛目は12本1単位。
16号土坑-12	陶 器	(11.0)	5.0	3.0	蓋。産地・年代不明。胎土は黒褐色で炆器質である。底部に右回転糸切痕有。無釉。
16号土坑-13	陶 器	10.1	4.1	1.6	燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部の釉拭き取り。内外面に重ね積み痕。
16号土坑-14	陶 器	10.4	4.9	2.3	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形の後、粗く磨く。内外面に鉄釉。外面体部下半, 釉拭き取り。外側面及び受け口唇部に重ね積み痕。
16号土坑-15	土 器	-	7.2	-	器種不明。白色の胎土。外面一部に煤付着。正面と裏面に窓有。底面糸切痕。
16号土坑-16	土 器	8.0	3.2	1.9	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。内外面に赤褐色塗彩の後、透明釉。底部釉拭き取り。外面に重ね積み痕。
16号土坑-17	銅製品				新寛永(波銭:明和大頭通)。1769年初鑄。カッ縁。織字。腐食進み、輪1/6剥落。
18号土坑-1	土製品	径 2.1	厚 0.7		基石。手づくね成形。黒色塗彩? 一部欠損。
18号土坑-2	土製品	径 2.2	厚 0.6		基石。手づくね成形。表面摩耗。一部欠損。
24号土坑-1	陶 器	-	6.1	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
24号土坑-2	陶 器	-	(11.5)	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
26号土坑-1	磁器	5.6	2.7	4.0	染付。碗。産地不明。19c。口縁部やや外反。外面体部、桐に鳳凰文、高台部櫛目文。高台銘有。見込、二重圏線内に松竹梅文。
26号土坑-2	陶器	(8.5)	-	-	呉須絵陶器。碗。瀬戸美濃。18c後半~19c前半。外面竹文。内面、口縁部に二重、見込に一重圏線。
26号土坑-3	陶器	(8.9)	(3.6)	(5.3)	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は黄白色。内外面長石釉、高台無釉。
26号土坑-4	陶器	-	6.5	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c中葉。外面灰釉。底部無釉。釘書線刻。
26号土坑-5	陶器	-	6.8	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
26号土坑-6	陶器	-	10.4	-	德利。志戸呂。18c。外面錆釉。胴部墨書。底部墨書「㊤」。
26号土坑-7	瓦				軒平瓦。均整唐草文。
26号土坑-8	銅製品				用途不明。二次的被熱。原形不明。腐食浅い。最大幅1.1cm, 最大長3.8cm, 厚さ0.7cm。
26号土坑-9	銅製品				古寛永(浅草御蔵銭正字?)。1636年初鑄。背、カツ緑・広郭。腐食ひどい。
27号土坑-1	磁器	-	(5.4)	-	色絵。鉢。前。17c後半。外面に染付圏線と色絵。高台内、一重圏線内に「大□」。見込、染付二重圏線内に色絵(緑)。
27号土坑-2	磁器	(9.0)	(3.3)	6.4	染付。碗。肥前。18c後半~19c前半。外面山水文。見込文様有。
27号土坑-3	磁器	9.4	2.9	5.0	染付。碗。肥前。18c末~19c初。外面百寿文。内面口縁部に一重圏線。見込、二重圏線内に寿文字。
27号土坑-4	磁器	7.4	3.0	4.5	染付。碗。肥前。19c初~幕末。外面蘭に蝶文。内外釉面に細かい貫入が入る。
27号土坑-5	磁器	(5.5)	-	-	色絵。紅皿? 肥前。17c後半~18c前半。外面に色絵(赤)。二次的に被熱。
27号土坑-6	磁器	1.3	2.8	7.6	染付。瓶。肥前。18c後半~19c前半。口縁部外反。胴部に梅花文。笹葉文。畳付に砂熔着。
27号土坑-7	陶器	8.9	3.8	5.5	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は黄白色。外面鉄で若杉文。内外面透明釉。高台無釉。
27号土坑-8	陶器	9.3	3.9	5.1	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は黄白色。外面鉄で若杉文。内外面透明釉。高台無釉。
27号土坑-9	陶器	9.5	3.4	5.5	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は黄白色。内外面透明釉。高台無釉。
27号土坑-10	陶器	14.9	8.1	5.6	蓋物。瀬戸美濃。18c~幕末。胎土は黄白色。高台内、円形の削り込み。内外面灰釉で内面は薄く施釉。内面見込釉剥ぎ。高台無釉。
27号土坑-11	陶器	6.0	3.6	2.1	蓋(土瓶の蓋)。産地不明。18c~幕末。胎土は灰色で焼きしまる。下面に円形の削り込み。上面灰釉。
27号土坑-12	陶器	4.2	3.0	1.7	蓋(土瓶の蓋)。産地不明。18c~幕末。胎土は灰色。上面灰釉。
27号土坑-13	陶器	3.5	6.8	19.6	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。底部無釉で手痕残る。底部に輪ドチ痕残る。釘書点刻「(L)」。
27号土坑-14	陶器	4.7	-	-	德利。瀬戸美濃。17c後半~18c初頭。外面灰釉。底部無釉。二次的に被熱。
27号土坑-15	陶器	4.1	-	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。胴部に焼成時の釉着痕残る。釘書点刻。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
27号土坑-16	陶 器	4.1	9.8	25.8	徳利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「カメ」。
27号土坑-17	陶 器	10.0	4.6	2.2	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c～19c。外面は、削りによる整形。内外面に鉄釉。外面体部下半、釉拭き取り。外面及び受け口唇部に重ね積み痕。
27号土坑-18	土 器	6.5	5.1	5.3	焼塩壺。身C2類。内外面赤化。無銘。回転ナデ調整。底面糸切痕。
27号土坑-19	土 器	—	4.4	—	焼塩壺。身C類。内外面赤化。回転ナデ調整。底面糸切痕。
27号土坑-20	土 器	口径 7.0	高 1.2		焼塩壺。蓋III類。内外面赤化。内面若干布日痕。
27号土坑-21	土 器	(10.2)( 5.0)	2.3		受付燈明皿。底部回転糸切(左)。内外面とも赤褐色塗彩の後、透明釉。底部釉拭き取り。
27号土坑-22	石製品	長 12.4	幅 4.8	高 —	硯。粘板岩。長方硯。陸部に長軸方向の擦痕。
27号土坑-23	瓦				棧瓦。1/2 残存。
27号土坑-24	鉄製品				菜切り包丁? 錆厚く、刃先確認不能。刃先中央部剥落。刃部残長 10.2 cm, 棟厚 0.6 cm, 茎長 6.6 cm, 茎幅 1.6 cm。
27号土坑-25	骨角製品	残長 12.5	幅 0.5		算盤の目盛? 薄い板状を呈する。表面に墨書「(貫) 百十 匁 ト (分) リ (厘) 毛」(銀または重量の単位?)。
28号土坑- 1	土製品	径 2.1	厚 0.6		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 2	土製品	径 2.3	厚 0.6		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 3	土製品	径 2.2	厚 0.5		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 4	土製品	径 2.2	厚 0.6		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 5	土製品	径 2.1	厚 0.7		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 6	土製品	径 2.2	厚 0.6		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 7	土製品	径 2.2	厚 0.7		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 8	土製品	径 2.2	厚 0.7		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑- 9	土製品	径 2.2	厚 0.7		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑-10	土製品	径 2.2	厚 0.7		基石。手づくね成形。白色塗彩。
28号土坑-11	銅製品				古寛永(芝銭不草点?)。1636年初鑄。肥字。背、カツ縁・広郭。腐食進行。
30号土坑- 1	磁 器	—	—	—	呉須赤絵。皿。中国。17c前半。内面に色絵。
30号土坑- 2	陶 器	7.4	5.5	1.7	蓋。産地不明。18c～幕末。胎土は淡黄褐色。つまみ貼付。上面灰釉。
30号土坑- 3	陶 器	10.2	9.1	—	蓋物? 産地・時期不明。胎土は淡黄褐色。五角形を呈する? 高台の一部を削り取る。無釉。
30号土坑- 4	陶 器	3.2	—	—	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
30号土坑- 5	陶 器	—	6.5	—	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。二次的に被熱。
30号土坑- 6	陶 器	—	7.4	—	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「云」。二次的に被熱。
30号土坑- 7	陶 器	—	(10.9)	—	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
30号土坑- 8	土製品	径 2.2	厚 0.6		基石。手づくね成形。表面摩耗。
35号土坑- 1	土 器	11.9	6.2	2.6	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。銀色塗彩?
36号土坑- 1	土製品				陶製人形片。呉須で袴と袴、鉄で眉・目・髪・袖・刀を描き、透明釉。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
36号土坑- 2	陶 器	—	3.3	—	碗。産地不明（信楽？）。18c後半～19c前半。胎土は黄白色。内外面透明釉。底部無釉。
36号土坑- 3	陶 器	—	( 5.4)	—	瓶。産地不明。19c？ 胎土は淡黄褐色。外面は鉄で施文し、透明釉を施す。内面及び底部無釉。
36号土坑- 4	陶 器	—	6.4	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
36号土坑- 5	陶 器	3.0	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
36号土坑- 6	陶 器	(10.6)	( 3.8)	2.0	燈明皿。産地・時期不明。胎土は赤味を帯びる。底部薄手。内面及び外面口縁部鉄釉。外面体部下半及び底部無釉。外側に重ね積み痕。
36号土坑- 7	陶 器	9.6	4.6	1.9	受付燈明皿。瀬戸美濃？ 18c～19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉・底部無釉。外面に重ね積み痕。
36号土坑- 8	土 器	5.8	3.8	4.5	焼塩壺。身C2類。内外面赤化。回転ナデ調整。底面糸切痕。
36号土坑- 9	土 器	口径 6.0	高 1.0		焼塩壺。蓋III類。内面若干布目痕。
41号土坑- 1	陶 器	3.3	—	—	德利。瀬戸美濃。17c末～18c初頭。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
41号土坑- 2	土 器	8.3	3.8	1.5	かわらけ。底部回転糸切（左）、墨書「×」。煤付着。
43号土坑- 1	磁 器	—	—	—	餅花手。小杯。中国。17c前半。薄手。褐色釉を吹き付けた上に白釉で施文（梅？）。
43号土坑- 2	磁 器	9.0	4.2	5.1	染付。碗。瀬戸美濃系？ 1820年代～幕末。胎土は透明感がある。器形は端反。外面、線刻文の上に染付。内面口縁部、一重圈線と濃みによる帯文。見込、一重圈線内に文様有。
43号土坑- 3	陶 器	11.9	4.3	3.8	皿。肥前（内野山窯）。17c末～18c中葉。胎土は褐色。内外面とも透明釉。見込蛇の目釉剥ぎ。
43号土坑- 4	陶 器	—	4.3	—	碗。瀬戸美濃。年代不明。胎土は灰白色。畳付を除き鉄釉。
43号土坑- 5	陶 器	—	5.8	—	水注。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。内外面錆釉だが、内面は薄い。高台無釉。
43号土坑- 6	陶 器	—	6.0	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
43号土坑- 7	陶 器	3.4	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
43号土坑- 8	陶 器	3.9	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
43号土坑- 9	陶 器	(10.4)	( 4.8)	2.0	受付燈明皿。瀬戸美濃？ 18c～19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部無釉。外面に重ね積み痕。
43号土坑-10	土製品	径 2.1	厚 0.7		碁石。手づくね成形。
43号土坑-11	土製品	径 2.0	厚 0.7		碁石。手づくね成形。黒色塗彩？
43号土坑-12	土製品	径 2.1	厚 0.6		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。一部欠損。
43号土坑-13	土 器	10.6	6.3	7.2	植木鉢。土師質。底面に焼成前穿孔。底面糸切痕。
43号土坑-14	土 器	口径(6.2)	高 0.7		焼塩壺。蓋III類。内外面赤化。
43号土坑-15	瓦				のし瓦。均整唐草文。
43号土坑-16	瓦				軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。
43号土坑-17	銅製品	外径 1.7	内径 0.5		錠前？ 錠穴部の金具か。腐食進み、周縁一部欠損。
46号土坑- 1	陶 器	3.4	—	—	德利。瀬戸美濃。19c。外面灰釉。
47号土坑- 1	陶 器	—	(11.2)	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
48号土坑- 1	陶 器	3.0	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
48号土坑- 2	陶 器	—	10.1	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
48号土坑-3	土製品	径	—	厚 0.7	基石。手づくね成形。1/2強欠損。
51号土坑-1	陶器	(11.0)	4.4	7.3	天目碗。瀬戸美濃。17c。胎土は淡黄褐色。内外面鉄釉。高台無釉。
52・53号土坑-1	陶器	13.6	8.6	3.4	呉須絵陶器。皿。瀬戸美濃系。18c末～19c前半。蛇の目凹形高台。内面体部扇面文。見込、波に帆掛舟。外面体部唐草文。138・139・140号土坑-2と同一文様。
52・53号土坑-2	陶器	口径 15.4	高 3.3	—	蓋。産地不明。18c～幕末。胎土は灰色。上面に螺旋状の沈線を施す。口縁部以外灰釉。上面目痕2ヶ所。
52・53号土坑-3	陶器	—	5.0	—	水注。瀬戸美濃。18c～19c。胎土は灰白色。内外面錆釉だが内面は薄く施釉。高台無釉。底部に輪ドチ痕。
52・53号土坑-4	陶器	3.2	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
52・53号土坑-5	陶器	—	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻。
52・53号土坑-6	陶器	—	11.0	—	德利。瀬戸美濃。19c。ペコカン德利。胴部1ヶ所が窪む。外面柿釉。底部釉ふきとり。焼成後底部穿孔。
52・53号土坑-7	土器	口径 6.2	高 1.1	—	焼塩壺。蓋皿類。内外面若干布目痕。
52・53号土坑-8	土器	7.6	7.7	7.5	有脚受付燈明皿。内外面に赤褐色塗彩を施した後、透明釉。底部無釉。
52・53号土坑-9	銅製品	—	—	—	煙管。吸口。薄手。(後方から見て)左巻き。腐食浅い。
54号土坑-1	磁器	10.6	4.1	6.4	染付。小鉢。肥前。1700～1780年代。口縁部折縁。外面草花文。
54号土坑-2	陶器	12.8	6.5	7.7	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
54号土坑-3	陶器	3.6	—	—	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面灰釉。
54号土坑-4	陶器	—	(10.9)	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面飴釉。底部釉ふきとり。
54号土坑-5	陶器	—	(10.6)	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
54号土坑-6	土器	—	(20.3)	—	風炉。瓦質。外面ヘラミガキ。
54号土坑-7	土器	(13.4)	—	—	植木鉢。瓦質。
54号土坑-8	土製品	径 2.0	—	厚 0.7	基石。手づくね成形。黒色塗彩? 1/3欠損。
54号土坑-9	瓦	—	—	—	軒丸瓦。劍梅鉢。
54号土坑-10	石製品	長 2.5	幅 2.1	厚 1.5	火打石。チャート。下端部以外の稜に敲打痕顕著。
62号土坑-1	磁器	9.9	3.8	4.4	染付。碗。肥前。18c中葉～19c初。高台径小さい。外面若松文。
62号土坑-2	陶器	(15.2)	6.2	4.3	皿。瀬戸美濃。18c後半～幕末。胎土は灰色。内外面灰釉。内面見込蛇の目釉剥ぎ。高台無釉。内面に輪積み痕。
62号土坑-3	陶器	10.7	—	—	碗。産地不明(信楽?)。18c後半～19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。外面鉄で若杉文。内外面灰釉。
62号土坑-4	陶器	—	7.5	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻「△」。二次的に被熱。
62号土坑-5	陶器	3.0	—	—	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。胴部上半に指痕残る。二次的に被熱。
62号土坑-6	陶器	3.3	—	—	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に4条の沈線帯。外面鉄釉にわずかに灰釉流しかけ。



遺物番号	種別	計測値			特 徴
62号土坑-7	土器	(6.6)	(4.0)	4.8	焼塩壺。身C2類。内外面若干赤化するが剥落。回転ナデ調整。
62号土坑-8	土器	-	7.7	-	灰落し。瓦質。外面ヘラミガキ。
62号土坑-9	土器	(11.6)	(6.8)	7.2	植木鉢。土師質。底面糸切痕。
62号土坑-10	ガラス製品	径 0.4	残長 1.2		青緑。管。色ムラがある。
63号土坑-1	磁器	7.2	3.7	5.6	染付。碗。肥前。1820年代～幕末。胎土は灰色味を帯びる。外面口縁部雷文。
63号土坑-2	磁器	11.0	4.2	6.1	染付。碗。瀬戸美濃系。幕末。器形は端反。外面柳に松文。内面、口縁部雷文。見込に花文。63号土坑-7と文様類似。
63号土坑-3	磁器	10.6	3.9	5.8	青磁染付。碗。瀬戸美濃系？幕末。厚手。器形は端反。内面、波に千鳥。外面、薄い青磁釉。
63号土坑-4	磁器	(9.8)	(3.6)	5.1	染付。碗。瀬戸美濃系。幕末。胎土は透明感がある。器形は端反。内外面とも区画内に仙芝祝寿文(捻花の区画内に霊芝を描く)。呉須の発色は鮮やか。
63号土坑-5	磁器	(10.8)	-	-	色絵。碗。瀬戸美濃系？幕末。胎土は透明感がある。色絵で梅花、桃の実に富士を描く。口唇部に色絵具。
63号土坑-6	磁器	-	(1.4)	-	色絵。可杯？産地不明。19c。底部に焼成前穿孔。内面、色絵(赤・金)草花文。
63号土坑-7	磁器	口径 9.2	高 2.8		染付。蓋(端反碗)。瀬戸美濃系。幕末。上面、柳に松文。内面雷文、花文。63号土坑-2と文様類似。
63号土坑-8	陶器	9.0	3.0	5.0	碗。産地不明(信楽？)。18c～19c前半。胎土は灰白色。内外面に長石釉を施し、貫入が入る。高台無釉。
63号土坑-9	陶器	(9.9)	(4.8)	(5.4)	碗。産地不明(信楽？)。18c後半～19c前半。胎土は灰白色。内外面透明釉。高台無釉。
63号土坑-10	陶器	-	4.2	-	碗。産地不明。18c～幕末。胎土は黄褐色。内面白化粧。畳付以外透明釉。
63号土坑-11	陶器	7.0	4.2	1.3	蓋。産地不明。18c～幕末。胎土は黄白色。上面錆釉。
63号土坑-12	陶器	蓋:- 身:7.3	4.6	-	土瓶。産地不明。18c後半～19c。胎土は灰色。口縁部五弁花状に変形。外面上半に、細い横方向沈線を施す。外面・内面上半灰釉。
63号土坑-13	陶器	2.9	-	-	瓶。産地不明。19c前半～幕末。胎土は褐色で土師質。外面、白化粧後、一部鉄吹き墨を施し、鉄・長石で梅花文、その後透明釉。
63号土坑-14	陶器	3.3	7.1	20.8	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻「△」。
63号土坑-15	陶器	3.5	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
63号土坑-16	陶器	3.4	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
63号土坑-17	陶器	3.6	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
63号土坑-18	陶器	4.4	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。釘書点刻。
63号土坑-19	陶器	3.0	7.3	20.2	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「△」。
63号土坑-20	陶器	2.9	(7.6)	20.6	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「△」。
63号土坑-21	陶器	2.9	7.6	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「△」。
63号土坑-22	陶器	3.3	7.4	22.2	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-23	陶器	2.8	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
63号土坑-24	陶器	-	7.4	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
63号土坑-25	陶 器	—	8.2	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-26	陶 器	—	7.6	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-27	陶 器	3.4	9.4	23.6	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-28	陶 器	3.0	( 9.4)	23.5	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-29	陶 器	3.3	—	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。
63号土坑-30	陶 器	3.3	10.4	24.9	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-31	陶 器	2.8	—	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。
63号土坑-32	陶 器	3.3	—	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。
63号土坑-33	陶 器	3.8	—	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。
63号土坑-34	陶 器	—	10.4	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-35	陶 器	—	10.0	—	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
63号土坑-36	陶 器	(30.0)	—	—	搦鉢。備前系。胎土赤褐色。口縁2本沈線の縁帯と突帯。櫛目は11本1単位。外面体部へラケズリ。
63号土坑-37	土 器	( 5.8)( 3.8)	5.0		焼塩壺。身C2類。内面若干赤化。外面煤付着。回転ナデ調整。底面糸切痕。
63号土坑-38	土 器	—	19.5	—	火鉢。瓦質。回転印刻文(蓆目)。内面火箸痕。底面スグレ痕と墨書「休□」。外面へラミガキ。
63号土坑-39	土 器	11.6	6.5	7.0	植木鉢。瓦質。底面に焼成前穿孔。底面糸切痕。
63号土坑-40	土製品	径 2.0	厚 0.6		碁石。手づくね成形。黒色塗彩?
63号土坑-41	石製品	長 — 幅 4.7	厚 1.4		砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。表面各方向の擦痕。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量 85g。
63号土坑-42	石製品	径 2.2	厚 0.5		碁石。粘板岩。黒石。研磨整形。
63号土坑-43	石製品	長 2.8 幅 1.2	厚 0.7		火打石。チャート。上端部の稜に敲打痕。再調整時の剥片か。
63号土坑-44	銅製品				煙管。雁首。(後方から見て)右巻き、ろう接上側。腐食のため、火皿欠損。
63号土坑-45	骨角製品	縦 1.9			板状製品。全面に研磨を施す。
65号土坑- 1	陶 器	10.7	5.5	7.1	碗。瀬戸美濃。18c~19c。胎土は灰色。胴部2ヶ所を窪ませる。外面は削りによる整形。外面上半・内面灰釉、外面下半・高台畳付を除き鉄釉。
69号土坑- 1	鉄製品	残長 6.5	頭幅 2.6		頭巻釘。脚部欠損。錆付着。約2寸5分。
69号土坑- 2	鉄製品	長 9.1	残頭幅 2.2		頭巻釘。頭部、TないしH型に成形。錆付着。約3寸5分。
69号土坑- 3	鉄製品	残長 3.7	頭幅 1.0		頭巻釘。脚部欠損。錆付着。約1寸5分。
70号土坑- 1	磁 器	—	—	—	白磁。皿。肥前。17c後半。型打整形。内面体部に型打による花唐草文。7号地土-1と同一個体?
70号土坑- 2	陶 器	—	—	—	天目碗。瀬戸美濃。17c。胎土は淡灰褐色。内外面鉄釉。高台無釉。
70号土坑- 3	瓦				軒丸瓦。無剣梅鉢。
70号土坑- 4	瓦				軒丸瓦。連珠三つ巴紋。
71号土坑- 1	磁 器	10.3	3.4	4.8	染付。碗。肥前。18c中葉~19c初。高台径小さい。内外面とも氷裂を地文として菊花文。
71号土坑- 2	磁 器	—	( 5.5)	—	白磁。瓶。肥前。17c後半。内面無釉。畳付に砂熔着。
71号土坑- 3	磁 器	口径 10.2	高 2.9		染付。蓋。肥前。1700~1780年代。上面松竹梅文。内面、中央に草花文、周囲は四方禪文。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
71号土坑-4	陶器	(10.2)	2.7	5.6	碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は黄褐色。胴の張る器形。内外面灰釉、高台無釉。上面上半、緑・白で笹文上絵付け。目痕内面2ヶ所の上に低火度釉(白)施す。
71号土坑-5	陶器	1.8	6.4	9.1	瓶。備前。18c~幕末。胎土は暗赤褐色で炆器質。胴部は、球形に膨らむ。外面鉄釉。頸部欠損し、欠損部は研磨される。
71号土坑-6	陶器	20.6	9.0	11.6	土鍋。丹波? 18c後半~幕末。胎土は淡灰褐色。把手一对貼付。底部足3個貼付。内外面錆釉。底部無釉。目痕内面5ヶ所。
71号土坑-7	陶器	-	11.3	-	徳利。志戸呂。18c。外面錆釉。底部墨書「△」。
71号土坑-8	陶器	-	11.7	-	徳利。志戸呂。18c。外面錆釉。
71号土坑-9	銅製品	長 2.9	径 0.2		用途不明。太い銅線の両端を環状にし、ねじれの位置に置く。腐食ひどく、表面剥落著しい。
73号土坑-1	陶器	-	8.1	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書線刻「玉」。焼成後底部穿孔。
74号土坑-1	陶器	21.8	8.9	5.8	皿。瀬戸美濃。17c~18c。胎土は淡黄褐色。口縁部2ヶ所を窪ませる。内外面灰釉。底部無釉。目痕内面5ヶ所。
74号土坑-2	陶器	11.2	4.4	6.4	碗。八代? 18c~幕末。胎土は灰色。外面、薦・蝶文象嵌、上下に各沈線1条。内外面灰釉。底部無釉。口錆。目痕内面5ヶ所。
74号土坑-3	陶器	(9.7)	4.1	6.2	碗。瀬戸美濃。18c~19c前半。胎土は淡灰褐色。外面下半は削りによる整形。外面中央に沈線3条を施す。外面上半・内面灰釉。外面下半・高台・畳付を除き鉄釉。
74号土坑-4	陶器	(8.8)(3.6)	4.9		碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は黄白色。内外面透明釉。高台無釉。
74号土坑-5	陶器	10.8	4.4	7.7	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
74号土坑-6	陶器	5.8	2.7	3.6	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
74号土坑-7	陶器	(8.0)(3.6)	5.1		片口? 産地不明。18c~幕末。胎土は灰色。内面沈線1条施す。内外面柿釉。高台無釉。
74号土坑-8	陶器	(7.2)	-	-	土瓶。産地不明。18c? 胎土は淡黄褐色。外面灰釉。
74号土坑-9	陶器	-	(7.3)	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
74号土坑-10	陶器	-	-	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。肩部に6条の沈線帯。外面鉛釉。釘書点刻。
74号土坑-11	土器	-	4.3	-	焼塩壺。身C類。回転ナデ調整。底面糸切痕。外面剥落。
74号土坑-12	土器	(11.5)	6.3	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。
74号土坑-13	土製品	径 2.1	厚 0.6		碁石。手づくね成形。表面摩耗。
74号土坑-14	鉄製品				鉄銭。銭銘不明。錆厚く、判読不能。
75号土坑-1	磁器	12.7	7.9	4.7	染付。蓋物(段重)。肥前系。19c初~幕末。下端を削って段(無釉)をつける。外面牡丹文。高台部全面施釉。内面中央無釉。
75号土坑-2	陶器	-	7.2	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻で肩部を一周させ「玉」。
75号土坑-3	陶器	2.9	7.8	21.1	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
75号土坑-4	陶器	2.9	-	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
75号土坑-5	陶器	-	8.9	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。

遺物番号	種別	計測値			特徴
75号土坑-6	陶器	-	3.2	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。二次的に被熱。
75号土坑-7	土製品	径 2.0		厚 0.6	基石。手づくね成形。黒色塗彩? 表面磨耗。
75号土坑-8	瓦				海鼠瓦。釘穴。漆喰痕跡。
75号土坑-9	陶器	31.5	14.9	12.3	搥鉢。備前系。胎土赤褐色。内外面煤付着。口縁2本沈線の縁帯と1本沈線の突帯。櫛目は12本1単位を26単位か。底面焼成後の穿孔有。口縁部下ヘラケズリ。
1号集中-1	磁器	9.6	4.1	2.4	白磁。皿。産地不明。19c。胎土は透明感がある。型打整形で雀をあらわす。変形高台。
1号集中-2	磁器	68	3.0	4.3	染付。碗。肥前系。19c。胎土はやや黄色味を帯びる。外面松文。内外面に貫入。
1号集中-3	磁器	4.6	4.3	5.3	染付。碗。瀬戸美濃系。幕末。器形は端反。外面、蝶に梅枝文。
1号集中-4	磁器	(9.7)	(4.3)	5.0	染付。碗。瀬戸美濃系。幕末。胎土は透明感がある。器形は端反。外面楼閣山水文。見込、二重圏線内に波に帆掛舟。呉須の発色は鮮やか。
1号集中-5	陶器	-	(6.4)	1.9	呉須絵陶器。皿。瀬戸美濃系。18c末~幕末。胎土は黄色味を帯びる。見込、波に帆掛舟、蛇の目釉剥ぎ。内外釉面に細かい貫入が入る。
1号集中-6	陶器	(10.0)	-	-	壺。産地・時期不明。胎土は灰色で粒子粗い。全体は削りによる整形。内外面錆釉。外面鉄釉流しかけ。
1号集中-7	陶器	(14.8)	(8.0)	10.4	蒸し器? 産地・時期不明。胎土は褐色で土師質。底部、焼成前に無数の穿孔。外面及び底裏漆黒釉。内面透明釉。
1号集中-8	陶器	5.8	4.2	0.8	蓋。産地不明。19c。胎土は灰褐色。上面、螺旋状の微隆起線。下面右回転糸切痕。焼成前穿孔。上面一部に長石釉施す。他は無釉。
1号集中-9	陶器	3.2	-	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。
1号集中-10	陶器	-	6.5	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
1号集中-11	陶器	3.3	6.5	19.9	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「△」。
1号集中-12	陶器	3.3	7.5	20.9	德利。瀬戸美濃。19c中葉。肩部に沈線帯残存。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「田」。
1号集中-13	陶器	-	(9.2)	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。
1号集中-14	陶器	-	(10.0)	-	德利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。
1号集中-15	土器	(17.5)	13.2	9.4	火鉢。瓦質。沈線と回転印刻文(短沈線)。口唇部敲打痕。口縁部ヘラミガキ。
1号集中-16	銅製品				煙管。雁首? 肉厚。(後方から見て)右巻き、ろう接上側。首部点線文様。火皿結合部補強帯。板状につぶれる。
1号集中-17	瓦				丸瓦。刺子b。模骨痕。棒状圧痕。
2号集中-1	陶器	-	8.0	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
2号集中-2	瓦				軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。4号集中-1と同范。
4号集中-1	瓦				軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。2号集中-2と同范。
4号集中-2	瓦				軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。
4号集中-3	骨角製品	残長 2.4		幅 0.2	篋状製品。全面に研磨を施す。
4号集中-4	骨角製品				篋状製品。全面に研磨を施す。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
5号集中-1	磁器	(8.6)	3.2	4.1	染付。碗。瀬戸美濃系? 1820年代~幕末。胎土は透明感がある。器形は端反。外面、富士に帆掛舟。呉須の発色は鮮やか。
5号集中-2	陶器	7.2	4.9	9.4	水注。産地不明。18c~幕末。胎土は灰白色。外面白土・鉄で菊花文。内面透明釉。外面灰釉。高台無釉。
5号集中-3	陶器	7.0	4.9	1.3	蓋。瀬戸美濃。18c~幕末。胎土は黄白色。下面糸切痕? 上面灰釉。
5号集中-4	陶器	4.3	9.1	19.5	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。
5号集中-5	陶器	-	8.4	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
5号集中-6	陶器	-	10.2	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
5号集中-7	陶器	-	-	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。釘書点刻「卍」。
5号集中-8	陶器	-	10.2	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「卍」、墨を入れる。
5号集中-9	銅製品				新寛永(波銭:文政小字背一直短波)。1818年初鑄。カツ縁。腐食浅い。
6号集中-1	陶器	4.1	-	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。
6号集中-2	銅製品				新寛永(享保仙台石ノ巻銭異書長通)。1728年初鑄。背カツ縁。織字。歪む。
9号集中-1	磁器	6.9	3.4	5.0	白磁。碗。瀬戸(肥田)。1855~1869。胎土は透明感がある。見込に型打による寿字文。高台内に型打による銘有。口鏝。
9号集中-2	陶器	3.4	-	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。二次的に被熱。
9号集中-3	陶器	-	6.3	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
9号集中-4	陶器	-	10.8	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。二次的に被熱。
9号集中-5	陶器	4.3	-	-	徳利。備前。時期不明。外面ロクロ目残す。外面自然釉。
9号集中-6	土製品	径 1.9		厚 0.6	基石。手づくね成形。黒色塗彩?
9号集中-7	ガラス製品				暗緑。角形瓶側部。型作りの際にできた皺状の跡が表面に認められる。
11号集中-1	陶器	17.2	11.5	16.7	甕。丹波? 18c後半~幕末。胎土は灰白色。内外面柿釉、高台無釉。目痕内面3ヶ所。
11号集中-2	陶器	蓋:4.6 身:5.9	4.8 5.9	1.6 9.4	土瓶。産地不明。18c後半~幕末。胎土は灰色。身底部、足3個貼付。身外面・蓋上面灰釉。身底部無釉。底部スス付着。
AB柱穴類-1	陶器	-	(3.6)	-	碗。瀬戸美濃。18c中葉~19c前半。胎土は灰褐色。外面鉄釉で桁文。内外面灰釉、高台無釉。
AB柱穴類-2	土器	(6.4)	-	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。「天下一堺ミなど藤左衛門」銘。内面布目痕。
AB柱穴類-3	土製品	径 2.2		厚 0.6	基石。手づくね成形。不整形。表面摩耗。
AB柱穴類-4	銅製品	厚 0.1			用途不明。円盤状か。腐食ひどく、大半欠損。鏝付着。歪む。
AB柱穴類-5	徳利				
AB柱穴類-6	石製品	長 - 幅 - 厚 -			茶臼。斑レイ岩。研磨整形。
AB柱穴類-7	陶器	(9.4)(3.6)	5.3		碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は灰白色で焼きしまる。外面鉄で若杉文。内外面透明釉、高台無釉。高台内墨書有。

遺物番号	種別	計測値			特徴
AB 柱穴類-8	陶器	7.2	5.6	2.2	蓋。産地不明。18c後半～幕末。胎土は褐色。つまみは菊花状を呈する。上面鉄釉。
AB 柱穴類-9	銅製品				新寛永(文銭?)。1668年初鑄。永・宝字含む1/2残欠品。背、カツ縁・広郭。腐食浅い。歪む。
AB 柱穴類-10	土製品	径 1.9		厚 0.6	基石。手づくね成形。
AB 柱穴類-11	土製品	径 2.1		厚 0.7	基石。手づくね成形。不整形。黒色塗彩? 表面摩耗。
AB 柱穴類-12	石製品	径 2.1		厚 0.5	基石。粘板岩。二次的に被熱し赤化。黒石。研磨整形。
AB 柱穴類-13	磁器	5.5	2.8	2.3	染付。蓋物。肥前。1690～1750年代。疊付は幅広。外面体部に濃みで丸を描く。口唇部釉剥ぎ。
AB 柱穴類-14	陶器	—	5.3	—	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉。
AB 柱穴類-15	土器	口径 a (6.7)		高 2.0	焼塩壺。蓋 II b 類。内面粗い布目痕。口径 b 7.7 cm (推)。
AB 柱穴類-16	瓦				軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。4号井戸-75と同范。
1号溝-1	磁器	17.5	10.1	3.6	青磁。皿。肥前。1650～1680年代。型打整形。貼付高台。内面に型打による葉脈文様。釉は暗緑色。19号地土-1と同型?
1号溝-2	磁器	—	—	—	色絵。鉢。中国。16c末～17c前半。胎土は緻密。内外面に色絵(赤, 緑ほか)による草花文。釉は厚い。二次的に被熱。18号地土-10と同一個体?
1号溝-3	陶器	口径 11.5		高 5.0	蓋。産地不明。18c～19c。胎土は褐色。上面・下面内側に鉄釉。つまみ部に薬灰釉流しかけ。最大径 16.6 cm。
1号溝-4	石製品	径 2.1		厚 0.5	基石。粘板岩。黒石。研磨整形。
1号溝-5	銅製品				北宋銭(大観通宝)。対読。模鑄銭か。1107年初鑄。腐食ひどく、輪 2/3 剥落、銭文判読困難。

### 3. C・D区の遺構および遺構内出土の人工遺物（図122～134,表6・7）

C・D区として本項にまとめた区域は、C1～C6およびD1～D6グリッドである。北側地区は、化学館旧館北棟の基礎工事により現表下約2～4.3mまで攪乱を受けており、遺構は検出できなかった。

C・D区においては、地下式土坑1基、報告Noを付した土坑15基、報告Noを付さなかった柱穴および小土坑98基が検出された。C・D区においては、調査区域内の他の地区と較べると、遺構の密度は粗である。土坑はD4・D5グリッドに集中する傾向が認められるが、重複はあまり激しくない。土坑は、一部に江戸時代後期のものが認められるものの、A・B区、E・F・G区に比して古い遺物を伴うものが多い。

これより、主な遺構についての所見を記載する。なお、文章による記載のない土坑については、表6を参照していただきたい。（秋元）

**9号地下式土坑**（図123～126） 9号地下式土坑は、C5・C6・D5・D6グリッドに位置する。確認面の標高は、約16.0mで、主軸は、N-69°-Wである。9号地下式土坑は、本遺跡で確認された他の地下式土坑と較べて、その形態が大きく異なる。入口部は不整形で、南東に大きくオーバーハングして階段を作り、室部にいたる。又、入口部の下にロームを盛土し、際に石3個をはめ込んで、階段を一段形成する。階段は、このロームの盛土も含めて、4段を有する。床面は不整形長方形を呈し、その標高は、約13.9mである。覆土はロームを含み、上層には、貝殻や動物遺存体が多量に含まれる。床面の東隅には、開口部の長径約70cm、短径約20cm、奥行き約60cmの、北東に大きくオーバーハングするピットを有する。また、北壁の一部を穿ち、幅約10cm、奥行き約15cmの棚を作る。この棚は、照明具などを置くために使用したと考えられる。壁面全体に、荒い掘り具痕が残されている。

本遺構は他の遺構との重複は確認されなかったが、入口部を攪乱により破壊されている。

遺物は、1650～1670年代の肥前磁器が中心である。その大部分が、上層から出土している。9号地下式土坑-5（図124）は、1号井戸-7（図16）と同一文様の個体であると考えられる。また、多量の動物遺存体も出土している。

以上の点から、本遺構の廃棄年代は、1650～1680年代と考えられる。構築年代については、不明である。（秋元）

**90号土坑(図133)** 90号土坑は、D6グリッドに位置する。確認面の標高は、約16.0mである。平面形は直径約72cmの円形を呈し、北東と南西には、小さな張り出しが作られる。張り出し部の底面の標高は、北東部が約15.8m、南東部が約15.6mである。本遺構の底面の標高は、約15.2mであり、直径は約37cmである。底面直上には、甕が埋設されていた。甕はひどく破損しており、底部約1/2が残存している。底部の直径は約36cmであり、土坑の底部に、ほぼすき間なく埋設される。

遺物のごくわずかであるが、図示した3点は、すべて17世紀代のものと考えられる。90号土坑-3(図133)は、底面直上に埋設されていた甕である。常滑の製品と思われる。

以上の点から、本遺構は17世紀代に構築され、廃棄されたと考えられる。また、遺構の性格は不明であるが、何らかの目的で、甕を埋設するために穿たれた土坑であると考えられる。

(秋元)

**C・D区柱穴および小土坑(図133・134)** C・D区からは、重複も含めて報告Noを付していない柱穴および小土坑が98基検出されたが、礎石を掘り込み内に設けたものは認められない。この他に、掘り込みを有しない偏平な石を2個確認したが、礎石であるか明確ではない。全体的な分布は、D5グリッドを中心にしてほぼ南北・東西方向へ直線的に並ぶものもあるが、攪乱(明治時代以降の柱穴)と対応する位置に分布する柱穴も存在するので、明確に江戸時代の建築物を推定できそうな柱穴群は認められない。C・D区は、明治時代以降の柱穴が多数検出されている。明らかに明治以降と判断できるものについては図示しなかったが、時期の判明しないものについては、図134に加えてある。従って、図示した中にも近代以降の柱穴が含まれている可能性がある。

遺物を検出した柱穴および小土坑は少なく、出土量も僅かである。実測可能な遺物(図133)の出土位置は、図134に遺物番号で示してある。

(山口)



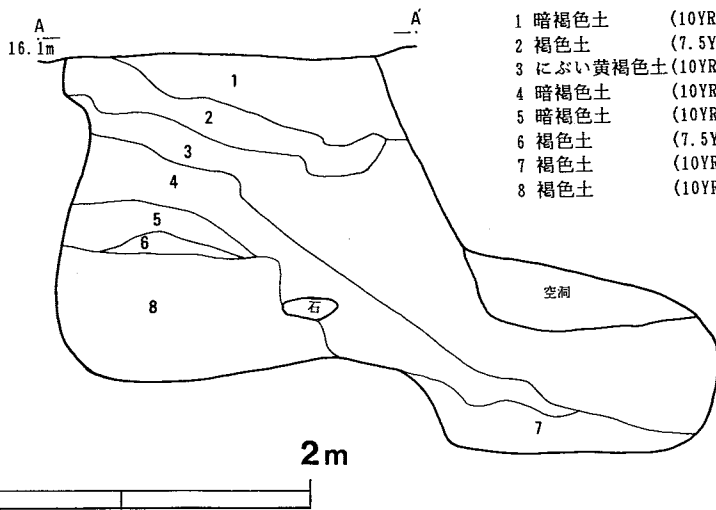
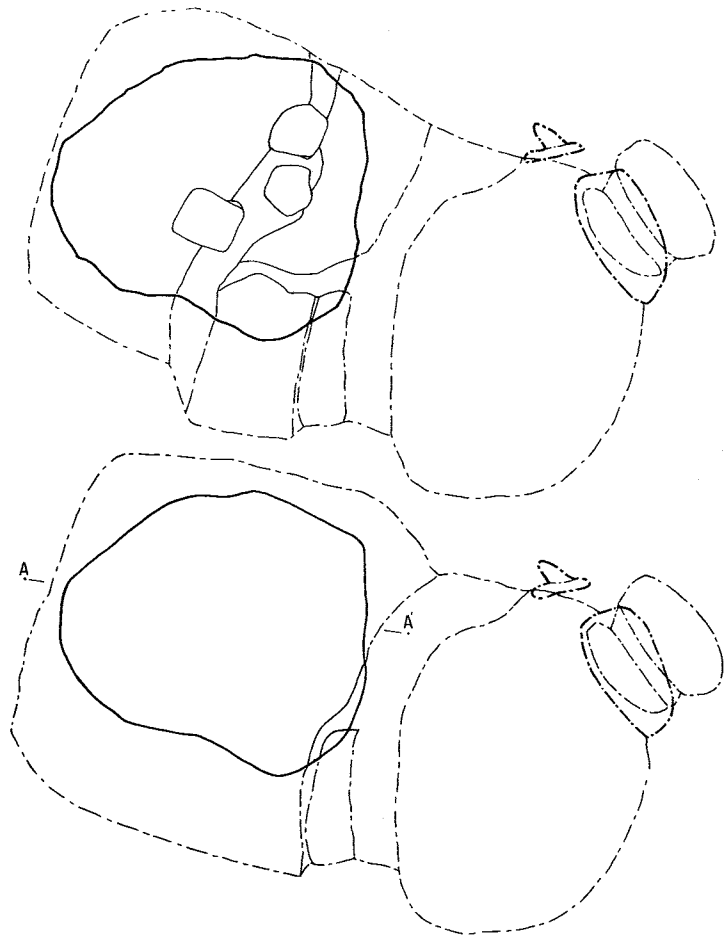
表6 C・D区土坑一覧表

註) 計測値の  は現存長, ( )は推定長。

Table 6 List of pits in grid rows C and D

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重 複 関 係
76	C3・D3	117	<u>96</u>	35	15.7	平面円形。壁は緩やかに立ち上がり、底はほぼ平坦。	17c?	————
77	C5	87	60	16	15.8	平面楕円形の浅い掘り込み。	————	柱穴と重複。
78	C6	<u>88</u>	<u>59</u>	26	15.6	平面形不明の浅い掘り込み。	————	————
79	D3	<u>83</u>	(80)	36	15.6	平面隅丸長方形か。主軸方向はN-64°-W。壁は急傾斜で立ち上がり、底は西側へ傾斜する。	————	————
80	D3・D4	70	52	22	15.7	平面楕円形の浅い掘り込み。	18c?	柱穴と重複。
81	D5	84	80	14	15.9	平面楕円形の浅い掘り込み。	18c	柱穴より新。
82	D5・E5	78	55	14	15.8	平面楕円形の浅い掘り込み。	17c~18c	————
83	D4・D5	208 <u>165</u>	145 114	101 74	15.0 15.2	2基の切り合いか。平面長方形の土坑は、主軸方向N-65°-W、壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。平面楕円形の土坑は、主軸方向南北方向、壁は緩やかに立ち上がり、底は南側へ傾斜する。	17c~18c	84号土坑、柱穴より古。
84	D4	111	<u>69</u>	35	15.6	平面方形か。壁は緩やかに立ち上がり、底はほぼ平坦。	————	83号土坑より新。
85	D5	<u>66</u>	<u>64</u>	29	15.7	平面方向か。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	17c	86号土坑より新。 87号土坑より古。 柱穴と重複。
86	D5	<u>60</u>	31	21	15.7	平面楕円形の浅い掘り込み。	————	85・87号土坑より古。
87	D5	<u>100</u>	<u>72</u>	11	15.8	平面楕円形の浅い掘り込み。	————	85・86・88号土坑より新。柱穴と重複。
88	D5・D6	128	126	33	15.6	平面円形。壁は緩やかに立ち上がり、底はほぼ平坦。	18c	87号土坑、柱穴より古。柱穴と重複。
89	D5・D6	142	73	75	15.1	平面隅丸長方形。主軸方向はN-23°-E。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	17c	柱穴と重複。
90	D6	77	70	43	15.5	平面円形。壁は垂直に立ち上がり、上半部で外へ開く。東西両壁に径15cm、深さ15と40cmのピットが一对有。底はほぼ平坦で、大型の甕を埋設。	17c	————





- 1 暗褐色土 (10YR3/4)
- 2 褐色土 (7.5YR4/4) 貝を多量に含む。
- 3 にぶい黄褐色土 (10YR4/3)
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) 粘土粒を多量に含む。
- 5 暗褐色土 (10YR3/4) 貝を含む。
- 6 褐色土 (7.5YR4/4) ロームブロック主体。
- 7 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック主体。
- 8 褐色土 (10YR4/6) ローム主体。盛土。

図 123 9号地下式土坑

Figure 123 Cellar No.9

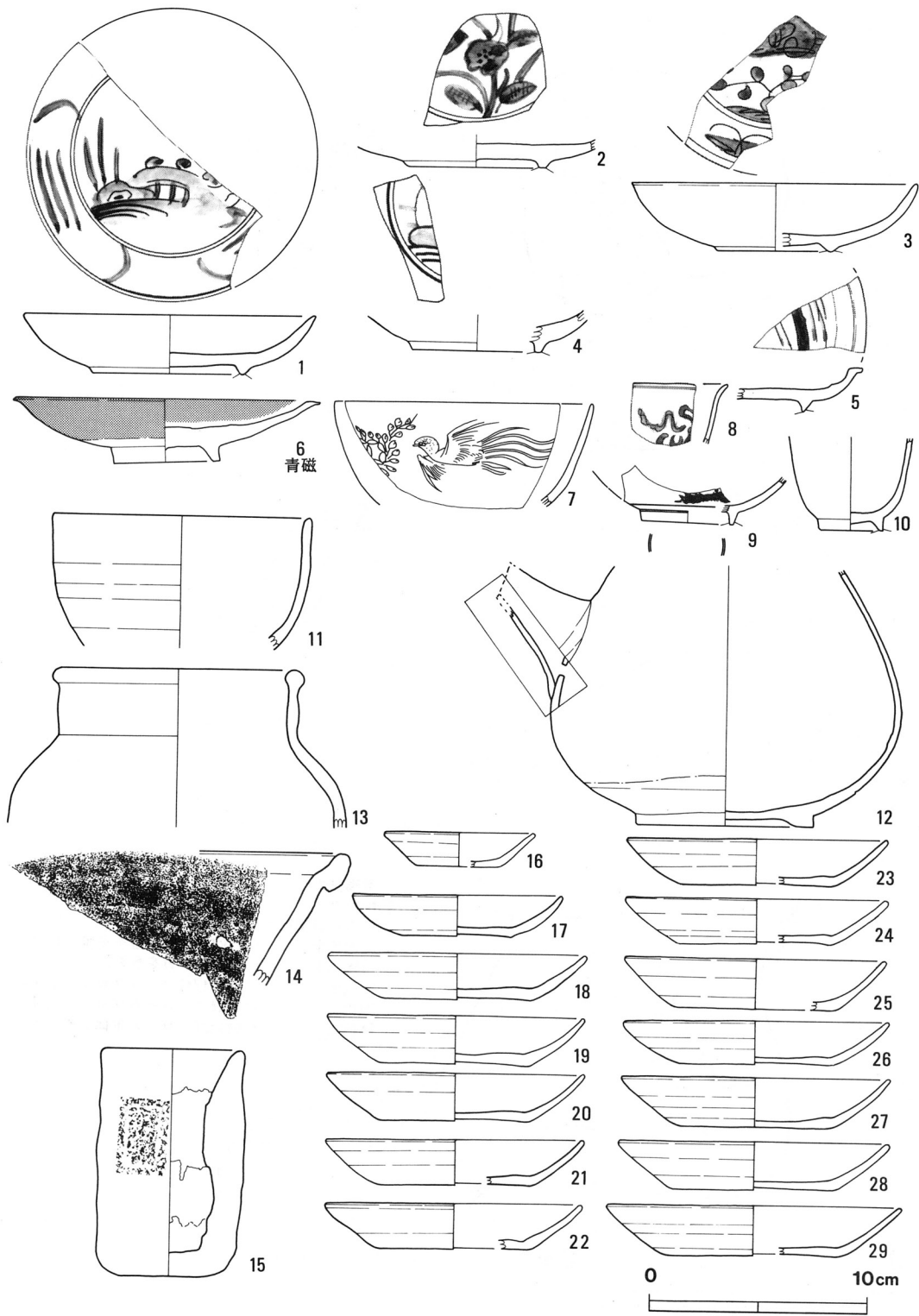
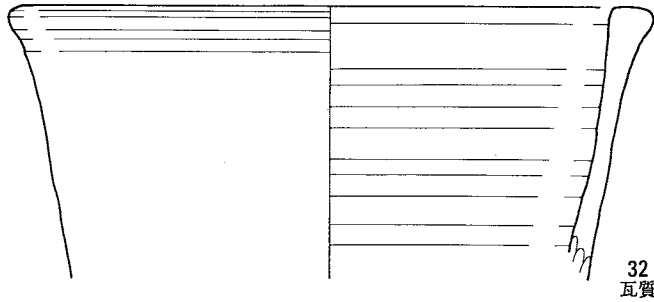
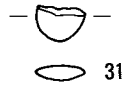
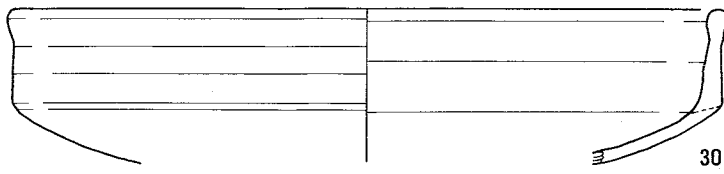
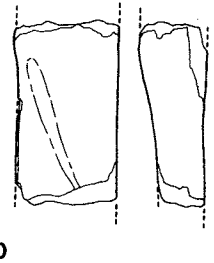


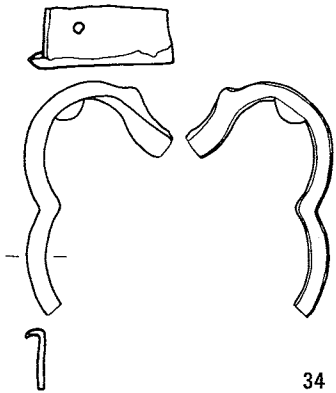
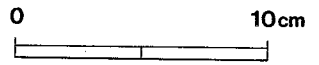
图 124 9号地下式土坑出土遗物(1)  
Figure 124 Artifacts from Cellar No. 9



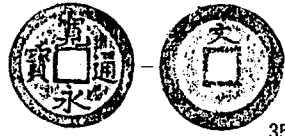
32  
瓦質



33



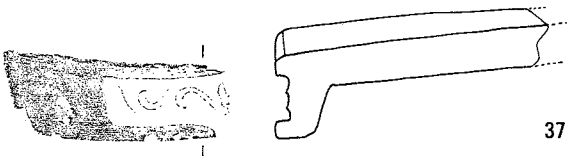
34



35



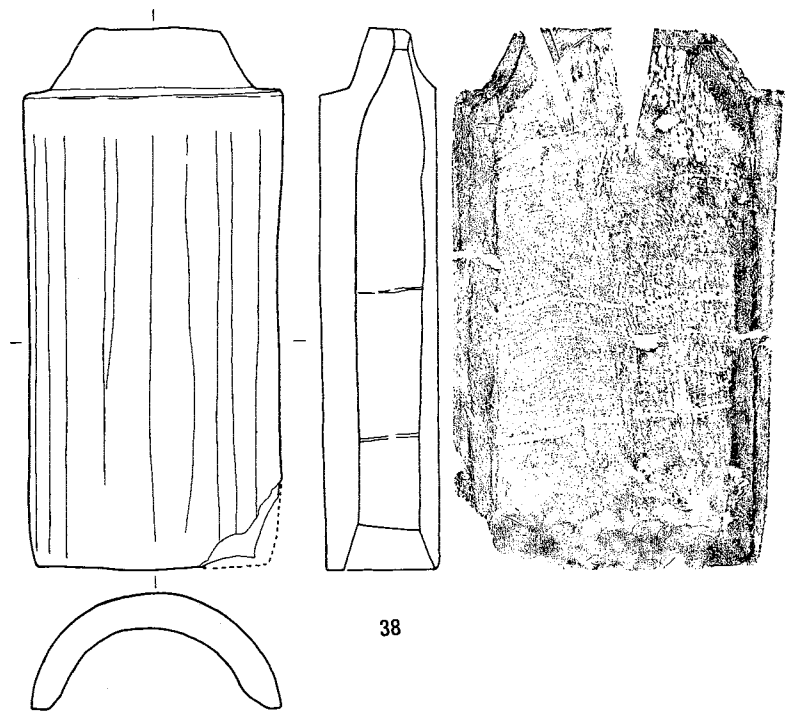
36



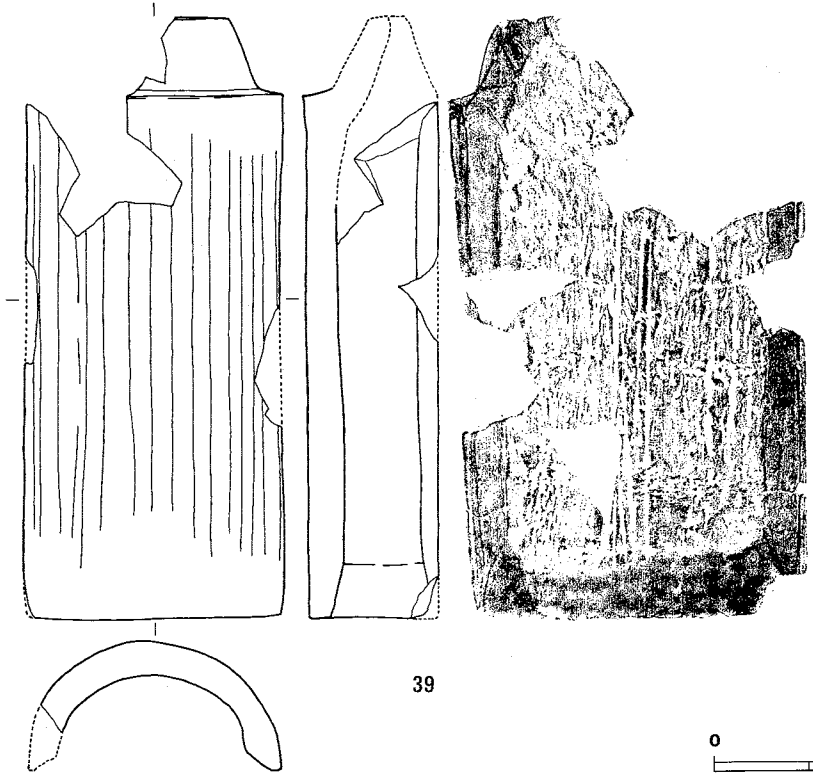
37



图 125 9号地下式土坑出土遺物(2)  
Figure 125 Artifacts from Cellar No. 9



38



39



图 126 9号地下式土坑出土遗物 (3)  
Figure 126 Artifacts from Cellar No.9

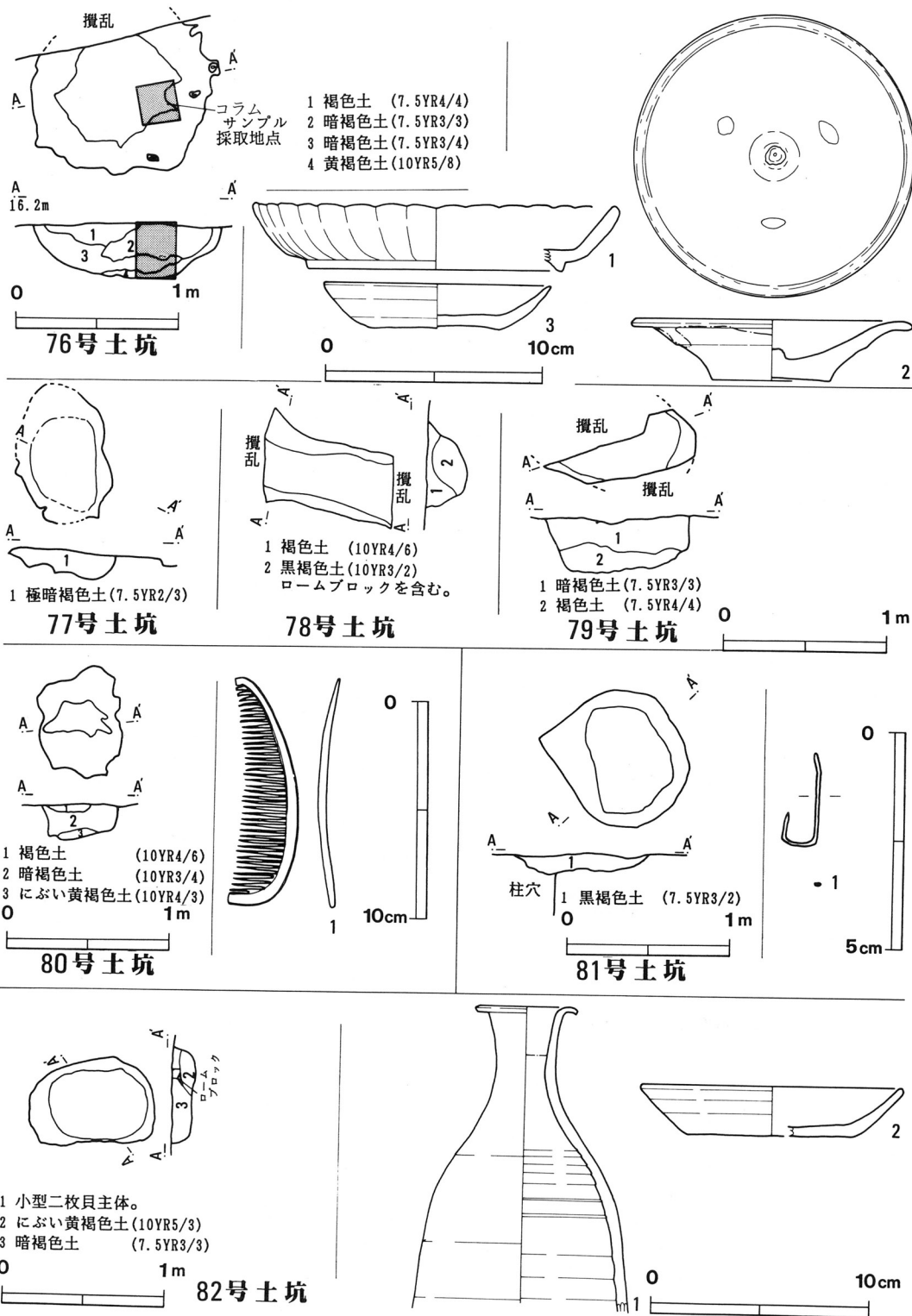
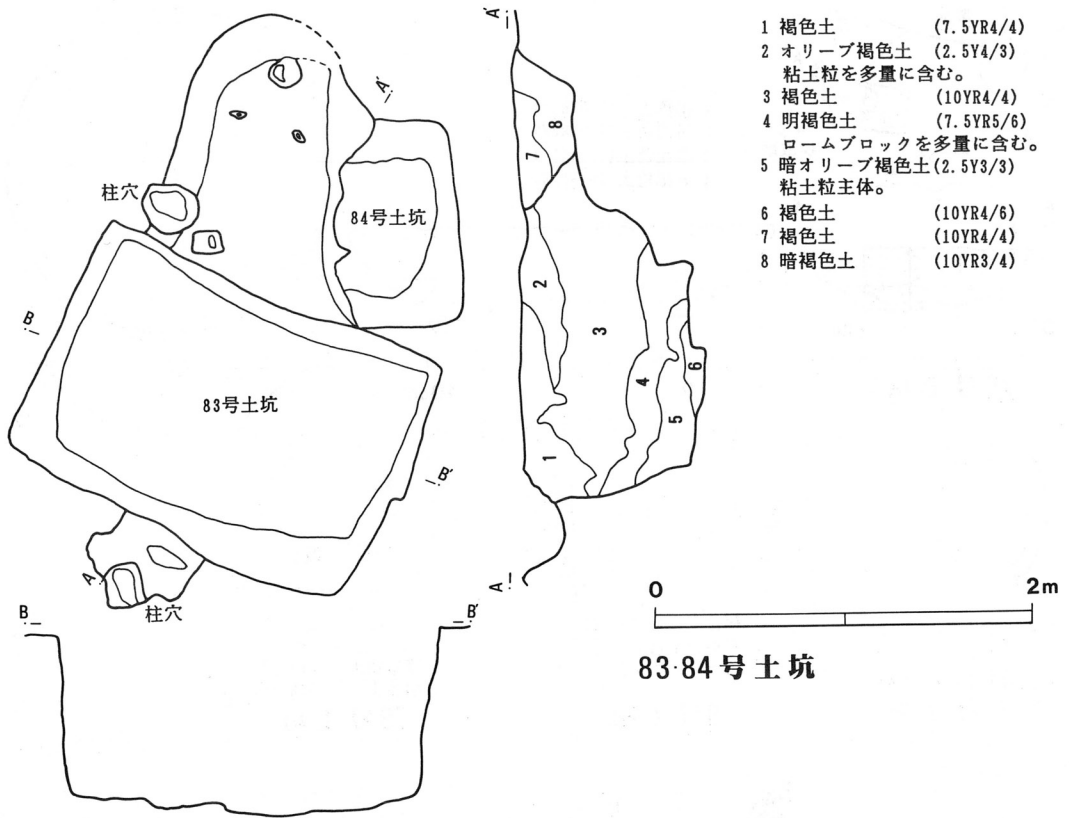


図 127 76~82号土坑, 76・80・81・82号土坑出土遺物  
Figure 127 Pits No.76-82 and artifacts from Pits No. 76・80・81 and 82



- 1 褐色土 (7.5YR4/4)
- 2 オリーブ褐色土 (2.5Y4/3)  
粘土粒を多量に含む。
- 3 褐色土 (10YR4/4)
- 4 明褐色土 (7.5YR5/6)  
ロームブロックを多量に含む。
- 5 暗オリーブ褐色土 (2.5Y3/3)  
粘土粒主体。
- 6 褐色土 (10YR4/6)
- 7 褐色土 (10YR4/4)
- 8 暗褐色土 (10YR3/4)

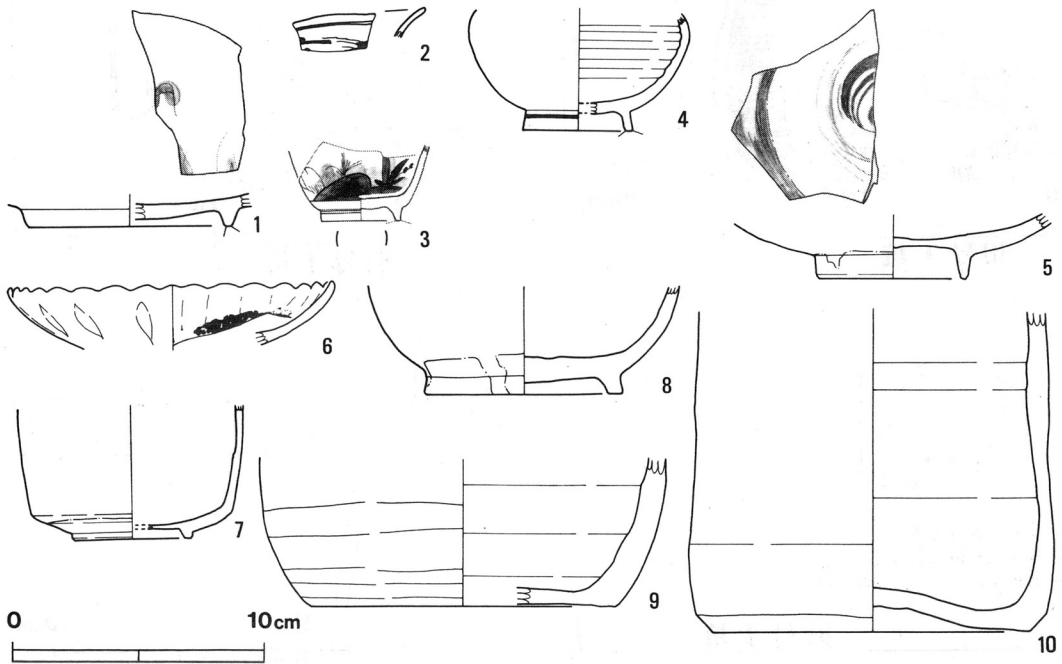


图 128 83・84号土坑, 83号土坑出土遺物(1)

Figure 128 Pits No.83 and 84, and artifacts from Pit No.83



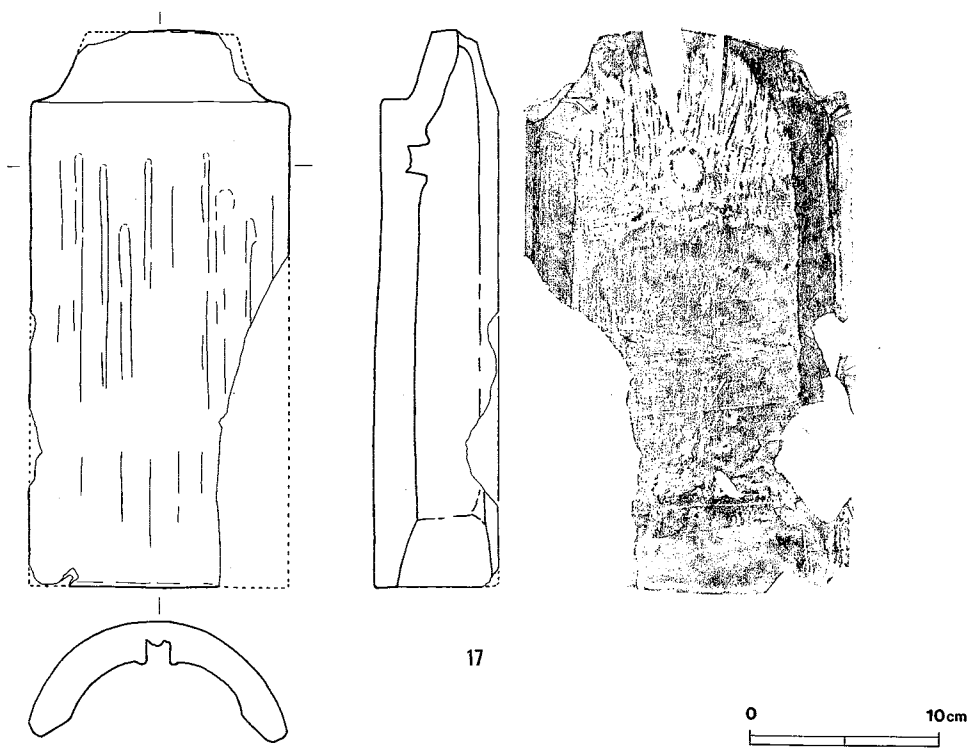
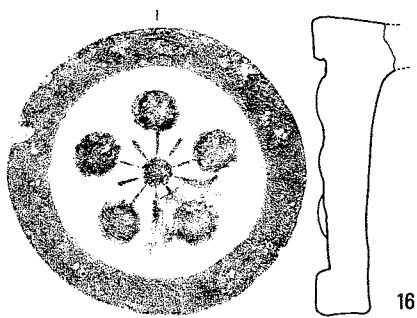
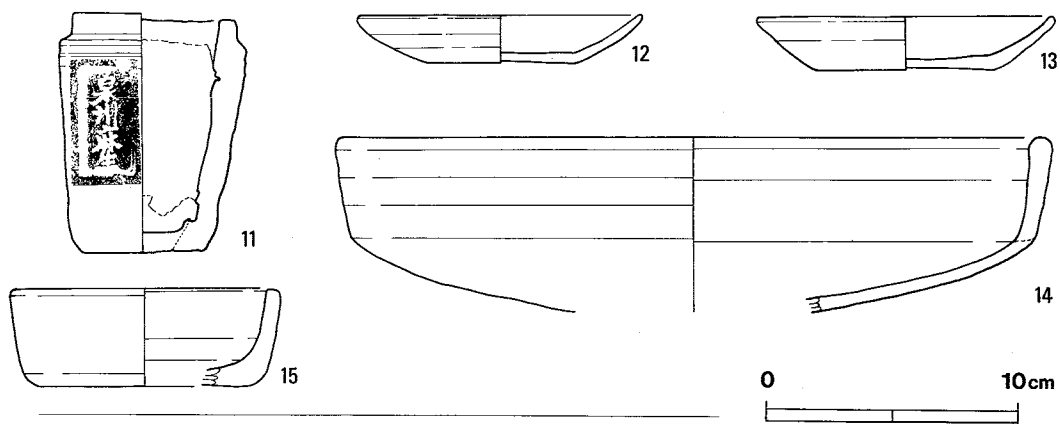


图 129 83 号土坑出土遗物 (2)  
Figure 129 Artifacts from Pit No.83

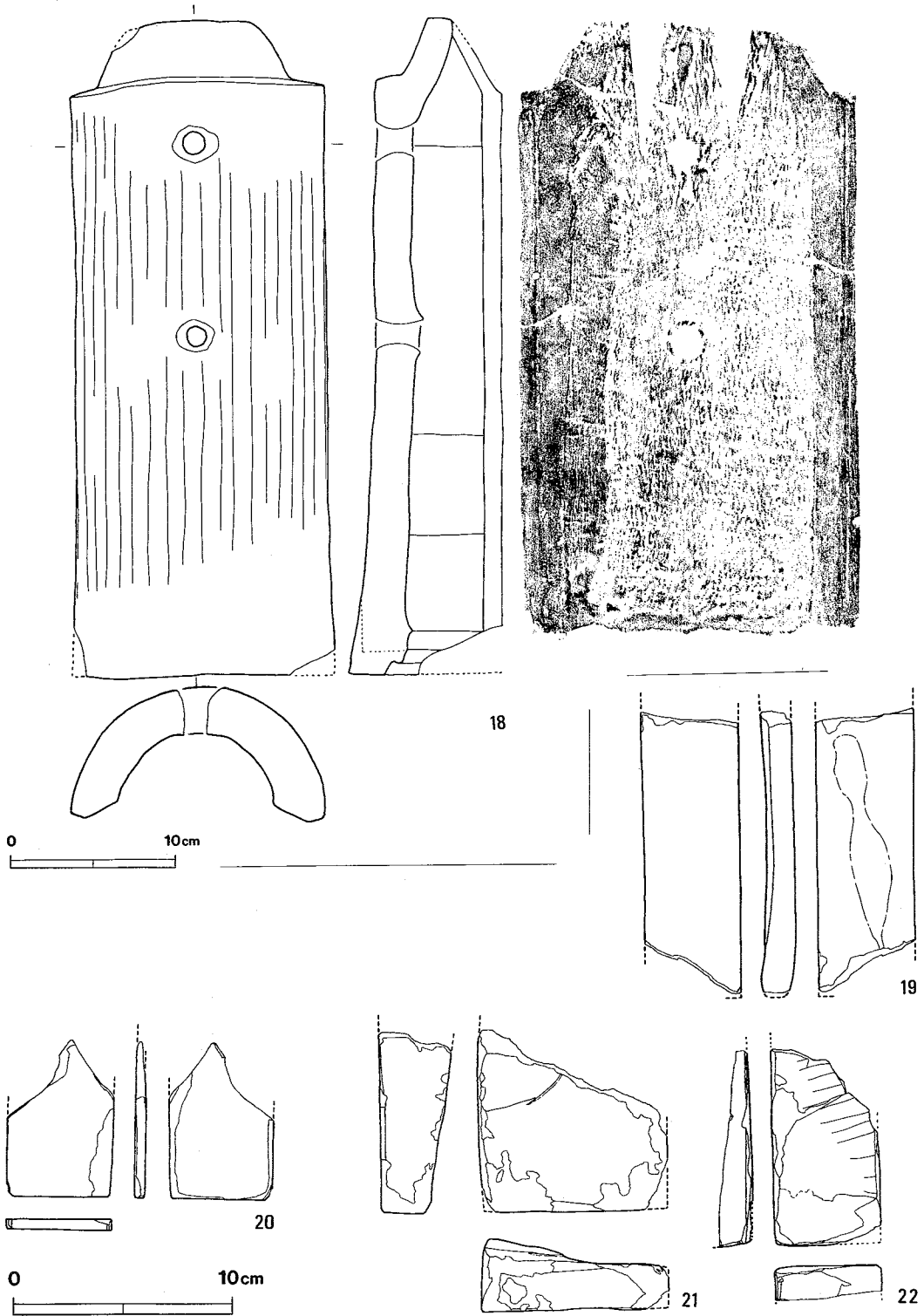


图 130 83 号土坑出土遗物 (3)  
Figure 130 Artifacts from Pit No. 83

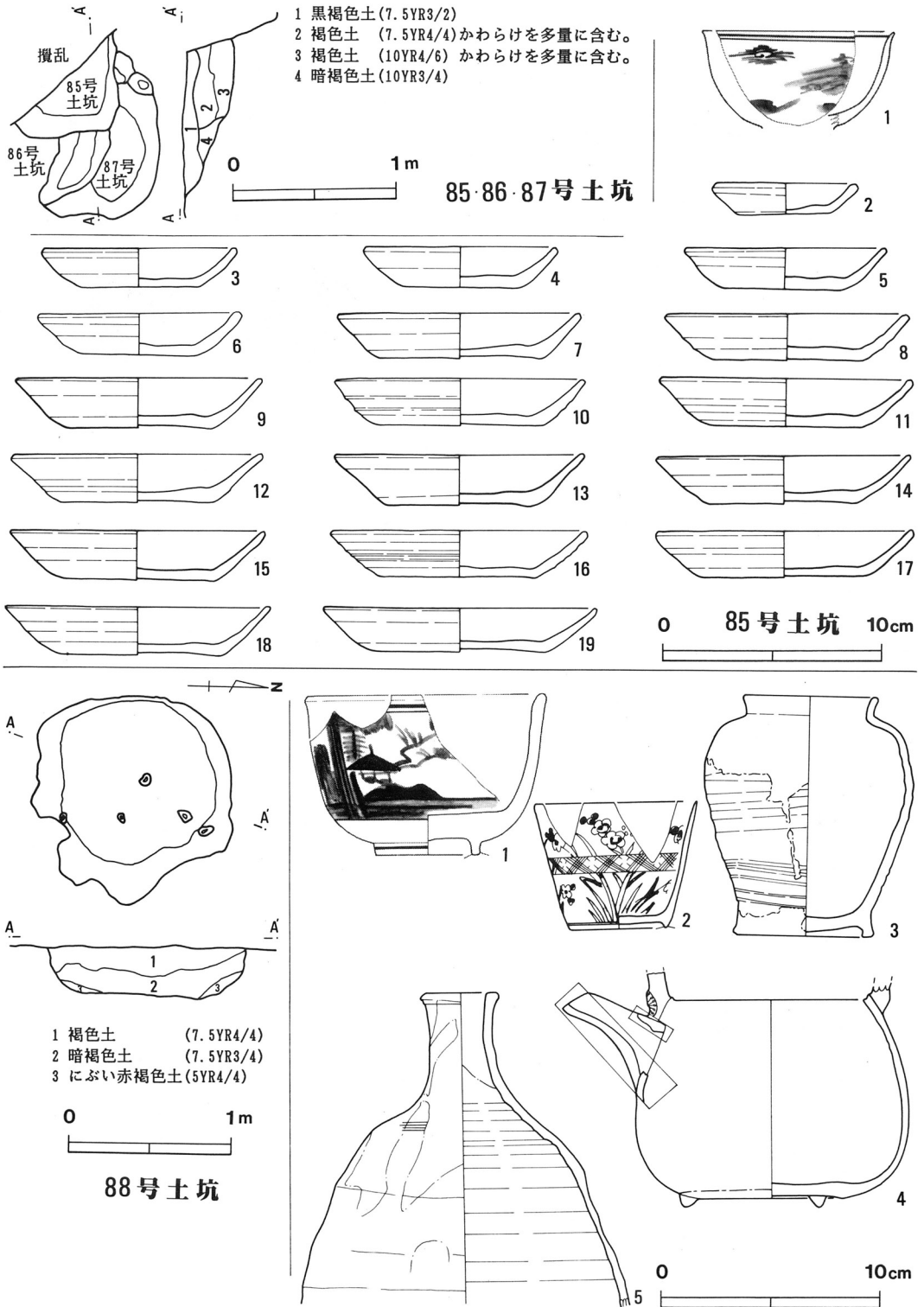
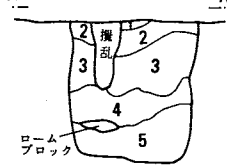
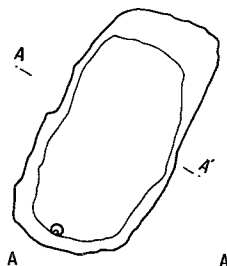
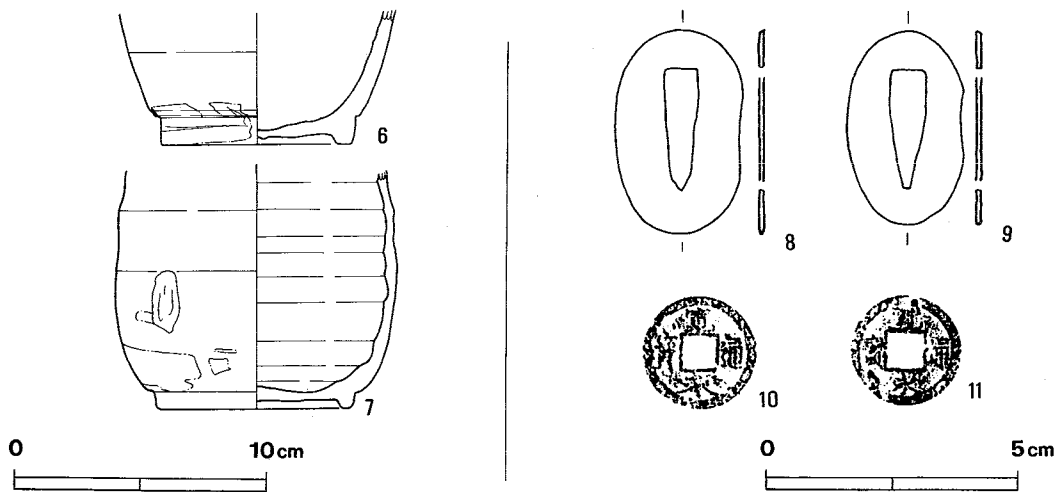


图 131 85~88号土坑, 85号・88号(1)土坑出土遺物  
Figure 131 Pits No.85-88, and artifacts from Pits No.85 and 88



- 1 黒褐色土(10YR2/3)
- 2 暗褐色土(10YR3/4)
- 3 褐色土 (10YR4/4)
- 4 暗褐色土(10YR3/4)



89号土坑

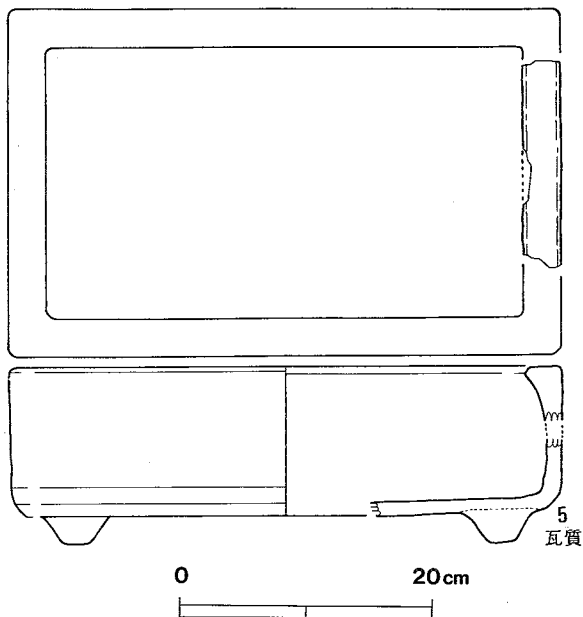
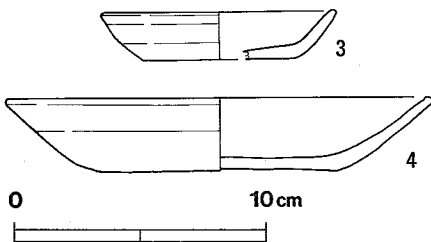
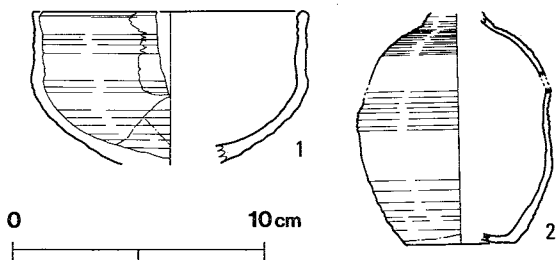


图 132 89号土坑, 88号(2)・89号土坑出土遺物  
 Figure 132 Pit No.89, and artifacts from Pits No.88 and 89

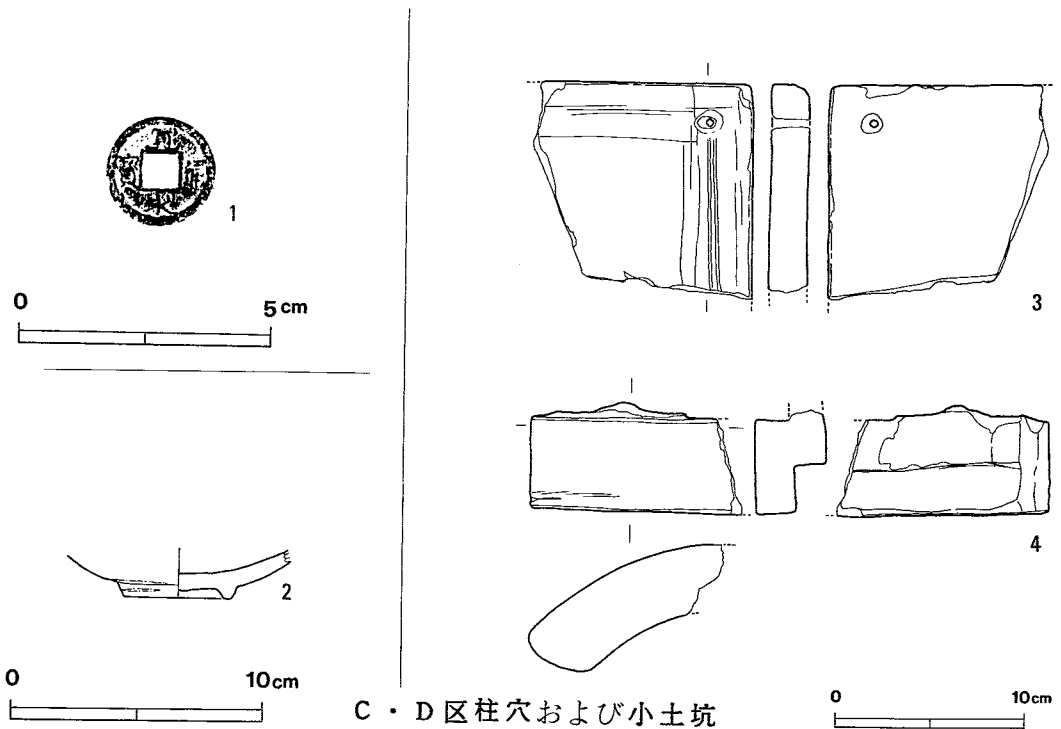
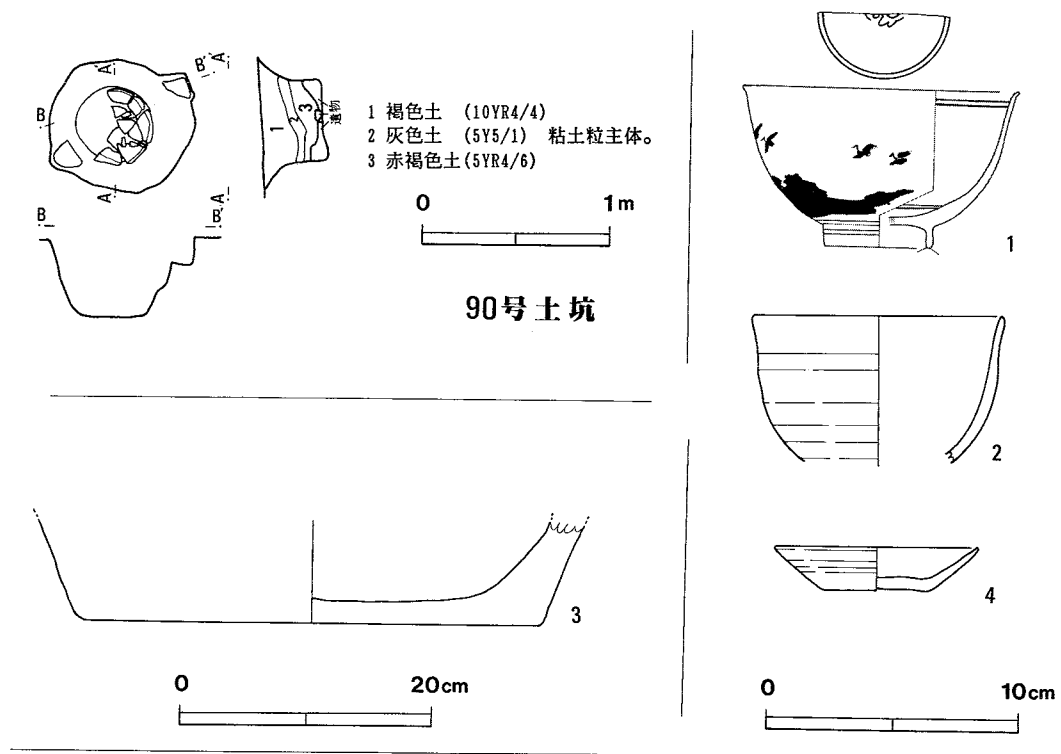


図 133 90号土坑, 90号土坑・C・D区柱穴および小土坑出土遺物

Figure 133 Pit No.90, artifacts from Pit No.90, and artifacts from post molds and small pits in grid rows C and D

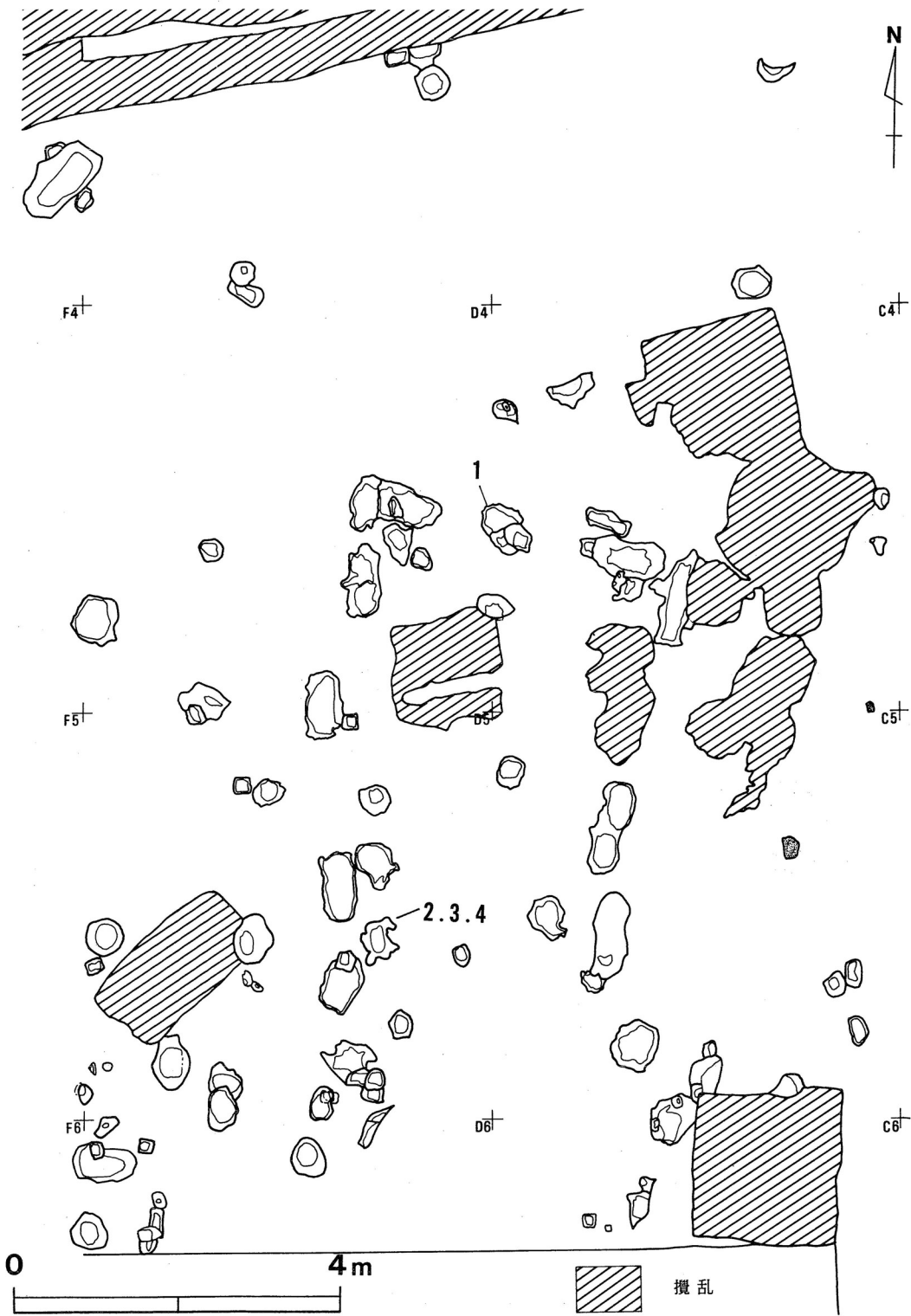


图 134 C・D 区柱穴および小土坑配置图

Figure 134 Post molds and small pits in grid rows C and D

表7 C・D区遺構内出土遺物観察表

(計測値は、特に記載のない限り、口径、底径、高さである。)

Table 7 Description of individual artifacts from features in grid rows C and D

遺物番号	種別	計測値			特徴
9号地土-1	磁器	(13.6)	7.1	2.7	染付。皿。肥前。1650~1660年代。胎土は灰色味を帯びる。見込水車文。畳付に砂熔着。
9号地土-2	磁器	—	(7.4)	—	染付。皿。肥前。17c中葉。見込、草花文。釉はやや青味を帯びる。畳付に砂熔着。
9号地土-3	磁器	(13.0)	(5.2)	3.2	染付。皿。肥前。1640~1650年代。内面体部蝶文。見込、鹿文。畳付に砂熔着。
9号地土-4	磁器	—	(6.0)	—	染付。皿。肥前。1640年代頃。型打整形。具須の発色は一部暗緑色。畳付に砂熔着。
9号地土-5	磁器	—	—	(2.2)	染付。皿。肥前。1650~1680年代。口縁部折縁。見込、柳文。1号井戸-7と同一文様?
9号地土-6	磁器	14.2	5.1	3.3	青磁。皿。肥前。17c中葉~後半。外反。見込、蛇の目釉剥ぎ。高台無釉。内外釉面に貫入が入る。
9号地土-7	磁器	(11.9)	—	—	染付。碗。肥前。17c後半? 外面鳳凰文。
9号地土-8	磁器	—	—	—	色絵。碗。肥前。17c後半。口縁部外反。外面、口縁部に二重染付圏線、体部色絵。
9号地土-9	磁器	—	(4.2)	—	染付。碗。肥前。1670~1690年代。薄手。外面体部、芝垣に草文。高台内、二重圏線。
9号地土-10	磁器	—	(3.0)	—	白磁。碗。肥前。17c後半~18c前半。高台脇に放射状の削り痕。釉はやや青味を帯びる。
9号地土-11	陶器	(11.8)	—	—	碗。瀬戸美濃。17c? 胎土は黄白色。内外面透明釉、貫入が入る。
9号地土-12	陶器	—	8.1	—	土瓶。産地・年代不明。胎土は灰色。高台削り出し。内外面灰釉。高台無釉。底部煤付着。
9号地土-13	陶器	(10.8)	—	—	壺。肥前。17c。胎土は灰色。外面、白化粧土の地に銅緑釉を施し、その上に透明釉。内面鉄釉、口縁部透明釉。
9号地土-14	陶器	—	—	—	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。口縁端部に縁帯。楕目不明。鉄釉。
9号地土-15	土器	6.6	5.6	10.5	焼塩壺。身A2類。内外面若干赤化。「天下一堺ミなど藤左衛門」銘。内面布日痕。底面棒状痕。
9号地土-16	土器	(7.0)	(3.8)	(1.6)	かわらけ。底部回転糸切(左)。
9号地土-17	土器	(9.8)	5.1	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。墨書「一」。煤付着。
9号地土-18	土器	12.0	6.8	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
9号地土-19	土器	12.0	7.0	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
9号地土-20	土器	(12.0)	7.0	2.2	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
9号地土-21	土器	(12.0)	(6.8)	2.1	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
9号地土-22	土器	(12.0)	(6.8)	2.1	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。
9号地土-23	土器	(12.1)	(7.1)	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。
9号地土-24	土器	(12.1)	(7.1)	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。
9号地土-25	土器	12.1	7.1	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。
9号地土-26	土器	(12.3)	7.0	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。
9号地土-27	土器	12.4	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。
9号地土-28	土器	(12.6)	(7.6)	2.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
9号地土-29	土器	(13.8)	(8.0)	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左?)。
9号地土-30	土器	(28.6)	(28.3)	—	焙烙。土師質。外面と内面底に一部煤付着。口縁下部にへラケズリ。底面ちぢれ目。
9号地土-31	土製品	径 2.0	厚 0.6	—	基石。手づくね成形。黒色塗彩? 2/5欠損。

遺物番号	種別	計測値			特徴
9号地土-32	土器	(25.6)	-	-	植木鉢か。瓦質。
9号地土-33	石製品	長	幅 4.2	厚 2.7	砥石。流紋岩。荒砥。砥面は表裏面と両側面。溝状擦痕は表面長軸方向、裏面各方向。重量 115g。
9号地土-34	銅製品	高 1.2			引手具。破片。腐食浅い。歪む。
9号地土-35	銅製品				新寛永(文銭：寛文亀戸銭正字)。1668年初鑄。背カツ縁。腐食進行。
9号地土-36	銅製品				新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭ケイ永広寛)。1708年初鑄。腐食進行。
9号地土-37	瓦				軒平瓦。均整唐草文。
9号地土-38	瓦				丸瓦。玉縁に刺子b・体部は不明。コビキ痕明瞭。棒状圧痕2本。
9号地土-39	瓦				丸瓦。玉縁から木口に向かって刺子b→aに変化、横方向の刺子加わる。模骨痕。棒状圧痕5本。
76号土坑-1	陶器	(16.6)(11.8)	3.0		皿。産地・年代不明。型打菊皿。胎土は黄白色。畳付を除き長石釉。内面低火度釉で上絵付?
76号土坑-2	陶器	(12.4)	5.4	2.8	蓋? 瀬戸美濃。18c~幕末。胎土は淡灰褐色。下面右回転糸切り痕。上面錆釉。目痕上面3ヶ所。
76号土坑-3	土器	10.6	5.8	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
80号土坑-1	鼈甲製品	縦 2.7	横 10.4	幅 0.3	櫛。鼈甲製。片端の幅が狭い。両面に弧線が線引きされ、それを目安として歯38本を研ぎ出す。
81号土坑-1	銅製品	長 3.5	径 0.1		釣針。腐食進行。釘の転用か。
82号土坑-1	陶器	4.0	-	-	徳利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面灰釉。
82号土坑-2	土器	(12.1)	(7.4)	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
83号土坑-1	磁器	-	(8.0)	-	呉須赤絵。皿。中国。17c前半。内面に色絵。高台内無釉。畳付に砂熔着。
83号土坑-2	磁器	-	-	-	染付。杯。中国。17c前半。胎土は緻密。薄手。口縁部外反。外面山水文。2号井戸-1と同一文様。
83号土坑-3	磁器	-	(3.1)	-	染付。碗。肥前。17c後半。外面草花文。高台内一重圈線。
83号土坑-4	磁器	-	(4.4)	-	色絵。瓶。肥前。17c後半。外面体部に色絵の痕跡。高台部に赤絵による一重圈線。
83号土坑-5	陶器	-	5.8	-	皿。肥前。18c前半~中葉。胎土は淡赤褐色。内外面とも白土による刷毛目を施した上に透明釉。見込蛇の目釉剥ぎ。
83号土坑-6	陶器	(12.9)	-	-	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c。型打菊皿。胎土は灰色。外面、花卉状の刻目を施す。内面灰釉流しかけ。内外面透明釉。
83号土坑-7	陶器	-	(4.6)	-	碗? 産地・年代不明。胎土は灰色。内外面鉄釉。高台無釉。
83号土坑-8	陶器	-	7.8	-	壺。瀬戸美濃。17c? 胎土は黄白色。外面鉄釉。内面灰釉。高台無釉。目痕内面1ヶ所。
83号土坑-9	陶器	-	12.2	-	徳利。志戸呂。17c末?~18c前半。外面錆釉。
83号土坑-10	陶器	-	12.6	-	徳利。志戸呂。18c。外面錆釉。
83号土坑-11	土器	a 6.4	4.9	9.5	焼塩壺。身B類。内外面赤化。「泉州麻生」銘。内面布目痕。外面黒色付着物有。底面スグレ痕。口径 b7.5cm。
83号土坑-12	土器	11.4	6.0	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
83号土坑-13	土器	12.0	7.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。



遺物番号	種別	計測値			特徴
83号土坑-14	土器	(28.6)	(27.3)	—	焙烙。土師質。外面と内面底に煤附着。口縁下部にヘラケズリ。内耳痕有。底面ちぢれ目。
83号土坑-15	土器	(10.8)	(8.4)	3.9	器種不明。土師質。内外面煤附着。ヘラミガキ。
83号土坑-16	瓦				軒丸瓦。剣梅鉢紋。
83号土坑-17	瓦				丸瓦。玉縁付近に刺子b・体部木口より不明。釘穴を凸面より塞ぎ製作。コビキ痕明瞭。
83号土坑-18	瓦				軒丸瓦。周縁、丸瓦部が残存。釘穴2ヶ所。刺子b。模骨痕。
83号土坑-19	石製品	長	幅	4.5厚 1.6	砥石。砂岩。荒砥。砥面は表裏面。裏面に長軸方向の深い溝状擦痕。重量130g。
83号土坑-20	石製品	長	幅	4.9厚 0.5	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量20g。
83号土坑-21	石製品	長	幅	8.6厚 3.3	砥石。流紋岩。荒砥。砥面表裏面・左側と端部。溝状擦痕は表面短軸方向、裏面長軸方向。面取り。重量245g。
83号土坑-22	石製品	長	幅	4.8厚 —	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面である表面に欠損。裏面に平ノミ状痕。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量80g。
85号土坑-1	磁器	(8.8)	—	—	染付。碗。肥前。1640~1650年代。口縁部外反。外面山水文。内面口縁部一重圈線。釉はやや青味を帯びる。
85号土坑-2	土器	6.7	4.2	1.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。
85号土坑-3	土器	9.0	5.4	1.8	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「一」。
85号土坑-4	土器	9.0	5.0	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。
85号土坑-5	土器	9.3	5.5	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「一」。煤附着。
85号土坑-6	土器	9.4	5.4	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤附着。
85号土坑-7	土器	11.3	7.5	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「〇」。
85号土坑-8	土器	11.3	6.8	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。
85号土坑-9	土器	11.5	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤附着。
85号土坑-10	土器	11.6	7.4	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「十」。
85号土坑-11	土器	11.7	6.8	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「六」。煤附着。
85号土坑-12	土器	11.7	7.0	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「□(ちカ)や十五」。煤附着。
85号土坑-13	土器	11.7	7.0	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「ちや□□□□」。煤附着。
85号土坑-14	土器	11.8	6.7	2.2	かわらけ。底部回転糸切(右)。
85号土坑-15	土器	11.9	7.0	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤附着。
85号土坑-16	土器	11.9	7.0	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)、墨書「ちや十九」。煤附着。
85号土坑-17	土器	11.9	7.4	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書「七」。
85号土坑-18	土器	12.2	7.8	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)、墨書有。
85号土坑-19	土器	12.7	7.8	2.0	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤附着。
88号土坑-1	磁器	10.6	4.7	7.4	染付。碗。肥前。17c後半~18c初。陶胎。口縁部やや外反。外面山水文。内外釉面に貫入が入る。
88号土坑-2	磁器	7.6	4.5	5.8	染付。そば猪口。肥前。1700~1780年代。外面、中段に四方樺文をはさんで、草花文。
88号土坑-3	陶器	6.1	6.1	11.1	壺。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。内外面褐釉。肩部灰釉流しかけ。高台無釉。
88号土坑-4	陶器	8.6	6.6	—	銚子。産地不明。18c後半~幕末。胎土は淡灰褐色。底部足3個貼付。内外面灰釉だが、内面は薄く施す。底部無釉。目痕内面2ヶ所。

遺物番号	種別	計測値			特徴
88号土坑-5	陶器	3.2	-	-	徳利。瀬戸美濃。18c 前半～中葉。肩部に4条の沈線帯。外面鉄釉に灰釉流しかけ。釘書ベタ「天口」。
88号土坑-6	陶器	-	(7.5)	-	徳利。瀬戸美濃。18c 前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
88号土坑-7	陶器	-	7.4	-	徳利。瀬戸美濃。18c 前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。
88号土坑-8	銅製品				切羽。腐食浅く、側面一部剥落。長径4.0cm、短径2.5cm、内径0.8cm。
88号土坑-9	銅製品				切羽。腐食浅い。表面、繊維状物質付着。長径3.9cm、短径2.3cm、内径0.7cm。
88号土坑-10	銅製品				新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。腐食進行。
88号土坑-11	銅製品				新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭座寛)。1708年初鑄。腐食のため、銭文判読困難。
89号土坑-1	陶器	(10.8)	-	-	碗。瀬戸美濃。17c? 胎土は淡黄褐色。薄い作り。内外面灰釉、鉄釉流しかけ。高台無釉。
89号土坑-2	陶器	-	4.4	-	瓶。備前。17c? 胎土は暗赤褐色で炆器質。胴部中央2ヶ所を窪ませる。肩部から胴部上半に、細い沈線を施す。外面鉄釉。
89号土坑-3	土器	(9.4)	(6.0)	1.9	かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
89号土坑-4	土器	17.0	9.7	2.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。内面、口唇部直下有段。
89号土坑-5	土器	長軸(43.8)	高	14.0	火鉢。瓦質。外面ヘラミガキ。短軸27.4cm(推)。
90号土坑-1	磁器	10.8	4.2	6.3	染付。碗。肥前。17c 後半～18c 中葉。口縁部外反。外面雁文。内面口縁部に二重圈線。見込文様有。
90号土坑-2	陶器	(9.8)	-	-	碗。産地不明。17c。胎土は淡褐色。内外面長石釉。
90号土坑-3	陶器	-	(36.3)	-	甕。常滑? 17c。胎土は灰色で焼きしまる。外面厚く錆釉。底部無釉。
90号土坑-4	土器	8.1	4.3	1.7	かわらけ。底部回転糸切(右)。煤付着。
CD 柱穴類-1	銅製品				新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭フ頭チヨク)。1708年初鑄。腐食浅い。
CD 柱穴類-2	陶器	-	4.3	-	皿。肥前(内野山窯)。18c 前半～中葉。胎土は淡黄白色。内面銅緑釉、見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。蛇の目部に砂目痕。
CD 柱穴類-3	瓦				海鼠瓦。釘穴。漆喰痕。
CD 柱穴類-4	瓦				棟瓦。棧部のみ残存。

#### 4. E・F・G区の遺構および遺構内出土の人工遺物（図135～191,表8・9）

E・F・G区として本項にまとめた区域は、E1～E6, F1～F6, G1～G5グリッドである。北側地区は、化学館旧館北棟の基礎工事により、現地表面から約2m～4.3mの深さまで攪乱を受けているにもかかわらず、E1・E2・F1・F2・G1・G2グリッドにおいて、地下式土坑5基、土坑8基および柱穴1基を確認した。なお、E3グリッドのメイン・セクション面において、地下式土坑のオーバーハング部分が確認された（15号地下式土坑）。

遺構の残存状況が比較的良好な南側地区からは、井戸2基、地下式土坑5基、報告Noを付した土坑52基、杭列1基、報告Noを付していない柱穴および小土坑104基が検出された。このうち、18号～21号地下式土坑は、調査区南西隅に集中し、互いに切り合っている。

以下に、主な遺構について、井戸、地下式土坑、報告Noを付した土坑、杭跡、報告Noを付していない柱穴および小土坑の順に、所見を記載する。文章による記載がない土坑については、表8を参照していただきたい。（羽生）

**4号井戸**（図136～144） 4号井戸は、E4・E5グリッドに位置する。確認面は、標高約15.9mで、上部周囲には、方形の掘り込みを有する。この掘り込みの覆土は、ローム・ブロックを多量に含み、遺物の包含は非常に少ない。周囲掘り込みの南北には、浅い柱穴状の不整形のピットが位置し、東壁および西壁下部には、各々2ヶ所ずつの窪みがある。掘り込み上部は、104号、106号、107号土坑に切られる。井戸の径は約1.3mの整円形である。

調査は、標高7.905mまで行い、井戸底付近で木枠を確認した。木枠は上下二段になっており、上段の枠上部は、標高10.005m、下段の枠上部は、標高8.805mに位置する。枠の上部径は、上下枠とも、外のみ1.00m、内のみ0.94mを測る（写真6下段参照）。

枠の材は、1号井戸よりも厚手で、厚さ約3cm、長さは約120cmを測る（写真76）。上枠は、27枚の板から構成される。下枠の枚数は確認していない。上枠の接合部には、上・中・下3ヶ所に竹釘が用いてあり、外面上下にたがの痕跡が認められる点は、1号井戸内枠と同様である。

出土遺物は、上部の周囲掘り込みから出土した資料と、井戸内から得られた資料に大別される。周囲掘り込みから出土した資料は非常に少ない。4号井戸-1（図136）は16世紀代の中国製磁器で、二次的に被熱している。2は、17世紀代後半から18世紀初頭の肥前磁器である。3は、18世紀後半と考えられる焼塩壺であるが、1、2とは時期的に一致せず、107号土坑からの混入である可能性が高い。

井戸内からの出土資料は、1720～1750年代の肥前磁器と、18世紀代の瀬戸・美濃陶器を中心とする。陶器の中では、大型の灰釉碗（4号井戸-32～43：図138・139）の出土量の多さが目

立っている。また、木製品の残存状況も良好で、下駄、箸等が出土した。4号井戸—90(図144)は墨書を有する板片であるが、判読不能である。

以上の出土遺物から考えるならば、本遺構は、17世紀末～18世紀初頭に構築され、18世紀前半～中葉に廃棄されたと考えられる。(羽生)

**5号井戸(図145・146,186)** 5号井戸は、F4・G4グリッドに位置する。西側上部は、理学部4号館によって破壊されていた。確認面は、標高約15.9mである。135号土坑を切り、136号土坑・137号土坑に切られている。井戸の径は約1.3mで、やや不整な円形を呈する。西側の攪乱部が崩れる危険性があったため、調査は、標高約13.6mで中止した。

出土遺物は、全体に少なく、17世紀代と18世紀代のものが混在している。確認面より深さ約2.3mで調査を中止したため、本遺構の廃棄時期を断定することはできないが、①17世紀代の遺物は、より下層から出土している例が多い、②元禄元年以降幕末に至るまでの絵図面には該当位置に井戸が記載されていない、という2点を考えあわせるならば、本遺構は元禄元年以前に廃棄され、その後18世紀代の遺物が上層に混入した可能性が強い。(羽生)

**10号地下式土坑(図147)** 10号地下式土坑は、F1・F2グリッドに位置する。確認面の標高は、15.3mである。本遺構は、上部と、室部の南東約1/4を、理学部化学館旧館北棟の基礎工事で破壊されており、室部約3/4を調査した。床面は長方形を呈し、標高は13.8mである。覆土の大部分は焼土粒と焼土ブロックで構成されており、覆土中には、遺物はごく僅かしか含まれていない。また、壁面には掘り具痕が残されていた。

遺物の年代は、17世紀後半～18世紀中葉の肥前磁器、瀬戸・美濃の陶器が中心である。一部に、二次的に被熱しているものも見られる。10号地下式土坑—2(図147)は、中国製品である。

以上の点から、本遺構の廃棄年代は、18世紀前半～中葉であると考えられる。構築年代については不明である。(秋元)

**11号地下式土坑(図148・149)** 11号地下式土坑は、F1・F2・G1・G2グリッドに位置する。確認面の標高は14.9mである。遺構の上部は、理学部化学館旧館北棟の基礎工事で破壊されていた。入口部は東西を長軸とする長方形で、北と西にオーバーハングする。床面は、長方形で、北側と西側の一部が突出する。標高は、約13.8mである。覆土はロームを含み、床面直上には、人頭大の石が1つ含まれていた。壁面および床面は、きれいに調整され、掘り具痕を残さず、ほぼ垂直に床に落ちる。本遺構は、123号土坑に切られる。

遺物は、18世紀後半の瀬戸・美濃灰釉徳利が中心である。11号地下式土坑—7(図148)は、

胴部に釘書の代りとして焼成前に文字を陰刻した例である。

本遺構の構築年代は、不明である。推定廃棄年代は、出土遺物の年代から、18世紀後半と考えられる。(秋元)

**12号地下式土坑(図149・150)** 12号地下式土坑は、F2・G2グリッドに位置する。確認面の標高は、約14.8mである。遺構の入口部は、理学部化学館旧館北棟の基礎工事により破壊されていた。室部は方形で、床面の標高は、約13.8mである。覆土には、天井部の残骸と思われる、人頭大のロームブロックが混入する。壁面はきれいに調整され、掘り具痕は残さず、床部に垂直に落ちる。西側壁際に、径約40cm、深さ約5cmと、径約70cm、深さ約18cmの浅い掘り込みがある。本遺構は、13号地下式土坑を切り、123号土坑に切られる。

遺物は、18世紀後半の製品が中心である。12号地下式土坑—12(図150)は、ガラス製品の破片である。

以上の点から、本遺構は、13号地下式土坑が廃棄された18世紀後半以降に構築され、同じく18世紀後半の間に廃棄されたと考えられる。(秋元)

**13号地下式土坑(図151～154)** 13号地下式土坑は、E2・F2グリッドに位置する。確認面の標高は、約15.0mである。遺構の入口部、および、室部の北東約1/4は、理学部化学館旧館北棟の基礎工事により、破壊されていた。室部は方形で、床面の標高は約13.6mである。覆土の下層には、多量のローム粒および、ロームブロックが含まれる。壁面は丁寧に整形され、掘り具痕を残さない。本遺構は、西側で12号地下式土坑に切られる。

遺物は、18世紀中葉～後半の瀬戸・美濃陶器の他に、魚骨等が出土している。瀬戸・美濃灰釉摺り絵皿(13号地下式土坑—7～11：図152)の出土量の多さは、注目される。なお、25×25×5cmごとのコラムサンプルを採取・水洗選別したが、魚骨は検出されなかった。

以上の点から、本遺構は、18世紀後半に廃棄されたと考えられる。構築年代は不明である。(秋元)

**14号地下式土坑(図155)** 14号地下式土坑は、E2・F2グリッドに位置する。確認面の標高は、約15.0mである。遺構の入口部および、室部の南半分は、理学部化学館旧館北棟の基礎工事によって破壊されている。室部は方形を呈し、床面の標高は、13.6mである。壁面は丁寧に調整され、掘り具痕を残さず、床部にほぼ垂直に落ちる。

遺物は、18世紀後半～19世紀前半の瀬戸・美濃陶器が中心である。中でも、瀬戸・美濃灰釉徳利(14号地下式土坑—5～12：図155)の出土量の多さが、注目される。

以上の点から、本遺構は、18世紀末～19世紀前半に廃棄されたと考えられるが、構築年代は不明である。(秋元)

**15号地下式土坑(図156)** 15号地下式土坑は、E3・F3グリッドに位置する。本遺構は、理学部化学館旧館北棟の基礎工事でその大部分を破壊され、僅かに、南側の隅を残すだけであり、メイン・セクション面において、確認された(図7参照)。床面の標高は、約13.2mである。覆土には、ロームブロックが含まれる。壁面には、掘り具痕を有する。

遺物のごく少量であったが、17世紀末～18世紀前半の製品である。

以上の点から、本遺構の廃棄年代は、18世紀前半と考えられる。構築年代は不明である。

(秋元)

**16号地下式土坑(図156～158)** 16号地下式土坑は、F4グリッドに位置する。確認面の標高は、約15.9m、床面は、標高約13.5mを測る。本地下式土坑は、入口部の東南端を、礎石を有する柱穴に切られる。また、入口部の北半分は、攪乱に切られるため、入口部の実測図上のプランは不整形になっている。北壁はほぼ垂直であり、東壁は、垂直に立ち上がり、やや入口部で外反する。南壁および西壁はオーバーハングし、床面から1.3～1.5mのところ段を持つ。残存状態は良好で、壁面の崩落はほとんど認められない。床面の大きさは、東西約1.7m、南北約1.4mを測る。

出土遺物は、17世紀末～18世紀前半の陶磁器を中心とするが、その量は余り多くない。他に、貝類がまとまって出土した。

本遺構の廃棄年代は、出土遺物から、18世紀前半と推測される。構築年代は不明である。

(羽生)

**17号地下式土坑(図159)** 17号地下式土坑は、F4・F5・G4・G5グリッドに位置する。確認面は標高約15.7mである。北東隅を133号土坑に、また、入口部南壁および北壁は、それぞれ小ピットに切られる。室部南東端隅は攪乱によって切られている。主軸は、南北方向とややずれており、N7°Wである。床面の大きさは、東西約1.8m、南北は張り出し部で、約1.5mを測る。床面は、標高約14.2mを測る。壁面は、北壁部で部分的にオーバーハングする他は、内傾しながらほぼ直線的に立ち上がる。

遺物の出土量は、瓦がその大部分を占める。ほとんどが二次的な被熱を受けており、橙色に変色しているものも多い。瓦以外の遺物の出土量は少ないが、二次的に被熱している遺物は、18世紀前半～中葉と推測されるものが多い。したがって、本遺構の廃棄年代は、18世紀前半～中

葉である可能性が高い。

(羽生)

**18号地下式土坑**(図 160～162) 18号地下式土坑は、E4・E5・F4・F5グリッドに位置する。確認面は、標高約15.9mを測る。西側に大きくオーバーハングし、入口部の床面は一段高くなっている。東壁および北壁は、やや内傾しながら、ほぼ直線的に立ち上がる。南壁はオーバーハング部分を19号地下式土坑に切られる。室部北西部は、土管の掘り込みにより、攪乱を受けている。床面レベルは、最低部で標高約13.7m、床部の大きさは、東西約2.5m、南北残存長約1.8mを測る。入口部は、東西約1.0m、南北約1.1mの長方形プランを有する。主軸は南北方向である。

出土遺物は、1650～1670年代の肥前磁器を中心とする。小片が多いが、時期的には比較的まとまっており、18世紀以降の遺物の混入はみられない。

以上の点から、本遺構の廃棄年代は1650～1680年代と推測される。構築年代は不明である。

(羽生)

**19号地下式土坑**(図 162～166) 19号地下式土坑は、E5・F5グリッドに位置する。108号土坑・109号土坑を掘り進めていくうちに確認された地下式土坑である。上面では、入口部のプランは明確にし得なかったが、断面図から推測するならば、北壁は垂直に立ち上がり、南・東・西壁はオーバーハングする形態と考えられる。北壁は、18号地下式土坑のオーバーハング部を切り、18号地下式土坑との境には柱穴状のピットを2本有する。南側は、21号地下式土坑に切られる。床面の大きさは、東西約4.1m、南北約1.8mを測る。床面は、標高約12.9mを測る。床部東壁寄りには、礎石を有するピットが1本穿たれている。覆土は、焼土と、崩落した天井部と考えられるロームブロックとからなる。多量の焼土を含む点から考えて、火災の残骸を廃棄した可能性が高い。

出土した陶磁器は、18世紀代のものを中心とし、若干の17世紀代の資料を含む。陶磁器以外では、28点の銅銭の出土が目立っている。

本遺構の廃棄年代は、二次的に被熱している遺物の多くが17世紀後半～18世紀前半の肥前磁器であることから、18世紀前半の可能性が高い。

(羽生)

**20号地下式土坑**(図 167～169) 20号地下式土坑は、F5グリッドに位置する。19号地下式土坑西壁の崩落部分を調査中に確認された。両者は切りあっていた可能性もあるが、調査時には、19号地下式土坑の壁の崩落が著しく、重複関係は確認できなかった。遺構の東端の一部を調査したのみであり、平面形態については不明な部分が多いが、主軸は南北方向からはややずれる

ようである。南東部は21号地下式土坑を切っている。床面レベルは約13.7mである。

覆土は焼土ブロックおよび炭化物を多量に含む。なお、南北セクション(図167)にみられる床部のピットは、21号地下式土坑に伴うピットの空洞部に20号地下式土坑の覆土が流れ込んだものと考えられる。

出土遺物の大部分は瓦である。二次的に被熱し、橙色を呈するものが多い。瓦以外では、20号地下式土坑-1の染付碗、2の色絵陶器碗(図169)などが出土している。

本遺構は、遺物の出土量が少ないため、廃棄年代の推定は困難であるが、20号地下式土坑-2の碗が出土したことから、18世紀前半～中葉と考えている。(羽生)

**21号地下式土坑(図167～169)** 21号地下式土坑は、F5・F6グリッドに位置する。19号地下式土坑の南側部分を調査中に確認された。遺構の大部分が調査区域外に広がっているため、入口部の位置や形状は不明である。実測図上の上場は、調査時に、壁面崩落の危険が認められたために、上部を崩したラインである。床面の標高は、約13.4mを測る。室部床面の主軸は、南北方向からはややずれるようである。

本地下式土坑は、19号地下式土坑を切っており、東壁部分には、19号地下式土坑の覆土の崩落を防ぐためとみられる柱穴が検出された。また、北西端を20号地下式土坑に切られる。

覆土の大部分はロームブロックおよびロームの二次堆積土である。遺物の包含量は非常に少ないが、21号地下式土坑-3(図169)の灰釉碗はほぼ完形である。

本遺構の構築年代は、19号地下式土坑を切り、20号地下式土坑に切られることから、18世紀前半～中葉と考えられる。(羽生)

**119号土坑(図179)** 119号土坑はF1・G1グリッドに位置する。確認面の標高は、約15.5mである。遺構の上面および南側は、近代遺構の攪乱により破壊されている。遺構のプランは方形を呈し、長軸は105cm、短軸は不明であるが残存長で84cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がり、床は平坦である。床面の標高は、約15.3mである。壁際には、径20cm前後、深さ30cm前後のピットが巡る。覆土は黒褐色で、しまりはない。

遺物は19世紀代のものが中心である。119号土坑-1(図179)は、17世紀代の中国製皿の破片であるが、おそらく、混入したものであろう。119号土坑-4は、ガラス製品である。

本遺構の推定廃棄年代は、出土遺物から19世紀と考えられるが、構築年代については不明である。また、遺構の性格は、ピットの存在から、上屋構造が存在した可能性も考えられるが、現段階では明らかにし得ない。(秋元)



**121号土坑(図180)** 121号土坑は、F1グリッドに位置する。確認面の標高は、約15.5mである。遺構の上面および南側は近代遺構の攪乱で破壊され、底部が残存したのみである。東側では120号土坑と重複するが、両土坑の新旧関係は不明である。遺構のプランは方形を呈し、長軸、短軸とも不明であるが、残存長でそれぞれ113cm、60cmを測る。壁面は急激に立ち上がり、床面は起伏する。床面の標高は、約15.4mである。壁際には、径約10cm、深さ約10cmの杭跡が、4ヶ所穿たれる。覆土は黒褐色で、しまりはない。

遺物は、遺構の残存状態が悪かったこともあり、ごくわずかであった。121号土坑-1(図180)は、19世紀代の瀬戸・美濃産灰釉徳利の首である。2は、管状に加工された骨角製品である。

本遺構は、以上のように包含していた遺物がごくわずかであるため、推定廃棄年代および構築年代は不明である。また、遺構の性格も不明である。(秋元)

**2号杭跡(図190)** 2号杭跡は、E3~F6グリッド中央において、ほぼ南北方向に延びる溝状の遺構である。北側に攪乱を受けており、南側で調査区域外にかかるため、確認し得たのは長さ13.1mの範囲である。上場幅120cm、下場幅112cm、深さ13cm、底面標高15.7mを測る。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏するものの高低差はほとんどない。溝に近い形態であるが、浅い掘り込みで底面に多数の杭痕が認められることから、本遺構は柵状の杭跡であると判断している。重複関係は、107号土坑より古い。

遺物の出土は認められない。(山口)

**3号杭跡(図190)** 3号杭跡は、E4・F4グリッドにおいて部分的に確認された。ほぼ東西方向を軸としており、2号杭跡に直交する位置にある。上場幅151cm、下場幅143cm、深さ17cm、底面標高15.7mを測る。2号杭跡と同様に、柵状の杭跡であると考えている。107号土坑、134号土坑より古く、138号~140号土坑と重複する。遺物は、少量の陶磁器および土製基石が出土している。(羽生)

**E・F・G区柱穴および小土坑(図191)** 図191に示した柱穴および小土坑は、重複を含めて総数104基である。この他に、F1グリッドで1基が検出されている。計105基の内、掘り込み内に礎石を設けたものは3基である。全体の分布を見ると、攪乱や他の遺構が多く存在するために全容は明らかでないものの、ほぼ東西ないし南北方向に延びる傾向が認められる。規則的な配列を明確に示す柱穴はないが、F1ライン付近の掘り込み内に礎石を設けた3基は、北側の柱穴から2間(3.6m)、1間半(2.7m)の間隔で南北方向へ直線的に並ぶ。柱穴間に攪乱を受けていることを考えれば、規則的に配列された柱穴群である可能性が高い。おそらく、A・B区の

礎石を設けた柱穴群と同じく、何らかの建築物ないし塀に伴うものであろう。また、E4～E6グリッドで南北方向に、E4、F4グリッドで東西方向にそれぞれ直線的に並ぶ一群が認められる。これらの柱穴群は、2・3号杭跡に沿って分布しており、注目される。

柱穴および小土坑からの遺物の出土量は僅かである。細片が多いため、図示したのは1点のみである。なお、遺物の出土位置は、遺物番号によって図191に示してある。 (山口)

表 8 E・F・G 区土坑一覧表

註) 計測値の  は現存長, ( )は推定長。

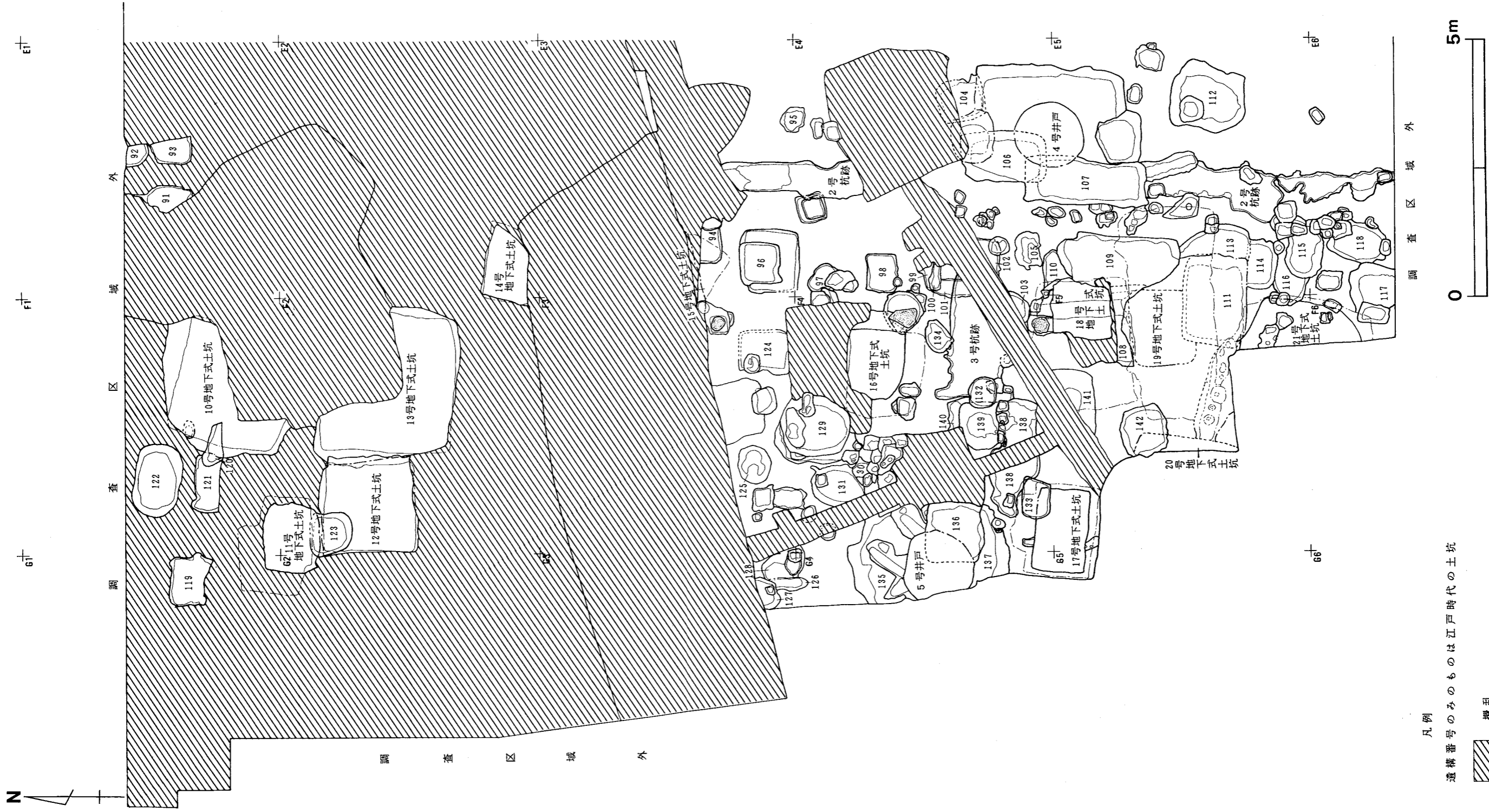
Table 8 List of pits in grid rows E,F and G

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重 複 関 係
91	E1	<u>119</u>	<u>54</u>	6	15.5	平面形不明の浅い掘り込み。	—	—
92	E1	<u>44</u>	<u>43</u>	9	15.6	平面形不明の浅い掘り込み。	—	—
93	E1	<u>82</u>	<u>58</u>	12	15.5	平面方形の浅い掘り込み。	—	—
94	E3	<u>70</u>	<u>42</u>	21	15.7	平面方形か。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	柱穴より新。
95	E3・E4	50	47	13	15.8	平面円形の浅い掘り込み。	—	—
96	E3・E4	126	118	25	15.5	平面正方形を呈する2基の切り合いか。壁は急傾斜で立ち上がる。底は、内側の土坑が中央部に傾斜し、外側の土坑がほぼ平坦。	19c	—
97	E4	<u>65</u>	53	29	15.6	平面楕円形。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	柱穴より古。
98	E4	75	61	15	15.9	平面長方形の浅い掘り込み。主軸方向は東西方向。底はほぼ平坦。	—	柱穴と重複。
99	E4	<u>54</u>	<u>32</u>	17	15.6	平面形不明の浅い掘り込み。	—	100号土坑と重複。
100	E4	<u>56</u>	25	27	15.6	平面長方形。主軸方向は東西方向。壁は緩やかに立ち上がり、底との境界は不明瞭である。	—	99・101号土坑と重複。
101	E4・F4	<u>78</u>	39	27	15.6	平面長方形。主軸方向は南北方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	—	3号杭跡より古。 100号土坑と重複。
102	E4	<u>75</u>	<u>49</u>	18	15.7	平面方向か。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	—	柱穴より古。
103	E4・F4	<u>70</u>	<u>24</u>	50	15.4	平面円向か。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。	—	—
104	E4	(92)	(83)	29	15.6	平面正方形か。壁は垂直に立ち上がり、底は平坦。	18c	4号井戸より新。
105	E4	75	54	13	15.8	平面隅丸長方形の浅い掘り込み。底に径5~10cm、深さ10cm前後の杭痕有。	—	—
106	F4	(165)	100	81	15.0	平面長方形か。主軸方向は南北方向。壁は垂直に立ち上がり、底は平坦。	18c	4号井戸より新。 107号土坑と重複。
107	E4・E5	242	103	80	15.0	平面長方形。主軸方向は南北方向。壁は垂直に立ち上がり、底はほぼ平坦。	18c	4号井戸、2号杭跡より新。106号土坑、柱穴と重複。
108	E5・F5	(158)	<u>73</u>	37	15.5	平面形不明。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。	19c	18・19号地下式土坑、109・113号土坑より新。

No.	グリッド	長軸 短軸 深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重 複 関 係
109	E5・F5	<u>256</u> <u>145</u> 36	15.5	平面形不明。壁は緩やかに立ち上がり、底は起伏する。	18c~19c	18・19号地下式土坑より新。108号土坑より古。110・113号土坑と重複。
110	E4・E5	<u>78</u> <u>58</u> 22	15.7	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	——	18号地下式土坑より新。109号土坑、柱穴と重複。
111	E5・F5	(182)(126) 190	13.9	平面長方形か。主軸方向は東西方向。壁は垂直に立ち上がり、底は19号地下式土坑覆土上で大きく落ち込む。	18c	19号地下式土坑より新。113・114号土坑より古。
112	E5	<u>148</u> 143 27	15.6	平面隅丸長方形。主軸方向はN-14°-E。壁は緩やかに立ち上がる。底はほぼ平坦で、南側に径5~10cmの杭痕有。	18c~19c	柱穴と重複。
113	E5	<u>134</u> <u>69</u> 29	15.5	平面形不明。壁は緩やかに立ち上がり、底はほぼ平坦。	19c	111・114号土坑より新。108号土坑、柱穴より古。109号土坑と重複。
114	E5	101 <u>62</u> 23	15.6	平面隅丸方形か。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	——	111号土坑より新。113号土坑より古。116号土坑、柱穴と重複。
115	E5・E6	116 74 25	15.5	平面楕円形。主軸方向はほぼ東西方向。壁は緩やかに立ち上がり、底は中央部に傾斜する。	——	柱穴より古。116号土坑と重複。
116	E5・F5	<u>132</u> <u>72</u> 10	15.7	平面形不明の浅い掘り込み。	——	21号地下式土坑より新。114・115号土坑、柱穴と重複。
117	E6・F6	<u>100</u> <u>92</u> 46	15.5	平面形不明。壁は緩やかに立ち上がる。底は起伏し、径5~10cmの杭痕有。	——	柱穴と重複。
118	E6	114 78 16	15.6	平面楕円形の浅い掘り込み。主軸方向はN-18°-E。底はほぼ平坦。	——	柱穴と重複。
119	F1・G1	105 <u>84</u> 17	15.3	平面方形か。壁は垂直に立ち上がる。底は平坦で、壁際に径20cm前後、深さ30cm前後のビットが巡る。	19c	——
120	F1	<u>91</u> <u>42</u> 24	15.3	平面形不明。壁は垂直に立ち上がり、底は起伏する。	18c	10号地下式土坑より新。121号土坑と重複。
121	F1	<u>113</u> 60 10	15.4	平面方形か。壁は急傾斜で立ち上がる。底は起伏し、壁際に径10cm、深さ10cmの杭痕有。	——	120号土坑と重複。
122	F1	143 93 26	15.2	平面隅丸長方形。主軸方向はN-76°-W。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	19c	——

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重 複 関 係
123	F2・G2	87	82	10	14.6	平面隅丸正方形。壁は緩やかに立ち上がり、底は平坦。	18c	11・12号地下式土坑より新。
124	F3	<u>98</u>	88	17	15.7	平面長方形。主軸方向は南北方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	——	——
125	F3	75	65	13	15.7	平面楕円形の浅い掘り込み。	——	——
126	G3・G4	<u>81</u>	27	16	15.7	平面隅丸長方形の浅い掘り込み。	——	128号土坑より新。 127号土坑より古。
127	G3	60	<u>49</u>	25	15.6	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底はほぼ平坦。	——	126・128号土坑より新。
128	F3・F4 G3・G4	82	<u>67</u>	20	15.7	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	18c	126・127号土坑より古。
129	F3・F4	158	131	68	15.3	平面楕円形。主軸方向は南北方向。壁は急傾斜で立ち上がる。底はほぼ平坦で、北側にピット有。	17c?	柱穴と重複。
130	F4	62	<u>51</u>	9	15.7	平面形不明の浅い掘り込み。	——	131号土坑より新。 柱穴と重複。
131	F4	107	87	14	15.6	平面楕円形。壁は急傾斜で立ち上がり、底は中央部に傾斜する。	——	130号土坑より古。
132	F4	62	54	14	15.7	平面楕円形の浅い掘り込み。	——	139・140号土坑、 3号杭跡、柱穴より新。
133	F4	82	56	9	15.6	平面隅丸長方形の浅い掘り込み。	——	17号地下式土坑、 138号土坑より新。
134	F4	66	47	16	15.8	平面楕円形の浅い掘り込み。	——	3号杭跡より新。
135	F4・G4	<u>194</u>	<u>151</u>	42	15.4	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。底の長方形を呈する溝状の掘り込み3本は、5号井戸に伴う可能性有。	17c~18c	136・137号土坑より古。5号井戸と重複。
136	F4・G4	(119)	115	(157)	14.2	平面正方形。壁は垂直に立ち上がるが、5号井戸の覆土部分は外へ開く。底はほぼ平坦。	18c	5号井戸、135号土坑より新。137号土坑より古。
137	F4・G4	(198)	<u>163</u>	86	14.9	平面形不明。壁は急傾斜で立ち上がり、底は136号土坑覆土上で大きく落ち込む。	19c	5号井戸、135・136号土坑より新。 柱穴と重複。
138	F4	230	98	32	15.4	平面長方形を呈する3基の切り合い。主軸方向は東西方向。壁は急傾斜で立ち上がり、底は起伏する。	——	133号土坑、柱穴より古。139号土坑、3号杭跡と重複。
139	F4	<u>95</u>	<u>78</u>	55	15.3	平面隅丸正方形か。壁は急傾斜で立ち上がり、底は中央部に傾斜する。	——	132号土坑、柱穴より古。138・140号土坑、3号杭跡と重複。

No.	グリッド	長軸	短軸	深さ (cm)	底面 標高 (m)	特 徴	推定廃棄 年 代	重 複 関 係
140	F4	64	46	16	15.7	平面方形の浅い掘り込み。底は起伏する。	——	132号土坑より古。 139号土坑, 3号 杭跡と重複。
141	F4・F5	128	87	113	14.7	平面方形か。壁は急傾斜で立ち上がり, 底は中央部に傾斜する。	18c~19c	——
142	F5	99	95	47	15.2	平面隅丸正方形。壁は急傾斜で立ち上がり, 底はほぼ平坦。	19c	20号地下式土坑より新。



凡例

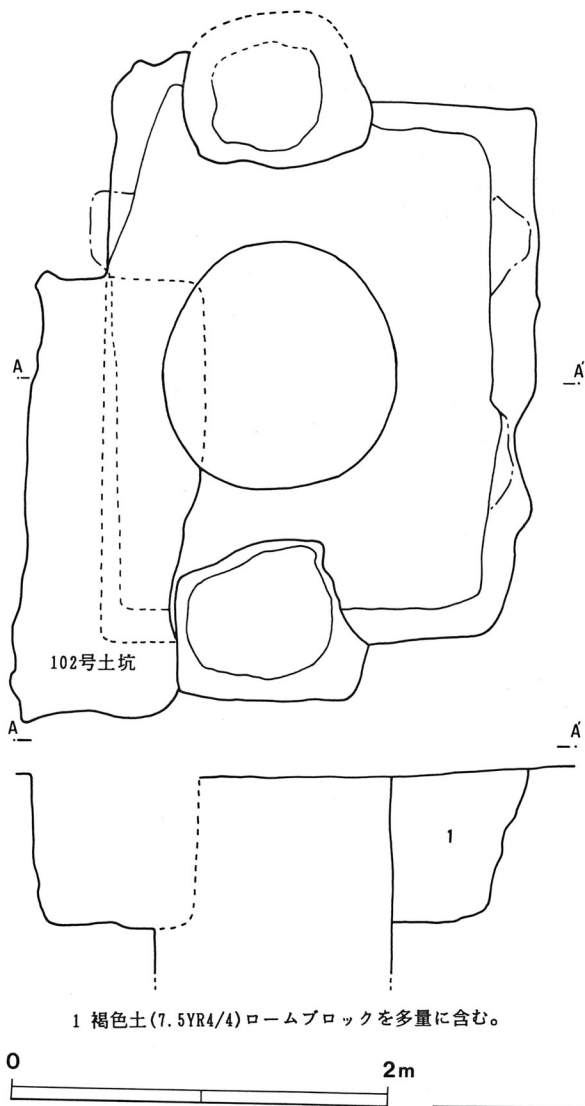
遺構番号のみものは江戸時代の土坑



掘乱

図 135 E・F・G区遺構分布図

Figure 135 Distribution of Edo Period features in grid rows E, F and G



1 褐色土(7.5YR4/4)ロームブロックを多量に含む。

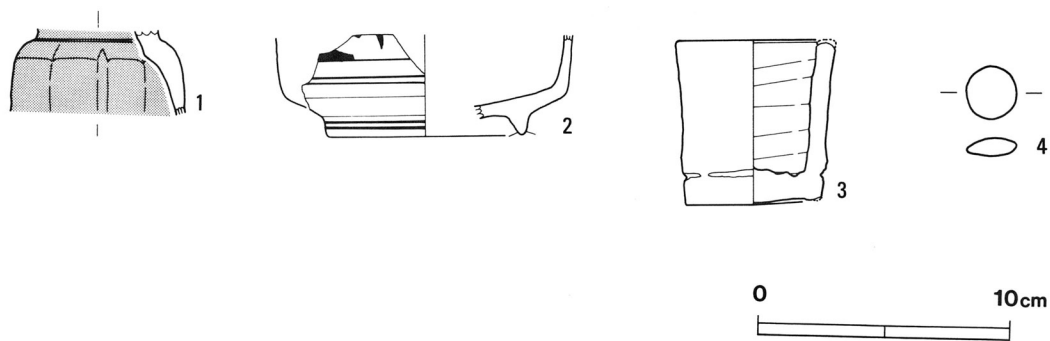


図 136 4号井戸, 同出土遺物(1)  
Figure 136 Well No.4 and its artifacts



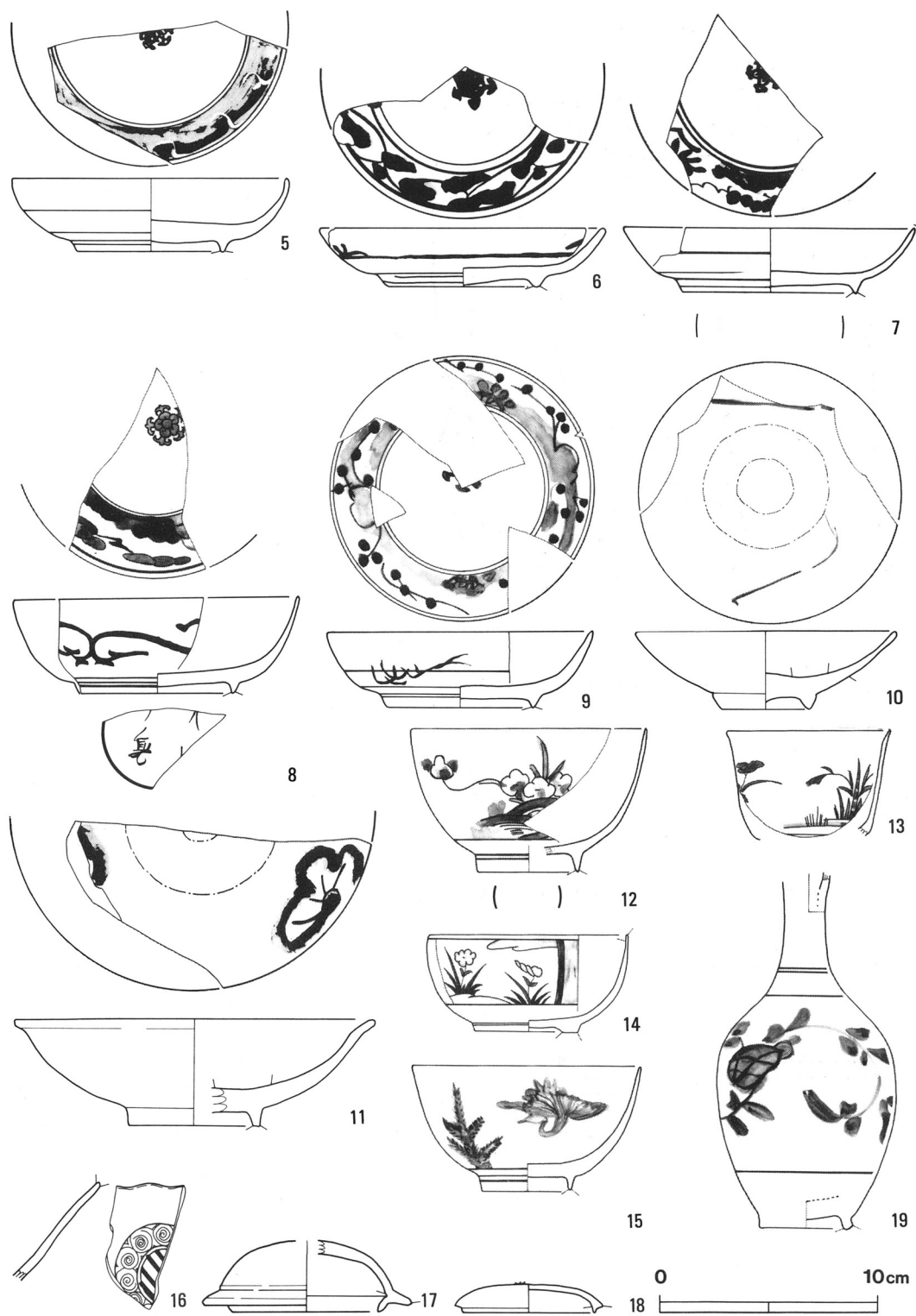


图 137 4号井戸出土遺物(2)  
Figure 137 Artifacts from Well No.4

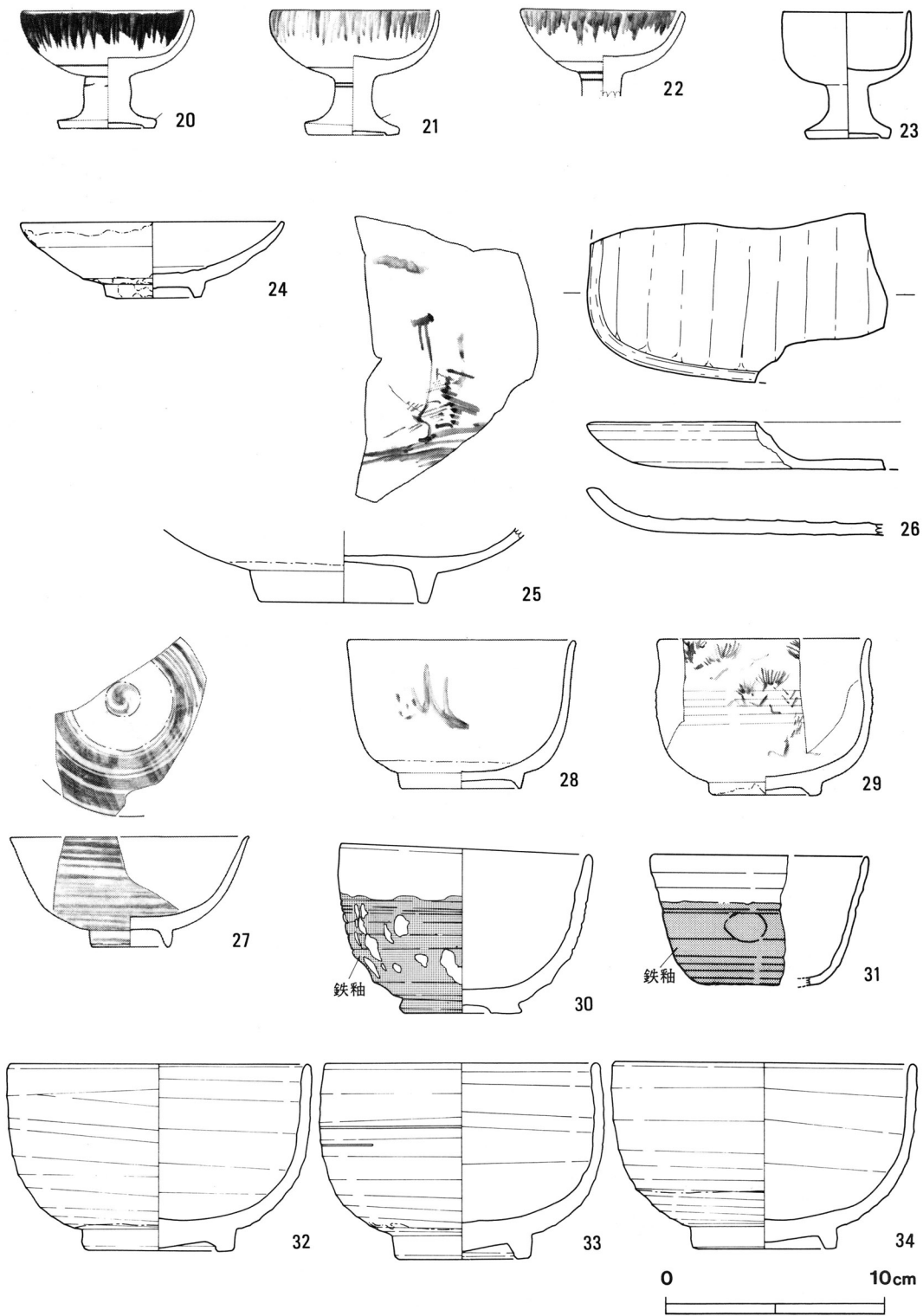


图 138 4号井戸出土遺物(3)  
Figure 138 Artifacts from Well No. 4

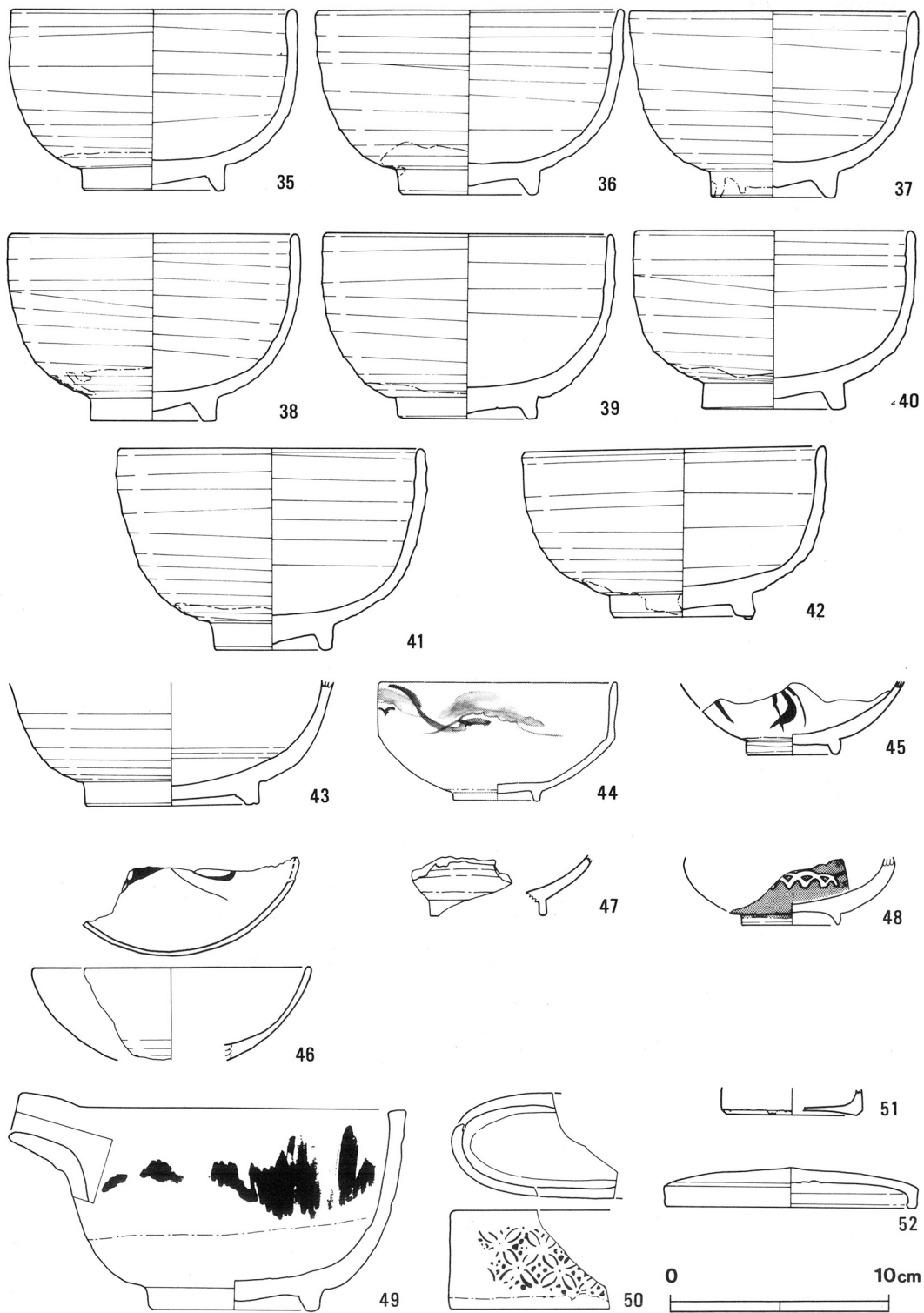


图 139 4号井戸出土遺物(4)  
Figure 139 Artifacts from Well No.4

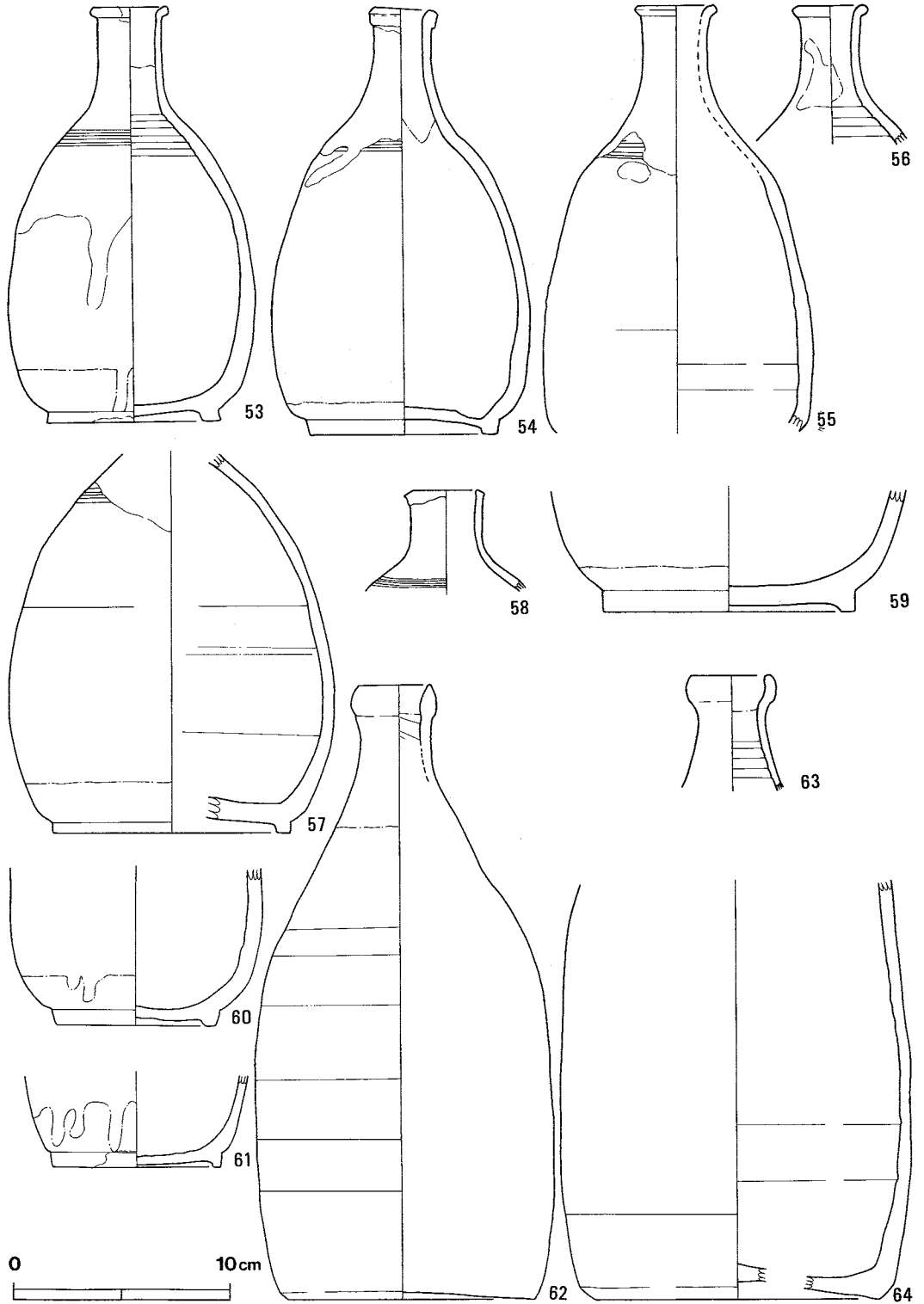


图 140 4号井戸出土遺物(5)  
Figure 140 Artifacts from Well No.4

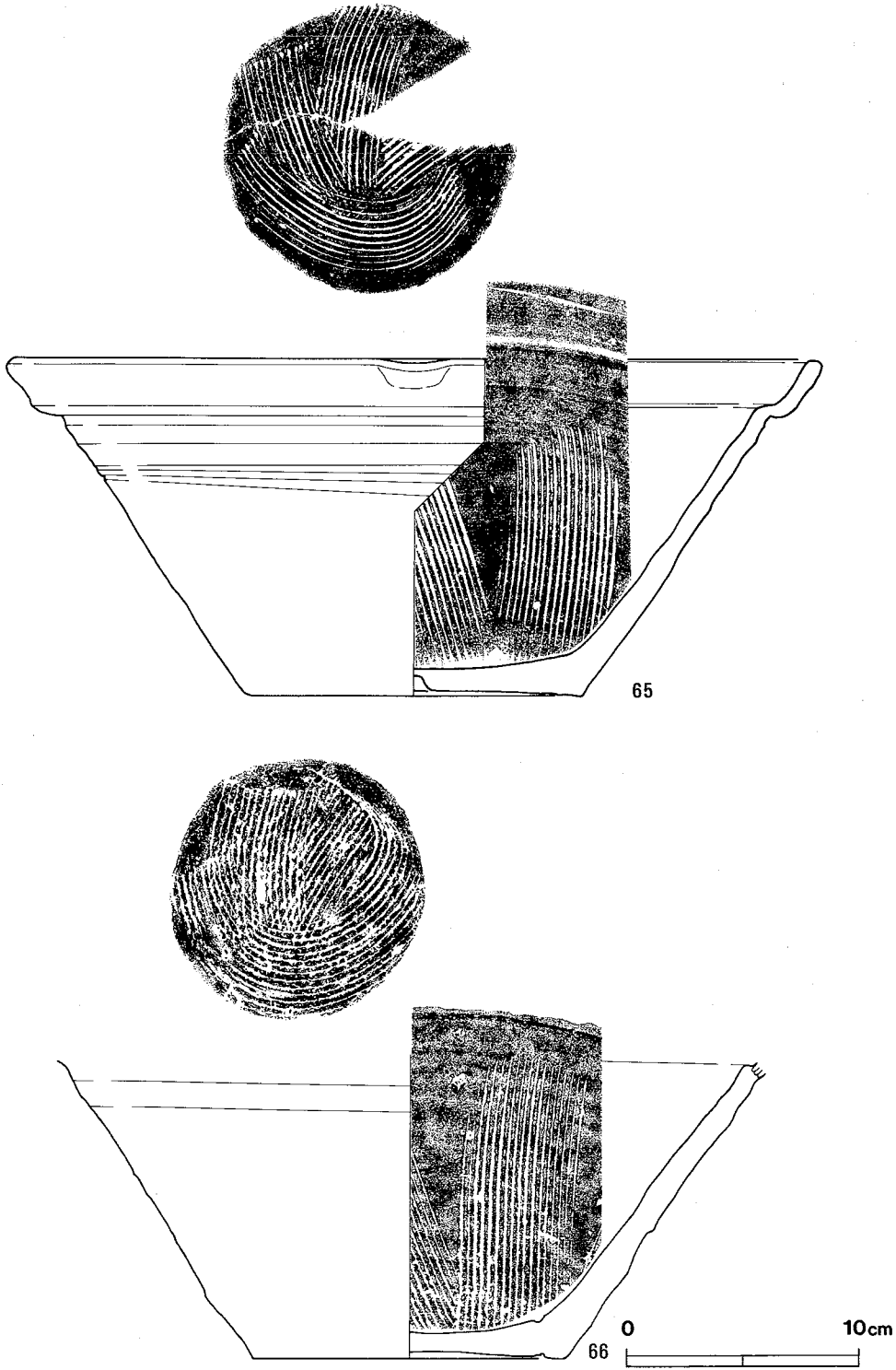


图 141 4号井戸出土遺物 (6)  
 Figure 141 Artifacts from Well No.4

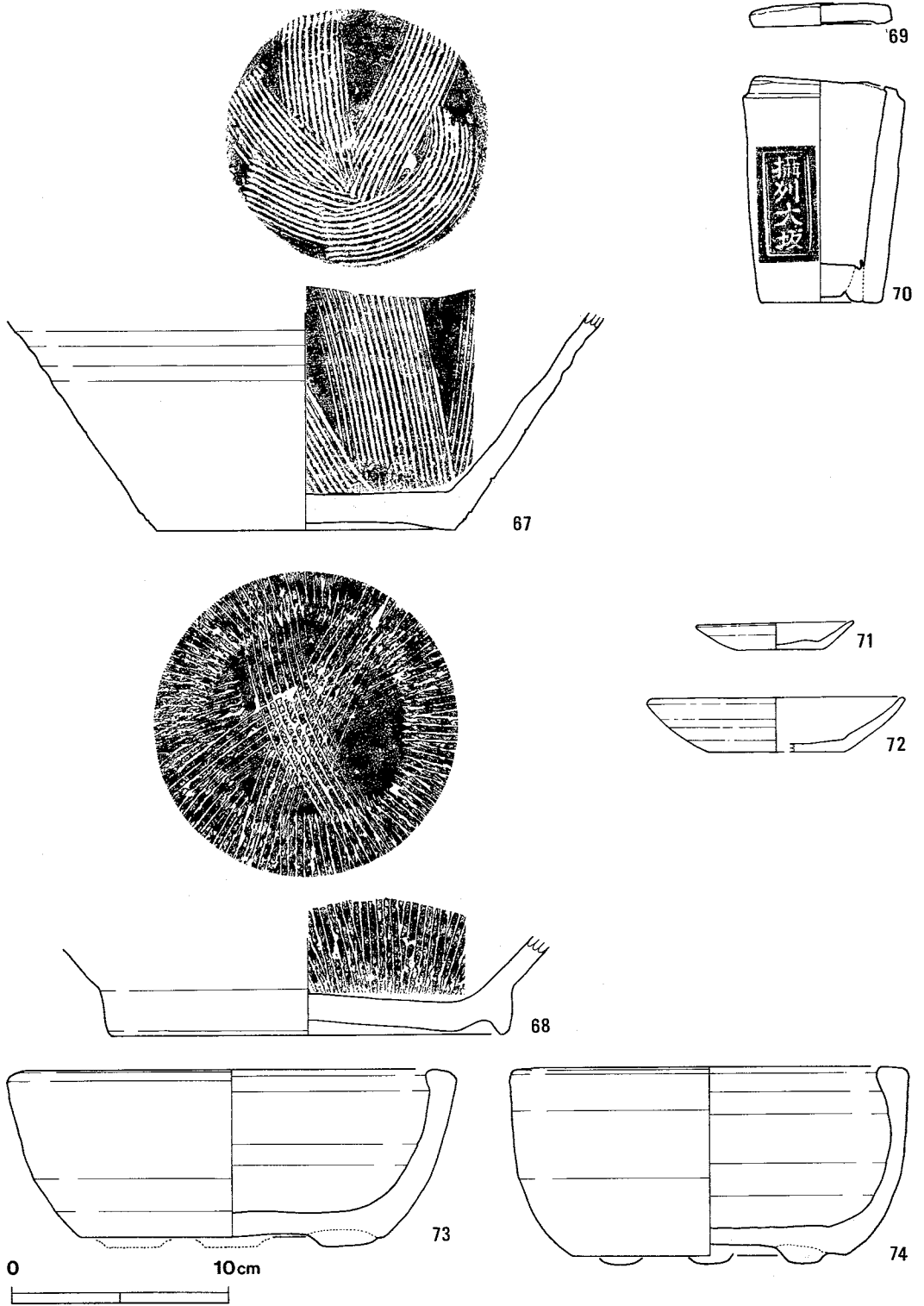


图 142 4号井戸出土遺物 (7)  
 Figure 142 Artifacts from Well No.4

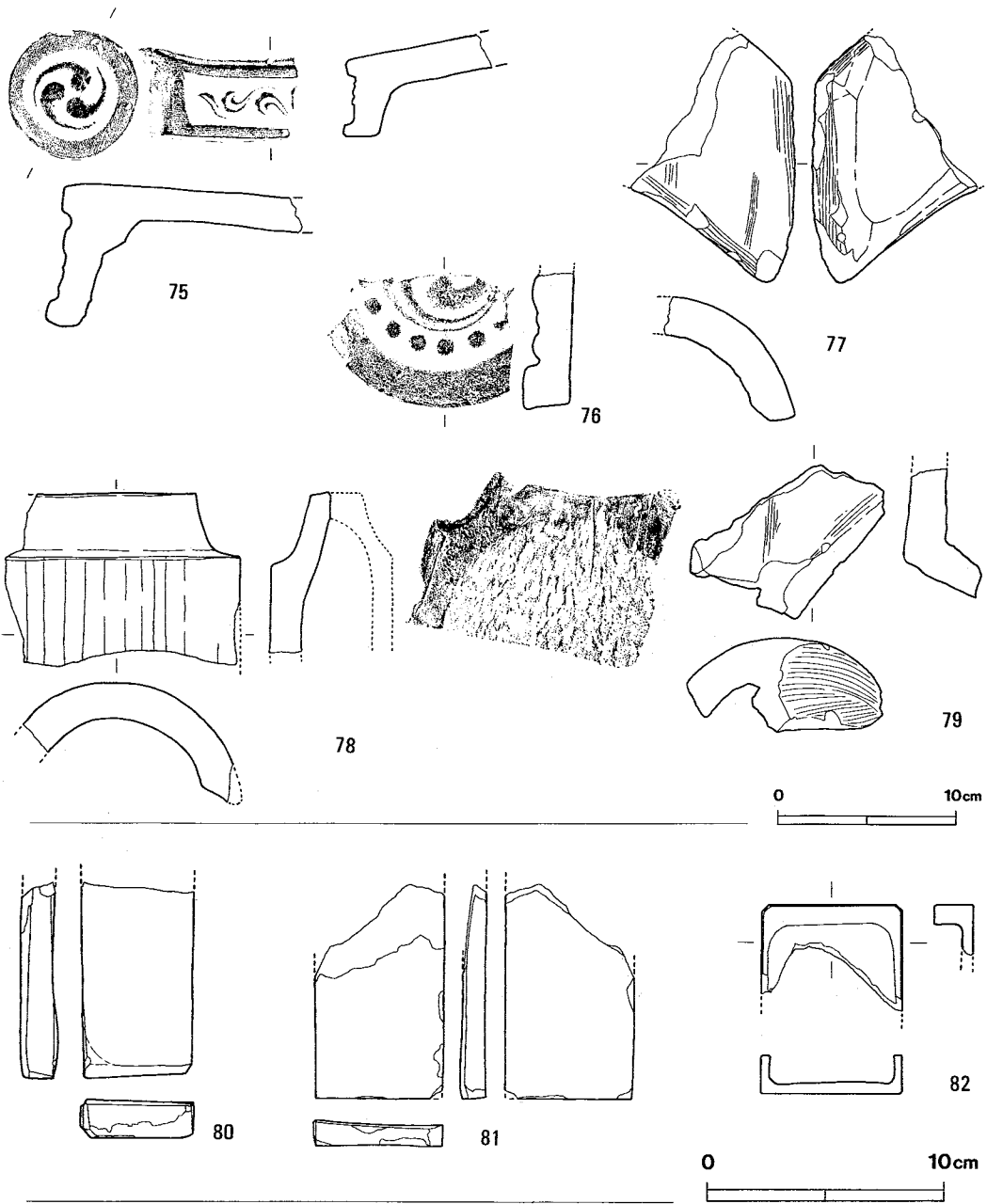


图 143 4号井戸出土遺物 (8)  
 Figure 143 Artifacts from Well No.4

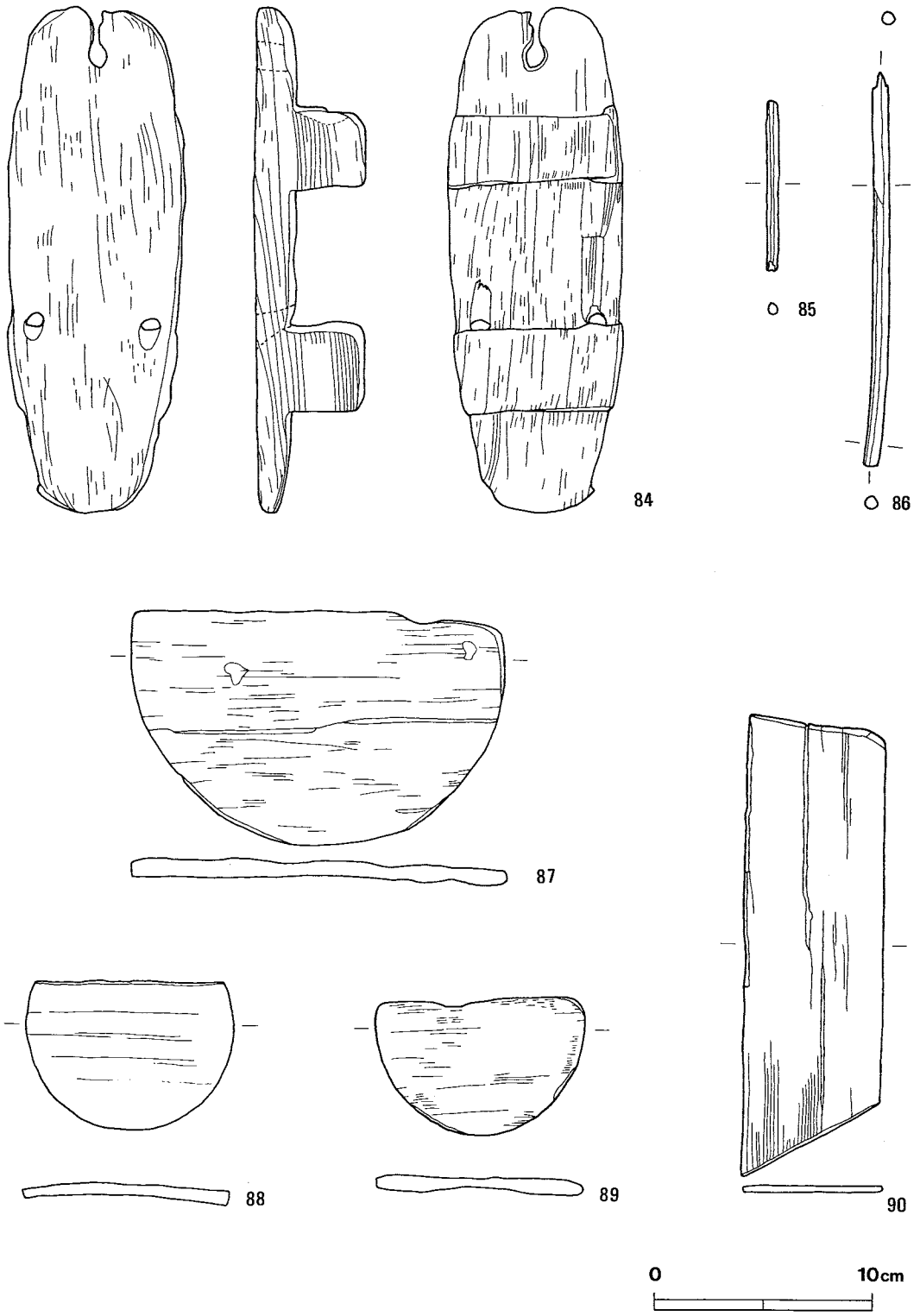


图 144 4号井戸出土遺物(9)  
 Figure 144 Artifacts from Well No.4



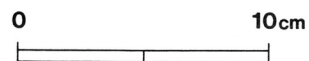
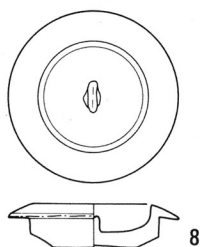
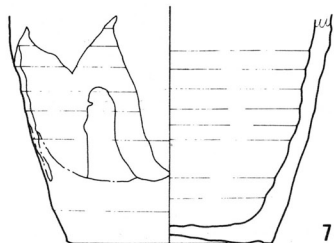
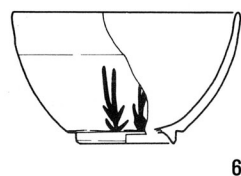
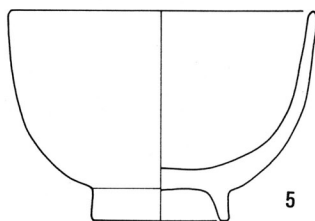
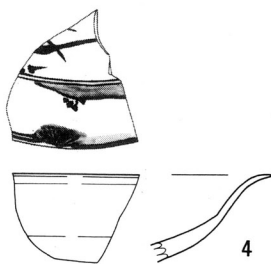
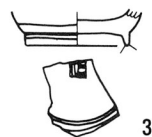
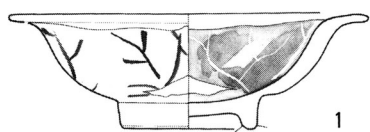
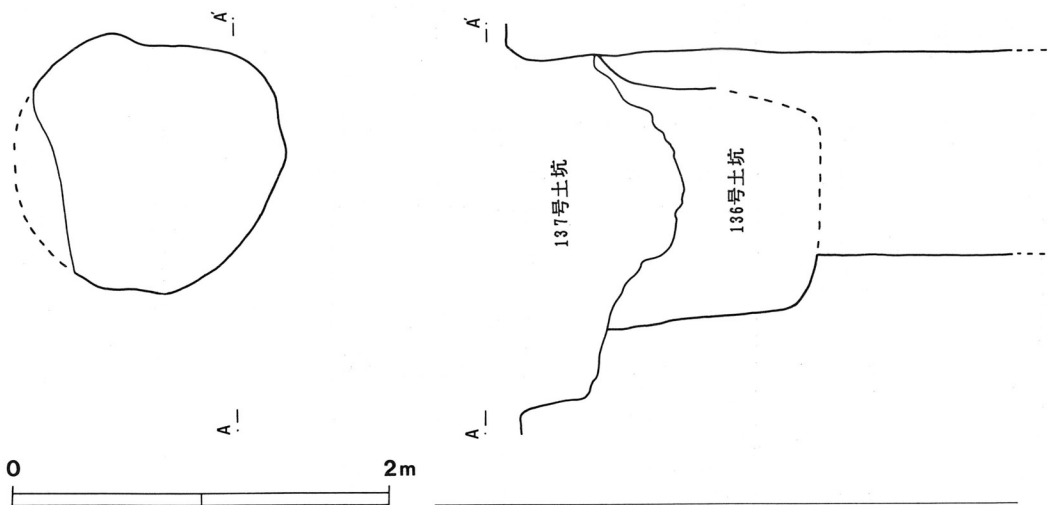


图 145 5号井戸，同出土遺物（1）  
Figure 145 Well No.5 and its artifacts

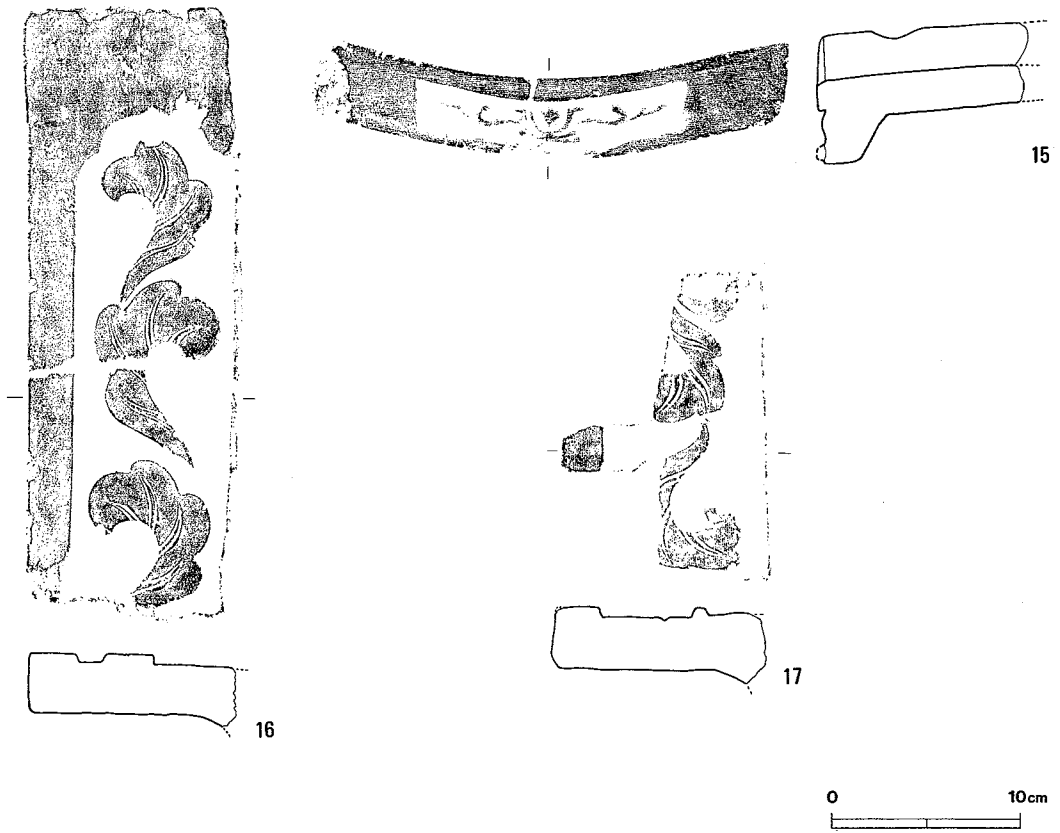
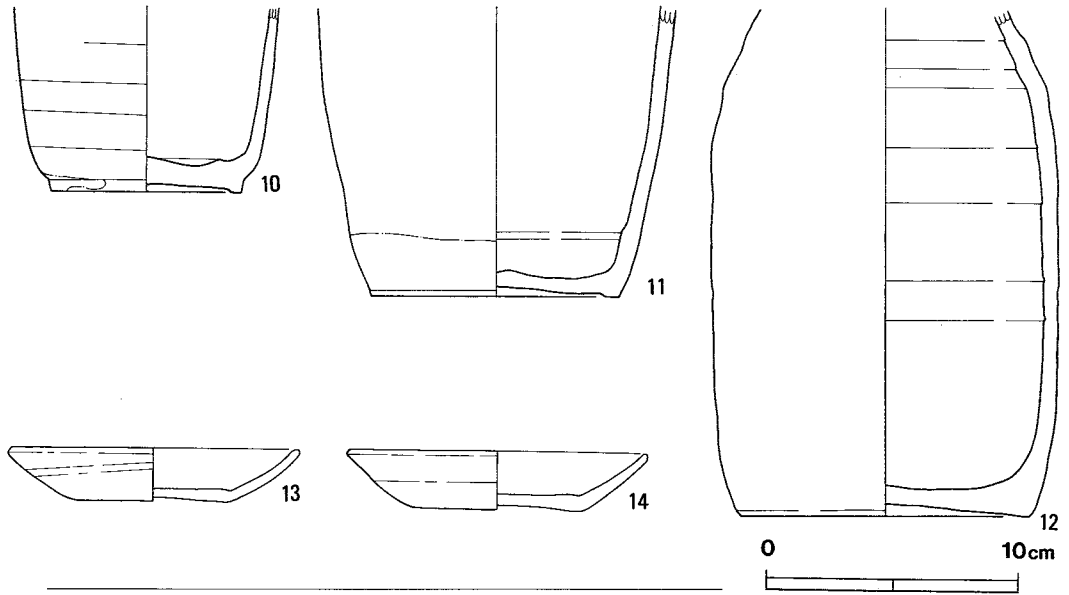
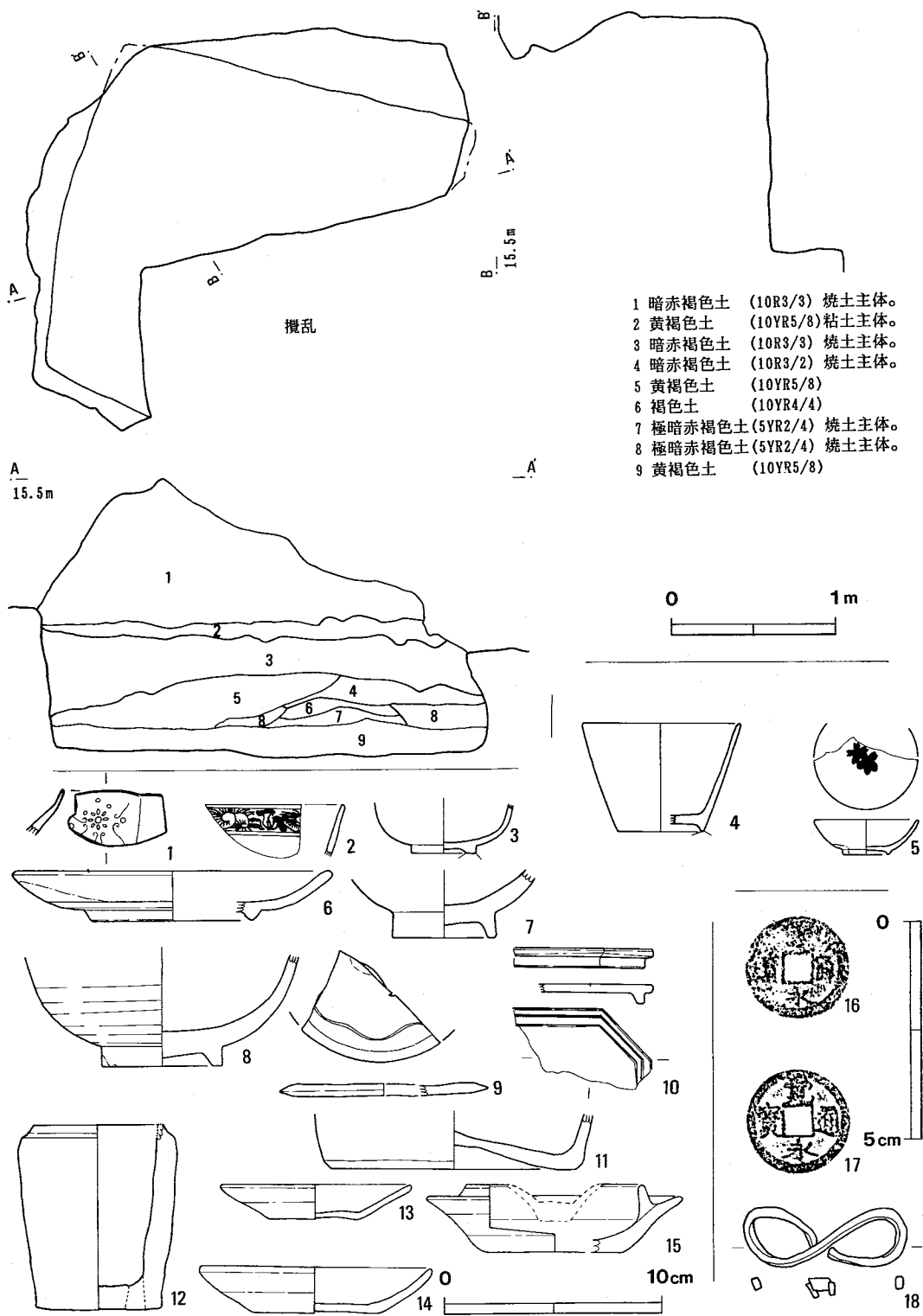


图 146 5号井戸出土遺物(2)  
Figure 146 Artifacts from Well No.5



- 1 暗赤褐色土 (10R3/3) 烧土主体。
- 2 黄褐色土 (10YR5/8) 粘土主体。
- 3 暗赤褐色土 (10R3/3) 烧土主体。
- 4 暗赤褐色土 (10R3/2) 烧土主体。
- 5 黄褐色土 (10YR5/8)
- 6 褐色土 (10YR4/4)
- 7 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 烧土主体。
- 8 極暗赤褐色土 (5YR2/4) 烧土主体。
- 9 黄褐色土 (10YR5/8)

图 147 10 号地下式土坑，同出土遺物  
 Figure 147 Cellar No.10 and its artifacts

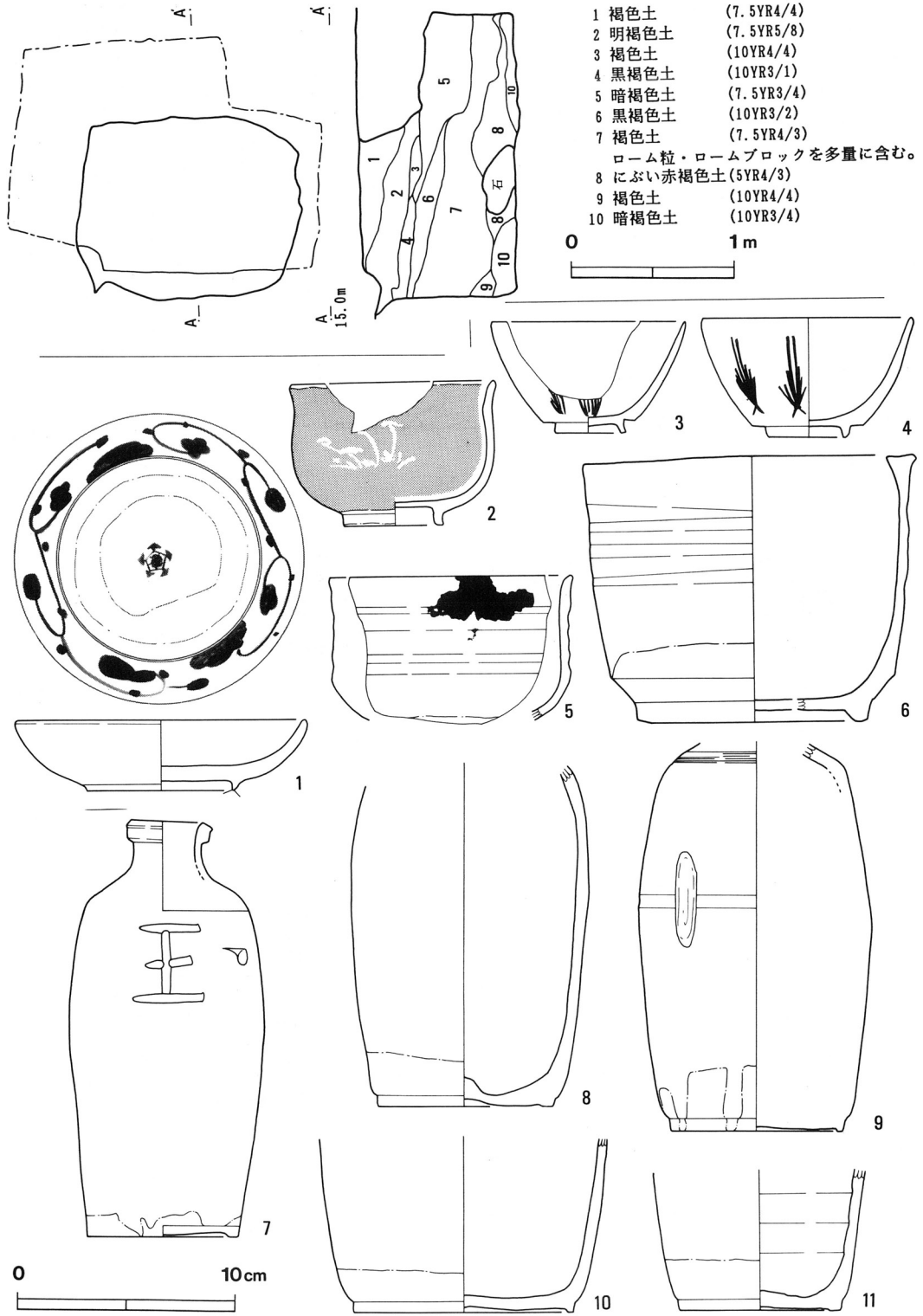


図 148 11号地下式土坑, 同出土遺物 (1)

Figure 148 Cellar No.11 and its artifacts

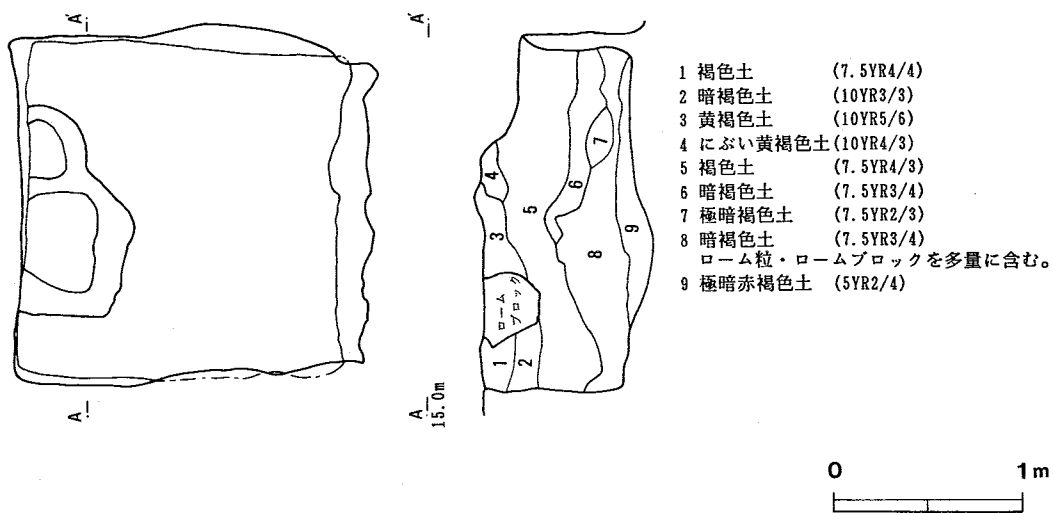
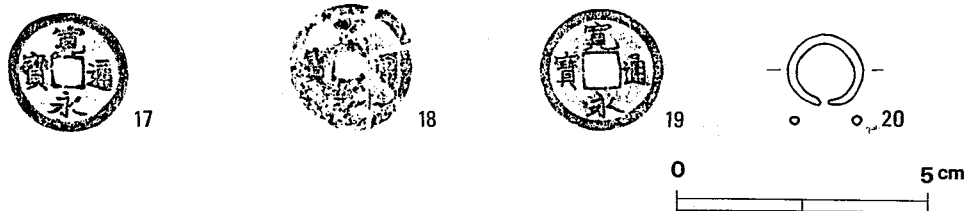
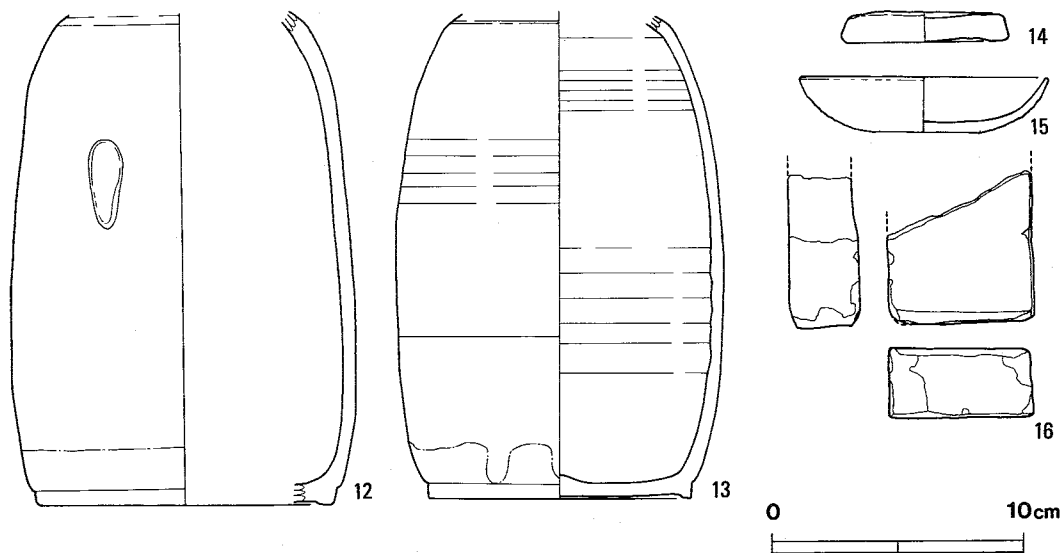


図 149 11号地下式土坑出土遺物(2), 12号地下式土坑  
Figure 149 Artifacts from Cellar No.11, and Cellar No.12

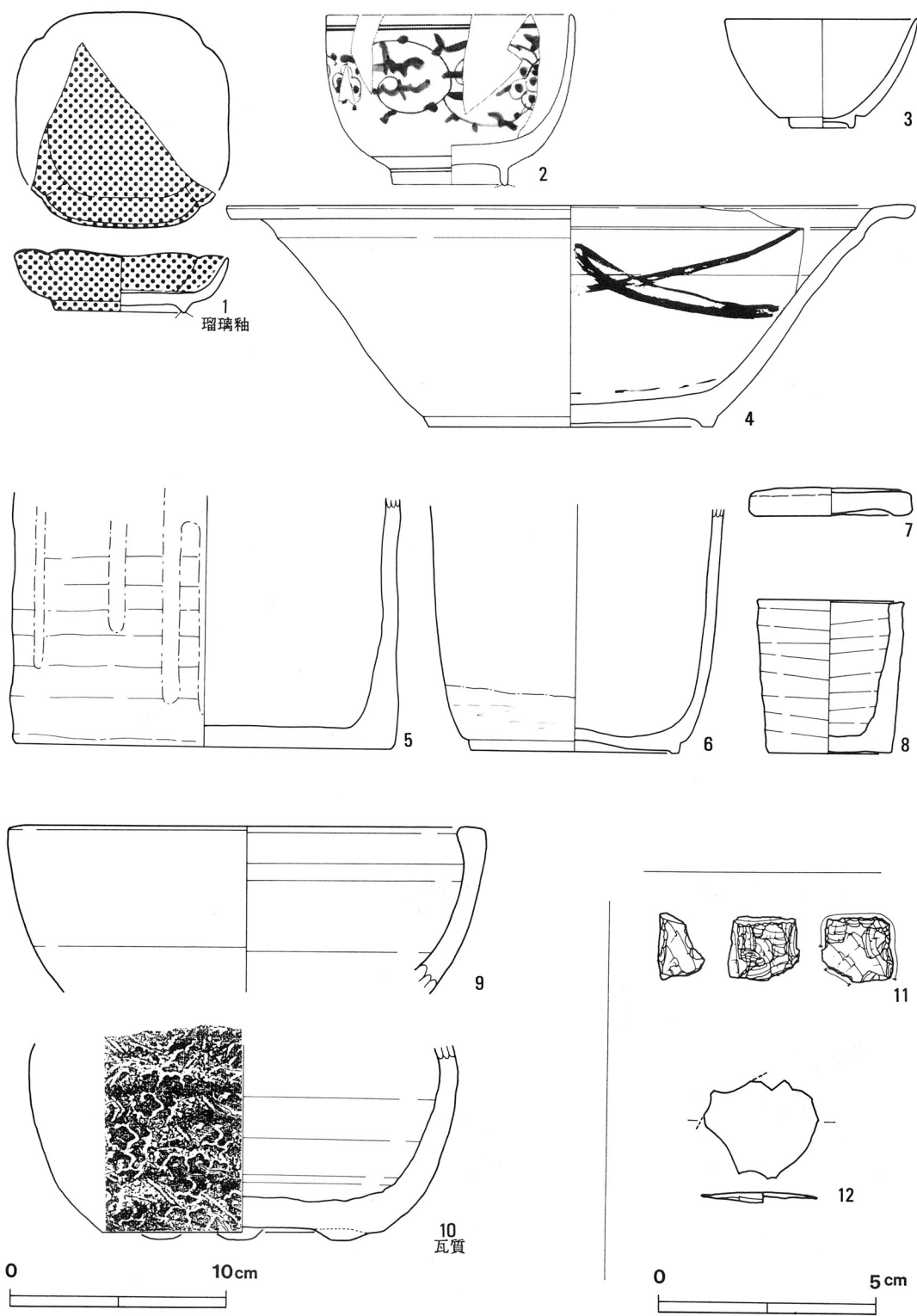


图 150 12 号地下式土坑出土遺物  
 Figure 150 Artifacts from Cellar No.12

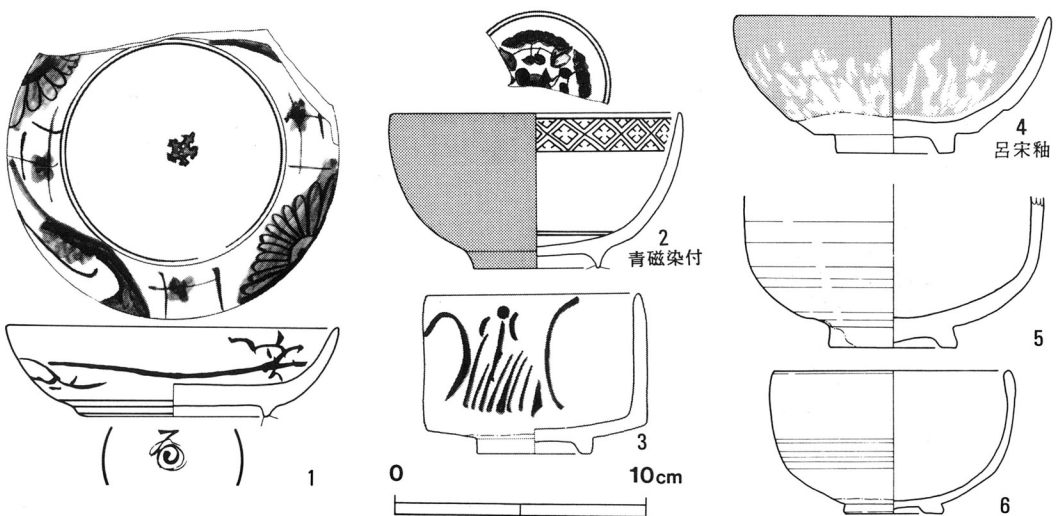
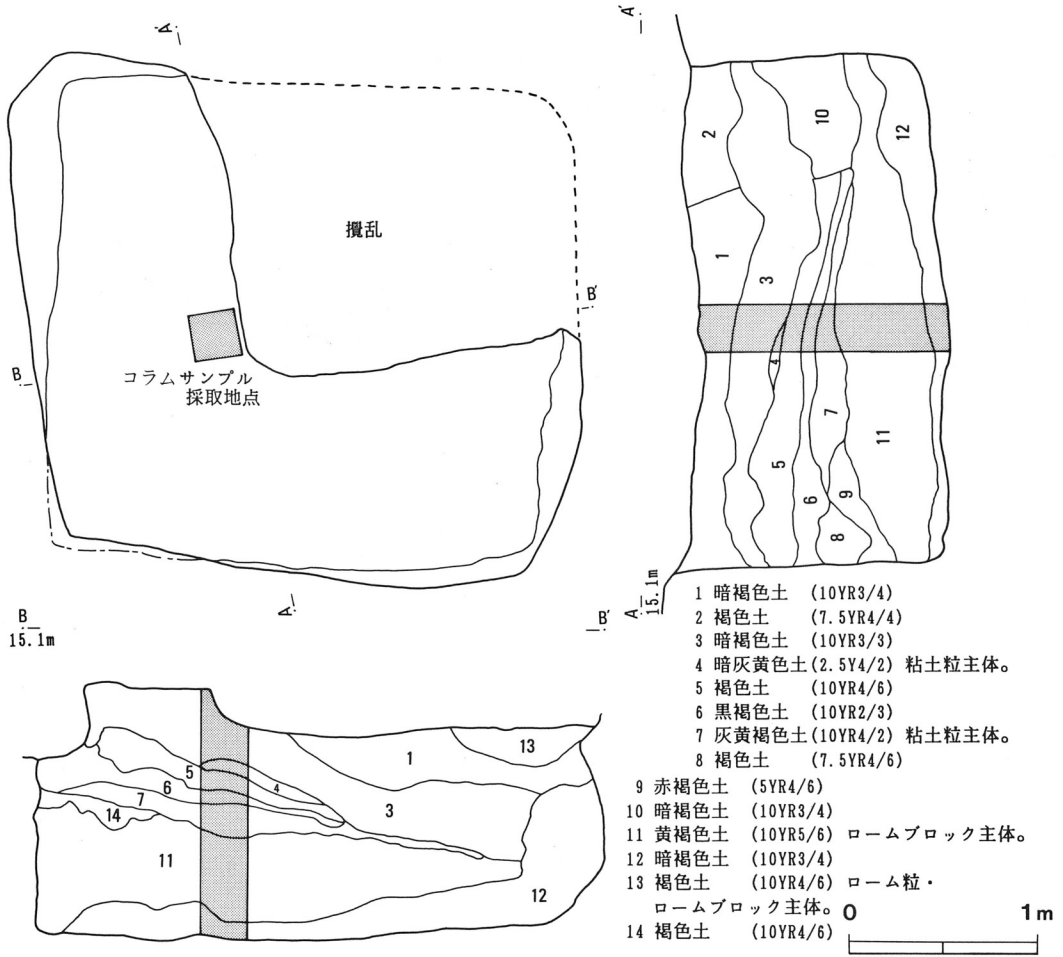


図 151 13号地下式土坑, 同出土遺物 (1)  
 Figure 151 Cellar No.13 and its artifacts

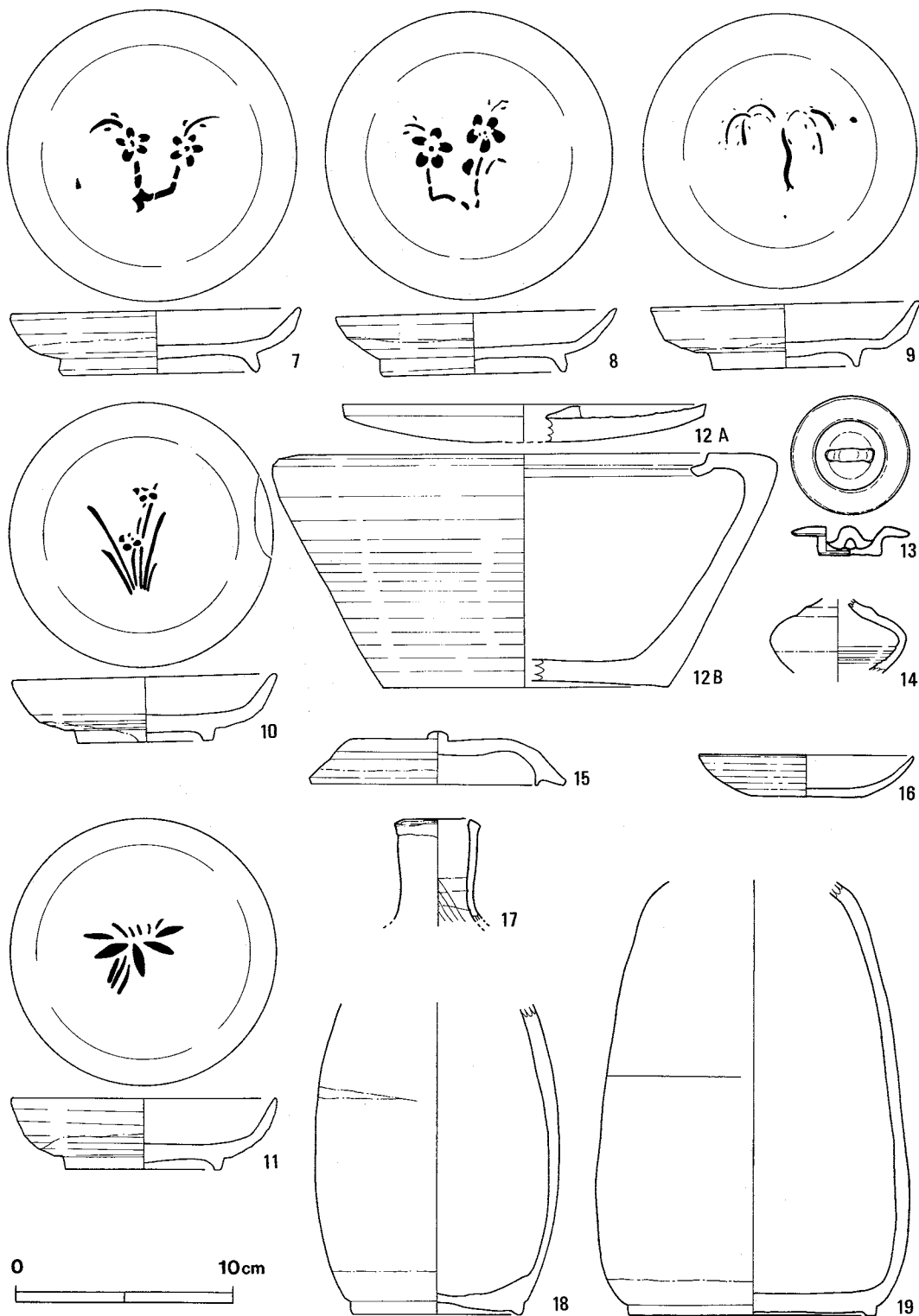


图 152 13 号地下式土坑出土遗物 (2)  
Figure 152 Artifacts from Cellar No.13



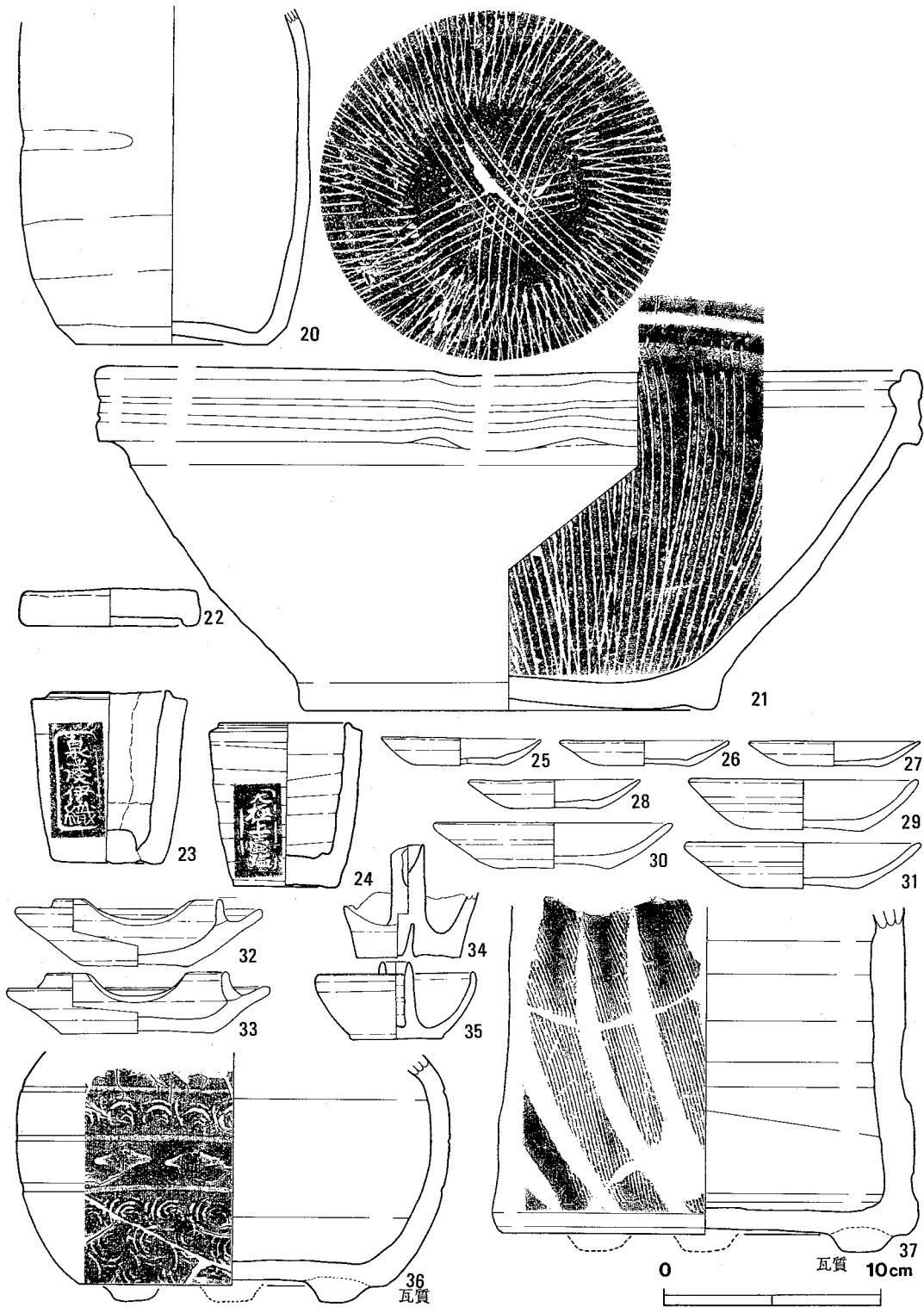


图 153 13号地下式土坑出土遺物 (3)  
 Figure 153 Artifacts from Cellar No.13

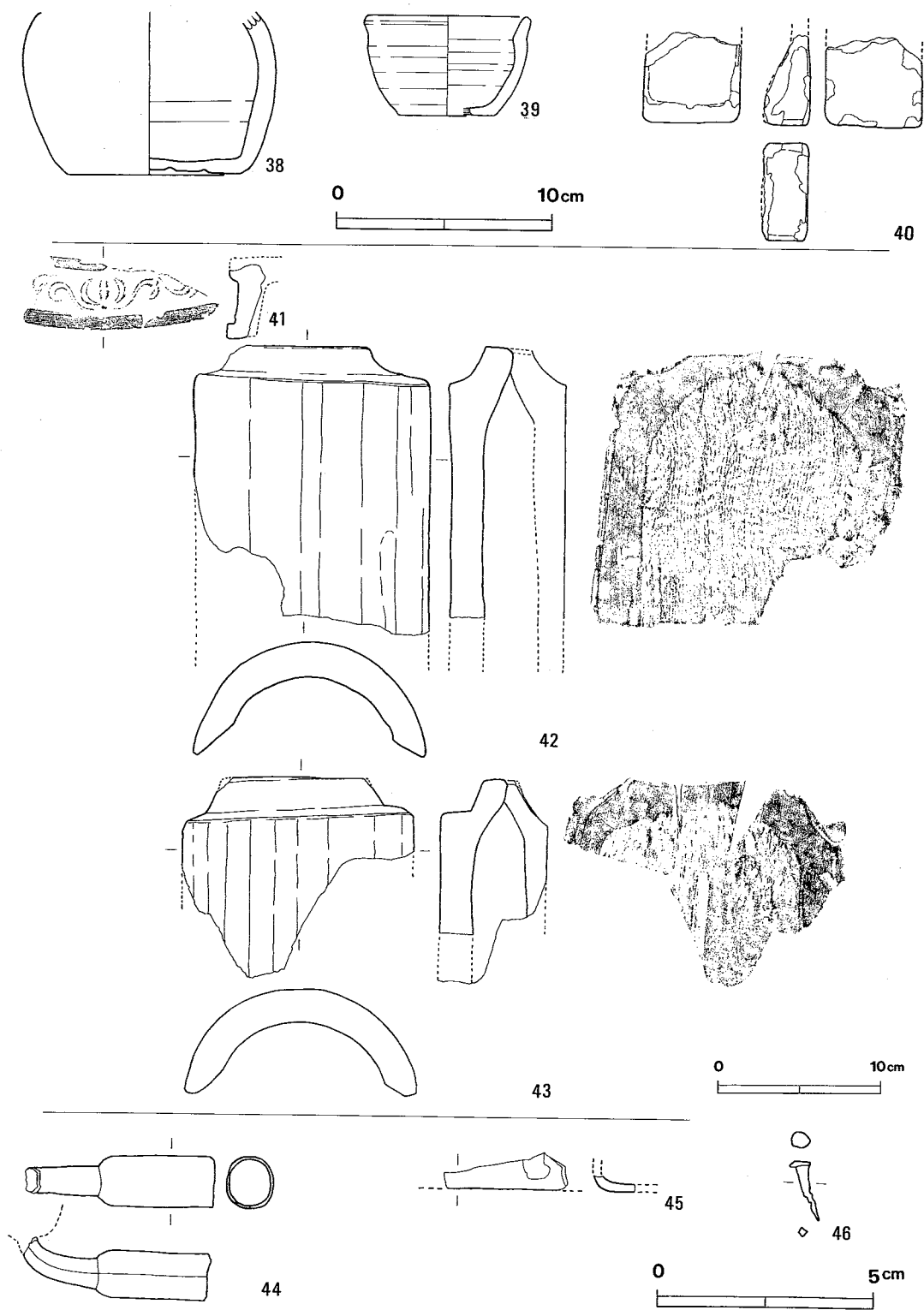
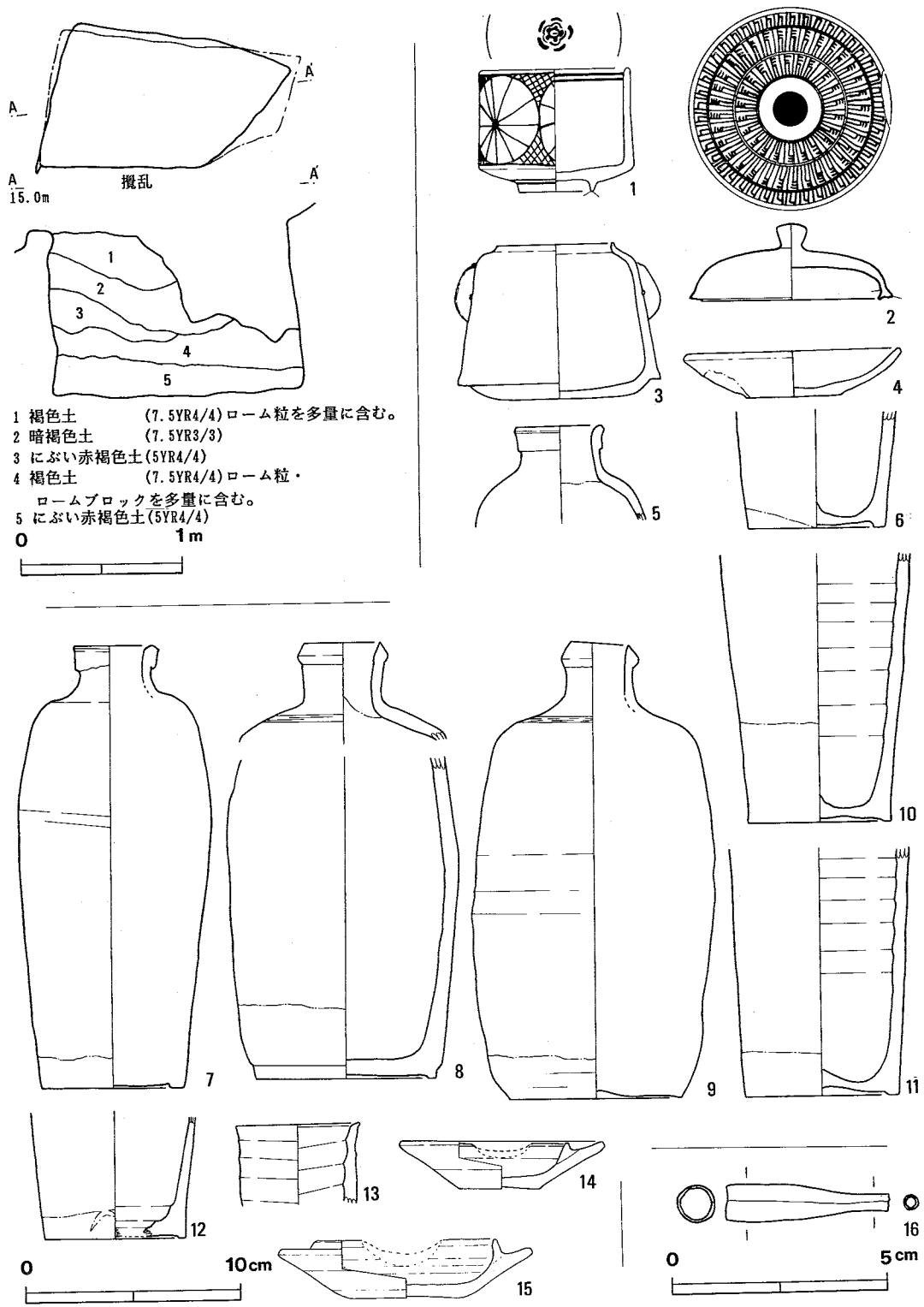


图 154 13 号地下式土坑出土遗物 (4)  
Figure 154 Artifacts from Cellar No.13



- 1 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒を多量に含む。  
 2 暗褐色土 (7.5YR3/3)  
 3 にぶい赤褐色土(5YR4/4)  
 4 褐色土 (7.5YR4/4) ローム粒・  
 ロームブロックを多量に含む。  
 5 にぶい赤褐色土(5YR4/4)

图 155 14号地下式土坑, 同出土遺物  
 Figure 155 Cellar No.14 and its artifacts

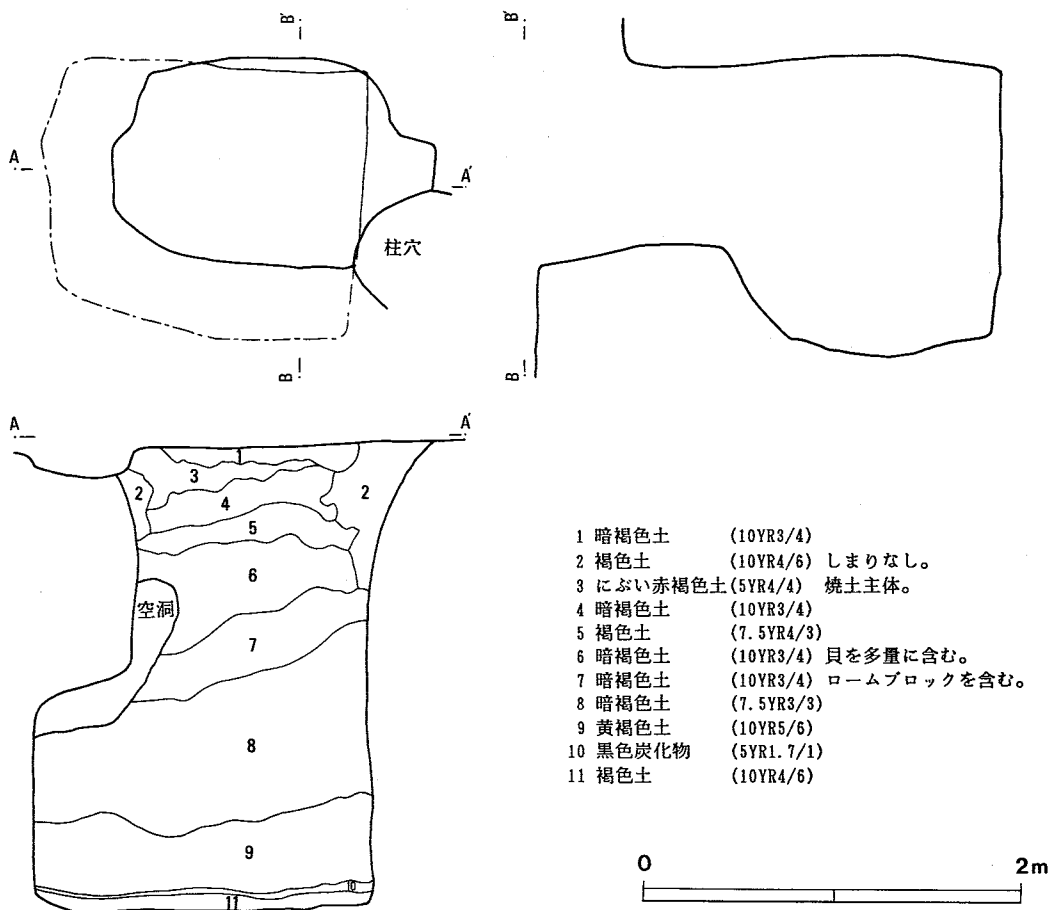
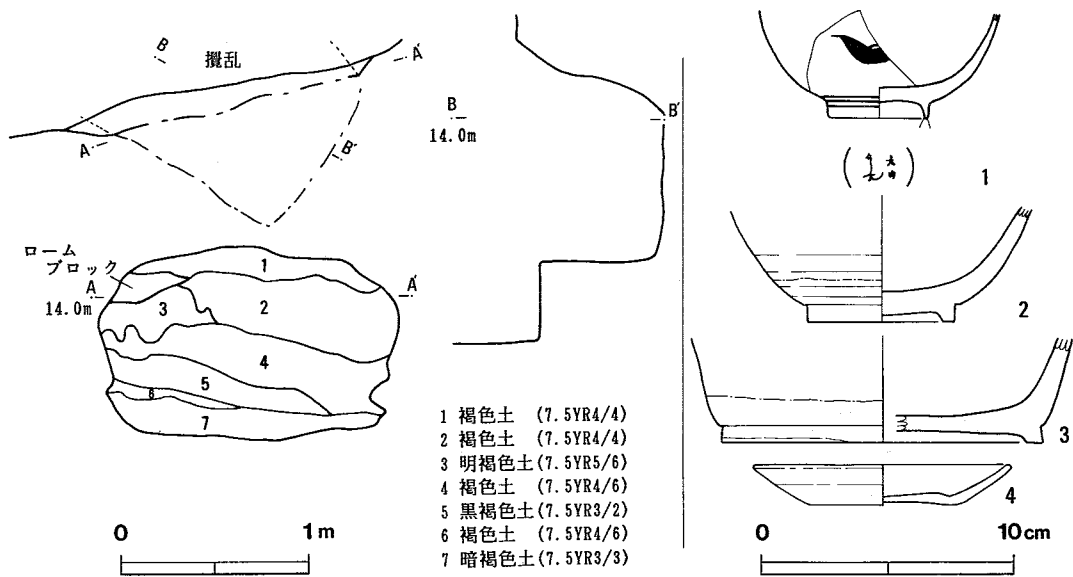


図 156 15号地下式土坑, 同出土遺物, 16号地下式土坑

Figure 156 Cellar No.15 and its artifacts, and Cellar No.16

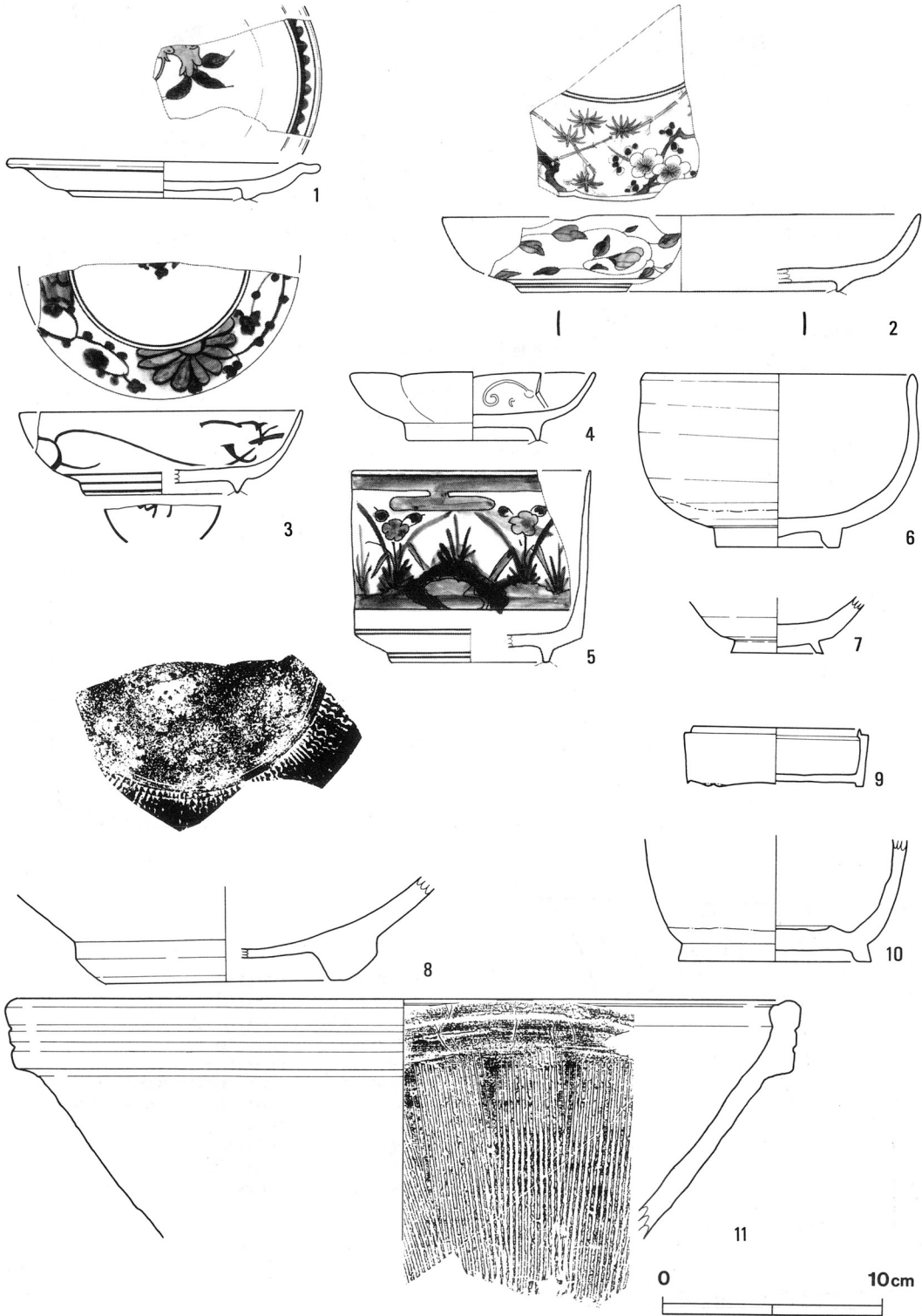


图 157 16 号地下式土坑出土遗物 (1)  
Figure 157 Artifacts from Cellar No.16

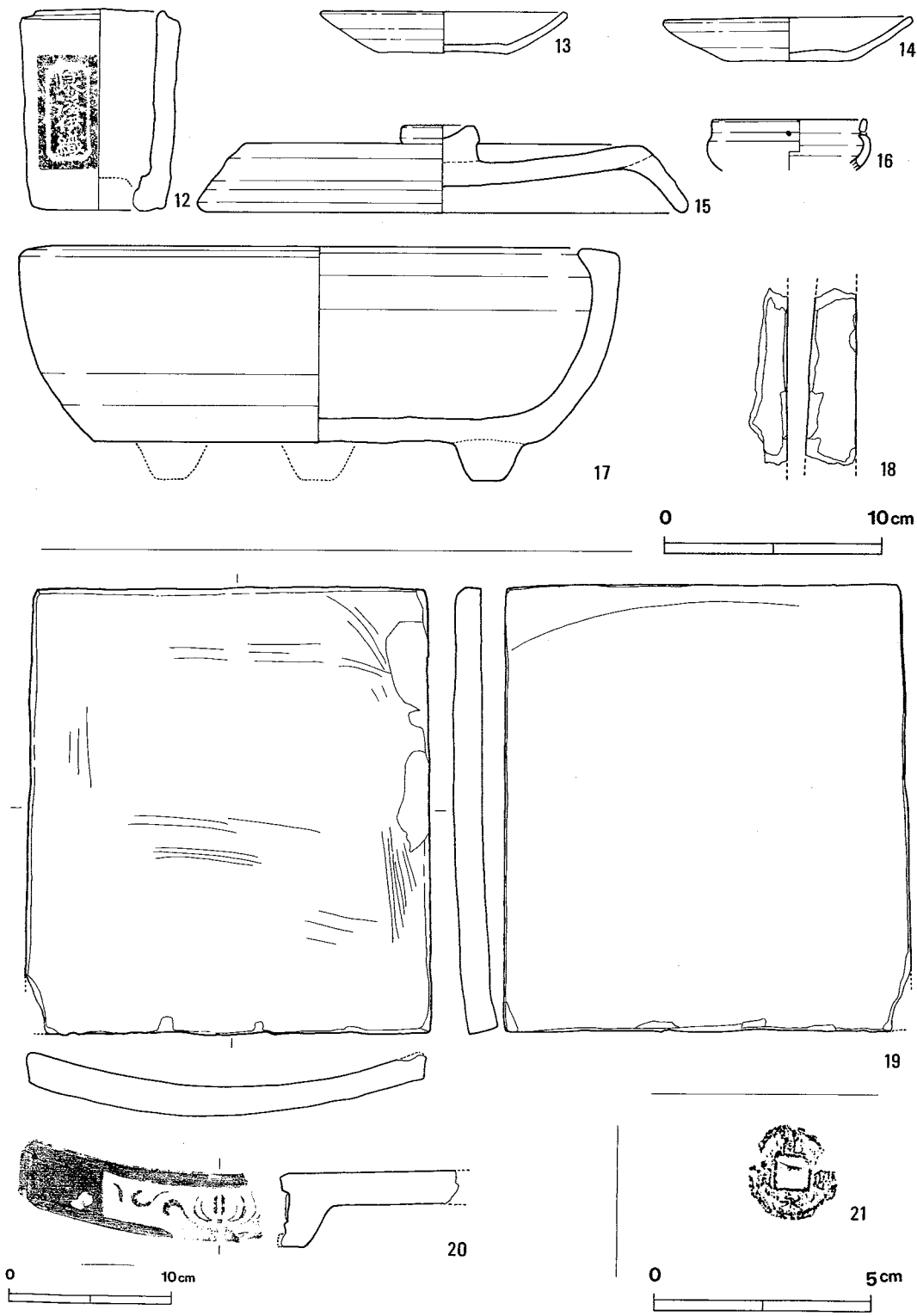


图 158 16 号地下式土坑出土遗物 (2)

Figure 158 Artifacts from Cellar No.16

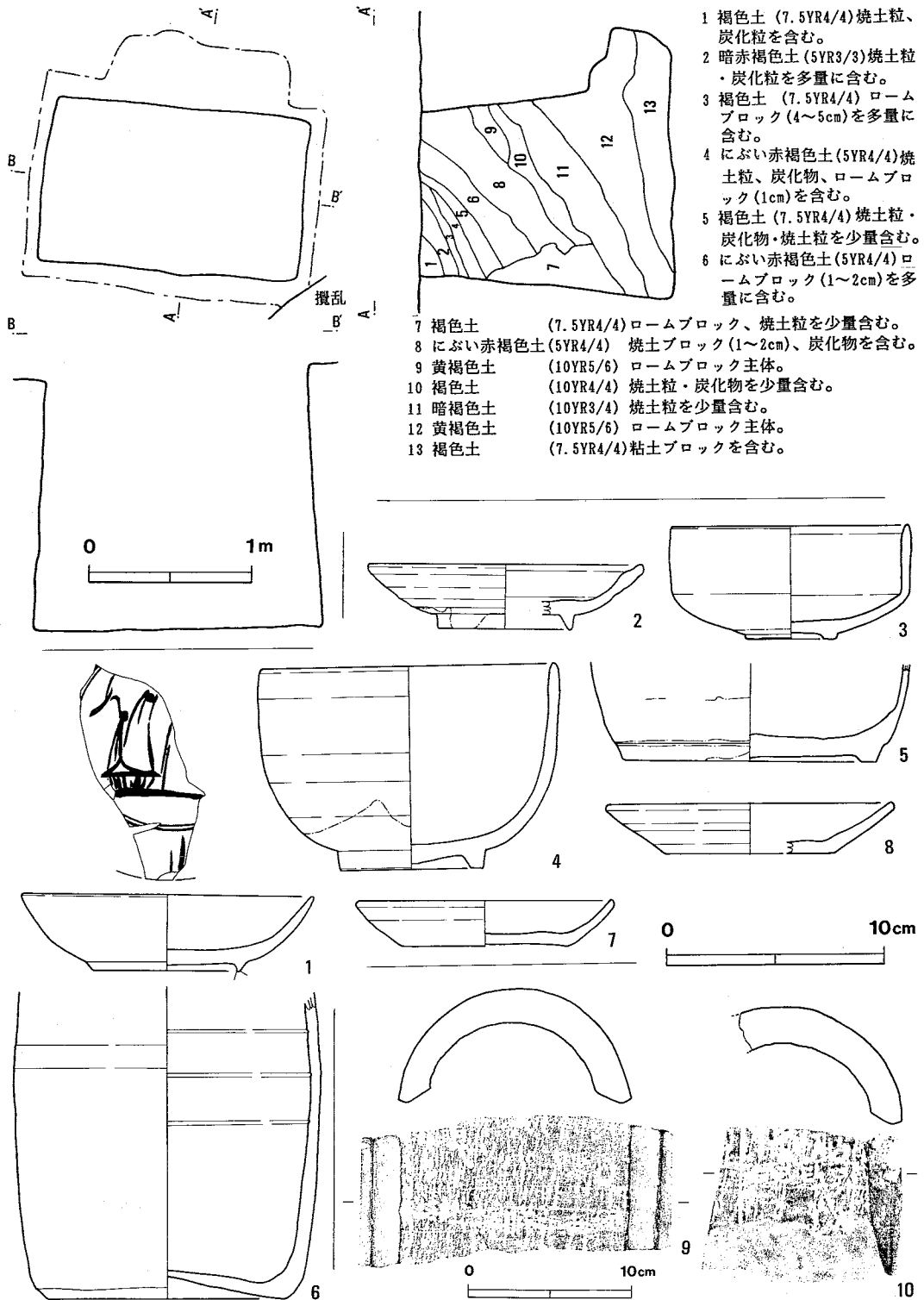


图 159 17号地下式土坑, 同出土遺物  
 Figure 159 Cellar No.17 and its artifacts

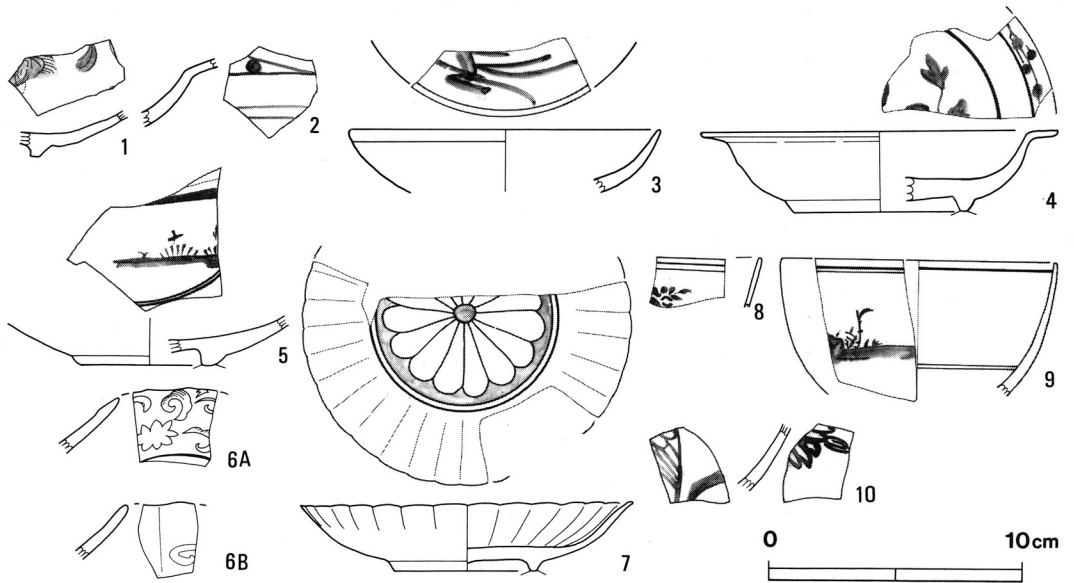
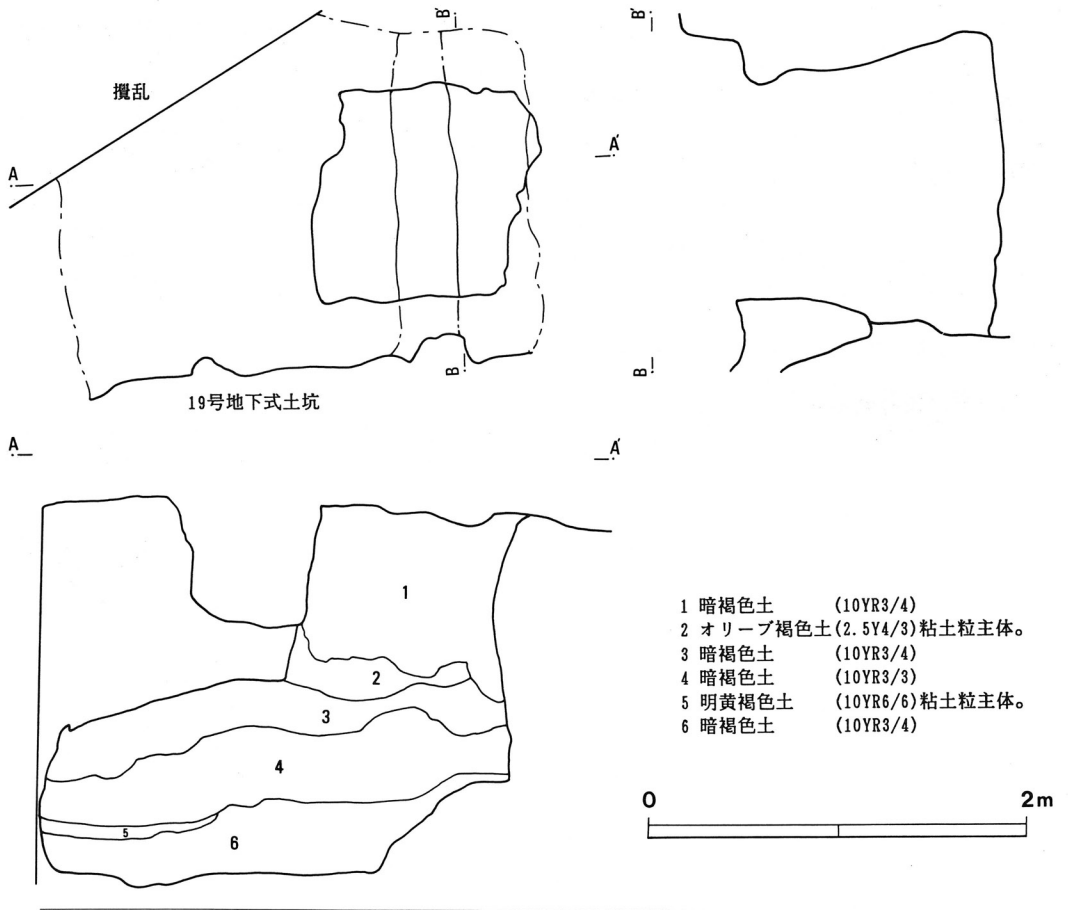


图 160 18号地下式土坑, 同出土遗物 (1)  
 Figure 160 Cellar No.18 and its artifacts



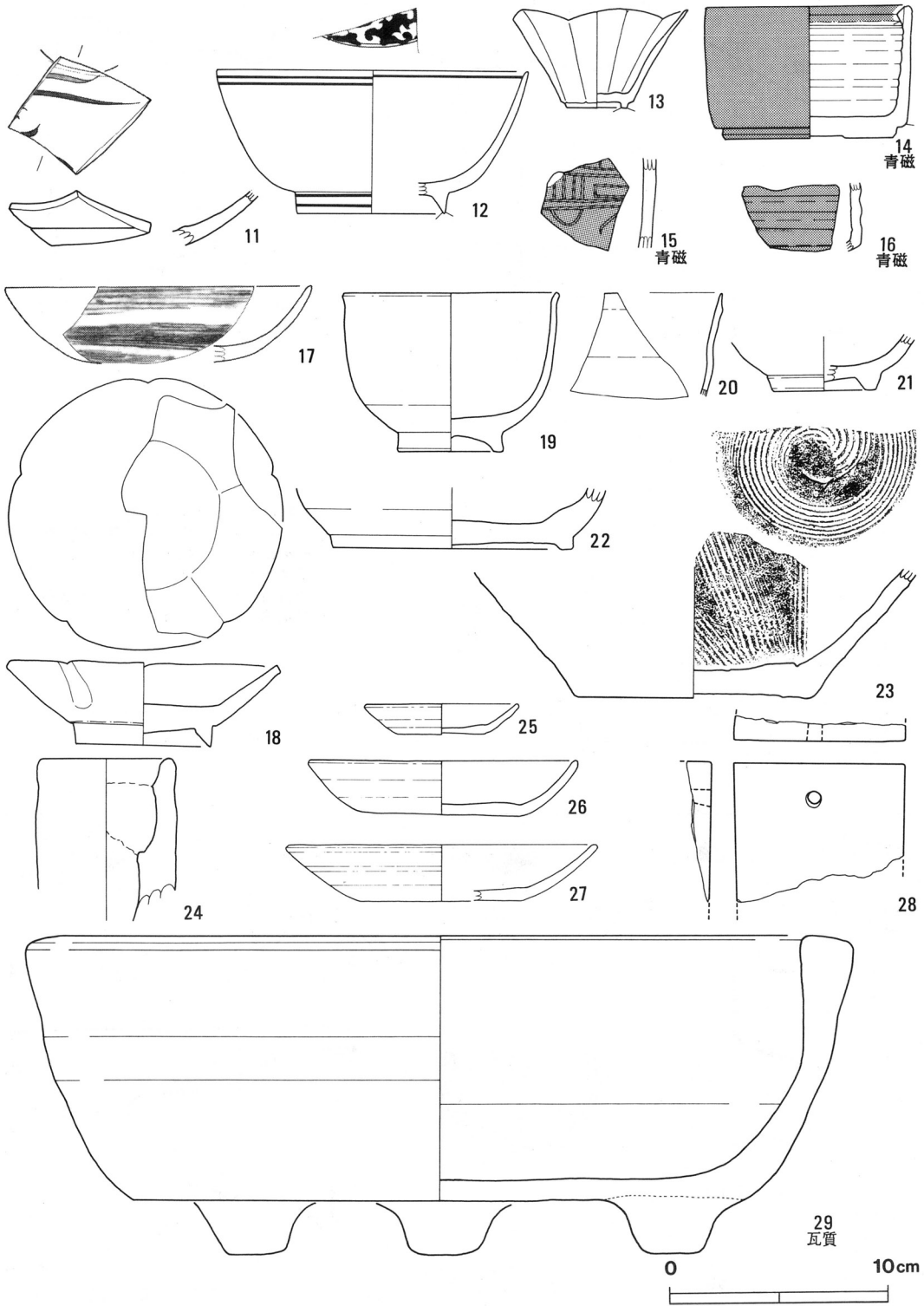
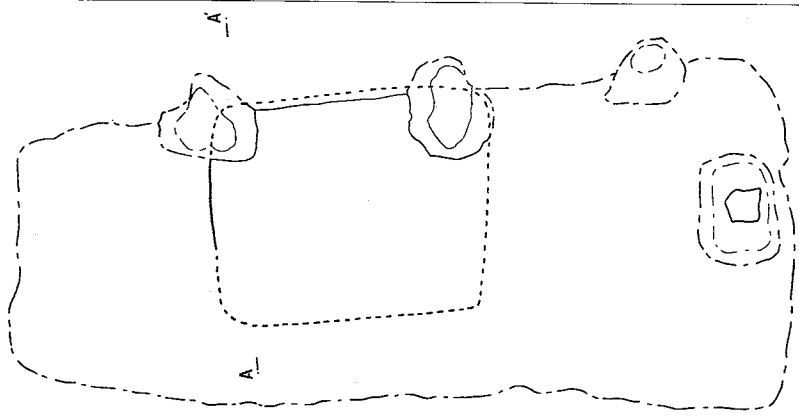
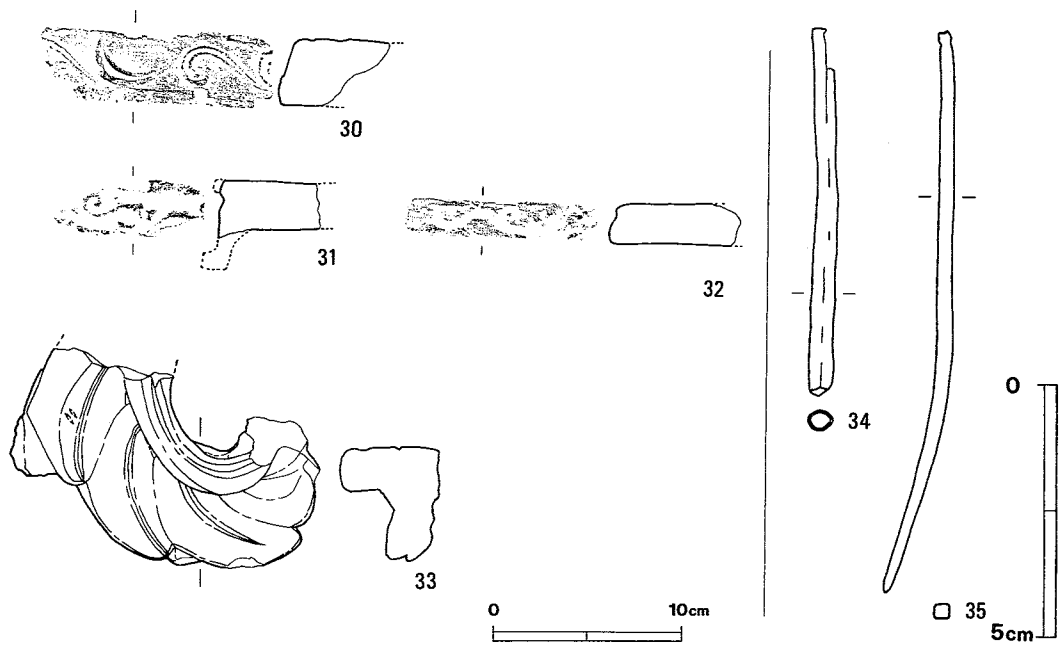


图 161 18 号地下式土坑出土遗物 (2)  
 Figure 161 Artifacts from Cellar No.18



- 1 暗赤褐色土 (5YR3/4) 焼土主体。
- 2 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒・ロームブロック主体。
- 3 暗褐色土 (7.5YR3/3) 焼土主体。
- 4 暗褐色土 (10YR3/4) ローム粒・炭化物を多量に含む。
- 5 褐色土 (10YR4/6)

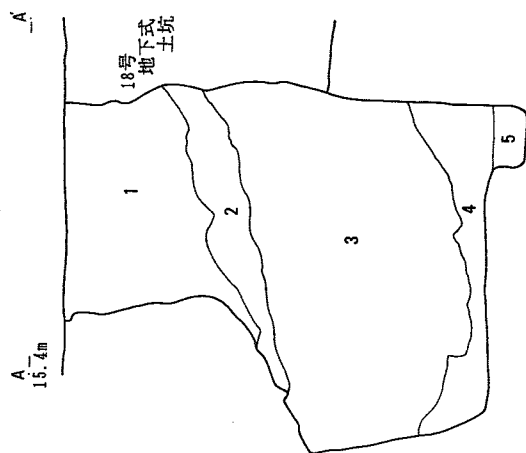


图 162 18号地下式土坑出土遺物 (3), 19号地下式土坑  
 Figure 162 Artifacts from Cellar No.18, and Cellar No.19

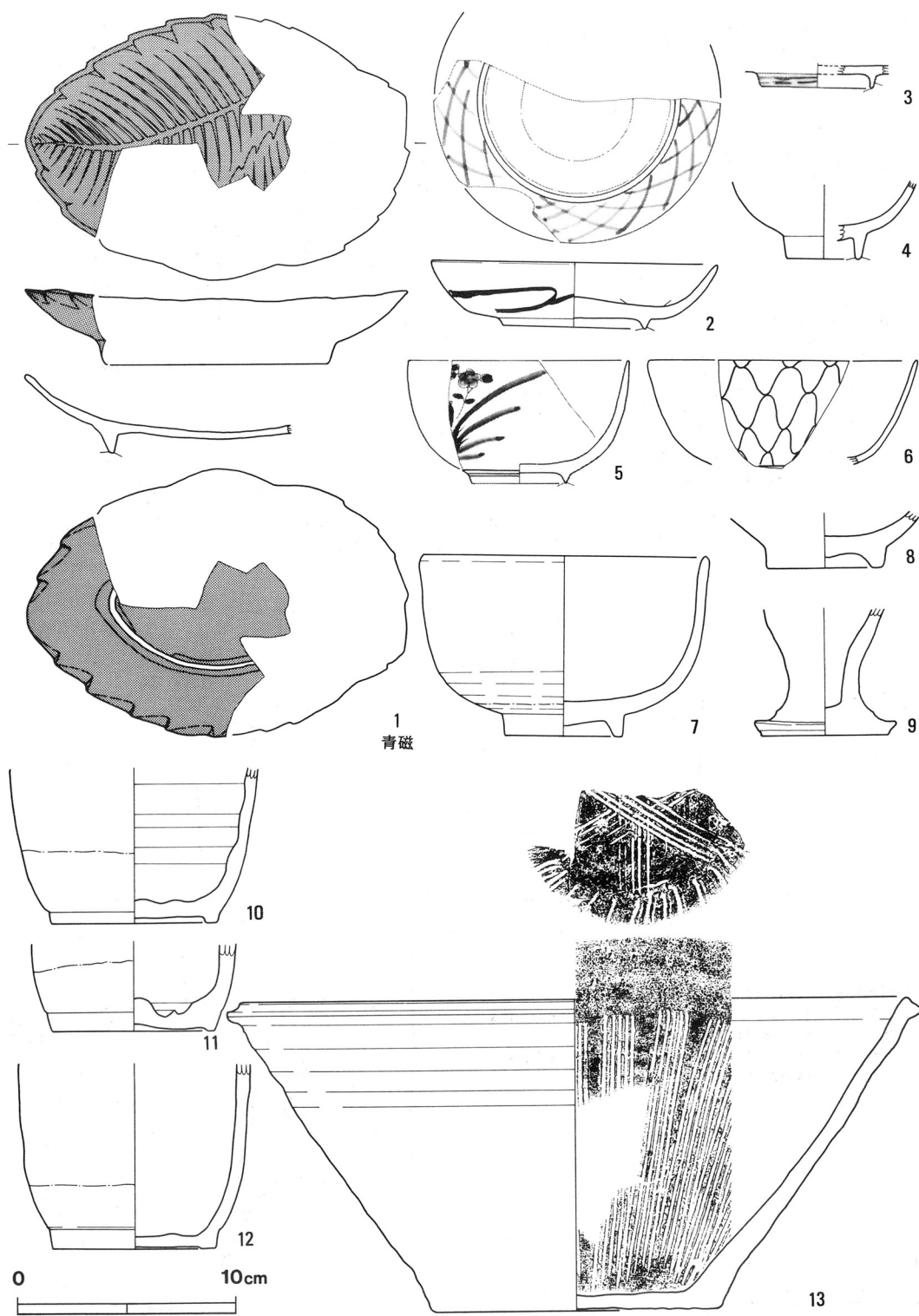


图 163 19 号地下式土坑出土遗物 (1)  
 Figure 163 Artifacts from Cellar No.19

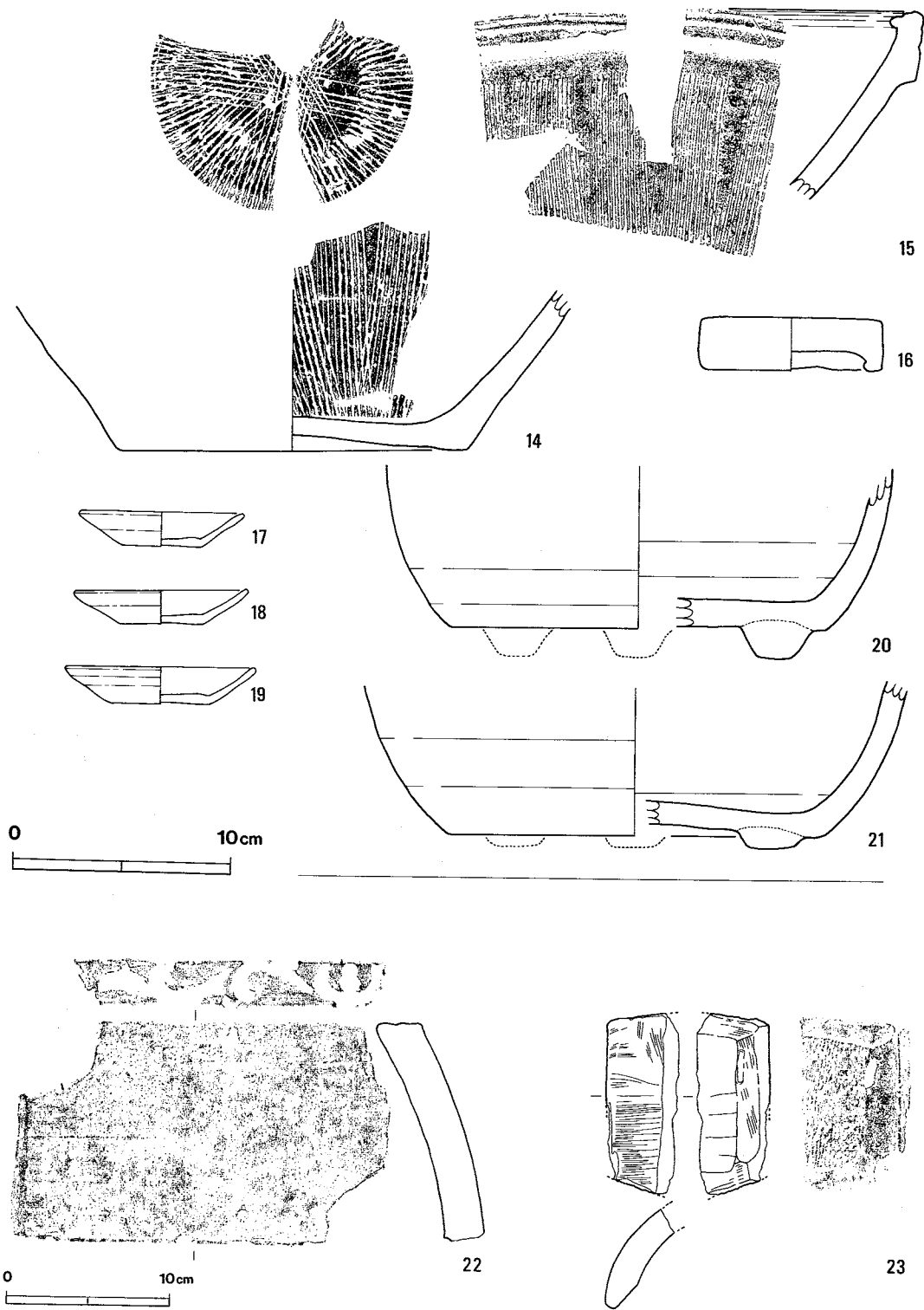


图 164 19号地下式土坑出土遗物 (2)

Figure 164 Artifacts from Cellar No.19

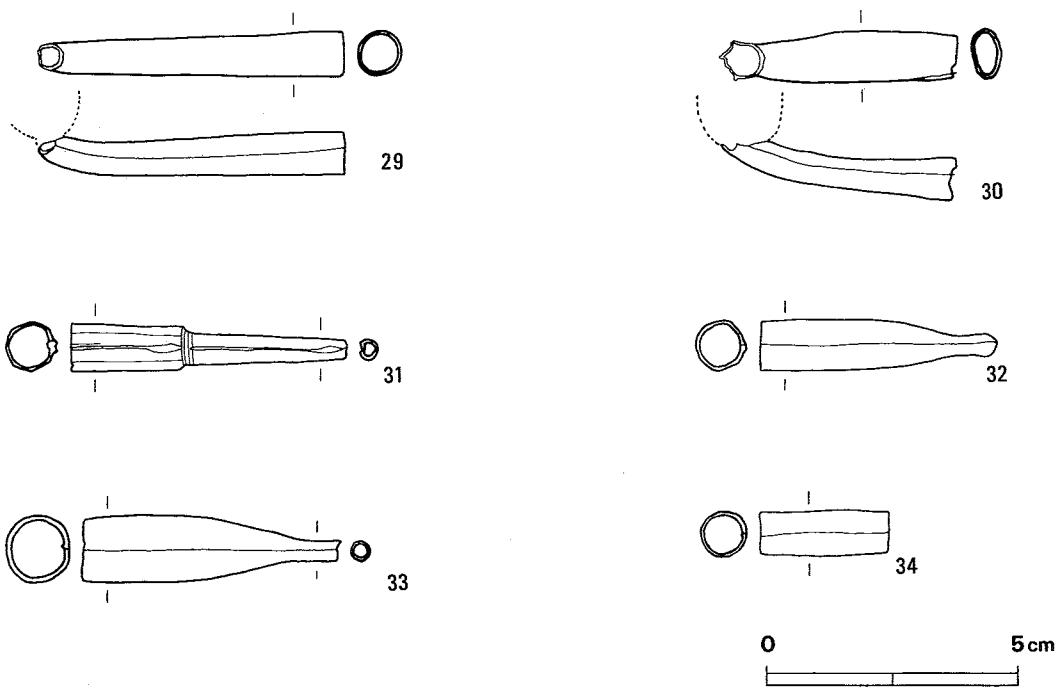
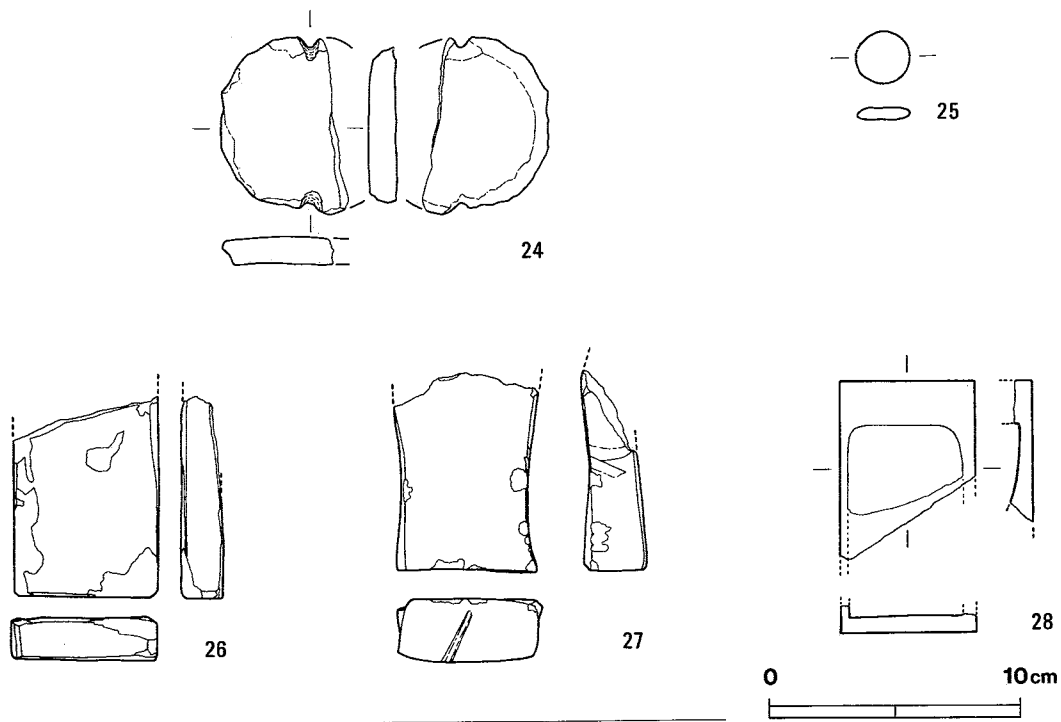


图 165 19号地下式土坑出土遗物(3)  
Figure 165 Artifacts from Cellar No.19

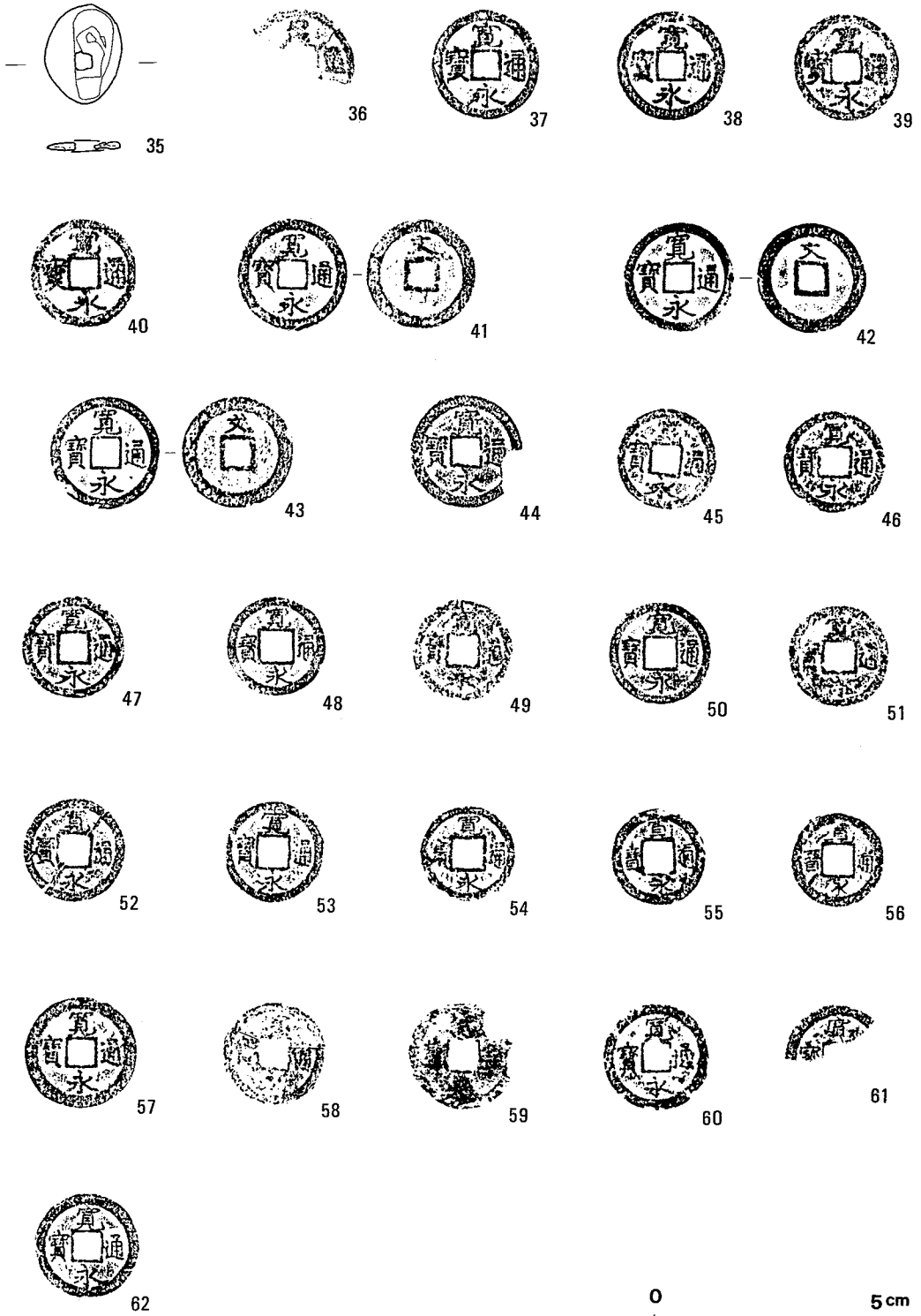


图 166 19号地下式土坑出土遗物(4)  
Figure 166 Artifacts from Cellar No.19

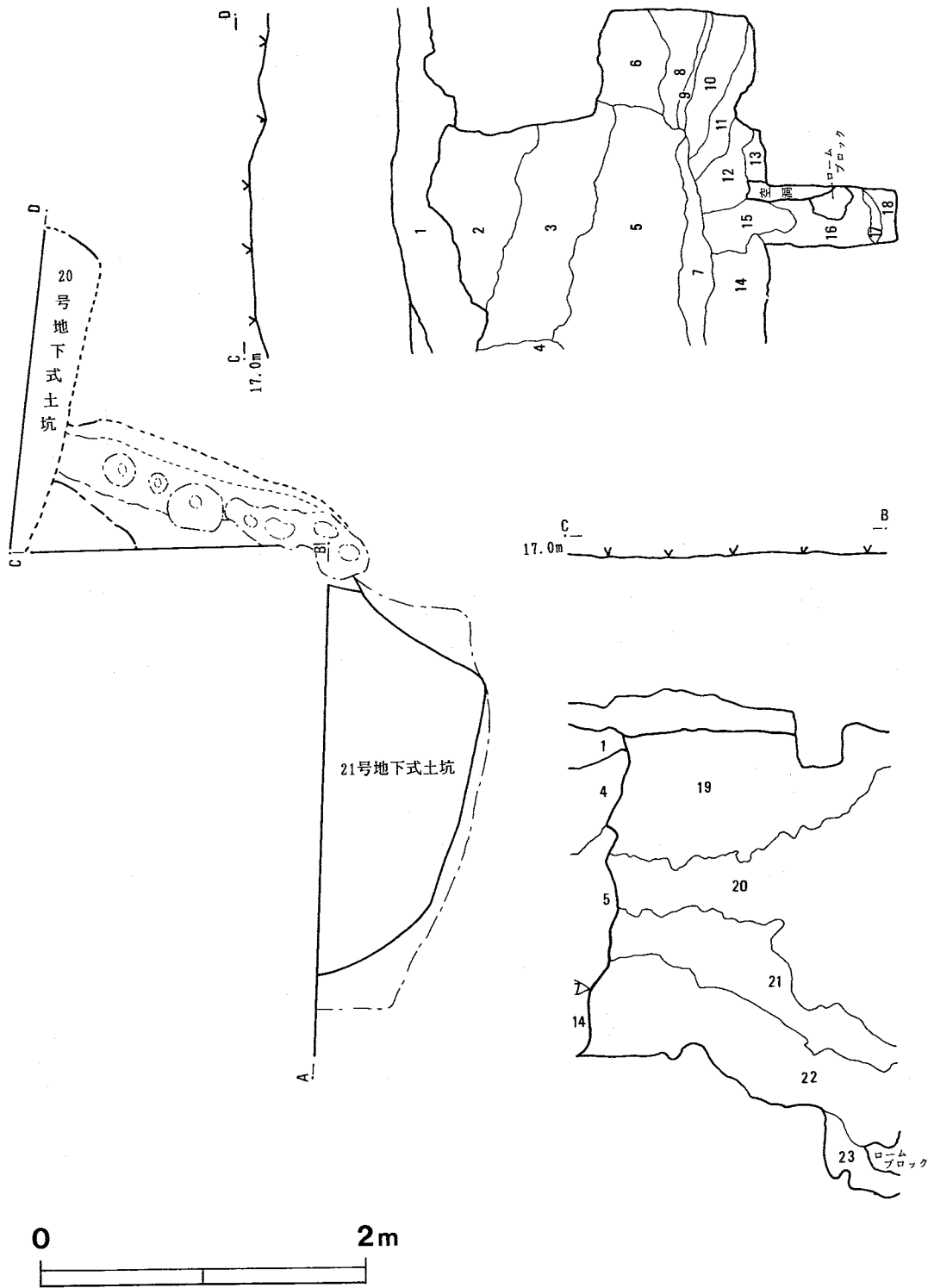


図 167 20・21号地下式土坑 (1)

Figure 167 Cellars No.20 and 21

- 1 褐色土 (10YR4/4) 小礫(2~3cm)を含む。江戸時代の層。
- 2 にぶい赤褐色土(5YR4/4) ロームブロック(4~5cm), 焼土ブロック(1cm), 炭化物を含む。
- 3 褐色土 (7.5YR4/4)
- 4 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒主体。
- 5 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土ブロックを多量に含む。
- 6 暗赤褐色土 (5YR3/4) ロームブロック・炭化物を含む。
- 7 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック(5~6cm)を多量に含む。
- 8 暗赤褐色土 (5YR3/3) 炭化物を多量に含む。
- 9 黒色炭化物 (5YR1.7/1) 焼土粒を含む。
- 10 暗赤褐色土 (5YR3/4) 焼土ブロック(2~3cm)・炭化物を多量に含む。
- 11 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土ブロック(1cm)、炭化物を含む。
- 12 にぶい赤褐色土(5YR4/4) 焼土ブロック(1cm)、炭化物を含む。
- 13 灰黄褐色土 (10YR4/2) 粘土粒を含む。
- 14 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土ブロック(4~5cm)を多量に含む。
- 15 褐色土 (10YR4/4) ロームブロック(2~3cm), 焼土ブロック(1cm)、炭化物を含む。
- 16 暗赤褐色土 (5YR3/3) ロームブロック(2~3cm), 焼土ブロック(1cm)、炭化物を含む。
- 17 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒を含む。
- 18 暗褐色土 (10YR3/4) 焼土ブロック(1cm)を含む。
- 19 褐色土 (10YR4/6) 焼土粒、炭化粒を含む。
- 20 黄褐色土 (10YR5/6) ローム粒、ロームブロック(5~10cm)主体。
- 21 黄褐色土 (10YR5/6) ロームの埋土。
- 22 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック(5~10cm)を多量に含む。
- 23 暗褐色土 (10YR3/4) ロームブロック(4~5cm)、炭化物を含む。
- 24 褐色土 (10YR4/6) ロームブロック(4~5cm)を多量に含む。
- 25 褐色土 (10YR4/4) 焼土粒、炭化粒を少量含む。

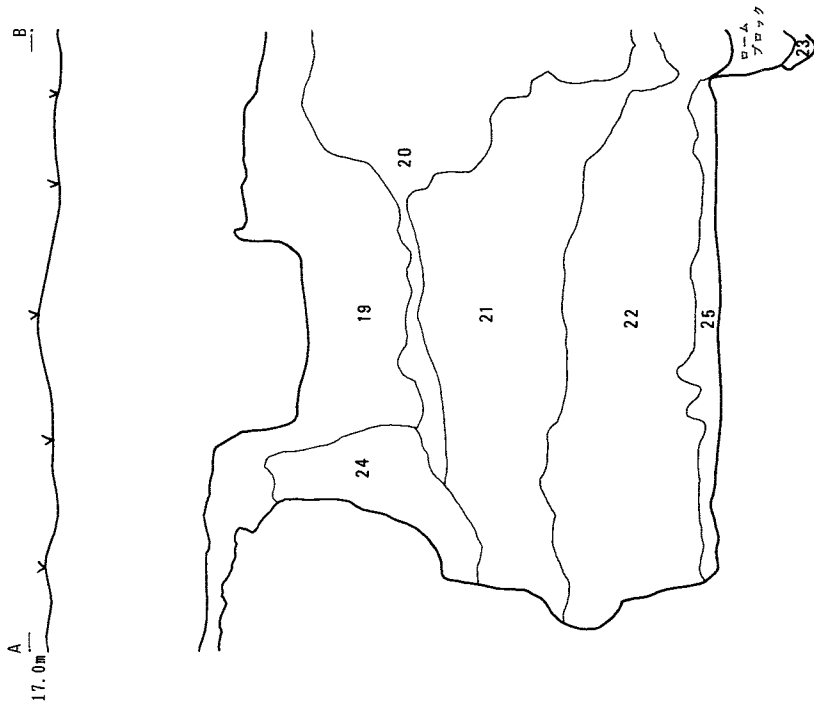
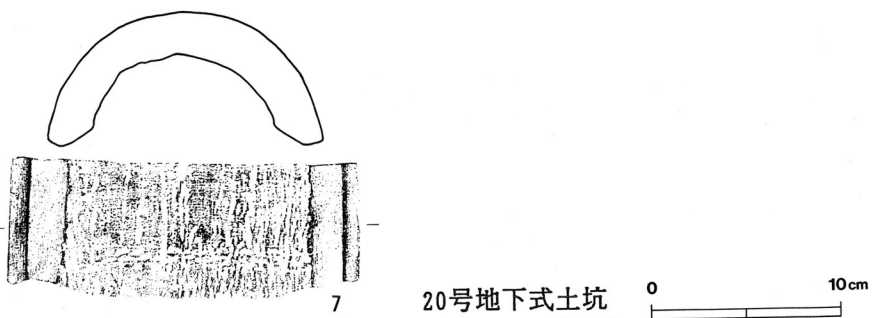
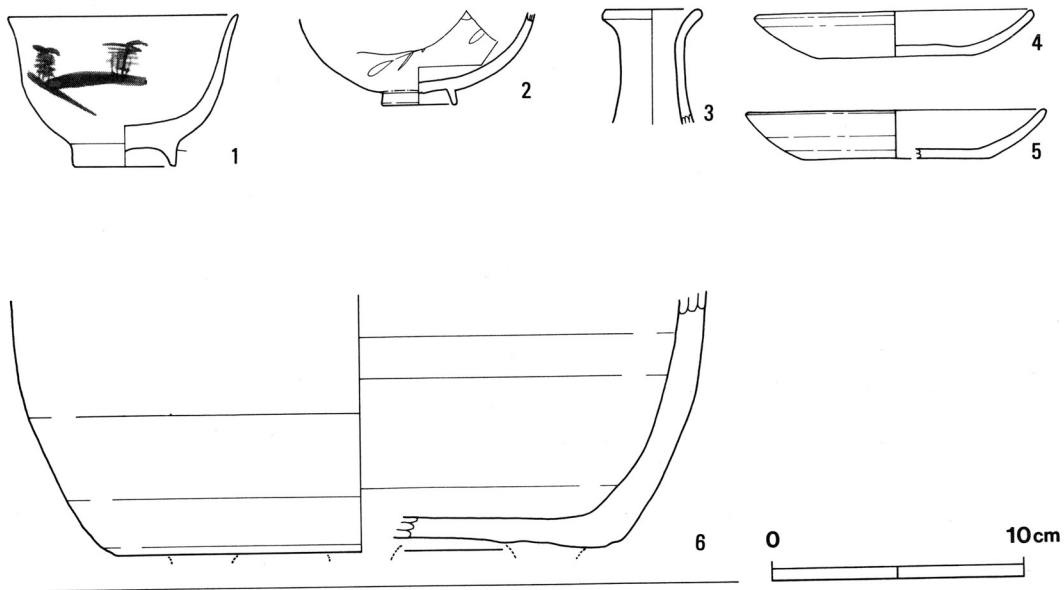
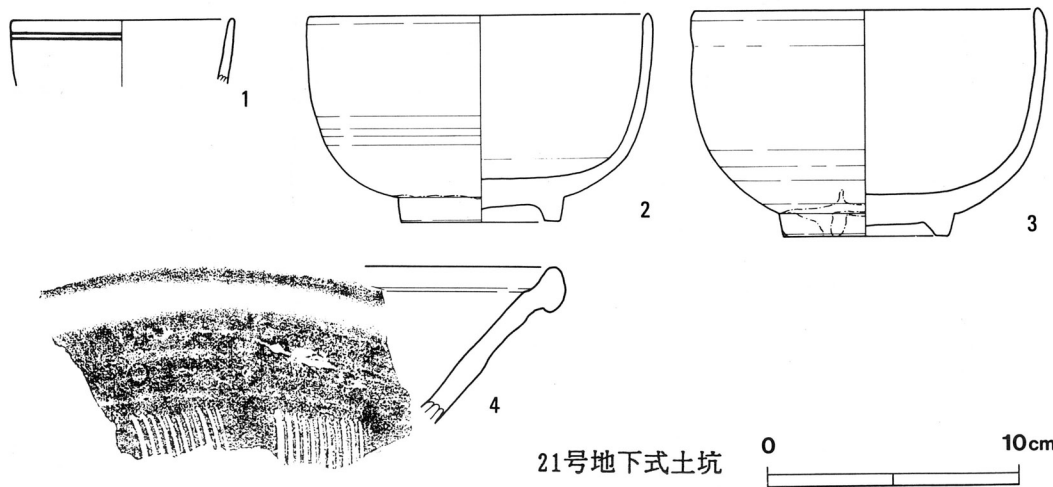


図 168 20・21号地下式土坑(2)  
Figure 168 Cellars No.20 and 21





20号地下式土坑



21号地下式土坑

图 169 20·21 号地下式土坑出土遺物  
Figure 169 Artifacts from Cellars No.20 and 21

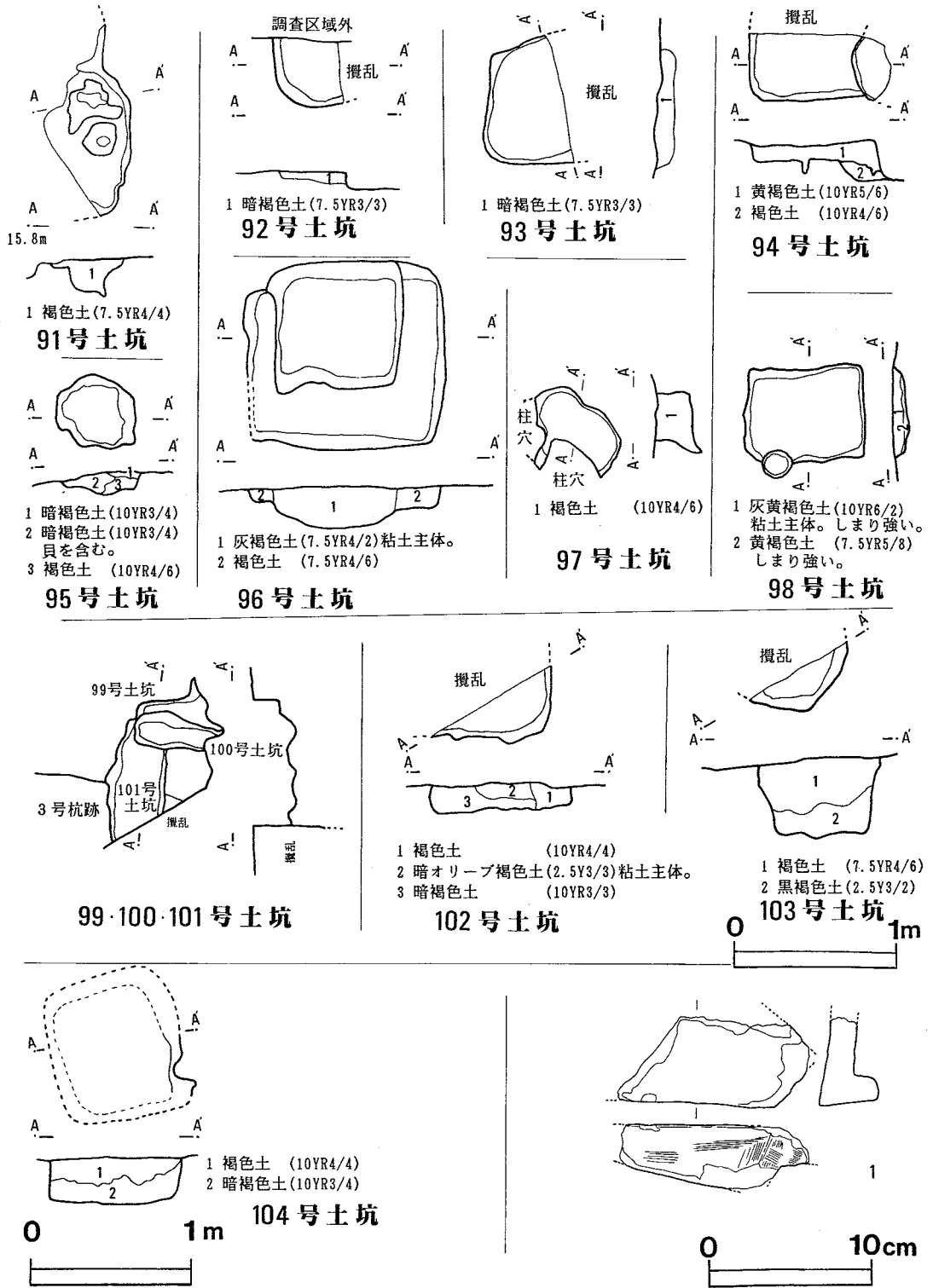
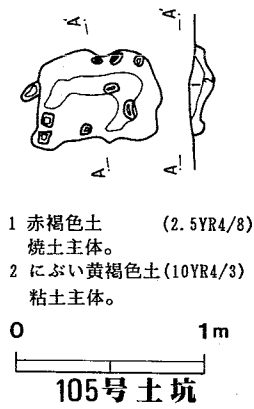


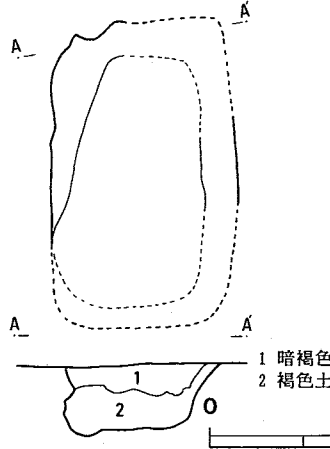
图 170 91~104 号土坑, 104 号土坑出土遗物  
Figure 170. Pits No.91-104, and the artifact from Pit No.104



- 1 赤褐色土 (2.5YR4/8) 焼土主体。
- 2 にぶい黄褐色土(10YR4/3) 粘土主体。

0 1m

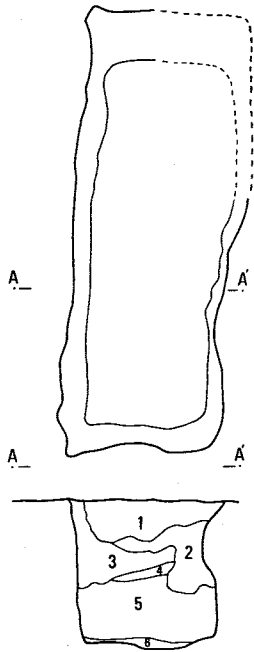
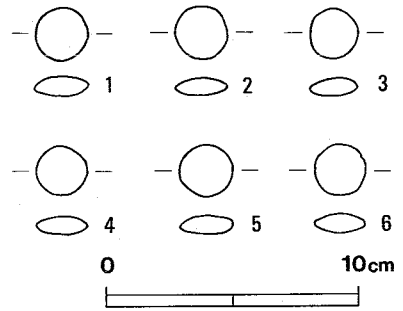
105号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/4)
- 2 褐色土 (10YR4/4)

0 1m

106号土坑



- 1 暗褐色土(10YR3/4)
- 2 暗褐色土(10YR3/4) 貝を含む。
- 3 暗褐色土(10YR3/4)
- 4 暗褐色土(10YR3/4) 貝を多量に含む。
- 5 灰褐色土(7.5YR4/2) 炭化物・貝を多量に、灰を少量含む。
- 6 黒褐色土(7.5YR3/2)

0 1m

107号土坑

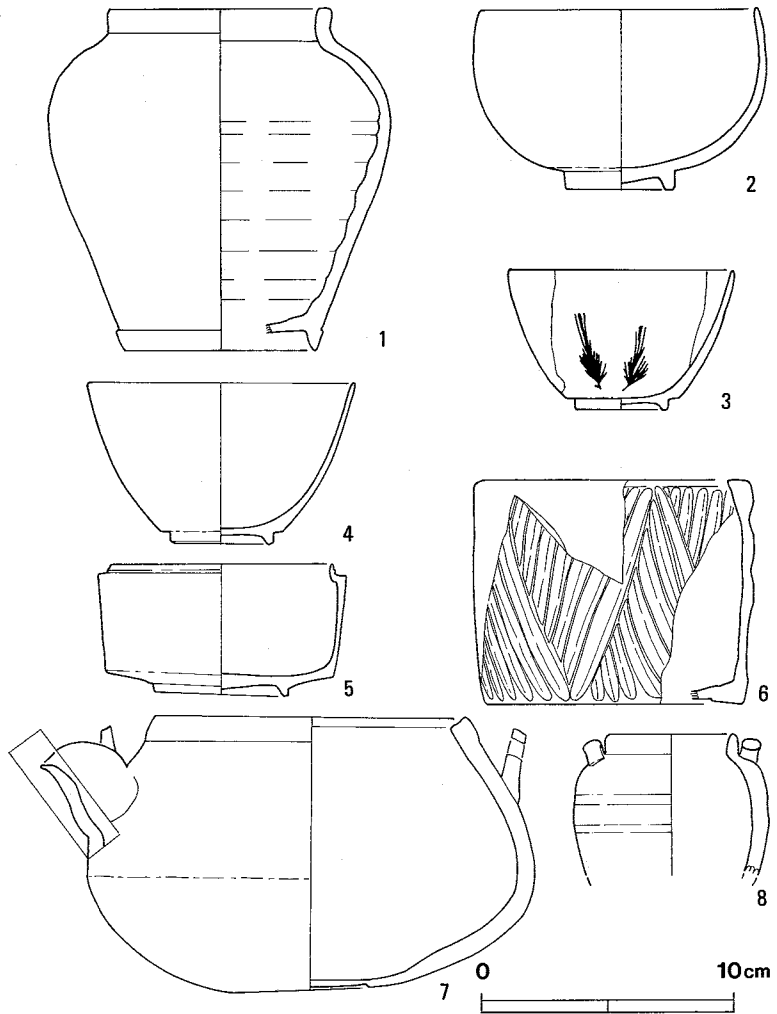


図 171 105・106号土坑, 106号・107号(1)土坑出土遺物  
Figure 171 Pits No.105-107, and artifacts from Pits No.106 and 107

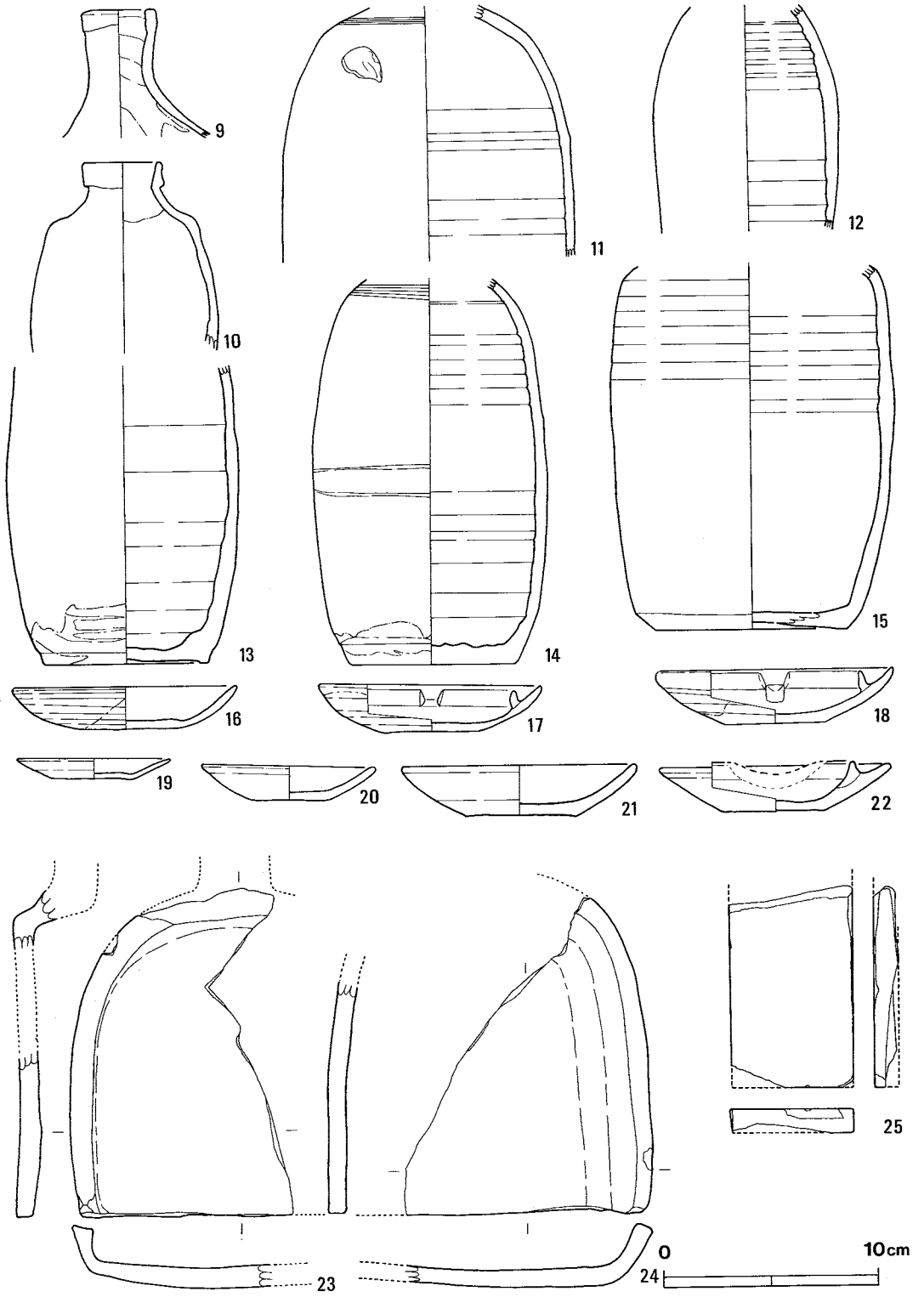


图 172 107 号土坑出土遗物 (2)  
 Figure 172 Artifacts from Pits No.107

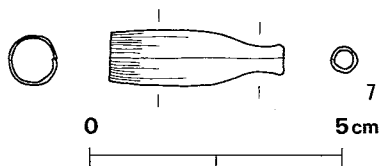
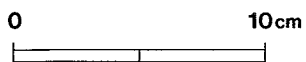
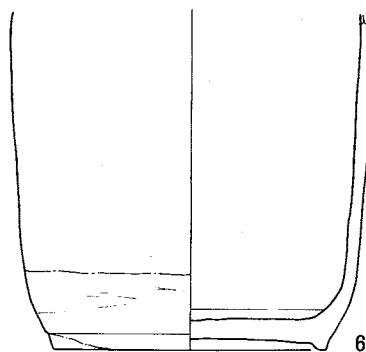
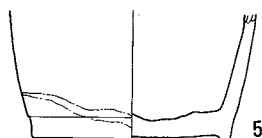
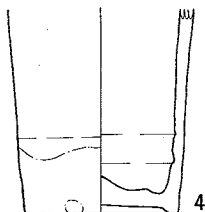
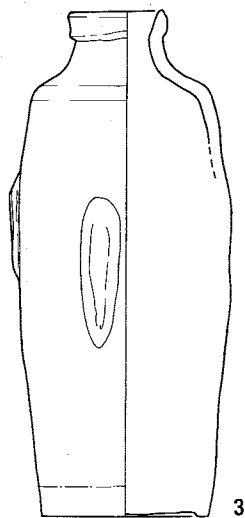
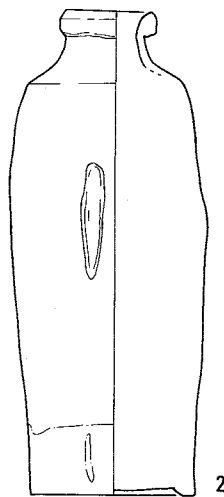
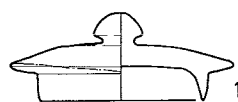
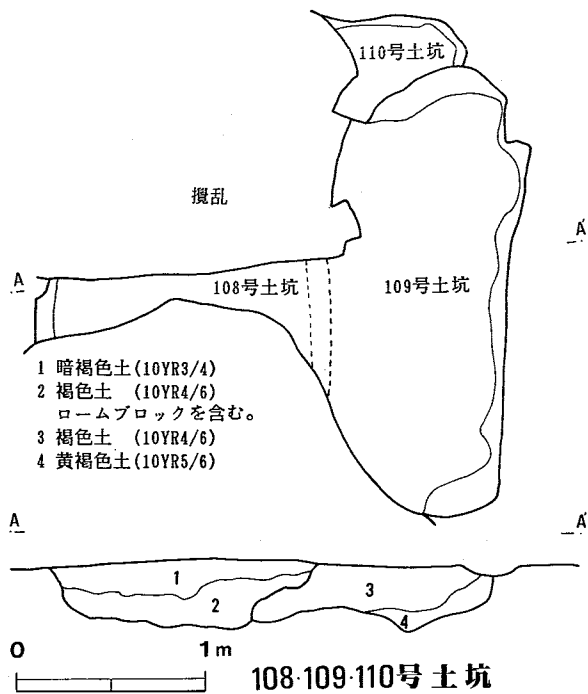


図 173 108～110号土坑, 108号土坑出土遺物(1)  
Figure 173 Pits No.108-110, and artifacts from Pit No.108

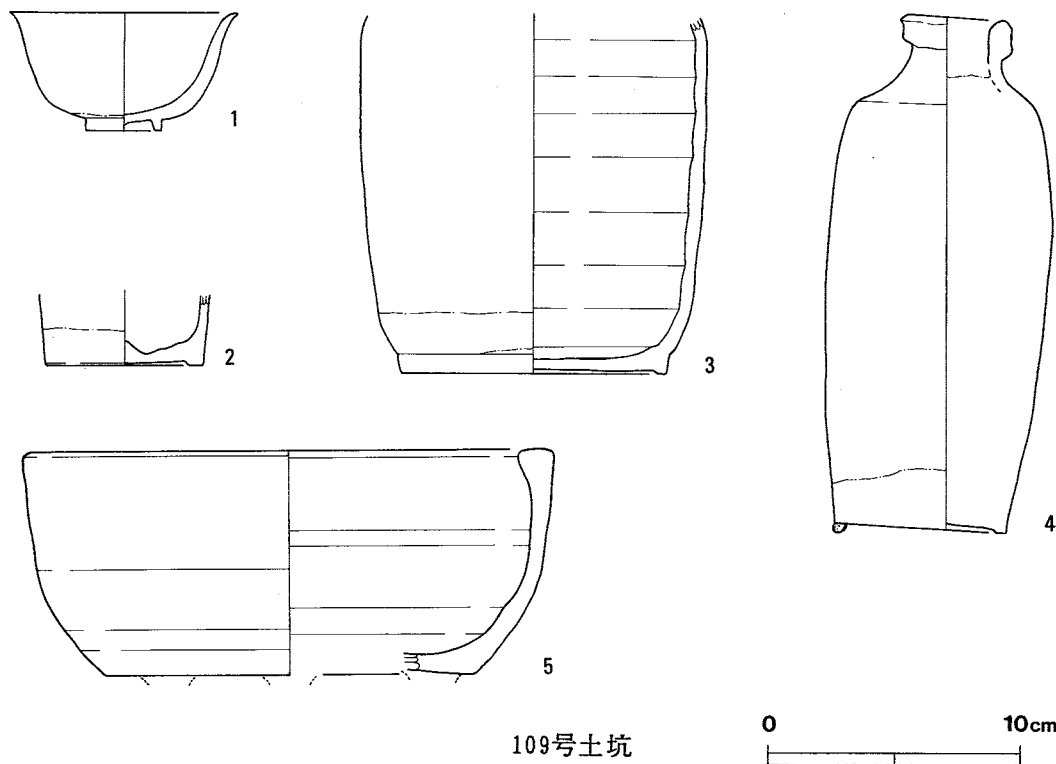
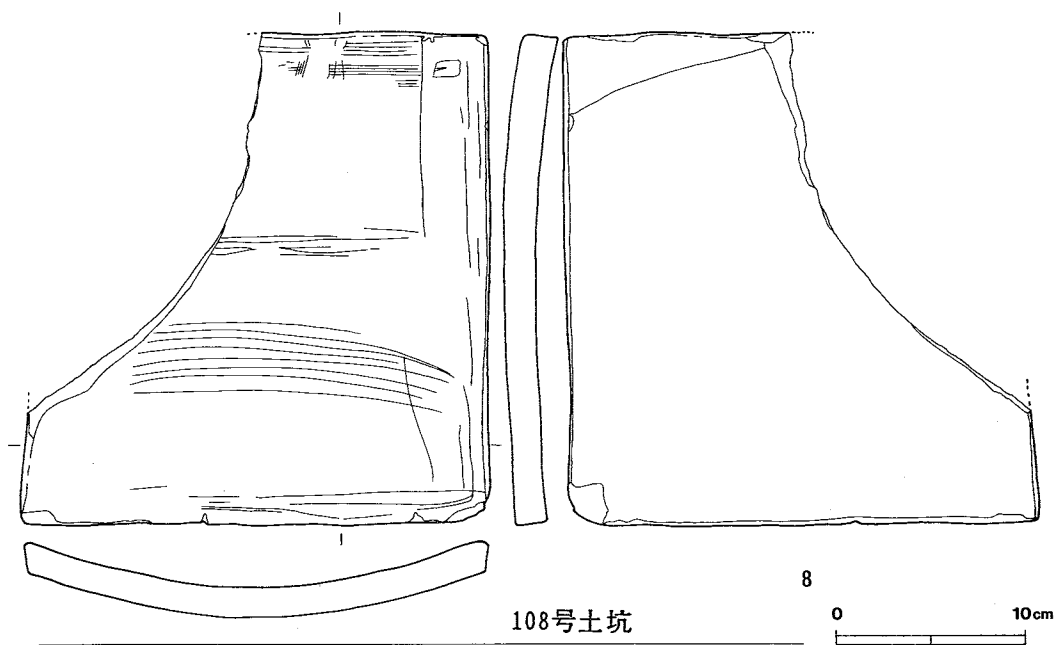


图 174 108 号 (2) · 109 号土坑出土遗物  
 Figure 174 Artifacts from Pits No.108 and 109

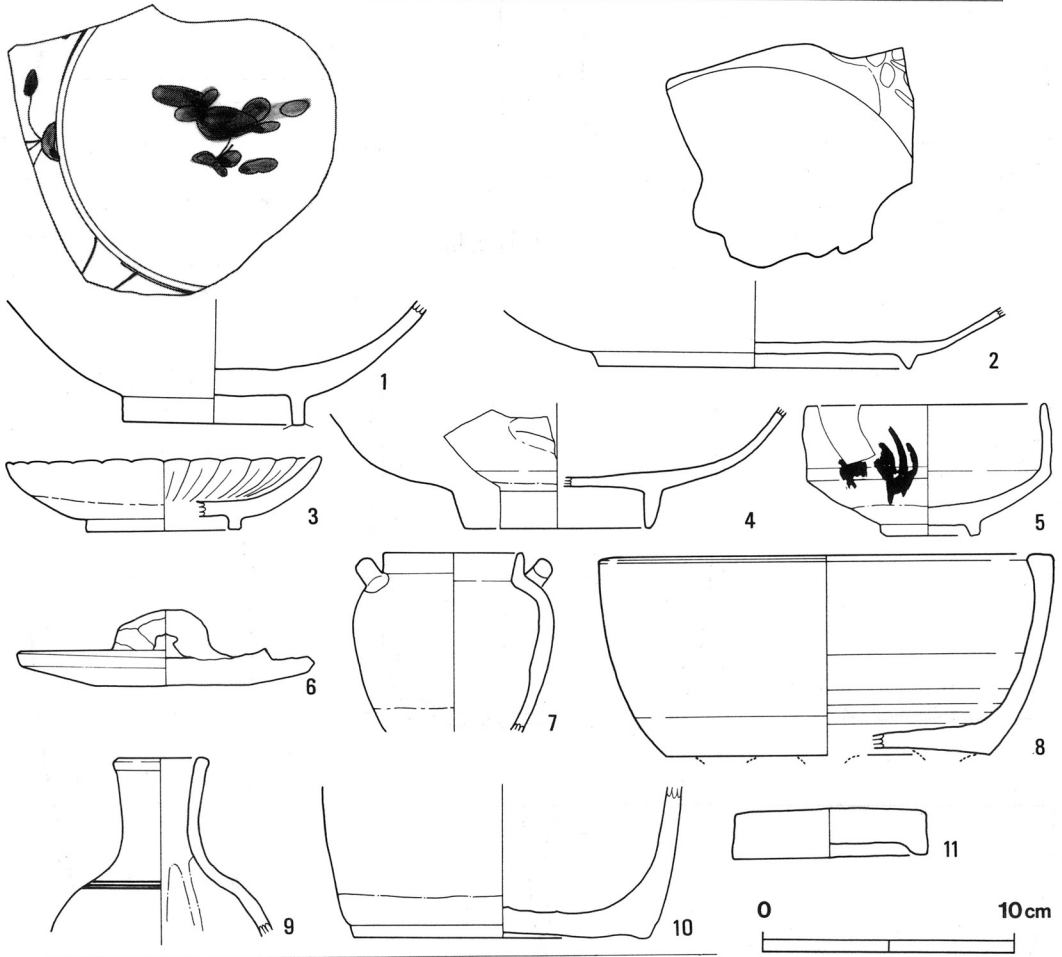
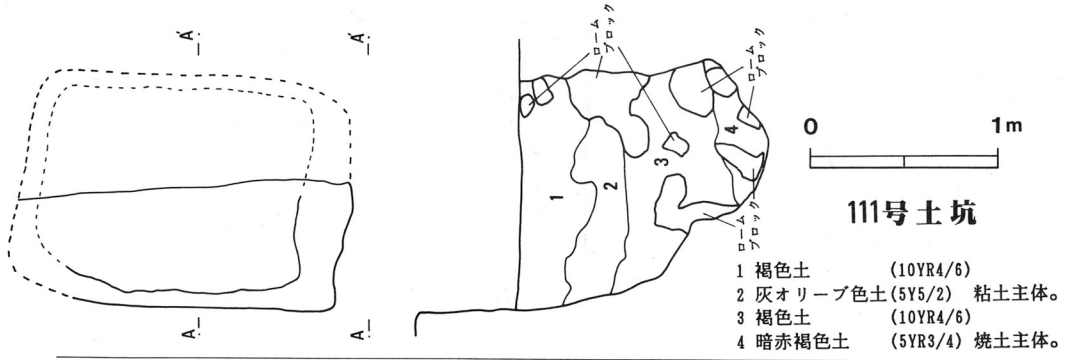


图 175 111号土坑, 同出土遺物  
 Figure 175 Pit No.111 and its artifacts

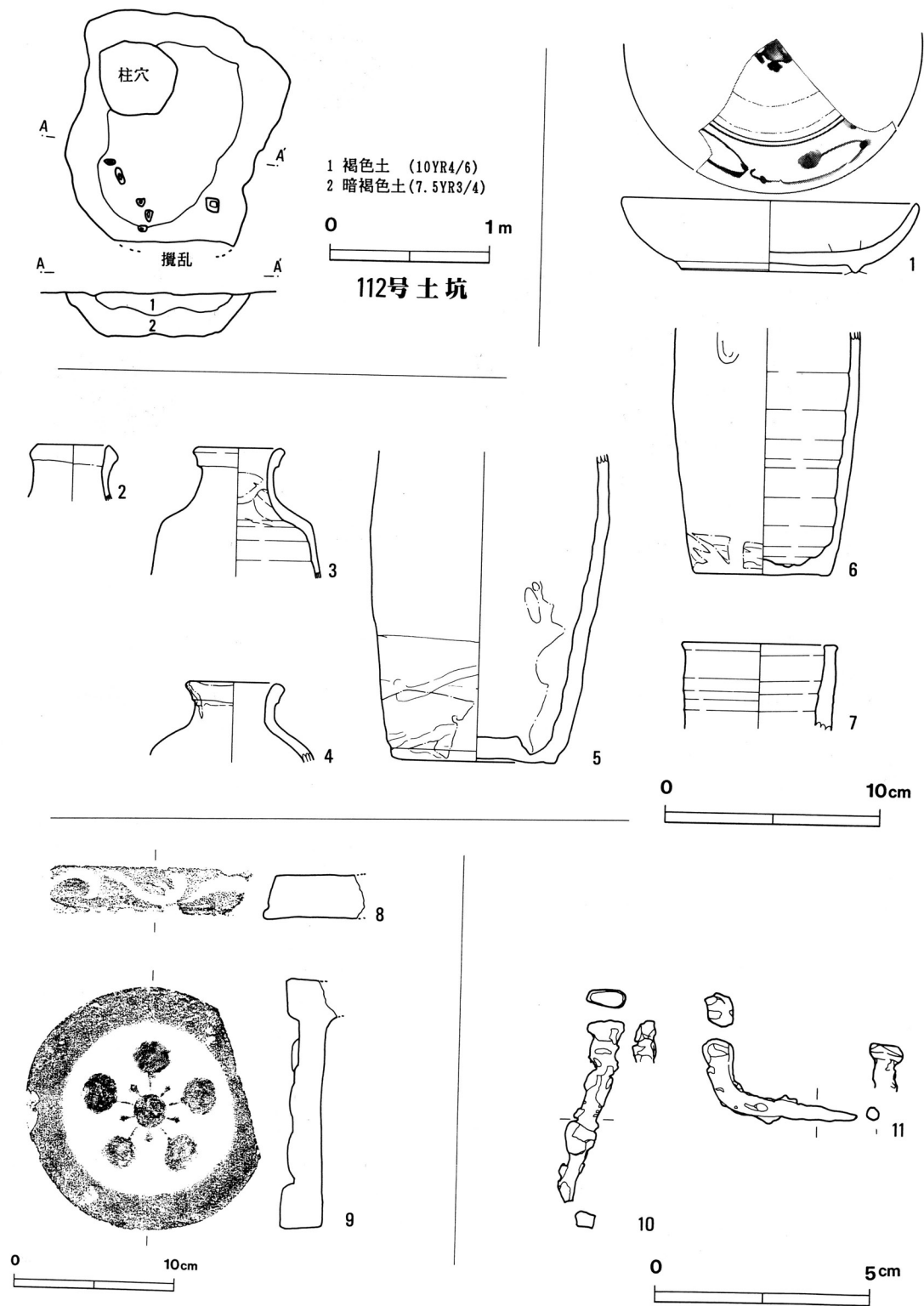


图 176 112 号土坑, 同出土遗物  
Figure 176 Pit No.112 and its artifacts





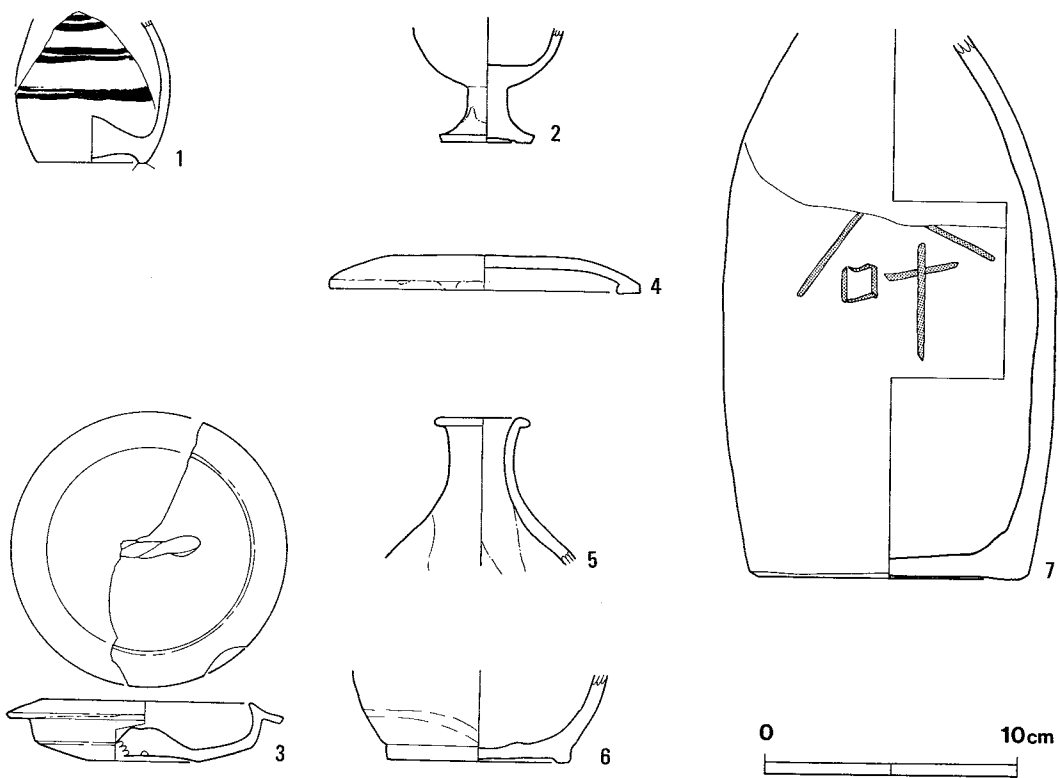
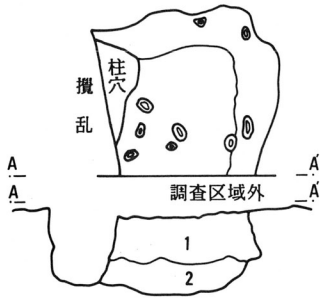
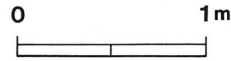


图 178 114 号土坑出土遗物  
 Figure 178 Artifacts from Pit No.114



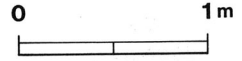
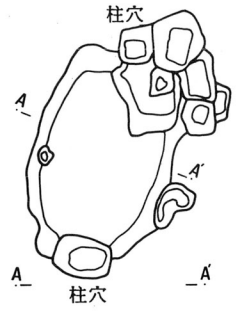
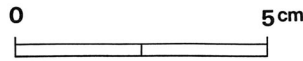
1 黑褐色土 (10YR3/2)  
2 暗褐色土 (10YR3/4)



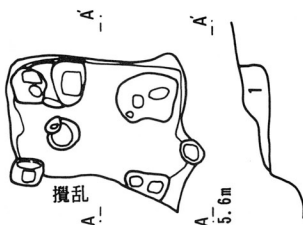
117号土坑



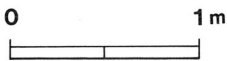
1



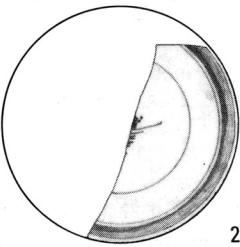
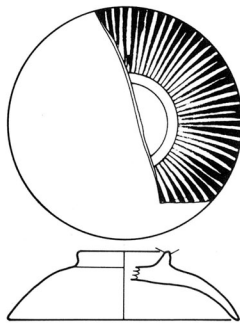
118号土坑



1 黑褐色土 (10YR2/3)



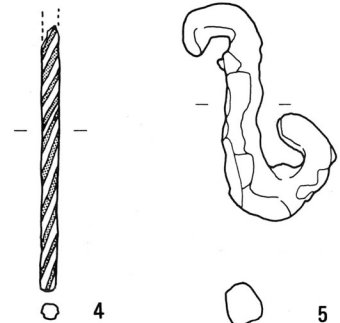
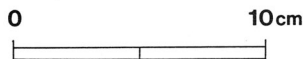
119号土坑



2

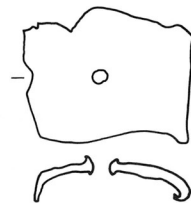


3



4

5



6

7

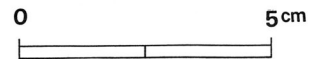


图 179 117~119 号土坑, 117·119 号土坑出土遗物

Figure 179 Pits No.117-119, and artifacts from Pits No.117 and 119

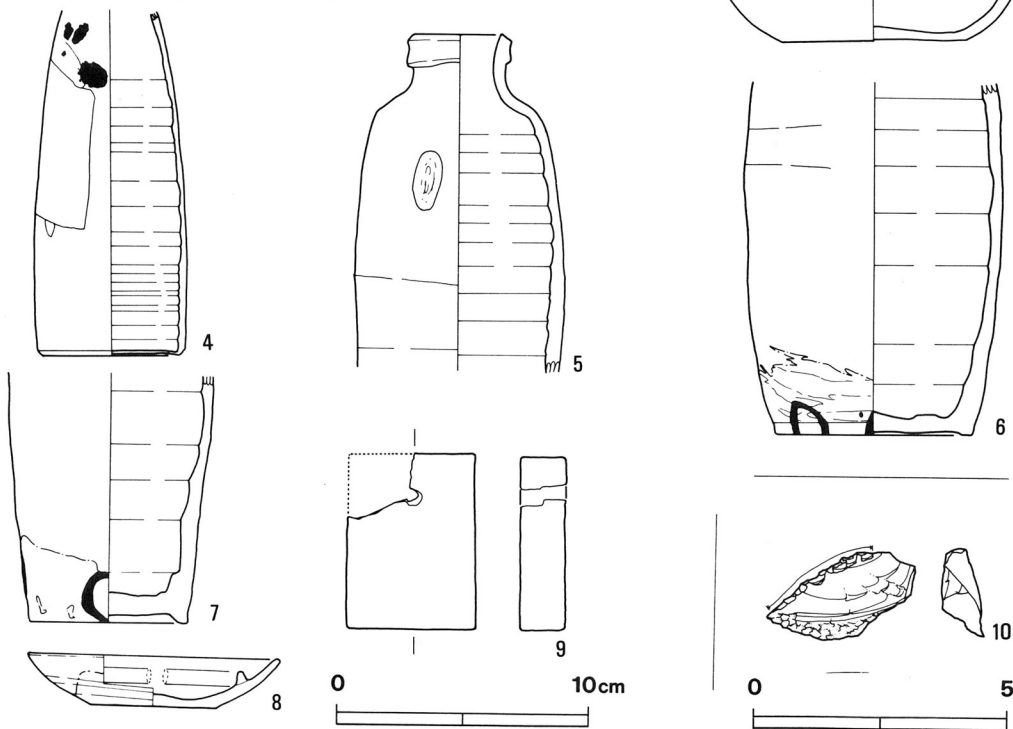
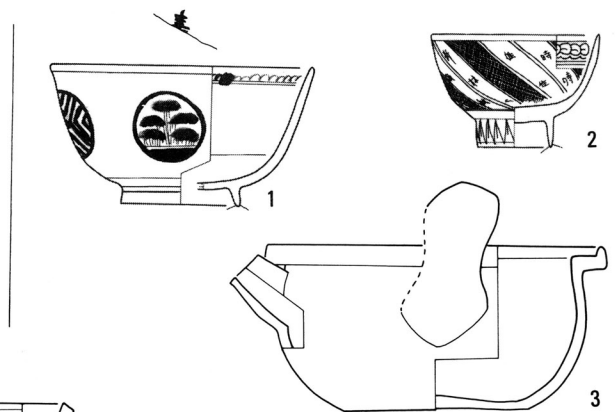
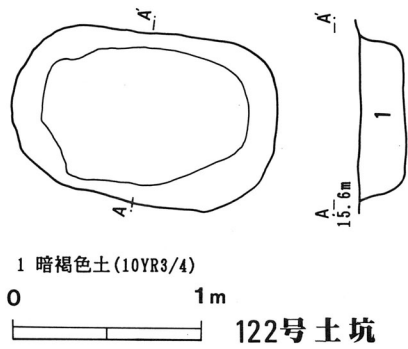
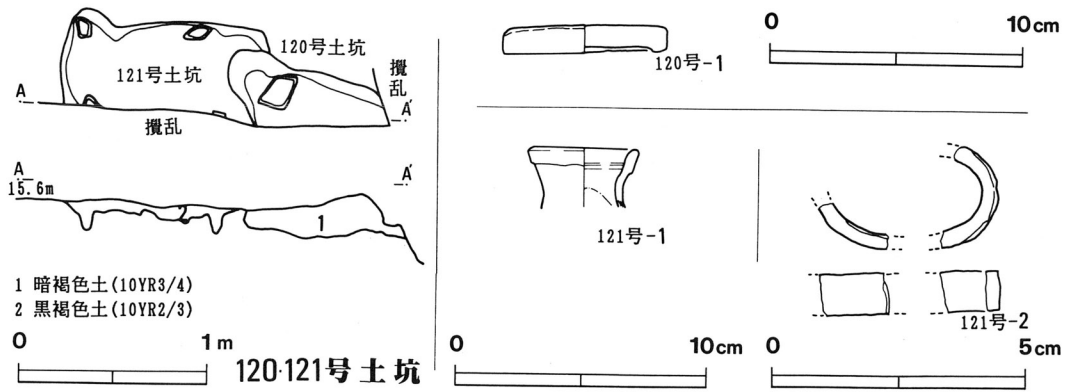


图 180 120~122 号土坑, 同出土遗物  
Figure 180 Pits No.120—122 and their artifacts

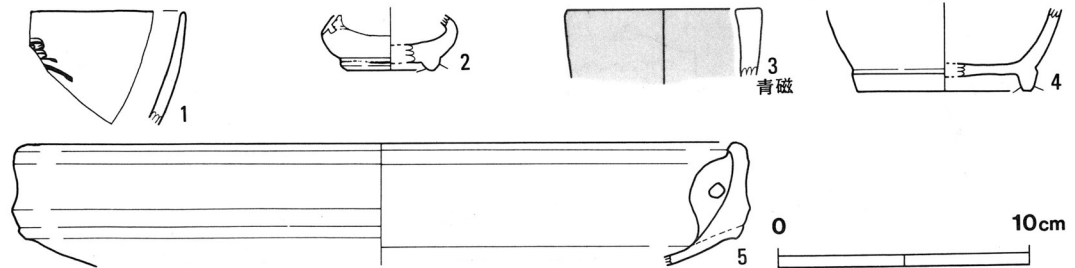
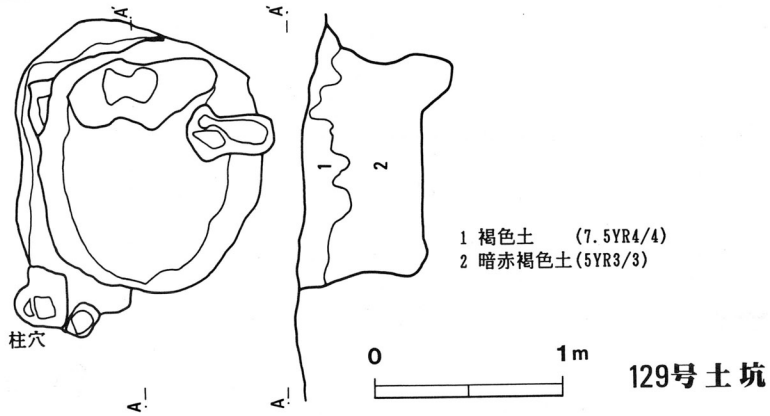
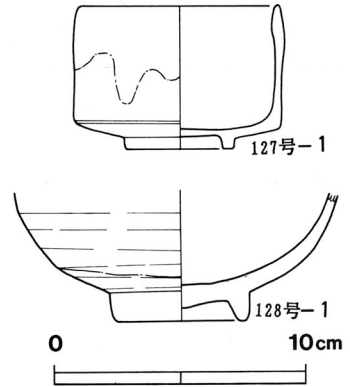
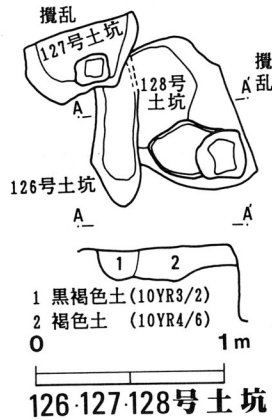
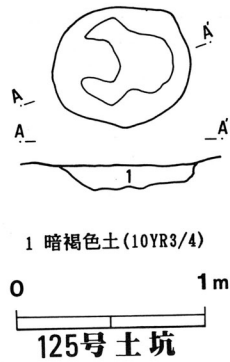
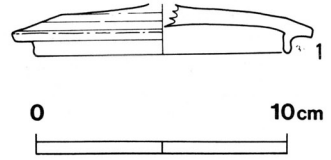
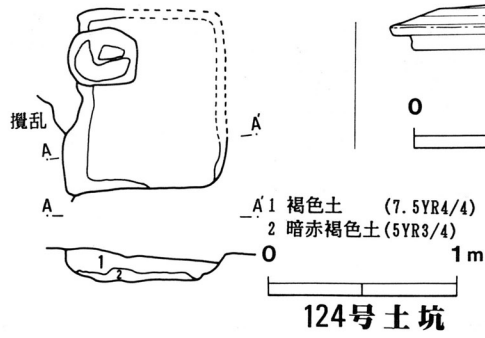
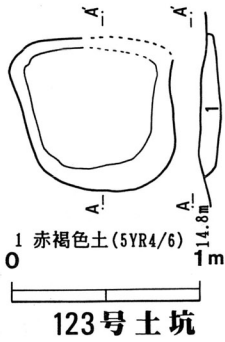


图 181 123~129 号土坑, 124·127·128·129 号土坑出土遗物

Figure 181 Pits No.123-129 and artifacts from pits No. 124, 127, 128 and 129

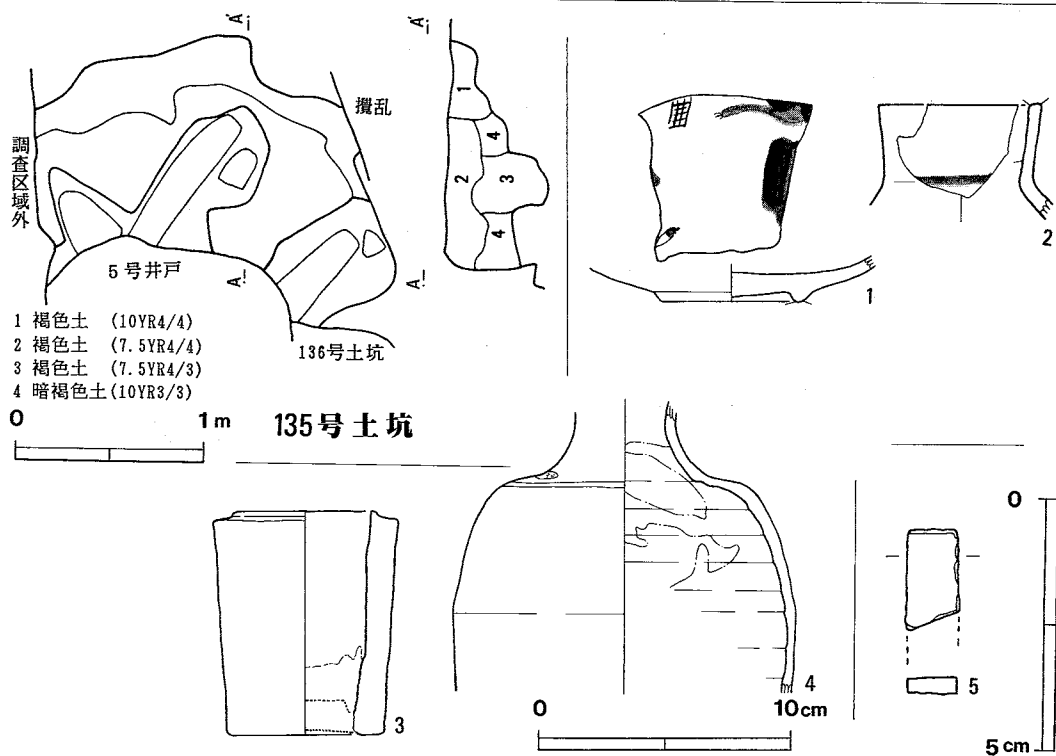
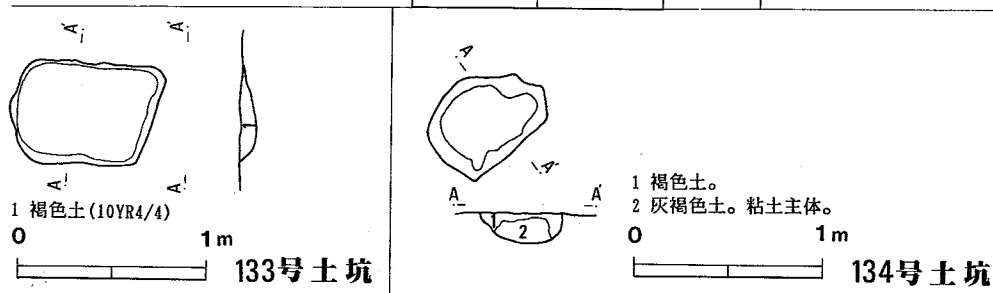
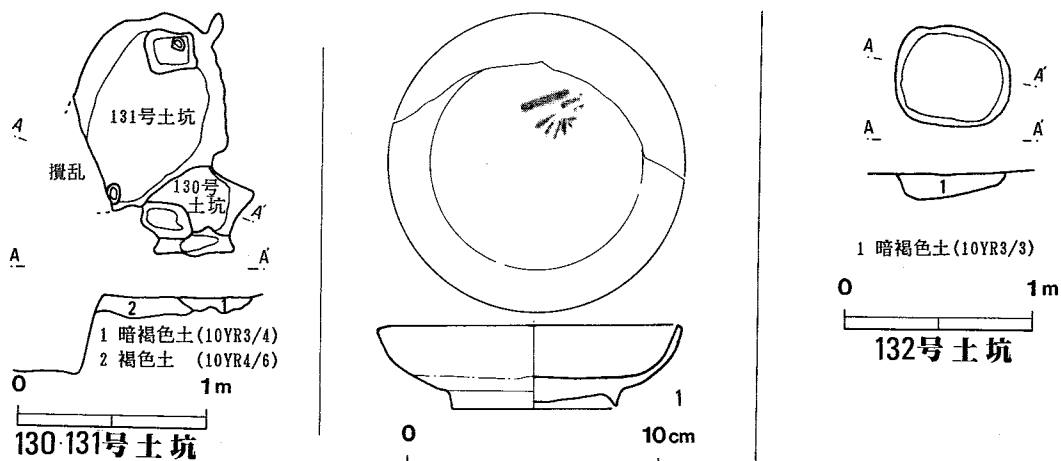


图 182 130~135号土坑, 130・131号土坑一括および135号土坑出土遺物  
Figure 182 Pits No.130—135 and artifacts from Pits No.130 or 131, and Pit No. 135

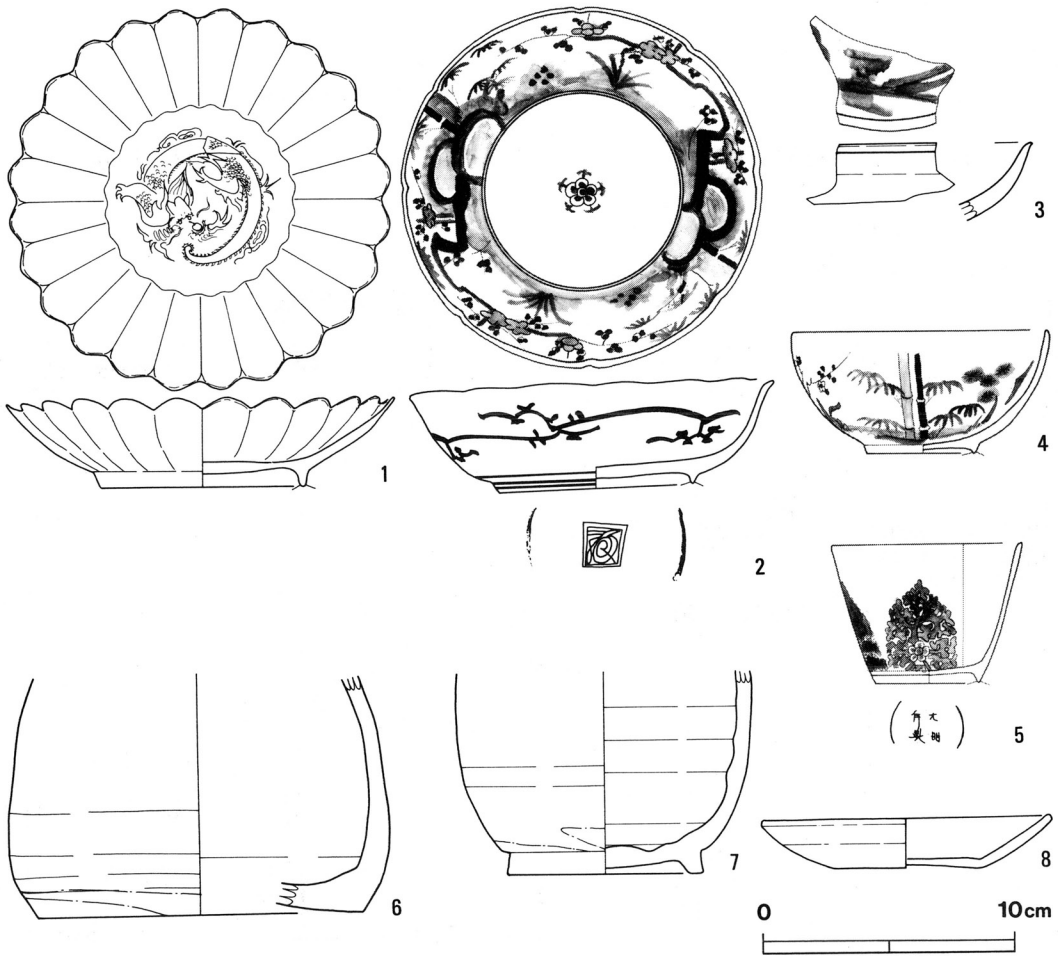
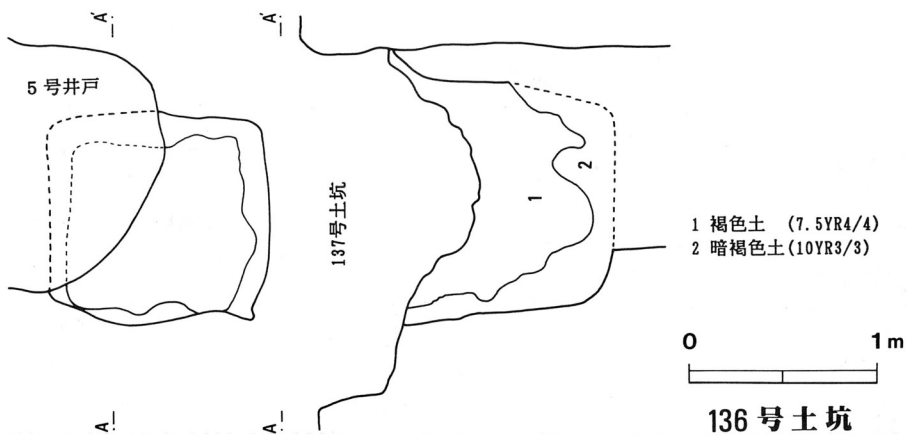
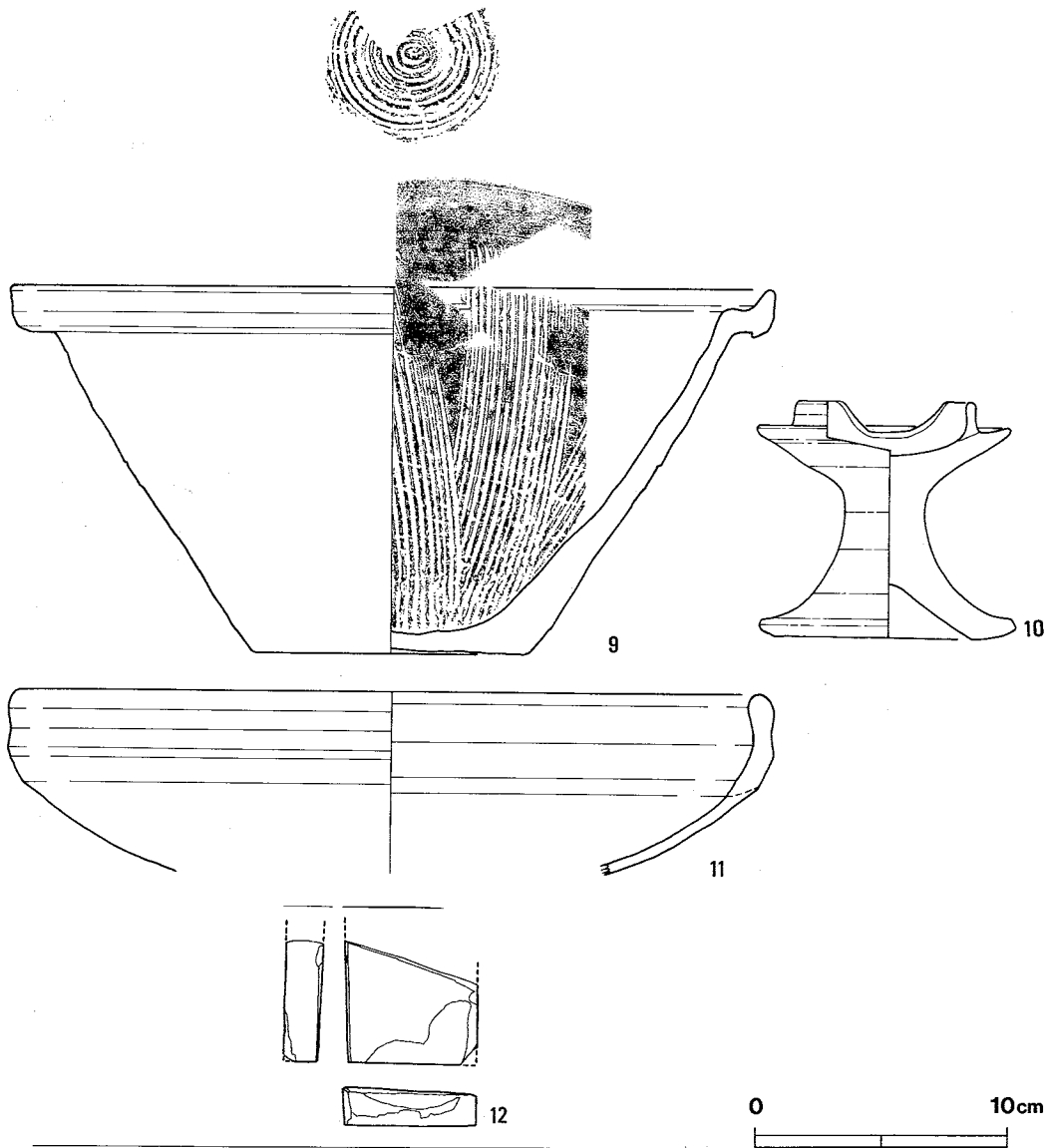


图 183 136号土坑, 同出土遺物(1)  
Figure 183 Pits No.136 and its artifacts



13



14



15



16

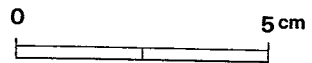


图 184 136 号土坑出土遗物 (2)  
Figure 184 Artifacts from Pit No.136



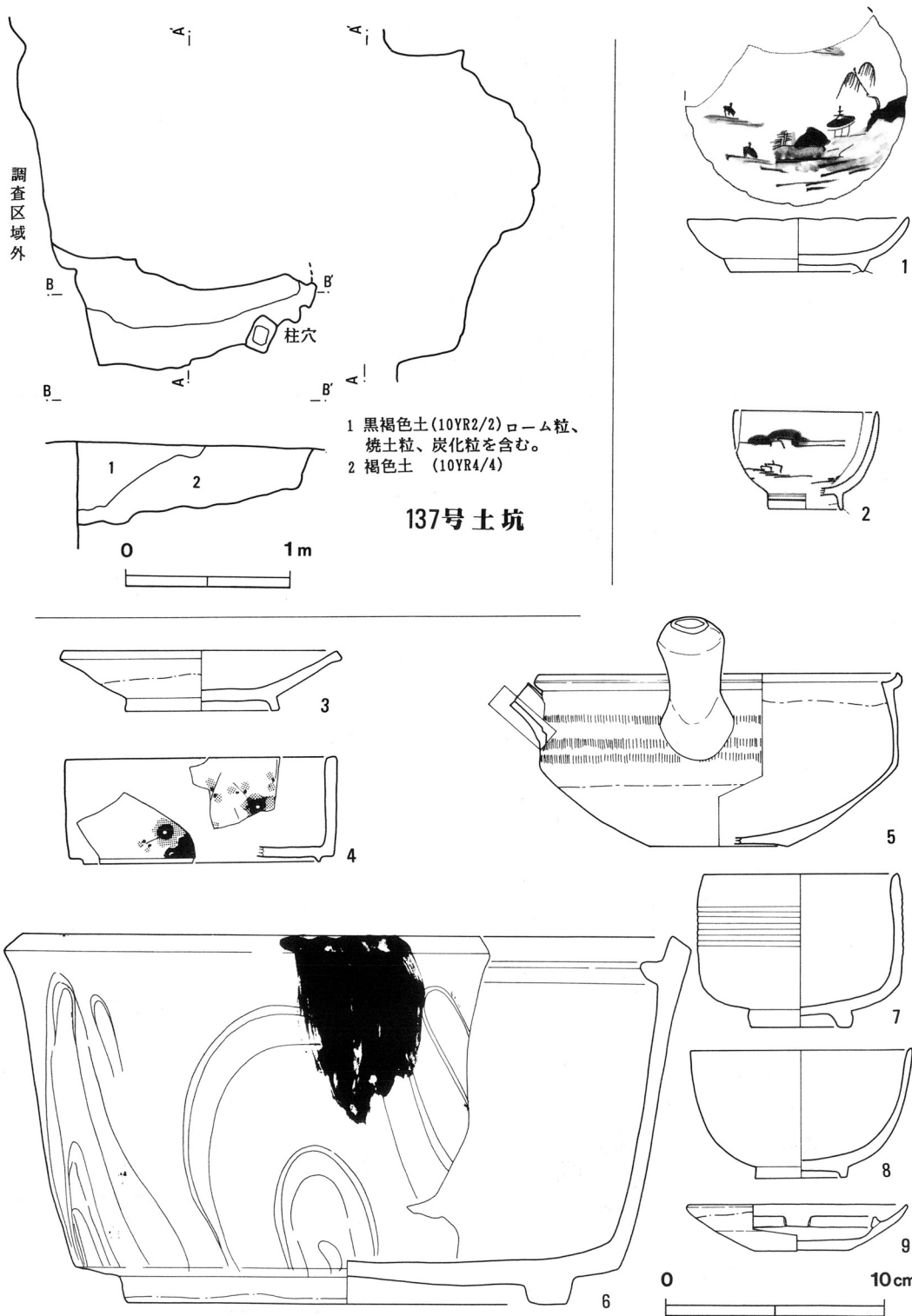


图 185 137号土坑, 同出土遺物(1)  
Figure 185 Pit No.137 and its artifacts

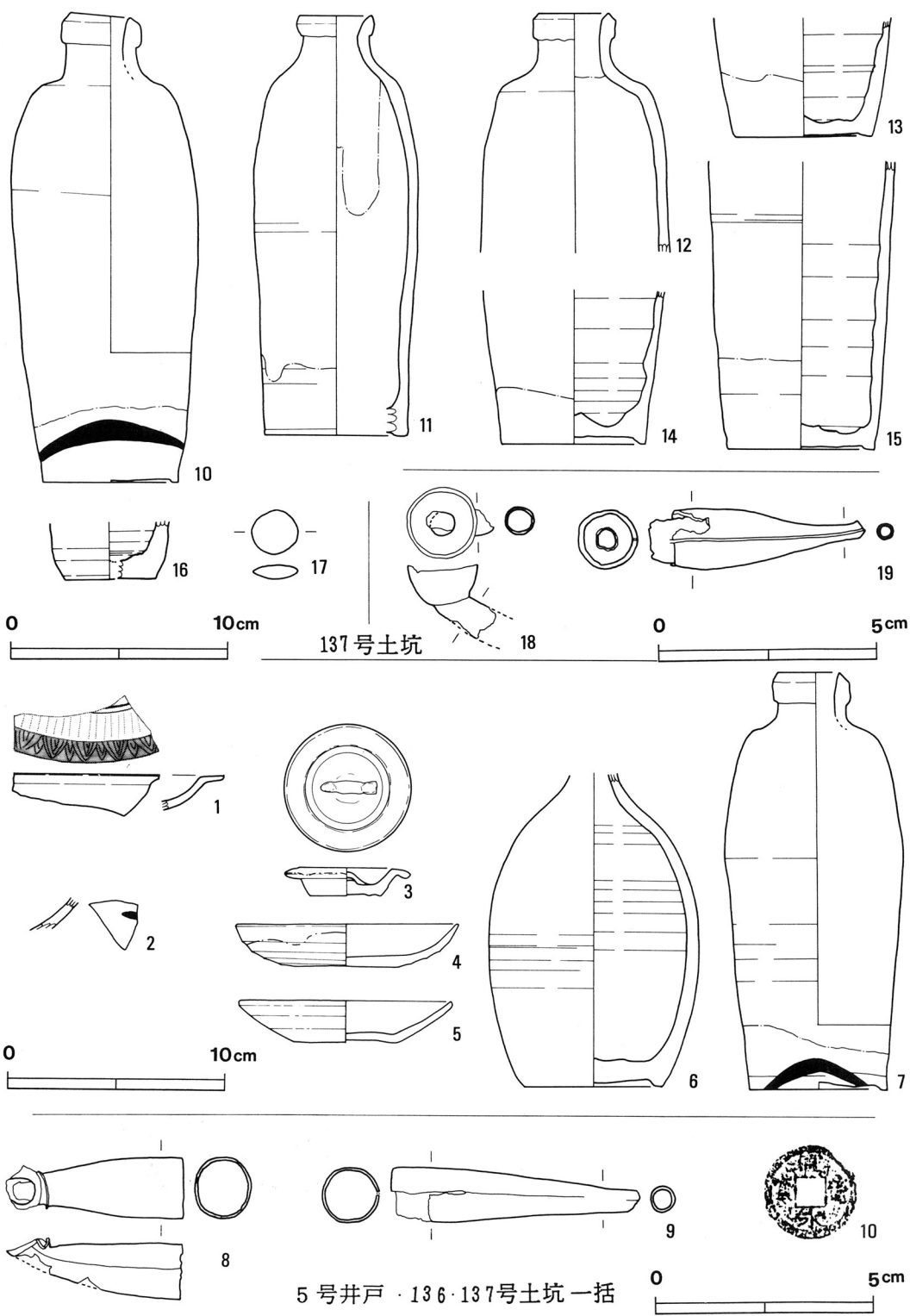


图 186 137号土坑(2), 5号井戸·136·137号土坑一括出土遗物

Figure 186 Artifacts from Pits No.136, and artifacts from Well No.5, Pits 136 or 137

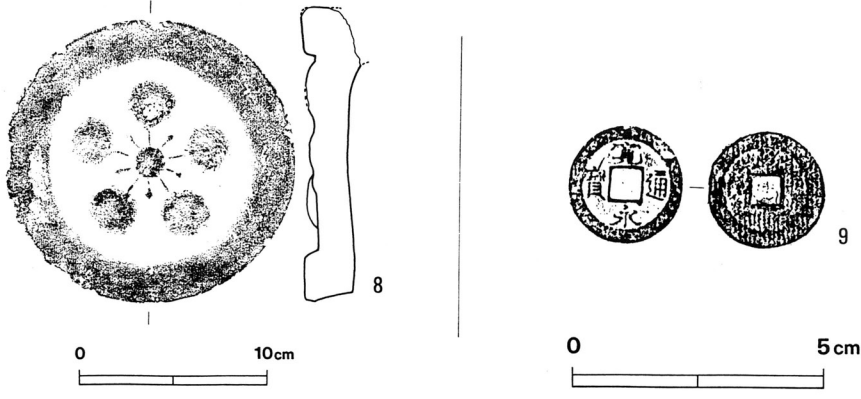
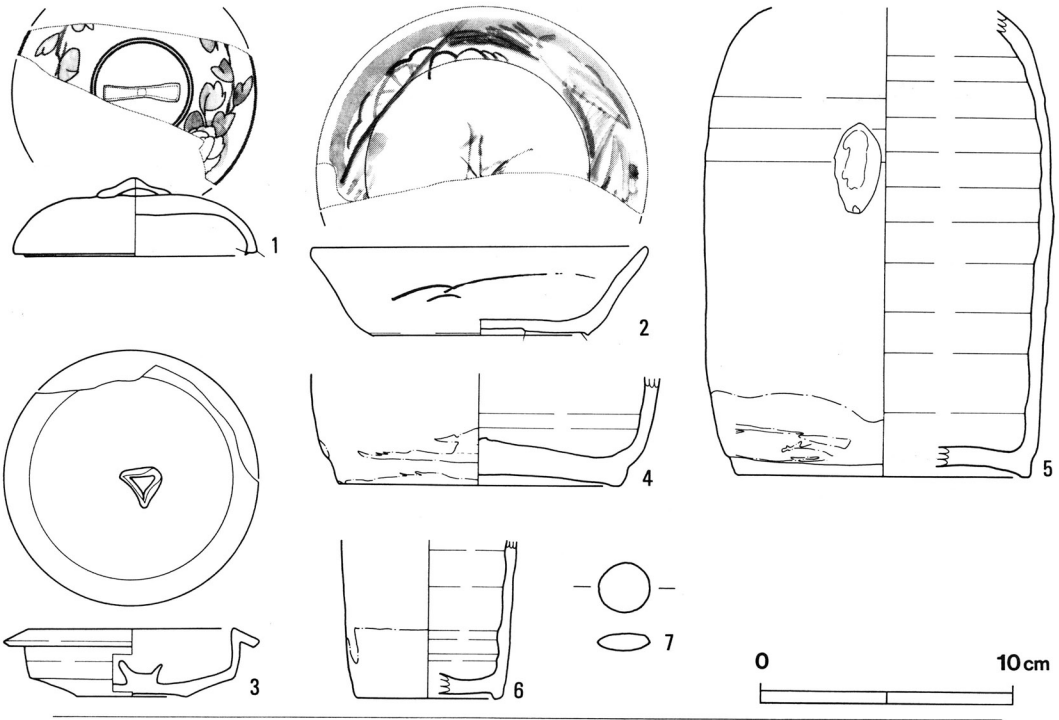
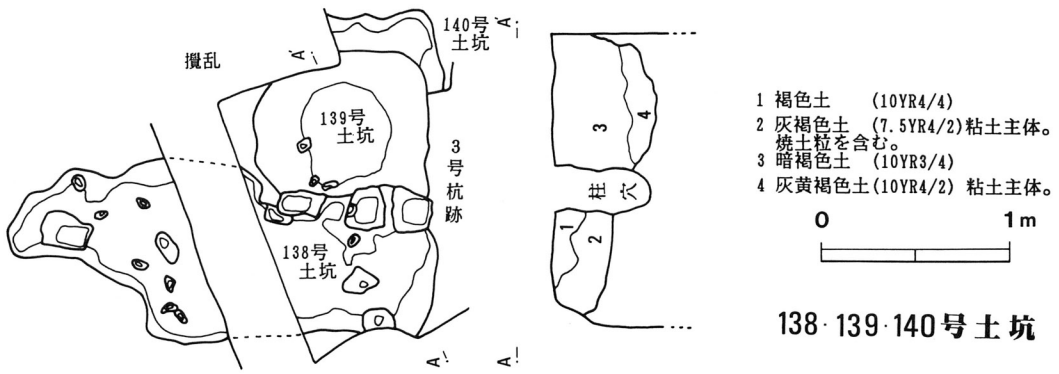


图 187 138·139·140 号土坑, 138·139·140号土坑一括出土遗物  
Figure 187 Artifacts from Pits No.138—140 and their artifacts

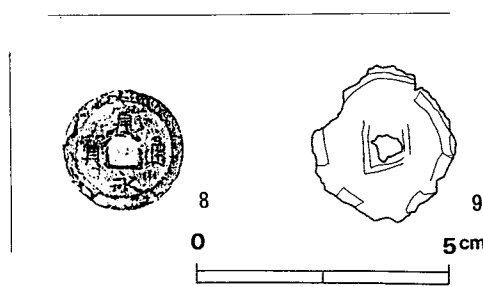
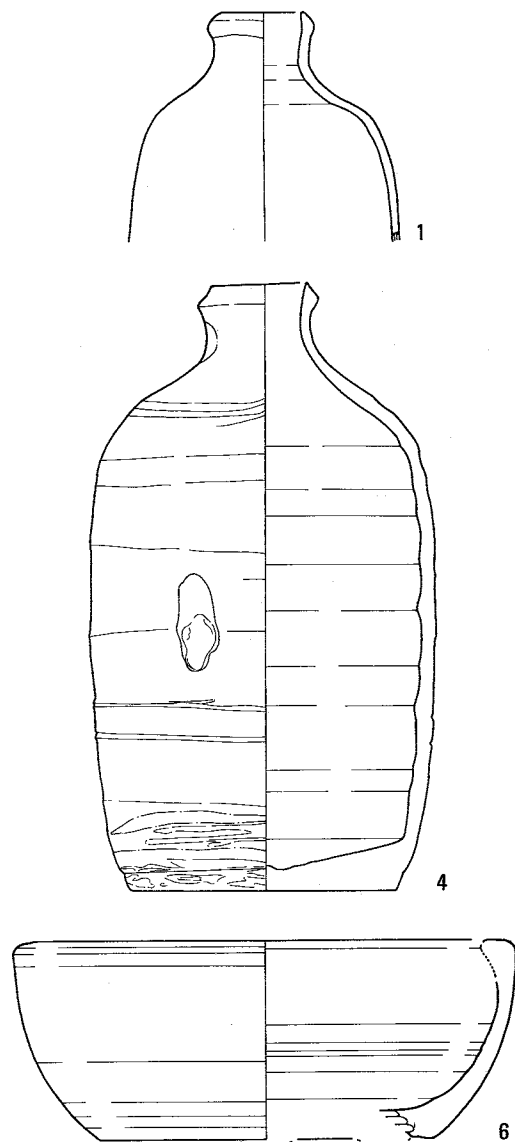
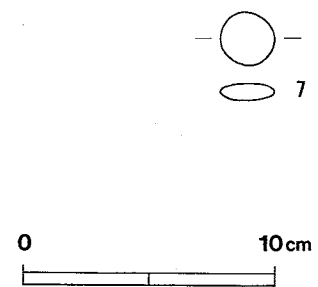
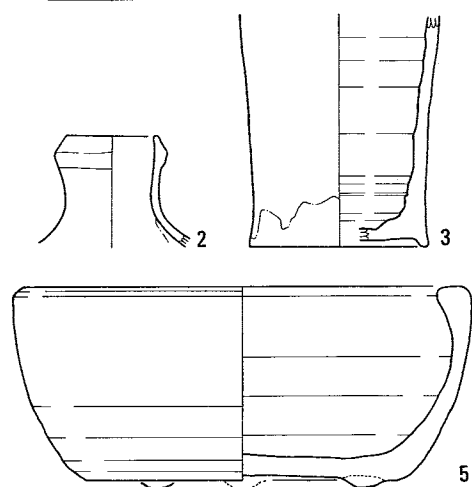
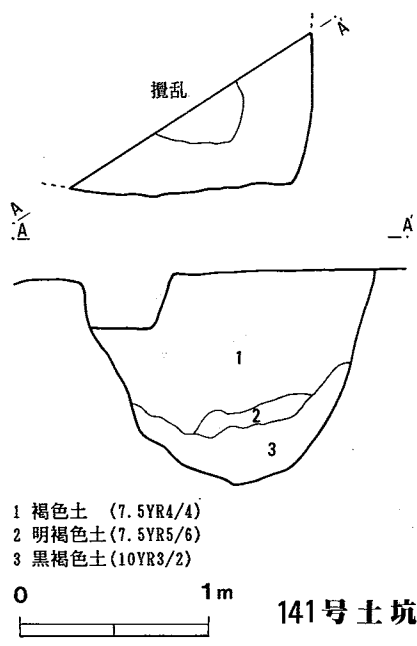


图 188 141号土坑, 同出土遗物  
Figure 188 Pit No.141 and its artifacts

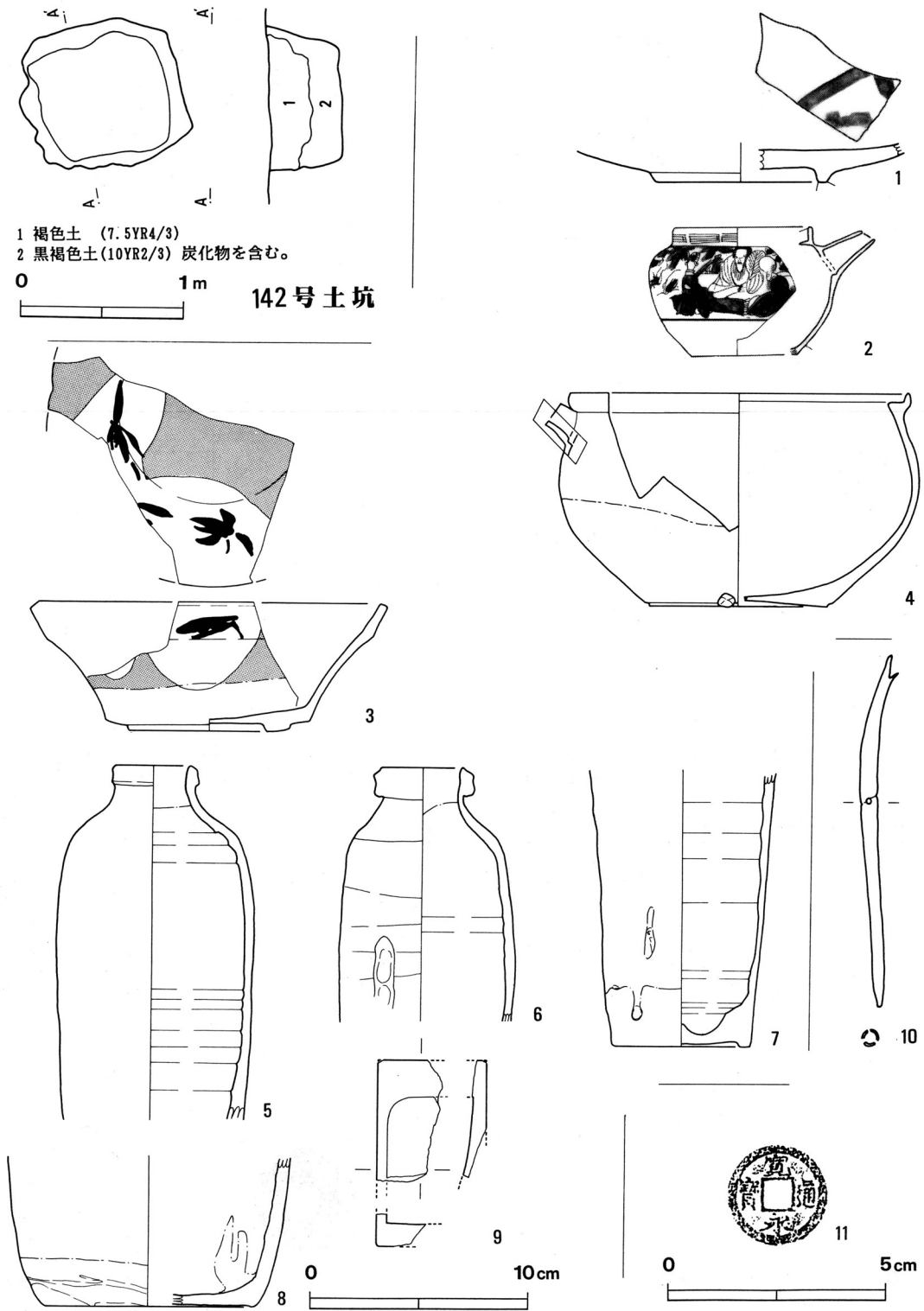


图 189 142 号土坑, 同出土遺物  
 Figure 189 Pit No.142 and its artifacts

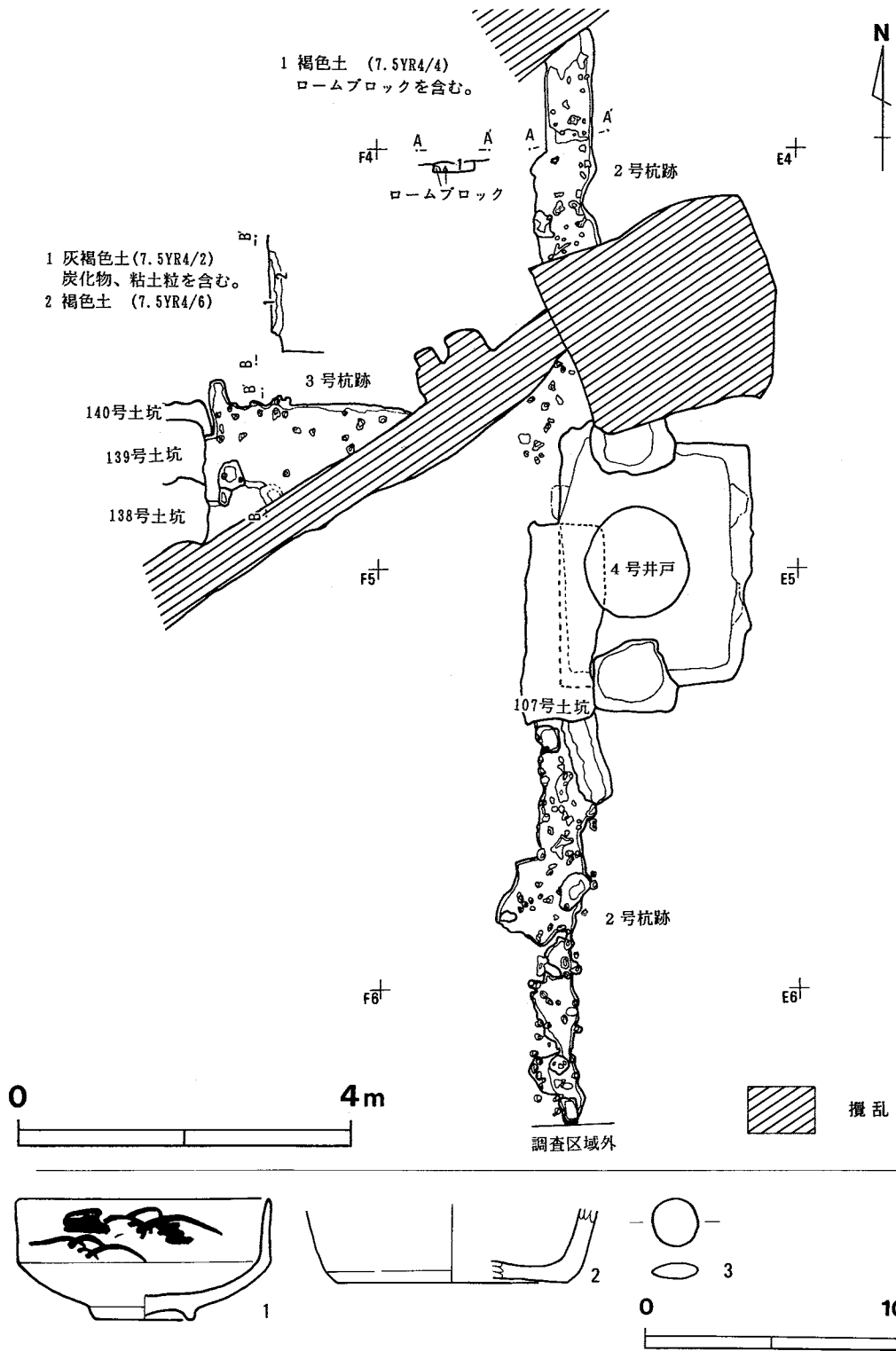


图 190 2号・3号杭跡, 3号杭跡出土遺物

Figure 190 Pit Clusters No.2 and 3, and artifacts from Pit Cluster No.3

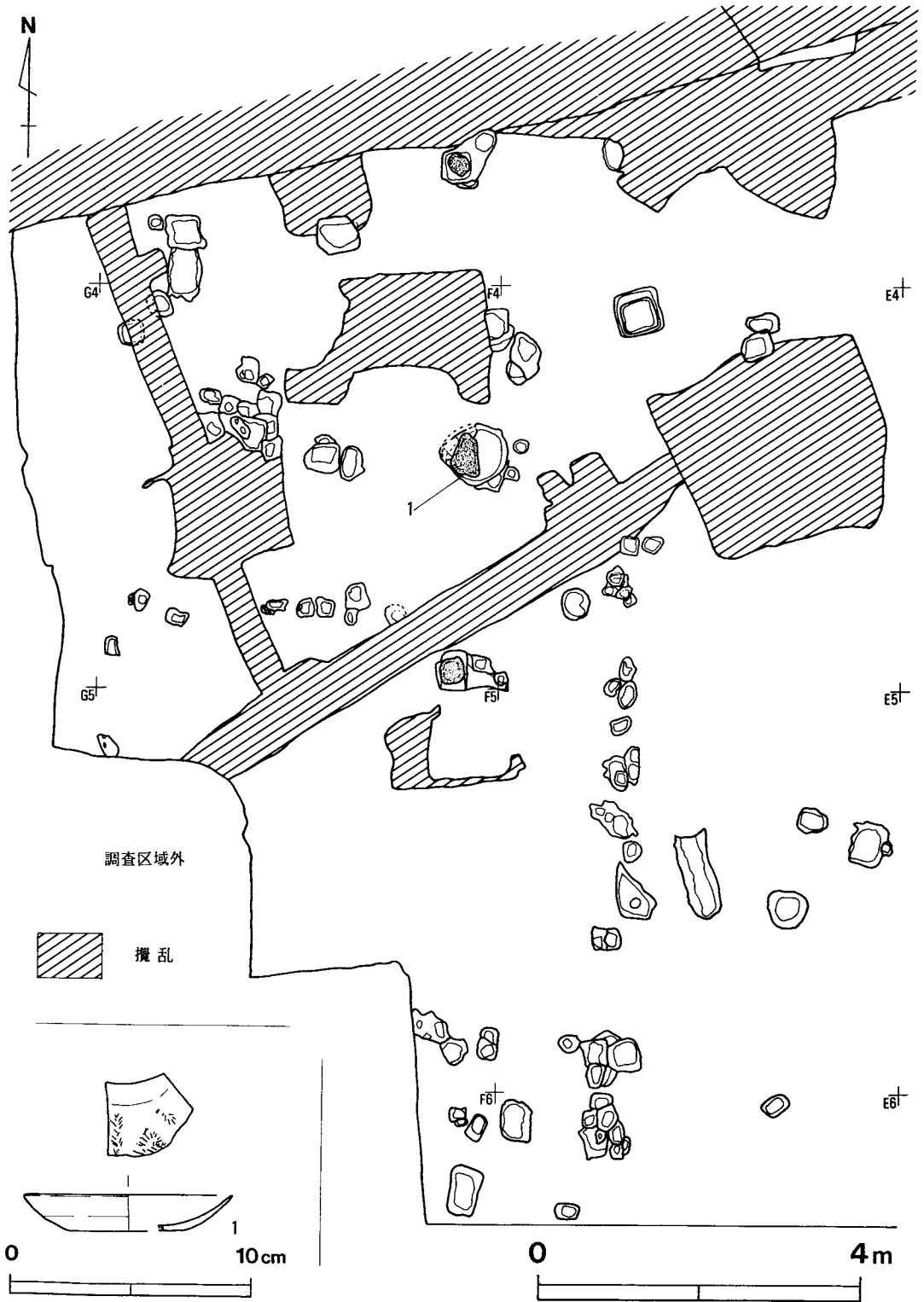


図 191 E・F・G 区柱穴および小土坑, 同出土遺物

Figure 191 Post molds and small pits in grid rows E, F and G, and their artifact

表9 E・F・G区遺構内出土遺物観察表  
(計測値は、特に記載のない限り、口径、底径、高さである。)

Table 9 Description of individual artifacts from features in grid rows E, F and G

遺物番号	種別	計測値			特徴
4号井戸-1	磁器	-	-	-	瓶。中国? 年代不詳。外面は削りによる八角形の整形。外面銅釉? 二次的被熱により赤銅色に変色。周囲掘込より出土。
4号井戸-2	磁器	-	(7.6)	-	染付。蓋物。肥前。17c後半~18c初。畳付に砂熔着。釉は青味を帯びる。周囲掘込より出土。
4号井戸-3	土器	6.3	5.4	6.6	焼塩壺。身C2類。内外面赤化。回転ナデ調整。外面底部付近に1本の沈線横走。底面糸切痕。外面剥落。周囲掘込より出土。
4号井戸-4	土製品	径2.1	厚0.7		基石。手づくね成形。周囲掘込より出土。
4号井戸-5	磁器	(12.6)	(6.7)	3.4	染付。皿。肥前。1690~1750年代。内面体部に墨弾きによる捻花文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圏線。
4号井戸-6	磁器	(12.9)	(6.9)	2.7	染付。皿。肥前。1700~18c中葉。内面体部唐草文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圏線。
4号井戸-7	磁器	(13.4)	(8.0)	3.0	染付。皿。肥前。1700~18c中葉。内面体部草花文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圏線。ハリ支え。
4号井戸-8	磁器	(13.2)	(7.1)	4.4	染付。皿。肥前。1700~18c中葉。内面体部草花文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圏線。「大明年製」銘。
4号井戸-9	磁器	12.1	6.7	3.5	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部、雪輪に梅樹文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圏線。
4号井戸-10	磁器	(11.8)	4.1	3.7	染付。皿。肥前。1700~1780年代。高台径小さい。内面に折枝?を描く。見込蛇の目釉剥ぎ。高台部無釉。
4号井戸-11	磁器	(16.4)	6.2	4.9	染付。皿。肥前。17c後半~18c中葉。厚手。口縁部外反。内面体部、花文。見込蛇の目釉剥ぎ。
4号井戸-12	磁器	(10.9)	(4.6)	-	染付。碗。肥前。1700~1780年代。外面草花文。高台内一重圏線。
4号井戸-13	磁器	(7.5)	-	-	染付。碗。肥前。1690~1750年代。口縁部外反。外面芦に草花文。
4号井戸-14	磁器	(9.4)	4.8	4.5	染付。蓋物。肥前。1690~1750年代。蛇の目高台。外面、区画内に草花文。口唇部釉剥ぎ。
4号井戸-15	磁器	10.6	4.2	5.8	染付。碗。肥前。1690~1750年代。外面は印判による若松に鶴文。高台銘「徳」。釉むら有。
4号井戸-16	磁器	-	-	-	色絵。鉢。古九谷様式。口縁部輪花。内面、染付線で丸文を描き色絵付を施す。口鏑。
4号井戸-17	磁器	口径(6.8)	高3.3		白磁。蓋(壺)。肥前。18c~幕末。胎土は灰色味を帯びる。かえり部無釉。つまみ部欠損。最大径9.6cm。
4号井戸-18	磁器	口径(6.0)	高1.3		染付。蓋。肥前。18c。つまみ部欠損。最大径6.8cm。
4号井戸-19	磁器	-	4.0	-	染付。瓶。肥前。17c後半~18c前半。外面花唐草文。畳付に砂熔着。
4号井戸-20	磁器	7.8	4.3	5.4	染付。仏飯器。肥前。1700~1780年代。外面口縁部に雨降文。
4号井戸-21	磁器	(7.8)	4.2	5.7	染付。仏飯器。肥前。1700~1780年代。外面口縁部に雨降文。内外釉面に貫入が入る。
4号井戸-22	磁器	7.4	-	-	染付。仏飯器。肥前。1700~1780年代。放射状の削り痕を残す。外面口縁部に雨降文。
4号井戸-23	磁器	(5.8)	3.8	5.8	白磁。仏飯器。肥前。18c。
4号井戸-24	陶器	11.9	4.4	3.5	皿。肥前(内野山窯)。17c末~18c中葉。胎土は灰褐色。内面銅緑釉。見込蛇の目釉剥ぎ。外面透明釉。



遺物番号	種別	計測値			特 徴
4号井戸-25	陶 器	—	7.6	—	皿。肥前?(京焼風)。17c後半。胎土は灰褐色。内面見込, 鉄で山水楼閣文。内外面透明釉, 高台無釉。高台内, 刻印銘「清水」。
4号井戸-26	陶 器	—	—	2.1	皿。京都? 18c? 胎土は赤褐色で土師質。長方形。内面に複数の凹凸有。内外面低火度釉。
4号井戸-27	陶 器	10.9	6.6	5.1	碗。肥前。18c前半~中葉。胎土は暗褐色。内外面とも白土による刷毛目を施した上に透明釉。見込蛇の目釉剥ぎ。畳付に砂熔着。
4号井戸-28	陶 器	10.2	5.6	6.8	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。京焼写し。高台内, 円形の削込み。外面呉須で山水楼閣文。内外面長石釉。高台無釉。
4号井戸-29	陶 器	(9.6)	4.9	7.1	碗。瀬戸美濃。18c~19c前半。胎土は黄白色。外面, 呉須で松葉文。内外面長石釉。高台無釉。
4号井戸-30	陶 器	11.3	5.4	7.8	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。胴部中央に6条の沈線及び印花9個。外面・高台内鉄釉, 口縁部から内面に灰釉。畳付釉剥ぎ。高台, 3ヶ所に刻印銘「古山」?
4号井戸-31	陶 器	(9.8)	—	—	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。胴部一ヶ所を, 窪ませる。外面上半, 内面灰釉, 外面下半鉄釉。
4号井戸-32	陶 器	(13.6)	6.6	8.6	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。二次的に被熱。
4号井戸-33	陶 器	(12.3)	5.9	9.0	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。二次的に被熱。
4号井戸-34	陶 器	13.6	6.6	8.7	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。高台内, 円形の削込み。内外面灰釉, 高台無釉。二次的に被熱。
4号井戸-35	陶 器	12.7	6.3	8.3	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。高台内墨書有。
4号井戸-36	陶 器	13.8	6.1	8.6	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。二次的に被熱。
4号井戸-37	陶 器	13.1	5.5	8.5	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。二次的に被熱?
4号井戸-38	陶 器	(12.8)	5.6	8.6	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。高台内墨書有。
4号井戸-39	陶 器	(13.0)	5.9	8.5	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。高台内, 円形の削込み。
4号井戸-40	陶 器	(12.4)	6.2	8.2	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。高台内墨書(花押?)。
4号井戸-41	陶 器	13.6	5.2	9.3	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。二次的に被熱。
4号井戸-42	陶 器	13.5	6.3	8.0	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。高台内墨書有。
4号井戸-43	陶 器	—	7.7	—	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。高台内墨書(花押?)。
4号井戸-44	陶 器	10.9	4.0	5.4	碗。産地不明。18c~19c前半。胎土は灰褐色。高台内窪み。外面白泥・鉄で松文。内外面長石釉, 高台無釉。目痕内面3ヶ所。
4号井戸-45	陶 器	—	4.2	—	碗。瀬戸美濃。18c。胎土は灰色。外面鉄で柳文。内外面灰釉, 高台無釉。
4号井戸-46	陶 器	(12.6)	—	—	皿。肥前?(京焼風)。17c後半~18c初。胎土は灰褐色。見込, 鉄絵山水楼閣文。内外面とも透明釉。
4号井戸-47	陶 器	—	—	—	京焼風。皿。肥前? 17c後半~18c初。胎土は黄白色。内外面とも透明釉。

遺物番号	種別	計測値			特徴
4号井戸-48	陶器	-	4.4	-	碗。産地不明。18c。胎土は黄白色。外面・高台内、黒色顔料で化粧。外面白土で波状文を施し、透明釉。内面透明釉。高台無釉。高台内に刻印銘「□山」。
4号井戸-49	陶器	15.2	7.5	9.8	片口鉢。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。高台内、円形の削込。外面、鉄で濃み状文。内外面灰釉、高台無釉。目痕内面3ヶ所。
4号井戸-50	陶器	-	-	4.5	鬚盥。瀬戸美濃。17c後半～18c前半。胎土は灰色。外面、鉄による摺絵で花文。内外面灰釉、高台無釉。二次的に被熱。
4号井戸-51	陶器	-	-	-	蓋物? 産地不明。18c。胎土は黄白色。外面透明釉、高台無釉。底裏に墨書「□一」。
4号井戸-52	陶器	口径(11.4)	高1.8		蓋。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。上面に3条の沈線。上面透明釉。最大径11.6cm(推)。
4号井戸-53	陶器	3.3	8.0 (19.2)		德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に6条の沈線帯。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
4号井戸-54	陶器	2.6	8.7	19.8	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に6条の沈線帯。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。
4号井戸-55	陶器	3.6	-	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に6条の沈線帯。外面鉄釉に灰釉流しかけ。釘書ベタ「角」墨を入れる。
4号井戸-56	陶器	2.9	-	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
4号井戸-57	陶器	-	10.9	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に5条の沈線帯。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
4号井戸-58	陶器	2.9	-	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に5条の沈線帯。外面鉄釉。
4号井戸-59	陶器	-	11.6	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
4号井戸-60	陶器	-	7.3	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉にわずかに灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
4号井戸-61	陶器	-	7.8	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
4号井戸-62	陶器	3.4	11.4	28.5	德利。志戸呂。18c。頸部に鉄釉(梨子色)、胴部錆釉。
4号井戸-63	陶器	3.7	-	-	德利。志戸呂。18c。頸部に鉄釉(梨子色)。
4号井戸-64	陶器	-	13.8	-	德利。志戸呂。18c。胴部に錆釉。焼成後底部穿孔。
4号井戸-65	陶器	34.5	14.7	14.6	擂鉢。瀬戸美濃。胎土黄褐色。口縁部外折れと流し口。櫛目は18本1単位を11単位。錆釉。内面磨減。底面糸切痕、胎土目痕、窪み有。外面下半へラケズリと釉剥ぎ。
4号井戸-66	陶器	-	13.6	-	擂鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。口縁再調整するが外折れか。櫛目は17本1単位を10単位。錆釉。内面磨減。底面糸切痕と胎土目痕。外面下半へラケズリと釉剥ぎ。
4号井戸-67	陶器	-	13.8	-	擂鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。櫛目は18本1単位を12単位。鉄釉。内面磨減。内外面底に胎土目痕。底面糸切痕。外面下半へラケズリと釉剥ぎ。
4号井戸-68	陶器	-	18.2	-	擂鉢。備前系。胎土赤褐色。櫛目は10本1単位を27単位。底面高台。
4号井戸-69	土器	口径a5.1	高1.0		焼塩壺。蓋II d類。内外面若干赤化。内面粗い布目痕。口径b6.5cm。
4号井戸-70	土器	a6.8	5.7	10.4	焼塩壺。身B類。内外面若干赤化。「撰州大坂」銘。内面と底面に布目痕。口径b7.5cm。
4号井戸-71	土器	(7.3)	3.8	1.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。
4号井戸-72	土器	11.9	6.0	2.5	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
4号井戸-73	土器	(20.8)(14.0)( 8.2)	火鉢。土師質。外面赤色塗彩。底面スグレ痕。
4号井戸-74	土器	18.3 12.6 9.1	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。
4号井戸-75	瓦		軒椽瓦。軒丸部：三つ巴文C左。軒平部：均整唐草文。AB柱穴類-16と同範。
4号井戸-76	瓦		軒丸瓦。連珠三つ巴文A左。
4号井戸-77	瓦		面戸瓦。「鏝面戸」形。降り棟に使用。
4号井戸-78	瓦		丸瓦。刺子b。
4号井戸-79	瓦		谷丸瓦。
4号井戸-80	石製品	長— 幅4.8厚1.6	砥石。泥岩。仕上げ砥。表面に砥面と長軸方向の擦痕。裏面に平ノミ状痕。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。上端部は破損後再調整。重量110g。
4号井戸-81	石製品	長— 幅5.5厚1.1	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。表面長軸方向の擦痕。両側面・端部に直線状の整形痕。重量75g。
4号井戸-82	石製品	長— 幅6.0高1.7	硯。泥岩。長方硯。面取り。硯背平坦。
4号井戸-83	銅製品		古寛永(鳥越銭高足寛?)。1656年初鑄。背、カツ縁・広郭。腐食進行。
4号井戸-84	木製品	長23.3幅8.1高5.1	下駄。一木連歯下駄。柁目。台尻・台先部摩耗。前歯・前緒孔一部欠損。台の厚さ1.9cm。
4号井戸-85	木製品	径0.4	箸。断面隅丸六? 角形。中途から先欠損。
4号井戸-86	木製品	径0.6	箸。断面隅丸方形。中途から先欠損。
4号井戸-87	木製品	直径17.2 厚0.9	底板? 柁目。円盤状。1/3欠損。
4号井戸-88	木製品	直径9.6 厚0.6	底板? 柁目。円盤状。1/3欠損。
4号井戸-89	木製品	直径9.6 厚0.7	底板? 柁目。円盤状。1/3欠損。
4号井戸-90	木製品	厚0.3	板。柁目。台形か。左半欠損。上面墨書有。
5号井戸-1	磁器	(13.5)( 5.0) 4.6	染付。皿。肥前。1640年代頃。型打整形。蓮葉形。内面に濃淡のある薄瑠璃釉をかけ、釘がきで蓮葉の葉脈を表す。外面は、染付で葉脈文を描く。
5号井戸-2	磁器	— ( 4.2) —	染付。碗。中国。17c前半。高台部に放射状の削り痕。高台銘「大明□化年□」。内面摩耗。
5号井戸-3	磁器	— ( 4.2) —	染付。碗。肥前。17c後半。高台銘、方形枠内に福字。二次的に被熱。
5号井戸-4	磁器	— — —	染付。皿。肥前。1630~1640年代。内面体部に浅い段を作り出す。口縁部外反。内面染付文様。釉むら有。
5号井戸-5	陶器	(12.1) 5.4 8.3	碗。肥前?(京焼風)。17c後半~18c前半。胎土は黄白色。高台内、円形の削込み。畳付を除き透明釉。
5号井戸-6	陶器	( 9.0)( 3.8) 5.2	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は黄白色。外面鉄で若杉文。内外面透明釉、高台無釉。
5号井戸-7	陶器	— 8.0 —	甕。信楽。17c後半。胎土は褐色で長石粒含む。外面、長石釉に鉄釉流しかけ。高台無釉。
5号井戸-8	陶器	4.7 3.3 1.7	蓋(土瓶の蓋)。産地不明。18c~幕末。胎土は灰白色で焼きしまる。上面錆釉。
5号井戸-9	陶器	10.6 5.4 1.8	燈明皿。志戸呂。18c。口縁部外反。内面及び外面口縁部に錆釉。底部無釉。煤付着。
5号井戸-10	陶器	— 7.6 —	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
5号井戸-11	陶器	— 10.0 —	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
5号井戸-12	陶器	—	11.4	—	徳利。志戸呂。18c。外面錆釉。
5号井戸-13	土器	(11.6)	6.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤附着。
5号井戸-14	土器	12.0	6.8	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤附着。
5号井戸-15	瓦				軒平瓦。均整唐草文。
5号井戸-16	瓦				飾り瓦。唐草文。右割れ口に櫛目状接合痕。
5号井戸-17	瓦				飾り瓦。唐草文。右割れ口に櫛目状接合痕。
10号地土-1	磁器	—	—	—	白磁。皿。肥前。17c後半。口縁部輪花。型打整形。二次的に被熱。内面体部に型打による花唐草文。
10号地土-2	磁器	—	—	—	染付。碗。中国。17c前半。胎土は緻密。口唇部虫喰い。1・2号地土-1と同一個体?
10号地土-3	磁器	—	3.0	—	白磁? 蓋物? 肥前。1700~1780年代。畳付は幅広。釉は青味を帯びる。
10号地土-4	磁器	(7.2)	(3.9)	5.0	白磁。そば猪口。肥前。18c。
10号地土-5	磁器	(4.8)	(2.1)	1.6	染付。紅皿? 肥前。1690~1750年代。型押整形。見込印判桜花。高台内無釉。
10号地土-6	陶器	(14.2)	(7.4)	(2.3)	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。内面見込輪積み痕。内外面灰釉。高台無釉。
10号地土-7	陶器	—	(4.8)	—	碗。肥前? (京焼風)。17c中葉~後半。胎土は褐色。畳付を除き透明釉。
10号地土-8	陶器	—	5.5	—	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉。高台無釉。
10号地土-9	陶器	口径(9.6)	高(0.6)		蓋(壺の蓋)。信楽。17c後半~18c。胎土は白色で焼きしめる。上面沈線による波状文が一周。上面透明釉。下面無釉。
10号地土-10	陶器	—	—	0.9	蓋。産地不明。17c後半~18c。胎土は褐色で土師質。上下面低火度釉。
10号地土-11	陶器	—	11.2	—	徳利。志戸呂。18c。外面錆釉。
10号地土-12	土器	a(5.9)	5.8	8.5	焼塩壺。身B類。内外面赤化。底面に布目痕とスグレ痕。外面剥落。口径b7.0cm(推)。
10号地土-13	土器	(8.7)	4.2	1.6	かわらけ。底部回転糸切(左)。二次的に被熱。
10号地土-14	土器	(10.7)	5.6	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。二次的に被熱。
10号地土-15	土器	(11.8)	(6.2)	3.1	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。二次的に被熱。
10号地土-16	銅製品				古寛永(鳥越銭高足寛?)。1656年初鑄。肥字。背広郭。腐食進行。歪む。
10号地土-17	銅製品				新寛永(不旧手:享保十萬坪銭小目宝)。1726年初鑄。織字。腐食ひどく。銭文判読困難。
10号地土-18	銅製品				鎖。断面半円形の銅線を8字形に成形。長径3.8cm,短径1.4cm,厚さ0.3cm。
11号地土-1	磁器	13.6	6.8	3.4	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部唐草文。見込五弁花。蛇の目釉剥ぎ。畳付に砂熔着。
11号地土-2	陶器	9.3	4.5	6.6	碗。京都? 18c~幕末。外面黒色顔料で化粧し。胎土は灰色で焼きしめる。内面から口縁部は白化粧。外面に、白土で草花文。内外面透明釉。高台内無釉。底裏に刻印「洛東山」?
11号地土-3	陶器	8.9	3.2	5.1	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。外面、鉄で若杉文。内外面透明釉。高台無釉。
11号地土-4	陶器	9.6	3.5	5.5	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。外面に鉄で若杉文。内外面透明釉。高台無釉。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
11号地土-5	陶器	(11.1)	-	-	碗。瀬戸美濃。18c後半。胎土は灰色。外面口縁部に鉄で斑文。内外面灰釉。
11号地土-6	陶器	15.4	9.4	12.2	鉢。瀬戸美濃。18c後半～幕末。胎土は黄白色。内外面鉄釉，高台無釉。目痕口縁部3ヶ所。焼成後底部穿孔。植木鉢として使用？
11号地土-7	陶器	3.3	6.8	19.2	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。焼成前陰刻「玉」。外面灰釉。底部無釉。
11号地土-8	陶器	-	8.1	-	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「㊦」。
11号地土-9	陶器	-	7.8	-	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書線刻「玉」。肩部打ち欠き。
11号地土-10	陶器	-	10.1	-	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
11号地土-11	陶器	-	7.4	-	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。
11号地土-12	陶器	-	(11.4)	-	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「□」。肩部打ち欠き。
11号地土-13	陶器	-	10.4	-	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書線刻「長」。
11号地土-14	土器	口径 a 5.4	高 1.3		焼塩壺。蓋 II d 類。内面粗い布目痕が若干。口径 b 6.6 cm。
11号地土-15	陶器	10.0	4.2	2.2	燈明皿。瀬戸美濃。18c～19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。底部及び内面に重ね積み痕。
11号地土-16	石製品	長	幅 5.8	厚 2.8	砥石。流紋岩。荒砥。破損部付近に煤付着。砥面表裏面・右側面と端部。右側面・端部に各方向の擦痕。左側面に櫛目状の整形痕。面取り。重量 160 g。
11号地土-17	銅製品				古寛永（浅草御蔵銭大字？）。1636年初鑄。肥字。背，カツ縁・広郭。腐食進行。
11号地土-18	銅製品				古寛永（仙台銭ハ宝？）。1637年初鑄。背カツ縁。腐食ひどい。
11号地土-19	銅製品				新寛永（不旧手：享保七条銭退永）。1726年初鑄。織字。背，カツ縁・広郭。腐食進行。
11号地土-20	銅製品				飾り金具の一部。太い銅線を環状に成形。腐食のため，表面剥落著しい。外径 1.4 cm，内径 1.0 cm，厚さ 0.2 cm。
12号地土-1	磁器	(9.9)	(6.1)	2.8	瑠璃釉。皿。肥前。18c。型打整形。
12号地土-2	磁器	(11.6)	5.2	7.8	染付。碗。肥前。17c後半～18c中葉。陶胎。白化粧。外面花唐草文。内外釉面に貫入が入る。
12号地土-3	陶器	(8.9)	(2.9)	5.0	碗。産地不明（信楽？）。18c後半～19c前半。胎土は灰白色で焼きしまる。内外面透明釉，高台無釉。
12号地土-4	陶器	(32.0)	(13.2)	10.2	鉢。瀬戸美濃。18c。胎土は黄白色。内面，鉄で曲線文。内外面灰釉，高台無釉。目痕内面2ヶ所。
12号地土-5	陶器	-	17.4	-	鉢。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は灰褐色。外面鉄泥，上面鉄釉。内外面透明釉。底裏は鉄泥をふきとる。目痕内面と底裏に6ヶ所。
12号地土-6	陶器	-	9.7	-	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
12号地土-7	土器	口径 a 6.0	高 1.3		焼塩壺。蓋 II d 類。内外面赤化。内面粗い布目痕。口径 b 7.5 cm。
12号地土-8	土器	6.8	5.7	7.1	焼塩壺。身 C2 類。内外面赤化。無銘。回転ナデ調整。底面糸切痕。
12号地土-9	土器	(22.1)	-	-	火鉢。土師質。内面煤付着。内面指頭調整痕。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
12号地土-10	土 器	-	12.9	-	火鉢。瓦質。回転印刻文(花文)。内面煤付着。口縁再調整。内面指頭調整痕。外面ヘラミガキ。
12号地土-11	石製品	長 1.5	幅 1.7	厚 1.1	火打石。チャート。裏面の稜に敲打痕。
12号地土-12	ガラス製品				黄。容器一部。
13号地土-1	磁 器	13.3	7.6	3.6	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部、草花文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圏線、銘渦福字。畳付に砂熔着。
13号地土-2	磁 器	(11.7)	(5.1)	6.2	青磁染付。碗。肥前。1750~1780年代。外面青磁釉。内面口縁部に四方禪文。見込草花文。
13号地土-3	陶 器	8.5	4.6	6.4	碗。瀬戸美濃。18c後半~19c前半。磁器を模す。胎土は黄白色。外面、呉須で草花文。内外面灰釉。
13号地土-4	陶 器	12.4	4.8	5.4	碗。瀬戸美濃。18c後半~19c前半? 胎土は黄白色。内外面呂宋釉。高台無釉。焼成時に釉に灰付着。
13号地土-5	陶 器	-	4.9	-	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
13号地土-6	陶 器	(9.4)	3.9	(5.7)	碗。産地不明(信楽?)。18c~19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。胴部に6条の細い沈線文。内外面灰釉、高台無釉。
13号地土-7	陶 器	12.8	8.4	2.8	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で桜花文。内外面灰釉、高台無釉。目痕内面3ヶ所。
13号地土-8	陶 器	13.3	9.2	2.9	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で桜花文。内外面灰釉、高台無釉。目痕内面3ヶ所。
13号地土-9	陶 器	12.3	6.8	2.9	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は灰色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で柳文。内外面灰釉、高台無釉。
13号地土-10	陶 器	12.1	6.3	3.0	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は灰色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で草花文。内外面灰釉、高台無釉。
13号地土-11	陶 器	12.1	7.2	3.3	皿。瀬戸美濃。17c後半~18c中葉。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。見込に鉄による摺絵で笹文。内外面灰釉、高台無釉。目痕内面3ヶ所。
13号地土-12	陶 器	蓋:口径(16.8) 高1.7 身:(16.9)(13.2)10.7			水指? 信楽または常滑? 18c~幕末。胎土は暗褐色で炆器質。蓋上面に螺旋状のロクロ目残る。蓋上面、身外面錆釉。目痕蓋のかえり部に21個、身の蓋受けに2個。
13号地土-13	陶 器	5.4	2.8	1.4	蓋(壺の蓋)。瀬戸美濃。18c。胎土は灰白色。下面は右回転糸切痕。上面灰釉。
13号地土-14	陶 器	-	-	-	瓶。備前? 18c。胎土は赤褐色で炆器質。外面錆釉。
13号地土-15	陶 器	口径 9.1	高 2.5		蓋。志戸呂。18c。胎土は褐色で炆器質。上面鉄釉。最大径11.6cm。
13号地土-16	土 器	9.9	5.2	1.9	かわらけ。外面、削りによる整形の後、研磨。
13号地土-17	陶 器	3.1	-	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉄釉。
13号地土-18	陶 器	-	7.8	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
13号地土-19	陶 器	-	11.4	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書線刻「玉川」。
13号地土-20	陶 器	-	8.8	-	徳利。志戸呂。18c後半。外面錆釉。
13号地土-21	陶 器	37.1	19.3	16.0	播鉢。備前系。胎土暗赤褐色。口縁2本沈線の縁帯、1本沈線の突帯と流し口。櫛目は7本1単位を28単位。内面磨滅。底面高台。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
13号地土-22	土 器	口径 a 6.8	高 1.7		焼塩壺。蓋 II c 類。内面粗い布目痕。口径 b 8.3 cm。
13号地土-23	土 器	a 5.6	5.1	8.0	焼塩壺。身 B 2 類。「泉湊伊織」銘。内面布目痕。底面指頭圧痕。口径 b 7.2 cm。
13号地土-24	土 器	a 6.2	4.8	7.6	焼塩壺。身 C 1 類。内外面赤化。「大極上壺塩」銘。回転ナデ調整。底面糸切痕。口径 b 7.1 cm。
13号地土-25	土 器	7.4	4.0	1.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。
13号地土-26	土 器	7.9	4.2	1.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
13号地土-27	土 器	8.0	4.2	1.2	かわらけ。底部回転糸切(左)。墨書「小」。
13号地土-28	土 器	8.0	4.0	1.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。墨書「大」。
13号地土-29	土 器	10.8	5.1	2.3	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
13号地土-30	土 器	11.0	5.1	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
13号地土-31	土 器	11.0	5.3	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
13号地土-32	土 器	11.4	5.0	3.1	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。
13号地土-33	土 器	12.2	7.0	2.9	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。煤付着。
13号地土-34	土 器	- (4.8)	5.2		燈明具。底部回転糸切(左)。中央部穿孔。内外面とも、赤褐色塗彩の後、透明釉。煤付着。
13号地土-35	土 器	7.4	4.4	3.6	燈明具。底部回転糸切(左)。煤付着。
13号地土-36	土 器	-	14.0	-	火鉢。瓦質。沈線と回転印刻文(渦卷文, 七宝尽)。内面火箸痕。口縁再調整。内面指頭調整痕。外面へラミガキ。
13号地土-37	土 器	-	18.6	-	火鉢。瓦質。沈線と条線。内面煤付着と火箸痕。口縁再調整。外面へラミガキ。
13号地土-38	土 器	-	8.0	-	灰落し。土師質。口縁再調整。外面へラミガキ。
13号地土-39	土 器	(7.4)(4.4)	4.7		器種不明。土師質。底部糸切痕。
13号地土-40	石製品	長一幅(2.7)	厚4.5		砥石。凝灰岩。荒砥。砥面表裏面と端部。擦痕は表裏面長軸方向、端部表裏面方向。面取り。重量 50 g。
13号地土-41	瓦				軒平瓦。均整磨草文。
13号地土-42	瓦				丸瓦。玉縁が短い。刺子 b。
13号地土-43	瓦				丸瓦。玉縁が短い。刺子 b。棒状圧痕 1 本。
13号地土-44	銅製品				煙管。雁首。薄手。(後方から見て)左巻き、ろう接左側。腐食ひどく、灰叩き部中途から先欠損。
13号地土-45	ガラス製品				淡黄。角形容器一部。
13号地土-46	銅製品	長 1.4	頭幅 0.6		平鉢? 腐食ひどく、表面剥落著しい。約 5 分。
14号地土-1	磁 器	8.9	3.4	5.7	染付。碗。肥前。1780~1810 年代。外面菊花文。内面口縁部に二重圈線。見込、一重圈線内に五弁花。
14号地土-2	磁 器	口径 8.3	高 3.6		染付。蓋。肥前。18 c 末~幕末。上面梵字文。かえり部無釉。最大径 9.4 cm。
14号地土-3	陶 器	5.4	4.0	7.2	湯沸し? 産地不明。18 c ~幕末。胎土は灰白色。外面に耳一對貼付。外面灰釉。内面長石釉。底部墨書「に印」。
14号地土-4	陶 器	(10.2)	4.4	2.1	燈明皿。瀬戸美濃? 18 c ~19 c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部無釉。底部及び内面に重ね積み痕。
14号地土-5	陶 器	4.0	-	-	德利。瀬戸美濃。18 c 後半~19 c 初頭。外面灰釉。
14号地土-6	陶 器	-	6.4	-	德利。瀬戸美濃。18 c 後半~19 c 初頭。外面灰釉。底部無釉。
14号地土-7	陶 器	3.5	6.6	20.6	德利。瀬戸美濃。18 c 後半~19 c 初頭。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻「㊦」。
14号地土-8	陶 器	3.4	8.4	-	德利。瀬戸美濃。18 c 後半~19 c 初頭。肩部に沈線帯残存。外面胎釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「㊦」。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
14号地土-9	陶 器	2.6	8.0	21.3	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。肩部に沈線帯残存。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「△ <sub>上</sub> 」。
14号地土-10	陶 器	—	6.7	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部無釉。
14号地土-11	陶 器	—	7.2	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻「△」。
14号地土-12	陶 器	—	6.6	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部無釉で指痕3ヶ所残る。焼成後胸部上半で打ち欠き、底部穿孔。
14号地土-13	土 器	(5.8)	—	—	焼塩壺。身C2類。内外面赤化。回転ナデ調整。
14号地土-14	土 器	(9.6)	3.9	2.2	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。内外面に赤褐色塗彩を施し、透明釉。
14号地土-15	土 器	(10.8)	5.2	2.8	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。
14号地土-16	銅製品				煙管。吸口。(後方から見て)左巻き。腐食進み、端部欠損。
15号地土-1	磁 器	—	(3.8)	—	染付。碗。肥前。1690～1750年代。外面草花文? 高台内一重圈線、銘「大明年製」。内外釉面に細かい貫入が入る。
15号地土-2	陶 器	—	(5.8)	—	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
15号地土-3	陶 器	—	(12.8)	—	德利。瀬戸美濃。17c末～18c初頭。外面鉄釉。底部釉ふきとり。二次的に被熱。
15号地土-4	土 器	(10.3)	(5.8)	1.6	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
16号地土-1	磁 器	(14.1)	(7.8)	1.7	染付。皿。肥前。1640年代頃。口縁部折縁。内面口縁部、櫛歯文。見込ざくろ文。畳付に砂熔着。
16号地土-2	磁 器	(21.6)	(14.5)	3.5	染付。皿。肥前。1690～1750年代。口縁部輪花。内面体部竹梅文。外面体部花唐草文。高台内一重圈線。
16号地土-3	磁 器	(12.8)	(7.0)	3.8	染付。皿。肥前。1700～1780年代。内面体部、花唐草文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台内一重圈線、銘有。
16号地土-4	磁 器	(11.0)	6.1	3.1	白磁。皿。肥前。17c末～18c中葉。口縁部輪花。型打整形。内面に型打による唐草文。口鏤。
16号地土-5	磁 器	10.9	(7.2)	8.8	染付。蓋物。肥前。17c末～18c中葉。外面草花文。呉須の色は黒味を帯びる。口唇部釉剥ぎ。畳付に砂熔着。
16号地土-6	陶 器	(12.2)	5.6	7.9	碗。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
16号地土-7	陶 器	—	4.2	—	天目碗。瀬戸美濃。17c。胎土は黄白色。内面鉄釉、高台無釉。高台内墨書有。
16号地土-8	陶 器	—	(10.8)	—	三島手。鉢。肥前。18c。胎土は赤褐色。内面、白土で象嵌を施した上に透明釉。見込に3ヶ所以上、高台に3ヶ所以上の砂胎土目痕。
16号地土-9	陶 器	(7.6)	(8.0)	2.8	蓋物。産地不明。17c後半～18c。胎土は黄白色。内外面透明釉。蓋受け部及び高台無釉。
16号地土-10	陶 器	—	8.8	—	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
16号地土-11	陶 器	(35.2)	—	—	擂鉢。備前系。胎土赤褐色。口縁2本沈線の縁帯と1本沈線の突帯。櫛目は13本1単位。口縁部下へラケズリ。
16号地土-12	土 器	a(6.0)	(6.2)	9.3	焼塩壺。身B1類。内面若干赤化。「泉湊伊織」銘。内面布目痕。外面剥落。口径b7.2cm(推)。
16号地土-13	土 器	11.5	5.8	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
16号地土-14	土 器	11.6	5.6	2.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。



遺物番号	種別	計測値			特 徴
16号地土-15	土 器	口径22.8	高4.0		焙烙。土師質。蓋。内面一部煤付着。外面平坦部ちれ目。
16号地土-16	土 器	( 7.2)	-	-	器種不明。土師質。口縁部に焼成前穿孔。
16号地土-17	土 器	(27.8)(20.8)	10.8		火鉢。土師質。外面銀色塗彩。口唇部敲打痕。底面スタレ痕。内面指頭調整痕。
16号地土-18	石製品	長-	幅-	厚2.3	砥石。泥岩。荒砥。砥面表裏面と右側面。擦痕は表面各方向、右側面端部方向。重量40g。
16号地土-19	瓦				平瓦。凸面狭端側に弓状圧痕。
16号地土-20	瓦				軒平瓦。均整唐草文。
16号地土-21	銅製品				新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭座寛)。1708年初鑄。腐食ひどく、一部欠損。
17号地土-1	磁 器	(13.4)( 6.6)	3.5		染付。皿。肥前。17c中葉。胎土は灰色味を帯びる。高台は斜めの削り。見込に柳と東屋を描く。
17号地土-2	陶 器	(12.4)( 6.2)( 3.0)			皿。瀬戸美濃。17c。胎土は淡黄褐色。外面は削りによる整形。内外面鉄釉，高台無釉。内面蛇の目釉剥ぎ。二次的に被熱。
17号地土-3	陶 器	(10.9)	4.2	5.2	碗。産地不明。18c~19c前半。胎土は灰色。内外面灰釉，高台無釉。目痕内面2ヶ所。
17号地土-4	陶 器	(13.4)	6.6	9.4	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は黄白色。外面は削りによる整形。内外面灰釉，高台無釉。
17号地土-5	陶 器	-	11.6	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
17号地土-6	陶 器	-	11.0	-	徳利。志戸呂。18c後半。外面錆釉。胴部墨書，底部墨書「△」。
17号地土-7	土 器	(12.0)( 7.6)	2.1		かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。二次的に被熱。
17号地土-8	土 器	(13.3)( 7.8)	2.3		かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。煤付着。二次的に被熱。
17号地土-9	瓦				丸瓦。刺子bに横方向の刺子を加える。二次的に被熱し，燈変色。
17号地土-10	瓦				丸瓦。刺子bに横方向の刺子を加える。二次的に被熱し，燈変色。
18号地土-1	磁 器	-	-	-	呉須赤絵。皿。中国。17c前半。胎土は灰褐色。内面に色絵(青?)。内外釉面に粗い貫入が入る。畳付に砂熔着。
18号地土-2	磁 器	-	-	-	染付。皿。肥前。1630~1640年代。口縁部折縁。唐草文。外面釉に細かい貫入が入る。
18号地土-3	磁 器	(12.2)	-	-	染付。皿。肥前。1650年代頃。内面体部鳳凰文。外面口縁部一重圏線。
18号地土-4	磁 器	(14.2)( 6.7)	3.2		染付。皿。肥前。1640~1650年代。口縁部唐草文。内面口縁部唐草文。見込草花文。呉須の発色は悪い。釉は青味を帯びる。
18号地土-5	磁 器	- ( 5.4)	-		染付。皿。肥前。1630~1650年代。見込草花文。呉須の発色は悪い。釉は青味を帯びる。外面釉に貫入が入る。
18号地土-6	磁 器	-	-	-	色絵。皿。肥前。17c後半。胎土は黒色粒を多く含む。口縁部輪花。型打整形。内面に型打による唐草文。見込周囲に赤絵具による一重圏線。
18号地土-7	磁 器	13.2	5.6	2.7	染付。皿。肥前。1650年代頃。菊花形。高台内に放射状の削り痕。型打整形。見込菊花文。畳付に砂熔着。同一文様2個体有。
18号地土-8	磁 器	-	-	-	染付辰砂。碗。中国。17c前半。胎土は緻密。外面，染付と辰砂による草花文。内面口縁部に二重圏線。遺構外-15と同一個体? 2号土坑-10と類似。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
18号地土-9	磁 器	(10.8)	-	-	染付。碗。肥前。17c後半。外面草花文。内面、口縁部に一重、見込周囲に二重圏線。
18号地土-10	磁 器	-	-	-	色絵。鉢。中国。16c末~17c前半。胎土は緻密。内外面とも色絵による花文。二次的に被熱。1号溝-2と同一個体?
18号地土-11	磁 器	-	-	-	色絵。鉢。肥前。17c後半。外面に放射状の削り痕。見込周囲を削り込んで円刻。外面色絵(赤)。内面体部。色絵(赤・黒・緑)。見込は、蛇の目釉剥ぎの上に黒と黄色の絵具を施す。
18号地土-12	磁 器	(14.5)( 6.8)	6.6		染付。鉢。肥前。1650~1660年代。外面、口縁部及び高台部に各々二重圏線。内面口縁部一重圏線。見込、二重圏線内に唐草を描き、濃みを施す。内外釉面に貫入。
18号地土-13	磁 器	8.4	2.8	4.5	白磁。小鉢。肥前。1650~1680年代。薄手。桔梗形。型打整形。畳付に砂熔着。
18号地土-14	磁 器	9.4	7.7	6.1	青磁。香炉。肥前。17c中葉。釉はやや暗い緑色。底部及び内面無釉。畳付に砂熔着。
18号地土-15	磁 器	-	-	-	青磁。香炉。肥前。17c中葉。外面に線彫による幾何学文。釉は暗緑色。内面無釉。
18号地土-16	磁 器	-	-	-	青磁。香炉。肥前。17c中葉。外面に横立の隆起線を削り出す。釉は淡緑色。内面にも薄く施釉。
18号地土-17	陶 器	(14.0)	-	-	皿。肥前。17c。胎土は暗褐色。内外面とも白土による刷毛目を施した上に透明釉。9号地土より、同種の破片、1片出土。
18号地土-18	陶 器	(12.3)( 6.2)	3.8		皿。瀬戸美濃。17c。型打変形皿。胎土は黄白色。内外面灰釉。高台無釉。口縁部緑釉流しかけ。目痕高台内2ヶ所、内面1ヶ所。
18号地土-19	陶 器	9.7	4.8	7.3	碗。肥前(内野山窯?)。17世紀前半。胎土は灰白色。畳付を除き透明釉。高台に砂目痕3ヶ所。
18号地土-20	陶 器	-	-	-	碗。京都? 17c。薄手。胎土は灰色で焼きしまる。内外面灰釉。
18号地土-21	陶 器	-	( 4.8)	-	天目碗。肥前。17c。胎土は赤褐色。内外面とも鉄釉。
18号地土-22	陶 器	-	10.9	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
18号地土-23	陶 器	-	(11.0)	-	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。楯目は13本1単位。鉄釉。内外面底に胎土目痕。底面糸切痕。外面ヘラケズリと釉剥ぎ。
18号地土-24	土 器	( 5.8)	-	-	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。内外面若干剥落。
18号地土-25	土 器	7.2	4.0	1.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
18号地土-26	土 器	12.4	7.5	2.5	かわらけ。底部回転糸切(左?)。煤付着。
18号地土-27	土 器	(14.3)( 7.6)	2.6		かわらけ。底部回転糸切(方向不明)。
18号地土-28	石製品	長- 幅	7.9	厚-	温石? 滑石? 上端部近くに穿孔。表面・側面と端部は研磨による整形痕。
18号地土-29	土 器	38.0	28.1	14.7	火鉢。瓦質。底面スグレ痕。外面ヘラミガキ。
18号地土-30	瓦				のし瓦。均整唐草文。厚手。レリーフ。
18号地土-31	瓦				軒平瓦。均整唐草文。
18号地土-32	瓦				のし瓦。均整唐草文。
18号地土-33	瓦				飾り瓦。シャチホコの残欠か?
18号地土-34	銅製品	残長 7.2	径 0.5		管。薄い銅板を丸める。腐食ひどく、両端欠損。
18号地土-35	銅製品	長 11.3	頭幅 0.3		釘? 頭部・脚部先端欠損。腐食ひどい。約4寸。
19号地土-1	磁 器	-	-	3.6	青磁。皿。肥前。1650~1680年代。型打整形。内面に型打による葉脈文様。貼付高台。釉は暗緑色。1号溝-1と同型?
19号地土-2	磁 器	13.3	6.6	3.0	染付。皿。肥前系。18c後半~19c初。内面体部網目文。見込蛇の目釉剥ぎ、アルミナ砂塗布。外面体部唐草文。畳付に砂熔着。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
19号地土-3	磁器	— ( 5.0) —	色絵。蓋物。肥前。1650~1680年代。高台に赤絵具による二重圏線。二次的に被熱。21号地土-1と同一個体?
19号地土-4	磁器	— ( 3.4) —	白磁。碗。肥前。17c中葉~後半。畳付に砂熔着。
19号地土-5	磁器	(10.2) 4.4 5.7	染付。碗。肥前。1690~1750年代。外面草花文。
19号地土-6	磁器	(12.4) — —	染付。碗。肥前。17c後半。外面網目文。
19号地土-7	陶器	(12.9) 5.4 ( 8.3)	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
19号地土-8	陶器	— 5.2 —	碗。産地・時期不明。胎土は黄褐色。畳付を除き長石釉。
19号地土-9	陶器	— 5.8 —	器種・産地・時期不明。胎土は灰白色。底部回転糸切痕。外面鉄釉。底部釉剥ぎ。内面二次的に被熱。脚部のみ残存。
19号地土-10	陶器	— 7.6 —	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
19号地土-11	陶器	— 7.4 —	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
19号地土-12	陶器	— 7.5 —	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。釘書ベタ。
19号地土-13	陶器	(30.5)(13.4) 14.4	播鉢。信楽系。胎土灰色。口縁断面三角形。櫛目5本1単位。外面指頭調整痕。
19号地土-14	陶器	— 16.2 —	播鉢。備前系。胎土赤褐色。内外面煤付着と二次的に被熱。櫛目は9本1単位。内面磨滅。
19号地土-15	陶器	— — —	播鉢。備前系。胎土赤褐色。外面煤付着と二次的に被熱。口縁2本沈線の縁帯と2本沈線の突帯。櫛目は12本1単位。
19号地土-16	土器	口径 a 6.8 高 2.4	焼塩壺。蓋 II b 類。口縁部と内面に煤付着。内面粗い布目痕。口径 b 8.4 cm。
19号地土-17	土器	( 7.6) 3.6 1.6	かわらけ。底部回転糸切 (左)。
19号地土-18	土器	8.0 3.8 1.6	かわらけ。底部回転糸切 (左)。
19号地土-19	土器	( 8.8) 4.4 1.7	かわらけ。底部回転糸切 (左), 墨書有。
19号地土-20	土器	— (17.2) —	火鉢。土師質。外面金色塗彩と二次的に被熱。底面ちぢれ目。内面指頭調整痕。
19号地土-21	土器	— (17.6) —	火鉢。土師質。底面スグレ痕。
19号地土-22	瓦		のし瓦。均整唐草文。
19号地土-23	瓦		面戸瓦。「蟹面戸」形。大棟に使用。刺子b。
19号地土-24	土製品		土錘? 焼塩壺の蓋を転用。上面回転ナデ調整, 下面布目痕。周縁打ち欠き。両凹部に糸目痕。
19号地土-25	石製品	径 2.2 厚 0.5	碁石。粘板岩。黒石。研磨整形。
19号地土-26	石製品	長— 幅 5.9 厚 1.8	砥石。泥岩。仕上げ砥。表面に砥面と長軸方向の擦痕。裏面に擦痕と平ノミ状痕。両側面・端部に直線状の整形痕と面取り。重量 130 g。
19号地土-27	石製品	長— 幅 5.8 厚 2.5	砥石。安山岩。荒砥。全面に煤付着。砥面表裏面・両側面と端部。右側面と端部に表裏面方向の溝状擦痕。重量 140 g。
19号地土-28	石製品	長— 幅 5.4 高—	硯。粘板岩。長方硯。海部に長軸方向の擦痕。硯背平坦。
19号地土-29	銅製品		煙管。雁首。(後方から見て)右巻き, ろう接左側。腐食のため, 火皿, 結合部から欠損。
19号地土-30	銅製品		煙管。雁首。(後方から見て)左巻き, ろう接左側。腐食のため, 火皿部欠損。首部前半, 上下につぶれる。
19号地土-31	銅製品		煙管。吸口。端部, 羅宇結合部にはめ込み。共に(後方から見て)右巻き。羅宇結合部八角形。腐食進行。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
19号地土-32	銅製品		煙管。吸口。肉厚。(後方から見て)右巻き。腐食進行。羅字残存。
19号地土-33	銅製品		煙管。吸口。肉厚。(後方から見て)左巻き。腐食進行, 錆付着。羅字? 残存。
19号地土-34	銅製品	長 2.6 径 0.9	用途不明。煙管様の管。(断面図方向)左巻き。腐食進行。
19号地土-35	銅製品		雁首銭。腐食進行。
19号地土-36	銅製品		北宋銭(皇宋通宝真書)? 対読。1039年初鑄。模鑄銭か。皇・通字含む1/2 残欠品。腐食ひどく, 銭文判読困難。
19号地土-37	銅製品		古寛永(水戸銭長永?)。1636年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-38	銅製品		古寛永(岡山銭長シヨウ子?)。1637年初鑄。肥字。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-39	銅製品		古寛永(鳥越銭高足寛?)。1656年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-40	銅製品		古寛永(鳥越銭低足寛?)。1656年初鑄。肥字。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-41	銅製品		新寛永(文銭: 寛文亀戸銭正字)。1668年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-42	銅製品		新寛永(文銭: 寛文亀戸銭正字)。1668年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-43	銅製品		新寛永(文銭: 寛文亀戸銭正字入文)。1668年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-44	銅製品		新寛永(延宝亀戸銭縮字背文無背)。1674年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進み, 銭文判読困難。一部欠損。
19号地土-45	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭広永)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-46	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食浅い。
19号地土-47	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食浅い。
19号地土-48	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。腐食進行。
19号地土-49	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。腐食ひどく 銭文判読困難。
19号地土-50	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭ケイ永広寛)。1708年初鑄。腐食浅い。
19号地土-51	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭ケイ永広寛)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-52	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭跳永)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-53	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭跳永)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進行。
19号地土-54	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭フ頭チヨク)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進み, 宝字判読困難。
19号地土-55	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭座寛)。1708年初鑄。腐食浅い。
19号地土-56	銅製品		新寛永(四ツ宝銭: 宝永亀戸銭座寛)。1708年初鑄。背, カツ縁・広郭。腐食進み, 銭文一部剥落。
19号地土-57	銅製品		新寛永(耳白銭: 正徳亀戸銭)。1714年初鑄。カツ縁。背広郭。腐食浅い。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
19号地土-58	銅製品				新寛永(旧元文猿江銭小字)。1716年初鑄。腐食ひどく、銭文判読困難。
19号地土-59	銅製品				新寛永(不旧手:享保期七条銭進永)。1726年初鑄。腐食ひどく、銭文判読困難。一部剥落。
19号地土-60	銅製品				新寛永(不旧手:享保七条銭退永小通)。1726年初鑄。織字。腐食ひどい。
19号地土-61	銅製品				新寛永(不旧手:享保七条銭?)。1726年初鑄。寛字・宝字上半含む1/3残欠品。背カツ縁。腐食ひどく、銭文判読困難。
19号地土-62	銅製品				新寛永(不旧手:享保十万坪銭小目宝)。1726年初鑄。カツ縁。歪む。
20号地土-1	磁器	(9.1)	4.1	6.0	染付。碗。肥前。1640~1650年代。口縁部外反。外面山水文。釉は青味を帯びる。高台内無釉。
20号地土-2	陶器	-	2.9	-	碗。産地不明(信楽?)。18c。胎土は黄白色。内外面透明釉、高台無釉。外面、緑で草花文上絵付。
20号地土-3	陶器	3.6	-	-	德利。志戸呂。18c。頸部に鉄釉。
20号地土-4	土器	11.2	6.1	1.8	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
20号地土-5	土器	(12.0)(7.5)	1.9		かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
20号地土-6	土器	-	(20.6)	-	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。内面煤付着と火箸痕。底面スグレ痕。
20号地土-7	瓦				丸瓦。刺子bに横方向の刺子を加える。
21号地土-1	磁器	(8.8)	-	-	色絵。蓋物。肥前。1650~1680年代。外面口縁部に色絵(赤?)二重圏線。口唇部釉剥ぎ。二次的に被熱。19号地土-3と同一個体?
21号地土-2	陶器	(13.7)	6.4	8.2	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
21号地土-3	陶器	13.8	6.6	9.0	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
21号地土-4	陶器	-	-	-	擂鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。口縁端部に縁帯。櫛目は12本1単位か。鉄釉。
104号土坑-1	瓦				谷筋違瓦。
106号土坑-1	土製品	径2.1	厚0.8		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。
106号土坑-2	土製品	径2.1	厚0.7		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。
106号土坑-3	土製品	径2.0	厚0.7		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。
106号土坑-4	土製品	径2.0	厚0.7		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。
106号土坑-5	土製品	径2.1	厚0.7		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。
106号土坑-6	土製品	径2.1	厚0.8		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。一部欠損。
107号土坑-1	磁器	8.9	7.6	13.6	白磁。壺。肥前。18c~幕末。口唇部釉剥ぎ。
107号土坑-2	陶器	10.8	4.3	7.2	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰色。外面は削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。
107号土坑-3	陶器	(8.9)	3.6	5.6	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。外面鉄で若杉文。内外面透明釉、高台無釉。
107号土坑-4	陶器	10.6	3.8	6.4	碗。産地不明(信楽?)。18c後半~19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。内外面透明釉、高台無釉。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
107号土坑-5	陶 器	8.8	5.4	5.3	蓋物。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は淡黄褐色。蓋受け・高台貼付。外面灰釉。内面釉剥ぎ。高台無釉。
107号土坑-6	陶 器	(9.6)	(10.2)	8.9	火入れ? 産地・時期不明。胎土は灰褐色。外面、斜線文を陰刻後、漆黒釉を施す。底部無釉。
107号土坑-7	陶 器	12.4	5.3	11.0	土瓶。小代? 19c。胎土は暗赤褐色。内外面鉄釉, 底部無釉。底部煤付着。
107号土坑-8	陶 器	(5.0)	—	—	壺。瀬戸美濃。17c後半～18c。胎土は黄白色。肩部に耳一對貼付。内外面鉄釉。
107号土坑-9	陶 器	4.0	—	—	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
107号土坑-10	陶 器	3.4	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。二次的に被熱。
107号土坑-11	陶 器	—	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。肩部に4条の沈線帯。外面鉄釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。
107号土坑-12	陶 器	—	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。釘書ベタ「□キ」。
107号土坑-13	陶 器	—	7.6	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
107号土坑-14	陶 器	—	7.4	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。肩部に5条の沈線帯。外面鉄釉。底部釉ふきとり。釘書線刻「枋」。
107号土坑-15	陶 器	—	8.9	—	德利。志戸呂。外面錆釉。焼成後底部穿孔。
107号土坑-16	陶 器	10.5	4.5	2.0	燈明皿。瀬戸美濃。18c～19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部の釉拭き取り。内面および底部に重ね積み痕。
107号土坑-17	陶 器	10.4	4.5	2.3	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c～19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部の釉拭き取り。外側面及び受け口唇部に重ね積み痕。
107号土坑-18	陶 器	11.0	4.6	2.5	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c～19c。外面は削りによる整形。内外面に鉄釉。外面体部下半, 釉拭き取り。外側面及び受け口唇部に重ね積み痕。
107号土坑-19	土 器	7.1	3.7	1.0	かわらけ。底部回転糸切(左)。
107号土坑-20	土 器	8.1	3.5	1.7	燈明皿。底部回転糸切(左)。内外面とも赤褐色塗彩の後, 透明釉。煤付着。
107号土坑-21	土 器	11.0	5.0	2.4	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤付着。
107号土坑-22	土 器	(10.8)	(4.8)	2.4	受付燈明皿。底部回転糸切(左)。煤付着。
107号土坑-23	土 器				十能。土師質。底面ちぢれ目。
107号土坑-24	土 器				十能。土師質。内面煤付着。底面ちぢれ目。
107号土坑-25	石製品	長	幅 5.8	厚 1.1	砥石。凝灰岩? 仕上げ砥。砥面裏表面。表面に長軸方向の擦痕。両側面・下端部に直線状の整形痕。上端部は破損後再調整。重量 80g。
108号土坑-1	陶 器	口径 6.5	高 3.5		蓋。産地・時期不明。胎土は赤褐色で土師質。上面に漆黒釉。最大径 9.0 cm。
108号土坑-2	陶 器	3.4	6.5	19.2	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「玉」。
108号土坑-3	陶 器	3.6	6.6	20.1	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻。
108号土坑-4	陶 器	—	6.1	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
108号土坑-5	陶 器	—	7.8	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
108号土坑-6	陶 器	—	10.8	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。
108号土坑-7	銅製品				煙管。吸口。肉厚。(後方から見て)左巻き。端部以外条線。錆付着。羅字残存。
108号土坑-8	瓦				平瓦。凸面狭端側に弓状圧痕。
109号土坑-1	陶 器	9.1	2.9	4.7	碗。産地不明(信楽?)。18c後半～19c前半。胎土は灰白色で焼きしめる。内外面長石釉、貫入が入る。高台無釉。
109号土坑-2	陶 器	—	6.2	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
109号土坑-3	陶 器	—	(10.5)	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。
109号土坑-4	陶 器	3.2	7.0	20.6	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。底部に粘土塊付着。釘書点刻「△」。
109号土坑-5	土 器	(21.1)(14.7)	—	—	火鉢。土師質。内外面煤付着。内面火箸痕。
111号土坑-1	磁 器	—	7.2	—	染付。鉢。肥前。17c中葉。厚手。内面体部草花文。見込花文。畳付に砂熔着。
111号土坑-2	磁 器	—	12.4	—	白磁。皿。肥前。17c後半。高台内に放射状の削り痕。型打整形。内面に型打による花唐草文。畳付に砂熔着。
111号土坑-3	陶 器	(12.6)(6.2)	2.9	—	皿。瀬戸美濃。17c～18c前半。型打菊皿。胎土は淡灰褐色。内外面灰釉、高台無釉。目痕内面1ヶ所。
111号土坑-4	陶 器	18.2	7.4	—	皿。肥前?(京焼風)。17c中葉～後半。胎土は淡灰褐色。胴部一ヶ所を窪ませる。内外面透明釉、高台無釉。高台内刻印銘「中村金」。
111号土坑-5	陶 器	9.4	3.4	5.2	碗。瀬戸美濃。18c～19c前半。胎土は灰白色。外面上半鉄釉・互須流しかけ。内外面灰釉・高台無釉。
111号土坑-6	陶 器	口径 11.8	高 3.0	—	蓋(水差しの蓋)。信楽または伊賀? 17c。胎土は黄白色で、長石粒混入し焼き甘い。つまみ貼付。上部、横にへら撫で1条有。上面灰釉?
111号土坑-7	陶 器	(5.6)	—	—	壺。瀬戸美濃。17c後半～19c。胎土は灰白色。肩部に耳一對貼付。外面・内面口縁部鉄釉でわずかに灰釉流しかけ、高台無釉。
111号土坑-8	土 器	(18.1)(12.8)	—	—	火鉢。土師質。内面煤付着と火箸痕。
111号土坑-9	陶 器	3.4	—	—	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。肩部に3条の沈線帯。外面鉄釉。
111号土坑-10	陶 器	—	11.8	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
111号土坑-11	土 器	口径 a 6.7	高 2.0	—	焼塩壺。蓋 II b 類。内面粗い布目痕。口径 b 7.8 cm。
111号土坑-12	銅製品				新寛永(文銭：寛文亀戸銭深字背文)。1668年初鑄。カツ縁。背広郭。腐食進行。
111号土坑-13	銅製品				新寛永(延宝亀戸銭縮字背文無背)。1674年初鑄。カツ縁。背広郭。腐食進行。
111号土坑-14	銅製品				新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭フ頭チヨク)。1708年初鑄。織字。腐食進行。
111号土坑-15	銅製品				新寛永(不旧手：享保十万坪銭広目寛)。1726年初鑄。背広郭。腐食進行。
112号土坑-1	磁 器	(13.7)(8.0)	3.3	—	染付。皿。肥前。1700～1780年代。内面体部唐草文。見込印判五弁花。蛇の目釉剥ぎ。畳付に砂熔着。
112号土坑-2	陶 器	3.3	—	—	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。
112号土坑-3	陶 器	3.9	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。
112号土坑-4	陶 器	4.2	—	—	德利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面灰釉。

遺物番号	種別	計測値		特 徴	
112号土坑-5	陶器	-	4.2	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「△」。
112号土坑-6	陶器	-	6.1	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻。
112号土坑-7	土器	(7.3)	-	-	焼塩壺。身C2類。外面若干赤化。回転ナデ調整。
112号土坑-8	瓦				のし瓦。均整唐草文。
112号土坑-9	瓦				軒丸瓦。剣梅鉢紋。
112号土坑-10	鉄製品	残長4.6	頭幅0.9		頭巻釘。脚部欠損。基部全体に錆。木片付着。約1寸5分。
112号土坑-11	鉄製品	長4.5	頭幅0.9		頭巻釘。脚部以外錆付着。約1寸5分。
113号土坑-1	磁器	蓋:口径3.9 身:(4.8)	最大径5.4 6.2(14.3)		染付。水注。産地不明。19c。型押整形。蓋、身とも、型押及び染付による龍文。蓋は漆喰状の物質で補修。胴部焼継ぎ痕?碗。瀬戸美濃系。1820年代~幕末。器形は端反。外面に釘書による白抜き線文様。
113号土坑-2	磁器	9.6	-	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
113号土坑-3	陶器	-	5.4	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。
113号土坑-4	陶器	-	9.8	-	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。焼成後底部穿孔。
113号土坑-5	陶器	-	11.1	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。釘書ベタ。
113号土坑-6	陶器	(9.8)(4.2)	2.2		受付燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。外側面および受け口唇部に重ね積み痕。
113号土坑-7	土器	(10.2)(4.9)	1.9		受付燈明皿。底部回転糸切(左?)。内外面に赤褐色塗彩の後、透明釉。
113号土坑-8	陶器	-	6.7	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
113号土坑-9	瓦				のし瓦。均整唐草文。
114号土坑-1	磁器	-	4.4	-	辰砂。瓶。肥前。1630~1650年代。底部厚手。外面、辰砂による二本一単位の圈線を三重に施す。疊付に砂熔着。
114号土坑-2	磁器	-	3.6	-	白磁。仏飯器。肥前。18c。脚部下端、底部無釉。
114号土坑-3	陶器	(8.3)	4.3	2.4	蓋。産地不明。18c~幕末。胎土は灰色。つまみ貼付。上面灰釉。
114号土坑-4	陶器	口径(12.4)	高1.4		蓋。産地不明。18c~幕末。胎土は淡黄褐色。上面柿釉。
114号土坑-5	陶器	3.2	-	-	徳利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉に灰釉流しかけ。
114号土坑-6	陶器	-	(7.2)	-	徳利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
114号土坑-7	陶器	-	10.3	-	徳利。瀬戸美濃。年代不明。焼成前に陰刻し呉須を施す。「㍻」。外面御深井釉? 底部刻印。
117号土坑-1	銅製品				古寛永(鳥越銭低足寛?)。1656年初鑄。肥字。背、カツ縁・広郭。腐食進行。
119号土坑-1	磁器	-	(8.8)	-	染付。皿。中国。17c前半。胎土は緻密。高台内に放射状の削り痕。見込楼閣文。外面高台部に一重圈線。
119号土坑-2	磁器	口径(9.0)	高2.8		染付。蓋(端反碗)。瀬戸美濃系。幕末。上面は放射状に縦縞を施文。内面中央、波に舟。
119号土坑-3	陶器	10.7	4.0	2.2	燈明皿。産地不明(信楽?)。18c~19c。外面は削りによる整形の後、研磨。内面に櫛歯状工具による三条の条線。内面及び外面口縁部に灰釉。内面に目積み痕3ヶ所。底部無釉。煤付着。



遺物番号	種別	計測値	特 徴
119号土坑-4	ガラス製品	径0.3	淡黄。ねじり棒。劣化のため淡黄色の層が生じているが本来は透明。廉の一部か。
119号土坑-5	鉄製品		鈎? 錆付着。長S字形。最大幅2.2cm, 最大長4.5cm, 径0.9cm。
119号土坑-6	錫製品?		水滴の一部? 裏面工具痕? 二次的被熱。錆付着。歪む。最大幅2.7cm, 最大長3.3cm, 厚さ1.3cm。
119号土坑-7	銅製品	長4.0 頭幅0.4	頭巻釘? 頭部薄く, 頂端欠損。腐食進行。約1寸3分。
120号土坑-1	土 器	口径a 5.3 高1.1	焼塩壺。蓋II d類。内面粗い布目痕。口径b 6.6cm。
121号土坑-1	陶 器	3.8 - -	徳利。瀬戸美濃。18c後半~19c初頭。外面灰釉。
121号土坑-2	骨角製品	高0.8	管状製品。四肢骨を利用し, 全面に研磨を施す。
122号土坑-1	磁 器	(10.6)(4.8) 5.5	染付。碗。瀬戸美濃系。1640年代~幕末。器形は端反。外面丸文。内面口縁部鋸歯文。見込, 一重圈線内に寿字?
122号土坑-2	磁 器	(6.7) 2.9 4.5	染付。碗。瀬戸美濃系? 幕末。高台は高い。外面は, 漢詩・格子目・草花文を斜めの区画内に施文。高台部鋸歯文。内面口縁部文様有。
122号土坑-3	陶 器	13.3 7.2 6.5	土瓶。産地不明。18c後半~幕末。胎土は褐色で土師質。把手部に型打による唐草文。外面黒色の低火度釉, 内面透明釉, 底部無釉。底部, 二次的に被熱。
122号土坑-4	陶 器	- 5.6 -	瓶。産地不明。19c前半~幕末。胎土は黄白色。外面は鉄・緑釉で草花文。外面灰釉。内面無釉。
122号土坑-5	陶 器	3.4 - -	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。
122号土坑-6	陶 器	- 7.8 -	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部最下部墨書「八」を6ヶ所に施す。底部墨書「㊦」。
122号土坑-7	陶 器	- 6.2 -	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。胴部最下部墨書「〇」を3ヶ所に施す。底部墨書「㊦」。
122号土坑-8	陶 器	(10.0)(5.0) 2.0	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内外面に鉄釉。外面体部下半, 釉拭き取り。外面及び受け口唇部に重ね積み痕。
122号土坑-9	石製品	長7.0幅5.1厚1.8	温石? 凝灰岩。赤化。上端部寄りに穿孔。研磨整形。
122号土坑-10	石製品	長1.8幅3.0厚0.8	火打石。メノウ。上端部の稜に敲打痕。
124号土坑-1	陶 器	口径11.0	蓋。産地不明。18c~幕末。胎土は黄白色。上面柿釉で, 焼成の際に灰かぶる。最大径12.0cm(推)。
127号土坑-1	陶 器	8.0 4.2 5.7	碗。産地不明。18c後半~19c前半。胎土は灰色で焼きしまる。畳付を除き鉄泥を施し, 口縁部より内外に鉄釉流しかけ。
128号土坑-1	陶 器	- 5.2 -	碗。瀬戸美濃。17c後半~18c。胎土は灰黄色。外面は削りによる整形。内外面灰釉, 高台無釉。
129号土坑-1	磁 器	- - -	染付。碗。肥前。1640~1660年代。外面染付文様。
129号土坑-2	磁 器	- (3.4) -	色絵。瓶。肥前。1640年代~17c後半。畳付は削りによる剣先状の整形。外面, 屈曲部及び高台部に色絵圈線(赤?)。
129号土坑-3	磁 器	7.6 - -	青磁。香炉。肥前。17c中葉~後半。内外面とも施釉。二次的に被熱。
129号土坑-4	磁 器	- 6.9 -	染付。壺。肥前。18c~幕末。内外ともに透明釉。畳付に砂熔着。

遺物番号	種別	計測値			特徴
129号土坑-5	土器	(29.1)(28.4)	-	-	焙烙。土師質。外面と内面底に煤附着。口縁下部にヘラケズリ。内耳有。底面ちぢれ目。
130・131号土坑-1	陶器	11.9	6.5	3.5	皿。瀬戸美濃。17c後半～18c中葉。胎土は灰褐色。外面は削りによる整形。見込、鉄による摺絵で花文。内外面灰釉、高台無釉。二次的に被熱。
135号土坑-1	磁器	-	5.6	-	染付。皿。肥前。1630～1640年代。厚手。内面雁文。畳付に砂熔着。
135号土坑-2	磁器	(6.6)	-	-	染付。壺。肥前。17c中葉。肩部に圈線。内面、口縁部のみ施釉。口縁部釉剥ぎ。
135号土坑-3	土器	a(5.7)(6.2)	8.9	-	焼塩壺。身B1類。内面若干赤化と布目痕。口径b7.4cm(推)。
135号土坑-4	陶器	-	-	-	德利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。釘書点刻「工」。
135号土坑-5	ガラス製品	-	-	-	透明。板ガラス。片面に石灰様の付着物がある。
136号土坑-1	磁器	15.5	8.0	3.6	白磁。皿。肥前。17c末～18c初。薄手。菊花形。型打整形。見込に型打による龍文。
136号土坑-2	磁器	14.4	7.6	4.3	染付。皿。肥前。1700～1780年代。口縁部輪花。内面体部竹梅文。見込五弁花。外面体部唐草文。高台銘、二重方形枠内に渦福字。
136号土坑-3	磁器	-	-	-	染付。皿。肥前。1650年代頃。口縁部やや外反。内面体部鳳凰文。外面、口縁部に一重圈線。
136号土坑-4	磁器	10.0	4.3	4.9	染付。碗。肥前。18c中葉～後半。高台径小さい。全体に薄手。外面松竹梅文。
136号土坑-5	磁器	7.4	4.0	5.6	染付。そば猪口。肥前。1690～1780年代。外面に花唐草文。高台銘「大明年製」。同一文様3個体有。
136号土坑-6	陶器	-	13.0	-	德利。瀬戸美濃。19c。外面柿釉。底部釉ふきとり。底部刻印「㊦」。
136号土坑-7	陶器	-	7.8	-	德利。瀬戸美濃。18c前半～中葉。外面鉄釉。底部釉ふきとり。
136号土坑-8	土器	11.4	6.0	2.1	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤附着。
136号土坑-9	陶器	(30.2)	11.2	14.6	播鉢。瀬戸美濃。胎土乳白色。口縁外折れ。櫛目は15本1単位。錆釉。内外面底に胎土目痕。底面糸切痕。外面下半ヘラケズリと釉剥ぎ。
136号土坑-10	土器	10.0	10.2	9.4	有脚受付燈明皿。外面に、暗褐色顔料の痕跡。(銀色塗彩?)。
136号土坑-11	土器	(30.3)(29.4)	-	-	焙烙。土師質。外面と内面底に煤附着。口縁下部にヘラケズリ。底面ちぢれ目。
136号土坑-12	石製品	長一	幅5.4	厚1.5	砥石。泥岩。仕上げ砥。表面に砥面と長軸方向の擦痕。裏面に平ノミ状痕。両側面・端部に直線状の整形痕。左側面に面取り。重量60g。
136号土坑-13	銅製品	-	-	-	古寛永(建仁寺銭大字?)。1653年初鑄。腐食ひどく銭文判読困難。剝落著しい。
136号土坑-14	銅製品	-	-	-	新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭広永)。1708年初鑄。背カツ縁。腐食ひどく、銭文判読困難。
136号土坑-15	銅製品	-	-	-	寛永通宝(不明)。腐食ひどく、銭文判読不能。剝落著しい。
136号土坑-16	銅製品	-	-	-	寛永通宝(不明)。腐食ひどく、銭文判読困難、1/3欠損。
137号土坑-1	磁器	10.0	6.0	2.5	染付。皿。肥前。18c後半～19c中葉。口縁部輪花。内面楼閣文。
137号土坑-2	磁器	(6.5)(3.3)	4.5	-	染付。碗。肥前系。19c。外面、波に帆掛舟。内外釉面に貫入が入る。
137号土坑-3	陶器	12.5	7.0	2.7	皿。瀬戸美濃。18c～19c前半。胎土は黄白色。内外面灰釉。高台無釉。内面、蛇の目釉剥ぎ。内面に輪積み痕。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
137号土坑-4	陶 器	(12.4)(10.8)	(4.8)		蓋物。産地不明。18c? 胎土は淡黄褐色。外面白化粧に白泥・呉須・鉄で梅花文、透明釉。内面かえり部以外と高台内透明釉。
137号土坑-5	陶 器	16.3	(6.3)	7.9	土鍋。産地不明。18c~幕末。行平鍋。胎土は暗灰色で焼きしまる。胴上半に、とびがんなによる刻み目状文が3周。把手に、型打による人物文。内面・外面上半錆釉で、外面は薄く施釉。
137号土坑-6	陶 器	(29.8)	20.2	16.8	鉢。瀬戸美濃。18c~幕末。胎土は灰褐色。外面波状文を陰刻。内外面灰釉、高台無釉。外面、鉄釉・緑釉流しかけ。胎土目痕、内面4ヶ所。
137号土坑-7	陶 器	(8.8)	4.4	(7.0)	碗。京都? 18c~幕末。胎土は褐色で土師質。畳付を除き白色の低火度釉。
137号土坑-8	陶 器	(10.2)	4.2	5.8	碗。信楽? 17c後半~18c。胎土は灰白色で焼きしまる。畳付を除き長石釉。
137号土坑-9	陶 器	10.1	4.4	2.1	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。外側面及び受け口唇部に重ね積み痕。
137号土坑-10	陶 器	2.6	6.2	21.7	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部最下部墨書「へ」を3ヶ所に施す。底部墨書「㊦」。釘書点刻「㊧」。
137号土坑-11	陶 器	3.4	(6.6)	19.4	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻「△」。
137号土坑-12	陶 器	3.4	-	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。二次的に被熱。
137号土坑-13	陶 器	-	6.4	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。
137号土坑-14	陶 器	-	6.6	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。底部墨書「㊩」。
137号土坑-15	陶 器	-	6.8	-	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻。
137号土坑-16	土 器	-	(4.2)	-	焼塩壺。身C類。内面赤化。回転ナデ調整。底面糸切痕。
137号土坑-17	土製品	径2.2	厚0.6		基石。手づくね成形。不整形。白色塗彩?
137号土坑-18	銅製品				煙管。雁首。薄手。ろう接欠損。火皿大半・灰叩き部上半残存。腐食ひどい。
137号土坑-19	銅製品				煙管。吸口。薄手。(後方から見て)右巻き。腐食ひどく、両端欠損。羅字残存。
5号井戸・136号・137号土坑					
-1	磁 器	-	-	-	染付。皿。肥前。1650~1660年代。口縁部折縁。内面体部、へラ彫りによる菊弁文? 口縁部に釘書で鋸歯文を施し、上から呉須を塗る。
-2	磁 器	-	-	-	呉須赤絵。皿。中国。16c末~17c前半。内面色絵。
-3	陶 器	4.3	3.3	1.3	蓋。瀬戸美濃。18c~幕末。胎土は黄白色。右回転糸切痕。上面灰釉。
-4	陶 器	10.3	4.8	2.0	燈明皿。志戸呂。18c? 外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に錆釉。底部無釉。煤附着。
-5	土 器	(9.9)	4.7	1.9	かわらけ。底部回転糸切(左)。煤附着。
-6	陶 器	-	6.4	-	徳利。瀬戸美濃。18c前半~中葉。外面灰釉。底部釉ふきとり。
-7	陶 器	2.8	6.4	19.3	徳利。瀬戸美濃。19c中葉。外面灰釉。底部無釉。胴部最下部墨書「へ」を3ヶ所に施す。底部墨書「㊦」。釘書点刻「㊧」。
-8	銅製品				煙管。雁首。(後方から見て)右巻き、ろう接左側。腐食ひどく、火皿、結合部以外欠損。羅字残存。
-9	銅製品				煙管。吸口。(後方から見て)右巻。腐食ひどく錆附着。端部欠損。
-10	鉄製品				新寛永(元文一ノ瀬銭狭穿)。1740年初鑄。腐食進行。外輪部一部欠損。

遺物番号	種別	計測値	特 徴
138号・139号・140号土坑			
- 1	磁器	口径(8.8) 高 3.1	染付。蓋。肥前。18c 中葉～19c 前半。上面草花文。かえり部無釉。最大径 9.8 cm(推)。
- 2	陶器	13.3 8.6 3.5	呉須絵陶器。皿。瀬戸美濃系。18c 末～19c 前半。52・53号土坑-1 と同文様。
- 3	陶器	8.0 4.4 2.7	蓋。産地不明。18c ～幕末。胎土は淡黄褐色。つまみ貼付。上面灰釉。
- 4	陶器	- 11.1 -	徳利。瀬戸美濃。18c 後半～19c 初頭。外面褐釉。底部釉ふきとり。
- 5	陶器	- (11.6) -	徳利。瀬戸美濃。18c 後半～19c 初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「ㄱ」。
- 6	陶器	- (5.7) -	徳利。瀬戸美濃。18c 後半～19c 初頭。外面灰釉。底部無釉。
- 7	土製品	径 2.1 厚 0.7	碁石。手づくね成形。粗い作り。白色塗彩？
- 8	瓦		軒丸瓦。剣梅鉢。
- 9	銅製品		新寛永(寛保足尾銭大字背足)。1741年初鑄。背足。背広郭。腐食浅い。
141号土坑-1	陶器	3.2 - -	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。
141号土坑-2	陶器	3.5 - -	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。
141号土坑-3	陶器	- (6.9) -	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。外面灰釉。底部無釉。釘書点刻「ㄱ」。
141号土坑-4	陶器	3.8 10.3 24.3	徳利。瀬戸美濃。19c 中葉。肩部沈線帯残存。外面灰釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「ㄱ」。
141号土坑-5	土器	(18.3) 12.4 8.0	火鉢。土師質。
141号土坑-6	土器	(20.0)(13.2) -	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。底面に墨書有るが不明。
141号土坑-7	土製品	径 2.2 厚 0.7	碁石。手づくね成形。粗い作り。
141号土坑-8	銅製品		新寛永(不旧手：享保七条銭カツ縁)。1726年初鑄。腐食進行。
141号土坑-9	鉄製品		鉄銭。銭銘不明。鑄厚く、銭文判読不能。一部欠損。
142号土坑-1	磁器	- (7.9) -	色絵。皿。肥前。1640～1650年代。胎土は灰色味を帯びる。内面色絵(緑)。全面に貫入が入る。
142号土坑-2	磁器	6.3 4.9 6.0	染付。急須。京都？ 19c。薄手。外面体部人物文。口縁部雷文。底部・蓋受け・内面無釉。把手欠損(焼継ぎ痕？)。銘「道八」。
142号土坑-3	陶器	(15.8) 5.3 6.4	鉢。延岡。19c。胎土は暗褐色で焼きしまる。内外面、白土で斑状に化粧した上に、鉄で笹文を施した後、透明釉。高台無釉。目痕内面 3ヶ所。高台脇、刻印銘「延岡」。
142号土坑-4	陶器	(15.4)(8.2)(9.8)	土鍋。産地不明。18c ～幕末。行平鍋。胎土は灰褐色で焼きしまる。底部に足 1個貼付。外面上半・内面蓋受け以外灰釉。底部無釉。底部二次的に被熱。
142号土坑-5	陶器	3.4 - -	徳利。瀬戸美濃。18c 後半～19c 初頭。外面灰釉。釘書点刻「ㄱ」。
142号土坑-6	陶器	3.6 - -	徳利。瀬戸美濃。18c 後半～19c 初頭。外面灰釉。胴部に焼成時の熔着痕残る。
142号土坑-7	陶器	- 6.2 -	徳利。瀬戸美濃。18c 後半～19c 初頭。外面灰釉。底部無釉。底部墨書「㊦」。
142号土坑-8	陶器	- (9.5) -	徳利。瀬戸美濃。18c 後半～19c 初頭。外面灰釉。底部釉ふきとり。
142号土坑-9	石製品	長 - 幅 - 高 -	硯。粘板岩。長方硯。硯背平坦で、削痕有。
142号土坑-10	銅製品	最大径 0.4 残長 7.7	箸？ 薄い銅板を丸める。腐食ひどく、剝落著しい。
142号土坑-11	銅製品		新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。腐食浅い。

遺物番号	種別	計測値			特 徴
3号杭跡-1	陶器	11.2	4.4	5.4	碗。産地不明(信楽?)。18c~19c前半。胎土は灰色。外面上半, 鉄・白泥で草花文。内外面灰釉, 高台無釉。目痕内面3ヶ所。
3号杭跡-2	陶器	-	10.4	-	德利。志戸呂。18c。外面錆釉。
3号杭跡-3	土製品	径2.2	厚0.7		碁石。手づくね成形。白色塗彩?
EFG柱穴-1	土器	(9.7)(5.2)	1.7		かわらけ。外面は, 削りによる整形の後, 研磨。内面に, 墨による文様有。薄手。

## 5. 遺構間接合資料

遺構間接合遺物として報告したものは、複数の遺構から出土した破片が接合した例である。本遺跡においては計 28 点が確認された。遺物の報告番号の下には、おのおのの破片が出土した遺構名を示した。また、図 195 の 20 から 28 までの遺物は、このような遺構間接合が特に多かった 14 号土坑と 54 号土坑間の遺物をまとめた。なお、2 号土坑の a, b, c 間で接合したものについては、ここで取り上げず、2 号土坑の項で一括して図示した。 (秋元)

〈付記〉 図版作成終了後に、5 号地下式土坑-2 (図 45) は、2 号土坑出土の小片と遺構間接合をした。本来ならば本項で取りあつかうべき遺物であるが、図版の変更をすることができなかったので、ここにその事実のみを記載しておく。

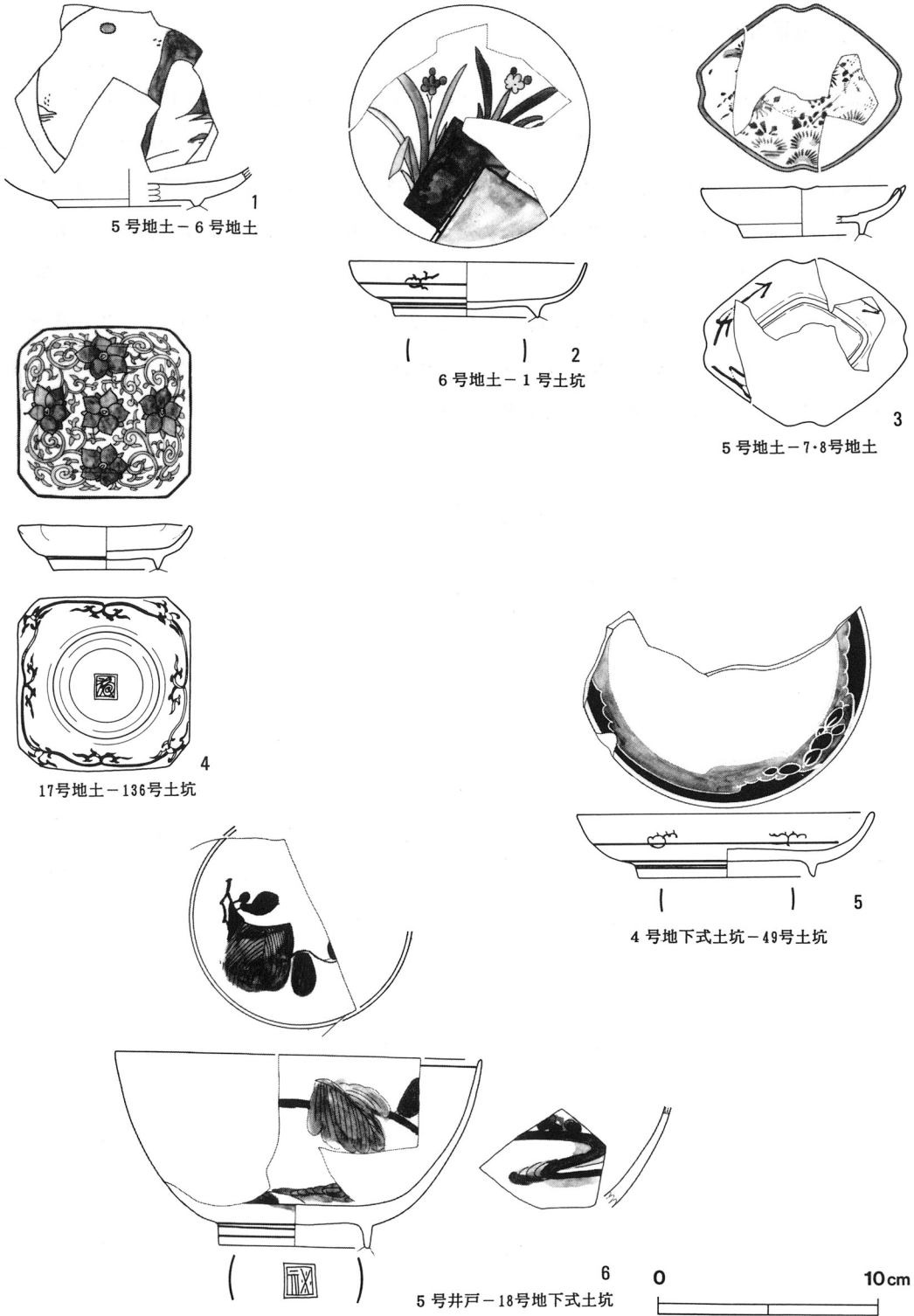


图 192 遺構間接合遺物 (1)

Figure 192 Refitted artifacts from various features

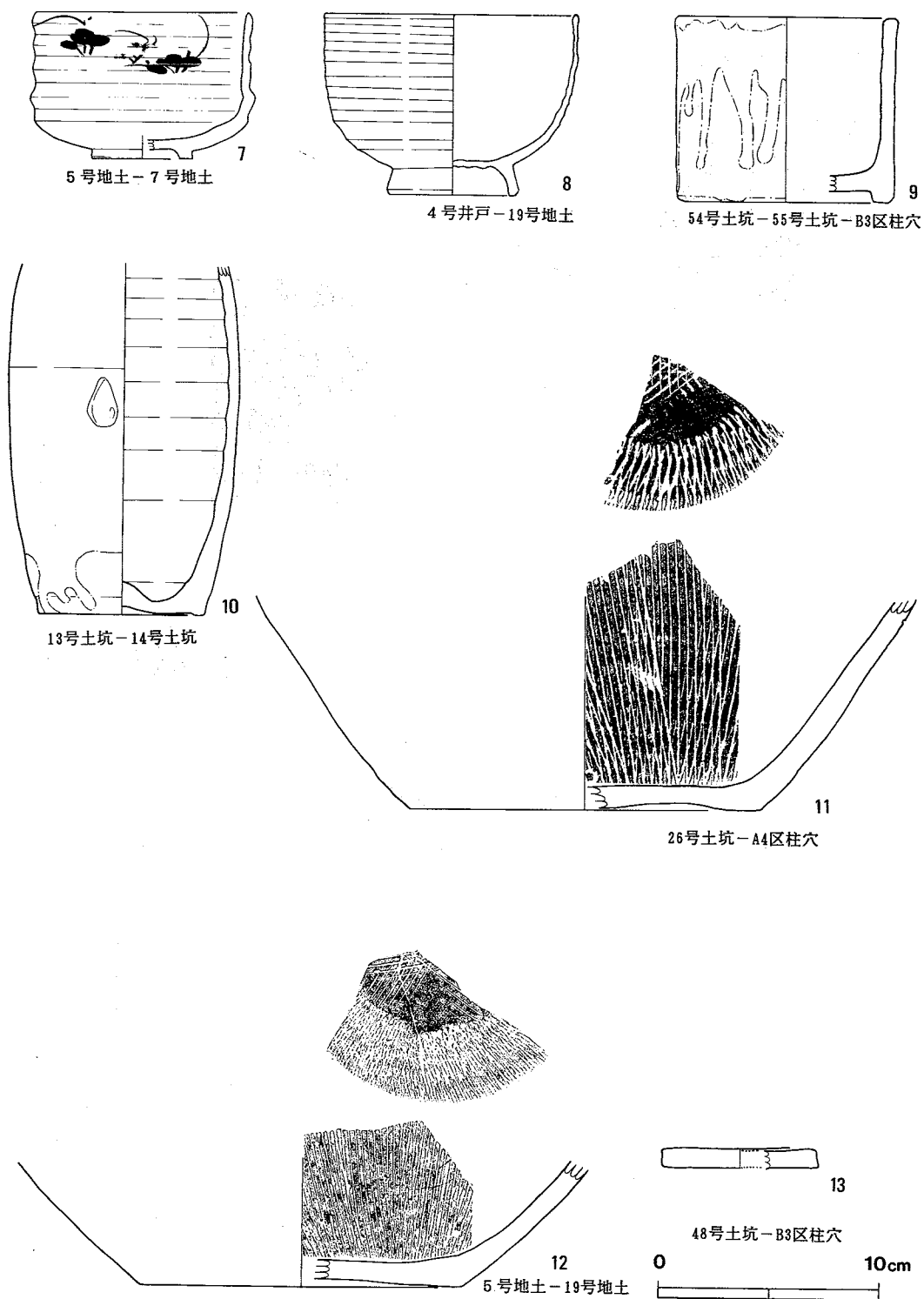


图 193 遺構間接合遺物 (2)  
Figure 193 Refitted artifacts from various features



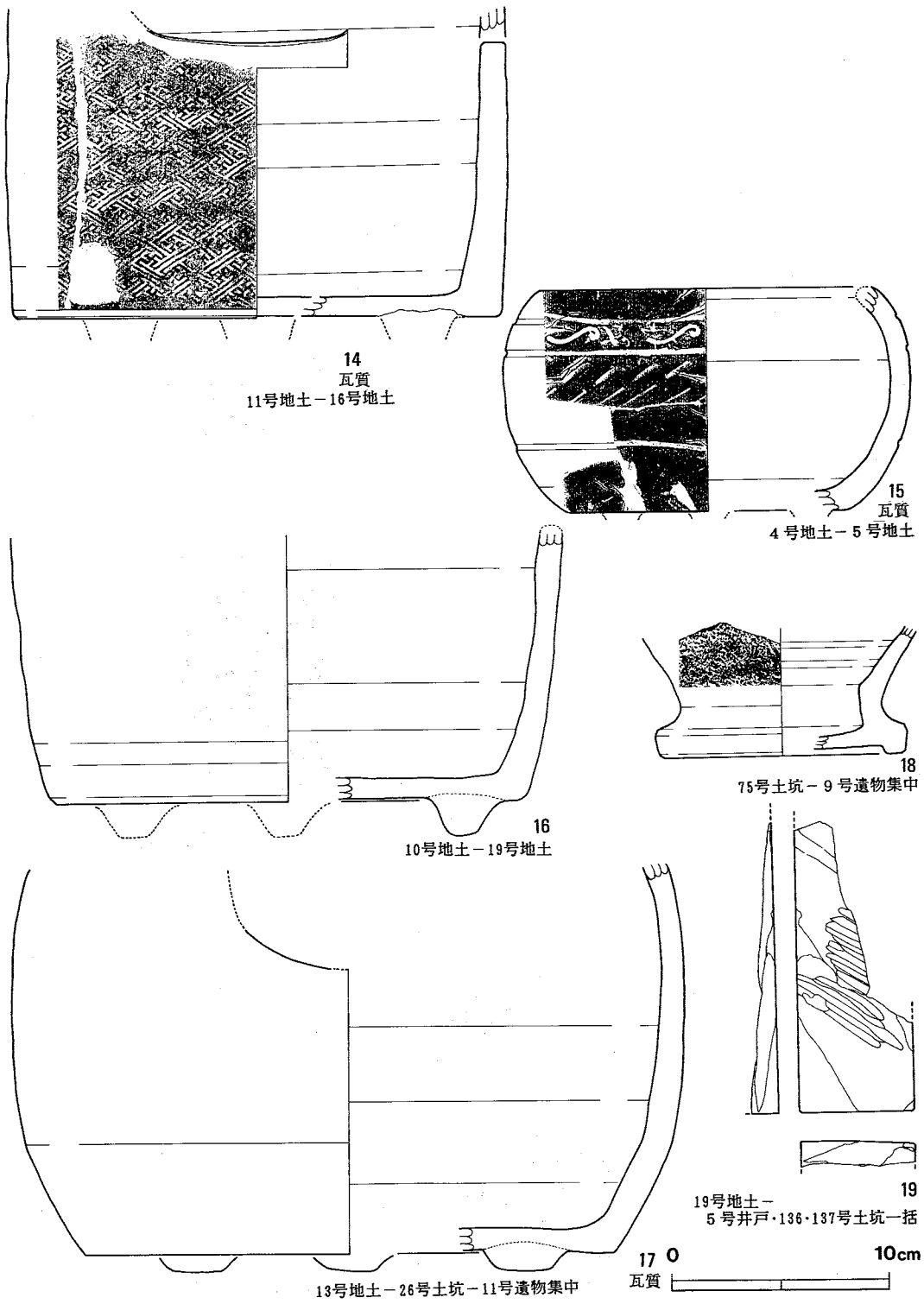


图 194 遺構間接合遺物 (3)

Figure 194 Refitted artifacts from various features

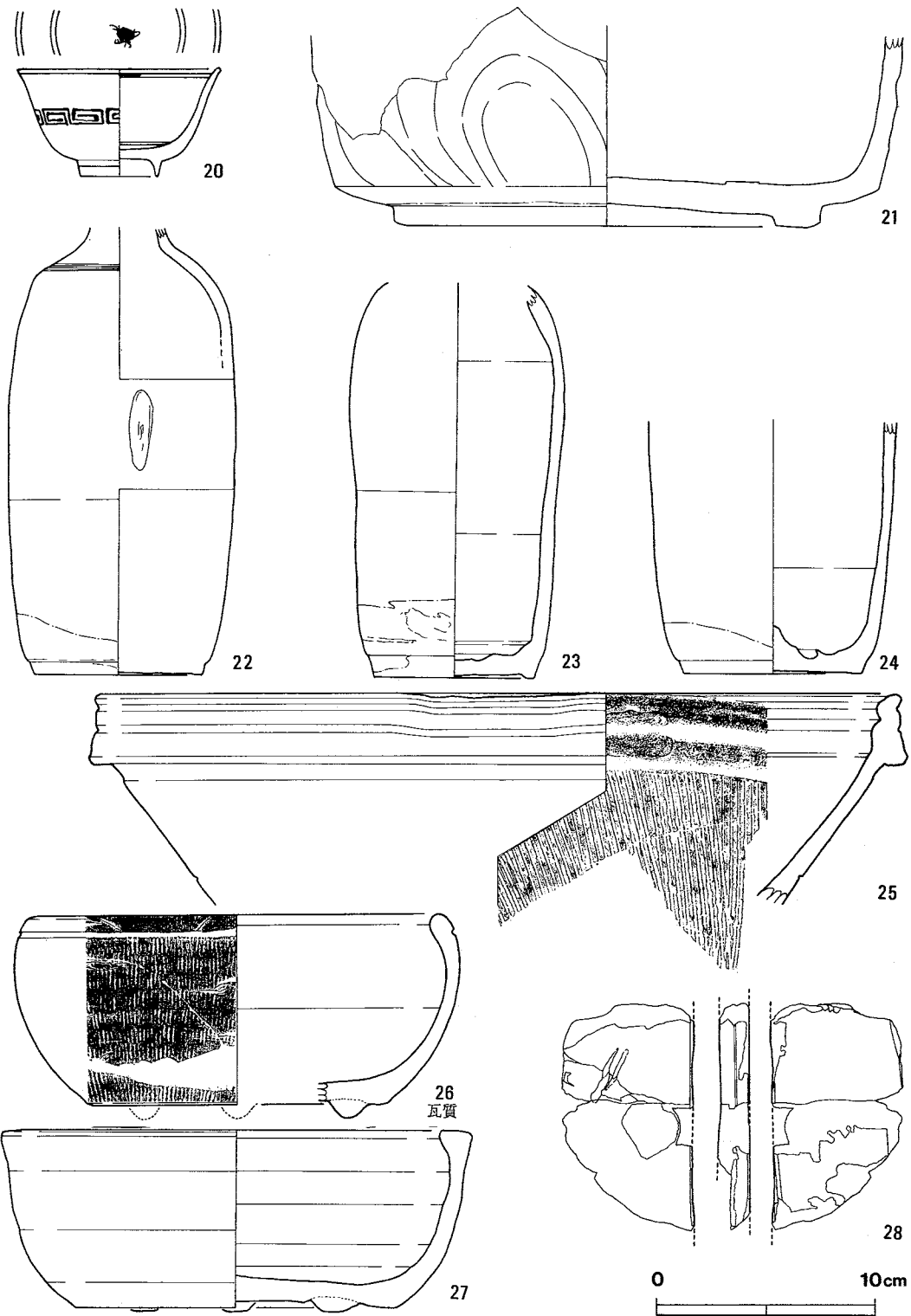


图 195 遺構間接合遺物 (4) (14—54 号土坑間)

Figure 195 Refitted artifacts from various features

表 10 遺構間接合遺物観察表

(計測値は、特に記載のない限り、口径、底径、高さである。)

Table 10 Description of refitted artifacts from various features

遺物番号	種別	計測値			特徴
遺構間接合-1	磁器	—	6.4	—	染付。皿。肥前。1640～1650年代。外面体部に放射状の削り痕。高台は斜めの削り。内面、月に山水文。二次的に被熱。
遺構間接合-2	磁器	(10.8)	6.6	2.5	染付。皿。肥前。1690～1750年代。内面、折紙に草花文。外面、体部唐草文、高台内一重圏線。畳付に砂熔着。6号地土に同一文様2個体以上有。
遺構間接合-3	磁器	(9.2)(5.6)(2.2)			染付。皿。肥前。1690年代～18c前半。型打整形。貼付高台。内面、型紙刷菊花文。外面唐草文。口鏝。
遺構間接合-4	磁器	7.6	4.8	2.1	染付。皿。肥前。1690～1750年代。型打整形。内面、桔梗に唐草文。外面体部唐草文。高台銘、二重方形枠内に渦福字。口鏝。
遺構間接合-5	磁器	13.4	8.1	2.9	染付。皿。肥前。1690～1750年代。内面体部、墨弾きと呉須の濃淡による草花文? 見込印判五弁花? 外面体部唐草文。高台内一重圏線。ハリ支え。二次的に被熱しており、文様の細部は不明。
遺構間接合-6	磁器	(16.8)	6.9	8.7	染付。鉢。肥前。1650～1660年代。外面木葉文。高台脇から高台部にかけて三重圏線。高台銘有。内面口縁部一重圏線。見込、二重圏線内に折枝文。高台脇釉面に手跡。
遺構間接合-7	陶器	(9.7)(4.6)	6.6		碗。産地不明(信楽?)。18c～19c前半。胎土は灰白色で焼きしまる。外面上半、鉄・呉須で草花文。内外面白化粧後透明釉。高台無釉。
遺構間接合-8	陶器	(11.4)	5.7	8.2	碗。京都? 17c後半～18c。胎土は黄白色。畳付を除き透明釉。
遺構間接合-9	陶器	9.9	9.1	8.4	火入? 瀬戸美濃。18c後半～幕末。胎土は黄白色。外面灰釉、口縁部から呂宋釉流しかけ。底部無釉。
遺構間接合-10	陶器	—	7.6	—	徳利。瀬戸美濃。18c後半～19c初頭。外面鉛釉。底部釉ふきとり。胴部に焼成時の熔着痕残る。釘書点刻「△」。
遺構間接合-11	陶器	—	(16.1)	—	播鉢。備前系。胎土赤褐色。櫛目は13本1単位。内面磨滅。
遺構間接合-12	陶器	—	(14.7)	—	播鉢。備前系。胎土暗赤褐色。二次的に被熱。櫛目は12本1単位。
遺構間接合-13	土器	口径(7.2)	高0.9		焼塩壺。蓋III類。内外面赤化。
遺構間接合-14	土器	—	22.4	—	風炉。瓦質。回転印刻文(紗綾形文)。内面煤付着。口縁再調整。底面焼成後穿孔とちぢれ目。外面へラミガキ。植木鉢に転用。
遺構間接合-15	土器	(15.6)(13.0)	—		火鉢。瓦質。沈線と回転印刻文(唐草文、斜沈線)。外面へラミガキ。
遺構間接合-16	土器	(25.4)(21.4)(14.3)			火鉢。土師質。内外面上半二次焼成と煤付着。口唇部敲打痕。底面ちぢれ目。
遺構間接合-17	土器	—	24.4	—	風炉。瓦質。内面煤付着と火箸痕。窓口唇部敲打痕。外面へラミガキ。
遺構間接合-18	土器	—	10.9	—	器種不明。土師質。回転印刻文(蓆目)。内外面二次的に被熱し煤付着。外面へラミガキ。
遺構間接合-19	石製品	長—幅5.3	厚—		砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面である表面を欠損。裏面に平ノミ状痕。両側面・端部に直線状の整形痕。重量60g。
遺構間接合-20	磁器	9.2	3.5	5.0	染付。碗。瀬戸美濃。1820年代～幕末。胎土は透明感がある。器形は端反。外面雷文。見込草花文。同一文様2個体有。
遺構間接合-21	陶器	—	18.2	—	鉢。瀬戸美濃。18c～幕末。胎土は黄白色。外面、草文陰刻。内外面灰釉。高台無釉。目痕内面5ヶ所。
遺構間接合-22	陶器	—	7.7	—	徳利。瀬戸美濃。18中葉～後半。肩部に5条の沈線帯。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「△ <sub>上</sub> 」。

遺物番号	種別	計測値			特徴
遺構間接合-23	陶器	—	7.6	—	徳利。瀬戸美濃。19c。外面灰釉。底部釉ふきとり。
遺構間接合-24	陶器	—	8.2	—	徳利。瀬戸美濃。19c。外面灰釉。底部釉ふきとり。釘書点刻「正」。
遺構間接合-25	陶器	(36.3)	—	—	播鉢。備前系。胎土暗赤褐色。口縁2本沈線の縁帯，2本沈線の突帯と流し口。櫛目は11本1単位。
遺構間接合-26	土器	(19.3)(13.9)	9.4		火鉢。瓦質。沈線と回転印刻文（短沈線）。口縁部へラミガキ。
遺構間接合-27	土器	21.7	14.7	8.3	火鉢。土師質。外面銀色塗彩。内面灰付着。
遺構間接合-28	石製品	長	幅	厚 1.5	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面。表面に長軸方向の擦痕。側面は直線状の整形痕を表面側に入れ裏面側を割る。上半部は破損後再利用。重量 115g。

## 6. 遺構外出土の人工遺物

遺構外出土遺物として取り上げたものは、本遺跡の表土、包含層、攪乱から出土した遺物である。本遺跡の遺構外からは江戸時代の遺物が多量に出土しているが、本書では代表的な遺物146点を図示した。また、近代の遺物2点(147, 148)もあわせて図示した。(秋元)

### 文献

大橋康二, 1984: 肥前陶磁の変遷と出土分布——発掘資料を中心として——。佐賀県立九州陶磁文化館, 国内出土の肥前陶磁, pp.152-169。

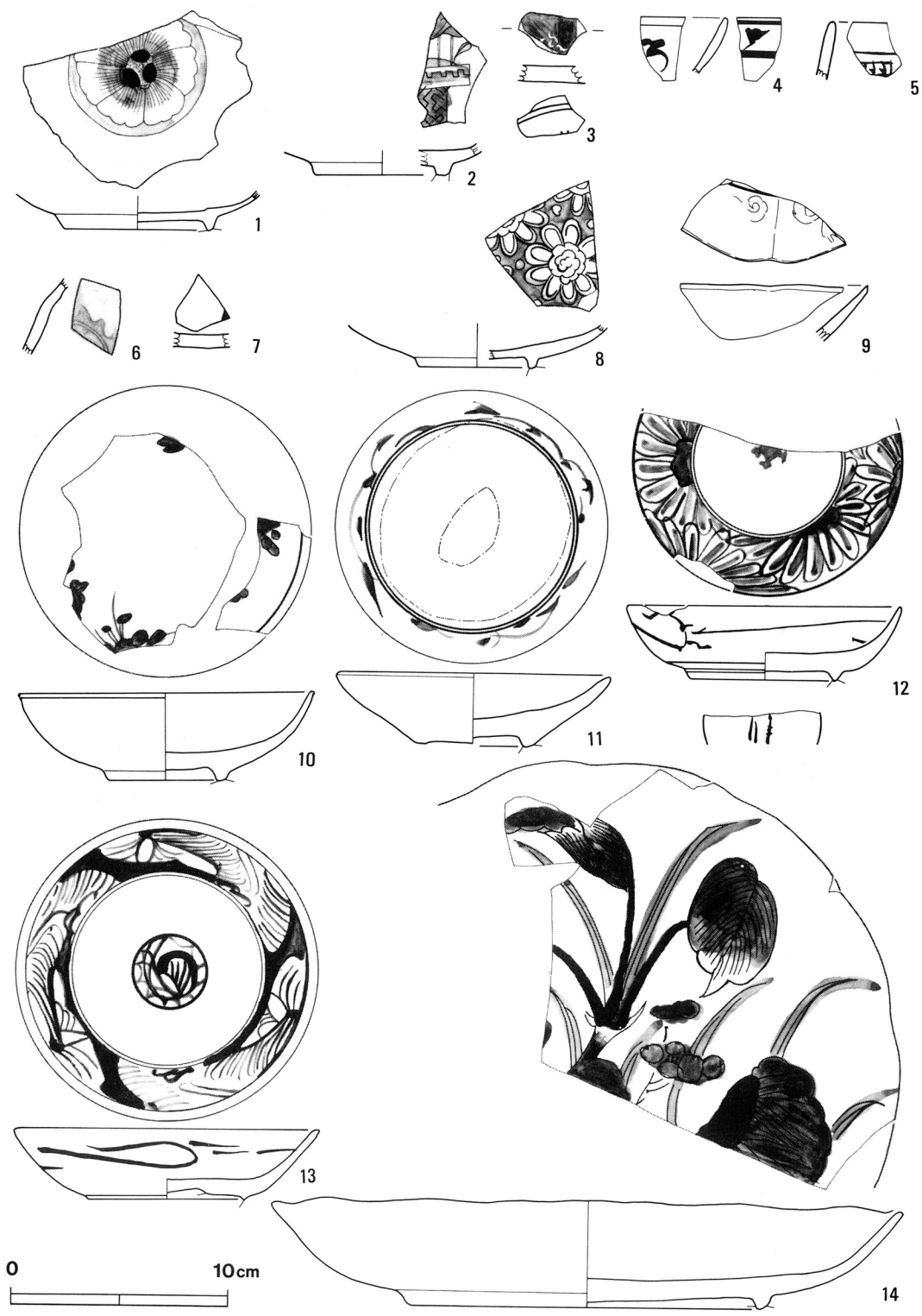


图 196 遺構外出土遺物 (1)  
Figure 196 Artifacts found outside features

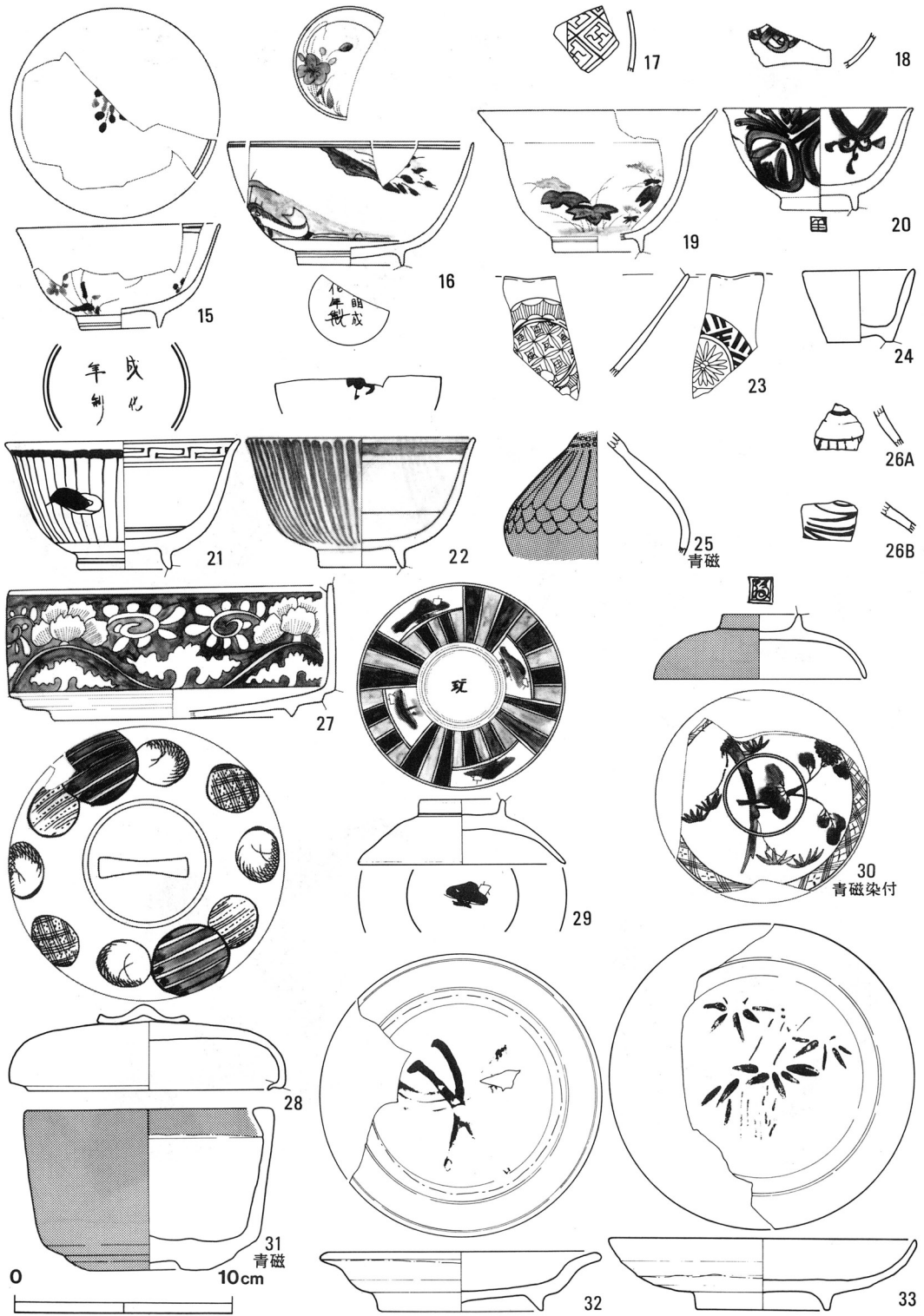


图 197 遺構外出土遺物 (2)

Figure 197 Artifacts found outside features

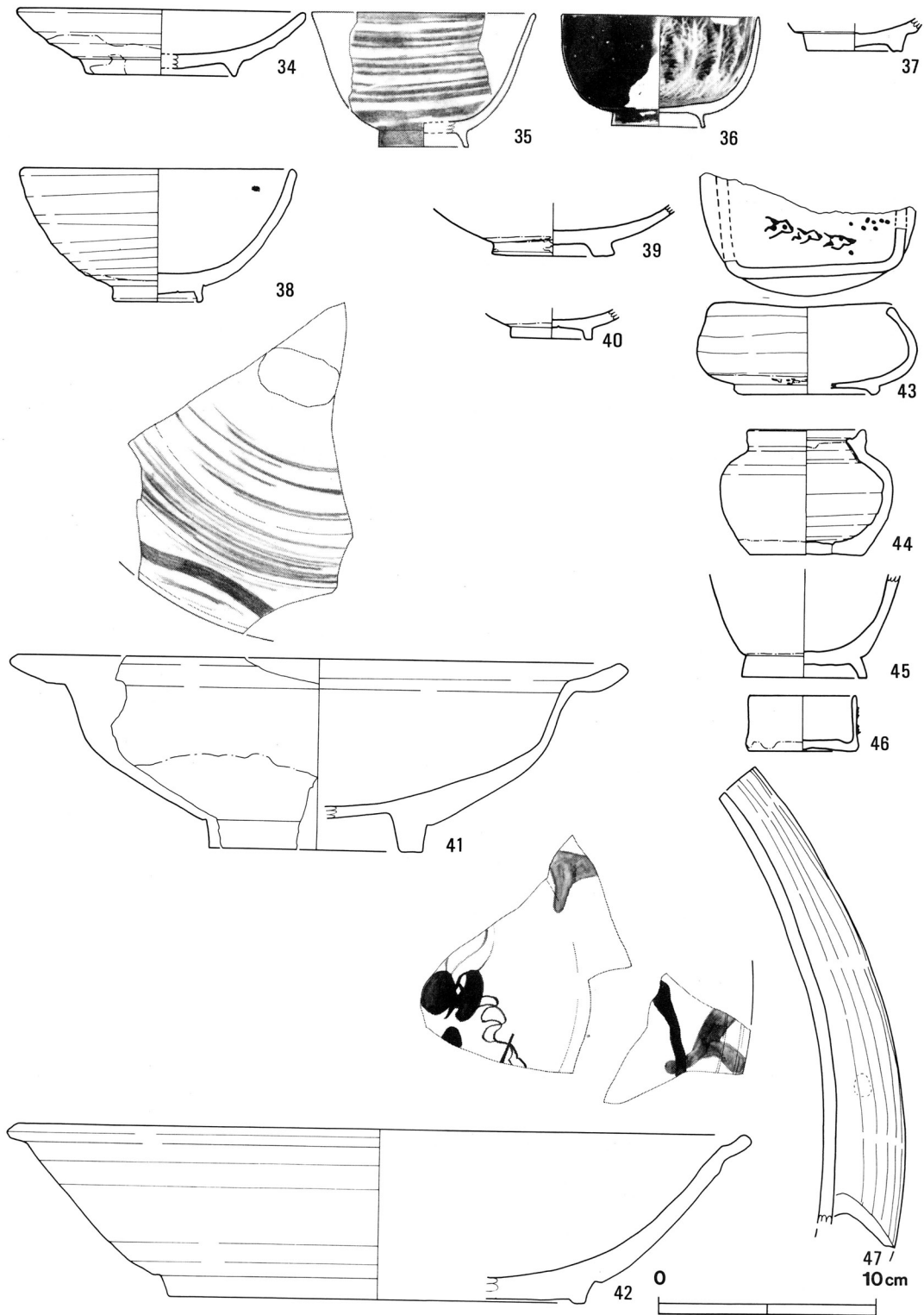


图 198 遺構外出土遺物 (3)  
Figure 198 Artifacts found outside features



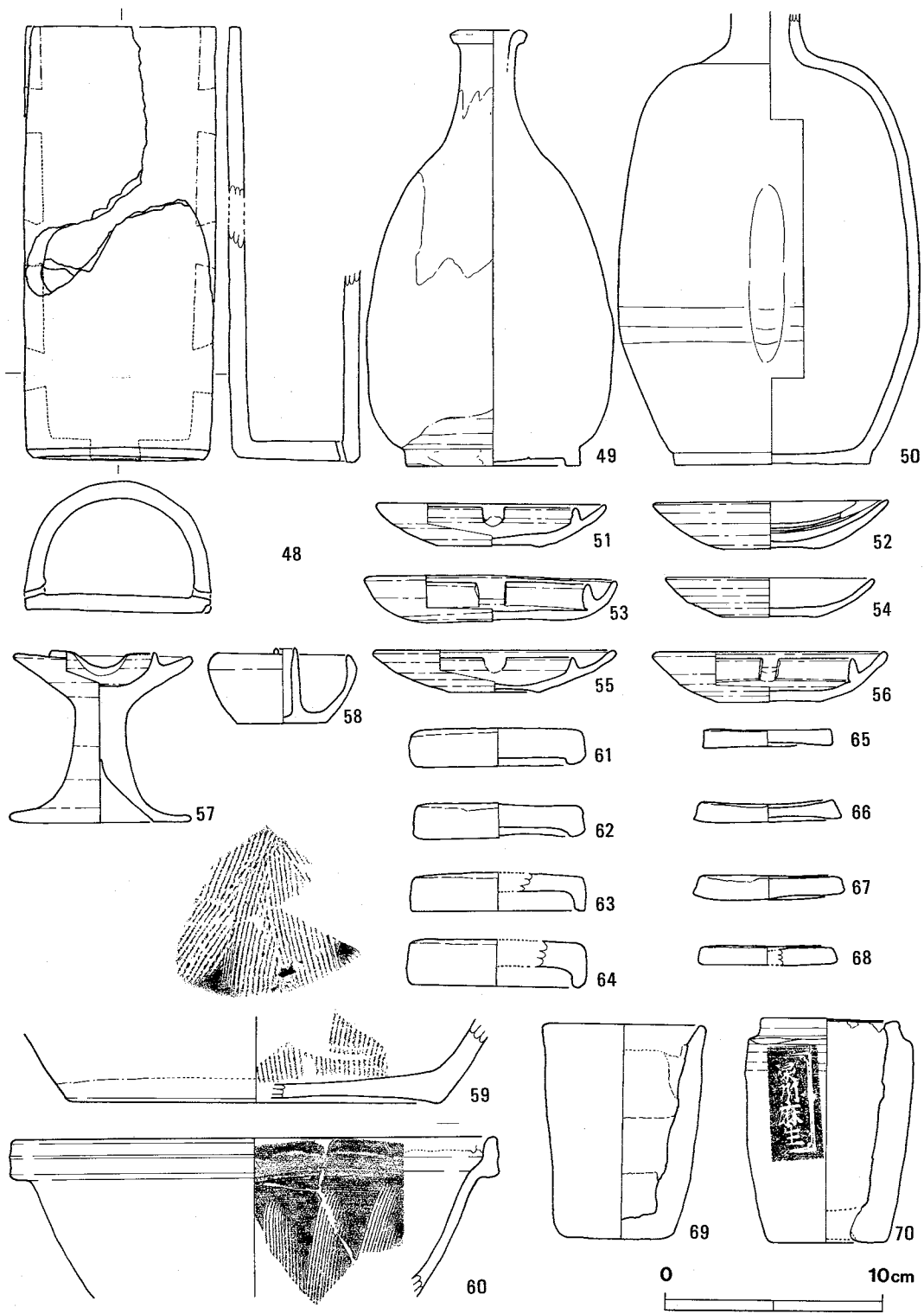


图 199 遺構外出土遺物 (4)

Figure 199 Artifacts found outside features

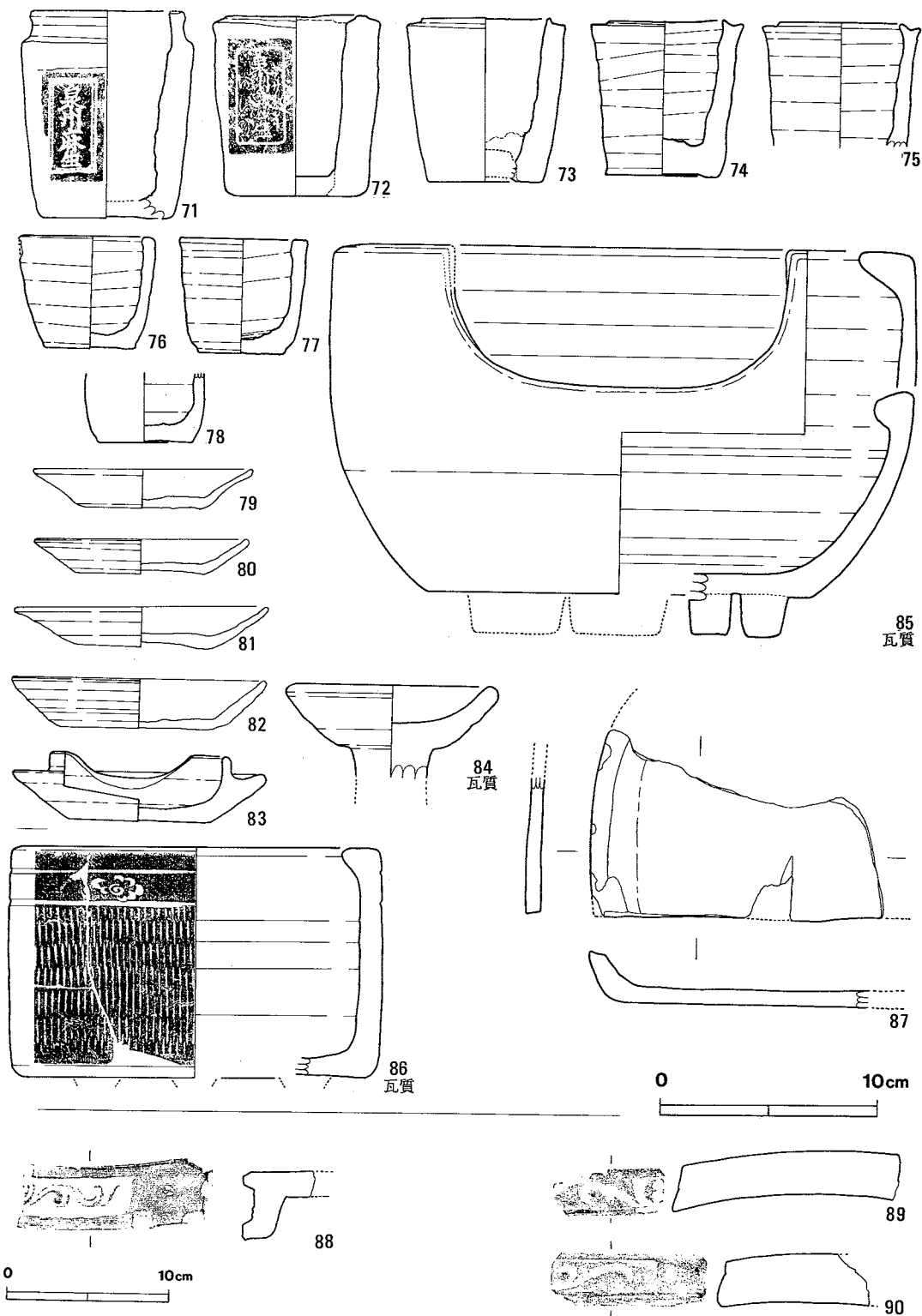


图 200 遺構外出土遺物 (5)  
Figure 200 Artifacts found outside features

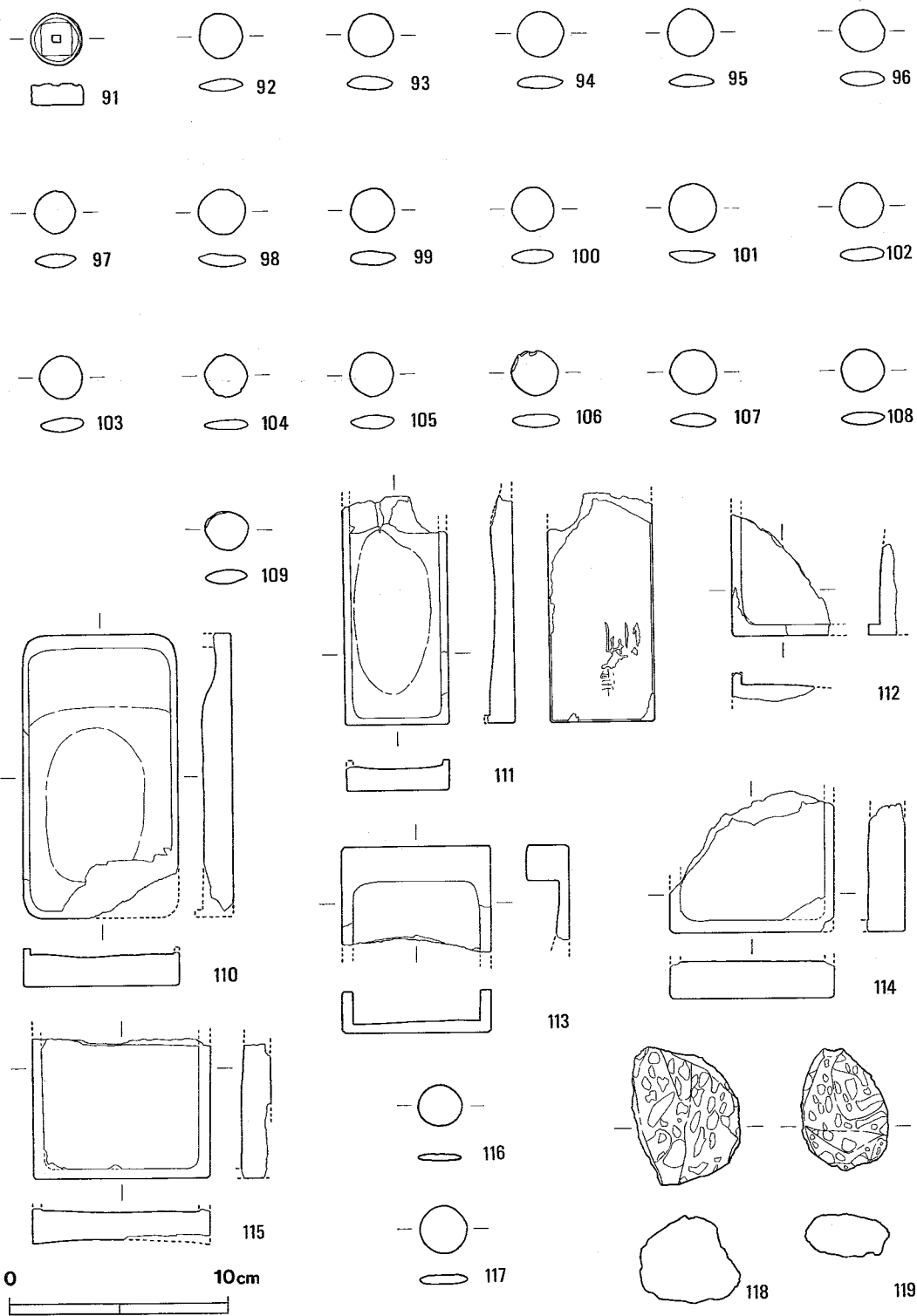


图 201 遺構外出土遺物 (6)

Figure 201 Artifacts found outside features

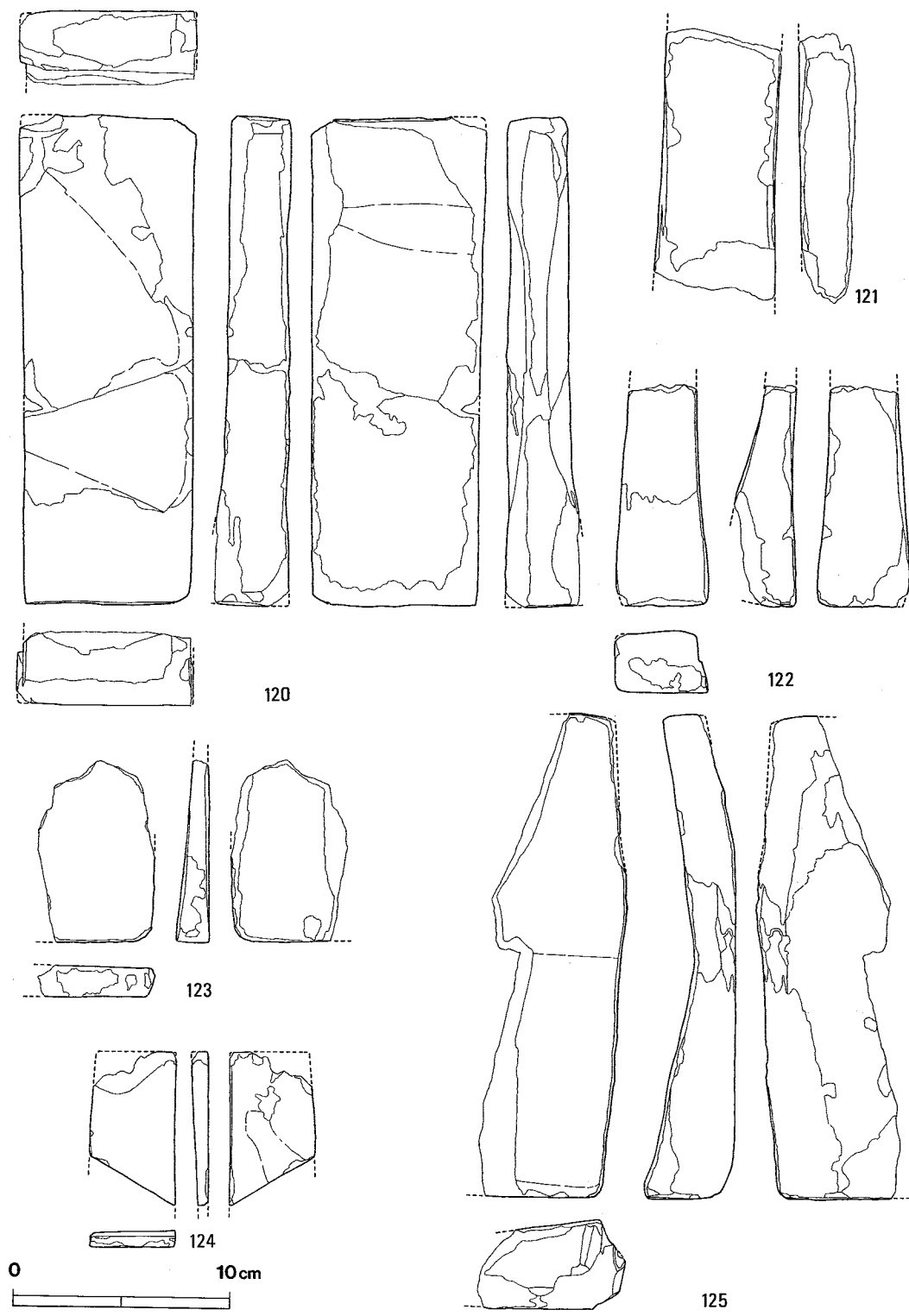


图 202 遺構外出土遺物 (7)  
 Figure 202 Artifacts found outside features

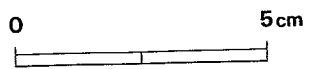
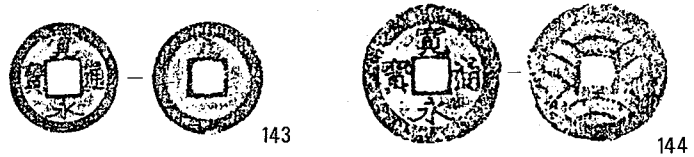
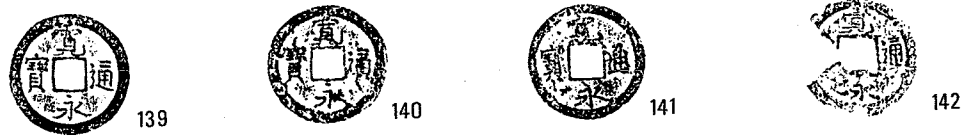
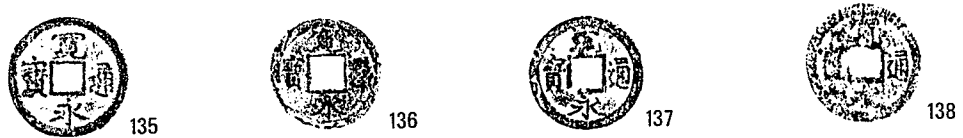
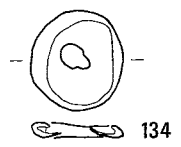
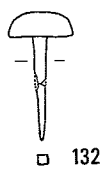
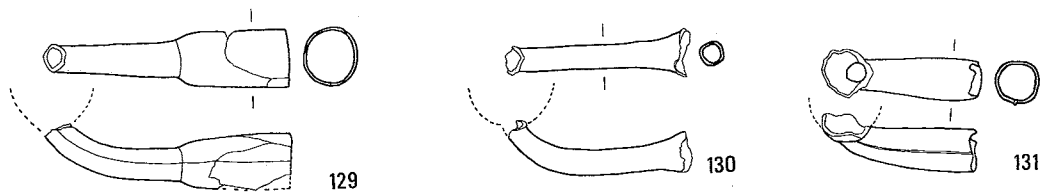
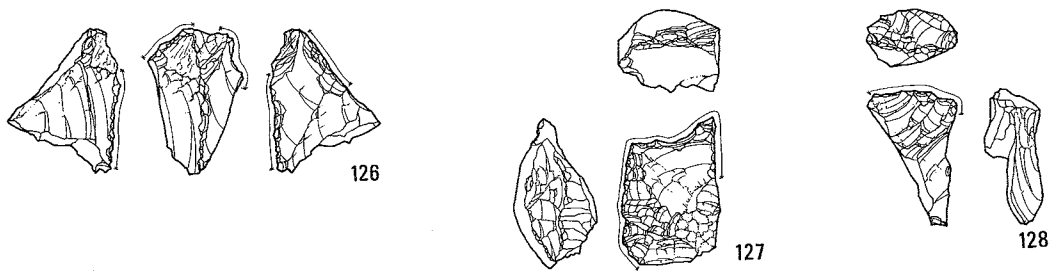


图 203 遺構外出土遺物 (8)  
Figure 203 Artifacts found outside features

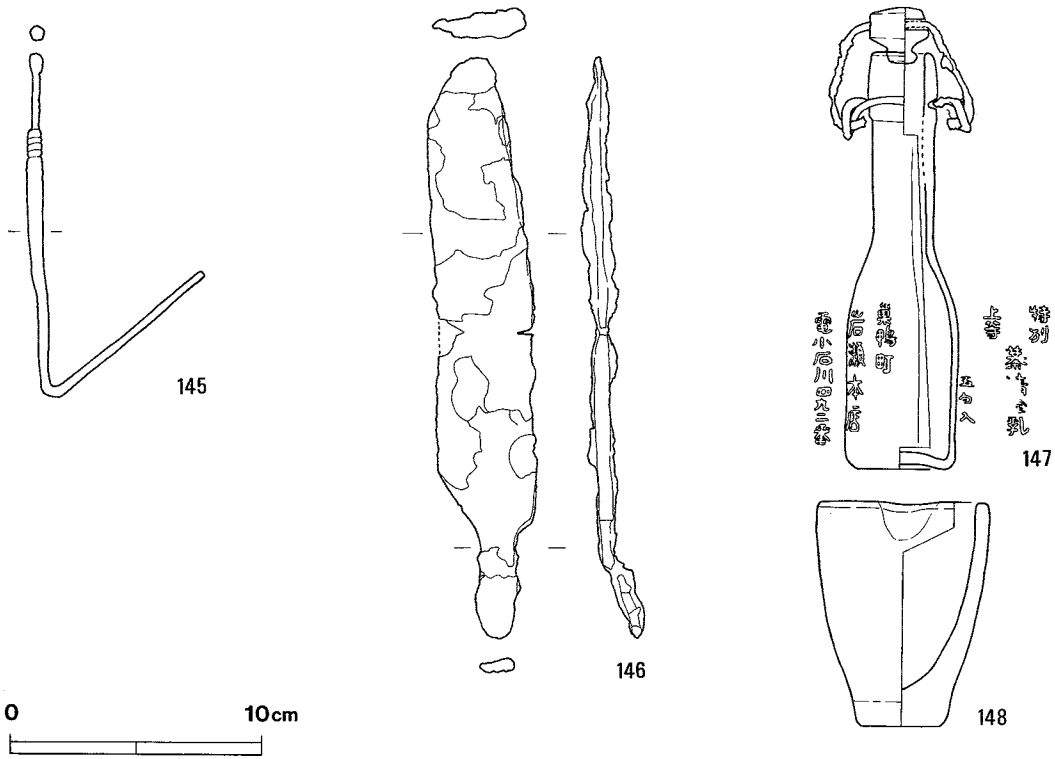


図 204 遺構外出土遺物 (9)  
 Figure 204 Artifacts found outside features

表 11 遺構外出土遺物観察表

(計測値は、特に記載のない限り、口径、底径、高さである。)

Table 11 Description of artifacts found outside features

遺物番号	種別	計測値			特徴
遺構外-1	磁器	-	6.8	-	染付。皿。中国。17c 前半。胎土は緻密。薄手。高台内に放射状の削り痕。見込周囲を削り込み浅い段を作り出す。見込に芙蓉花文。疊付に砂熔着。
遺構外-2	磁器	-	(6.1)	-	染付。皿。中国。17c 前半。高台内に放射状の削り痕。見込花籠文。高台内無釉。疊付に砂熔着。
遺構外-3	磁器	-	-	-	染付。皿。中国。17c 前半。胎土は緻密。見込に吹墨により白抜きの蘭花を描く。高台内二重圏線、銘有。
遺構外-4	磁器	-	-	-	呉須赤絵。皿。中国。17c 前半。胎土灰褐色。内外面色絵(赤)。
遺構外-5	磁器	-	-	-	呉須赤絵。皿。中国。17c 前半。胎土は灰褐色。内面色絵(赤)。
遺構外-6	磁器	-	-	-	呉須赤絵。皿。中国。17c 前半。内面に色絵(緑)。
遺構外-7	磁器	-	-	-	呉須赤絵。皿。中国。17c 前半。内面に色絵(緑?)。裏面は粗く釉がかかる。
遺構外-8	磁器	-	(5.4)	-	染付。皿。肥前。1640年代頃。胎土は灰色味を帯びる。内面花文。外面釉に貫入が入る。疊付に砂熔着。
遺構外-9	磁器	-	-	-	色絵。皿。肥前。1640~1650年代。口縁部輪花。型打整形。内面体部、型打による唐草文。見込周囲、赤絵具による圏線。
遺構外-10	磁器	13.4	5.4	4.1	染付。皿。肥前。17c 中葉。口縁部外反。底部は厚手。内面草花文。外面口縁部一重圏線。釉は青味を帯びる。
遺構外-11	磁器	12.6	5.2	3.4	染付。皿。肥前系。18c 後半~19c 前半。胎土は灰色味を帯びる。厚手。底部の削りは粗い。内面体部唐草文。見込は幅広の蛇の目軸刺ぎ。
遺構外-12	磁器	12.6	6.7	3.5	染付。皿。肥前。1700~1780年代。内面体部花文。見込印判五弁花。外面体部唐草文。高台銘「大明年製」。口鏑。
遺構外-13	磁器	14.0	7.2	3.5	染付。皿。瀬戸美濃。19c。胎土は透明感がある。蛇の目凹形高台。内面体部草花文? 見込草花文? 外面体部唐草文。
遺構外-14	磁器	(28.6)(16.0)	4.9		染付。皿。肥前。19c。口縁部輪花。内面芋葉文。釉は青味を帯びる。ハリ支え。
遺構外-15	磁器	(9.3)(3.7)(4.7)			染付辰砂。碗。中国。17c 前半。外面、染付と辰砂による草花文。内面口縁部に染付二重圏線。見込は染付と辰砂による草花文。18号地土-8と同一個体? 2号土坑-10と類似。
遺構外-16	磁器	11.3	4.9	5.7	染付。碗。肥前。1650~1660年代。外面体部、魚文。高台銘「大明成化年製」。見込草花文。
遺構外-17	磁器	-	-	-	色絵。瓶。肥前。1640~1650年代。外面は削りによる整形。赤絵具で幾何学文を描く。
遺構外-18	磁器	-	-	-	色絵。碗。肥前。17c 後半。薄手。型打整形。外面に色絵で宝文を描く。
遺構外-19	磁器	10.8	4.0	6.5	染付。碗。肥前。1690~1750年代。外面草花文。呉須の線は、にじんでいる。
遺構外-20	磁器	8.6	3.3	4.7	染付。碗。産地不明。1820年代~幕末。器形は端反。外面草花文。高台銘有。内面文様有。釉は青味を帯びる。
遺構外-21	磁器	10.7	4.2	5.9	染付。碗。瀬戸美濃系? 1820年代~幕末。器形は端反。外面、縦縞に茄子文。内面口縁部雷文。見込、二重圏線内に「成化年製」銘。釉は青味を帯びる。
遺構外-22	磁器	10.4	3.8	5.9	染付。碗。瀬戸美濃系。1820年代~幕末。器形は端反。外面、太い縦縞。見込文様有。
遺構外-23	磁器	-	-	-	色絵。鉢。古九谷様式。口縁部輪花。内外面に染付線で丸文を描き、色絵付を施す。口鏑。

遺物番号	種別	計測値			特徴
遺構外-24	磁器	5.0	3.0	3.3	白磁。猪口。肥前系。18c 後半～幕末。釉むら有。
遺構外-25	磁器	—	—	—	青磁。瓶。肥前。1630～1640 年代。肩部に削りによる菊弁文。
遺構外-26	磁器	—	—	—	色絵。瓶。肥前。17c 後半。赤絵具による網目文 (A)、鳳凰文 (B)。
遺構外-27	磁器	14.8	11.0	6.0	染付。蓋物。肥前。18c 後半～幕末。下端を削って段 (無釉) をつける。外面花唐草文。底部全面施釉。口唇部釉剥ぎ。
遺構外-28	磁器	口径11.1	高 4.0		染付。蓋。肥前。19c 初～幕末。上面丸文。かえり部無釉。最大径 12.7cm。
遺構外-29	磁器	口径 9.4	高 3.0		染付。蓋 (端反碗)。肥前。1820 年代～幕末。上面四ヶ所に窓を配し、窓内に松に帆掛舟を描く。つまみ内に「玩」銘。内面中央、松に帆掛舟、周囲は墨弾き? で文様を描き、濃みを施す。
遺構外-30	磁器	口径 9.6	高 3.0		青磁染付。蓋 (碗)。肥前。1700～1780 年代。上面青磁釉。つまみ内、二重方形枠内に渦福字銘、透明釉。内面、竹に菊、周囲に四方櫛文。
遺構外-31	磁器	(10.6)	5.4	7.4	青磁。香炉。肥前。18c～19c 前半。釉は不透明。内面・底部無釉。
遺構外-32	陶器	12.2	7.4	2.8	皿。瀬戸美濃。17c 後半。胎土は黄白色。見込鉄で花文。内面口縁部灰釉。
遺構外-33	陶器	(14.0)	6.0	3.3	皿。瀬戸美濃。17c 後半～18c 中葉。胎土は灰白色。外面に削りによる整形。見込、鉄による摺絵で笹文。畳付を除き灰釉。目痕内面 3ヶ所。
遺構外-34	陶器	(13.2)( 6.6)	3.0		皿。瀬戸美濃。17c。胎土は灰色。外面に削りによる整形。内外面灰釉、高台無釉。内面に輪積み痕。
遺構外-35	陶器	(10.2)( 4.2)	6.2		碗。肥前。17c 後半～18c 前半。胎土は淡褐色。内外面とも白泥で刷毛目を施した上に透明釉。畳付に砂熔着。
遺構外-36	陶器	( 9.1)( 4.3)	5.1		碗。肥前。17c 末～18c 中葉。胎土は黒褐色。内面に白泥で刷毛目、外面白泥、具須で施文した上に透明釉。
遺構外-37	陶器	—	4.4	—	天目碗。瀬戸美濃。17c。胎土は黄白色。内面鉄釉。高台無釉。
遺構外-38	陶器	(12.4)	4.0	6.2	碗。瀬戸美濃。17c 後半～18c。胎土は黄褐色。肥前製品を模す。高台内に円形の切込み。内外面に白泥で刷毛目後、透明釉。高無釉。高台内墨書「彦助」。
遺構外-39	陶器	—	3.8	—	碗。瀬戸美濃? 不明。胎土は淡褐色。畳付け幅広。畳付を除き漆黒釉。畳付刻印銘「圃」。
遺構外-40	陶器	— ( 3.8)	—		碗。京都? 17c 後半～18c。胎土は黄褐色。内外面白化粧後透明釉、高台無釉。高台内刻印銘「岩倉山」。
遺構外-41	陶器	27.8	9.9	8.9	鉢。肥前。17c 後半。胎土は黒褐色。内面は白泥で刷毛目を施した上に銅緑釉。外面透明釉。内面及び畳付に砂胎土目痕。
遺構外-42	陶器	(33.6)(19.0)( 7.9)			鉢。瀬戸美濃。17c。胎土は淡灰褐色。内面鉄で蒿文? 全体に灰釉を施し、内面に緑釉流しかけ。高台内拭き取り。胎土目痕内面・畳付に 1ヶ所。
遺構外-43	陶器	( 8.4)( 5.9)	4.2		鉢。産地不明。18c～19c。胎土は淡赤褐色。口縁部は方形に変形。内面、波に千鳥文象嵌後、内外面透明釉。
遺構外-44	陶器	( 5.2)	5.2	5.8	壺。丹波? 17c～18c? 胎土は暗褐色で長石粒含む。外面錆釉。底部無釉。
遺構外-45	陶器	—	5.7	—	壺。瀬戸美濃。17c 後半～18c。胎土は黄白色。内外面鉄釉で、内面は薄く施釉。高台無釉。高台内墨書「岡村/□□□」。高台側面墨書。



遺物番号	種別	計測値			特徴
遺構外-46	陶器	4.8	4.9	2.6	餌入れ。瀬戸美濃。18c。胎土は淡黄褐色。外面に把手1個貼付。底部右回転糸切り痕。内外面灰釉。底部無釉。
遺構外-47	陶器	—	—	—	器種不明。京都?。時期不明。胎土は灰色。ツノ形で中空。用途不明。外面縦方向の削り目。内面灰釉。外面無釉。外面、刻印銘「道仙」。
遺構外-48	陶器	(8.7)	7.8	—	器種不明。京都?。時期不明。胎土は淡燈褐色。蒲鉾型。用途不明。底1ヶ所、両脇3ヶ所に切り込みを施す。無釉。板状面に、刻印銘「道仙」。
遺構外-49	陶器	2.7	8.0	20.2	徳利。瀬戸美濃。17c末~18c初頭。外面鉄釉に灰釉流しかけ。底部釉ふきとり。
遺構外-50	陶器	—	9.0	—	徳利。瀬戸美濃。19c。ペコカン徳利。胴部二ヶ所が窪む。外面柿釉。底部釉ふきとり。
遺構外-51	陶器	10.5	4.6	2.0	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。外側面及び受け口唇部に重ね積み痕。
遺構外-52	陶器	10.8	4.3	2.2	燈明皿。産地不明(信楽?)。18c~19c。外面は削りによる整形の後、粗く磨く。内面に、櫛歯状工具による4条の沈線。内面及び外面口縁部灰釉。内面に目積み痕3ヶ所。底部無釉。煤付着。
遺構外-53	陶器	11.6	6.4	2.2	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。外側面及び受け口唇部に重ね積み痕。
遺構外-54	陶器	9.6	4.2	1.8	燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。内面及び外側面に重ね積み痕。
遺構外-55	陶器	11.1	4.1	2.0	受付燈明皿。産地不明(信楽?)。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に灰釉。受け口唇部及び底部無釉。
遺構外-56	陶器	10.8	4.7	2.3	受付燈明皿。瀬戸美濃。18c~19c。外面は削りによる整形。内面及び外面口縁部に鉄釉。底部釉拭き取り。外側面及び受け口唇部に重ね積み痕。
遺構外-57	土器	8.2	8.3	8.0	有脚受付燈明皿。赤褐色塗彩?の後、底部を除き透明釉。
遺構外-58	土器	6.8	4.1	3.4	燈明具。内外面に鉄?を塗り、底部を除き透明釉。
遺構外-59	陶器	—	(17.0)	—	擂鉢。産地不明。胎土乳白色。櫛目16本1単位。外面鉄釉。
遺構外-60	陶器	(22.1)	—	—	擂鉢。産地不明。胎土乳白色。口縁2本沈線の縁帯。櫛目は13本1単位。外面鉄釉。
遺構外-61	土器	口径 a	6.4	高 1.8	焼塩壺。蓋IIc類。内面粗い布目痕。口径 b 8.1cm。
遺構外-62	土器	口径 a	6.6	高 1.7	焼塩壺。蓋IIc類。内外面赤化。内面粗い布目痕。口径 b 7.9cm。
遺構外-63	土器	口径 a(7.1)	高 1.8		焼塩壺。蓋IIa類。外面平坦部にスグレ痕。内面密な布目痕。口径 b 8.0cm(推)。
遺構外-64	土器	口径 a(7.0)	高 2.1		焼塩壺。蓋IIa類。内面一部赤化と密な布目痕。口径 b 8.2cm(推)。
遺構外-65	土器	口径 6.0	高 0.9		焼塩壺。蓋III類。内外面一部赤化。内面若干布目痕。
遺構外-66	土器	口径 6.8	高 1.0		焼塩壺。蓋III類。内外面赤化。内面若干布目痕。
遺構外-67	土器	口径 7.0	高 1.2		焼塩壺。蓋III類。内面若干布目痕。
遺構外-68	土器	口径(6.4)	高 0.9		焼塩壺。蓋III類。
遺構外-69	土器	(7.1)	4.7	9.9	焼塩壺。身A2類。内外面赤化。内面布目痕。底面スグレ痕。

遺物番号	種別	計測値			特徴
遺構外-70	土器	a 6.2	5.2	10.3	焼塩壺。身B類。内外面赤化。「泉州麻生」銘。内面布目痕。口径b 7.5cm。
遺構外-71	土器	a (7.1)	(5.8)	9.6	焼塩壺。身B類。外面赤化。「泉州麻生」銘。内面布目痕。口径b 8.0cm (推)。
遺構外-72	土器	a 6.5	6.4	8.4	焼塩壺。身B類。「泉州磨生サカイ御塩所」銘。内面底に布目痕。底面スグレ痕。口径b 7.8cm。
遺構外-73	土器	a (6.0)	(5.2)	7.6	焼塩壺。身B2類。内面若干赤化と布目痕。外面剝落。口径b 7.4cm (推)。
遺構外-74	土器	a 5.7	5.2	7.2	焼塩壺。身C1類。内外面赤化。回転ナデ調整。底面糸切痕。口径b 7.1cm。
遺構外-75	土器	a (5.6)	-	-	焼塩壺。身C1類。外面若干赤化。回転ナデ調整。口径b 7.4cm (推)。
遺構外-76	土器	( 6.3)	4.3	5.2	焼塩壺。身C2類。内外面赤化。回転ナデ調整。底面糸切痕。外面一部剝落。
遺構外-77	土器	6.0 ( 4.0)		5.3	焼塩壺。身C2類。内外面赤化。回転ナデ調整。底面糸切痕。
遺構外-78	土器	-	4.4	-	焼塩壺。身C類。内外面赤化。回転ナデ調整。底面糸切痕。外面剝落。
遺構外-79	土器	(10.4)	5.5	1.9	かわらけ。底部回転糸切(右?), 墨書「○二□」。
遺構外-80	土器	10.1	6.0	1.9	かわらけ。底部回転糸切(右?), 墨書「.:」。
遺構外-81	土器	(11.9)	6.2	2.1	かわらけ。底部回転糸切(右), 墨書「□□(ちやカ)八」。
遺構外-82	土器	11.0	7.0	2.3	かわらけ。底部回転糸切(右), 墨書「○□」。
遺構外-83	土器	11.7	6.5	3.1	燈明皿。内外面に暗褐色顔料の痕跡(銀色塗彩?)。
遺構外-84	土器	皿口径 9.9			瓦燈下部。瓦質。内外面煤付着。
遺構外-85	土器	26.9 (17.8)		17.9	風炉。瓦質。漆継ぎ有。内面火箸痕。外面ヘラミガキ。
遺構外-86	土器	(17.1)	(16.4)	-	火鉢。瓦質。沈線と回転印刻文(唐草文, 短沈線)。内面煤付着。口縁部ヘラミガキ。
遺構外-87	土器				十能。土師質。内外面一部煤付着。底面ちぢれ目。
遺構外-88	瓦				軒棧瓦。軒平部のみ残存。均整唐草文。
遺構外-89	瓦				のし瓦。均整唐草文。
遺構外-90	瓦				のし瓦。均整唐草文。凹面右側に切断痕。
遺構外-91	土製品	径 3.0	厚 1.1		泥面子。型打成形。上面円内に太枠方形。外面金色塗彩。
遺構外-92	土製品	径 2.0	厚 0.6		碁石。手づくね成形。白色塗彩? 表面摩耗。
遺構外-93	土製品	径 2.1	厚 0.6		碁石。手づくね成形。
遺構外-94	土製品	径 2.2	厚 0.6		碁石。手づくね成形。黒色塗彩? 表面一部摩耗。
遺構外-95	土製品	径 2.2	厚 0.6		碁石。手づくね成形。不整形。表面摩耗。
遺構外-96	土製品	径 2.0	厚 0.6		碁石。手づくね成形。不整形。黒色塗彩。
遺構外-97	土製品	径 2.0	厚 0.6		碁石。手づくね成形。黒色塗彩? 表面摩耗。一部欠損。
遺構外-98	土製品	径 2.2	厚 0.6		碁石。手づくね成形。黒色塗彩? 表面摩耗。
遺構外-99	土製品	径 2.0	厚 0.6		碁石。手づくね成形。
遺構外-100	土製品	径 2.0	厚 0.6		碁石。手づくね成形。表面摩耗。
遺構外-101	土製品	径 2.2	厚 0.6		碁石。手づくね成形。表面摩耗。
遺構外-102	土製品	径 2.1	厚 0.6		碁石。手づくね成形。表面摩耗。
遺構外-103	土製品	径 2.0	厚 0.7		碁石。手づくね成形。表面摩耗。
遺構外-104	土製品	径 2.0	厚 0.5		碁石。手づくね成形。粗い作り。白色塗彩?
遺構外-105	土製品	径 2.1	厚 0.6		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。
遺構外-106	土製品	径 2.2	厚 0.6		碁石。手づくね成形。粗い作り。表面摩耗。一部欠損。
遺構外-107	土製品	径 2.2	厚 0.6		碁石。手づくね成形。黒色塗彩? 表面摩耗。
遺構外-108	土製品	径 2.0	厚 0.6		碁石。手づくね成形。表面摩耗。

遺物番号	種別	計測値	特徴
遺構外-109	土製品	径 2.0 厚 0.6	碁石。手づくね成形。表面摩耗。1/5 欠損。
遺構外-110	石製品	長12.9幅 7.1高 1.8	硯。粘板岩。長方硯。陸部に短軸方向の削痕。墨道に凹状の磨減。硯背平坦。
遺構外-111	石製品	長 幅 4.8高 1.4	硯。粘板岩。長方硯。陸部に長軸方向の擦痕。墨道に凹状の磨減。面取り。硯背平坦で硯尻に「清・消」の線刻。
遺構外-112	石製品	長 幅 高	硯。粘板岩。長方硯。硯側面取り。
遺構外-113	石製品	長 幅 6.8高 2.0	硯。安山岩。長方硯。面取り。硯背平坦。
遺構外-114	石製品	長 幅 7.4高	硯。粘板岩。長方硯。陸部に長軸方向の擦痕。硯側面取り。硯背平坦。
遺構外-115	石製品	長 幅 8.1高	硯。粘板岩。長方硯。陸部に長軸方向の擦痕。硯側面取り。硯背凹状のえぐり部。
遺構外-116	石製品	径 2.0 厚 0.3	碁石。粘板岩。赤化。黒石。研磨整形。
遺構外-117	石製品	径 2.2 厚 0.4	碁石。粘板岩。黒石。研磨整形。
遺構外-118	石製品	長 6.4幅 5.0厚 4.0	軽石。全面磨減。
遺構外-119	石製品	長 5.6幅 4.0厚 2.0	軽石。全面磨減。
遺構外-120	石製品	長22.6幅 8.2厚	砥石。泥岩。荒砥。砥面表裏面。表面は両端側を削り再調整。擦痕は表面斜方向、裏面と左側面各方向、右側面端部方向。両端部に直線状の整形痕。面取り。重量 945g。
遺構外-121	石製品	長 幅 5.6厚	砥石。泥岩。荒砥。砥面表面と両側面。擦痕は表面各方向、右側面端部方向。重量 280g。
遺構外-122	石製品	長 幅 4.3厚 2.9	砥石。流紋岩。荒砥。砥面表裏面・両側面と端部。表面破損部と端部に各方向の深い擦痕。面取り。重量 160g。
遺構外-123	石製品	長 幅 厚 1.5	砥石。泥岩。荒砥。表面に砥面と斜方向の擦痕。裏面と端部に櫛目状、右側面に平ノミ状の整形痕。重量 90g。
遺構外-124	石製品	長 幅 4.0厚 0.8	砥石。泥岩。仕上げ砥。砥面表裏面と右側面。擦痕は表面長軸方向、裏面各方向、右側面表裏面方向。左側面と上端部に直線状の整形痕。下端部は破損後再調整。重量 25g。
遺構外-125	石製品	長22.4幅 厚 4.1	砥石。砂岩。荒砥。表面は砥面と長軸方向の擦痕。裏面と右側面に平ノミ状、両端部に櫛目状の整形痕。面取り。重量 470g。
遺構外-126	石製品	長 2.9幅 1.9厚 2.3	火打石。チャート。表面と上端部の稜に敲打痕顕著。
遺構外-127	石製品	長 3.0幅 2.0厚 1.7	火打石。メノウ。両側面と上端部の稜に敲打痕顕著。
遺構外-128	石製品	長 2.8幅 1.8厚 1.1	火打石。チャート。上端部に敲打痕。
遺構外-129	銅製品		煙管。雁首。薄手。(後方から見て)右巻き、ろう接左側。腐食のため、火皿欠損。
遺構外-130	銅製品		煙管。雁首。薄手。(後方から見て)左巻き、ろう接右側。腐食のため、火皿・羅字結合部欠損。
遺構外-131	銅製品		煙管。雁首。(後方から見て)左巻き、ろう接左側。腐食のため火皿大半欠損。
遺構外-132	銅製品	長 2.6 頭幅 1.3	太鼓鉾。腐食のため、先端欠損。約 8 分。
遺構外-133	銅製品		雁首銭。1/4 残欠品。腐食ひどい。
遺構外-134	銅製品		雁首銭。腐食進行。
遺構外-135	銅製品		古寛永(芝銭四草点?)。1636 年初鑄。肥字。背、カツ縁・広郭。腐食浅い。
遺構外-136	銅製品		新寛永(延宝亀戸銭細字小文無背)。1674 年初鑄。緞字。背、カツ縁・広郭。
遺構外-137	銅製品		新寛永(四ツ宝銭：宝永亀戸銭ケイ永)。1708 年初鑄。背、カツ縁・広郭。腐食進行。

遺物番号	種別	計測値			特徴
遺構外-138	銅製品				新寛永(四ッ宝銭:宝永亀戸銭ケイ永)。1708年初鑄。背,カ ツ縁・広郭。腐食のため,銭文判読困難。歪む。
遺構外-139	銅製品				新寛永(四ッ宝銭:宝永亀戸銭ケイ永広寛)。1708年初鑄。腐 食・摩耗のため,銭文判読困難。歪む。
遺構外-140	銅製品				新寛永(耳白銭:正徳亀戸銭)。1714年初鑄。背,カ ツ縁・広郭。腐食進行。歪む。
遺構外-141	銅製品				新寛永(不旧手:元文横大路銭退永)。1736年初鑄。腐食進行。
遺構外-142	銅製品				新寛永(元文十萬坪銭無印)。1736年初鑄。織字。背,カ ツ縁・広郭。腐食のため,宝字欠損。
遺構外-143	銅製品				新寛永(寛保高津新地銭細字背元再磨輪末鑄)。1740年初鑄。 背元。背,カ ツ縁・広郭。腐食浅い。
遺構外-144	銅製品				新寛永(波銭:明和小字)。1769年初鑄。カ ツ縁。腐食進行。
遺構外-145	銅製品				耳かき? 上端小匙。腐食進行。歪む。匙径0.4cm,全長10.7 cm,径0.3cm。
遺構外-146	銅製品				短刀? 全体に腐食ひどく,剥落著しい。柄部先端欠損。刃部 残長16.6cm,棟厚0.5cm,茎幅1.4cm。
遺構外-147	近代 遺物	2.3	3.4	16.5	牛乳瓶。明治末~昭和初。ガラスの本体に鉄線でつながれた磁 器の蓋が付く。ガラス中の気泡多数含み,器面に鑄型の接合痕 を残す。胴部に店名陽刻。容量90.2ml。
遺構外-148	近代 遺物	6.5	3.2	9.0	実験用坩堝? 陶製。片口。内外面とも調整粗く,工具痕残 る。胴部刻印「BATTERSEA WORKS ROUND 3」「PAT- ENTRLUMBAGD □ BATTERSEA WORKS LONDON RUCIBLS COMPANY」? 英国製か。